2016年度

2011年度以降入学者用

国際文化学部 講義概要
（シラバス）

法政大学

2016 年度

国際文化学部講義概要

目次

学部関係年間行事予定 ・・・・・・・ 2

卒業所要単位表・進級規定・・・・ 4

授業科目一覧表 ・・・・・・・・・・・・・21

専門教育科目講義概要 ・・・・・・・95

市ヶ谷基礎科目講義概要 ・・・・359

教員紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・405

授業時間（全キャンパス共通）

１時限	９：３０	～	１１：００	
２時限	１１：１０	～	１２：４０	
昼休み	１２：４０	～	１３：３０	（５０分）
３時限	１３：３０	～	１５：００	
４時限	１５：１０	～	１６：４０	
５時限	１６：５０	～	１８：２０	
６時限	１８：３０	～	２０：００	
７時限	２０：１０	～	２１：４０	

共　通

2016 年度学部関係年間行事（予定）

春学期　　4 月 1 日～9 月 15 日

月	日	行　事　予　定
4 月	1 日	新入生オリエンテーション、TOEFL®-ITP テスト（1 年次）
	2 日	学生証交付
	3 日	入学式
	4 日	ＳＡ総合ガイダンス・ＳＪガイダンス(1 年次)、ＳＡ英語圏ガイダンス(1 年次) ＳＡ先別（英語圏）ガイダンス(1 年次)
	5 日	履修ガイダンス（1 年次)、ＳＡ先別（諸外国語ガイダンス）(1 年次) 体育選択科目ガイダンス
	6 日	体育集中講義ガイダンス、資格ガイダンス、教職ガイダンス
	7 日	春学期授業開始
	10 日	創立記念日（授業実施）
	22 日～25 日	春学期 Web 履修登録期間 ※詳細は「履修ガイド」を参照すること。
	29 日	昭和の日（授業実施）
5 月	中旬	履修登録科目確認通知書　Web 公開（全学年　～5 月 31 日）
	中旬	履修登録科目取消受付期間
6 月	上旬～下旬	ＳＡ奨学金（A）(B)、SJ 奨学金 出願受付 ＳＡ奨学金（B）採用決定（予定）
7 月	18 日	海の日（授業実施）
	2・9・16 日	春学期補講日
	20 日	春学期授業終了
	21 日～	春学期定期試験期間（～7 月 31 日）
	下旬	TOEIC®-IP テスト（1 年次）（予定）
8 月	2 日～	夏季休業（～9 月 15 日）

秋学期　　9月16日～3月31日

月	日	行　事　予　定
9月	15日	春学期終了
	16日	秋学期授業開始
	17日	9月卒業学位記交付式
10月	10月上旬	秋学期Web履修登録期間
	10日	体育の日（授業実施）
12月	24日	年内授業終了
	25日～	冬季休業（～1月7日）
1月	8日	新年授業開始
	22日	秋学期授業終了
	17・18日	秋学期補講期間
	23日～	秋学期定期試験期間（～2月2日）
	中旬～下旬	TOEFL®-ITP（1年次）
3月	上旬	卒業発表・進級発表
	24日	学位授与式（卒業式）
	下旬	TOEIC®-IPテスト（新3年次）

2015年度以降入学生用

言語文化コース以外

２０１５年度以降入学生の卒業要件単位

<table>
<tr><td colspan="5">国際文化学部卒業要件</td></tr>
<tr><td rowspan="5">市ヶ谷基礎科目</td><td colspan="2">０群（導入）</td><td>4 単位以上
（「情報ﾘﾃﾗｼｰⅠ」2 単位および
「情報ﾘﾃﾗｼｰⅡ」2 単位を含むこと）</td><td rowspan="4">28 単位以上</td><td rowspan="5">44 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">１群（人文分野）</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">２群（社会分野）</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">３群（自然科学）</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">４群（外国語）</td><td colspan="2">14 単位以上
●2 単位は SA 先で修得すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">５群（保健体育）</td><td colspan="2">2 単位</td></tr>
<tr><td rowspan="9">専門教育科目</td><td colspan="2">入門科目</td><td>必修「国際文化情報学入門」
4 単位を含む</td><td rowspan="8">64 単位以上</td><td rowspan="9">82 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">基幹科目</td><td>選択必修　10 単位（※1）を含む</td></tr>
<tr><td colspan="2">情報科目</td><td>選択必修　6 単位(※2)を含む</td></tr>
<tr><td colspan="2">言語科目</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">メディアコミュニケーション科目</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専攻科目</td><td>スタディ・アブロード科目群
インターンシップ科目群</td><td></td></tr>
<tr><td>情報文化コース科目群
表象文化コース科目群
言語文化コース科目群
国際社会コース科目群</td><td>選択必修
登録したコースの専攻科目から 8 単位（※3）を含む</td></tr>
<tr><td>演習
卒業研究</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">自由科目</td><td colspan="2">0～18 単位
（18 単位まで卒業所要単位として算入）</td></tr>
<tr><td colspan="3">合計</td><td colspan="3">126 単位以上</td></tr>
</table>

＊ 市ヶ谷基礎科目 44 単位以上、専門教育科目 82 単位以上、合計 126 単位以上が卒業要件単位。

＊ 「チュートリアル」は 1 年生の登録必修科目です。　＊ コース登録は２年生進級時に行います。

＊ 自由科目は 18 単位を超えても履修可能ですが、卒業所要単位として算入されるのは 18 単位までです。

※１　基幹科目から５科目 10 単位以上修得する。　（SSI コースを除く）
登録したコース名と同一名の系からは２科目４単位以上修得する。ただし、そのうち２単位は、その系における「概論」科目の修得を推奨する。
登録していない３つの系および「国際文化情報学の展開」から、系の重複なく６単位以上修得する。
海外留学（基幹）は基幹科目の単位として卒業要件に含めるが、基幹科目の４つの系と「国際文化情報学の展開」の修得単位には含めない。（「海外留学」（基幹）は派遣留学の認定科目）

＜情報文化コースを登録した履修例＞

（正しい例）	国際文化情報学の展開	２単位
	情報文化系	４単位
	表象文化系	０単位
	言語文化系	２単位
	国際社会系	２単位

（誤った例）	国際文化情報学の展開	２単位
	情報文化系	４単位
	表象文化系	０単位
	言語文化系	０単位
	国際社会系	４単位

※２　以下の情報科目８科目から、３科目６単位以上修得する。　（SSI コースを除く）
なお、10 単位以上の履修を強く推奨する。

情報システム概論	メディア情報基礎
ネットワーク基礎	プログラミング言語基礎
データベース基礎	メディア表現法
仮想世界研究	社会とデータサイエンス

※３　登録したコースの専攻科目から４科目８単位以上修得する。

言語文化コース

２０１５年度以降入学生の卒業要件単位

<table>
<tr><td colspan="5">国際文化学部卒業要件</td></tr>
<tr><td rowspan="5">市ヶ谷基礎科目</td><td colspan="2">０群（導入）</td><td>4 単位以上
（「情報ﾘﾃﾗｼｰⅠ」2 単位および
「情報ﾘﾃﾗｼｰⅡ」2 単位を含むこと）</td><td rowspan="4">28 単位以上</td><td rowspan="5">44 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">１群（人文分野）</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">２群（社会分野）</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">３群（自然科学）</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">４群（外国語）</td><td colspan="2">14 単位以上
●2 単位は SA 先で修得すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">５群（保健体育）</td><td colspan="2">2 単位</td></tr>
<tr><td rowspan="9">専門教育科目</td><td colspan="2">入門科目</td><td>必修「国際文化情報学入門」
4 単位を含む</td><td rowspan="8">64 単位以上</td><td rowspan="9">82 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">基幹科目　　※１</td><td>選択必修　10 単位（※1）を
含む</td></tr>
<tr><td colspan="2">情報科目</td><td>選択必修　6 単位(※2)を含む</td></tr>
<tr><td colspan="2">言語科目</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">メディアコミュニケーション科目</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専攻科目</td><td>スタディ・アブロード科目群
インターンシップ科目群</td><td></td></tr>
<tr><td>情報文化コース科目群
表象文化コース科目群
言語文化コース科目群
国際社会コース科目群</td><td>※3</td></tr>
<tr><td>演習
卒業研究</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">自由科目</td><td colspan="2">0～18 単位
（18 単位まで卒業所要単位として算入）</td></tr>
<tr><td colspan="3">合計</td><td colspan="2">126 単位以上</td></tr>
</table>

＊ 市ヶ谷基礎科目 44 単位以上、専門教育科目 82 単位以上、合計 126 単位以上が卒業要件単位。

＊ 「チュートリアル」は１年生の登録必修科目です。　＊ コース登録は２年生進級時に行います。

＊ 自由科目は 18 単位を超えても履修可能ですが、卒業所要単位として算入されるのは 18 単位までです。

※1　基幹科目から5科目10単位以上修得する。　（SSIコースを除く）
登録したコース名と同一名の系からは2科目4単位以上修得する。ただし、そのうち2単位は、その系における「概論」科目の修得を推奨する。登録していない3つの系および「国際文化情報学の展開」から、系の重複なく6単位以上修得する。
海外留学（基幹）は基幹科目の単位として卒業要件に含めるが、基幹科目の4つの系と「国際文化情報学の展開」の修得単位には含めない。（「海外留学」（基幹）は派遣留学の認定科目）

＜言語文化コースを登録した履修例＞

（正しい例）	国際文化情報学の展開	2単位
	情報文化系	2単位
	表象文化系	0単位
	言語文化系	4単位
	国際社会系	2単位
（誤った例）	国際文化情報学の展開	2単位
	情報文化系	0単位
	表象文化系	0単位
	言語文化系	4単位
	国際社会系	4単位

※2　以下の情報科目8科目から、3科目6単位以上修得する。　（SSIコースを除く）
なお、10単位以上の履修を強く推奨する。

情報システム概論	メディア情報基礎
ネットワーク基礎	プログラミング言語基礎
データベース基礎	メディア表現法
仮想世界研究	社会とデータサイエンス

※３　言語文化コースの専攻科目から以下のとおり４科目８単位以上修得する。

●ＳＡ参加者

・「世界の中の日本文化」区分から１科目２単位以上

・ＳＡ先と関連する区分から２科目４単位以上、それ以外の区分から１科目２単位以上修得

●ＳＡ不参加者（SSI コースを除く）およびＳＪ参加者（外国人留学生入試で入学した留学生）

・「世界の中の日本文化」区分から１科目２単位以上

・残りの４つの区分（「アジアの文化」「ユーラシアの文化」「ヨーロッパの文化」「英語圏の文化」）の内１つの区分から２科目４単位以上、それ以外の区分から１科目２単位以上

※ＳＪ参加者は「世界の中の日本文化」区分から「世界とつながる地域の歴史と文化」を必ず履修すること。

★言語文化コース専攻科目区分表

・「世界の中の日本文化」区分（1科目2単位以上修得する）

科目区分	授業科目名
世界の中の日本文化	世界の中の日本文学
	世界の中の日本語
	世界とつながる地域の歴史と文化

★ＳＡ先と関連する区分

「アジアの文化」「ユーラシアの文化」「ヨーロッパの文化」「英語圏の文化」の区分で、自分のＳＡ先と関連する区分から2科目4単位以上、それ以外の区分から1科目2単位以上修得する。

ＳＡ先と関連する区分表

科目区分	授業科目名	ＳＡ先
アジアの文化	中国の文化Ⅰ	中国 韓国
	中国の文化Ⅱ	
	中国の文化Ⅲ	
	中国の文化Ⅳ	
	中国の文化Ⅴ	
	中国の文化Ⅵ	
	中国の文化Ⅶ	
	中国の文化Ⅷ	
	中国の文化Ⅸ	
	中国の文化Ⅹ	
	朝鮮語圏の文化Ⅰ	
	朝鮮語圏の文化Ⅱ	
	アジアの伝統芸能	
	東南アジアの文化	
ユーラシアの文化	アフロ・アジアの文化	ロシア
	ロシア・中央アジアの文化	
	ロシア・東欧の文化	
ヨーロッパの文化	ドイツ語圏の文化Ⅰ	スイス フランス スペイン
	ドイツ語圏の文化Ⅱ	
	フランス語圏の文化Ⅰ	
	フランス語圏の文化Ⅱ	
	フランス語圏の文化Ⅲ	
	フランス語圏の文化Ⅳ	

科目区分	授業科目名	ＳＡ先
ヨーロッパの文化	スペイン語圏の文化Ⅰ	スイス フランス スペイン
	スペイン語圏の文化Ⅱ	
	カタルーニャの文化Ⅰ	
	カタルーニャの文化Ⅱ	
	カタルーニャの文化Ⅲ	
	カタルーニャの文化Ⅳ	
英語圏の文化	英語圏の文化Ⅰ	イギリス アメリカ カナダ オーストラリア
	英語圏の文化Ⅱ	
	英語圏の文化Ⅲ	
	英語圏の文化Ⅳ	
	英語圏の文化Ⅴ	
	英語圏の文化Ⅵ	
	英語圏の文化Ⅶ	
	英語圏の文化Ⅷ（※1）	
	History of English（※1）	

（※1）「英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）」と「History of English」の重複履修はできません。

言語文化コース以外

２０１１～２０１４年度入学生の卒業要件単位

<table>
<tr><td colspan="5">国際文化学部卒業要件</td></tr>
<tr><td rowspan="6">市ヶ谷基礎科目</td><td colspan="2">０群（導入）</td><td>4 単位以上
（「情報ﾘﾃﾗｼｰⅠ」2 単位および
「情報ﾘﾃﾗｼｰⅡ」2 単位を含むこと）</td><td rowspan="4">28 単位以上</td><td rowspan="6">44 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">１群（人文分野）</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">２群（社会分野）</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">３群（自然科学）</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">４群（外国語）</td><td colspan="2">14 単位以上
●2 単位は SA 先で修得すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">５群（保健体育）</td><td colspan="2">2 単位</td></tr>
<tr><td rowspan="9">専門教育科目</td><td colspan="2">入門科目</td><td>必修「国際文化情報学入門」
4 単位を含む</td><td rowspan="8">64 単位以上</td><td rowspan="9">82 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">基幹科目</td><td>選択必修　10 単位（※1）を含む</td></tr>
<tr><td colspan="2">情報科目</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">言語科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">メディアコミュニケーション科目</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専攻科目</td><td>スタディ・アブロード科目群
インターンシップ科目群</td><td></td></tr>
<tr><td>情報文化コース科目群
表象文化コース科目群
言語文化コース科目群
国際社会コース科目群</td><td>選択必修
登録したコースの専攻科目から 8 単位（※2）を含む</td></tr>
<tr><td>演習
卒業研究</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">自由科目</td><td colspan="2">0～18 単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">合計</td><td colspan="3">126 単位以上</td></tr>
</table>

＊ 市ヶ谷基礎科目 44 単位以上、専門教育科目 82 単位以上、合計 126 単位以上が卒業要件単位。

＊ 「チュートリアル」は 1 年生の登録必修科目です。

＊ コース登録は２年生進級時に行います。

※１　基幹科目から５科目 10 単位以上修得する。　（SSI コースを除く）
登録したコース名と同一名の系からは２科目４単位以上修得する。ただし、そのうち２単位は、その系における「概論」科目の修得を推奨する。
登録していない３つの系および「国際文化情報学の展開」から、系の重複なく６単位以上修得する。
海外留学（基幹）は基幹科目の単位として卒業要件に含めるが、基幹科目の４つの系と「国際文化情報学の展開」の修得単位には含めない。（「海外留学」（基幹）は派遣留学の認定科目）

＜情報文化コースを登録した履修例＞

（正しい例）	国際文化情報学の展開	２単位
	情報文化系	４単位
	表象文化系	０単位
	言語文化系	２単位
	国際社会系	２単位
（誤った例）	国際文化情報学の展開	２単位
	情報文化系	４単位
	表象文化系	０単位
	言語文化系	０単位
	国際社会系	４単位

※２　登録したコースの専攻科目から４科目８単位以上修得する。

言語文化コース

２０１１～２０１４年度入学生の卒業要件単位

<table>
<tr><td colspan="5">国際文化学部卒業要件</td></tr>
<tr><td rowspan="5">市ヶ谷基礎科目</td><td colspan="2">０群（導入）</td><td>4 単位以上
（「情報ﾘﾃﾗｼｰⅠ」2 単位および
「情報ﾘﾃﾗｼｰⅡ」2 単位を含むこと）</td><td rowspan="4">28 単位以上</td><td rowspan="5">44 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">１群（人文分野）</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">２群（社会分野）</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">３群（自然科学）</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">４群（外国語）</td><td colspan="2">14 単位以上
●2 単位は SA 先で修得すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">５群（保健体育）</td><td colspan="2">2 単位</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="9">専門教育科目</td><td colspan="2">入門科目</td><td>必修「国際文化情報学入門」
4 単位を含む</td><td rowspan="8">64 単位以上</td><td rowspan="9">82 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">基幹科目　　※１</td><td>選択必修　10 単位（※1）を
含む</td></tr>
<tr><td colspan="2">情報科目</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">言語科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">メディアコミュニケーション科目</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専攻科目</td><td>スタディ・アブロード科目群
インターンシップ科目群</td><td></td></tr>
<tr><td>情報文化コース科目群
表象文化コース科目群
言語文化コース科目群
国際社会コース科目群</td><td>※2</td></tr>
<tr><td>演習
卒業研究</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">自由科目</td><td colspan="2">0～18 単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">合計</td><td colspan="2">126 単位以上</td></tr>
</table>

＊ 市ヶ谷基礎科目 44 単位以上、専門教育科目 82 単位以上、合計 126 単位以上が卒業要件単位。

＊ 「チュートリアル」は１年生の登録必修科目です。

＊ コース登録は２年生進級時に行います。

※１　基幹科目から５科目 10 単位以上修得する。　（SSI コースを除く）
登録したコース名と同一名の系からは２科目４単位以上修得する。ただし、そのうち２単位は、その系における「概論」科目の修得を推奨する。登録していない３つの系および「国際文化情報学の展開」から、系の重複なく６単位以上修得する。
海外留学（基幹）は基幹科目の単位として卒業要件に含めるが、基幹科目の４つの系と「国際文化情報学の展開」の修得単位には含めない。（「海外留学」（基幹）は派遣留学の認定科目）

＜言語文化コースを登録した履修例＞

（正しい例）	国際文化情報学の展開	２単位
	情報文化系	２単位
	表象文化系	０単位
	言語文化系	４単位
	国際社会系	２単位
（誤った例）	国際文化情報学の展開	２単位
	情報文化系	０単位
	表象文化系	０単位
	言語文化系	４単位
	国際社会系	４単位

※２　言語文化コースの専攻科目から以下のとおり４科目８単位以上修得する。

●ＳＡ参加者
・「世界の中の日本文化」区分から１科目２単位以上
・ＳＡ先と関連する区分から２科目４単位以上、それ以外の区分から１科目２単位以上修得

●ＳＡ不参加者（ＳＳＩコース以外）およびＳＪ参加者（外国人留学生入試で入学した留学生）
・「世界の中の日本文化」区分から１科目２単位以上
・残りの４つの区分（「アジアの文化」「ユーラシアの文化」「ヨーロッパの文化」「英語圏の文化」）の内１つの区分から２科目４単位以上、それ以外の区分から１科目２単位以上

※ＳＪ参加者は「世界の中の日本文化」区分から「世界とつながる地域の歴史と文化」を必ず履修すること。

★言語文化コース専攻科目区分表

・「世界の中の日本文化」区分（1科目2単位以上修得する）

科目区分	授業科目名
世界の中の日本文化	世界の中の日本文学
	世界の中の日本語
	世界とつながる地域の歴史と文化

★ＳＡ先と関連する区分

「アジアの文化」「ユーラシアの文化」「ヨーロッパの文化」「英語圏の文化」の区分で、自分のＳＡ先と関連する区分から2科目4単位以上、それ以外の区分から1科目2単位以上修得する。

ＳＡ先と関連する区分表

科目区分	授業科目名	ＳＡ先
アジアの文化	中国の文化Ⅰ	中国 韓国
	中国の文化Ⅱ	
	中国の文化Ⅲ	
	中国の文化Ⅳ	
	中国の文化Ⅴ	
	中国の文化Ⅵ	
	中国の文化Ⅶ	
	中国の文化Ⅷ	
	中国の文化Ⅸ	
	中国の文化Ⅹ	
	朝鮮語圏の文化Ⅰ	
	朝鮮語圏の文化Ⅱ	
	アジアの伝統芸能	
	東南アジアの文化	
ユーラシアの文化	アフロ・アジアの文化	ロシア
	ロシア・中央アジアの文化	
	ロシア・東欧の文化	
ヨーロッパの文化	ドイツ語圏の文化Ⅰ	スイス フランス スペイン
	ドイツ語圏の文化Ⅱ	
	フランス語圏の文化Ⅰ	
	フランス語圏の文化Ⅱ	
	フランス語圏の文化Ⅲ	
	フランス語圏の文化Ⅳ	

科目区分	授業科目名	ＳＡ先
ヨーロッパの文化	スペイン語圏の文化Ⅰ	スイス フランス スペイン
	スペイン語圏の文化Ⅱ	
	カタルーニャの文化Ⅰ	
	カタルーニャの文化Ⅱ	
	カタルーニャの文化Ⅲ	
	カタルーニャの文化Ⅳ	
英語圏の文化	英語圏の文化Ⅰ	イギリス アメリカ カナダ オーストラリア
	英語圏の文化Ⅱ	
	英語圏の文化Ⅲ	
	英語圏の文化Ⅳ	
	英語圏の文化Ⅴ	
	英語圏の文化Ⅵ	
	英語圏の文化Ⅶ	
	英語圏の文化Ⅷ（※1）	
	History of English（※1）	

（※1）「英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）」と「History of English」の重複履修はできません。

２０１２年度以降入学生

進級に関する規程（国際文化学部）

進級に関する規程

国際文化学部

第１条　第１年次から第２年次へ進級する者は、第１年次修了までに 16 単位以上を修得しなければならない。

第２条　第２年次から第３年次に進級する者は、第２年次修了までに 46 単位以上を修得しなければならない。

第３条　第３年次から第４年次に進級する者は、第３年次修了までに次の単位を修得しなければならない。

（１）基礎科目のうち４群及び５群の卒業所要単位を含めて 86 単位以上。

第４条　第４年次においては、４単位以上を修得しなければならない。また、第３年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

第５条　進級は学年度初め（４月１日付）をもって行なう。

２０１１年度入学生

進級に関する規程（国際文化学部）

進級に関する規程

国際文化学部

第１条　第１年次から第２年次へ進級する者は、年間４単位以上を修得しなければならない。

第２条　第２年次から第３年次に進級する者は、第２年次に年間４単位以上を修得しなければならない。

第３条　第３年次から第４年次に進級する者は、第３年次修了までに次の単位を修得しなければならない。

（1）基礎科目のうち４群及び５群の卒業所要単位を含めて 80 単位以上。

第４条　第４年次においては、４単位以上を修得しなければならない。また、第３年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

第５条　進級は学年度初め（４月１日付）をもって行なう。

ナンバリングフォーマットについて

2015 年度より、各科目にナンバーが付与されることとなりました。科目の性質を知るための参考としてください。ナンバーの構造は、以下の通りです。詳細は、①～③の一覧表を確認してください。

A　A　1　2　3

①	②	③
科目主催	**レベル**	**分野**

①科目主催

授業の主催学部・学科名	コード	授業の主催学部・学科名	コード
法・学部共通	AA	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ・ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	MA
法・法律学科	AB	ﾃﾞｻﾞｲﾝ工・共通	NA
法・政治学科	AC	ﾃﾞｻﾞｲﾝ工・建築学科	NB
法・国際政治学科	AD	ﾃﾞｻﾞｲﾝ工・都市環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ工学科	NC
文・学部共通	BA	ﾃﾞｻﾞｲﾝ工・ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	ND
文・哲学科	BB	理工・共通	XA
文・日本文学科	BC	理工・機械工学科（機械工学専修）	XB
文・英文学科	BD	理工・機械工学科（航空操縦学専修）	XC
文・史学科	BE	理工・電気電子工学科	XD
文・地理学科	BF	理工・応用情報工学科	XE
文・心理学科	BG	理工・経営ｼｽﾃﾑ工学科	XF
経済・学部共通	CA	理工・創生科学科	XG
経済・経済学科	CB	生命科学・学部共通	YA
経済・国際経済学科	CC	生命科学・生命機能学科	YB
経済・現代ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	CD	生命科学・環境応用化学科	YC
社会・学部共通	EA	生命科学・応用植物科学科	YD
社会・社会政策科学科	EB	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ教養・ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ教養学科	ZA
社会・社会学科	EC	ｽﾎﾟｰﾂ健康・ｽﾎﾟｰﾂ健康学科	IA
社会・ﾒﾃﾞｨｱ社会学科	ED	市ヶ谷ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂｾﾝﾀｰ	LA
経営・学部共通	FA	SSI	LB
経営・経営学科	FB	小金井ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂｾﾝﾀｰ	LC
経営・経営戦略学科	FC	ERP	LD
経営・市場経営学科	FD	ESOP	LE
国際文化・国際文化学科	GA	（通教）教養教育	TA
人間環境・人間環境学科	HA	（通教）法・法律学科	TB
現代福祉・学部共通	JA	（通教）文・日本文学科	TC
現代福祉・福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ学科	JB	（通教）文・史学科	TD
現代福祉・臨床心理学科	JC	（通教）文・地理学科	TE
情報科学・学部共通	KA	（通教）経済・経済学科	TF
情報科学・ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学科	KB	（通教）経済・商業学科	TG
情報科学・ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙﾒﾃﾞｨｱ学科	KC		

②レベル

100 番台	●基礎的な内容の科目
200 番台	●応用的な内容の科目
300 番台	●発展的な内容の科目
400 番台	●より専門性に特化した、300 番台より発展的な内容の科目
500 番台	●その他

③分野

系	分野	分科	番号
その他			00
初年次教育・リテラシー教育			01
アイデンティティー教育			02
総合系	情報学	情報学基礎	10
		計算基盤	11
		人間情報学	12
		情報学フロンティア	13
	環境学	環境解析学	14
		環境保全学	15
		環境創生学	16
	複合領域	デザイン学	16
		生活科学	17
		科学教育・教育工学	18
		科学社会学・科学技術史	19
		文化財科学・博物館学	20
		地理学	21
		社会･安全システム科学	22
		人間医工学	23
		健康・スポーツ科学	24
		子ども学	24
		生体分子科学	25
		脳科学	26
人文社会系	総合人文社会	地域研究	27
		ジェンダー	28
		観光学	28
	人文学	哲学	29
		芸術学	30
		文学	31
		言語学	32
		史学	33
		人文地理学	34
		文化人類学	35
	社会科学	法学	36
		政治学	37
		経済学	38
		経営学	39
		社会学	40
		心理学	41
		教育学	42

系	分野	分科	番号
理工系	総合理工	ナノ・マイクロ科学	43
		応用物理学	44
		量子ビーム科学	45
		計算科学	46
	数物系科学	数学	47
		天文学	48
		物理学	49
		地球惑星科学	50
		プラズマ科学	51
	化学	基礎科学	52
		複合科学	53
		材料科学	54
	工学	機械工学	55
		電気電子工学	56
		土木工学	57
		建築学	58
		材料工学	59
		プロセス・化学工学	60
		総合工学	61
生物学系	総合生物	神経科学	62
		実験動物学	63
		腫瘍学	64
		ゲノム科学	65
		生物資源保全学	66
	生物学	生物科学	67
		基礎生物学	68
		人類学	69
	農学	生産環境農学	70
		農芸化学	71
		森林圏科学	72
		水圏科学	73
		社会経済農学	74
		農業工学	75
		動物生命科学	76
		境界農学	77
	医歯薬学	薬学	78
		基礎医学	79
		境界医学	80
		社会医学	81
		内科系臨床医学	82
		外科系臨床医学	83
		歯学	84
		看護学	85

国際文化学部「必修科目」と「履修を推奨する科目」

国際文化学部を卒業するために必要な単位は前述のとおりですが、本学部では所属コースに関わらず、「必修科目」の他に、国際文化学部生として「履修を推奨する科目」を掲げています。

各セメスターで履修する「必修科目」と「履修を推奨する科目」を以下に示します。「必修科目」はすべて受講クラスが指定されます。「履修を推奨する科目」は指定・抽選・選抜等の科目があります。詳しくは次ページ以降の科目説明および掲示、配布物などを参照してください。

【１年次】

系列	春セメスター	秋セメスター
０群	情報リテラシーⅠ・Ⅱ（必修）	
４群	英語（または諸外国語）1・2・5（必修） 諸外国語（または英語）1・2（必修）	英語（または諸外国語）3・4・6（必修） 諸外国語（または英語）3・4（必修）
５群	スポーツ総合演習(春学期指定者・必修)	スポーツ総合演習(秋学期指定者・必修)
入門科目	国際文化情報学入門（必修） チュートリアル	
情報科目		情報システム概論(選択必修) メディア情報基礎(選択必修)
ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目		（ＳＡ先言語）コミュニケーションⅠ

【２年次】

系列	春セメスター	秋セメスター
４群	英語（諸外国語）7・8（必修）	スタディ・アブロード（基礎）Ⅰ・Ⅱ（必修）
情報科目	ネットワーク基礎（選択必修）	
ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目	（ＳＡ先言語）コミュニケーションⅡ・Ⅲ	スタディ・アブロード（言語）Ⅰ・Ⅱ(長期SA者のみ)
専攻科目	「世界とつながる地域の歴史と文化」	スタディ・アブロード（専攻） Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは長期SA者のみ) スタディ・ジャパン

※派遣留学を考えている場合は、１年次・２年次で基幹科目の必修科目を修得できるように計画を立ててください。

【３年次】

系列	春セメスター	秋セメスター
ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目	（ＳＡ先言語）アプリケーション	（ＳＡ先言語）アプリケーション
専攻科目	演習	演習

【４年次】

系列	春セメスター	秋セメスター
ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目	（ＳＡ先言語）アプリケーション	（ＳＡ先言語）アプリケーション
専攻科目	演習	演習

※日本語科目はP. 28 を参照してください。

その他，情報科目の選択必修科目は以下の通りです。詳細はP. 37 を参照してください。

情報システム概論	メディア情報基礎
ネットワーク基礎	プログラミング言語基礎
データベース基礎	メディア表現法
仮想世界研究	社会とデータサイエンス

授業科目一覧表

国際文化学部生が履修することができる科目は、市ヶ谷基礎科目と専門教育科目に分けられます。以下、市ヶ谷基礎科目、専門教育科目の順に科目一覧および履修上の注意を記載します。

1．市ヶ谷基礎科目

市ヶ谷基礎科目の試験時間割や休講等の諸連絡は、「市ヶ谷基礎科目・総合科目掲示板」で確認してください。

（1）０群（導入）

- 基礎科目0群を開設する目的は、基礎科目1群から5群までの科目の履修を容易にするため、それらの導入部を指導し、基本的な知識を備えさせるためです。
- 「法政学への招待」、「法政学の探究A・B」は法政大学の歴史と現状を知ることで、本学で学ぶことの意義を考え、より深い理解を得るための科目です。
- 「キャリアデザイン入門」「キャリアデザイン演習」「就業基礎力養成」は、「大学生が『就業力』を身に付けるために、授業で何をどのように学ぶべきか」を目的に編成された科目です。卒業後に働くことを考えたとき何を大学時代に学んでおけばいいのか、深く考える仕組みを授業に取り入れています。

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講セメスター	開講数	単位数	シラバスページ	卒業所要単位
情報リテラシーⅠ	重定　如彦 中村　文隆 四手井　綱章 色川　進	1	春	7	2	361	４単位以上（情報リテラシーⅠ・Ⅱを修得していること）
情報リテラシーⅡ	重定　如彦 中村　文隆 四手井　綱章 色川　進	1	春	7	2	362	
キャリアデザイン入門	有田　五郎 石関　裕子 鈴木　美伸	1	春	6	2	362-363	
キャリアデザイン演習	有田　五郎 鈴木　美伸	1	秋	2	2	363	
就業基礎力養成Ⅰ	鈴木　美伸	2～4	春	2	2	363-364	
就業基礎力養成Ⅱ	鈴木　美伸	2～4	秋	1	2	363	
法政学への招待	髙柳 俊男	1～4	春	1	2	361	
法政学の探究Ａ	古俣　達郎	1～4	秋	1	2	361	
法政学の探究Ｂ	古俣　達郎	1～4	春	1	2	361	

【０群 履修上の注意】

◇ 「情報リテラシーⅠ／Ⅱ」は１年次での必修科目です。履修クラスは履修ガイダンス時に指示します。

◇ 受講定員のある科目：春学期第１回目の授業に出席し、担当教員の受講許可を得てください。選抜を行う場合、方法は教員が指示します。許可された学生のみ履修登録できます。

◇ 同名科目（ただし同名でもⅠとⅡでは異なる科目です）は在学中に１回しか履修できません。

（２） １群（人文分野）

1群の科目は、文化全般をその研究対象とし、さらに、文化を創り出す人間とは何か、という研究課題をもっています。そのため、研究対象と講義内容は、多岐にわたります。

基本となるのは、「文学」「歴史」「哲学」の3分野といえます。文学では、日本の古典・近現代文学を始め、中国古典文学や西欧文学の講義を開講しています。哲学や歴史についても同様に、日本・東洋・西洋それぞれの専門の教員による講義が設置されており、さらに論理学・倫理学・言語学・文章論・宗教学・芸術なども含むさまざまな分野の教員による講座を開講しています。

以上の科目は「人文科学」と呼ばれ、古来教養の根幹をなす学問分野です。これらの科目を受講することを通して、幅広い知見を身につけるとともに、過去を学ぶことによって現在を考察し、さらには未来を展望する能力をつけることが狙いとなります。

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講セメスター	開講数	単位数	シラバスページ	卒業所要単位
文学Ⅰ（日本文学史）	島田　雅彦	1～4	春	3	2	365	※1
文学Ⅰ（日韓比較文学 −日韓の交流と理解）	梁　禮先						
文学Ⅰ（日中比較文学）	呉　念聖						
文学Ⅱ（世界文学史）	島田　雅彦	1～4	秋	3	2	365	※2
文学Ⅱ（日韓比較文学 −日韓の交流と理解）	梁　禮先						
文学Ⅱ（日中比較文学）	呉　念聖						
文章論Ⅰ	浅沼　博 川鍋　義一	1～4	春	2	2	366	
文章論Ⅱ	浅沼　博 川鍋　義一	1～4	秋	2	2	366	
倫理学Ⅰ	森村　修	1～4	春	1	2	366	
倫理学Ⅱ	森村　修	1～4	秋	1	2	366-367	１群の中から ４単位以上
日本史Ⅰ	小口　雅史	1～4	春	1	2	367	
日本史Ⅱ	小口　雅史	1～4	秋	1	2	367	０群～３群で 計28単位以上
東洋史Ⅰ	齋藤　勝	1～4	春	1	2	367	
東洋史Ⅱ	齋藤　勝	1～4	秋	1	2	367	
西洋史Ⅰ	渡辺　知	1～4	春	1	2	367-368	
西洋史Ⅱ	渡辺　知	1～4	秋	1	2	368	
哲学Ⅰ	谷口　力	1～4	春	1	2	368	
哲学Ⅱ	谷口　力	1～4	秋	1	2	368	
論理学Ⅰ	鵜澤　和彦	1～4	春	1	2	368	
論理学Ⅱ	鵜澤　和彦	1～4	秋	1	2	369	
言語学Ⅰ	輿石　哲哉	1～4	春	1	2	369	
言語学Ⅱ	江村　裕文	1～4	秋	2	2	369	

【「文学Ⅰ」「文学Ⅱ」履修上の注意】

※1　「文学Ⅰ」は、3科目のいずれか1科目のみ履修可能です。複数履修することはできません。

（例）「文学Ⅰ（日本文学史）」を履修した場合、その他の「文学Ⅰ」の履修は不可

※2　「文学Ⅱ」は、3科目のいずれか1科目のみ履修可能です。複数履修することはできません。

（例）「文学Ⅱ（世界文学史）」を履修した場合、その他の「文学Ⅱ」の履修は不可

（3）2群（社会分野）

2群の開講科目は、「法学」・「法学（日本国憲法）」・「政治学」・「経済学」・「社会学」・「心理学」・「地理学」・「文化人類学」・「社会思想」の9科目です。これらの科目は、いずれも、社会科学の思想・方法・理論を、それぞれ独自の対象論的視角から説く学問分野です。それぞれが、専門的な「教養の諸科目」と言えます。人間の生きる諸条件（内的自然と外的諸環境）、つまり「私たちはどう生きるべきか」という問題を社会科学としてほぼ共通した方法意識と方法論で解明するものです。現代社会において、人間の知の広がりはどうあるべきか、という真の意味での教養的な面と、同時に、それをいかに深めていくべきかという専門的な問い方の初歩的な水準を確実に会得できるでしょう。

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講セメスター	開講数	単位数	シラバスページ	卒業所要単位
法学Ⅰ	前川　佳夫	1～4	春	1	2	370	
法学Ⅱ	前川　佳夫	1～4	秋	1	2	370	
法学（日本国憲法）	石川　澄雄	1～4	春・秋	春2(*) 秋2(*)	2	370-371	
経済学Ⅰ	飯塚　務	1～4	春	1	2	371	
経済学Ⅱ	飯塚　務	1～4	秋	1	2	371	
心理学Ⅰ	海部　紀行	1～4	春	1	2	371	2群の中から4単位以上
心理学Ⅱ	海部　紀行	1～4	秋	1	2	371-372	
地理学Ⅰ	前川　明彦	1～4	春	1	2	372	0群～3群で計28単位以上
地理学Ⅱ	前川　明彦	1～4	秋	1	2	372	
政治学Ⅰ	崔　先鎬	1～4	春	1	2	372	
政治学Ⅱ	崔　先鎬	1～4	秋	1	2	372	(*)法学（日本国憲法）は、1回(2単位)のみの修得とする。
社会学Ⅰ	徐　玄九	1～4	春	1	2	372-373	
社会学Ⅱ	徐　玄九	1～4	秋	1	2	373	
文化人類学Ⅰ	中島　成久	1～4	春	1	2	373	
文化人類学Ⅱ	中島　成久	1～4	秋	1	2	373	
社会思想Ⅰ	中村　勝己	1～4	春	1	2	373	
社会思想Ⅱ	中村　勝己	1～4	秋	1	2	374	

（４） ３群（自然科学）

3群には、数学リテラシーと科学リテラシーを学ぶために、つぎの内容の5科目が開講されています。

「サイエンス・ラボ」：生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。「サイエンス・ラボ A」は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、「サイエンス・ラボ B」は科学史から題材をもとめ、それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。

「教養数学」：具体的な問題を解くことで「わかった！」を感じながら、数学の美しさを体験してもらいます。

「基礎数学」：様々な分野、特に社会科学などへの応用ができることを目標として、数学の基本的な手法に親しんでもらいます。

「原子から宇宙まで」：自然現象の背後にある物理法則を微視的立場で理解します。

「生命科学」：宇宙から人間まで広い範囲の生命現象について、映像等を通じて紹介します。

「物質と環境」：元素から出発して、化合物の生成のメカニズム、および物質変化の法則性を考え、さらに環境問題を自然科学の面から論じます。

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講セメスター	開講数	単位数	シラバスページ	卒業所要単位
教養数学Ａ	平田　康史 村上　雅彦 倉田　俊彦 小木曽　岳義 池田　宏一郎 印牧　尚次	1～4	春	13	2	375-380	３群の中から４単位以上 ０群～３群で計28単位以上
教養数学Ｂ	平田　康史 村上　雅彦 倉田　俊彦 小木曽　岳義 池田　宏一郎 印牧　尚次	1～4	秋	13	2	375-380	
基礎数学Ⅰ	若井　健太郎 小木曽　岳義 池田　宏一郎 安東　祐希 倉田　俊彦	2～4	春	6	2	380-382	
基礎数学Ⅱ	若井　健太郎 小木曽　岳義 池田　宏一郎 安東　祐希 倉田　俊彦	2～4	秋	6	2	381-382	
原子から宇宙までⅠ	福川　賢治	1～4	春	1	2	382-383	
原子から宇宙までⅡ	福川　賢治	1～4	秋	1	2	383	
生命科学Ⅰ	本川　達雄	1～4	春	1	2	383	
生命科学Ⅱ	本川　達雄	1～4	秋	1	2	383	
物質と環境Ⅰ	向井　知大	1～4	春	1	2	383	
物質と環境Ⅱ	向井　知大	1～4	秋	1	2	383	

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講セメスター	開講数	単位数	シラバスページ	卒業所要単位
サイエンス・ラボA	長谷川　真紀子 毛塚　博史 石塚　芽具美 島野　智之 吉田　智 加藤　中英	1～4	春	6	2	383-384	３群の中から４単位以上
サイエンス・ラボB	長谷川　真紀子 毛塚　博史 石塚　芽具美 島野　智之 吉田　智 加藤　中英	1～4	秋	6	2	384	０群～３群で計28単位以上

【１・２・３群 履修上の注意】

◇同名科目（ただし同名でもⅠとⅡでは異なる科目です）は在学中に１回しか履修できません。

◇**Ⅰ・Ⅱ、A・B**はグレードをあらわすものではありません。どちらから先に履修してもかまいません。しかし、連続履修したほうが望ましいとされるものもありますので、シラバスをよく読み、教員のアドバイスに従い履修してください。

◇「サイエンス・ラボA」と「サイエンス・ラボB」は実験授業のため定員制です。そのため、履修登録前に仮登録が必要です。仮登録の詳細については、基礎科目・総合科目掲示板等を参照してください。

◇2015年度までに、「自然総合講座A」または「自然総合講座B」（あるいは両方）を履修して単位を修得したものは「サイエンス・ラボA」と「サイエンス・ラボB」のどちらも履修できません。

◇2015年度までに、「数学、情報を読むためにⅠ」を履修して単位を修得したものは「教養数学A」を、また「数学、情報を読むためにⅡ」を履修して単位を修得したものは「教養数学B」を履修できません。なお、単位を修得していない場合は履修が可能です。

（５）４群（外国語）

①クラス指定外国語科目（一般学生）

外国語はクラス授業です。国際文化学部では、「英語」と「入学時に選択した諸外国語」の２言語を学びます。ＳＡ先は自分が学んでいる言語の国から選択することになります。

英語１～４の４単位と諸外国語１～４の４単位は、全員が必修です。ＳＡ留学者用クラスを分けて設定していますので、時間割で確認してください。

また、ＳＡ先により、英語５・６・７・８、または諸外国語５・６・７・８のどちらか４単位を履修することになります。ＳＡ先を選ぶことで、英語、諸外国語の履修すべき単位数が異なります。

３年次修了までに４群の卒業所要単位を修得しておかなければ、４年次に進級することができません。下表を参照し誤りのないよう履修してください。

【４群（外国語）履修パターン表　－Ａ・Ｂ－】

Aパターン　ＳＡ英語圏（長・短期ＳＡ）の場合			
学年	ｾﾒｽﾀｰ	英　　語	諸外国語
1	春	３単位（英語1・2・5）	２単位（諸語1・2）
1	秋	３単位（英語3・4・6）	２単位（諸語3・4）
2	春	２単位（英語7・8）	
2	秋	ＳＡ(基礎)２単位(２科目)	
計		10単位	4単位
合計		14単位	

Bパターン　ＳＡ諸外国の場合			
学年	ｾﾒｽﾀｰ	英　　語	諸外国語
1	春	２単位（英語1・2）	３単位（諸語1・2・5）
1	秋	２単位（英語3・4）	３単位（諸語3・4・6）
2	春		２単位（諸語7・8）
2	秋		ＳＡ(基礎)２単位(２科目)
計		４単位	10単位
合計		14単位	

－国際文化学部の言語関係の履修については以下の通りです－

ＳＡ英語圏の場合１～２年次配当表

	学年	１年次		２年次	
	ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ
基礎科目（1単位）	全員履修科目	英　語１	英　語３		
		英　語２	英　語４		
	選択した諸言語で全員が履修する科目	諸言語１	諸言語３		
		諸言語２	諸言語４		
	ＳＡで英語圏にいく者が履修する科目	英　語５	英　語６	英　語７	
				英　語８	
					ＳＡ(基礎)Ⅰ
					ＳＡ(基礎)Ⅱ
専門科目（2単位）	ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目（英語、情報）		ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	
				ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
					ＳＡ(言語)Ⅰ
					ＳＡ(言語)Ⅱ
	専攻科目				ＳＡ(専攻)Ⅰ
					ＳＡ(専攻)Ⅱ
					ＳＡ(専攻)Ⅲ
					ＳＡ(専攻)Ⅳ
					ＳＡ(専攻)Ⅴ
単位数		5	7	6	16

ＳＡ諸外国の場合１～２年次配当表

	学年	１年次		２年次	
	ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ
基礎科目（1単位）	全員履修科目	英　語１	英　語３		
		英　語２	英　語４		
	選択した諸言語で全員が履修する科目	諸言語１	諸言語３		
		諸言語２	諸言語４		
	ＳＡで諸外国にいく者が履修する科目	諸言語５	諸言語６	諸言語７	
				諸言語８	
					ＳＡ(基礎)Ⅰ
					ＳＡ(基礎)Ⅱ
専門科目（2単位）	ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目（諸外国語）		ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	
				ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
					ＳＡ(言語)Ⅰ
					ＳＡ(言語)Ⅱ
	専攻科目				ＳＡ(専攻)Ⅰ
					ＳＡ(専攻)Ⅱ
					ＳＡ(専攻)Ⅲ
					ＳＡ(専攻)Ⅳ
					ＳＡ(専攻)Ⅴ
単位数		5	7	6	16

・長期ＳＡ選択者は、２年次秋セメスターはすべてＳＡ先で履修します。帰国後、ＳＡ（基礎）Ⅰ・Ⅱ、ＳＡ（言語）Ⅰ・Ⅱ、ＳＡ（専攻）Ⅰ～Ⅴとして認定します（秋セメスター科目として認定）。

・夏期ＳＡ選択者は、２年次夏季休業中にＳＡに参加し、帰国後、ＳＡ（基礎）Ⅰ・Ⅱ、ＳＡ（専攻）Ⅰとして認定します（秋セメスター科目として認定）。

４群外国語科目一覧

授業科目名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	履修単位	ｼﾗﾊﾞｽﾍﾟｰｼﾞ	卒業所要単位
英語１（読解Ⅰ　精読）	1	春	1	386	AパターンかBパターンのいずれかで14単位必修
英語２（聴解・表現Ⅰ）	1	春	1	386	
英語３（読解Ⅱ　速読・多読）	1	秋	1	386	
英語４（聴解・表現Ⅱ）	1	秋	1	386	
英語５	1	春	1	386	
英語６	1	秋	1	387	
英語７	2	春	1	387	
英語８	2	春	1	387	
ドイツ語１	1	春	1	388	
ドイツ語２	1	春	1	388	
ドイツ語３	1	秋	1	388	
ドイツ語４	1	秋	1	389	
ドイツ語５	1	春	1	389	
ドイツ語６	1	秋	1	389	
ドイツ語７	2	春	1	389	
ドイツ語８	2	春	1	389	
フランス語１	1	春	1	390	
フランス語２	1	春	1	390	
フランス語３	1	秋	1	391	
フランス語４	1	秋	1	391	
フランス語５	1	春	1	392	
フランス語６	1	秋	1	392	
フランス語７	2	春	1	392	
フランス語８	2	春	1	392	
ロシア語１	1	春	1	393	
ロシア語２	1	春	1	393	
ロシア語３	1	秋	1	393	
ロシア語４	1	秋	1	394	
ロシア語５	1	春	1	394	
ロシア語６	1	秋	1	394	
ロシア語７	2	春	1	394	
ロシア語８	2	春	1	394	
中国語１	1	春	1	395	
中国語２	1	春	1	395	
中国語３	1	秋	1	395	
中国語４	1	秋	1	396	
中国語５	1	春	1	396	
中国語６	1	秋	1	396	
中国語７	2	春	1	396	
中国語８	2	春	1	396	
スペイン語１	1	春	1	397	
スペイン語２	1	春	1	397	
スペイン語３	1	秋	1	397-398	
スペイン語４	1	秋	1	398	
スペイン語５	1	春	1	398	
スペイン語６	1	秋	1	398	
スペイン語７	2	春	1	399	
スペイン語８	2	春	1	399	
朝鮮語１	1	春	1	400	
朝鮮語２	1	春	1	400	
朝鮮語３	1	秋	1	400	
朝鮮語４	1	秋	1	401	
朝鮮語５	1	春	1	401	
朝鮮語６	1	秋	1	401	
朝鮮語７	2	春	1	401	
朝鮮語８	2	春	1	401	
スタディ・アブロード（基礎）Ⅰ	2	秋	1	―	スタディ・アブロードプログラム認定科目
スタディ・アブロード（基礎）Ⅱ	2	秋	1	―	

【４群科目 履修上の注意】

◇入学時に選択した諸外国語は、途中で他の外国語に変更することはできません。
◇３年次修了までに４群の卒業所要単位を修得しておかなければ４年次に進級することができません。
◇なお、英語については能力の達成度をはかるため、１、２年生全員を対象に TOEIC®-IP を実施します。

②クラス指定外国語科目（外国人留学生入試により入学した留学生）

留学生の場合は「日本語」と、「英語（非英語圏）」あるいは「諸外国語(英語圏)」の２言語を学びます。

【４群（外国語）履修パターン表 －C・D－】

学年	ｾﾒｽﾀｰ	**Cパターン** 留学生（非英語圏）の場合		**Dパターン** 留学生（英語圏）の場合	
		日本語	英語		
1	春	2単位（日本語1－Ⅰ・2－Ⅰ）	2単位（英語1・2）	2単位（日本語1－Ⅰ・2－Ⅰ）	2単位（諸外国語1・2）
1	秋	2単位（日本語1－Ⅱ・2－Ⅱ）	2単位（英語3・4）	2単位（日本語1－Ⅱ・2－Ⅱ）	2単位（諸外国語3・4）
2	春	2単位（日本語3－Ⅰ・4－Ⅰ）	1単位（英語5：4群選択科目）	2単位（日本語3－Ⅰ・4－Ⅰ）	1単位（諸外国語5：4群選択科目）
2	秋	2単位（日本語3－Ⅱ・4－Ⅱ）	1単位（英語6：4群選択科目）	2単位（日本語3－Ⅱ・4－Ⅱ）	1単位（諸外国語6：4群選択科目）
計		8単位	6単位	8単位	6単位
合計		14単位		14単位	

－国際文化学部（留学生）の言語関係の履修については以下の通りです－

留学生（非英語圏）の１～2年次配当表

学年	1年次		2年次	
ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ
基礎科目	日本語1－Ⅰ	日本語1－Ⅱ	日本語3－Ⅰ	日本語3－Ⅱ
	日本語2－Ⅰ	日本語2－Ⅱ	日本語4－Ⅰ	日本語4－Ⅱ
	英語1	英語3	英語5 ※	英語6 ※
	英語2	英語4		
単位数	4	4	3	3

留学生（英語圏）の1～2年次配当表

学年	1年次		2年次	
ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ
基礎科目	日本語1－Ⅰ	日本語1－Ⅱ	日本語3－Ⅰ	日本語3－Ⅱ
	日本語2－Ⅰ	日本語2－Ⅱ	日本語4－Ⅰ	日本語4－Ⅱ
	諸外国語1	諸外国語3	諸外国語5 ※	諸外国語6 ※
	諸外国語2	諸外国語4		
単位数	4	4	3	3

※ 一般学生が履修する「英語５」・「英語６」、「諸外国語５」・「諸外国語６」は履修しませんので注意してください。

4群日本語科目一覧（留学生のみ）

授業科目名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	履修単位	卒業所要単位
日本語1－Ⅰ	1	春	1	Cパターン（日本語と英語）か Dパターン（日本語と諸外国語）の いずれかで14単位必修
日本語2－Ⅰ	1	春	1	
日本語1－Ⅱ	1	秋	1	
日本語2－Ⅱ	1	秋	1	
日本語3－Ⅰ	2	春	1	
日本語4－Ⅰ	2	春	1	
日本語3－Ⅱ	2	秋	1	
日本語4－Ⅱ	2	秋	1	

【４群科目 履修上の注意】

・１年次の英語１～４は、国際文化学部で開講されている英語１～４を履修します。
・２年次の英語５・英語６、または諸外国語５・６として、**市ヶ谷基礎科目の４群選択科目**を履修します。履修すべき選択科目の種別やレベルは限定しません。
・留学生は２年夏季休業中にＳＪに参加し、秋セメスターの専門科目として認定します。ＳＡには参加しません。

③クラス指定授業以外で外国語必修単位を修得する場合（４群選択科目の代替）について

クラス指定外国語必修科目の諸外国語１～８は、４群選択科目によって代替できます(定員･選抜あり)。

英語１～８については４群選択科目での代替はできません。ただし、再履修の場合のみ、４群選択科目による代替が可能です（定員・選抜あり)。

※2018年度より、英語の4群選択科目は内容の変更、および開講科目数の大幅削減が行われる予定となっています。これに伴い、2018年度以降、英語1-8の4群選択科目による再履修は不可となる予定です。

なお、４群選択科目は、代替を希望しない場合も履修が可能です。修得した単位は卒業所要単位に計上されます。

【４群選択科目 履修上の注意】

＜英語/諸外国語共通＞

◇ まず春学期の第１回目の授業時に担当教員から受講許可を得てください。選抜を行う場合もあります。受講が許可された場合のみ履修登録が可能です。

◇ 『クラス授業以外で履修できる４群選択科目』は春学期、秋学期を合わせて通年で履修することが原則です。Ⅱ（秋学期）のみを履修する授業であっても、そのⅡに対応するⅠの科目の春学期の第１回目の授業（４月）に出席し、受講許可を得て、９月に履修登録を行ってください。春学期のみ、秋学期のみを履修する場合は、必ず春学期の第１回目の授業で教員にその旨を申し出て受講の許可を得てください。

＜英語に関する注意事項＞

１．英語１～８は、本誌市ヶ谷基礎科目４群外国語「英語」のページのとおり、英語の四技能を総合的・段階的に培うカリキュラムです。カリキュラム全体として、国際文化学部生、ＳＡ英語圏留学を控えた学生にふさわしい英語力をつけることを目標としています。

２．**英語１～８は代替することはできません。**必ずクラス授業を履修してください。

３．【2011年度以降入学生のみ】英語５～８の再履修を４群選択科目によって代替する場合は、以下の科目（指定レベル）に限ります。

英語７…… 英語リーディング・ワークショップ（レベル3-4)
マスメディアの英語（レベル4)

英語５・６・８…… 英語アカデミック・ライティング（レベル４）
英語オーラル・コミュニケーション（レベル４）
英語ビジネス・コミュニケーション（レベル４）

＜諸外国語に関する注意事項＞

１．ＳＡ用の諸外国語１～８を４群選択科目で代替する場合には、担当教員の受講許可に加え、各ＳＡ担当教員の許可も必要です。受講許可を得たうえで、定められた期日までに学部窓口で登録手続きの指示を受けてください。

２．４群選択科目を受講する場合は、担当教員の受講許可を得たうえで、定められた期日までに必ず学部窓口で登録手続きの指示を受けてください。

2015年度以降入学生用

市ヶ谷基礎科目・４群選択科目一覧

４群選択科目名		単位	定員	履修年次	連続	重複	摘　要	
							通常履修	再履修
英語	入門英語Ⅰ／Ⅱ（SSI 生のみ）	各 1	各 48	1〜4	○	○	英語 1〜8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1〜8 に充当可	英語 1〜4 に代替可
	基礎から固める英語Ⅰ／Ⅱ	各 1	各 36	1〜4	○	○	英語 1〜8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1〜8 に充当可	英語 1〜4 に代替可
	英語オーラル・コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各 1	各 24	1〜4	○	○	英語 1〜8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1〜8 に充当可	英語 1〜4 に代替可 ﾚﾍﾞﾙ 4 のみ英語 5･6･8 に代替可
	英語ビジネス・コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各 1	各 24	1〜4	○	○	英語 1〜8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1〜8 に充当可	英語 1〜4 に代替可 ﾚﾍﾞﾙ 4 のみ英語 5･6･8 に代替可
	英文ライティングⅠ／Ⅱ	各 1	各 24	1〜4	○	○	英語 1〜8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1〜8 に充当可	英語 1〜4 に代替可
	英語アカデミック・ライティングⅠ／Ⅱ	各 1	各 20	1〜4	○	○	英語 1〜8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1〜8 に充当可	英語 1〜4 に代替可 ﾚﾍﾞﾙ 4 のみ英語 5･6･8 に代替可
	マスメディアの英語Ⅰ／Ⅱ	各 1	各 36	1〜4	○	○	英語 1〜8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1〜8 に充当可	英語 1〜4 に代替可 ﾚﾍﾞﾙ 4 のみ英語 7 に代替可
	映画で学ぶ英語Ⅰ／Ⅱ	各 1	各 36	1〜4	○	○	英語 1〜8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1〜8 に充当可	英語 1〜4 に代替可
	英語リーディング・ワークショップⅠ／Ⅱ	各 1	各 36	1〜4	○	○	英語 1〜8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1〜8 に充当可	英語 1〜4 に代替可 ﾚﾍﾞﾙ 3-4 のみ英語 7 に代替可
	英語検定試験対策Ⅰ／Ⅱ	各 1	各 36	1〜4	○	○	英語 1〜8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1〜8 に充当可	英語 1〜4 に代替可

※担当者および講義内容・レベルは Web シラバスおよび時間割表を参照してください。

※充当：科目を限定せずに必修として必要な単位数を充足すること。（各種証明書・通知書はそのままの科目名で記載）

※代替：特定の科目の代わりとして履修すること（例）「朝鮮語視聴覚Ⅰ」を「朝鮮語１」に代替したい場合：「朝鮮語視聴覚Ⅰ」を履修 → 「朝鮮語１」の代替用授業コードで登録（各種証明書・通知書は「朝鮮語１」と必修科目の科目名で表記）

※連続：前年度までに履修して単位を取得した科目を今年度もう一度受講すること。「×」となっている科目は必修科目の代替で特定の科目として履修した場合であっても、代替しない場合の４群選択科目名が同じである場合は履修不可です。

※重複：同じ年度内に同じ名前の科目を複数履修すること。英語科目については、「○」となっている科目であっても、同一教員の同科目を重複履修することはできません（他教員が担当する場合のみ重複履修可能）。

※2018年度以降は英語科目の変更、および開設科目数の大幅削減が行われる予定です。
これに伴い、2018年度以降、英語1-8は4群選択科目による再履修は不可となる予定です。

※2016年度入学生は、4群選択科目による英語1-8の再履修は不可です。

市ヶ谷基礎科目・４群選択科目一覧

４群選択科目名		単位	定員	履修年次	連続	重複	摘　要
ドイツ語	ドイツ語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	各20	2～4	○	×	ドイツ語1～8に代替可
	ドイツ語表現法Ⅰ／Ⅱ	各1	各20	2～4	○	×	ドイツ語1～8に代替可
	ドイツ語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	○	×	ドイツ語1～8に代替可
	時事ドイツ語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	○	○	ドイツ語1～8に代替可
	検定ドイツ語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	○	×	ドイツ語1～8に代替可
	スポーツ・ドイツ語Ⅰ／Ⅱ（SSI生のみ）	各1	各30	1～3	○	○	ドイツ語1～6に代替可
フランス語	フランス語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	各30	2～4	○	×	フランス語1～8に代替可
	フランス語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	1	×	×	フランス語1～6に代替可
	フランス語視聴覚Ⅲ／Ⅳ	各1	各30	2	×	×	フランス語1～8に代替可
	時事フランス語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2	×	×	フランス語1～8に代替可
	検定フランス語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	○	○	フランス語1～8に代替可
	情報フランス語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2	×	×	フランス語1～8に代替可
	観光フランス語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	1～4	○	×	フランス語1～8に代替可
	スポーツ・フランス語Ⅰ／Ⅱ（SSI生のみ）	各1	各30	1～3	○	○	フランス語1～6に代替可
中国語	中国語表現法Ⅰ／Ⅱ	各1	各40	2～4	○	×	中国語1～8に代替可
	中国語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	各40	2～4	×	×	中国語1～8に代替可
	検定中国語Ⅰ／Ⅱ	各1	各40	2～4	×	×	中国語1～8に代替可
スペイン語	スペイン語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	各30	2～4	×	×	スペイン語1～8に代替可
	スペイン語講読Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	×	×	スペイン語1～8に代替可
	時事スペイン語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	×	×	スペイン語1～8に代替可
朝鮮語	朝鮮語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	各30	2～4	×	×	朝鮮語1～8に代替可
	朝鮮語講読Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	3～4	×	×	代替不可
	朝鮮語表現法Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	3～4	×	×	代替不可
	朝鮮語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	×	×	朝鮮語1～8に代替可

※担当者および講義内容・レベルはWebシラバスおよび時間割表を参照してください。

※充当：科目を限定せずに必修として必要な単位数を充足すること。（各種証明書・通知書はそのままの科目名で記載）

※代替：特定の科目の代わりとして履修すること（例）「朝鮮語視聴覚Ⅰ」を「朝鮮語１」に代替したい場合：「朝鮮語視聴覚Ⅰ」を履修 → 「朝鮮語１」の代替用授業コードで登録（各種証明書・通知書は「朝鮮語１」と必修科目の科目名で表記）

※連続：前年度までに履修して単位を取得した科目を今年度もう一度受講すること。「×」となっている科目は必修科目の代替で特定の科目として履修した場合であっても、代替しない場合の４群選択科目名が同じである場合は履修不可です。

※重複：同じ年度内に同じ名前の科目を複数履修すること。英語科目については、「○」となっている科目であっても、同一教員の同科目を重複履修することはできません（他教員が担当する場合のみ重複履修可能）。

（６） ５群（体育）

スポーツ総合演習は、①クラス指定の週１回半期型、②自由に選択履修できる集中型、③自由に選択履修できる週1回半期型の３つの形式で開講されています。①と③は週１回、半期にわたって開講されますが、②は夏季休暇期間中に４日間の集中授業として市ヶ谷キャンパスに加え、多摩キャンパス及び川崎体育施設でも開講されます。

①は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定されています。②は必修科目（①を履修した場合は選択科目としても履修可能）、③は選択科目で、いずれも学部を問わず履修可能ですが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定されます。

卒業のためには、上記の①、②のいずれかの形式で２単位を修得することが必須となりますが、５群の単位としては①、②、③のうちの２つの授業を各１回ずつ、計４単位を上限として履修・修得することが認められています。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与することになります。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明します。

■基礎科目5群（体育科目の履修）について（2007年度以降入学生用）

a. 科目名・履修年次・単位

科目名（系列）	履修年次	単位	
スポーツ総合演習（必修科目）	原則として１年次に履修	2単位	3年次修了までに必ず修得する必要があります。
スポーツ総合演習（選択科目）	1～4年次	2単位	必修ではありません。2単位まで履修できます。修得した単位は基礎科目の単位として卒業所要単位に計上されます。

b. 内容

体育についての演習（講義および実技）

c. 授業形態・実施場所・期間

通常授業か集中授業のいずれかで受講します。詳細を保健体育ガイダンスで説明します。

授業形態	授業期間	種目	場所
通常授業	春学期または秋学期	複数の種目の複合	市ヶ谷総合体育館、富士見坂校舎体育館
集中授業	夏季休業期間中の4日間	複数の種目の複合	市ヶ谷総合体育館、富士見坂校舎体育館、多摩体育施設（再履修クラスのみ）のいずれか

d. 保健体育ガイダンス(保健体育時間割の説明・受講授業の決定・仮登録)

対象	内容	日時	場所
2016年度 入学生	体育についての全体ガイダンス ★全員必ず出席	学部ガイダンスで説明 (日時・場所は入学時配布の「新入生連絡事項」を参照)	
2008～2015年度 入学生	必修科目の再履修ガイダンス ★必修単位未修得者は必ず出席 ★再履修で集中授業を希望する者もここに参加する	3月28日(月)10時～	511教室
全入学年度 共通	選択科目のガイダンス ★希望者のみ	4月5日(火)17時30分～	511教室
	集中授業のガイダンス ★希望者のみ(再履修で集中授業を希望する者は対象としない)	4月6日(水)9時30分～	511教室

e. 履修登録(日時等詳細は学部ガイダンスで説明)

①新入生の必修科目

Webの申請画面に事前登録されるので各自でWeb履修登録を完了して下さい。

②選択科目希望者と再履修対象者

ガイダンスに参加して受講希望票を提出し、受講許可を得てから各自でWeb履修登録を完了して下さい。

再履修で集中授業を希望する場合は、3月28日(月)のガイダンスに参加の上、この②の方法でWeb履修登録を完了して下さい。

③集中授業希望者

ガイダンスに参加して受講希望票を提出して下さい。事務処理が済み次第、Webの申請画面に事前登録されるので、各自でWeb履修登録を完了して下さい。

f. 健康診断等(詳細は上記保健体育ガイダンスで説明)

大学実施の健康診断を必ず受けて下さい。

g. 体育会入部者

授業の受講に代えて、体育会の活動により、5群科目の単位を修得することができます。
体育会活動による単位の修得は体育会での1年間の活動で2単位です。
在学中に体育会活動によって修得できる単位の上限は2単位です。
所定の申請用紙での申請手続きが必要となりますので、履修登録期間内に所属学部窓口に申し出て下さい。

h. 連絡

体育科目に関わる連絡は、基礎科目・総合科目掲示板、保健体育部掲示板で行います。

※問い合わせ先 保健体育部市ヶ谷体育課:電話03－3264－9500

2．専門教育科目

（1）入門科目

入門科目は国際文化学部すべての科目の基礎となる科目であり、すべての国際文化学部生が通らなくてはならない「門」です。

入門科目一覧

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講 ｾﾒｽﾀｰ	単位数	ｼﾗﾊﾞｽ ﾍﾟｰｼﾞ
国際文化情報学入門	和泉　順子 岡村　民夫 輿石　哲哉 大中　一彌	1	春	4	97
チュートリアル	―	1	春	1	99

【入門科目 履修上の注意】

◇「国際文化情報学入門」（４単位）は、春学期に開講される必修科目です。２グループに分かれて週２回受講しなければなりません。グループ、教室等は春学期授業開始時に時間割および掲示で確認してください。

◇「チュートリアル」は登録必修科目です。１年次に修得できなかった学生は再履修する必要はありません。

（2）基幹科目

専門科目を学ぶための、また、自分の「専門」となる主題について研究するための、基本的視野を身につけ、方法論を学ぶための科目です。できるだけ早い時期に履修することを勧めます。

基幹科目一覧

	授業科目名	旧授業科目名	担当教員名	配当年次	開講 ｾﾒｽﾀｰ	隔年開講科目	単位数	ｼﾗﾊﾞｽ ﾍﾟｰｼﾞ
基幹共通	国際文化情報学の展開 ※重複履修可		竹内　晶子	2～4	春		2	100
情報文化系	ディジタル情報学概論		重定　如彦	1～4	秋		2	101
	統計処理法		竹内　広宜	1～4	春		2	102
	システム論		葛西　誠	2～4	春		2	103
	情報倫理学		森村　修	1～4	春		2	104
	情報産業論		鏡　明彦	1～4	春		2	106
	ネット文化論		神戸　雅一	1～4	秋		2	107
表象文化系	表象文化概論	表象文化論	岡村　民夫 稲垣　立男 鈴木　晶 竹内　晶子	1～4	春		2	108
	メディアと情報		君塚　洋一	1～4	春		2	109
	社会と美術		稲垣　立男	1～4	春		2	110
	メディアと社会		稲垣　立男	1～4	秋		2	111
	身体表象論		鈴木　晶	1～4	秋		2	112
言語文化系	言語文化概論	言語と社会	衣笠　正晃	1～4	秋		2	113
	比較文化		前川　裕	1～4	春		2	114
	現代思想		森村　修	1～4	秋		2	115
	ジェンダー論		佐々木　一惠	1～4	春		2	116
	異文化間コミュニケーション		江村　裕文	1～4	秋		2	117
国際社会系	国際関係学概論Ⅰ	国際関係学概論	山田　朋美	1～4	春		2	118
	国際関係学概論Ⅱ	比較民衆社会論	山田　朋美	1～4	秋		2	119
	国家と民族		中島　成久	1～4	春		2	121
	平和学		松本　悟	1～4	秋		2	122
	宗教と社会		佐々木　一惠	1～4	春		2	123
	Religion and Society		田口　陽子	1～4	秋		2	124
	国際文化協力		松本　悟	1～4	春		2	126
	異文化適応論		休講	1～4	秋		2	―

基幹科目の選択必修について

基幹科目から10単位以上修得する必要があります。　(SSIコースを除く)

登録したコース名と同一名の系からは2科目4単位以上を修得してください。ただし、そのうち2単位はその系における「概論」科目の修得を推奨します。 登録していない3つの系および「国際文化情報学の展開」からは系の重複なく6単位以上修得してください。

海外留学（基幹）は基幹科目の単位として卒業要件に含めますが、基幹科目の4つの系「国際文化情報学の展開」の修得単位には含めません。派遣留学を考えている人は、1年次・2年次でなるべく基幹科目の必修単位を修得するように予定をたててください。

（3）情報科目

国際文化学部の情報科目は、文化情報学を実践的に展開するための専門基礎をシステム、ネットワーク、メディアの各領域において形成するいわゆる基礎3科目（情報システム概論、ネットワーク基礎、メディア情報基礎)、その上位科目であり、さまざまな専攻科目に接続するための上記3分野の応用表現科目、さらにプログラミングや仮想世界を取り扱うスキル形成、視野形成の科目によって構成されています。

それぞれの情報科目の関連はカリキュラム体系のチャートに示すとおりですが、履修モデルの特徴として前提科目（prerequisite）の考え方が導入されています。すなわち、ある科目を履修するためには、関連分野の下位レベルの科目を履修し終えてから、上位レベルの科目の履修に進むという考え方です。このような科目の積み上げによって、各自の興味に応じた情報科目や専攻科目の体系的学習が、効果的かつ効率的に可能となります。

国際文化学部の情報科目は情報のスペシャリストを育てるための情報科目ではありません。誰もが現代社会で自分のやりたいことを有効に活かせるように内容が構成されています。

学生のみなさんは、まず基礎科目0群の「情報リテラシーⅠ／Ⅱ」から始めて、次は基礎3科目を履修することで、しっかりと文化情報学的な視野、知識、技術を身につけてください。そのあとは各自の興味や関心領域の違いによって、選択的に上位科目を履修してください。

情報科目一覧

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	開講数	隔年開講科目	単位数	ｼﾗﾊﾞｽﾍﾟｰｼﾞ
情報システム概論	和泉　順子 櫻井　茂明 中村　文隆	1～4	秋	5		2	127
メディア情報基礎	大嶋　良明 菊池　司 米倉　明男	1～4	秋	6		2	128
ネットワーク基礎	大嶋　良明 和泉　順子 松田　裕幸	2～4	春	5		2	129
情報システム応用	和泉　順子	2～4	春	1		2	131
ネットワーク応用	隔年休講	2～4	春	1	★	2	—
メディア表現法	大嶋　良明	2～4	秋	1		2	132
プログラミング言語基礎	和泉　順子	2～4	春	1		2	134
仮想世界研究	甲　洋介	2～4	春	1		2	135
メディア情報応用	大嶋　良明	2～4	秋	1	★	2	136
データベース基礎	若林　啓	3～4	秋	1		2	138
社会とデータサイエンス	和泉　順子	2～4	春	1		2	139
道具による感覚・体験のデザイン	甲　洋介	2～4	春	1		2	140

2015年度以降入学生用

情報系科目分布表

科目群	科目名	概要	前提科目	注
基幹科目	学部基幹科目のうち情報関連科目			
	情報倫理学	DNA、プライバシ、著作権、セキュリティ…形のない「情報」をどのように取り扱ってゆくべきかを考える。	なし	
	情報産業論	IT 時代の情報産業構造の理解を深める。	なし	
	ディジタル情報学概論	広い視野のもとに IT の本質を明確にし，組織的に一般的にわかりやすく述べる。	なし	
	ネット文化論	インターネットの発展と構造およびそれらの文化に及ぼすインパクトについて関連する諸問題を取り上げ、専門的調査を行う。	なし	
	メディアと情報	既存マスメディアからネットワーク・マルチメディアへ、現代の情報メディア文化の動向を分析する。	なし	
基礎科目（O群）	学部情報科目への専門基礎の導入			
	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	情報検索、ワープロ、表計算、プレゼンテーションなど、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得する	なし	
情報科目	学部全体の情報教育の根幹となる科目群。とくに「基礎 3 科目」（情報システム概論、メディア情報基礎、ネットワーク基礎）が応用科目および専攻科目の前提科目となるので大変に重要。			
	情報システム概論	情報システムの概念、システムの設計から管理・運用保守までを学ぶ。	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	※1
	メディア情報基礎	PC による Web 制作とマルチメディアプレゼンテーション、そしてデジカメ、ビデオなど AV 機器と PC の総合的活用を学ぶ。	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	※1
	ネットワーク基礎	Web、ビデオ会議、グループウェアなどネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターにおける情報交換・情報共有のしくみを講義と実習から学ぶ。	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	※1
	仮想世界研究	私たちが今を生きる「仮想世界」とはどういうものだろうか？「仮想世界」を哲学的かつ情報学的なアプローチで分析。	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	※2
	プログラミング言語基礎	問題解決のためにコンピュータを動かす手順の記述が「プログラミング」。その手法の基礎を学ぶ。応用レベルの情報科目の重要な前提科目である。	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	※2
	情報システム応用	業務システム、企業間システム、戦略情報システムから e マーケットプレイスまで、さまざまな情報システムの実例を紹介・分析する。	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	※2
	メディア情報応用	Web グラフィックス・動画のオーサリング技法，マルチメディアを活用した応用レベルの情報処理，対話性実現のためのスクリプトの実際を学ぶ。	基礎 3 科目、プログラミング言語基礎	※2
	ネットワーク応用	Dynamic HTML による動的な Web コンテンツ生成と対話性を実現する技法を学ぶ。JavaScript とスタイルシート演習を含む。	基礎 3 科目、プログラミング言語基礎	※2
	メディア表現法	PC を使ってのマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習で学ぶ。とくに Photoshop による画像レタッチの諸技法を学び、見やすい作品つくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得する。	基礎 3 科目	※2
	データベース基礎	情報システムの大事な要素のひとつが「データベース」、その概念と構築手法の基礎を学ぶ。	なし	
	社会とデータサイエンス	社会環境でのデジタルデータの収集や利活用の事例を学び、統計学の観点でのデータの性質や扱い方、可視化等を習得し、実践する。	基礎 3 科目	※2
	道具による感覚・体験のデザイン	道具としての空間をデザインし直すと、そこに生まれる『体験』はどう変化するのか？　道具によって『体験』を作りだす方法と可能性を、講義とデザインワークショップを組み合わせ、学ぶ。	なし	
メディアコミュニケーション科目	文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練、すなわちコンピュータ設備を用いた実験・実習における実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告などの方法論的訓練			
	情報コミュニケーション Ⅰ	モノづくりの面白さと難しさを、「道具を使いやすくデザインし直す方法」と「近未来の道具のデザイン」の2つの観点から、実践的に学ぶ。	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	※2
	情報コミュニケーション Ⅱ	UNIX と認知工学の演習。	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	※2
	情報コミュニケーション Ⅲ	メディアアートを題材とする文化情報の分析演習。	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	※2
情報文化コース科目群	文化情報のデザインの戦略と編集技法を分析し、実践的に構築する			
	ヒューマンインターフェイス論	人間と人工物（＝道具）とのより良い関係性のデザインとその方法論。	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	※2
	情報セキュリティとプライバシー	インターネット環境での情報セキュリティの諸問題を技術基盤と社会的側面から学ぶ。	なし	
	ネットワーク環境構築論	ネットワークプログラミングを通して、Unix 環境での Web サイト構築や解析などのネットワーク環境構築を学ぶ。	ネットワーク基礎、プログラミング言語基礎	※2
	ゲーム構築論	情報学を適用したモノづくりの面白さと難しさをコンピューターゲームのモノづくりを通して学ぶ。	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	※2
	コンピュータ音楽と音声情報処理	人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現するための仕組みを解説する。	メディア情報基礎	※2
情報文化コース科目群（隔年開講）	文化情報空間論	知的人工物が私たちの生活習慣や文化をどのように変容させるのかを考える。	情報リテラシー Ⅰ・Ⅱ	※2
表象文化コース科目群	文化情報を表現する基盤メディアの多様性を論じ、実験・実習する			
	マルチメディア表現法	ビデオ、Web マルチメディア、電子出版などの実習を通して、多様な種類のメディア情報をコンピュータで表現し、ネットワークマルチメディア環境においてわかりやすく統合的に提示する手法を学習する。	メディア表現法	※2

※1 【前提科目：必修】「前提科目」欄に記載されている科目が未修得の場合、履修することができません。

※2 【前提科目：推奨】 講義内容を十分に理解するために、「前提科目」欄に記載されている科目を先に履修することを推奨します。前提科目が未修得で、当該科目の履修を希望する場合は、担当教員に相談してください。

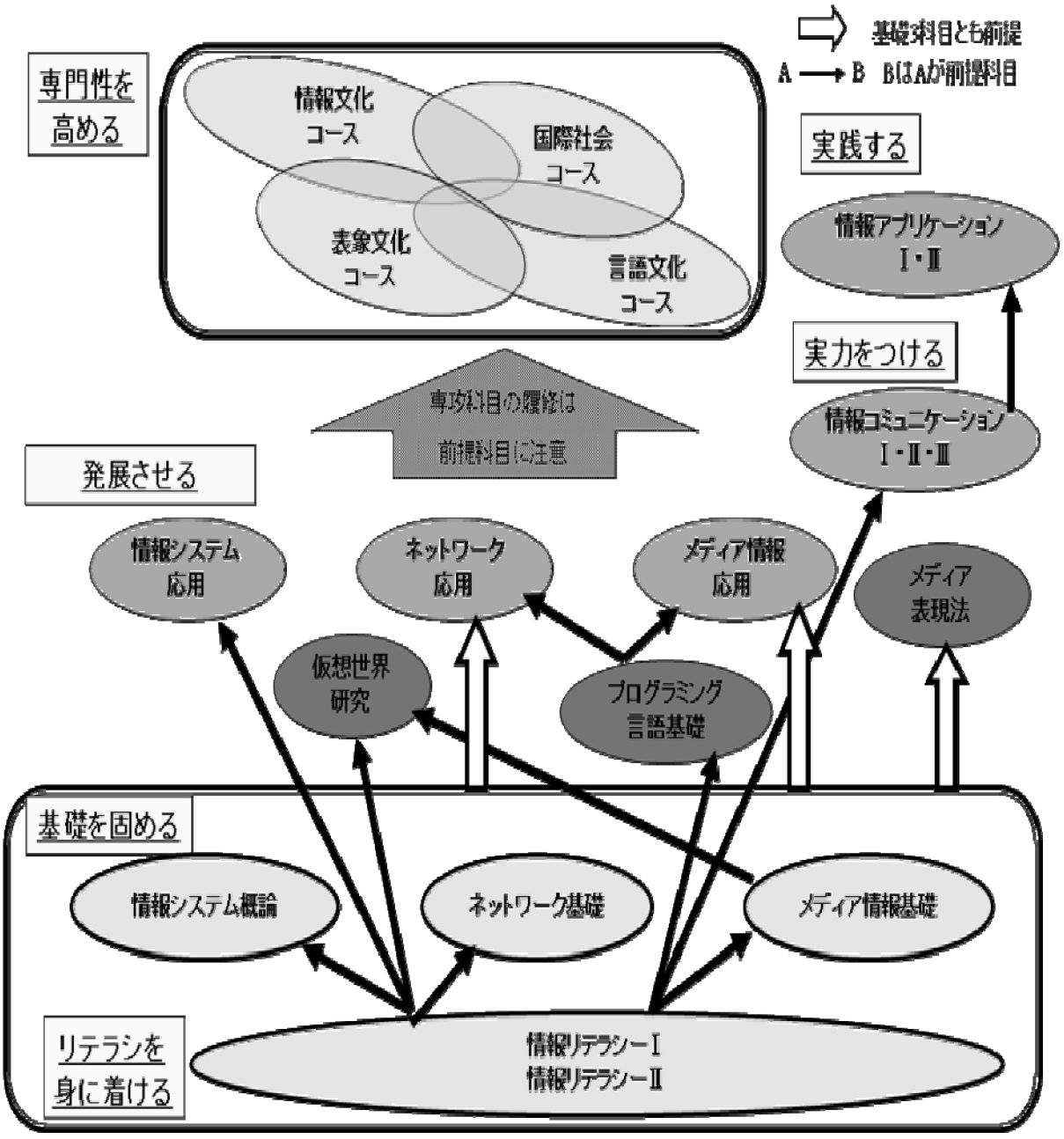
【情報科目　履修上の注意】

◇必修科目（市ヶ谷基礎科目０群）の情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡはクラス指定授業です。その他の情報科目では受講者を選抜、抽選で決定します。
◇次の８科目から、３科目以上を必ず履修してください。なお、５科目以上の履修を強く推奨します。

情報システム概論	メディア情報基礎
ネットワーク基礎	プログラミング言語基礎
データベース基礎	メディア表現法
仮想世界研究	社会とデータサイエンス

◇情報科目、情報科関連科目にはそれぞれ前提科目や履修制限が設けられていますので、シラバスをよく理解してください。
◇受講希望者は１回目の授業に必ず出席してください。

【情報系科目カリキュラム体系図】



（４）言語科目

言語というと、ＳＡ留学先で用いられる英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮語など、個々の言語を思い浮かべます。しかし、「言語って何だろう？」と考えると、言語の不思議に出会います。わたしたちは、普段コミュニケーションの手段として日本語を使っていますが、どうして言葉が通用するのでしょうか、どのようにして言葉が習得できるのでしょうか。また、映画を見て、音楽を聴いていて、理解しようとするとき、言葉で考えます。言葉と他の記号とはどのように関係しているのでしょうか、・・・いろいろな疑問が湧いてきます。

言語科目では、言葉を成り立たせているさまざまな要素について学びます。みなさんが個々の言語を習得するうえで必要な、言語に関する基本的な知識を身につけます。たとえば、言語が意味を持つにいたる構造と仕組み、言語の習得と応用、言語の社会的役割についてなどです。

言語科目一覧

授業科目名	旧授業科目名	注	担当教員名	配当年次	開講セメスター	隔年開講科目	単位数	シラバスページ
世界の言語Ⅰ	世界の言語		休講	2～4	春	★	2	―
世界の言語Ⅱ	世界の言語		内山　政春	2～4	春	★	2	141
世界の英語			小中原　麻友	2～4	春		2	142
言語の理論Ⅰ		※1	石川　潔	1～4	春		2	144
言語の理論Ⅱ		※1	川﨑　貴子	1～4	秋		2	145
社会言語学	言語の理論Ⅲ（社会言語学）	※1	椎名　美智	3～4	秋		2	146
応用言語学	言語の理論（応用言語学）	※1	川﨑　貴子	3～4	春		2	147

注）※1は文学部との同一開講授業であるため、休講・教室変更等の授業連絡は文学部掲示板で確認してください。

国際文化学部科目名	文学部科目名	掲示学部	備考
言語の理論Ⅰ	言語学概論Ａ	文学部	
言語の理論Ⅱ	言語学概論Ｂ	文学部	
社会言語学	社会言語学	文学部	
応用言語学	応用言語学	文学部	

（５）メディアコミュニケーション科目

「言語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」はＳＡ事前指導にあたり、「言語アプリケーション」はＳＡ事後指導に当たる科目です。「言語コミュニケーションⅠ・Ⅲ」ではＳＡに向けてスピーキングやリスニングに力点を置き、「言語コミュニケーションⅡ」ではライティングに力点を置きます。「言語アプリケーション」はＳＡで培った言語力を維持・向上するための科目です。

「情報コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」では、文化情報学の基礎として習得すべきいくつかの重点領域に注目し、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで取り上げる各テーマごとに、その基本知識とスキルの習得を目的として、実習に力点をおいた重点的なトレーニングを行います。「情報アプリケーションⅠ・Ⅱ」は、夏季ＳＡ・長期ＳＡでの実習体験、「情報コミュニケーション」で習得した基本的な知識とスキルの上に立って、それらをさらに磨きをかけ、実習科目の総仕上げを行う科目です。

メディアコミュニケーション科目一覧

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	開講数	単位数	ｼﾗﾊﾞｽﾍﾟｰｼﾞ
英語コミュニケーションⅠ（会話）	－	1	秋	7	2	148
英語コミュニケーションⅡ（表現）	－	2	春	7	2	149
英語コミュニケーションⅢ（留学会話）	－	2	春	7	2	150
英語アプリケーション	－	3～4	春・秋	9	2	151-160
ドイツ語コミュニケーションⅠ（会話）	ﾊｰｽ豊川ﾓﾆｶ	1	秋	1	2	161
ドイツ語コミュニケーションⅡ（表現）	ｳﾃ ｼｭﾐｯﾄ	2	春	1	2	162
ドイツ語コミュニケーションⅢ（留学会話）	ﾊｰｽ豊川ﾓﾆｶ	2	春	1	2	163
ドイツ語アプリケーション	－	3～4	春・秋	3	2	164-168
フランス語コミュニケーションⅠ（会話）	ｲｳﾞ ﾛﾜｿﾞｰ	1	秋	1	2	169
フランス語コミュニケーションⅡ（表現）	大中　一彌	2	春	1	2	170
フランス語コミュニケーションⅢ（留学会話）	ｶﾚﾝｽ ﾌｨﾘｯﾌﾟ	2	春	1	2	171
フランス語アプリケーション	－	3～4	春・秋	4	2	172-177
ロシア語コミュニケーションⅠ（会話）	ｺﾍﾞﾙﾆｯｸ　ﾅﾃﾞｨﾔ	1	秋	1	2	178
ロシア語コミュニケーションⅡ（表現）	ｺﾍﾞﾙﾆｯｸ　ﾅﾃﾞｨﾔ	2	春	1	2	179
ロシア語コミュニケーションⅢ（留学会話）	ｺﾍﾞﾙﾆｯｸ　ﾅﾃﾞｨﾔ	2	春	1	2	180
ロシア語アプリケーション	－	3～4	春・秋	2	2	181-184
中国語コミュニケーションⅠ（会話）	蒋　彧婷	1	秋	1	2	185
中国語コミュニケーションⅡ（表現）	薬　会	2	春	1	2	186
中国語コミュニケーションⅢ（留学会話）	蒋　彧婷	2	春	1	2	187
中国語アプリケーション	－	3～4	春・秋	4	2	188-193
スペイン語コミュニケーションⅠ（会話）	ガルシア ルイス	1	秋	1	2	194
スペイン語コミュニケーションⅡ（表現）	ガルシア ルイス	2	春	1	2	195
スペイン語コミュニケーションⅢ（留学会話）	ガルシア ルイス	2	春	1	2	196
スペイン語アプリケーション	－	3～4	春・秋	4	2	197-202
朝鮮語コミュニケーションⅠ（会話）	安岡　明子	1	秋	1	2	203
朝鮮語コミュニケーションⅡ（表現）	梁　禮先	2	春	1	2	204
朝鮮語コミュニケーションⅢ（留学会話）	安岡　明子	2	春	1	2	205
朝鮮語アプリケーション	－	3～4	春・秋	3	2	206-210
スタディ・アブロード（言語）Ⅰ	－	2	秋	SA ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ認定科目	2	―
スタディ・アブロード（言語）Ⅱ	－	2	秋		2	―
情報コミュニケーションⅠ	甲　　洋介	1～4	春	1	2	211
情報コミュニケーションⅡ	大嶋　良明	2～4	春	1	2	212
情報コミュニケーションⅢ	稲垣　立男	2～4	春	1	2	214
情報アプリケーションⅠ	重定　如彦	3～4	秋	1	2	215
情報アプリケーションⅡ	和泉　順子	3～4	秋	1	2	216

【メディアコミュニケーション科目 履修上の注意】

◇長期ＳＡ選択者は、言語コミュニケーション（ＳＡ先の言語）を、夏期ＳＡ選択者は情報コミュニケーションを履修します。言語コミュニケーションⅠは１年次、Ⅱ・Ⅲは２年次の登録必修科目、情報コミュニケーションⅡは２年次の登録必修科目です。言語・情報アプリケーションは３年次以降に履修します。
◇開講セメスターは前頁の表で確認してください。
◇ＳＡ先が諸外国語圏で英語の教職免許取得希望の者は、英語コミュニケーション、英語アプリケーションの履修が必要です。再履修登録受付開始時に国際文化学部窓口に申し出て指示に従ってください。ＳＡ先が英語圏の学生は申し出る必要はありません。また諸外国語圏ＳＡ先での修得単位は、英語教職単位としては認められません。
◇ＳＡ先が中国以外の学生で中国語の教員免許取得希望の者は、中国語コミュニケーション、中国語アプリケーションの履修が必要です。再履修登録受付開始時に国際文化学部窓口に申し出て指示に従ってください。
◇長期ＳＡ選択者で情報コミュニケーション科目受講希望の学生は、国際文化学部窓口へ申し出て指示に従ってください。

★メディアコミュニケーション科目の履修について

科目区分		履修上の注意	１セメスター内での重複履修の可否
コミュニケーションⅠ	英語	７月に行われるＴＯＥＩＣの結果により、クラス指定を行います。	×
	英語以外	ＳＡ先が諸外国語圏の学生は、自分が留学する言語のコミュニケーションⅠを履修してください。	
コミュニケーションⅡ	共通	コミュニケーションⅠと同じクラス	
コミュニケーションⅢ	共通	コミュニケーションⅡと同じクラス 夏期ＳＡ選択者は、情報コミュニケーションⅡを履修してください。	
アプリケーション	共通	１クラス24名程度	―
	英語	希望によりクラスを選択します。クラスによりレベルチェックを行う場合があります。	×
	ドイツ語	〃	○
	フランス語	〃	○
	中国語	〃	○
	スペイン語	〃	○
	ロシア語	〃	○
	朝鮮語	〃	○
	情報	〃	○

※アプリケーションの重複履修とは、１セメスター内に複数の科目を履修することです。
　セメスター内でなければ、何度でも履修することができます。
※アプリケーション（上級）と重複して履修することができます。
　アプリケーション（上級）については【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援とアプリケーション（上級）について】を参照してください。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援とアプリケーション(上級)について】

法政大学は、文部科学省の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援※」に採択されています。国際文化学部はその実施学部として引き続き学部独自のグローバル人材育成に取り組んでいます。

※「グローバル人材育成推進事業（平成24年度採択)」を組み替えたもの。

国際文化学部では、この事業の一環として、本学部が7言語圏10カ国で実施しているSAをベースに、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語の6言語圏のSA参加者の各年次および卒業時の到達目標を定めるとともに、より高度なコミュニケーション能力を身につけるため、新たにアプリケーション（上級）科目を開設しています。

日本の企業の3分の2が英語圏以外の国々を最重要拠点とするなど、グローバル人材に対する社会的ニーズは多様化しています。国際文化学部では、英語による汎用的なコミュニケーション力に加え、その地域の言語と文化を理解した上で、地域の人々と円滑なコミュニケーションを取ることができる地域的専門性の高いグローバル人材を育成します。

なお、アプリケーション（上級）は、他学部公開科目として国際文化学部以外の学生にも公開しています。

国際文化学部の各年次配当科目の到達目標

<table>
<tr><th rowspan="2">学年</th><th rowspan="2">科目</th><th colspan="6">到達目標</th></tr>
<tr><th>ドイツ語</th><th>フランス語</th><th>スペイン語</th><th>ロシア語</th><th>中国語</th><th>朝鮮語</th></tr>
<tr><td rowspan="2">3・4年次</td><td>ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ（上級）</td><td>独検準1級
GZ B2
ZD
ZDfB B2
ZDj B2</td><td>仏検2級
DELF B1
TCF300-399
TEF361-540</td><td>DELE C1</td><td>ロシア語能力検定2級
ТРКИ-1</td><td>新HSK6級</td><td>ハングル検定2級</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ</td><td>独検2級
GZ B1
ZDfB B1
ZDj B1</td><td>仏検準2級
DELF A2
TCF 200-299
TEF 204-360</td><td>DELE B2</td><td>ロシア語能力検定3級
ТРКИ-БУ</td><td>新HSK5級</td><td>ハングル検定準2級</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2年次</td><td>SA</td><td>独検3級
SD 2, FD 2</td><td colspan="2">仏検3級
DELF A1
TCF100-199
TEF 69-203</td><td>DELE B1</td><td>ロシア語能力検定3級
ТРКИ-БУ</td><td>新HSK4級</td><td>ハングル検定3級</td></tr>
<tr><td>春学期配当科目</td><td>独検4級
SD A2, FD A2</td><td>仏検4級</td><td rowspan="2">DILF
TCF
0-99
TEF
0-68</td><td>DELE A2</td><td>ロシア語能力検定4級</td><td>新HSK3級</td><td>ハングル検定4級</td></tr>
<tr><td>1年次</td><td>1年次配当科目</td><td>独検5級
SD A1
FD A1</td><td>仏検5級</td><td>DELE A1</td><td>ロシア語能力検定4級</td><td>新HSK2級</td><td>ハングル検定5級</td></tr>
</table>

◇アプリケーション（上級）の受講資格

各言語の以下の資格または同レベルの語学力を有する者

- ドイツ語　独検2級、GZ B1、ZDfB B1、ZDj B1以上のいずれか
- フランス語　仏検準2級、DELF A2、TCF スコア200、TEF スコア204以上のいずれか
- スペイン語　DELE　B2以上
- ロシア語　ロシア語能力検定3級、ТРКИ-БУ以上のいずれか
- 中国語　新HSK5級以上
- 朝鮮語　ハングル能力検定試験準2級以上

2015年度以降入学生用

◇到達目標

各言語の以下の資格の取得

・ドイツ語　独検準1級、GZ B2、ZD、ZDfB B2、ZDj B2
・フランス語 仏検2級 DELF B1、TCF300-399、TEF361-540
・スペイン語 DELE　C1
・ロシア語　ロシア語能力検定2級、ТРКИ-1
・中国語　新 HSK6級
・朝鮮語　ハングル能力検定試験2級

◇開講科目

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	開講数	単位数
ドイツ語アプリケーション（上級）	林　志津江	3～4	春・秋	2	2
フランス語アプリケーション（上級）	ｼﾞｮﾙﾃﾞｨ ﾌｨﾘｯﾌﾟ	3～4	春・秋	2	2
ロシア語アプリケーション（上級）	ｺﾍﾞﾙﾆｯｸ　ﾅﾃﾞｨﾔ	3～4	春・秋	2	2
中国語アプリケーション（上級）	春：周重雷 秋：金玉英	3～4	春・秋	2	2
スペイン語アプリケーション（上級）	瓜谷　ｱｳﾛﾗ	3～4	春・秋	2	2
朝鮮語アプリケーション（上級）	富所　明秀	3～4	春・秋	2	2

履修上の注意

・各学期の初回授業に必ず出席し、受講許可を得てください。
・アプリケーション（上級）は各言語アプリケーションと合わせて履修することができます。

（６）専攻科目

①情報文化コース科目群、表象文化コース科目群、言語文化コース科目群、国際社会コース科目群

「情報文化コース科目群」には、文理融合の理念のもと、高い技術・知識を要する情報処理能力を育成するための科目を配置しています。

「表象文化コース科目群」には、映画、アニメ、音楽、ダンスなど、視覚・聴覚映像の効果と仕組みを学ぶ科目を配置しています。

「言語文化コース科目群」には、各言語圏特有の文化を掘り下げて、文化の多様性を探求するための科目を配置しています。

「国際社会コース科目群」には、地域や国を横断する国際社会の交流とその仕組み、問題点とその解決方法を探る科目を配置しています。

専攻科目一覧

科目群	科目区分	授業科目名	旧授業科目名	注	担当教員名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	隔年開講科目	単位数	ｼﾗﾊﾞｽﾍﾟｰｼﾞ
情報文化コース科目群	方法論	こころの科学	認知科学		森村　修	3～4	秋		2	217
		ゲーム構築論	モデリング・シミュレーション		重定　如彦	3～4	春		2	218
	システムと人間	ヒューマンインターフェイス論			甲　洋介	2～4	春		2	219
		情報セキュリティとプライバシー	ネットワークセキュリティ		和泉　順子	2～4	秋		2	220
		バイオインフォマティクス			島野　智之 月井　雄二	2～4	秋		2	221
		ネットワーク環境構築論	「ネットワーク・プログラミング」、「ネットワークサーバ構築論」を統合		松浦　知史	3～4	秋		2	222
	メディア	文化情報空間論			甲　洋介	2～4	春	★	2	223
		コンピュータ音楽と音声情報処理	「メディア処理」、「メディアシステム構築論」、「コンピュータ音楽と音声情報処理」を統合		大嶋　良明 阪本　正治	3～4	春		2	224
	デザイン	ハイパーテクスト論			川村　たつる	3～4	秋	★	2	225
		情報編集論			川村　たつる	3～4	春		2	226
		文化情報の哲学			森村　修	2～4	春		2	227
		情報デザイン			稲垣　立男	3～4	秋		2	228
表象文化コース科目群	表象の理論	サブカルチャー論			島田　雅彦	2～4	春		2	229
	メディア表現	マルチメディア表現法			大嶋　良明	2～4	春		2	230
		メディア表現ワークショップ１			休講	2～4	春	★	2	—
		メディア表現ワークショップ２			島田　雅彦	3～4	秋		2	232
		メディア表現ワークショップ３	メディアアート		佐藤　好彦	2～4	秋	★	2	233
		五感共生論			休講	2～4	秋	★	2	—
	映像表現	映像文化論			鈴木　晶	1～4	秋		2	234
		写真論			休講	1～4	秋	★	2	—
		映像と文学			林　志津江	3～4	秋		2	235

2015年度以降入学生用

科目群	科目区分	授業科目名	旧授業科目名	注	担当教員名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	隔年開講科目	単位数	ｼﾗﾊﾞｽﾍﾟｰｼﾞ
表象文化コース科目群	表象芸術	演劇論			休講	3～4	秋	★	2	—
		ポピュラー音楽論			大嶌 徹	1～4	春	★	2	237
		コミックス論			野田　謙介	3～4	秋	★	2	238
		空間デザイン論			休講	2～4	秋	★	2	—
		比較表象文化論	比較思想		竹内　晶子	1～4	秋		2	239
		異文化と身体表現			鈴木　晶	1～4	春		2	240
		パフォーマンス・スタディーズ	アート・アクティヴィズム		森村　修	2～4	秋		2	241
		現代美術論			稲垣　立男	2～4	秋		2	243
言語文化コース科目群	世界の中の日本文化	世界の中の日本文学			川村　湊	2～4	春		2	244
		世界の中の日本語			リービ　英雄	2～4	秋		2	245
		世界とつながる地域の歴史と文化			髙柳　俊男	2～4	春		2	246
		日英翻訳論			リービ　英雄	2～4	春		2	248
		実践翻訳技法			リービ　英雄	3～4	秋	★	2	249
	アジアの文化	中国の文化Ⅰ（現代中国社会）			曽　士才	1～4	春		2	250
		中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）			曽　士才	1～4	秋	★	2	251
		中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）			休講	1～4	秋	★	2	—
		中国の文化Ⅳ（中国語の構造）			渡辺　昭太	2～4	春		2	252
		中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）			渡辺　昭太	2～4	秋	★	2	253
		中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）			野村　英登	2～4	春		2	254
		中国の文化Ⅶ（近代文学）			廣野　行雄	2～4	春		2	255
		中国の文化Ⅷ（現代文学）			廣野　行雄	2～4	秋		2	256
		中国の文化Ⅸ（中国俗文学）			鈴木　靖	2～4	春		2	257
		中国の文化Ⅹ（歴史）			休講	2～4	秋	★	2	—
		朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）			内山　政春	2～4	春		2	258
		朝鮮語圏の文化Ⅱ（朝鮮語の構造）			休講	2～4	秋	★	2	—
		アジアの伝統芸能			鈴木　靖	2～4	秋	★	2	259
		東南アジアの文化			休講	2～4	秋	★	2	—
	ユーラシアの文化	アフロ・アジアの文化			休講	2～4	春	★	2	—
		ロシア・中央アジアの文化			ｱﾝﾄﾞﾚｲ ｸﾗﾌﾂｪﾋﾞﾁ	2～4	春	★	2	260
		ロシア・東欧の文化			佐藤　千登勢	2～4	春		2	261
	ヨーロッパの文化	ドイツ語圏の文化Ⅰ			林　志津江	2～4	春	★	2	263
		ドイツ語圏の文化Ⅱ			休講	2～4	春	★	2	—
		フランス語圏の文化Ⅰ（思想）	フランスの文化Ⅰ（思想）		休講	1～4	秋	★	2	—
		フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）	フランスの文化Ⅱ（芸術）		休講	1～4	春	★	2	—
		フランス語圏の文化Ⅲ（文学）	フランスの文化Ⅲ（文学）		ｼﾞｮﾙﾃﾞｨ ﾌｨﾘｯﾌﾟ	1～4	秋	★	2	264
		フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）			廣松　勲	1～4	春	★	2	265
		スペイン語圏の文化Ⅰ（多言語国家スペイン）			佐々木　直美	2～4	春		2	267
		スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）			佐々木　直美	3～4	秋		2	268
		カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）			ﾋﾞﾗ･ﾋﾞﾆｬｽ･ﾗｹﾙ	3～4	春		2	269
		カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）			ﾋﾞﾗ･ﾋﾞﾆｬｽ･ﾗｹﾙ	3～4	秋		2	270
		カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）			ﾋﾞﾗ･ﾋﾞﾆｬｽ･ﾗｹﾙ	3～4	春		2	271
		カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）			ﾋﾞﾗ･ﾋﾞﾆｬｽ･ﾗｹﾙ	3～4	秋		2	272

科目群	科目区分	授業科目名	旧授業科目名	注	担当教員名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	隔年開講科目	単位数	ｼﾗﾊﾞｽﾍﾟｰｼﾞ
言語文化コース科目群	英語圏の文化	英語圏の文化Ⅰ（文化史）			宇治谷　義英	2～4	秋	★	2	273
		英語圏の文化Ⅱ（思想史）			ﾏｰｸ　ﾌｨｰﾙﾄﾞ	2～4	秋		2	274
		英語圏の文化Ⅲ（現代事情）			粟飯原　文子	2～4	春		2	275
		英語圏の文化Ⅳ（文学と社会Ａ）			須藤　祐二	2～4	秋		2	276
		英語圏の文化Ⅴ（文学と社会Ｂ）			北　文美子	2～4	秋		2	277
		英語圏の文化Ⅵ（文学と社会Ｃ）			中和　彩子	2～4	春		2	278
		英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）			輿石　哲哉	3～4	春		2	279
		英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）		※1	輿石　哲哉	3～4	秋		2	281
		History of English		※1	輿石　哲哉	3～4	秋		2	283
国際社会コース科目群	国際社会研究の方法	実践社会調査法			松本　悟	2～4	春		2	285
	国際協力	実践国際協力			松本　悟	1～4	秋		2	286
		国際関係研究１			松本　悟	1～4	春		2	287
		途上国経済論		※2	休講	1～4	春		2	—
	多文化社会	他者イメージ論			中島　成久	1～4	秋	★	2	288
		宗教社会論Ⅰ（仏教思想）	仏教思想	※2	関口　和男	1～4	秋		2	289
		宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）	キリスト教思想		佐々木　一惠	3～4	秋		2	290
		宗教社会論Ⅲ（イスラーム思想）	イスラーム思想		江村　裕文	2～4	春	★	2	291
		間文化性研究翻訳論	翻訳と情報		熊田　泰章	2～4	春		2	292
		多文化社会と人間		※2	村野　節子	2～4	春		2	293
	国際関係と地域	国際関係研究２			松本　悟	1～4	秋		2	294
		移民研究Ⅰ（華僑・華人社会）			休講	1～4	秋	★	2	—
		移民研究Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）			髙柳　俊男	2～4	秋	★	2	295
		移民研究Ⅲ（アジア・太平洋）			休講	2～4	秋	★	2	—
		地域紛争とエスニシティ			中島　成久	1～4	秋		2	296
		持続可能な社会			島野　智之	1～4	春	★	2	297
		地域協力・統合			大中　一彌	2～4	秋		2	298

注）※1の「英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）」と「History of English」の重複履修はできません。

注）※2は他学部との同一開講授業であるため、休講・教室変更等の授業連絡は下表の掲示板で確認してください。

国際文化学部科目名	他学部科目名	掲示学部	備考
途上国経済論	途上国経済論Ⅰ	人間環境学部	
宗教社会論Ⅰ（仏教思想論）	仏教思想	人間環境学部	
多文化社会と人間	多文化社会論Ⅲ	キャリアデザイン学部	

【専攻科目の選択必修について】

登録したコースの専攻科目から４科目８単位以上修得する必要があります。
情報文化コース、表象文化コース、国際社会コースはコースの中での決まりはありません。
言語文化コースは、「世界の中の日本文化」区分から１科目以上、ＳＡ先と関連する区分から２科目以上、それ以外の区分から１科目以上を修得する必要があります。

★「世界の中の日本文化」区分から１科目２単位以上修得

科目区分	授業科目名
世界の中の日本文化	世界の中の日本文学
	世界の中の日本語
	世界とつながる地域の歴史と文化

ＳＡ先と関連する区分表

科目区分	授業科目名	ＳＡ先
アジアの文化	中国の文化Ⅰ	中国 韓国
	中国の文化Ⅱ	
	中国の文化Ⅲ	
	中国の文化Ⅳ	
	中国の文化Ⅴ	
	中国の文化Ⅵ	
	中国の文化Ⅶ	
	中国の文化Ⅷ	
	中国の文化Ⅸ	
	中国の文化Ⅹ	
	朝鮮語圏の文化Ⅰ	
	朝鮮語圏の文化Ⅱ	
	アジアの伝統芸能	
	東南アジアの文化	
ユーラシアの文化	アフロ・アジアの文化	ロシア
	ロシア・中央アジアの文化	
	ロシア・東欧の文化	
ヨーロッパの文化	ドイツ語圏の文化Ⅰ	スイス フランス スペイン
	ドイツ語圏の文化Ⅱ	
	フランス語圏の文化Ⅰ	
	フランス語圏の文化Ⅱ	
	フランス語圏の文化Ⅲ	
	フランス語圏の文化Ⅳ	

科目区分	授業科目名	ＳＡ先
ヨーロッパの文化	スペイン語圏の文化Ⅰ	スイス フランス スペイン
	スペイン語圏の文化Ⅱ	
	カタルーニャの文化Ⅰ	
	カタルーニャの文化Ⅱ	
	カタルーニャの文化Ⅲ	
	カタルーニャの文化Ⅳ	
英語圏の文化	英語圏の文化Ⅰ	イギリス アメリカ カナダ オーストラリア
	英語圏の文化Ⅱ	
	英語圏の文化Ⅲ	
	英語圏の文化Ⅳ	
	英語圏の文化Ⅴ	
	英語圏の文化Ⅵ	
	英語圏の文化Ⅶ	
	英語圏の文化Ⅷ（※1）	
	History of English（※1）	

●ＳＡ不参加者（ＳＳＩコース以外）およびＳＪ参加者（外国人留学生入試で入学した留学生）の場合

・「世界の中の日本文化」区分から１科目２単位以上
・残りの４つの区分（「アジアの文化」「ユーラシアの文化」「ヨーロッパの文化」「英語圏の文化」）の内１つの区分から２科目４単位以上、それ以外の区分から１科目２単位以上

※SJ 参加者は「世界の中の日本文化」区分から「世界とつながる地域の歴史と文化」を必ず履修すること。

（※1）「英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）」と「History of English」の重複履修はできません。

●履修例

ＳＡ英語圏学生の場合

①「世界の中の日本文化」区分から１科目２単位以上
②ＳＡ先と関連する「イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア」区分から２科目４単位以上
③ ②以外の「中国、韓国」「ロシア」「スイス、フランス、スペイン」のいずれかのＳＡ先区分から１科目２単位以上

ＳＡ諸外国語圏の場合　※ＳＡ中国の例

①「世界の中の日本文化」区分から１科目２単位以上
②ＳＡ先と関連する「中国、韓国」区分から２科目４単位以上
③ ②以外の「ロシア」「スイス、フランス、スペイン」「イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア」のいずれかの区分から１科目２単位以上

②演習

演習こそ学部教育の中心であり、学生にとって大学生活の要となるものです。明確なテーマを見つけ、選抜に臨んでください。各演習は選抜を行い受講者を決定します。履修にあたっては、同一教員の演習を春・秋セメスター連続して履修してください。原則として２年間連続して受講しますが、４年次になる際に変更することも可能です。２０１６年度は３２演習が開講されます。

演習一覧

演習名　―サブタイトル―	担当教員名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	単位数	ｼﾗﾊﾞｽﾍﾟｰｼﾞ
情報文化演習－PureData で音楽、CG、ディジタル・アートを創ろう－	大嶋　良明	3～4	春・秋	2	299
情報文化演習―情報科学技術の問題の発見と考察―	和泉　順子	3～4	春・秋	2	302
情報文化演習―こころとココロ、コミュニケーションと『知』の新しいカタチ―	春：甲　洋介 秋:渡邊　日出雄	3～4	春・秋	2	304
情報文化演習―コンピュータエンターテイメント―	重定　如彦	3～4	春・秋	2	306
情報文化演習―環境問題と生物多様性―	島野　智之	3～4	春・秋	2	308
情報文化演習―「前衛芸術と精神分析」研究―	森村　修	3～4	春・秋	2	309
表象文化演習―コミュニケーションとアート―	稲垣　立男	3～4	春・秋	2	311
表象文化演習―場所論―	岡村　民夫	3～4	春・秋	2	313
表象文化演習―カネより頭と足を使え。ローコストでリッチコンテンツ―	島田　雅彦	3～4	春・秋	2	314
表象文化演習―ヴィジュアル文化の探求―	鈴木　晶	3～4	春・秋	2	315
表象文化演習―比較文化・比較演劇―	竹内　晶子	3～4	春・秋	2	317
表象文化演習―ポピュラー音楽の系譜―	林　志津江	3～4	春・秋	2	318
言語文化演習－アフリカの文化を学ぶ－	粟飯原　文子	3～4	春・秋	2	320
言語文化演習―対人配慮の語用論―	江村　裕文	3～4	春・秋	2	322
言語文化演習―身近な文化を読みほどく―	衣笠　正晃	3～4	春・秋	2	323
言語文化演習―英語，英語圏文化研究―	奥石　哲哉	3～4	春・秋	2	325
言語文化演習―世界遺産に学ぶ―	佐々木　直美	3～4	春・秋	2	327
言語文化演習―映画で学ぶ国際情勢と人間の内的世界―	佐藤　千登勢	3～4	春・秋	2	329
言語文化演習―アジアから見た日本―	鈴木　靖	3～4	春・秋	2	331
言語文化演習―スペイン語を使って、スペイン語圏の文化を研究しよう―	田澤　耕	3～4	春・秋	2	333
言語文化演習―知ってるアメリカ・知らないアメリカ―	栩木　玲子	3～4	春・秋	2	334
言語文化演習―フランコフォニーの言語文化―	廣松　勲	3～4	春・秋	2	336
言語文化演習―比較文化研究（小説と映像）―	前川　裕	3～4	春・秋	2	339
言語文化演習－国際文学論－	リービ　英雄	3～4	春・秋	2	341
国際社会演習―「国際関係」を問い直す―	今泉　裕美子	3～4	春・秋	2	342
国際社会演習―グローバル化と政治理論―	大中　一彌	3～4	春・秋	2	344
国際社会演習―アートは国境を越える？！- 間文化性研究―	熊田　泰章	3～4	春・秋	2	345
国際社会演習―トランスナショナル・ヒストリー研究―	佐々木　一惠	3～4	春・秋	2	347
国際社会演習―ヒトの移動で読み解く世界―	曽　士才	3～4	春・秋	2	348
国際社会演習―朝鮮半島と日本―	髙柳　俊男	3～4	春・秋	2	349
国際社会演習―人種・民族・宗教紛争研究―	中島　成久	3～4	春・秋	2	351
国際社会演習―国際協力を捉える視点―	松本　悟	3～4	春・秋	2	353

③卒業研究

『卒業研究』とは卒業論文あるいは卒業制作のことです。

科目名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	単位数	ｼﾗﾊﾞｽﾍﾟｰｼﾞ
卒業研究	4	秋	2	―

※秋セメスター科目ですが、春学期末卒業対象者は春セメスターに修得することができます。
その場合、提出期限は各担当教員に確認してください。

【卒業研究 履修上の注意】

◇卒業研究を履修する場合は、次のいずれかの種類の成果物を提出しなければなりません。

（1）学生個人によって書かれた学術論文

（2）学術論文を除く作品制作について学生個人が書いた制作レポート

◇「卒業研究」を履修するのと同一のセメスターにおいて、「卒業研究」の指導教員が担当する「演習」を履修していることが前提です。

◇「演習」のほか、別途「卒業研究」も履修登録が必要です。（「卒業研究」、「演習」それぞれ履修登録を行う必要があります）

◇2011年度以降入学生が履修できる科目です。2010年度以前入学者は履修できません。

◆2016年度「卒業研究」の詳細は、次ページ以降を参照してください。

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
大鳩　良明	12月25日17:00	ePortfolioへのアップロード	日本語もしくは英語の単著論文 日本語論文:　本文16,000字以上,文字サイズは11ポイント。 １ページあたり41文字×37行もしくは38行を目安とする。 できれば英語による表題およびアブストラクトを付けること。 英語:　6000ワード以上。11ポイント、ダブルスペース。 アブストラクトを付けること。 プルーフリーディング済みであること。	A+：外部学会に発表可能な水準の論文 A：「異文化」に投稿した研究をまとめた論文 B：ゼミとして国際文化情報学会に発表した研究をまとめた論文 C：上記には達しないが卒業研究と認めるに足る水準の論文 D：卒業論文として及第基準に満たないもの E：未提出	成果物は研究室 Web および ePorfolio より公開する。
和泉　順子	「演習」最終日	授業支援システムから　卒業論文のファイルをアップロード 原則として、メール等による提出は認めない	字数:　　論文としての体裁が整っており、かつ必要十分な記述があれば分量は特に指定しない 使用言語：日本語または英語	以下の評価項目および面接審査の内容を総合的に勘案し、A+、A、B、C、D、Eの判定を行う。 ①提出期限までに指定の方法で提出され、論文としての体裁を備えているか。 ②関連する先行研究を十分に調査し、参考文献を適切に参照・引用しているか。 ③研究目的と取り組むべき課題が明瞭で、対応する論理的な提案ができているか。 ④提案に対する評価や考察、分析は妥当であるか。 ⑤論理展開に飛躍や矛盾がなく、全体として論旨明快な構成か。 ⑥日本語表現・表記が的確で、誤字脱字や文意不明な箇所などが無いか。 ⑦指導教員の指導を受け、まじめに取り組んだか	
甲　洋介 渡邊　日出雄	１月９日午後２時	・１つの文書ファイルにまとめ、授業支援システムを用いて提出。 ・文書に収められない制作物、	・２００００字程度（表紙・目次・要旨・参考文献・付録を除いて）。 ・日本語、横書き。ただし英語での執筆可。	a）課題設定の妥当性とオリジナリティ、b）内容の妥当性（論文構成・論旨の展開・適切な表現）、c）先行研究および引用の適切性、d）達成水準、の観点から評価する。なお、Ａ＋評定には学外での発表可能性を判断に加える。	・制作物を含む場合の評価は、研究論文の基準に準ずる。

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
		ソフトウェア等の提出については別途指示する。			
重定　如彦	1月11日（水）	論文及び、卒業研究のテーマの作品を提出する。論文はWordで作成し、授業支援システムに添付ファイルで提出すること。作品は、作品に関連するファイルをすべてzipに圧縮し、授業支援システムに添付ファイルで提出すること。	論文は日本語で２万文字以上（プログラムのコードの文字数は含まない）。 卒業研究の目的を達成するものであれば、作品のプログラムのコード量または使用言語は特に指定しない。	提出された卒業論文及び作品の内容で評価する。卒業論文は先行研究を踏まえオリジナリティーがあるか。論文にふさわしい形式で、客観的、論理的に自分の言葉で論述しているか。作品は卒業論文の目的を達成しているか、作品自体の完成度などで評価する。	論文や作品の詳細な形式などについては授業内で個別に指導する。
島野　智之	秋学期最後の演習日	プリントアウト１部 ワード文書電子データをメール添付	使用言語は日本語。字数制限なし。英語による執筆も可。	以下の基準に照らして、A+～Eまでの評価を行う。 １．論文の目的に応じた適切な構成をもっているか（要旨、出典を明記するとともに、引用文献の書式が整っているかなど）。 ２．先行研究を調査し、綿密に分析した上で、論理的に結論を導きだしているか。 ３．論文にふさわしく、客観的・論理的に自分の言葉で論述しているか。	年度を通じての教員の面談と添削、草稿の提出や書き直しなどを適宜行なうこと。
森村　修	１月の授業最終日	担当教員（morimura@hosei.ac.jp）まで、メールに添付すること	・論文（本文）横書き40字×35行で、20000字以上（日本語）・PDF形式 ・論文（要旨）横書き40字×35行で、1800字～2000字以内・PDF形式 ・表紙（タイトル／サブタイトル、学籍番号、氏名など）を必ずつけること。表紙の字数は、論文本文の字数に数えない。論文末に、字数を明記すること。 ・参考文献一覧も必ずつけること。	・「卒業研究」学術論文は、学術論文である以上、「学会誌」ならびにそれと同様の基準で評価する。評価は以下のような項目に留意して、総合的に決められる。 ①研究課題設定の妥当性　②研究対象の妥当性、先行研究との関係 ③分析手順の妥当性　④適切な分量 ⑤論文構成の妥当性　⑥論旨の展開 ⑦適切な文章表現　⑧文献等の適切な引用 ⑨仮説と結果導出の論理的一貫性　⑩論文全体の独創性 ・卒業論文の内容と面接審査の内容を総合的に勘案してA＋・A・B・C・D・Eの判定を行なう。 A＋：評価項目の要件を十分に満たし、学会誌に掲載可能な	・卒業制作を提出する場合は、卒業制作要旨を提出すること。 ・卒業制作要旨の概要については下記の通り ・A4版　12000字以上（日本語）。PDF形式 ・表紙を必ずつけること。表紙の字数は、論文字数に数えない。文末に字数を明記。 ・作品については、CDあるいはDVDで提出すること（そ

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
				段階 A　：評価項目の要件を満たし、修正の上、学会誌に掲載可能な段階 B　：A の評価に準ずる段階 C　：卒業論文作成の努力が認められ、卒業に適うと評価される段階 D　：多くの点で評価項目の要件を満たさず、卒業に適わないと評価される段階 E　：未提出	れ以外の形式で作品を提出希望の場合は、事前に教員と相談すること） ・ 評価基準については、上記の「卒業論文の成績評価の基準」に準ずる。
稲垣　立男	秋学期の最終講義日までに提出する。	作品については秋学期に開催される研究発表会（展覧会）会場に展示した状態で制作報告書を添えて提出すること。論文の場合、研究発表会ではポスター形式で発表し、論文も添えること。なお、論文、制作報告書については、Word 形式、PDF 形式などの電子データでも提出するものとする。	作品＋制作報告書の場合 1 作品　サイズ･材料などについては指導教員に相談すること 2 制作報告書　ポートフォリオ形式、日本語 論文＋ポスターの場合 1 論文　8000 字程度以上　日本語 2 ポスター　A1 サイズ程度の用紙に論文の要旨を解りやすくまとめる。	研究発表会の会期中に作品審査・面接審査を実施する。 下記の基準で審査する。 作品 1 アイディアの先駆性、実験性 2 作品制作の創意工夫と完成度 3 先行研究の適切な調査 論文 1 テーマの独創性・妥当性 2 分析・論述・文章の適切さと完成度 3 先行研究の適切な調査	論文、制作報告書は日本語　ファイルなどにマウントして提出すること。
岡村　民夫	演習最終日	プリントアウトしてホチキスで閉じたものを教室で提出する。	12,000 字以上。日本語。作品に付随するレポートの場合は、6,000 字以上。	内容と文章力を重視する。作品の場合は、制作コンセプトや制作過程を述べたレポートを添えること。論文や作品にいたるまでのプロセスも考慮する。	成果は論集として印刷し、公開する。
島田　雅彦	演習の年度最終日	プリントアウトしたものを直接、手渡すか、メールで送付。	研究論文、卒業制作　本文１５，０００字から２０，０００字程度　引用、参照、注は別 映像作品　上映時間は問わないが、５０００字程度の企画書、シナリオなどを添付すること。	先行研究、先行作品の踏まえ方、テーマや構成、批評性、表現の工夫、個性、完成度を総合的に見て、判断する。クオリティの高い論文、作品にはメディア等での公表を薦める。	

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
鈴木　晶	演習の最終日	Word 文書あるいはPDF のファイルをメールに添付し、教員宛に送る。	日本語で 16,000 字〜20,000 字程度。	卒業論文としての内容を判定する。とくに(1)ちゃんとした日本語の文章になっているか、(2)学術的研究と言えるか、(3)論文としての形式が整っているか、(4)剽窃がないか、について評価する。	テーマに関してはかならず事前の指導教員の承認を得ること。
竹内　晶子	演習最終日	教員に直接手渡す。	字数制限なし。使用言語は日本語あるいは英語。	以下の基準に照らして、A+〜E までの評価を行います。 １．論文の目的に応じた適切な構成をもっているか。 ２．先行研究を調査し、作品・資料を綿密に分析した上で、論理的に結論を導きだしているか。 ３．論文にふさわしい形式で、客観的・論理的に自分の言葉で論述しているか。	卒論テーマは、「比較文化」の枠内で学術的に調査する限りにおいて基本的に自由ですが、かならず年度を通じての教員の指導（面談と添削）に応じ、草稿の提出や書き直しなどを適宜行なうこと。
林　志津江	当該年度、１月最初の演習授業日	ワード文書データをメール添付にて教員宛送付、プリントアウト１部を教員に直接提出（両方がそろって提出完了とみなす）	原則として日本語、20,000 字程度（執筆要領は別途通知する）	以下の評価項目を考慮し、A+, A, B, C, D, E の評価判定を行う。 （１）テーマ設定の妥当性・独創性 （２）先行研究・資料の読解やその活用方法 （３）適切な論述がなされているか、論理的で明解なテーゼ・結論が提示されているか （４）概念の使用や言語表現、文章表記が的確か （５）指定された執筆要領（書式）が守れているか （６）参考文献や図版、グラフ等の出典記載、引用の注釈の方法など、学術論文のルールを守れているか	（１）指導は個別に行います。 （２）手書きの論文は受理できません。
粟飯原　文子	秋学期の演習最終日	プリントアウトしたものを教員に直接提出する。原則としてメールでの送付は受け付けない。	日本語で20000 字程度。英語での執筆を希望する場合は要相談。	以下の評価基準にもとづき、A+、A、B、C、D、E の判定をおこなう。 1. 研究テーマの妥当性。 2. 論文として体裁が整っていること（表題、章立て、注、参考文献など）。 3. 一次資料の読解が正確、緻密であること。 4. 先行研究や参考文献の調査が行き届いていること。 5. 論文の構成および論旨が明快であること。 6. 分析や論の展開に独創性があること。	
江村　裕文	秋学期の演習最後の授業日	紙ベースで教員に提出	日本語で12,000 字以上	１．形式 ２．調査の程度 ３．オリジナリティ	

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
衣笠　正晃	秋学期授業最終回	担当教員に直接提出する	16,000 字以上、日本語	以下の評価項目について総合的に勘案し、担当教員が A＋、A、B、C、D、E の判定をおこないます。 1) 研究テーマの選択・設定が妥当かつオリジナルなものであるか。 2) 先行研究の探索・選択・引用が適切におこなわれているか。 3) アンケートなどの調査が適切に実施され、結果が適切に整理・利用されているか。 4) 根拠を明示したうえで自らの議論が論理的かつ明確に展開されているか。 5) 文章表現・表記が適切であり、論文としての形式が守られているか。	
輿石　哲哉	第一次提出は 12 月 31 日（年内）まで	MS Word を用いた Email の添付文書として提出	使用言語日本語の場合： 20,000 字程度. 英語によるアブストラクト 1 頁. 使用言語英語の場合：8,000 語程度. 日本語によるアブストラクト 1 頁.	1）論文としての約束・形式等を守っていること. 2）先行研究を正確に理解し，読んでいること. 3）自分なりに論じる内容になっていること.	
佐々木 直美	秋学期最後の演習日。	教員に直接提出	使用言語：日本語 文字数：本文のみで 20,000 字程度	以下の項目を総合的に勘案し、A＋、A、B、C、D、E の判定を行う。 ①論文の体裁を整えているか。 ②テーマの選択は妥当か。 ③先行研究を適切に調査し、整理しているか。 ④論理の展開に飛躍や矛盾がなく、明快か。 ⑤論述や文章は適切か。 ⑥独創性を含むか。	

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
佐藤　千登勢	2017 年 1 月 11 日（水）17 時まで	教員に直接提出（研究室にて）	字数：20000 字以上 使用言語：日本語	以下の評価項目の観点から、A＋・A・B・C・D・E の判定を行う。 1）先行研究・参考文献の内容を正確に理解しているか。 2）先行研究をきちんとおさえ、適切に引用・援用をおこなっているか。 3）論旨が明快で、見解や結論に独創性が示されているか。 4）見解や結論に説得力があるか。 5）論文の構成は、論旨の展開を明快に導くべく整然としているか。	
鈴木　靖	二段階に分けて提出する。初稿を 2016 年 12 月 24 日（土）までに提出した後、推敲を行い、完成稿を 2017 年 1 月 21 日（土）までに提出	Microsoft Word で作成したものを下記メールアドレスに送付。 yasuzuki@hosei.ac.jp	①卒業論文の場合 20,000 字程度（注釈、文献リスト等を含む） ②卒業制作（ドキュメンタリー・ビデオ作品など）の場合 8,000 字程度（注釈、文献リスト等を含む）	成績評価は完成稿を対象に、下記の 8 つを基準として、総合的に評価する。 【内容】 ①問題設定は適切かつ意義あるものか ②先行研究を網羅的かつ批判的に継承しているか ③独自の調査を踏まえてオリジナリティーのある研究をおこなっているか ④結論は明確な論拠と論理性を持っているか 【形式】 ⑤章立ては適切に行っているか ⑥引用は適切に行っているか（「剽窃」（plagiarism）に注意） ⑦出典や注釈の記載は適切におこなっているか ⑧参考文献は適切な書式で整理されているか	
田澤　耕	1 月最初の演習の日	直接教員に提出	テーマによって異なるので制限は定めない。	①テーマと着目点の独創性。 ②資料収集の努力。 ③資料処理の適切性。 ④研究推進の意欲。 ⑤分析、論述の適切さ。 評価は A+～E	内容によっては翻訳、創作など卒業制作に相当するものを認めることもある。

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
栩木　玲子	当該年度最後の演習。	当該年度最後の演習にて提出。	日本語または英語。日本語の場合は20、000字相当、英語の場合は8、000から10、000語相当。（いずれの場合も注や引用文献を含む。）	提出された論文については以下の点を考慮してA+, A, B, C, D, Eの評価判定を行います。 ①研究課題の具体性と妥当性 ②先行研究や諸資料の検討・整理・活用 ③全体の論理展開ならびに表現の的確さ ④論文としての体裁（とくに注、出典明記、参考文献の書式など） ⑤独創性	より詳細な指導は個別に行います。
廣松　勲	冬季休業が終了した次の日（授業再開日）とします。	廣松勲研究室まで持参して下さい。	字数は20,000文字以上(つまり400字詰め原稿用紙で50枚以上）とします。 使用言語は日本語とします。	卒業研究の評価に関しては、提出された論文および面接審査を総合的に考慮して、以下の評価基準に照らして、A＋ABCDEの判定を行います。 １．研究テーマの選択の妥当性・独創性 ２．作品・資料の読解の精確さ ３．先行研究の調査・整理の妥当性 ４．引用方法の適切さ ５．分析・論旨・論文構成（章立て）の適切さ・明快さ ６．誤字脱字が無いこと ７．形式（フォント、大きさ、色、余白）の統一性	必ずワープロ・ソフト（できるだけWord）で作成してください。手書きのものは受け取りません。

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
前川　裕	当該年度の最後の授業日	当該年度の最後の授業日に教員に直接提出	日本語で８０００字以上	①テーマ設定の妥当性と創造性 ②先行研究に対する適切な調査と言及 ③形式（注や参考文献）の整合性 ④結論の妥当性と創造性 主として、以上の４つの評価項目を踏まえた上で、次の基準で評価する。 Ａ＋：評価項目を十分に満たし、学会誌に掲載可能な水準 Ａ：評価項目の要件を十分に満たしている水準 Ｂ：評価項目を概ね満たしているが、十分とは言いがたい水準 Ｃ：評価項目を一部満たしていないが、努力のあとは認められる水準 Ｄ：評価項目のほとんどを満たしておらず、卒業に適わないと評価される水準	
リービ　英雄	2017 年 1 月 19 日（木）	最後の演習の時間に渡す。	10,000 字以上、日本語	A+ABCDE 内容の充実および表現力	

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
今泉　裕美子	冬休み明け最初のゼミ。	プリントアウト（書式や表紙などの体裁は別途指示する）したものを、今泉に直接提出する。	使用言語：日本語。ただし英語による執筆も可。 字数：25000 字程度（参考文献、図表を除く）。英語の場合は日本語論文に準ずる。	①テーマ設定の妥当性。 ②設定したテーマに関する先行研究を十分に収集し、読み込んでいること。 ③資料収集はネット検索だけではなく、史料館、図書館、博物館、関係機関などを訪れたり、あるいはフィールドワークなど十分な調査を行ったうえで、それらを適切に選択して、活用していること。 ④実証や分析、論の展開が適切であること。実証や分析に用いた資料の出典、自分の考えの根拠・論拠を明示していること。 ⑤学術論文としての体裁（論文タイトルの付け方、章立て、学術的な表現や表記、注、図・表、参考文献・資料リストの表示など）が整っており、誤字脱字や意味不明な箇所がないこと。	・卒業研究完成のための指導スケジュールを提示するので、それに従って作成すること。 ・「卒業研究」を履修する段階で、テーマ設定、先行研究の収集と分析、章立て、研究計画が出来ていること。
大中　一彌	秋学期演習の最終授業	授業支援システムからアップロードする。学部への郵送や事務窓口への直接提出、教員へのメール添付による提出は不可。	日本語の場合２万字程度。その他、英語、フランス語を使用言語とし、単語数は8000 語程度とする。	A＋　研究論文（Aで求めるサーヴェイ論文に当たる内容を踏まえた上で、学問的に興味深い論点を加えたもの） A　サーヴェイ論文（研究する主題について、日本国内および海外の基本的な文献を読み、現在までの研究状況をまとめたもの） B　研究論文（Cで求めるサーヴェイ論文にあたる内容を踏まえたうえで、学問的に興味深い論点を加えたもの） C　サーヴェイ論文（研究する主題について、日本国内の基本的な文献を読み、現在までの研究状況をまとめたもの）	執筆者の書いた内容のうち、どういったところが先行研究に学んだもので、どういったところが独自の貢献なのかをはっきりさせるためにも、学術論文としての形式（引用元を明示する、文献情報にかんする注を付ける、文献リストを論文末尾に付ける、など）をきちんと踏まえた書き方をすること。
熊田　泰章	ゼミ授業 12 月の最終回	プリントアウト１部 ワード文書電子データをメール添付	日本語を基本とする。字数は 20,000 字程度（本文、注、参考文献、英文要旨）。 創作の場合は、担当教員との事前相談によって決定する。	以下の評価項目を総合的に勘案し、A+、A、B、C、D、E の判定を行う： ①研究テーマと研究対象が学術的に設定されている。 ②先行研究を十分に収集し、批判的に読み込んでいる。 ③先行研究の引用・要約に終始するのではなく、自分自身	

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
				の解釈、分析、考察を記している。 ④自分自身の解釈、分析、考察の根拠・論拠を明示している。 ⑤一次資料、二次資料を適切に取り扱い、出典を明記している。 ⑥論述が学術的になされ、論旨が明快である。 ⑦表現・表記が的確で、誤字脱字がない。 ⑧表や図像が適切に使用されている。 ⑨論文としての体裁を整えている（表題、目次、章／節／項、注、参考文献、英文要旨など）。	
佐々木　一惠	当該年度の演習授業最終日	演習教室に 17 時までに持参し、提出すること。	字数：20000 程度 使用言語：日本語または英語	提出された論文については、以下の評価項目および面接審査（卒論発表会）での質疑応答の内容を勘案し、A+、A、B、C、D、E の判定を行います。 （1）先行研究の十分な検討の上に明確な研究テーマを設定し、必要かつ十分な資料・史料・データの精緻な分析に基づく独創性のある研究成果を導き出せているか。 （2）論文としての体裁を備え、論旨が明確で一貫性があるか。 （3）文章表現が明快かつ的確であるか。	
曽　士才	1 月最初の演習授業日	紙媒体とデータで教員に提出する。	ワープロ原稿(横書きが原則)で字数は 2 万字程度、使用言語は日本語。ただし、制作レポートの場合の字数は1万字程度とする。	①論文としての体裁を備えているか（論題設定、目次、章［節・項］立て、註、参考文献一覧など）。 ②論題に関わる先行研究について批判的に読み込んでいるか。 ③先行研究を参照した部分について、その典拠を明示しているか。 ④先行研究の引用・要約に終始するのではなく、自分自身の判断や解釈、考えを記しているか。 ⑤ 自分自身の判断や解釈、考えの根拠・論拠を明示しているか。 ⑥論理の展開に飛躍や矛盾がなく、全体として論旨明快な構成になっているか。 ⑦誤字脱字や文意不明な箇所などが無いか。	作品制作を「卒業研究」とする場合は、制作レポートだけでなく、作品（複製可）も提出してください。

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
				※作品制作を「卒業研究」とする場合は、作品の内容、創意工夫に照らして判定し、制作レポートと合わせて総合的に評価する。	
髙栁　俊男	1月17日(火)	直接教員への提出もしくはメール添付	原則として日本語で、20,000 字前後、あるいはそれ以上	以下を基準に判定します。 ① 適切なテーマが選ばれているか? ② 先行研究や文献の調査が十分なされているか? ③ 客観性、論理性、合理性のある論旨になっているか? ④ 自らのオリジナリティーが発揮されているか? ⑤ 推敲を十分施し、適切な日本語表現になっているか?	
中島　成久	卒業年度の1月末	メール可	A4版 (40字×40行設定) 20枚以上	論文の内容	指導は適宜行う。
松本　悟	基本的に 12 月最後の演習を初稿提出期限とし、教員からのコメントをふまえた最終提出期限を1月最初の演習とする。詳細は演習の中で指示する。	初稿及び最終版は当該ゼミの場で紙媒体とデータで教員に提出すること。詳細は演習の中で指示する。	日本語の場合は要旨 1,200 字程度で本文は2万字以上、英語の場合は Abstract が 400 words 程度で本文は6,000 words 以上。いずれも脚注および参考文献を含む。	以下の評価項目及び以下の評価項目の内容を総合的に勘案し、A+、A、B、C、D、E で判定する。 （1）テーマに関する先行研究（少なくとも日本語文献）を十分レビューし批判的に考察していること （2）論文の体裁を備えていること （3）研究目的（問いを含む）が明確であること （4）研究方法が適切であること （5）検証可能な調査結果に基づいていること （6）論理的に書かれていること （7）学術的・社会的価値があること （8）文章が明晰で誤字脱字がなく指定された書式で書くこと。	

④インターンシップ科目

インターンシップ科目は、就職や卒業後の活動につながる「実学」を学ぶ科目です。

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講 ｾﾒｽﾀｰ	単位数	ｼﾗﾊﾞｽ ﾍﾟｰｼﾞ
インターンシップ事前学習	中島　成久 廣松　勲	2〜4	春	2	355
福祉工学・ＩＴ講義	休　講	3〜4	秋	2	―
社会貢献・課題解決教育	宮木　いっぺい	2〜4	通年	4	356

⑤スタディ・アブロード科目

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講 ｾﾒｽﾀｰ	単位数	ｼﾗﾊﾞｽ ﾍﾟｰｼﾞ
スタディ・アブロード（専攻）Ⅰ	ＳＡ担当教員	2	秋	2	―
スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ	ＳＡ担当教員	2	秋	2	―
スタディ・アブロード（専攻）Ⅲ	ＳＡ担当教員	2	秋	2	―
スタディ・アブロード（専攻）Ⅳ	ＳＡ担当教員	2	秋	2	―
スタディ・アブロード（専攻）Ⅴ	ＳＡ担当教員	2	秋	2	―

⑥スタディ・ジャパン科目

スタディ・ジャパン・プログラム(Study Japan Program:略称ＳJ)とは、日本の歴史、社会、文化を理解するために実施する国内研修プログラムであり、ＳＪ事前学習となる「世界とつながる地域の歴史と文化」と一体のものとして設けられています。外国人留学生入試を受験して入学した国際文化学部の留学生は、2年次夏期に参加することが義務付けられています。また、一般学生も「世界とつながる地域の歴史と文化」の受講など一定条件を満たせば参加できます。プログラム参加者は日本国内の地方都市での生活を体験することで、東京からの発想とは別に、「地方の視点」でも考えうる目を養うことを趣旨としており、国際文化学部の研修であることに鑑み、地域における国際化や異民族との関係に重点を置いた研修内容となっています。

(1) ＳＪ参加基準

「世界とつながる地域の歴史と文化」の履修がＳＪ参加への前提条件となります。ＳＪへの参加が義務づけられている外国人留学生入試で入学した留学生は、2年次春学期に必ず履修してください。また、それ以外の一般学生でＳＪへの参加を希望する2年生以上の学生も、この「世界とつながる地域の歴史と文化」の履修が参加の前提条件となります。

なお、一般学生の参加には、ボランティア補助員としての参加と一般参加の2種類があり、経費負担や単位の修得に違いがあります。詳しくは事前学習授業の第1回目で説明しますので、研修への参加予定者は必ず出席してください。

一般学生の2種類の参加形態

参加資格	募集人員	経費負担	単位	主に行なう業務
ボランティア補助員	1名	なし（ただし飲食費は除く）	なし	留学生の学習支援、引率教員の指示する各種業務
一般参加	3名程度	諸費用（ただし飲食費は除く）の約半額に相当する4万円の奨学金支給	2単位	自らの研修、留学生の学習支援の補助、成果発表会等への参加

(2)研修日程　　9月初旬の7泊8日

(3)ＳＪ国内研修先　　長野県の飯田・下伊那地域

(4)開設科目と成績評価

開設科目

専門教育科目	専攻科目	スタディ・ジャパン	2単位	※

単位は、研修に取り組む態度、研修期間中に行なうプレゼンテーション、事後の報告書などをもとに、担当教員が評価します。評価はＡ$^{+}$～Ｅ評価です。

※留学生は2年次秋学期科目、その他の学生は履修した年度の秋学期科目となります。

(5)研修内容

現地で、各分野の専門家や行政の担当者などから、合計5コマ（1コマ70分程度）の講義を受ける予定です。教室での講義以外にも、研修の一環として見学、調査、体験学習などを実施することになっています。

(6)参加者の決定

研修先における諸手配の関係から、6月下旬か7月初旬には決定します。外国人留学生入試で入学した留学生については、次の（7）に示された理由の者を除いて全員が参加することになります。一般学生については、希望者が多く、募集人員枠を越える場合は選抜を行います。

(7)ＳＪ参加原則

【外国人留学生入試で入学した留学生】

ａ．2年次夏期に参加しなくてはなりません。

ｂ．事前学習が不十分と判断される者、また性行不良で改善の見込がないと認められる者は、ＳＪ参加を延期実施させることがあります。

ｃ．2年次に健康上の理由等でＳＪに参加できない者は、教授会の審議により3年次でのＳＪ参加を認めることがあります。

【一般学生】

a．2年生以上なら、学年に関係なく参加できます。

b．ＳＪ参加への強い意欲を有していることが求められます。

(8)ＳＪ事前学習

学部の専攻科目・言語文化コース・世界の中の日本文化科目群に置く「世界とつながる地域の歴史と文化」を履修することがＳＪ参加への前提条件となります。

この授業の目標は、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、7泊8日の「ＳＪ国内研修」を有意義に送れるようにすることにあります。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係に重点を置きながら授業を進めていきます。

(9)奨学金（留学生）

外国人留学生入試で入学した、国際文化学部に在籍する留学生のＳＪへの参加に際し、10万円を限度に研修費、宿泊費、交通費を含むＳＪ諸費用（ただし飲食費は除く）の全部または一部を支給します。

(10)奨学金（一般参加の一般学生）

研修費、宿泊費、交通費を含むＳＪ諸費用（ただし飲食費は除く）の約半額に相当する４万円を、学部在籍中１回に限り給付します。その分、研修の成果を個人ないしグループで、その年度の国際文化情報学会で発表するなど、いくつかの義務があります。詳しくは、事前学習授業の中で説明します。

（７）自由科目（１８単位以内）

自由科目には、「総合科目」「他学部等公開科目」「グローバル・オープン科目」グローバル教育センター主催の「ＥＳＯＰ科目」「ＥＲＰ科目」および「短期語学研修」「国際ボランティア」「国際インターンシップ」の単位認定があります。 履修するときは下記の注意事項をよく読んでから履修してください。

【2015年度以降入学生のみ】自由科目は18単位を超えても履修可能ですが、卒業所要単位として算入されるのは18単位までです。

①総合科目

基礎科目で修得した基本的な知識をさらに展開させて､本来のリベラルアーツを充実させる意味で開講します。履修対象年次は２～４年次です。

授業内容は、「市ヶ谷基礎科目・総合科目講義概要（シラバス)」に掲載されています。また、授業に関する連絡事項は、市ヶ谷基礎科目・総合科目掲示板に掲示します。

配置された科目を分類すると次のとおりです。

a. 市ヶ谷基礎科目１群から３群の科目に関連がある特定のテーマを講義する科目、情報処理関連の科目、または各群に共通した学際的な科目

b. 英語ではNative Speakerの指導のもとに、高度の運用能力を育成したり、生の英語の資料を基にした輪読と討論を行うグレードの高い科目。

c. 諸外国語では、読解や運用能力を中級から上級に高めたり、資格取得を目指す科目

d. 第三外国語として、諸外国語を初級から修得する科目

e. 留学生を対象とした日本事情、日本人学生も参加できる日本語特別講座のような日本語関連の科目

【総合科目 履修上の注意】

◇科目によっては（所属学部や履修している諸外国語等により）履修制限があり、また、年度により開講科目の変更もあります。「市ヶ谷基礎科目・総合科目講義概要（シラバス)」を参照し、初回授業時に担当教員の指示に従ってください。

◇総合科目の試験時間割や休講等の諸連絡は市ヶ谷基礎科目・総合科目掲示板を参照してください。

※定員のある科目は、春学期第一回目の授業に出席し受講許可を得ること。
（秋学期のみ履修する場合も春学期第一回目の授業で受講許可を得ること）

※連続：年度が変わった場合の同名科目（同一教員含む）の連続履修の可否

※重複：同年度の同名科目（同一教員含む）の複数履修の可否

※担当者および講義内容は「市ヶ谷基礎科目・総合科目講義概要（シラバス)」を参照すること。

総合科目一覧

系列	科目名	注	単位	定員	履修年次	連続	重複	摘　　要
人文科学系	漢字･漢文学		4	30	2～4	×	×	2016年度休講
	文章論－文章表現の実践		4	30	2～4	×	×	
	文芸創作講座		4	20	2～4	×	×	
	日本芸能史論		4	40	2～4	×	×	
	身体表現論(バレエの世界)		4	30	2～4	×	×	
	美術論		4	30	2～4	×	×	
	芸術と人間		4	50	2～4	×	×	
	仏教思想論		4	－	2～4	×	×	2016年度休講
	行為の理論		4	－	2～4	×	×	2016年度休講
	人間存在論		4	30	2～4	×	×	
	中国の民族と文化		4	30	2～4	×	×	
	ギリシヤの文化と社会		4	30	2～4	×	×	
	古代日本･中国の法と社会		4	30	2～4	×	×	
	アジア･太平洋国際関係史		4	30	2～4	×	×	
	在日朝鮮人の歴史		4	30	2～4	×	×	

系列	科目名	注	単位	定員	履修年次	連続	重複	摘　　要
人文科学系	比較民俗学		4	30	2～4	×	×	
	言語学演習		4	30	2～4	×	×	2016 年度休講
	キリスト教思想論		4	30	2～4	×	×	
	アラブの言語と文化		4	30	2～4	×	×	
	異文化コミュニケーション論		4	30	2～4	×	×	
	アフロアジア入門		4	30	2～4	×	×	
社会科学系	法哲学		4	25	2～4	×	×	
	現代政治学の基礎		4	30	2～4	×	×	2016 年度休講
	福祉社会論		4	30	2～4	×	×	2016 年度休講
	人文地理学セミナー		4	30	2～4	×	×	
	文化人類学方法論		4	30	2～4	×	×	
	人間行動学		4	30	2～4	×	×	2016 年度休講
	人間発達学		4	30	2～4	×	×	2016 年度休講
	総合講座−沖縄を考える−		4	―	2～4	×	×	
	グローバル社会の地域研究		4	定員制	2～4	×	×	
	グローバル経済論		4	30	2～4	×	×	新規開講
	政治思想		4	30	2～4	×	×	新規開講
自然科学系	自然環境のしくみとその変貌		4	40	2～4	×	×	
	論理って何だ？		4	30	2～4	×	×	
	コンピュータの裏側		4	30	2～4	×	×	
	確率・統計		4	40	2～4	×	×	
	集合論		4	30	2～4	×	×	2016 年度休講
	相対性理論と宇宙		4	―	2～4	×	×	
	現代の錬金術		4	―	2～4	×	×	
	原子核と素粒子ーミクロの世界ー		4	―	2～4	×	×	
	自然史		4	20	2～4	×	×	
	生命情報科学		4	40	2～4	×	×	
	生物哲学		4	40	2～4	×	×	2016 年度休講
	バイオイメージングの世界		4	30	2～4	×	×	
	イオンの科学		4	30	2～4	×	×	
	光と色の科学		4	30	2～4	×	×	
	物質科学		4	30	2～4	×	×	
	IT リテラシー		4	35	2～4	×	×	
	現代科学の新しい目		4	30	2～4	×	×	
	エネルギーを考える		4	60	2～4	×	×	
	人間と地球環境		4	30	2～4	×	×	2016 年度休講
	人間と地球環境		2	30	2～4	×	×	
	Human impact on the global environment	注 1	2	30	2～4	×	×	新規開講
英語＝言語教育系	Business English Ⅰ/Ⅱ		各2	20	2～4	○	○	
	English for Certifying Exams: High Intermediate Ⅰ/Ⅱ		各 2	20	2～4	○	○	
	English for Certifying Exams: Advanced Ⅰ/Ⅱ		各 2	20	2～4	○	×	
英語＝言語文化・地域文化系	Cultures of the English-Speakingworld Ⅰ/Ⅱ		各 2	30	2～4	○	○	
	Comparative Cultural Studies Ⅰ/Ⅱ		各 2	30	2～4	○	○	
	Aspects of Modern Society Ⅰ/Ⅱ		各 2	30	2～4	○	○	

共　通

系列	科目名	注	単位	定員	履修年次	連続	重複	
諸外国語＝言語教育系	ドイツ語初級Ⅰ／Ⅱ		各2	40	2～4	○	×	4群ﾄﾞｲﾂ語履修者は履修不可
	ドイツ語コミュニケーションⅢ／Ⅳ		各2	20	3～4	○	×	
	ドイツ語講読Ⅰ／Ⅱ		各2	30	3～4	○	×	
	留学ドイツ語Ⅰ／Ⅱ		各2	30	2～4	×	×	
	フランス語初級Ⅰ／Ⅱ		各2	40	2～4	×	×	4群ﾌﾗﾝｽ語履修者は履修不可
	フランス語中級Ⅰ／Ⅱ		各2	40	3～4	×	×	
	フランス語コミュニケーションⅢ／Ⅳ		各2	20	3～4	○	×	
	フランス語表現法Ⅰ／Ⅱ		各2	30	3～4	○	×	
	フランス語講読Ⅰ／Ⅱ		各2	30	3～4	×	×	
	ロシア語初級Ⅰ／Ⅱ		各2	30	2～4	×	×	4群ﾛｼｱ語履修者は履修不可
	ロシア語中級Ⅰ／Ⅱ		各2	30	2～4	○	×	
	ロシア語コミュニケーションⅠ／Ⅱ		各2	20	3～4	○	×	
	ロシア語講読Ⅰ／Ⅱ		各2	30	3～4	○	×	
	時事ロシア語Ⅰ／Ⅱ		各2	30	3～4	○	×	
	中国語初級Ⅰ／Ⅱ		各2	40	2～4	×	×	4 群中国語履修者は履修不可
	中国語中級Ⅰ／Ⅱ		各2	40	2～4	×	×	4 群中国語履修者は履修不可。2016 年度休講
	中国語コミュニケーションⅢ／Ⅳ	注2	各2	30	3～4	○	×	
	中国語表現法Ⅲ／Ⅳ		各2	30	3～4	○	×	
	中国語講読Ⅰ／Ⅱ		各2	30	3～4	×	×	
	時事中国語Ⅰ／Ⅱ		各2	30	3～4	○	×	
	検定中国語Ⅲ／Ⅳ		各2	30	3～4	×	×	
	スペイン語初級Ⅰ／Ⅱ		各2	40	2～4	×	×	4群ｽﾍﾟｲﾝ語履修者は履修不可
	スペイン語中級Ⅰ／Ⅱ		各2	40	2～4	×	×	
	スペイン語上級Ⅰ／Ⅱ		各2	40	3～4	○	×	
	スペイン語コミュニケーションⅢ／Ⅳ		各2	30	3～4	×	×	
	朝鮮語初級Ⅰ／Ⅱ		各2	30	2～4	×	×	4 群朝鮮語履修者は履修不可
	朝鮮語中級Ⅰ／Ⅱ		各2	30	2～4	×	×	4 群朝鮮語履修者は履修不可
諸外国語＝言語文化・地域文化系	ドイツの思想Ⅰ／Ⅱ		各2	30	3～4	○	×	
	ドイツの文学Ⅰ／Ⅱ		各2	30	3～4	○	×	
	ドイツの芸術Ⅰ／Ⅱ		各2	30	3～4	○	×	
	比較文化Ⅰ／Ⅱ		各2	30	3～4	○	×	
	ドイツの文化と社会Ⅰ／Ⅱ		各2	30	2～4	○	×	
	フランスの文化と社会Ⅰ／Ⅱ		各2	30	3～4	×	×	
	ロシアの文化と社会Ⅰ／Ⅱ		各2	―	2～4	○	×	
	中国の文化と社会Ⅰ／Ⅱ	注3	各2	60	2～4	○	×	
	朝鮮の文化と社会Ⅰ／Ⅱ		各2	30	2～4	×	×	
	日本の文化と社会Ⅰ／Ⅱ		各2	30	2～4	×	×	
健康・スポーツ科学系	スポーツ科学Ⅰ／Ⅱ		各2	20～30	2～4	○	×	同じ種目の連続履修は不可

※1　2015年度に「Human Impact on the global environment」（秋学期開講/2単位）を修得済の者は履修できません。
※2　国際文化学部生は「中国語コミュニケーションⅢ」を履修できません。
※3　国際文化学部生は「中国の文化と社会Ⅰ／Ⅱ」を履修できません。
※4　2018年度以降は英語科目の変更、および開設科目数の大幅削減が行われる予定です。

②他学部公開科目

他学部の設置科目を履修することができる制度で、修得した単位は自由科目として卒業所要単位に含まれます。
詳細は別途配布する時間割表を参照してください。

【他学部公開科目　履修上の注意】

a. 履修対象年次は３～４年次です。
b. 時間割・講義概要は科目主催学部の時間割および講義概要を参照してください。
c. 試験時間割や休講等の諸連絡は科目主催学部の掲示板を参照してください。

なお、国際文化学部生は以下の科目も履修可能です。内容の詳細はキャリアデザイン学部のシラバスで確認してください。

学部・学科	科目名称	担当者氏名	授業期間	単位	履修上の注意
キャリアデザイン（教職科目）	中国語教育法Ⅰ	中桐　典子	春学期集中	4	※
	中国語教育法Ⅱ	渡辺　昭太	秋学期集中	4	

※　「中国語科教育法Ⅰ／Ⅱ」は本来は中国語の教職免許状取得希望者向けの授業ですが、単位を修得した場合、自由科目として卒業単位に参入されます。履修対象は２～４年次です。

③交換留学生受け入れプログラム（ＥＳＯＰ）

本来は交換留学生向けの授業ですが、自由科目として履修することができます。
授業はすべて英語で行われます。　詳細は別途配布する時間割表を参照してください。

【ＥＳＯＰ科目　履修上の注意】

◇履修対象は１～４年次です。
◇旧科目を修得済の学生は新科目を履修することができません。
◇講義概要および時間割は国際交流課のパンフレットを参照してください。科目によっては、２時限連続授業や通常授業とは異なる時間帯での開講もありますので、注意してください。
◇休講等の諸連絡は国際交流課の掲示板を参照してください。
◇登録は国際交流課での事前登録と学部での履修登録の両方の手続きが必要です。学部での履修登録がない場合には、単位を修得することはできません。
◇開講科目は追加・変更する場合がありますので、国際交流課掲示板で確認してください。

④ＥＲＰ（English Reinforcement Program／英語強化プログラム）

文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」採択事業の一環として、TOEFL iBT®８０点以上取得を目標とした英語強化プログラム（English Reinforcement Program：以下「ERP」）が開講されています。授業はすべて英語イマージョン環境による少人数クラスで行われ、英語力を高めたいと考えている学生、海外留学や国際機関・国際企業への就職を考えている学生に受講を勧めます。国際文化学部では、以下のGIS Pre-sessionalの科目のみ自由科目として単位認定を行います。

ERPについての詳細はGラウンジまたはグローバルラーニング課のウェブサイトhttp://www.global.hosei.ac.jpにて確認してください。

【ＥＲＰ科目 履修上の注意】

◇履修対象は１～４年次です。
◇募集案内，時間割はGラウンジで配付およびHPに掲載していますので確認してください。
◇講義概要はHPを参照してください。
◇専用ウェブサイトでの受講申込みと学部への申し出の両方の手続きが必要です。
◇休講等の諸連絡はGラウンジで確認してください。

科目名称	担当者氏名	授業期間	単位	履修上の注意
ERP GIS Pre-sessional: Japanese Architecture	Heide Imai	春学期	2	※
ERP GIS Pre-sessional: Developing Writing Skills through Travel Diaries	Heide Imai	春学期	2	
ERP GIS Pre-sessional: Basics of Political Science	Jonson Porteux	春学期	2	
ERP GIS Pre-sessional: Basics of Comparative Politics	Jonson Porteux	春学期	2	
ERP GIS Pre-sessional: Advanced Academic English	尾嶋　万紀	春学期	2	
ERP GIS Pre-sessional: The City in Film	Heide Imai	秋学期	2	
ERP GIS Pre-sessional: Urban Environments	Heide Imai	秋学期	2	
ERP GIS Pre-sessional: Basics of Japanese Politics	Jonson Porteux	秋学期	2	
ERP GIS Pre-sessional: Advanced Academic English	尾嶋　万紀	秋学期	2	

※　受講資格として、TOEFL(r)またはTOEIC(r)のスコアが設定されています。詳細はHP掲載のシラバスで確認してください。なお，国際文化学部では、設定されているスコアの上限を超えていても、担当教員の許可をとれば受講可能です。

⑤短期語学研修、国際ボランティア、国際インターンシップ

グローバル教育センターが主催している上記3つのプログラムに参加することにより単位が認定される場合があります。(プログラムの詳細はグローバル教育センターホームページにて確認してください。)

【注意事項】

◇「短期語学研修」の単位認定の時期は,「短期語学研修」に参加した次学期（夏季参加の場合には当該年度秋学期、春季参加の場合には翌年度春学期）です。4 年生の最終学期については，単位認定ができません。
◇国際ボランティア、インターンシップについては、すべてのプログラムが単位認定の対象になるとは限りませんので注意してください。
◇単位認定を希望する場合、プログラム参加した次学期（夏季参加の場合には当該年度秋学期、春季参加の場合には翌年度春学期）の所定期間内に、所属学部の担当窓口（事務課）にて履修登録の申請手続きを行ってください。Web での履修登録ではなく、各担当窓口（事務課）での申請が必要になります。

プログラム名	認定単位数	単位認定上の注意
短期語学研修	2	各言語につき 2 単位のみ認定可
国際ボランティア	1	1 単位（1 回限り）のみ認定可
国際インターンシップ	1	1 単位（1 回限り）のみ認定可

⑥グローバル・オープン科目

法政大学が「世界のどこでも生き抜く力を身につけたグローバル社会のリーダー」を育成するために 2016 年度から全学で開講される学部横断型の科目群です。

本プログラムは、昨年採択された文部科学省の「スーパーグローバル創成支援事業」の一環であり、その事業の教育目的である「持続可能な地球社会の構築に貢献できるグローバル人材を育成する」を具現化する教育プログラムの一つです。このプログラムでは、すべての科目は英語を教授言語としています。各学部で定められた科目履修要領に基づき、このグローバル・オープン科目を履修することにより、学部の専門性を超えたグローバルな視点での課題解決能力を修得することを目指します。多くの科目が少人数で開講されるのが特長です。

【グローバル・オープン科目履修上の注意】

◇履修対象は１～４年次です。
◇グローバル・オープン科目の試験時間割や休講等の諸連絡は開講学部の掲示板を参照してください。
◇初回授業に必ず参加し、担当教員から履修許可を受けてください。定員のある授業では、選抜が行われる場合があります。(秋学期のみ履修する場合も春学期第一回目の授業で受講許可を得ること)
◇講義概要は他学部公開科目シラバスを参照してください。

国際文化学部「必修科目」と「履修を推奨する科目」

国際文化学部を卒業するために必要な単位は前述のとおりですが、本学部では所属コースに関わらず、「必修科目」の他に、国際文化学部生として「履修を推奨する科目」を掲げています。

各セメスターで履修する「必修科目」と「履修を推奨する科目」を以下に示します。「必修科目」はすべて受講クラスが指定されます。「履修を推奨する科目」は指定・抽選・選抜等の科目があります。詳しくは次ページ以降の科目説明および掲示、配布物などを参照してください。

【１年次】

系列	春セメスター	秋セメスター
０群	情報リテラシーⅠ・Ⅱ（必修）	
４群	英語（または諸外国語）1・2・5（必修） 諸外国語（または英語）1・2（必修）	英語（または諸外国語）3・4・6（必修） 諸外国語（または英語）3・4（必修）
５群	スポーツ総合演習（春学期指定者・必修）	スポーツ総合演習（秋学期指定者・必修）
入門科目	国際文化情報学入門（必修） チュートリアル	
情報科目		情報システム概論、メディア情報基礎
ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目		（ＳＡ先言語）コミュニケーションⅠ

【２年次】

系列	春セメスター	秋セメスター
４群	英語（諸外国語）7・8（必修）	スタディ・アブロード（基礎）Ⅰ・Ⅱ（必修）
情報科目	ネットワーク基礎	
ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目	（ＳＡ先言語）コミュニケーションⅡ・Ⅲ	スタディ・アブロード（言語）Ⅰ・Ⅱ（長期ＳＡ者のみ）
専攻科目	「世界とつながる地域の歴史と文化」	スタディ・アブロード（専攻） Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは長期ＳＡ者のみ） スタディ・ジャパン

※派遣留学を考えている場合は、１年次・２年次で基幹科目の必修科目を修得できるように計画を立ててください。

【３年次】

系列	春セメスター	秋セメスター
ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目	（ＳＡ先言語）アプリケーション	（ＳＡ先言語）アプリケーション
専攻科目	演習	演習

【４年次】

系列	春セメスター	秋セメスター
ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目	（ＳＡ先言語）アプリケーション	（ＳＡ先言語）アプリケーション
専攻科目	演習	演習

※日本語科目はP. 76 を参照してください。

授業科目一覧表

国際文化学部生が履修することができる科目は、市ヶ谷基礎科目と専門教育科目に分けられます。以下、市ヶ谷基礎科目、専門教育科目の順に科目一覧および履修上の注意を記載します。

1．市ヶ谷基礎科目

市ヶ谷基礎科目の試験時間割や休講等の諸連絡は、「市ヶ谷基礎科目・総合科目掲示板」で確認してください。

（1）０群（導入）

- 基礎科目0群を開設する目的は、基礎科目1群から5群までの科目の履修を容易にするため、それらの導入部を指導し、基本的な知識を備えさせるためです。
- 「法政学への招待」、「法政学の探究A・B」は法政大学の歴史と現状を知ることで、本学で学ぶことの意義を考え、より深い理解を得るための科目です。
- 「キャリアデザイン入門」「キャリアデザイン演習」「就業基礎力養成」は、「大学生が『就業力』を身に付けるために、授業で何をどのように学ぶべきか」を目的に編成された科目です。卒業後に働くことを考えたとき何を大学時代に学んでおけばいいのか、深く考える仕組みを授業に取り入れています。

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講セメスター	開講数	単位数	シラバスページ	卒業所要単位
情報リテラシーⅠ	重定　如彦 中村　文隆 四手井　綱章 色川　進	1	春	7	2	361	４単位以上（情報リテラシーⅠ・Ⅱを修得していること）
情報リテラシーⅡ	重定　如彦 中村　文隆 四手井　綱章 色川　進	1	春	7	2	362	
キャリアデザイン入門	有田　五郎 石関　裕子 鈴木　美伸	1	春	6	2	362-363	
キャリアデザイン演習	有田　五郎 鈴木　美伸	1	秋	2	2	363	
就業基礎力養成Ⅰ	鈴木　美伸	2～4	春	2	2	363-364	
就業基礎力養成Ⅱ	鈴木　美伸	2～4	秋	1	2	363	
法政学への招待	髙柳　俊男	1～4	春	1	2	361	
法政学の探究Ａ	古俣　達郎	1～4	秋	1	2	361	
法政学の探究Ｂ	古俣　達郎	1～4	春	1	2	361	

【０群 履修上の注意】

◇ 「情報リテラシーⅠ／Ⅱ」は１年次での必修科目です。履修クラスは履修ガイダンス時に指示します。

◇ 受講定員のある科目：春学期第１回目の授業に出席し、担当教員の受講許可を得てください。選抜を行う場合、方法は教員が指示します。許可された学生のみ履修登録できます。

◇ 同名科目（ただし同名でもⅠとⅡでは異なる科目です）は在学中に１回しか履修できません。

（２） １群（人文分野）

1群の科目は、文化全般をその研究対象とし、さらに、文化を創り出す人間とは何か、という研究課題をもっています。そのため、研究対象と講義内容は、多岐にわたります。

基本となるのは、「文学」「歴史」「哲学」の3分野といえます。文学では、日本の古典・近現代文学を始め、中国古典文学や西欧文学の講義を開講しています。哲学や歴史についても同様に、日本・東洋・西洋それぞれの専門の教員による講義が設置されており、さらに論理学・倫理学・言語学・文章論・宗教学・芸術なども含むさまざまな分野の教員による講座を開講しています。

以上の科目は「人文科学」と呼ばれ、古来教養の根幹をなす学問分野です。これらの科目を受講することを通して、幅広い知見を身につけるとともに、過去を学ぶことによって現在を考察し、さらには未来を展望する能力をつけることが狙いとなります。

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講セメスター	開講数	単位数	シラバスページ	卒業所要単位
文学Ⅰ（日本文学史）	島田　雅彦	1～4	春	3	2	365	※1
文学Ⅰ（日韓比較文学 -日韓の交流と理解）	梁　禮先						
文学Ⅰ（日中比較文学）	呉　念聖						
文学Ⅱ（世界文学史）	島田　雅彦	1～4	秋	3	2	365	※2
文学Ⅱ（日韓比較文学 -日韓の交流と理解）	梁　禮先						
文学Ⅱ（日中比較文学）	呉　念聖						
文章論Ⅰ	浅沼　博 川鍋　義一	1～4	春	2	2	366	
文章論Ⅱ	浅沼　博 川鍋　義一	1～4	秋	2	2	366	
倫理学Ⅰ	森村　修	1～4	春	1	2	366	
倫理学Ⅱ	森村　修	1～4	秋	1	2	366-367	１群の中から ４単位以上
日本史Ⅰ	小口　雅史	1～4	春	1	2	367	
日本史Ⅱ	小口　雅史	1～4	秋	1	2	367	０群～３群で 計28単位以上
東洋史Ⅰ	齋藤　勝	1～4	春	1	2	367	
東洋史Ⅱ	齋藤　勝	1～4	秋	1	2	367	
西洋史Ⅰ	渡辺　知	1～4	春	1	2	367-368	
西洋史Ⅱ	渡辺　知	1～4	秋	1	2	368	
哲学Ⅰ	谷口　力	1～4	春	1	2	368	
哲学Ⅱ	谷口　力	1～4	秋	1	2	368	
論理学Ⅰ	鵜澤　和彦	1～4	春	1	2	368	
論理学Ⅱ	鵜澤　和彦	1～4	秋	1	2	369	
言語学Ⅰ	輿石　哲哉	1～4	春	1	2	369	
言語学Ⅱ	江村　裕文	1～4	秋	2	2	369	

【「文学Ⅰ」「文学Ⅱ」履修上の注意】

※1　「文学Ⅰ」は、3科目のいずれか1科目のみ履修可能です。複数履修することはできません。

（例）「文学Ⅰ（日本文学史）」を履修した場合、その他の「文学Ⅰ」の履修は不可

※2　「文学Ⅱ」は、3科目のいずれか1科目のみ履修可能です。複数履修することはできません。

（例）「文学Ⅱ（世界文学史）」を履修した場合、その他の「文学Ⅱ」の履修は不可

（3）2群（社会分野）

2群の開講科目は、「法学」・「法学（日本国憲法）」・「政治学」・「経済学」・「社会学」・「心理学」・「地理学」・「文化人類学」・「社会思想」の9科目です。これらの科目は、いずれも、社会科学の思想・方法・理論を、それぞれ独自の対象論的視角から説く学問分野です。それぞれが、専門的な「教養の諸科目」と言えます。人間の生きる諸条件（内的自然と外的諸環境）、つまり「私たちはどう生きるべきか」という問題を社会科学としてほぼ共通した方法意識と方法論で解明するものです。現代社会において、人間の知の広がりはどうあるべきか、という真の意味での教養的な面と、同時に、それをいかに深めていくべきかという専門的な問い方の初歩的な水準を確実に会得できるでしょう。

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講セメスター	開講数	単位数	シラバスページ	卒業所要単位
法学Ⅰ	前川　佳夫	1～4	春	1	2	370	
法学Ⅱ	前川　佳夫	1～4	秋	1	2	370	
法学（日本国憲法）	石川　澄雄	1～4	春・秋	春2(*) 秋2(*)	2	370-371	
経済学Ⅰ	飯塚　務	1～4	春	1	2	371	
経済学Ⅱ	飯塚　務	1～4	秋	1	2	371	
心理学Ⅰ	海部　紀行	1～4	春	1	2	371	2群の中から4単位以上
心理学Ⅱ	海部　紀行	1～4	秋	1	2	371-372	
地理学Ⅰ	前川　明彦	1～4	春	1	2	372	0群～3群で計28単位以上
地理学Ⅱ	前川　明彦	1～4	秋	1	2	372	
政治学Ⅰ	崔　先鎬	1～4	春	1	2	372	
政治学Ⅱ	崔　先鎬	1～4	秋	1	2	372	(*)法学（日本国憲法）は、1回(2単位)のみの修得とする。
社会学Ⅰ	徐　玄九	1～4	春	1	2	372-373	
社会学Ⅱ	徐　玄九	1～4	秋	1	2	373	
文化人類学Ⅰ	中島　成久	1～4	春	1	2	373	
文化人類学Ⅱ	中島　成久	1～4	秋	1	2	373	
社会思想Ⅰ	中村　勝己	1～4	春	1	2	373	
社会思想Ⅱ	中村　勝己	1～4	秋	1	2	374	

（４） ３群（自然科学）

3群には、数学リテラシーと科学リテラシーを学ぶために、つぎの内容の5科目が開講されています。

「サイエンス・ラボ」：生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。「サイエンス・ラボ A」は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、「サイエンス・ラボ B」は科学史から題材をもとめ、それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。

「教養数学」：具体的な問題を解くことで「わかった！」を感じながら、数学の美しさを体験してもらいます。

「基礎数学」：様々な分野、特に社会科学などへの応用ができることを目標として、数学の基本的な手法に親しんでもらいます。

「原子から宇宙まで」：自然現象の背後にある物理法則を微視的立場で理解します。

「生命科学」：宇宙から人間まで広い範囲の生命現象について、映像等を通じて紹介します。

「物質と環境」：元素から出発して、化合物の生成のメカニズム、および物質変化の法則性を考え、さらに環境問題を自然科学の面から論じます。

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講セメスター	開講数	単位数	シラバスページ	卒業所要単位
教養数学Ａ	平田　康史 村上　雅彦 倉田　俊彦 小木曽　岳義 池田　宏一郎 印牧　尚次	1～4	春	13	2	375-380	３群の中から４単位以上 ０群～３群で計28単位以上
教養数学Ｂ	平田　康史 村上　雅彦 倉田　俊彦 小木曽　岳義 池田　宏一郎 印牧　尚次	1～4	秋	13	2	375-380	
基礎数学Ⅰ	若井　健太郎 小木曽　岳義 池田　宏一郎 安東　祐希 倉田　俊彦	2～4	春	6	2	380-382	
基礎数学Ⅱ	若井　健太郎 小木曽　岳義 池田　宏一郎 安東　祐希 倉田　俊彦	2～4	秋	6	2	381-382	
原子から宇宙までⅠ	福川　賢治	1～4	春	1	2	382-383	
原子から宇宙までⅡ	福川　賢治	1～4	秋	1	2	383	
生命科学Ⅰ	本川　達雄	1～4	春	1	2	383	
生命科学Ⅱ	本川　達雄	1～4	秋	1	2	383	
物質と環境Ⅰ	向井　知大	1～4	春	1	2	383	
物質と環境Ⅱ	向井　知大	1～4	秋	1	2	383	

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	開講数	単位数	ｼﾗﾊﾞｽﾍﾟｰｼﾞ	卒業所要単位
サイエンス・ラボＡ	長谷川　真紀子 毛塚　博史 石塚　芽具美 島野　智之 吉田　智 加藤　中英	1～4	春	6	2	383-384	３群の中から４単位以上 ０群～３群で計28単位以上
サイエンス・ラボＢ	長谷川　真紀子 毛塚　博史 石塚　芽具美 島野　智之 吉田　智 加藤　中英	1～4	秋	6	2	384	

【１・２・３群 履修上の注意】

◇同名科目（ただし同名でもⅠとⅡでは異なる科目です）は在学中に１回しか履修できません。

◇**Ⅰ・Ⅱ、Ａ・Ｂ**はグレードをあらわすものではありません。どちらから先に履修してもかまいません。しかし、連続履修したほうが望ましいとされるものもありますので、シラバスをよく読み、教員のアドバイスに従い履修してください。

◇「サイエンス・ラボＡ」と「サイエンス・ラボＢ」は実験授業のため定員制です。そのため、履修登録前に仮登録が必要です。仮登録の詳細については、基礎科目・総合科目掲示板等を参照してください。

◇2015年度までに、「自然総合講座Ａ」または「自然総合講座Ｂ」（あるいは両方）を履修して単位を修得したものは「サイエンス・ラボＡ」と「サイエンス・ラボＢ」のどちらも履修できません。

◇2015年度までに、「数学、情報を読むためにⅠ」を履修して単位を修得したものは「教養数学Ａ」を、また「数学、情報を読むためにⅡ」を履修して単位を修得したものは「教養数学Ｂ」を履修できません。なお、単位を修得していない場合は履修が可能です。

（５）４群（外国語）

①クラス指定外国語科目（一般学生）

外国語はクラス授業です。国際文化学部では、「英語」と「入学時に選択した諸外国語」の２言語を学びます。ＳＡ先は自分が学んでいる言語の国から選択することになります。

英語１～４の４単位と諸外国語１～４の４単位は、全員が必修です。ＳＡ留学者用クラスを分けて設定していますので、時間割で確認してください。

また、ＳＡ先により、英語５・６・７・８、または諸外国語５・６・７・８のどちらか４単位を履修することになります。ＳＡ先を選ぶことで、英語、諸外国語の履修すべき単位数が異なります。

３年次修了までに４群の卒業所要単位を修得しておかなければ、４年次に進級することができません。下表を参照し誤りのないよう履修してください。

【４群（外国語）履修パターン表　－Ａ・Ｂ－】

Aパターン　ＳＡ英語圏（長・短期ＳＡ）の場合			
学年	ｾﾒｽﾀｰ	英　語	諸外国語
1	春	３単位（英語1・2・5）	２単位（諸語1・2）
1	秋	３単位（英語3・4・6）	２単位（諸語3・4）
2	春	２単位（英語7・8）	
2	秋	ＳＡ(基礎)２単位(２科目)	
計		10単位	4単位
合計		14単位	

Bパターン　ＳＡ諸外国の場合			
学年	ｾﾒｽﾀｰ	英　語	諸外国語
1	春	２単位（英語1・2）	３単位（諸語1・2・5）
1	秋	２単位（英語3・4）	３単位（諸語3・4・6）
2	春		２単位（諸語7・8）
2	秋		ＳＡ(基礎)２単位(２科目)
計		４単位	10単位
合計		14単位	

－国際文化学部の言語関係の履修については以下の通りです－

ＳＡ英語圏の場合１～２年次配当表

	学年	１年次		２年次	
	ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ
基礎科目（1単位）	全員履修科目	英　語１	英　語３		
		英　語２	英　語４		
	選択した諸言語で全員が履修する科目	諸言語１	諸言語３		
		諸言語２	諸言語４		
	ＳＡで英語圏にいく者が履修する科目	英　語５	英　語６	英　語７	
				英　語８	
					ＳＡ(基礎)Ⅰ
					ＳＡ(基礎)Ⅱ
専門科目（2単位）	ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目（英語、情報）		ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	
				ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
					ＳＡ(言語)Ⅰ
					ＳＡ(言語)Ⅱ
	専攻科目				ＳＡ(専攻)Ⅰ
					ＳＡ(専攻)Ⅱ
					ＳＡ(専攻)Ⅲ
					ＳＡ(専攻)Ⅳ
					ＳＡ(専攻)Ⅴ
単位数		5	7	6	16

ＳＡ諸外国の場合１～２年次配当表

	学年	１年次		２年次	
	ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ
基礎科目（1単位）	全員履修科目	英　語１	英　語３		
		英　語２	英　語４		
	選択した諸言語で全員が履修する科目	諸言語１	諸言語３		
		諸言語２	諸言語４		
	ＳＡで諸外国にいく者が履修する科目	諸言語５	諸言語６	諸言語７	
				諸言語８	
					ＳＡ(基礎)Ⅰ
					ＳＡ(基礎)Ⅱ
専門科目（2単位）	ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目（諸外国語）		ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	
				ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
					ＳＡ(言語)Ⅰ
					ＳＡ(言語)Ⅱ
	専攻科目				ＳＡ(専攻)Ⅰ
					ＳＡ(専攻)Ⅱ
					ＳＡ(専攻)Ⅲ
					ＳＡ(専攻)Ⅳ
					ＳＡ(専攻)Ⅴ
単位数		5	7	6	16

・長期ＳＡ選択者は、２年次秋セメスターはすべてＳＡ先で履修します。帰国後、ＳＡ（基礎）Ⅰ・Ⅱ、ＳＡ（言語）Ⅰ・Ⅱ、ＳＡ（専攻）Ⅰ～Ⅴとして認定します（秋セメスター科目として認定）。

・夏期ＳＡ選択者は、２年次夏季休業中にＳＡに参加し、帰国後、ＳＡ（基礎）Ⅰ・Ⅱ、ＳＡ（専攻）Ⅰとして認定します（秋セメスター科目として認定）。

４群外国語科目一覧

授業科目名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	履修単位	ｼﾗﾊﾞｽﾍﾟｰｼﾞ	卒業所要単位
英語１（読解Ⅰ　精読）	1	春	1	386	AパターンかBパターンのいずれかで14単位必修
英語２（聴解・表現Ⅰ）	1	春	1	386	
英語３（読解Ⅱ　速読・多読）	1	秋	1	386	
英語４（聴解・表現Ⅱ）	1	秋	1	386	
英語５	1	春	1	386	
英語６	1	秋	1	387	
英語７	2	春	1	387	
英語８	2	春	1	387	
ドイツ語１	1	春	1	388	
ドイツ語２	1	春	1	388	
ドイツ語３	1	秋	1	388	
ドイツ語４	1	秋	1	389	
ドイツ語５	1	春	1	389	
ドイツ語６	1	秋	1	389	
ドイツ語７	2	春	1	389	
ドイツ語８	2	春	1	389	
フランス語１	1	春	1	390	
フランス語２	1	春	1	390	
フランス語３	1	秋	1	391	
フランス語４	1	秋	1	391	
フランス語５	1	春	1	392	
フランス語６	1	秋	1	392	
フランス語７	2	春	1	392	
フランス語８	2	春	1	392	
ロシア語１	1	春	1	393	
ロシア語２	1	春	1	393	
ロシア語３	1	秋	1	393	
ロシア語４	1	秋	1	394	
ロシア語５	1	春	1	394	
ロシア語６	1	秋	1	394	
ロシア語７	2	春	1	394	
ロシア語８	2	春	1	394	
中国語１	1	春	1	395	
中国語２	1	春	1	395	
中国語３	1	秋	1	395	
中国語４	1	秋	1	396	
中国語５	1	春	1	396	
中国語６	1	秋	1	396	
中国語７	2	春	1	396	
中国語８	2	春	1	396	
スペイン語１	1	春	1	397	
スペイン語２	1	春	1	397	
スペイン語３	1	秋	1	397-398	
スペイン語４	1	秋	1	398	
スペイン語５	1	春	1	398	
スペイン語６	1	秋	1	398	
スペイン語７	2	春	1	399	
スペイン語８	2	春	1	399	
朝鮮語１	1	春	1	400	
朝鮮語２	1	春	1	400	
朝鮮語３	1	秋	1	400	
朝鮮語４	1	秋	1	401	
朝鮮語５	1	春	1	401	
朝鮮語６	1	秋	1	401	
朝鮮語７	2	春	1	401	
朝鮮語８	2	春	1	401	
スタディ・アブロード（基礎）Ⅰ	2	秋	1	―	スタディ・アブロードプログラム認定科目
スタディ・アブロード（基礎）Ⅱ	2	秋	1	―	

【４群科目 履修上の注意】

◇入学時に選択した諸外国語は、途中で他の外国語に変更することはできません。
◇３年次修了までに４群の卒業所要単位を修得しておかなければ４年次に進級することができません。
◇なお、英語については能力の達成度をはかるため、１、２年生全員を対象に TOEIC®-IP を実施します。

②クラス指定外国語科目（外国人留学生入試により入学した留学生）

留学生の場合は「日本語」と、「英語（非英語圏）」あるいは「諸外国語(英語圏)」の２言語を学びます。

【４群（外国語）履修パターン表 －C・D－】

学年	ｾﾒｽﾀｰ	Cパターン 留学生（非英語圏）の場合		Dパターン 留学生（英語圏）の場合	
		日本語	英語		
1	春	2単位（日本語1-Ⅰ・2-Ⅰ）	2単位（英語1・2）	2単位（日本語1-Ⅰ・2-Ⅰ）	2単位（諸外国語1・2）
1	秋	2単位（日本語1-Ⅱ・2-Ⅱ）	2単位（英語3・4）	2単位（日本語1-Ⅱ・2-Ⅱ）	2単位（諸外国語3・4）
2	春	2単位（日本語3-Ⅰ・4-Ⅰ）	1単位（英語5：4群選択科目）	2単位（日本語3-Ⅰ・4-Ⅰ）	1単位（諸外国語5：4群選択科目）
2	秋	2単位（日本語3-Ⅱ・4-Ⅱ）	1単位（英語6：4群選択科目）	2単位（日本語3-Ⅱ・4-Ⅱ）	1単位（諸外国語6：4群選択科目）
計		8単位	6単位	8単位	6単位
合計		14単位		14単位	

－国際文化学部（留学生）の言語関係の履修については以下の通りです－

留学生（非英語圏）の１～2年次配当表

学年	1年次		2年次	
ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ
基礎科目	日本語1-Ⅰ	日本語1-Ⅱ	日本語3-Ⅰ	日本語3-Ⅱ
	日本語2-Ⅰ	日本語2-Ⅱ	日本語4-Ⅰ	日本語4-Ⅱ
	英語1	英語3	英語5 ※	英語6 ※
	英語2	英語4		
単位数	4	4	3	3

留学生（英語圏）の1～2年次配当表

学年	1年次		2年次	
ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ	春ｾﾒｽﾀｰ	秋ｾﾒｽﾀｰ
基礎科目	日本語1-Ⅰ	日本語1-Ⅱ	日本語3-Ⅰ	日本語3-Ⅱ
	日本語2-Ⅰ	日本語2-Ⅱ	日本語4-Ⅰ	日本語4-Ⅱ
	諸外国語1	諸外国語3	諸外国語5 ※	諸外国語6 ※
	諸外国語2	諸外国語4		
単位数	4	4	3	3

※ 一般学生が履修する「英語５」・「英語６」、「諸外国語５」・「諸外国語６」は履修しませんので注意してください。

4群日本語科目一覧（留学生のみ）

授業科目名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	履修単位	卒業所要単位
日本語1-Ⅰ	1	春	1	Cパターン（日本語と英語）か Dパターン（日本語と諸外国語）の いずれかで14単位必修
日本語2-Ⅰ	1	春	1	
日本語1-Ⅱ	1	秋	1	
日本語2-Ⅱ	1	秋	1	
日本語3-Ⅰ	2	春	1	
日本語4-Ⅰ	2	春	1	
日本語3-Ⅱ	2	秋	1	
日本語4-Ⅱ	2	秋	1	

【４群科目 履修上の注意】

・１年次の英語１～４は、国際文化学部で開講されている英語１～４を履修します。
・２年次の英語５・英語６、または諸外国語５・６として、**市ヶ谷基礎科目の４群選択科目**を履修します。履修すべき選択科目の種別やレベルは限定しません。
・留学生は２年夏季休業中にＳＪに参加し、秋セメスターの専門科目として認定します。ＳＡには参加しません。

③クラス指定授業以外で外国語必修単位を修得する場合（４群選択科目の代替）について

クラス指定外国語必修科目の諸外国語１～８は、４群選択科目によって代替できます(定員・選抜あり)。

英語１～８については４群選択科目での代替はできません。ただし、再履修の場合のみ、４群選択科目による代替が可能です（定員・選抜あり)。

※2018年度より、英語の4群選択科目は内容の変更、および開講科目数の大幅削減が行われる予定となっています。これに伴い、2018年度以降、英語1-8の4群選択科目による再履修は不可となる予定です。

なお、４群選択科目は、代替を希望しない場合も履修が可能です。修得した単位は卒業所要単位に計上されます。

【４群選択科目 履修上の注意】

＜英語/諸外国語共通＞

◇ まず春学期の第１回目の授業時に担当教員から受講許可を得てください。選抜を行う場合もあります。受講が許可された場合のみ履修登録が可能です。

◇ 『クラス授業以外で履修できる４群選択科目』は春学期、秋学期を合わせて通年で履修することが原則です。Ⅱ（秋学期）のみを履修する授業であっても、そのⅡに対応するⅠの科目の春学期の第１回目の授業（４月）に出席し、受講許可を得て、９月に履修登録を行ってください。春学期のみ、秋学期のみを履修する場合は、必ず春学期の第１回目の授業で教員にその旨を申し出て受講の許可を得てください。

＜英語に関する注意事項＞

１．英語１～８は、本誌市ヶ谷基礎科目４群外国語「英語」のページのとおり、英語の四技能を総合的・段階的に培うカリキュラムです。カリキュラム全体として、国際文化学部生、ＳＡ英語圏留学を控えた学生にふさわしい英語力をつけることを目標としています。

２．**英語１～８は代替することはできません。**必ずクラス授業を履修してください。

３．【2011年度以降入学生のみ】英語５～８の再履修を４群選択科目によって代替する場合は、以下の科目（指定レベル）に限ります。

英語７ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 英語リーディング・ワークショップ（レベル3-4)
マスメディアの英語（レベル4)
英語５・６・８ ‥‥‥‥‥‥‥‥ 英語アカデミック・ライティング（レベル４）
英語オーラル・コミュニケーション（レベル４）
英語ビジネス・コミュニケーション（レベル４）

＜諸外国語に関する注意事項＞

１．ＳＡ用の諸外国語１～８を４群選択科目で代替する場合には、担当教員の受講許可に加え、各ＳＡ担当教員の許可も必要です。受講許可を得たうえで、定められた期日までに学部窓口で登録手続きの指示を受けてください。

２．４群選択科目を受講する場合は、担当教員の受講許可を得たうえで、定められた期日までに必ず学部窓口で登録手続きの指示を受けてください。

2011年度～2014年度入学生用

市ヶ谷基礎科目・４群選択科目一覧

４群選択科目名		単位	定員	履修年次	連続	重複	摘　要	
							通常履修	再履修
英語	入門英語Ⅰ／Ⅱ（SSI 生のみ）	各 1	各 48	1～4	○	○	英語 1～8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1～8 に充当可	英語 1～4 に代替可
	基礎から固める英語Ⅰ／Ⅱ	各 1	各 36	1～4	○	○	英語 1～8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1～8 に充当可	英語 1～4 に代替可
	英語オーラル・コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各 1	各 24	1～4	○	○	英語 1～8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1～8 に充当可	英語 1～4 に代替可 ﾚﾍﾞﾙ 4 のみ英語 5･6･8 に代替可
	英語ビジネス・コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各 1	各 24	1～4	○	○	英語 1～8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1～8 に充当可	英語 1～4 に代替可 ﾚﾍﾞﾙ 4 のみ英語 5･6･8 に代替可
	英文ライティングⅠ／Ⅱ	各 1	各 24	1～4	○	○	英語 1～8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1～8 に充当可	英語 1～4 に代替可
	英語アカデミック・ライティングⅠ／Ⅱ	各 1	各 20	1～4	○	○	英語 1～8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1～8 に充当可	英語 1～4 に代替可 ﾚﾍﾞﾙ 4 のみ英語 5･6･8 に代替可
	マスメディアの英語Ⅰ／Ⅱ	各 1	各 36	1～4	○	○	英語 1～8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1～8 に充当可	英語 1～4 に代替可 ﾚﾍﾞﾙ 4 のみ英語 7 に代替可
	映画で学ぶ英語Ⅰ／Ⅱ	各 1	各 36	1～4	○	○	英語 1～8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1～8 に充当可	英語 1～4 に代替可
	英語リーディング・ワークショップⅠ／Ⅱ	各 1	各 36	1～4	○	○	英語 1～8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1～8 に充当可	英語 1～4 に代替可 ﾚﾍﾞﾙ 3-4 のみ英語 7 に代替可
	英語検定試験対策Ⅰ／Ⅱ	各 1	各 36	1～4	○	○	英語 1～8 に代替不可 SSI 生のみ英語 1～8 に充当可	英語 1～4 に代替可

※担当者および講義内容・レベルは Web シラバスおよび時間割表を参照してください。

※充当：科目を限定せずに必修として必要な単位数を充足すること。（各種証明書・通知書はそのままの科目名で記載）

※代替：特定の科目の代わりとして履修すること（例）「朝鮮語視聴覚Ⅰ」を「朝鮮語１」に代替したい場合：「朝鮮語視聴覚Ⅰ」を履修 → 「朝鮮語１」の代替用授業コードで登録（各種証明書・通知書は「朝鮮語１」と必修科目の科目名で表記）

※連続：前年度までに履修して単位を取得した科目を今年度もう一度受講すること。「×」となっている科目は必修科目の代替で特定の科目として履修した場合であっても、代替しない場合の４群選択科目名が同じである場合は履修不可です。

※重複：同じ年度内に同じ名前の科目を複数履修すること。英語科目については、「○」となっている科目であっても、同一教員の同科目を重複履修することはできません（他教員が担当する場合のみ重複履修可能）。

※2018年度以降は英語科目の変更、および開設科目数の大幅削減が行われる予定です。
これに伴い、2018年度以降、英語1-8は4群選択科目による再履修は不可となる予定です。

市ヶ谷基礎科目・４群選択科目一覧

４群選択科目名		単位	定員	履修年次	連続	重複	摘　要
ドイツ語	ドイツ語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	各20	2～4	○	×	ドイツ語1～8に代替可
	ドイツ語表現法Ⅰ／Ⅱ	各1	各20	2～4	○	×	ドイツ語1～8に代替可
	ドイツ語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	○	×	ドイツ語1～8に代替可
	時事ドイツ語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	○	○	ドイツ語1～8に代替可
	検定ドイツ語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	○	×	ドイツ語1～8に代替可
	スポーツ・ドイツ語Ⅰ／Ⅱ（SSI生のみ）	各1	各30	1～3	○	○	ドイツ語1～6に代替可
フランス語	フランス語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	各30	2～4	○	×	フランス語1～8に代替可
	フランス語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	1	×	×	フランス語1～6に代替可
	フランス語視聴覚Ⅲ／Ⅳ	各1	各30	2	×	×	フランス語1～8に代替可
	時事フランス語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2	×	×	フランス語1～8に代替可
	検定フランス語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	○	○	フランス語1～8に代替可
	情報フランス語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2	×	×	フランス語1～8に代替可
	観光フランス語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	1～4	○	×	フランス語1～8に代替可
	スポーツ・フランス語Ⅰ／Ⅱ（SSI生のみ）	各1	各30	1～3	○	○	フランス語1～6に代替可
中国語	中国語表現法Ⅰ／Ⅱ	各1	各40	2～4	○	×	中国語1～8に代替可
	中国語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	各40	2～4	×	×	中国語1～8に代替可
	検定中国語Ⅰ／Ⅱ	各1	各40	2～4	×	×	中国語1～8に代替可
スペイン語	スペイン語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	各30	2～4	×	×	スペイン語1～8に代替可
	スペイン語講読Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	×	×	スペイン語1～8に代替可
	時事スペイン語Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	×	×	スペイン語1～8に代替可
朝鮮語	朝鮮語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	各30	2～4	×	×	朝鮮語1～8に代替可
	朝鮮語講読Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	3～4	×	×	代替不可
	朝鮮語表現法Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	3～4	×	×	代替不可
	朝鮮語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	各30	2～4	×	×	朝鮮語1～8に代替可

※担当者および講義内容・レベルはWebシラバスおよび時間割表を参照してください。

※充当：科目を限定せずに必修として必要な単位数を充足すること。（各種証明書・通知書はそのままの科目名で記載）

※代替：特定の科目の代わりとして履修すること（例）「朝鮮語視聴覚Ⅰ」を「朝鮮語1」に代替したい場合：「朝鮮語視聴覚Ⅰ」を履修 → 「朝鮮語1」の代替用授業コードで登録（各種証明書・通知書は「朝鮮語1」と必修科目の科目名で表記）

※連続：前年度までに履修して単位を取得した科目を今年度もう一度受講すること。「×」となっている科目は必修科目の代替で特定の科目として履修した場合であっても、代替しない場合の４群選択科目名が同じである場合は履修不可です。

※重複：同じ年度内に同じ名前の科目を複数履修すること。英語科目については、「○」となっている科目であっても、同一教員の同科目を重複履修することはできません（他教員が担当する場合のみ重複履修可能）。

（６） ５群（体育）

スポーツ総合演習は、①クラス指定の週１回半期型、②自由に選択履修できる集中型、③自由に選択履修できる週1回半期型の３つの形式で開講されています。①と③は週１回、半期にわたって開講されますが、②は夏季休暇期間中に４日間の集中授業として市ヶ谷キャンパスに加え、多摩キャンパス及び川崎体育施設でも開講されます。

①は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定されています。②は必修科目（①を履修した場合は選択科目としても履修可能）、③は選択科目で、いずれも学部を問わず履修可能ですが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定されます。

卒業のためには、上記の①、②のいずれかの形式で２単位を修得することが必須となりますが、５群の単位としては①、②、③のうちの２つの授業を各１回ずつ、計４単位を上限として履修・修得することが認められています。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与することになります。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明します。

■基礎科目5群（体育科目の履修）について（2007年度以降入学生用）

a. 科目名・履修年次・単位

科目名（系列）	履修年次	単位	
スポーツ総合演習（必修科目）	原則として１年次に履修	2単位	3年次修了までに必ず修得する必要があります。
スポーツ総合演習（選択科目）	1～4年次	2単位	必修ではありません。2単位まで履修できます。修得した単位は基礎科目の単位として卒業所要単位に計上されます。

b. 内容

体育についての演習（講義および実技）

c. 授業形態・実施場所・期間

通常授業か集中授業のいずれかで受講します。詳細を保健体育ガイダンスで説明します。

授業形態	授業期間	種目	場所
通常授業	春学期または秋学期	複数の種目の複合	市ヶ谷総合体育館、富士見坂校舎体育館
集中授業	夏季休業期間中の4日間	複数の種目の複合	市ヶ谷総合体育館、富士見坂校舎体育館、多摩体育施設（再履修クラスのみ）のいずれか

d. 保健体育ガイダンス(保健体育時間割の説明・受講授業の決定・仮登録)

対象	内容	日時	場所
2016年度 入学生	体育についての全体ガイダンス ★全員必ず出席	学部ガイダンスで説明 (日時・場所は入学時配布の「新入生連絡事項」を参照)	
2008～2015年度 入学生	必修科目の再履修ガイダンス ★必修単位未修得者は必ず出席 ★再履修で集中授業を希望する者もここに参加する	3月28日(月)10時～	511教室
全入学年度 共通	選択科目のガイダンス ★希望者のみ	4月5日(火)17時30分～	511教室
	集中授業のガイダンス ★希望者のみ(再履修で集中授業を希望する者は対象としない)	4月6日(水)9時30分～	511教室

e. 履修登録(日時等詳細は学部ガイダンスで説明)

①新入生の必修科目

Webの申請画面に事前登録されるので各自でWeb履修登録を完了して下さい。

②選択科目希望者と再履修対象者

ガイダンスに参加して受講希望票を提出し、受講許可を得てから各自でWeb履修登録を完了して下さい。

再履修で集中授業を希望する場合は、3月28日(月)のガイダンスに参加の上、この②の方法でWeb履修登録を完了して下さい。

③集中授業希望者

ガイダンスに参加して受講希望票を提出して下さい。事務処理が済み次第、Webの申請画面に事前登録されるので、各自でWeb履修登録を完了して下さい。

f. 健康診断等(詳細は上記保健体育ガイダンスで説明)

大学実施の健康診断を必ず受けて下さい。

g. 体育会入部者

授業の受講に代えて、体育会の活動により、5群科目の単位を修得することができます。
体育会活動による単位の修得は体育会での1年間の活動で2単位です。
在学中に体育会活動によって修得できる単位の上限は2単位です。
所定の申請用紙での申請手続きが必要となりますので、履修登録期間内に所属学部窓口に申し出て下さい。

h. 連絡

体育科目に関わる連絡は、基礎科目・総合科目掲示板、保健体育部掲示板で行います。

※問い合わせ先 保健体育部市ヶ谷体育課:電話03－3264－9500

2．専門教育科目

（1）入門科目

入門科目は国際文化学部すべての科目の基礎となる科目であり、すべての国際文化学部生が通らなくてはならない「門」です。

入門科目一覧

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講 ｾﾒｽﾀｰ	単位数	ｼﾗﾊﾞｽ ﾍﾟｰｼﾞ
国際文化情報学入門	和泉　順子 岡村　民夫 奥石　哲哉 大中　一彌	1	春	4	97
チュートリアル	―	1	春	1	99

【入門科目 履修上の注意】

◇「国際文化情報学入門」（４単位）は、春学期に開講される必修科目です。２グループに分かれて週２回受講しなければなりません。グループ、教室等は春学期授業開始時に時間割および掲示で確認してください。
◇「チュートリアル」は登録必修科目です。１年次に修得できなかった学生は再履修する必要はありません。

（2）基幹科目

専門科目を学ぶための、また、自分の「専門」となる主題について研究するための、基本的視野を身につけ、方法論を学ぶための科目です。できるだけ早い時期に履修することを勧めます。

基幹科目一覧

	授業科目名	旧授業科目名	注	担当教員名	配当年次	開講 ｾﾒｽﾀｰ	隔年開講科目	単位数	ｼﾗﾊﾞｽ ﾍﾟｰｼﾞ
基幹共通	国際文化情報学の展開 ※重複履修可			竹内　晶子	2～4	春		2	100
情報文化系	ディジタル情報学概論			重定　如彦	1～4	秋		2	101
	統計処理法			竹内　広宜	1～4	春		2	102
	システム論			葛西　誠	2～4	春		2	103
	情報倫理学			森村　修	1～4	春		2	104
	情報産業論			鏡　明彦	1～4	春		2	106
	ネット文化論			神戸　雅一	1～4	秋		2	107
表象文化系	表象文化概論			岡村　民夫 稲垣　立男 鈴木　晶 竹内　晶子	1～4	春		2	108
	メディアと情報			君塚　洋一	1～4	春		2	109
	社会と美術			稲垣　立男	1～4	春		2	110
	メディアと社会			稲垣　立男	1～4	秋		2	111
	身体表象論			鈴木　晶	1～4	秋		2	112
言語文化系	言語文化概論			衣笠　正晃	1～4	秋		2	113
	比較文化			前川　裕	1～4	春		2	114
	現代思想			森村　修	1～4	秋		2	115
	ジェンダー論			佐々木　一惠	1～4	春		2	116
	異文化間コミュニケーション			江村　裕文	1～4	秋		2	117
国際社会系	国際関係学概論Ⅰ	国際関係学概論	※1	山田　朋美	1～4	春		2	118
	国際関係学概論Ⅱ	比較民衆社会論	※1	山田　朋美	1～4	秋		2	119
	国家と民族			中島　成久	1～4	春		2	121
	平和学			松本　悟	1～4	秋		2	122
	宗教と社会			佐々木　一惠	1～4	春		2	123
	Religion and Society			田口　陽子	1～4	秋		2	124
	国際文化協力			松本　悟	1～4	春		2	126

※1　旧授業科目を修得済の場合は、新科目を重複履修することができません。

基幹科目の選択必修について

基幹科目から10単位以上修得する必要があります。 （SSIコースを除く）

登録したコース名と同一名の系からは2科目4単位以上を修得してください。ただし、そのうち2単位はその系における「概論」科目の修得を推奨します。 登録していない3つの系および「国際文化情報学の展開」からは系の重複なく6単位以上修得してください。

海外留学（基幹）は基幹科目の単位として卒業要件に含めますが、基幹科目の4つの系「国際文化情報学の展開」の修得単位には含めません。派遣留学を考えている人は、1年次・2年次でなるべく基幹科目の必修単位を修得するように予定をたててください。

（3）情報科目

国際文化学部の情報科目は、文化情報学を実践的に展開するための専門基礎をシステム、ネットワーク、メディアの各領域において形成するいわゆる基礎3科目（情報システム概論、ネットワーク基礎、メディア情報基礎)、その上位科目であり、さまざまな専攻科目に接続するための上記3分野の応用表現科目、さらにプログラミングや仮想世界を取り扱うスキル形成、視野形成の科目によって構成されています。

それぞれの情報科目の関連はカリキュラム体系のチャートに示すとおりですが、履修モデルの特徴として前提科目（prerequisite）の考え方が導入されています。すなわち、ある科目を履修するためには、関連分野の下位レベルの科目を履修し終えてから、上位レベルの科目の履修に進むという考え方です。このような科目の積み上げによって、各自の興味に応じた情報科目や専攻科目の体系的学習が、効果的かつ効率的に可能となります。

国際文化学部の情報科目は情報のスペシャリストを育てるための情報科目ではありません。誰もが現代社会で自分のやりたいことを有効に活かせるように内容が構成されています。

学生のみなさんは、まず基礎科目0群の「情報リテラシーⅠ／Ⅱ」から始めて、次は基礎3科目を履修することで、しっかりと文化情報学的な視野、知識、技術を身につけてください。そのあとは各自の興味や関心領域の違いによって、選択的に上位科目を履修してください。

情報科目一覧

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講セメスター	開講数	隔年開講科目	単位数	シラバスページ
情報システム概論	和泉　順子 櫻井　茂明 中村　文隆	1～4	秋	5		2	127
メディア情報基礎	大嶋　良明 菊池　司 米倉　明男	1～4	秋	6		2	128
ネットワーク基礎	大嶋　良明 和泉　順子 松田　裕幸	2～4	春	5		2	129
情報システム応用	和泉　順子	2～4	春	1		2	131
ネットワーク応用	隔年休講	2～4	春	1	★	2	—
メディア表現法	大嶋　良明	2～4	秋	1		2	132
プログラミング言語基礎	和泉　順子	2～4	春	1		2	134
仮想世界研究	甲　洋介	2～4	春	1		2	135
メディア情報応用	大嶋　良明	2～4	秋	1	★	2	136
データベース基礎	若林　啓	3～4	秋	1		2	138
社会とデータサイエンス	和泉　順子	2～4	春	1		2	139
道具による感覚・体験のデザイン	甲　洋介	2～4	春	1		2	140

2011年度～2014年度入学生用

情報系科目分布表

科目群	科目名	概要	前提科目	注
基幹科目	学部基幹科目のうち情報関連科目			
	情報倫理学	DNA、プライバシ、著作権、セキュリティ…形のない「情報」をどのように取り扱ってゆくべきかを考える。	なし	
	情報産業論	IT 時代の情報産業構造の理解を深める。	なし	
	ディジタル情報学概論	広い視野のもとに IT の本質を明確にし，組織的に一般的にわかりやすく述べる。	なし	
	ネット文化論	インターネットの発展と構造およびそれらの文化に及ぼすインパクトについて関連する諸問題を取り上げ、専門的調査を行う。	なし	
	メディアと情報	既存マスメディアからネットワーク・マルチメディアへ、現代の情報メディア文化の動向を分析する。	なし	
基礎科目（O群）	学部情報科目への専門基礎の導入			
	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	情報検索、ワープロ、表計算、プレゼンテーションなど、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得する	なし	
情報科目	学部全体の情報教育の根幹となる科目群。とくに「基礎 3 科目」（情報システム概論、メディア情報基礎、ネットワーク基礎）が応用科目および専攻科目の前提科目となるので大変に重要。			
	情報システム概論	情報システムの概念、システムの設計から管理・運用保守までを学ぶ。	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	※1
	メディア情報基礎	PC による Web 制作とマルチメディアプレゼンテーション、そしてデジカメ、ビデオなど AV 機器と PC の総合的活用を学ぶ。	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	※1
	ネットワーク基礎	Web、ビデオ会議、グループウェアなどネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターにおける情報交換・情報共有のしくみを講義と実習から学ぶ。	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	※1
	仮想世界研究	私たちが今を生きる「仮想世界」とはどういうものだろうか？「仮想世界」を哲学的かつ情報学的なアプローチで分析。	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	※2
	プログラミング言語基礎	問題解決のためにコンピュータを動かす手順の記述が「プログラミング」。その手法の基礎を学ぶ。応用レベルの情報科目の重要な前提科目である。	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	※2
	情報システム応用	業務システム、企業間システム、戦略情報システムから e マーケットプレイスまで、さまざまな情報システムの実例を紹介・分析する。	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	※2
	メディア情報応用	Web グラフィックス・動画のオーサリング技法，マルチメディアを活用した応用レベルの情報処理，対話性実現のためのスクリプトの実際を学ぶ。	基礎 3 科目、プログラミング言語基礎	※2
	ネットワーク応用	Dynamic HTML による動的な Web コンテンツ生成と対話性を実現する技法を学ぶ。JavaScript とスタイルシート演習を含む。	基礎 3 科目、プログラミング言語基礎	※2
	メディア表現法	PC を使ってのマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習で学ぶ。とくに Photoshop による画像レタッチの諸技法を学び、見やすい作品つくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得する。	基礎 3 科目	※2
	データベース基礎	情報システムの大事な要素のひとつが「データベース」、その概念と構築手法の基礎を学ぶ。	なし	
	社会とデータサイエンス	社会環境でのデジタルデータの収集や利活用の事例を学び、統計学の観点でのデータの性質や扱い方、可視化等を習得し、実践する。	基礎 3 科目	※2
	道具による感覚・体験のデザイン	道具としての空間をデザインし直すと、そこに生まれる『体験』はどう変化するのか？　道具によって『体験』を作りだす方法と可能性を、講義とデザインワークショップを組み合わせ、学ぶ。	なし	
メディアコミュニケーション科目	文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練、すなわちコンピュータ設備を用いた実験・実習における実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告などの方法論的訓練			
	情報コミュニケーションⅠ	モノづくりの面白さと難しさを、「道具を使いやすくデザインし直す方法」と「近未来の道具のデザイン」の2つの観点から、実践的に学ぶ。	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	※2
	情報コミュニケーションⅡ	UNIX と認知工学の演習。	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	※2
	情報コミュニケーションⅢ	メディアアートを題材とする文化情報の分析演習。	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	※2
情報文化コース科目群	文化情報のデザインの戦略と編集技法を分析し、実践的に構築する			
	ヒューマンインターフェイス論	人間と人工物（＝道具）とのより良い関係性のデザインとその方法論。	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	※2
	情報セキュリティとプライバシー	インターネット環境での情報セキュリティの諸問題を技術基盤と社会的側面から学ぶ。	なし	
	ネットワーク環境構築論	ネットワークプログラミングを通して、Unix 環境での Web サイト構築や解析などのネットワーク環境構築を学ぶ。	ネットワーク基礎、プログラミング言語基礎	※2
	ゲーム構築論	情報学を適用したモノづくりの面白さと難しさをコンピューターゲームのモノづくりを通して学ぶ。	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	※2
	コンピュータ音楽と音声情報処理	人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現するための仕組みを解説する。	メディア情報基礎	※2
情報文化コース科目群（隔年開講）	文化情報空間論	知的人工物が私たちの生活習慣や文化をどのように変容させるのかを考える。	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	※2
表象文化コース科目群	文化情報を表現する基盤メディアの多様性を論じ、実験・実習する			
	マルチメディア表現法	ビデオ、Web マルチメディア、電子出版などの実習を通して、多様な種類のメディア情報をコンピュータで表現し、ネットワークマルチメディア環境においてわかりやすく統合的に提示する手法を学習する。	メディア表現法	※2

※1 【前提科目：必修】「前提科目」欄に記載されている科目が未修得の場合、履修することができません。
※2 【前提科目：推奨】 講義内容を十分に理解するために、「前提科目」欄に記載されている科目を先に履修することを推奨します。前提科目が未修得で、当該科目の履修を希望する場合は、担当教員に相談してください。

【情報科目 履修上の注意】

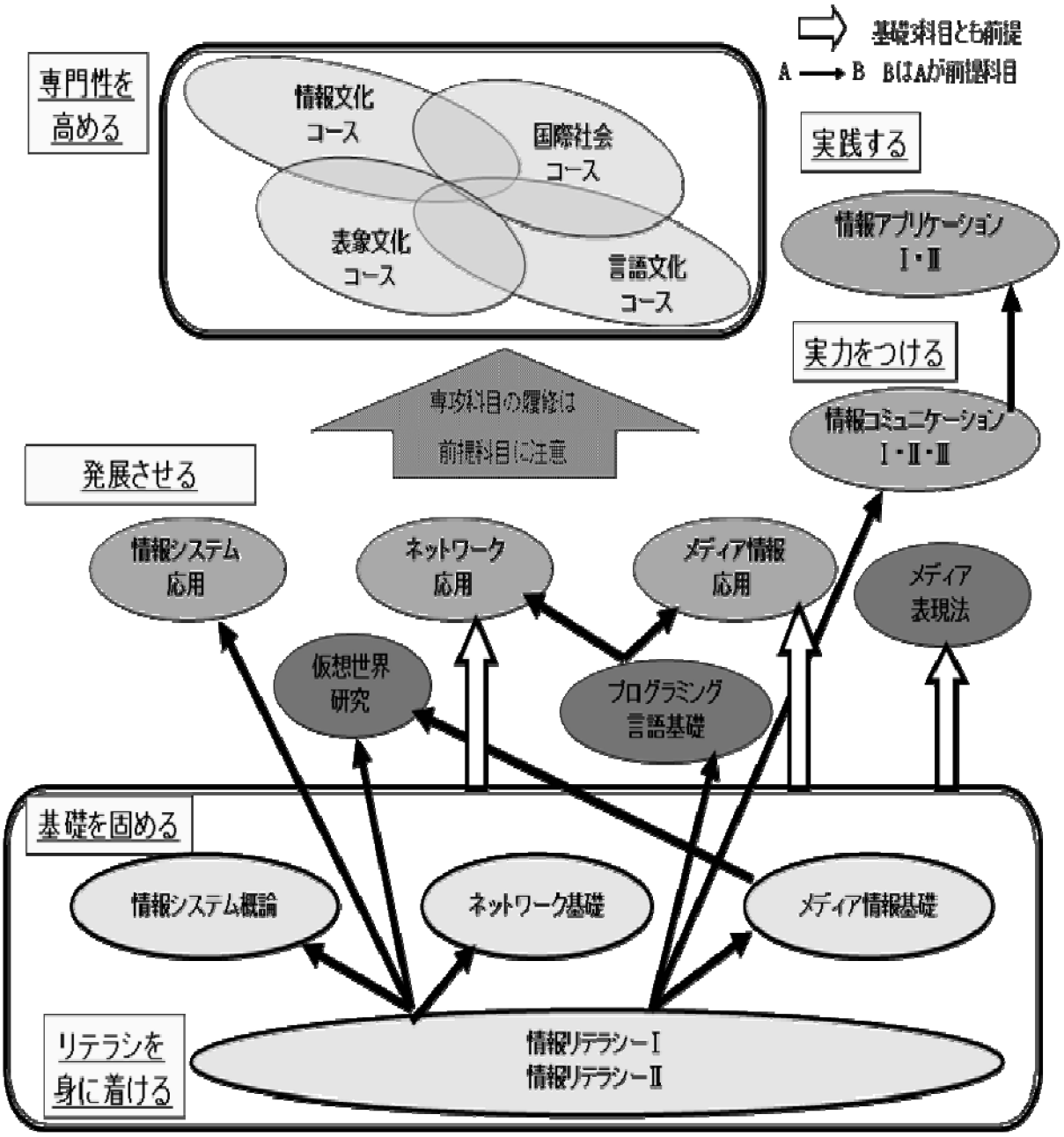
◇必修科目（市ヶ谷基礎科目０群）の情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡはクラス指定授業です。その他の情報科目では受講者を選抜、抽選で決定します。

◇情報科目の基礎３科目（情報システム概論、ネットワーク基礎、メディア情報基礎）はコースにかかわらず、国際文化学部生全員が履修することを勧めます。

◇情報科目、情報科関連科目にはそれぞれ前提科目や履修制限が設けられていますので、シラバスをよく理解してください。

◇受講希望者は１回目の授業に必ず出席してください。

【情報系科目カリキュラム体系図】



（４）言語科目

言語というと、ＳＡ留学先で用いられる英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮語など、個々の言語を思い浮かべます。しかし、「言語って何だろう？」と考えると、言語の不思議に出会います。わたしたちは、普段コミュニケーションの手段として日本語を使っていますが、どうして言葉が通用するのでしょうか、どのようにして言葉が習得できるのでしょうか。また、映画を見て、音楽を聴いていて、理解しようとするとき、言葉で考えます。言葉と他の記号とはどのように関係しているのでしょうか、・・・いろいろな疑問が湧いてきます。

言語科目では、言葉を成り立たせているさまざまな要素について学びます。みなさんが個々の言語を習得するうえで必要な、言語に関する基本的な知識を身につけます。たとえば、言語が意味を持つにいたる構造と仕組み、言語の習得と応用、言語の社会的役割についてなどです。

言語科目一覧

授業科目名	注	担当教員名	配当年次	開講セメスター	隔年開講科目	単位数	シラバスページ
世界の言語Ⅰ		休講	2～4	春	★	2	―
世界の言語Ⅱ		内山　政春	2～4	春	★	2	141
世界の英語		小中原　麻友	2～4	春		2	142
言語の理論Ⅰ	※1	石川　潔	1～4	春		2	144
言語の理論Ⅱ	※1	川﨑　貴子	1～4	秋		2	145
社会言語学	※1	椎名　美智	3～4	秋		2	146
応用言語学	※1	川﨑　貴子	3～4	春		2	147

注）※1は文学部との同一開講授業であるため、休講・教室変更等の授業連絡は文学部掲示板で確認してください。

国際文化学部科目名	文学部科目名	掲示学部	備考
言語の理論Ⅰ	言語学概論Ａ	文学部	
言語の理論Ⅱ	言語学概論Ｂ	文学部	
社会言語学	社会言語学	文学部	
応用言語学	応用言語学	文学部	

（５）メディアコミュニケーション科目

「言語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」はＳＡ事前指導にあたり、「言語アプリケーション」はＳＡ事後指導に当たる科目です。「言語コミュニケーションⅠ・Ⅲ」ではＳＡに向けてスピーキングやリスニングに力点を置き、「言語コミュニケーションⅡ」ではライティングに力点を置きます。「言語アプリケーション」はＳＡで培った言語力を維持・向上するための科目です。

「情報コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」では、文化情報学の基礎として習得すべきいくつかの重点領域に注目し、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで取り上げる各テーマごとに、その基本知識とスキルの習得を目的として、実習に力点をおいた重点的なトレーニングを行います。「情報アプリケーションⅠ・Ⅱ」は、夏期ＳＡ・長期ＳＡでの実習体験、「情報コミュニケーション」で習得した基本的な知識とスキルの上に立って、それらをさらに磨きをかけ、実習科目の総仕上げを行う科目です。

メディアコミュニケーション科目一覧

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	開講数	単位数	ｼﾗﾊﾞｽﾍﾟｰｼﾞ
英語コミュニケーションⅠ（会話）	－	1	秋	7	2	148
英語コミュニケーションⅡ（表現）	－	2	春	7	2	149
英語コミュニケーションⅢ（留学会話）	－	2	春	7	2	150
英語アプリケーション	－	3～4	春・秋	9	2	150-160
ドイツ語コミュニケーションⅠ（会話）	ﾊｰｽ豊川ﾓﾆｶ	1	秋	1	2	161
ドイツ語コミュニケーションⅡ（表現）	ｳﾃ ｼｭﾐｯﾄ	2	春	1	2	162
ドイツ語コミュニケーションⅢ（留学会話）	ﾊｰｽ豊川ﾓﾆｶ	2	春	1	2	163
ドイツ語アプリケーション	－	3～4	春・秋	3	2	164-168
フランス語コミュニケーションⅠ（会話）	ｲｳﾞ ﾛﾜｿﾞｰ	1	秋	1	2	169
フランス語コミュニケーションⅡ（表現）	大中　一彌	2	春	1	2	170
フランス語コミュニケーションⅢ（留学会話）	ｶﾚﾝｽ ﾌｨﾘｯﾌﾟ	2	春	1	2	171
フランス語アプリケーション	－	3～4	春・秋	4	2	172-177
ロシア語コミュニケーションⅠ（会話）	ｺﾍﾞﾙﾆｯｸ　ﾅﾃﾞｨﾔ	1	秋	1	2	178
ロシア語コミュニケーションⅡ（表現）	ｺﾍﾞﾙﾆｯｸ　ﾅﾃﾞｨﾔ	2	春	1	2	179
ロシア語コミュニケーションⅢ（留学会話）	ｺﾍﾞﾙﾆｯｸ　ﾅﾃﾞｨﾔ	2	春	1	2	180
ロシア語アプリケーション	－	3～4	春・秋	2	2	181-184
中国語コミュニケーションⅠ（会話）	蒋　彧婷	1	秋	1	2	185
中国語コミュニケーションⅡ（表現）	薬　会	2	春	1	2	186
中国語コミュニケーションⅢ（留学会話）	蒋　彧婷	2	春	1	2	187
中国語アプリケーション	－	3～4	春・秋	4	2	188-193
スペイン語コミュニケーションⅠ（会話）	ガルシア ルイス	1	秋	1	2	194
スペイン語コミュニケーションⅡ（表現）	ガルシア ルイス	2	春	1	2	195
スペイン語コミュニケーションⅢ（留学会話）	ガルシア ルイス	2	春	1	2	196
スペイン語アプリケーション	－	3～4	春・秋	4	2	197-202
朝鮮語コミュニケーションⅠ（会話）	安岡　明子	1	秋	1	2	203
朝鮮語コミュニケーションⅡ（表現）	梁　禮先	2	春	1	2	204
朝鮮語コミュニケーションⅢ（留学会話）	安岡　明子	2	春	1	2	205
朝鮮語アプリケーション	－	3～4	春・秋	3	2	206-210
スタディ・アブロード（言語）Ⅰ	－	2	秋	SA ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ認定科目	2	―
スタディ・アブロード（言語）Ⅱ	－	2	秋		2	―
情報コミュニケーションⅠ	甲　　洋介	1～4	春	1	2	211
情報コミュニケーションⅡ	大嶋　良明	2～4	春	1	2	212
情報コミュニケーションⅢ	稲垣　立男	2～4	春	1	2	214
情報アプリケーションⅠ	重定　如彦	3～4	秋	1	2	215
情報アプリケーションⅡ	和泉　順子	3～4	秋	1	2	216

【メディアコミュニケーション科目 履修上の注意】

◇長期ＳＡ選択者は、言語コミュニケーション（ＳＡ先の言語）を、夏期ＳＡ選択者は情報コミュニケーションを履修します。言語コミュニケーションⅠは１年次、Ⅱ・Ⅲは２年次の登録必修科目、情報コミュニケーションⅡは２年次の登録必修科目です。言語・情報アプリケーションは３年次以降に履修します。
◇開講セメスターは前頁の表で確認してください。
◇ＳＡ先が諸外国語圏で英語の教職免許取得希望の者は、英語コミュニケーション、英語アプリケーションの履修が必要です。再履修登録受付開始時に国際文化学部窓口に申し出て指示に従ってください。ＳＡ先が英語圏の学生は申し出る必要はありません。また諸外国語圏ＳＡ先での修得単位は、英語教職単位としては認められません。
◇ＳＡ先が中国以外の学生で中国語の教員免許取得希望の者は、中国語コミュニケーション、中国語アプリケーションの履修が必要です。再履修登録受付開始時に国際文化学部窓口に申し出て指示に従ってください。
◇長期ＳＡ選択者で情報コミュニケーション科目受講希望の学生は、国際文化学部窓口へ申し出て指示に従ってください。

★メディアコミュニケーション科目の履修について

科目区分		履修上の注意	１セメスター内での重複履修の可否
コミュニケーションⅠ	英語	７月に行われるＴＯＥＩＣの結果により、クラス指定を行います。	×
	英語以外	ＳＡ先が諸外国語圏の学生は、自分が留学する言語のコミュニケーションⅠを履修してください。	
コミュニケーションⅡ	共通	コミュニケーションⅠと同じクラス	
コミュニケーションⅢ	共通	コミュニケーションⅡと同じクラス 夏期ＳＡ選択者は、情報コミュニケーションⅡを履修してください。	
アプリケーション	共通	１クラス24名程度	―
	英語	希望によりクラスを選択します。クラスによりレベルチェックを行う場合があります。	×
	ドイツ語	〃	○
	フランス語	〃	○
	中国語	〃	○
	スペイン語	〃	○
	ロシア語	〃	○
	朝鮮語	〃	○
	情報	〃	○

※アプリケーションの重複履修とは、１セメスター内に複数の科目を履修することです。
　セメスター内でなければ、何度でも履修することができます。
※アプリケーション（上級）と重複して履修することができます。
　アプリケーション（上級）については【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援とアプリケーション（上級）について】を参照してください。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援とアプリケーション(上級)について】

法政大学は、文部科学省の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援※」に採択されています。国際文化学部はその実施学部として引き続き学部独自のグローバル人材育成に取り組んでいます。

※「グローバル人材育成推進事業（平成24年度採択)」を組み替えたもの。

国際文化学部では、この事業の一環として、本学部が7言語圏10カ国で実施しているSAをベースに、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語の6言語圏のSA参加者の各年次および卒業時の到達目標を定めるとともに、より高度なコミュニケーション能力を身につけるため、新たにアプリケーション（上級）科目を開設しています。

日本の企業の3分の2が英語圏以外の国々を最重要拠点とするなど、グローバル人材に対する社会的ニーズは多様化しています。国際文化学部では、英語による汎用的なコミュニケーション力に加え、その地域の言語と文化を理解した上で、地域の人々と円滑なコミュニケーションを取ることができる地域的専門性の高いグローバル人材を育成します。

なお、アプリケーション（上級）は、他学部公開科目として国際文化学部以外の学生にも公開しています。

国際文化学部の各年次配当科目の到達目標

<table>
<tr><th rowspan="2">学年</th><th rowspan="2">科目</th><th colspan="6">到達目標</th></tr>
<tr><th>ドイツ語</th><th colspan="2">フランス語</th><th>スペイン語</th><th>ロシア語</th><th>中国語</th><th>朝鮮語</th></tr>
<tr><td rowspan="2">3・4年次</td><td>ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ（上級）</td><td>独検準1級
GZ B2
ZD
ZDfB B2
ZDj B2</td><td colspan="2">仏検2級
DELF B1
TCF300-399
TEF361-540</td><td>DELE C1</td><td>ロシア語能力検定2級
ТРКИ-1</td><td>新HSK6級</td><td>ハングル検定2級</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ</td><td>独検2級
GZ B1
ZDfB B1
ZDj B1</td><td colspan="2">仏検準2級
DELF A2
TCF 200-299
TEF 204-360</td><td>DELE B2</td><td>ロシア語能力検定3級
ТРКИ-БУ</td><td>新HSK5級</td><td>ハングル検定準2級</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2年次</td><td>SA</td><td>独検3級
SD 2, FD 2</td><td colspan="2">仏検3級
DELF A1
TCF100-199
TEF 69-203</td><td>DELE B1</td><td>ロシア語能力検定3級
ТРКИ-БУ</td><td>新HSK4級</td><td>ハングル検定3級</td></tr>
<tr><td>春学期配当科目</td><td>独検4級
SD A2, FD A2</td><td>仏検4級</td><td rowspan="2">DILF
TCF
0-99
TEF
0-68</td><td>DELE A2</td><td>ロシア語能力検定4級</td><td>新HSK3級</td><td>ハングル検定4級</td></tr>
<tr><td>1年次</td><td>1年次配当科目</td><td>独検5級
SD A1
FD A1</td><td>仏検5級</td><td>DELE A1</td><td>ロシア語能力検定4級</td><td>新HSK2級</td><td>ハングル検定5級</td></tr>
</table>

◇アプリケーション（上級）の受講資格

各言語の以下の資格または同レベルの語学力を有する者

- ドイツ語　独検2級、GZ B1、ZDfB B1、ZDj B1以上のいずれか
- フランス語　仏検準2級、DELF A2、TCF スコア200、TEF スコア204以上のいずれか
- スペイン語　DELE　B2以上
- ロシア語　ロシア語能力検定3級、ТРКИ-БУ 以上のいずれか
- 中国語　新HSK5級以上
- 朝鮮語　ハングル能力検定試験準2級以上

◇到達目標

各言語の以下の資格の取得

・ドイツ語　独検準1級、GZ B2、ZD、ZDfB B2、ZDj B2
・フランス語 仏検2級 DELF B1、TCF300-399、TEF361-540
・スペイン語 DELE　C1
・ロシア語　ロシア語能力検定2級、ТРКИ-1
・中国語　新 HSK6級
・朝鮮語　ハングル能力検定試験2級

◇開講科目

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	開講数	単位数
ドイツ語アプリケーション（上級）	林　志津江	3～4	春・秋	2	2
フランス語アプリケーション（上級）	ｼﾞｮﾙﾃﾞｨ ﾌｨﾘｯﾌﾟ	3～4	春・秋	2	2
ロシア語アプリケーション（上級）	ｺﾍﾞﾙﾆｯｸ　ﾅﾃﾞｨﾔ	3～4	春・秋	2	2
中国語アプリケーション（上級）	春：周重雷 秋：金玉英	3～4	春・秋	2	2
スペイン語アプリケーション（上級）	瓜谷　ｱｳﾛﾗ	3～4	春・秋	2	2
朝鮮語アプリケーション（上級）	富所　明秀	3～4	春・秋	2	2

履修上の注意

・各学期の初回授業に必ず出席し、受講許可を得てください。
・アプリケーション（上級）は各言語アプリケーションと合わせて履修することができます。

（６）専攻科目

①情報文化コース科目群、表象文化コース科目群、言語文化コース科目群、国際社会コース科目群

「情報文化コース科目群」には、文理融合の理念のもと、高い技術・知識を要する情報処理能力を育成するための科目を配置しています。

「表象文化コース科目群」には、映画、アニメ、音楽、ダンスなど、視覚・聴覚映像の効果と仕組みを学ぶ科目を配置しています。

「言語文化コース科目群」には、各言語圏特有の文化を掘り下げて、文化の多様性を探求するための科目を配置しています。

「国際社会コース科目群」には、地域や国を横断する国際社会の交流とその仕組み、問題点とその解決方法を探る科目を配置しています。

専攻科目一覧

科目群	科目区分	授業科目名	旧授業科目名	注	担当教員名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	隔年開講科目	単位数	ｼﾗﾊﾞｽﾍﾟｰｼﾞ
情報文化コース科目群	方法論	こころの科学	認知科学		森村　修	3～4	秋		2	217
		ゲーム構築論	モデリング・シミュレーション	※1	重定　如彦	3～4	春		2	218
	システムと人間	ヒューマンインターフェイス論			甲　洋介	2～4	春		2	219
		情報セキュリティとプライバシー	ネットワークセキュリティ	※1	和泉　順子	2～4	秋		2	220
		バイオインフォマティクス			島野　智之・月井　雄二	2～4	秋		2	221
		ネットワーク環境構築論	「ネットワーク・プログラミング」，「ネットワークサーバ構築論」を統合	※1	松浦　知史	3～4	秋		2	222
	メディア	文化情報空間論			甲　洋介	2～4	春	★	2	223
		コンピュータ音楽と音声情報処理	「メディア処理」，「メディアシステム構築論」，「コンピュータ音楽と音声情報処理」を統合	※1	大嶋　良明 阪本　正治	3～4	春		2	224
	デザイン	ハイパーテクスト論			川村　たつる	3～4	秋	★	2	225
		情報編集論			川村　たつる	3～4	春		2	226
		文化情報の哲学			森村　修	2～4	春		2	227
		情報デザイン			稲垣　立男	3～4	秋		2	228
表象文化コース科目群	表象の理論	文化インフォマティクス			廃講	2～4	秋	★	2	—
		サブカルチャー論			島田　雅彦	2～4	春		2	229
	メディア表現	マルチメディア表現法			大嶋　良明	2～4	春		2	230
		メディア表現ワークショップ１			休講	2～4	春	★	2	—
		メディア表現ワークショップ２			島田　雅彦	3～4	秋		2	232
		メディア表現ワークショップ３	メディアアート		佐藤　好彦	2～4	秋	★	2	233
		五感共生論			休講	2～4	秋	★	2	—
	映像表現	映像文化論			鈴木　晶	1～4	秋		2	234
		写真論			休講	1～4	秋	★	2	—
		映像と文学			林　志津江	3～4	秋		2	235

2011年度～2014年度入学生用

科目群	科目区分	授業科目名	旧授業科目名	注	担当教員名	配当年次	開講セメスター	隔年開講科目	単位数	シラバスページ
表象文化コース科目群	表象芸術	演劇論			休講	3～4	秋	★	2	—
		ポピュラー音楽論			大嶌 徹	1～4	春	★	2	237
		コミックス論			野田　謙介	3～4	秋	★	2	238
		空間デザイン論			休講	2～4	秋	★	2	—
		庭園文化			廃講	2～4	春	★	2	—
		パフォーマンス・スタディーズ	アート・アクティヴィズム		森村　修	2～4	秋		2	241
		現代美術論			稲垣　立男	2～4	秋		2	243
言語文化コース科目群	世界の中の日本文化	世界の中の日本文学			川村　湊	2～4	春		2	244
		世界の中の日本語			リービ　英雄	2～4	秋		2	245
		世界とつながる地域の歴史と文化			髙柳　俊男	2～4	春		2	246
	アジアの文化	中国の文化Ⅰ（現代中国社会）			曽　士才	1～4	春		2	250
		中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）			曽　士才	1～4	秋	★	2	251
		中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）			休講	1～4	秋	★	2	—
		中国の文化Ⅳ（中国語の構造）			渡辺　昭太	2～4	春		2	252
		中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）			渡辺　昭太	2～4	秋	★	2	253
		中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）			野村　英登	2～4	春		2	254
		中国の文化Ⅶ（近代文学）			廣野　行雄	2～4	春		2	255
		中国の文化Ⅷ（現代文学）			廣野　行雄	2～4	秋		2	256
		中国の文化Ⅸ（中国俗文学）			鈴木　靖	2～4	春		2	257
		中国の文化Ⅹ（歴史）			休講	2～4	秋	★	2	—
		朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）			内山　政春	2～4	春		2	258
		朝鮮語圏の文化Ⅱ（朝鮮語の構造）			休講	2～4	秋	★	2	—
		アジアの伝統芸能			鈴木　靖	2～4	秋	★	2	259
		東南アジアの文化			休講	2～4	秋	★	2	—
	ユーラシアの文化	アフロ・アジアの文化			休講	2～4	春	★	2	—
		ロシア・中央アジアの文化			ｱﾝﾄﾞﾚｲ ｸﾗﾌﾂｪﾋﾞﾁ	2～4	春	★	2	260
		ロシア・東欧の文化			佐藤　千登勢	2～4	春		2	261
		北欧の文化（言語と文化）			廃講	3～4	秋		2	—
	ヨーロッパの文化	ドイツ語圏の文化Ⅰ			林　志津江	2～4	春	★	2	263
		ドイツ語圏の文化Ⅱ			休講	2～4	春	★	2	—
		フランス語圏の文化Ⅰ（思想）	フランスの文化Ⅰ（思想）		休講	1～4	秋	★	2	—
		フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）	フランスの文化Ⅱ（芸術）		休講	1～4	春	★	2	—
		フランス語圏の文化Ⅲ（文学）	フランスの文化Ⅲ（文学）		ｼﾞｮﾙﾃﾞｨ ﾌｨﾘｯﾌﾟ	1～4	秋	★	2	264
		フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）			廣松　勲	1～4	春	★	2	265
		スペイン語圏の文化Ⅰ（多言語国家スペイン）			佐々木　直美	2～4	春		2	267
		スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）			佐々木　直美	3～4	秋		2	268
		カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）			ﾋﾞﾗ・ﾋﾞﾆｬｽ・ﾗｹﾙ	3～4	春		2	269
		カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）			ﾋﾞﾗ・ﾋﾞﾆｬｽ・ﾗｹﾙ	3～4	秋		2	270
		カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）			ﾋﾞﾗ・ﾋﾞﾆｬｽ・ﾗｹﾙ	3～4	春		2	271
		カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）			ﾋﾞﾗ・ﾋﾞﾆｬｽ・ﾗｹﾙ	3～4	秋		2	272

科目群	科目区分	授業科目名	旧授業科目名	注	担当教員名	配当年次	開講セメスター	隔年開講科目	単位数	シラバスページ
言語文化コース科目群	英語圏の文化	英語圏の文化Ⅰ（文化史）			宇治谷　義英	2～4	秋	★	2	273
		英語圏の文化Ⅱ（思想史）			ﾏｰｸ　ﾌｨｰﾙﾄﾞ	2～4	秋		2	274
		英語圏の文化Ⅲ（現代事情）			粟飯原　文子	2～4	春		2	275
		英語圏の文化Ⅳ（文学と社会A）			須藤　祐二	2～4	秋		2	276
		英語圏の文化Ⅴ（文学と社会B）			北　文美子	2～4	秋		2	277
		英語圏の文化Ⅵ（文学と社会C）			中和　彩子	2～4	春		2	278
		英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）			輿石　哲哉	3～4	春		2	279
		英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）		※2	輿石　哲哉	3～4	秋		2	281
		History of English		※2	輿石　哲哉	3～4	秋		2	283
国際社会コース科目群	異文化理解の方法	比較表象文化論	比較思想	※1	竹内　晶子	1～4	秋		2	239
		異文化適応論			休講	1～4	秋		2	—
	文化と他者	他者イメージ論			中島　成久	1～4	秋	★	2	288
		異文化と身体表現			鈴木　晶	1～4	春		2	240
		間文化性研究翻訳論	翻訳と情報	※1	熊田　泰章	2～4	春		2	292
		日英翻訳論			リービ　英雄	2～4	春		2	248
		実践翻訳技法			リービ　英雄	3～4	秋	★	2	249
	宗教思想と社会	宗教社会論Ⅰ（仏教思想）	仏教思想	※1 ※3	関口　和男	1～4	秋		2	289
		宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）	キリスト教思想	※1	佐々木　一惠	3～4	秋		2	290
		宗教社会論Ⅲ（イスラーム思想）	イスラーム思想	※1	江村　裕文	2～4	春	★		291
	国際関係	国際関係研究１			松本　悟	1～4	春		2	287
		国際関係研究２			松本　悟	1～4	秋		2	294
		移民研究Ⅰ（華僑・華人社会）			休講	1～4	秋	★	2	—
		移民研究Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）			髙柳　俊男	2～4	秋	★	2	295
		移民研究Ⅲ（アジア・太平洋）			休講	2～4	秋	★	2	—
		地域協力・統合			大中　一彌	2～4	秋		2	298
		地域紛争とエスニシティ			中島　成久	1～4	秋		2	296
		実践国際協力			松本　悟	1～4	秋		2	286
		途上国経済論		※3	休講	1～4	春		2	—
		多文化社会と人間		※3	村野　節子	2～4	春		2	293
		持続可能な社会			島野　智之	1～4	春	★	2	297
		実践社会調査法			松本　悟	2～4	春		2	285

注）※1　旧授業科目を修得済の場合は、新科目を重複履修することができません。

※2「英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）」と「History of English」の重複履修はできません。

※3　他学部との同一開講授業であるため、休講・教室変更等の授業連絡は下表の掲示板で確認してください。

国際文化学部科目名	他学部科目名	掲示学部	備考
宗教社会論Ⅰ（仏教思想）	仏教思想	人間環境学部	
途上国経済論	途上国経済論Ⅰ	人間環境学部	
多文化社会と人間	多文化社会論Ⅲ	キャリアデザイン学部	2007年度以降入学者のみ履修可

演習以降はP47～67の共通ページをご覧ください。

【専攻科目の選択必修について】

登録したコースの専攻科目から４科目８単位以上修得する必要があります。
情報文化コース、表象文化コース、国際社会コースはコースの中での決まりはありません。
言語文化コースは、「世界の中の日本文化」区分から１科目以上、ＳＡ先と関連する区分から２科目以上、それ以外の区分から１科目以上を修得する必要があります。

★「世界の中の日本文化」区分から１科目２単位以上修得

科目区分	授業科目名
世界の中の日本文化	世界の中の日本文学
	世界の中の日本語
	世界とつながる地域の歴史と文化

★ＳＡ先と関連する区分

「アジアの文化」「ユーラシアの文化」「ヨーロッパの文化」「英語圏の文化」の区分で、自分のＳＡ先と関連する区分から２科目４単位以上、それ以外の区分から１科目２単位以上修得

ＳＡ先と関連する区分表

科目区分	授業科目名	ＳＡ先
アジアの文化	中国の文化Ⅰ	中国 韓国
	中国の文化Ⅱ	
	中国の文化Ⅲ	
	中国の文化Ⅳ	
	中国の文化Ⅴ	
	中国の文化Ⅵ	
	中国の文化Ⅶ	
	中国の文化Ⅷ	
	中国の文化Ⅸ	
	中国の文化Ⅹ	
	朝鮮語圏の文化Ⅰ	
	朝鮮語圏の文化Ⅱ	
	アジアの伝統芸能	
	東南アジアの文化	
ユーラシアの文化	アフロ・アジアの文化	ロシア
	ロシア・中央アジアの文化	
	ロシア・東欧の文化	
	北欧の文化（廃講）	
ヨーロッパの文化	ドイツ語圏の文化Ⅰ	スイス フランス スペイン
	ドイツ語圏の文化Ⅱ	
	フランス語圏の文化Ⅰ	
	フランス語圏の文化Ⅱ	
	フランス語圏の文化Ⅲ	
	フランス語圏の文化Ⅳ	

科目区分	授業科目名	ＳＡ先
ヨーロッパの文化	スペイン語圏の文化Ⅰ	スイス フランス スペイン
	スペイン語圏の文化Ⅱ	
	カタルーニャの文化Ⅰ	
	カタルーニャの文化Ⅱ	
	カタルーニャの文化Ⅲ	
	カタルーニャの文化Ⅳ	
英語圏の文化	英語圏の文化Ⅰ	イギリス アメリカ カナダ オーストラリア
	英語圏の文化Ⅱ	
	英語圏の文化Ⅲ	
	英語圏の文化Ⅳ	
	英語圏の文化Ⅴ	
	英語圏の文化Ⅵ	
	英語圏の文化Ⅶ	
	英語圏の文化Ⅷ（※1）	
	History of English（※1）	

●ＳＡ不参加者（ＳＳＩコース以外）およびＳＪ参加者（外国人留学生入試で入学した留学生）の場合

・「世界の中の日本文化」区分から１科目２単位以上
・残りの４つの区分(「アジアの文化」「ユーラシアの文化」「ヨーロッパの文化」「英語圏の文化」）の内１つの区分から２科目４単位以上、それ以外の区分から１科目２単位以上

※SJ 参加者は「世界の中の日本文化」区分から「世界とつながる地域の歴史と文化」を必ず履修すること。

(※1)「英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史)」と「History of English」の重複履修はできません。

●履修例

ＳＡ英語圏学生の場合

①「世界の中の日本文化」区分から１科目２単位以上
②ＳＡ先と関連する「イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア」区分から２科目４単位以上
③ ②以外の「中国､韓国」「ロシア」「スイス､フランス､スペイン」のいずれかのＳＡ先区分から１科目２単位以上

ＳＡ諸外国語圏の場合　※ＳＡ中国の例

①「世界の中の日本文化」区分から１科目２単位以上
②ＳＡ先と関連する「中国､韓国」区分から２科目４単位以上
③ ②以外の「ロシア」「スイス､フランス､スペイン」「アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア」のいずれかの区分から１科目２単位以上

国際文化学部

専門教育科目

入門科目

基幹科目

情報科目

言語科目

メディアコミュニケーション科目

専攻科目

GA101

国際文化情報学入門

岡村　民夫、和泉　順子、奥石　哲哉、大中　一彌

配当年次／単位：**1 年／ 4 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**1 年生全体を 2 クラスに分割する**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『国際文化情報学入門』は各コースの担当教員によるオムニバス講義です。今年度の担当は下記の 4 名です。
情報文化コース：和泉順子
表象文化コース：岡村民夫
言語文化コース：奥石哲哉
国際社会コース：大中一彌
国際文化学部の学生として身につけてもらいたい基本的な知識を捉え、学生各自が在学中に共通に必要となる「文化を学ぶ考え方」を理解するための講義です。私たちの学部では文化を『情報文化』『表象文化』『言語文化』『国際社会』の 4 つの面から捉えようとしており、それぞれの分野を専門とする 4 人の教員が担当します。

【到達目標】
「情報文化」は、現代の都市型社会において「情報」こそが我々の思考や生活の基盤であるとの立場から、情報の生成、編集、再構成と文化の伝達や人間と情報のかかわりについて今日的な話題から学ぶ。
「表象文化」は、主に芸術的創造行為全般を対象とし、それらが生み出されるプロセスを実践の場から検証、さらに幅広い「知」の視点から研究する方法を学ぶ。
「言語文化」は、国際文化学部生として知っておいてほしい言語に関する基本的な知識を学ぶ。外国語学習のコツを、英語を題材にしながら考えていく。基本的なレファレンス類の使い方、大学での外国語の学び方、日々の情報の収集法等について、具体的に考える。併せて、他の 3 分野とのインターフェースについて学ぶ。
「国際社会」は、現代世界の文化的諸問題を国際関係的な視野のなかで考える態度と方法を学ぶ。その際、従来の国際関係論の方法とは違い、国際関係における文化や情報の持つ意義を、強調して考える。

【授業の進め方と方法】
・1 年生全員が履修します。
・週 2 回講義があります。
・130 名程度の中教室講義 x2 クラスでの講義です。
・出席、課題、レポート、試験等は分野ごとに課します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業全体のガイダンスを合同授業で実施する
2	【A グループ】第 1 講（表象・国際） 【B グループ】第 1 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 1 回） 情報：国際文化学部と情報 表象：ルネサンスから写真誕生まで 言語：言語文化と他分野とのインターフェース 国際：文化とは何か
3	【A グループ】第 2 講（表象・国際） 【B グループ】第 2 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 2 回） 情報：社会における情報 表象：映画誕生からモンタージュの発明まで 言語：大学で文献を読む A-1（レファレンス類をしっかり使おう） 国際：教養としての文化（西洋Ⅰ）
4	【A グループ】第 3 講（表象・国際） 【B グループ】第 3 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 3 回） 情報：文化としての情報 表象：印象派からアヴァンギャルドまで 言語：大学で文献を読む A-2（背景の文化事象を知ろう） 国際：文明と文化（西洋Ⅱ）
5	【A グループ】第 4 講（表象・国際） 【B グループ】第 4 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 4 回） 情報：メディアと情報 表象：トーキー誕生とマスメディア 言語：大学での外国語学習、小テスト 1 国際：幕末維新と文化（日本Ⅰ）
6	【A グループ】第 5 講（表象・国際） 【B グループ】第 5 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 5 回） 情報：情報とセキュリティ 表象：第二次大戦後の映画と写真 言語：大学で文献を読む B-1（ジャンルの違いを意識しよう） 国際：明治２０年代から大正デモクラシーへ（日本Ⅱ）
7	【A グループ】第 6 講（表象・国際） 【B グループ】第 6 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 6 回） 情報：情報リテラシー、メディアリテラシー 表象：補足と現代の映像文化 言語：大学で文献を読む B-2（要点を把握しよう）、まとめ、小テスト 2 国際：国際関係論への基本的な構え
8	【A グループ】第 1 講（情報・言語） 【B グループ】第 1 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 1 回） 情報：国際文化学部と情報 表象：ルネサンスから写真誕生まで 言語：言語文化と他分野とのインターフェース 国際：文化とは何か
9	【A グループ】第 2 講（情報・言語） 【B グループ】第 2 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 2 回） 情報：社会における情報 表象：映画誕生からモンタージュの発明まで 言語：大学で文献を読む A-1（レファレンス類をしっかり使おう） 国際：教養としての文化（西洋Ⅰ）
10	【A グループ】第 3 講（情報・言語） 【B グループ】第 3 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 3 回） 情報：文化としての情報 表象：印象派からアヴァンギャルドまで 言語：大学で文献を読む A-2（背景の文化事象を知ろう） 国際：文明と文化（西洋Ⅱ）
11	【A グループ】第 4 講（情報・言語） 【B グループ】第 4 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 4 回） 情報：メディアと情報 表象：トーキー誕生とマスメディア 言語：大学での外国語学習、小テスト 1 国際：幕末維新と文化（日本Ⅰ）
12	【A グループ】第 5 講（情報・言語） 【B グループ】第 5 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 5 回） 情報：情報とセキュリティ 表象：第二次大戦後の映画と写真 言語：大学で文献を読む B-1（ジャンルの違いを意識しよう 国際：明治２０年代から大正デモクラシーへ（日本Ⅱ）

13	【A グループ】第 6 講（情報・言語） 【B グループ】第 6 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 6 回） 情報：情報リテラシー、メディアリテラシー 表象：補足と現代の映像文化 言語：大学で文献を読む B-2（要点を把握しよう）、まとめ、小テスト 2 国際：国際関係論への基本的な構え
14	【A グループ】まとめ（表象・言語） 【B グループ】まとめ（情報・国際）	合同授業による分野別まとめ
15	まとめ	学習内容の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各コースの授業において予習復習、課題、文献講読などが課されるので毎回の授業の後にかならずこれらの学習活動を行ってください。また大学での最初の科目授業であり、担当ごとの授業スタイルの違いもあるので学習方法そのものに早い時期に慣れる必要があります。学習支援ハンドブックをはじめ各教員の指示によくしたがって学習を進めてください。

【テキスト（教科書）】
指定した教科書は用いませんが、必要な文献等に関しては、それぞれの分野ごとに必要に応じて指示します。

【参考書】
担当教員それぞれの開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
各分野の点数配分をそれぞれ 25%とし、それを合計する。内訳は（ ）のとおり。
情報文化＝ 25%（平常点 10%, 試験 15%）
表象文化＝ 25%（平常点 10%, 試験 15%）
言語文化＝ 25%（小テストで 25%、欠席は原則的に認めず、減点の対象となるので留意のこと）
国際社会＝ 25%（レポート成績（任意）、小テスト、授業への貢献、その他の 4 項目で、各 25 %)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
大人数の必修の授業となるので、円滑な運営が行えるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する（国際社会・言語文化・情報文化）

【その他の重要事項】
学年全体を 2 クラスにわけて授業を行ないます。
どちらのクラスも週 2 回授業があります。
自分がどちらのクラスに該当するか必ず確認してください。

GA101

チュートリアル

担当教員はガイダンス時に指示

配当年次／単位：**1 年／ 1 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは、大学における勉強とは何か、です。

【到達目標】
チュートリアルは、高校から大学に移行するための初年次教育として位置づけられます。教育目標には、精神面と技術面、二つの側面があります。精神面については、大学生としての心構えを身につけます。つまり、問題点を自分で見つけ、その解決策を考える姿勢を身につけます。技術面については、ごく基礎的なアカデミックスキルズを身につけます。資料の検索方法・レポートの書き方・プレゼンテーションの仕方などを学びます。最終的な目標は、みなさんがまとまったレポートを作成する、あるいはプレゼンテーションをおこなう力を身につけることです。

【授業の進め方と方法】
例として、テキストが『大学生のためのレポート・論文術』である場合、テキストに従い、基礎的なアカデミックスキルズについて説明します。スキルズという言葉は機械的なイメージを与えますが、レポート・論文は自分の考えをまとめ、それに表現を与えることです。つまり、自分の考えを他人にアピールすることです。そのコツがつかめてくると楽しくなってきます。
授業の時間配分は（目安です）
○前回の復習： 10 分
○説明： 60 分
○例題： 20 分　例文について意見交換し、次回、自分の意見をまとめて提出してもらいます → 宿題。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方の説明、小論文の書き方（宿題の書き方）説明
第 2 回	講義の聴き方・ノートの取り方	なぜ講義を聴くのか、なぜ専門用語が使われるのか、なぜノートを取るのか、なぜ私語がいけないのか
第 3 回	本や論文の読み方	どの本・論文から読み始めるのか、批判的・論理的思考とは何か、要約の仕方、キーセンテンスの見つけ方
第 4 回	要約の仕方	内容本位でまとめる，レポートや論文執筆における要約の重要性
第 5 回	情報の集め方と整理の仕方	図書館の活用の仕方、インターネットの活用の仕方、コピー＆ペーストの弊害、新聞・専門雑誌の活用の仕方、さまざまな資料整理の仕方、
第 6 回	レポート・論文の書き方	レポート・論文の構成とは、引用の重要性、なぜ剽窃・盗用してはいけないのか、推敲の重要性
第 7 回	プレゼンテーションやディスカッションの仕方	プレゼンテーションの準備の仕方、ハンドアウト（レジュメやスライド）の作り方、事前の練習の重要性、質疑応答の重要性
第 8 回	まとめ	授業のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として、毎回、課題・宿題を課します。新聞の読者欄（読者から寄せられた意見のコーナー）あるいは論説欄に掲載された意見・記事のコピーをお渡しします。それに対し、小論文の形式で、賛成・反対を明確にして、意見を書き、提出してもらいます。ただし、要約の仕方の回は、新聞あるいは雑誌の記事を要約してもらいます。

【テキスト（教科書）】
メインあるいはサブのテキストは、
『学習支援ハンドブック』（法政大学教育支援開発機構 FD 推進センター）です。
他にテキスト例をあげます。
小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2002）
佐藤望、湯川武、横山千晶、近藤明彦『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』（慶応義塾大学出版会、2006）

【参考書】
参考書例として、何冊か挙げます。
藤田哲也編著『大学基礎講座：充実した大学生活をおくるために』（改増版：北大路書房、2006）
森靖雄『大学生の学習テクニック　新版』（大月書店、2007）「就職活動篇」に四分の一強のページをさいています。
専修大学出版企画委員会編『知のツールボックス』（専修大学出版局、2009）
鳥飼玖美子『「英語公用語」は何が問題か』（角川 one テーマ 21、2010）

【成績評価の方法と基準】
発言など毎回の授業への積極的参加： 30%
授業内における発表： 30%
課題、レポートなどの提出物： 40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
チュートリアル自己評価シート集計結果を見ますと、「講義の聴き方・ノートの取り方」、「本や論文の読み方」、「プレゼンテーションやディスカッションの仕方」、「レポートや論文の書き方」については約 60%、「資料の収集と整理の仕方」については 70%の人が「十分に」・「ある程度習得・認識することができた」と回答されました。さらに多くの人が学習の成果を実感して身につけることが出来るように努めていきます.

GA201

国際文化情報学の展開

竹内　晶子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、1 年次の「国際文化情報学入門」に続くものとして開設されたものです（ただし必修ではありません）。本学部の４つのコース「情報文化・表象文化・言語文化・国際社会」の垣根を超えた、ゲスト講師を含む複数教員によるオムニバス授業で、共通の一つのテーマを巡り、それぞれの専門分野から講義を行います。今年度の全体コーディネーターは竹内晶子です。
今年度の本科目の全体テーマは「ユートピア（理想郷）」です。人間にとっての「理想郷」が、様々な時代で、文化で、分野で、どのような形態で想定され、実現のためにどのような試みが行われてきたのでしょうか。そしてそうした試みはいかなる現実を生んできたのでしょうか。
歴史、宗教、情報、国際関係、文学、音楽、芸能、言語、芸術――分野を異にする教員の刺激的な講義を通じて、「理想郷」を求める人間たちの、長きにまた多岐にわたる営みを追っていきたいと思います。

【到達目標】
・本学部の四つの柱「情報文化」「表象文化」「言語文化」「国際社会」にまたがった、広い視座を得ること。
・SA、ゼミ活動、卒業論文・卒業制作にむけて、幅広い視点からのヒントを得ること。
・学生それぞれが社会を構成する一当事者として、理想の人間社会のあり方について多角的に考察すること。

【授業の進め方と方法】
本科目はオムニバス授業です。「ユートピア」を共通テーマとして、毎回異なる教員（本学部教員とゲスト講師）が、それぞれの専門分野からの講義を展開します。学生には、毎回レスポンスシートの提出がもとめられます。
授業の詳細は、初回オリエンテーション時に説明します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第一回	オリエンテーション	竹内晶子による全体ガイダンス。
第二回	補陀落思想ーー海の彼方の理想郷	川村湊氏による。
第三回	Struggle in "Poisoned Paradise": Micronesia	今泉裕美子氏による。
第四回	開発というユートピア	松本悟氏による。
第五回	アーツ・アンド・クラフツ運動	鈴木禎宏氏（お茶の水女子大学基幹研究院）による。
第六回	日本の芸能と極楽表象	竹内晶子による。
第七回	エスペラント運動	内山政春氏による。
第八回	インターネットの構想と現実	和泉順子氏による。
第九回	IoT、人工知能、ビッグデータとユートピア	越塚登氏（東京大学）による。
第十回	エクソドス・フロム・チャイナ	島田雅彦氏による。
第十一回	アジアのユートピアとしての日本	鈴木靖氏による。
第十二回	イギリス文学とユートピア	中和彩子氏による。
第十三回	イギリス大衆音楽とユートピア	宇治谷義英氏による。
第十四回	アメリカ植民とユートピアニズム	保坂嘉恵美氏による。
第十五回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１．レスポンスシートを提出し、各回を復習する。
２．次回の概要を読み、関連トピックについて下調べをしておく。

【テキスト（教科書）】
各講師が授業の中で、あるいは授業支援システムを通じて、指示をする。

【参考書】
各講師が授業の中で、あるいは授業支援システムを通じて、指示をする。

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％、レスポンスシートを含む）、期末試験（７０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新担当科目のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムには必ず、常時使用するメールアドレスを登録する。

【その他の重要事項】
教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。遅刻・早退・私語は厳しく処分する。

GA211

ディジタル情報学概論

重定　如彦

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

ディジタル情報化社会、それを支えるディジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることをめざす。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

ディジタルとは何かについて理解する。

ディジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

ディジタル情報化社会及び、それを支えるディジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するため、教科書である「ディジタル情報学概論」の内容をもとにディジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。

授業の前半ではディジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「ディジタルとは何か」から始まり、ディジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、ディジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうディジタル技術について解説する。

各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに授業支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でてくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とディジタル	ディジタルとは何か 情報の符号化 ディジタルの利点と欠点
2 回	情報の伝達	インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3 回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛生を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その 1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5 回	安全な通信と暗号その 2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局
6 回	ディジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	ディジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型ディジタルコンテンツ 電子出版
11 回	電子報道、電子図書館、ディジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 ディジタルアーカイブ
12 回	3 次元 CG、ディジタルマップと GIS	3 次元 GC ディジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス	電子商取引 電子マネー電子商取引のセキュリティ
14 回	ユビキタスコンピューティング	ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID
15 回	人工知能とまとめ	人工知能 まとめ 期末試験の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する Power Point の資料（授業支援システムで配布する）

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1
http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/
にいくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。

レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

GA210

統計処理法

竹内　広宜

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通して情報・データに日々接しています。これらの、大量で多様な情報の中から、必要なものを抽出し、適切な解釈を与えることはけっして容易なことではありません。統計学は情報を数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。具体的には、情報を数値化する方法、数値を可視化する方法、数値を最終的に評価・解釈する方法等を習得していきます。

【到達目標】
・基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
・データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
・データを解釈する方法を身につける

【授業の進め方と方法】
授業ではまず、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。観測したい現象を数値データとして表現し、統計的な道具立てを使って分析するための基礎となるものです。
　講義期間の後半には、実際にごく簡単な分析も実施し、例題となるデータを題材にして統計的な観点から分析を試みます。「データから読みとる」といった感覚を、楽しみながら体験してもらいます。
　数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	統計の基礎 1	平均と分散
第 2 回	統計の基礎 2	統計データの取り扱い
第 3 回	統計の基礎 3	相関と回帰
第 4 回	確率分布 1	確率の定義
第 5 回	確率分布 2	ベイズの定理
第 6 回	確率分布 3	二項分布とポアソン分布
第 7 回	確率分布 4	正規分布
第 8 回	標本分布 1	母集団と標本
第 9 回	標本分布 2	大数の法則
第 10 回	標本分布 3	中心極限定理
第 11 回	検定と推定 1	仮説検定
第 12 回	検定と推定 2	点推定と区間推定
第 13 回	実分析 1	データの収集・整理
第 14 回	実分析 2	データの分析
第 15 回	まとめ	全体を通した議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に予定していません。

【テキスト（教科書）】
作成した資料を使って行います。

【参考書】
開講時にいくつか紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポート点を総合的に評価します。割合としては、ともに５０％を目安とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
理解が進むよう、実例をできるだけ多く紹介するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
講義実施期間中、数回演習を行います。演習にはエクセルなどの表計算ソフトが必要になります。事前に指定した日時の回には貸与パソコンまたは個人パソコンを持参してください。

GA212

システム論

葛西　誠

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは，いくつもの「システム」に囲まれながら 24 時間生活しているといっても過言ではありません．コンビニエンスストア，鉄道，授業のカリキュラム，これらはすべてある目的を達成するために作られた「システム」です．将来このようなシステムの開発・導入に携わる学生もいることでしょう．その際，「システム」とは何であるかの深い洞察なしには要求に適うシステムを開発することはできないでしょう．
また，人が作るシステムだけではなく，それを作り出す人間の社会そのものも，実は一種のシステムです．いったいどのようなシステムであるかがわかれば，世の中の複雑な出来事も予測でき，より良い社会を実現できるかもしれませんが，実際にはどうでしょうか．
本講義を通じて，履修者は身近な題材を元に，どのようにして世の中の複雑な現象が生じるのかを，多くの視点から考えます．授業で提供される話題を元に，多様な意見があることを認めつつも自らのオリジナルな考えを導けるようになります．またそれを誰にも理解してもらえるように，論理的な説明ができるようになります．

【到達目標】
自らがまたは社会が直面する問題に対して，何が問題の本質であるか，複数の要素が絡む場合は要素間の因果関係はどうか，どのようにすれば問題を解決できるか，「多くの視点」から，試行錯誤しつつ自分なりの答えを「論理的に」導けるようになります．この過程は授業内の小レポートに解答することで練習を積むことができ，返却される小レポートにてフィードバックを受け取ることができます．

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は，概ね以下の流れに従って展開されます．
・前回小レポートの解説，質問事項への回答，ディスカッション（15 分程度）
・講義形式での話題提供，いくつかの視点の提示（45 分程度）
・小レポート（30 分程度）

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の進め方や評価方法などを説明します．
第 2 回	「システム」の捉え方	システムとはどのように捉えられるのか，一般的な考え方を説明します．
第 3 回	人間の行動を表現する	一見気まぐれのように見える人間の行動には，規則性があるのでしょうか．これまでの考え方を説明します．
第 4 回	社会現象を表す －交通システムにおける需要の推計を例として－	何人もの人間が集まって生じる社会現象は，数式で表せるのでしょうか．身近な問題として，「鉄道を新設したら，何人乗ってくれるのだろうか」という需要予測の問題を考えましょう．これまでの予測方法についての基本的考え方を紹介します．
第 5 回	社会現象を表すことの難しさ －交通システムにおける需要推計の限界とその突破口－	これまでの手法による需要予測の限界と，それを解決しようと模索する取組みを紹介します．
第 6 回	社会理論	複雑な社会を理解しようとする「社会理論」について触れます．社会システム論で有名なルーマンの業績について概略を説明します．
第 7 回	社会と個人	社会基盤整備における市民参加を身近な題材の 1 つとして取り上げます．社会と個人との関わりをどのように捉えたらよいか考えます．
第 8 回	社会基盤と交通システム (1) － ITS －	「賢い交通システム」こと ITS（Intelligent Transport Systems）を紹介します．交通問題を解決するためにどのような工夫を凝らすべきか議論します．
第 9 回	社会基盤と交通システム (2) － TDM －	交通需要調整（Travel Demand Management）を紹介します．交通問題を解決するためにどのような工夫を凝らすべきか議論します．
第 10 回	社会基盤と交通システム (3) －最新の取組み－	混雑課金，動的路肩運用，流入制御など，いくつかの新しい解決策を模索する取組みを紹介します．
第 11 回	都市計画・地域計画	人の住まうところとしての都市にはどのような社会基盤が必要でしょうか．また国土を見渡して，どのような国土づくりをすべきでしょうか．都市計画・地域計画の考え方とその変遷を説明します．
第 12 回	システムダイナミクス	複雑な社会システムを理解するための道具としてシステムダイナミクスがあります．各要素と要素間の相互作用の表し方に触れることで，社会現象に対する多様な見方が存在することを説明します．
第 13 回	交通と文化	各国の交通システムは驚くほど異なっているように見えることがあります．交通システムの成り立ちが，その国の文化を色濃く反映している可能性があります．交通システムの違いを考察することで，文化の国際比較を試みます．
第 14 回	交通問題，社会問題に関するグループディスカッション	これまでの授業内容を踏まえ，グループに分かれ，ある社会基盤整備計画に対して賛成か反対かいずれかの立場に立ってグループ間でディスカッションを行います．意見の調整，建設的な議論を体験します．
第 15 回	授業の総括	これまでの授業を振り返り，多角的な視点を持つ重要さを再認識します．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習：社会システムを理解するために，新聞を読むなどして身近な社会問題の背景について自分なりに考察します．
復習：返却された小レポートの評価やコメントを読み，改めて自分の考えを整理します．この際授業支援システムにアップされた資料を参照することができます．

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません．講義資料プリントを配布します．

【参考書】
参考書は使用しません．

【成績評価の方法と基準】
小レポート（60 %），期末レポート（40 %）で評価します．
小レポート，期末レポートのいずれも，「自分なりの答えを導くまでの論理性」「多角的な検討を行っているか」を評価の基準とします．各回のレポートにおいて，最低限の論理性を満たしている答案には，合格最低点に相当する 6 割の評価点が与えられます．さらに，高い論理性を持っている答案，検討の視点が多い答案ほど，高評価となります．
注意事項：
・小レポートは毎回実施します．したがって，履修を希望する学生は，初回の授業から出席することを勧めます．
・知識の寡少は評価対象にはなりません．ただし，期末レポートにおいて，自分なりの答えを導くために，本やインターネット，講義資料を元に様々調べ得た知識を書くことは「多角的な検討を行った」ことの証しですので，評価の対象となります．ただし引用先を明記してください．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
「込み入った話になると理解できなかった」と意見がありました．わかりやすい話題を選定します．なお，授業内で提示される内容は，物事を考えるための素材であり，知識を身につけてほしいために提示しているわけではありません．折に触れて，どのように講義内容を聞いてほしいかを説明するようにします．

GA213

情報倫理学

森村　修

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目のテーマは、「文化情報」という観点から道徳や倫理を捉え、新しい「文化情報の倫理学」を構築することである。一般的に、「情報倫理学」として理解されているのは、コンピュータの使用者のモラルや、サーバー管理者の職業倫理などを含む「コンピュータ倫理学」である。しかし、本科目は、単なる「情報通信技術（ICT）」の規範を議論する「コンピュータ倫理学」ではない。

本科目がめざしているのは、「情報」を「文化情報」や「社会情報」として捉える視点を獲得し、グローバルに広がる「間文化的（intercultural）な情報空間」における倫理学を学ぶことにある。その意味で、最近、世界中で議論されている「間文化的情報倫理学（interculatural information ethics）」に焦点を当て、グローバル化する情報空間における倫理とメディアに関わる問題について思考する力を身につけることを学ぶ。

2016 年度は、チャールズ・エス『デジタルメディア倫理学（Digital Media Ethics）』（Charrles Ess, Digital Media Ethics,2009）を素材に、昨今、私たちの身近に存在するデジタル・メディアをめぐる倫理問題とその解決を考えていく。

もちろん本科目は、教職科目として位置づけられているが、「情報」教免取得という狭い視野に囚われず、広く「グローバル化する世界の中において、文化情報としての情報学とは何か」また、「多文化世界を生きる人たちに向けて、文化の情報学を教えるということはどういうことか」という問題に至るまで考えることができる。

【到達目標】

(1)「文化情報の倫理学」と「コンピュータ倫理学」との違いを身につけ、「情報倫理学」を「文化情報」や「社会情報」の観点から捉えることができる。
(2)「情報」概念が、コンピュータやネットワーク上の「デジタルデータ」以上に、広範で有意義な社会的な「意味」をもつことを説明できる。
(3) グローバル化した情報空間の中で、「情報」や「メディア」を扱う道徳や倫理のあり方について説明できる。
(4)「情報倫理」に関する批判的な思考を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

(1) 授業は教員による説明（講義形式）と学生による議論を併用する。
(2) テキストを読み、それについて参加者で議論を行なう。
(3) 議論の進行に伴う疑問点について、教員による説明・解説を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（本科目の意図の説明など）	・「コンピュータ倫理」と「文化情報の倫理」との違いについて ・「データ」と「情報」の違いについて
第 2 回	1. デジタルメディアにおける中心問題 (1) : 古くて新しい問題	・デジタルメディアとは何か
第 3 回	2. デジタルメディアにおける中心問題（2）: 倫理学におけるメディア問題	・デジタルメディアの倫理問題
第 4 回	3. 電子的にグローバルな巨大都市におけるプライバシー (1)	・現在のデジタルメディアと個人的なプライバシーの問題
第 5 回	4. 電子的にグローバルな巨大都市におけるプライバシー (2): インターネットとプライバシー	・西洋文化と非西洋文化の問題
第 6 回	5. 電子的にグローバルな巨大都市におけるプライバシー (3): 倫理的多元主義	・間文化的な対話の可能性
第 7 回	6. デジタルメディアへの情報拡散の問題 (1): コピーと情報拡散	・コピーライト、コピーレフト
第 8 回	7. デジタルメディアへの情報拡散の問題 (2): 知的所有権の問題	・知的所有権と情報管理
第 9 回	8. グローバルな巨大都市における市民権 (1): 倫理的問題	・文化的規範の問題
第 10 回	9. グローバルな巨大都市における市民権 (2): 文化的帝国主義	・宗教的表象をめぐる問題
第 11 回	10. グローバルな巨大都市における市民権 (3): 異文化間コミュニケーション	・「他者の他者性」の問題――他者とは何か？
第 12 回	11. デジタル・セックスとデジタル・ゲーム (1): 性と暴力の倫理	・インターネット上のポルノグラフィとオンラインゲームの暴力
第 13 回	12. デジタル・セックスとデジタル・ゲーム (2): モラルパニックの問題	・社会の「ポルノ化（pornification）」の問題
第 14 回	13. デジタル・セックスとデジタル・ゲーム (3): フェミニズム倫理学	・女性とメディアの暴力
第 15 回	14. デジタルメディア倫理学の構築	・新しい倫理学の枠組みに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（1）各回の準備として、テキストを読む。
（2）各回のテキストの該当箇所で重要だと考えられる概念などについて説明できるための準備をする。

【テキスト（教科書）】

Charles Ess, Digital Media Ethics, Polity Press, 2009.
（必要に応じて、教員が資料として配布する）

【参考書】

西垣通『基礎情報学―生命から社会へ』、NTT 出版、2004 年
西垣通『続　基礎情報学―「生命的組織」のために』、NTT 出版、2008 年
西垣通他編『情報倫理の思想』、NTT 出版、2007 年

【成績評価の方法と基準】

（1）期末レポート（60 %）、（2）平常点（40 %）
【評価基準】
（1）期末レポートについては、授業内容を十分に把握し、テキストを読みこなせていることが前提である。また、参考文献を三冊以上用いて、自らの見解を適切に表現していること。
（2）授業に積極的に参加し、自らの主張を論理的に表現すること。
（3）平常点

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

教職科目のため、「情報」教免取得を考える学生以外の学生から敬遠される傾向があるが、とても残念である。本学部が提唱している「間文化性（interculturality）」・「文化情報学」という観点から、「情報通信技術（ICT）」の在り方と規範について、さらには「技術倫理」や「メディア倫理」について学ぶ場として捉えてもらいたい。

【その他の重要事項】

【注意】

・「情報倫理学」は、あくまで哲学的思考を必要とする「倫理学」の一部である。単なる「情報」科目ではないことに注意してもらいたい。本科目は、「情報」のあり方を哲学的に思考しながら、新しい倫理を構築する「哲学／倫理学」に属する。それゆえ受講生は、自分の頭を使う努力が必要である。
・テキストを丹念に読み、自らの意見を論理的に主張できる意欲ある学生の参加を期待する。

GA213

情報産業論

鏡 明彦

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報産業の現状と展望
〜国内外の放送サービスを通して今を見つめ、将来を展望する〜
「情報産業」とは、収集、蓄積された情報をもとに、整理、加工、そして思考し、その結果を伝達、流通させる産業である。インターネットや関連機器の進展により、情報の伝達、流通を技術的に支えるＩＴ産業が飛躍的に発展し、情報産業が担う領域は益々広がっている。今や技術の進展なしに情報産業の発展はないといえる。しかし、情報を伝える手段が変わっても、情報の本質は不変である。メディアの仕掛けに惑わされることなく、本物の情報を見分ける能力の獲得=デジタルリテラシーの育成が重要である。本授業では、国内外の放送コンテンツの提供サービスを題材にしながら、伝送路（放送、通信）をキーワードに、情報産業を俯瞰し、各種メディアサービスの現状を把握し、その将来を展望する。インターネット環境を基盤にした、スマート端末に代表される、よりパーソナルな通信メディアの進展と物との繋がりが広がる IoT ともに、従来型のマスメディアである放送、新聞、雑誌の「ありよう」がどうなるのか？　それらのメディアを展望するのも本授業のテーマとする。

【到達目標】
・アナログからデジタルに移行した TV メディアの変遷の理解
・インターネットの進展に伴う IT 産業の現状理解
・放送と通信が融合しつつあるサービスの現状理解
・放送メディアが目指しているサービスの理解
・IoT をはじめとする様々な情報のデジタル化によるあらたな展開の理解
・今の時代に求められるメディアリテラシーについての理解
・各種マスメディアの今後の展望についての理解
・国内外のメディア動向の理解
・国が進める施策の理解

【授業の進め方と方法】
基本的に、プロジェクターを使用してＰＣでのスライドや動画を活用しながら授業を進める。題材は、国内外の最新情報を元に、適宜、インターネットの外部サイトに接続して具体的な事例を紹介する。現在、社内でデジタル TV 事業の開発を行っている観点から、出来るだけ現実的な題材を取り上げて、受講生の皆さんの意見を聞きながら進める。毎回、授業後に感想や質問をメモで提出。それについて次回の授業で答えていく形式とする。また、毎年 5 月末頃に開催される NHK 放送技術研究所（世田谷区砧）の一般公開を利用して、持ち出し授業として見学会を催し、スーパーハイビジョンやハイブリッドキャスト等の最新放送技術やサービスに触れる機会を設ける。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	メディアの変遷	自己紹介及び今後の授業内容の説明と放送の歴史を通してメディアの変遷について触れる
第 2 回	放送と通信のサービスについて	放送、通信のサービスや連携について、その考え方や現代に至る変化の説明
第 3 回	放送局のコンテンツビジネス	NHK オンデマンドや Web サービス、データ放送、ハイブリッドキャストを通して、放送局の考えるコンテンツビジネスを俯瞰する
第 4 回	海外のコンシューマ向けサービスのトレンド	CES2016（家電の国際見本市）の展示内容からピックアップして、海外のコンシューマ向けサービスのトレンドを紹介
第 5 回	海外の放送業界のトレンド	NAB2016（全米放送機器展）の展示内容からピックアップして、放送業界に関する最新情報を紹介
第 6 回	NHK 技研の一般公開内容の紹介（事前予習）	NHK 放送技術研究所の一般公開の見学会（土曜日）に向け、事前に展示内容について説明し、当日の理解の参考とする
第 7 回	技研公開見学（この週は土曜日に持ち出し授業を行い、翌週の火曜日は休講）	5 月末に開催される NHK 放送技術研究所を見学し、最新放送技術とサービスを体感。見学した結果をレポートにまとめて翌々週の授業までに提出。成績に反映。
第 8 回	放送メディアの今後	欧米の国際見本市や技研公開の授業を通して感じた潮流について、状況を分析し、放送メディアの今後を考える
第 9 回	多様なネットサービスについて	欧米の国際見本市や技研公開の授業を通して感じた潮流について、状況を分析し、ネットサービスやビッグデータなどの情報活用、ドローンや Uber など個人に直接繋がるサービスの可能性について考える
第 10 回	ソーシャルメディアについて	Youtube、Twitter、facebook などに代表されるソーシャルメディアによる放送メディアへのインパクトを検証
第 11 回	多様化する端末や UI、IoT について	スマート化する端末やそれに搭載される UI（ユーザインターフェース）、さらに物への搭載が進む IoT について考える
第 12 回	情報化の光と影	一方的に送られてくる情報と検索して得る情報、ユーザとして、その選択をどうするのか？
第 13 回	国の動き	総務省、経済産業省、文科省等の国の取り組み状況を紹介
第 14 回	前期授業のまとめとレポート課題の説明	半期を通して行った講義のまとめ、レポート用課題説明
第 15 回	レポート提出	この時間内までにレポートを提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やテレビ、ネット情報などに常に興味を持ち、現状メディアのサービス展開について、日常的に理解を深めておく事。

【テキスト（教科書）】
特になし（講義単位で資料を準備し、それを活用する）

【参考書】
テレビ番組、新聞、雑誌、書籍、インターネット上に流れている情報。授業の中で適宜、アクセス先を紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点 6 割、レポート 4 割で評価します。レポート提出は必須です。レポート提出は 2 回で、NHK 放送技術研究所の一般公開見学の感想レポートと 7 月最後の授業で出題するテーマに関するレポート。レポート内容については、授業を通して得られた知識や情報をどのように理解して自分の考えにまとめているかと共に、なぜ、そのような結果となったかが分かりやすく伝わるように段階を追って記載されているかを見て評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎回、講義終了後、メモで授業の感想と質問を提出。感想や質問については、次の授業冒頭に取り上げ、理解の促進を図る。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
プロジェクターとインターネットを利用しながら、出来るだけ分かり易くビジュアル化した授業を行う予定。

GA213

ネット文化論

神戸　雅一

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットが発展し、我々の生活スタイルは大きく変化しています。これを「ネット社会」と呼びます。ネット社会の特性とその本質を理解することは、現代社会の動向に対して主体的に活動するために重要です。

本講義では通信ネットワークやコンピュータ、携帯電話を基盤とするインターネットの仕組みや歴史、その特性について扱います。また、ネット社会における、価値観、経済活動、合意形成、それを支える情報システムの重要性、知的財産権、プライバシー、倫理、技術について講義します。こうした内容の理解を通じ、ネット社会を構築する文化についての多面的な思考を深めていきたいと思います。

本講義が対象とする領域は、極めて変化が激しいものです。社会的・技術的な課題も日々発生します。こうした課題に対する正解は必ずしも存在するわけではありません。したがって本講義は単なる知識の獲得のみを目的としません。社会で生じている事象の本質を捉え、自らの視点で解釈し、日常活動に対する思慮を深めることを主な目的とします。

【到達目標】

日々変化をするネット社会のなかで合理的な行動を行うために、自らにとって重要な情報の選択基準を持続的に構築する考え方の習得を目標とします。また、講義で扱われるネット社会の事例に対し、受講者自らの意見を論理的に説明することや課題を設定し解決案を検討することも目標とします。

【授業の進め方と方法】

本講義では、ネット文化に関する話題をプレゼンテーション形式で紹介します。プレゼンテーション形式での実施ですが、講義で紹介した話題に対し、受講者が問題意識を持って主体的に考えることを期待します。受講者からの質問については、随時受け付けます。疑問点や詳細に知りたい事項があれば、積極的に質問してください。

毎回の講義の開始時に、講義の内容に関連するミニレポートの題目を提示しますので、講義終了後に提出してください。

期末に、ネット文化に関し、自らの意見を論じる試験の受験あるいはレポートの提出のいずれかを課します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ネットワークと文化	ネットワークの基礎、ネットワーク構造と組織構造等の社会事象や文化の関係について講義します。
2	インターネットとパーソナルコンピュータの歴史	現代の情報化社会を支えるインターネット技術と応用の歴史とパーソナルコンピュータの歴史について講義します。
3	無線通信とコンピュータの歴史	情報化社会の新たな発展の契機となった携帯電話を中心とした無線通信とその応用事例について講義します。
4	ネットワークによる社会的価値の変化	携帯電話の普及によるネットワークの拡大のメカニズムとそれに伴う社会的価値の変化について講義します。
5	ネットワークと経済活動	インターネットの普及による経済活動の変化について、ネットビジネスの事例を中心に講義します。
6	ネットワークとグローバル化	ネットワークの普及がもたらすグローバル化という変化の一形態について、「フラット化」の概念を中心に講義します。
7	ネットワークによるグローバル化の影響	グローバル化した社会が、人々の生活にどのような変化をもたらすかについて、多面的な事例を紹介し講義します。
8	ネットワークによる合意形成	ネットワークによる合意形成とイノベーションについて、政策決定や、企業内の合意形成の事例を交え講義します。
9	ネットワーク時代の情報サービス	ネットワーク化し高度化する情報サービスの概念とその効果や課題について多面的な事例を扱い講義します。
10	ネットワーク時代の情報システムの価値	ネットワーク化した情報システムが、どのように価値を付加し人々の生活を変えるのかについて講義します。
11	ネットワーク時代の知的財産権	特許、実用新案等の産業財産権ならびに著作権の概要とネットワークとの関係について日常生活における事例を交え講義します。
12	ネットワークとプライバシー	プライバシー保護の制度や運用事例を紹介し、ネットワークの普及に伴い新たに生じるプライバシー問題、対策について講義します。
13	ネットワークと情報倫理	ネット社会の情報倫理の概念と、制度、技術、運用による社会秩序について、身近な事例を提示し講義します。
14	ネットワーク社会を支える新技術	ネットワーク社会を支える新技術について、先進事例や企業、大学等で研究されている技術について講義します。
15	ネット文化論のまとめ	ネット社会についてこれまでの講義で紹介した内容について整理し講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義が対象とする領域の特性として、ネット社会とそれに影響を与える文化に関する事象に関心を持つことを期待します。ネット文化に関係するニュースや Web サイト等を日頃から関心を持って読み・聞き、そして考えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。各回の講義に対して資料を配布します。

【参考書】

講義で紹介した内容についてさらに理解を深めたいという受講者のために講義ごとに参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験の受験あるいはレポートの提出のいずれかを単位取得の条件とします。成績の評価基準は下記の比率に基づいて行います。

1.　期末試験または期末レポート：70%

講義を通じてネット文化論に関するテーマについて、自らの意見を論理的に記述してください。試験、レポートのどちらの方法にするかは、講義中にお知らせします。

2.　平常点：20%

講義への関心、参加度を評価し 20%を平常点とします。

3.　ミニレポート 10%

毎回の講義内容を理解し、講義内容に即した設問に対して、自分の意見をミニレポートに記述し提出してください。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

講義後に提出いただくミニレポートの内容を、次回の講義の冒頭に受講者の方にフィードバックします。これにより講師と受講者のインタラクションを図るようにしています。これ以外にも講義終了時に質問など議論したいことがあれば可能な限り応じます。積極的に声をかけてください。

GA230

表象文化概論

岡村　民夫、稲垣　立男、鈴木　晶、竹内　晶子

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**表象文化論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「表象文化」とは芸術諸ジャンルを指す総称である。文学、美術、演劇、音楽、映像芸術、漫画などの作品群を研究の対象とし、その表現手法、歴史的変遷などを辿りながら、それらが内包している意味、欲望、人々に与える影響などを解き明かしてゆくことを目指すのが、「表象文化論」である。ここでは、4 つの分野を扱いつつ、表象文化論の基礎教養を履修者に身につけてもらうことになる。

【到達目標】
この講義は、「国際文化情報学入門」の「表象文化コース」の次段階となる。この講義を聴いたうえで、または聴きつつ、表象文化コースの各専門科目でさらに踏み込んだ研究をすることが望ましい。
表象文化に関する全般的な知識を身につけた上で、各自の関心のある領域で専門研究が進められるようにする。

【授業の進め方と方法】
初回は担当教員 4 名全員が、それぞれの講義について解説する。
その後、4 人が 3 回ずつ講義をおこなう。
今年度の担当教員は、鈴木晶、竹内晶子、岡村民夫、稲垣立男。
学期末の試験では 4 分野からそれぞれ出題される。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「表象文化概論」の 4 名の担当者全員がそれぞれの授業計画の概略と履修上の諸注意について語る。
第 2 回	演劇的表現と映画的表現	シェイクスピアの「ロミオとジュリエット」を取り上げ、その原典の一部を読んだうえで、実際の上演、さらにその映画化について考察する。
第 3 回	オペラ的表現	グノーのオペラ「ロメオとジュリエット」を取り上げ、オペラ的表現とは何かについて考える。
第 4 回	バレエ的表現	マクミランのバレエ「ロミオとジュリエット」を取り上げ、バレエ的表現について考察する。
第 5 回	舞台の上の声の力	日本の伝統演劇と西洋の近代演劇を比較しながら、「声」が観客と舞台のコミュニケーションをいかに左右するか考える。
第 6 回	舞台の上の所作	日本の伝統演劇を例に、観客の解読をいかに舞台上の所作が誘発するのか、考察する。
第 7 回	日本古典演劇の欧米での受容	主に能を例に、20 世紀初頭から現代にかけての、西洋演劇における受容・応用を考える。
第 8 回	カメラポジション	水平、俯瞰、ローアングル、移動撮影
第 9 回	モンタージュ	カットバック、アクションつなぎ、連想によるモンージュ、長まわし
第 10 回	映画における装置	セット、ロケ撮影、アニメーション、CG
第 11 回	メディアアートについて：1960 年代のヴィデオアート	ナム・ジュン・パイク他、ビデオアートの創世記の作品について
第 12 回	メディアアートについて：1980 年代のメディアアート	ヴィデオアート・ヴィデオインスタレーションとメディアアート
第 13 回	メディアアートについて：メディアアートの現在	2000 年代以降のメディアアートについて
第 14 回	試験	試験
第 15 回	予備日	予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各担当教員が指示する。

【テキスト（教科書）】
学期を通して用いるテキストはとくになし。各担当教員が講義時に指示する。

【参考書】
各担当教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への取り組み、レスポンス・シートの記述）と、期末試験の合計。評価基準は平常点 30 %、期末試験 70 %とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
担当者交代のため、該当しない。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、静止画像および動画を用いる。

【その他の重要事項】
初回のガイダンスにかならず出席すること。
特別な事情がないかぎり、初回に出席しなかった者は登録できない。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもありうる。

GA216

メディアと情報

君塚　洋一

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】
以下 3 点を目標とする。
1）身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
2）環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性と問題性の両面を学習する。
3）メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【授業の進め方と方法】
メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、音楽などの具体的な素材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT 化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。
また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。
テーマに関連した資料映像を適宜上映つつ進める。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第 2 回	メディアの特性とコミュニケーション	メディアとは何か？　さまざまなメディアのかたちを見る
第 3 回	コミュニケーションをとらえるさまざまなモデル	伝達モデルと共有モデル、関係モデル、交話モデル、M. マクルーハン等
第 4 回	何がメディアの情報となるのか？	情報の特性：最近の「ニュース」を事例に
第 5 回	参加型課題（予定）	これまでの授業の理解、および関連文献の要約とコメント等
第 6 回	メディアが現実・経験をつくる-1	言語・メディアが世界を「構成」する：ピクチャレスク・ツーリズムなどを事例に
第 7 回	メディアが現実・経験をつくる-2	メディア・リテラシーによる批評と分析：メディア表現の内容分析などを事例に
第 8 回	メディアが現実・経験をつくる-3	メディア文化とノスタルジー
第 9 回	参加型課題（予定）	これまでの授業の理解、およびメディア表現の鑑賞と評価等
第 10 回	市場情報システムとメディア表現-1	マーケティング戦略と広告表現：シャンプー CM などを事例に
第 11 回	市場情報システムとメディア表現-2	広告クリエイターの制作作法
第 12 回	ポストモダン社会とメディア、情報-1	ポストモダンとは、記号の引用と操作
第 13 回	ポストモダン社会とメディア、情報-2	ポストモダン社会と人間・文化の変容、情報倫理
第 14 回	まとめとふりかえり	春学期のまとめ、ふりかえり、補足
第 15 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1) テレビやインターネット、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につけておくこと。
2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手 (媒体社、広告会社等) の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がけること。

【テキスト（教科書）】
原則として使用しない。

【参考書】
有馬哲夫　『世界のしくみが見える「メディア論」』　宝島社（宝島新書）　2007 年
ダニエル・ブーニュー　『コミュニケーション学講義――メディオロジーから情報社会へ』　書籍工房早山　2010 年
鈴木みどり編　『Study Guide　メディア・リテラシー　入門編』　リベルタ出版　2000 年
竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著　『新版メディア・コミュニケーション論 1・2』　北樹出版　2005 年
若林直樹・白尾隆太郎編著　『イメージ編集』　武蔵野美術大学出版局　2003 年
山田奨治編著　『文化としてのテレビ・コマーシャル』　世界思想社　2007 年

【成績評価の方法と基準】
授業内小レポート（3 回程度： 30 %）および筆記試験（70 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。
毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。
また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
メディアやさまざまな作品表現に興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】
本科目は、講義、授業内課題、筆記試験の 3 つで成り立つ。授業の理解や発展学習のため、授業内課題を 3 〜 4 回課し、受講者による発表の機会を設ける。テーマについて高い関心をもち、積極的な発言と活動を行う意欲のある受講者を求める。

GA230

社会と美術

稲垣　立男

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**戦争と美術**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代美術や音楽、建築などのユニークで多様な表現の世界について体験的に学びます。これまであまり接したことのない作品世界に関して、そのものの見方や考え方に触れるきっかけとなる入門的な内容の講義です。
「美術史入門」
「社会と美術」
「メディアと美術」
「美術館・国際展・オルタナティブな場」
という 4 つのテーマで講義を進めます。毎回の講義の冒頭には最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

【到達目標】
『美術史入門』
この科目を学ぶ上での基礎となる近現代の美術史について学びます。
『社会と美術』
アーティストの制作の現場をめぐる講義です。アーティスト達はどのようにアイディアを展開し作品が作られていくのか、その過程を探ります。また実際に発表された作品をめぐる社会的な問題について多角的に分析します。
『メディアと美術』
社会や時代を映す鏡としてのアートとメディアの関係について、具体例を交えながら学びます。
『美術館・国際展・オルタナティブな場』
役割が分化・多様化する美術館や国際展や、オルタナティブなアートの現場について考察します。

【授業の進め方と方法】
スライドでの講義と映像資料による鑑賞が中心ですが、講義内容に関連したレポートを毎回書いてもらいます。レポートを書くことで、それぞれのテーマについてより深く考察することを目指します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 社会と美術について	講義内容/教科書・参考書/評価基準について
2	美術史入門 近代美術について	印象派、フォービズム、キュビズム、未来派・ダダ、シュルレアリズム、構成主義、デ・スティル、バウハウス
3	美術史入門 戦後の美術〜現代の美術	抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート、新表現主義、YBA、関係性のアート
4	社会と美術 社会の枠組みと美術	サリー・マン、ロバート・メイプルソープ
5	社会と美術 環境と美術	蔡國強、ロバート・スミッソン
6	社会と美術 個と社会が触れ合う	草間彌生、ハンス・ハーケ、赤瀬川原平
7	社会と美術 体験する美術	クリスト・川俣正
8	メディアと美術 新しい建築	伊東豊雄、レム・クールハース、フランク・ゲーリー
9	メディアと美術 わたしを記録する	ソフィ・カル、シンディ・シャーマン、森村泰昌
10	メディアと美術 現代音楽と美術	ミニマル・ミュージック スティーブ・ライヒ、伊福部昭
11	メディアと美術 メディアとしての写真	ソフィ・カル、杉本博司、他
12	美術館・国際展・オルタナティブな場 キュレーションの現在	ハラルド・ゼーマン、ジャン・ユベール・マルタン、ハンス・ウルリッヒ・オブリスト
13	美術館・国際展・オルタナティブな場 美術館・国際展の現在	ポンピドゥー・センター、テート・モダン、ニューヨーク近代美術館、金沢 21 世紀美術館
14	美術館・国際展・オルタナティブな場 オルタナティブな場	オルタナティブスペース、アーティスト・イン・レジデンス
15	まとめ	アートの未来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術を学ぶには、実際の作品鑑賞することがとても重要になります。美術館やギャラリーなどでなるべく多くの作品に触れてください。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内容に関連した資料を配布します。
授業を通じて参考書や映像資料、おすすめの展覧会などを紹介します。

【参考書】
『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで　世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009 年
サラ ソーントン『現代アートの舞台裏 5 カ国 6 都市をめぐる 7 日間 』ランダムハウス講談社、2009 年
暮沢剛巳、難波祐子『ビエンナーレの現在―美術をめぐるコミュニティの可能性』青弓社、2008 年
ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門―美術史を超えるための方法論』晃洋書房、2001 年

【成績評価の方法と基準】
平常点と授業毎に行う授業内レポートにより成績を評価します。
1. 平常点（50%）
2. 授業内レポート（50%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
美術を学ぶためには、体験的かつ分析的な物の見方が必要でしょう。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出のために、授業支援システムを利用する可能性があります。

【その他の重要事項】
初回のガイダンスに必ず出席してください。
特別な事情がないかぎり、初回に出席しなかった者は登録できません。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

GA230

メディアと社会

稲垣　立男

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**現代社会とマスメディア**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**席数を超えた場合選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちはメディアを通じて個人や社会とつながりを持つことができます。一方でこれらのつながりの過程で引き起こされる様々な問題もあり、多様化したメディアについて、よりいっそう理解を深める必要があります。
メディアが社会のなかでどのような役割を担っているのか、将来メディアはどのようになるべきなのか、映像資料などの具体例を交えて読み解いていきます。

【到達目標】
授業では、メディアと社会に関する身近な事例を紹介していきます。身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。
毎回の授業ではリアクションペーパーを書くことになります。また授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

【授業の進め方と方法】
「現代メディア史」「メディアと社会」「メディアとアート」の 3 つの領域を軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。
『メディアの歴史』
古代から現代までのメディアの歴史について学びます。
『メディアと社会』
社会の中で機能するメディアやその問題点について明らかにしていきます。
『メディアとアート』
メディアという観点からアートを読み解いていきます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義内容 教科書・参考書 評価基準など
2	『メディアの歴史』 ―文字の誕生―	文字の誕生とその発達の歴史について
3	『メディアの歴史』 ―活字と文化―	活字（印刷）の発明と近代文化に与えた影響について
4	『メディアの歴史』 ― ヘルベチカ―	映像資料視聴。 書体 “ヘルベチカ” の秘密に迫る
5	『メディアの歴史』 ―ネットワークと社会―	パーソナルコンピューターの普及とリンクして、1990 年代後半から爆発的な発展を遂げたインターネットの歴史について 映像資料視聴。 今や世界で 1 日 10 億回の検索回数を誇ると言われるインターネット検索エンジンの雄「グーグル」について
6	『メディアと社会』 ―マスメディアと報道・チョムスキー―	国内外のメディアや地域や国によっての報道の違いなどについて
7	『メディアと社会』 ―企業とメディア・アップル―	映像資料視聴。 インターネットでの音楽ファイル共有ソフト・ナップスターの登場など、iPod が社会現象を巻き起こした時代背景とともに商品ヒットの要因を読み解く
8	『メディアと社会』 ―子どもとメディア・デジタルネイティブ―	現代の子どもをとりまくメディア環境の変化その問題点について。
9	『メディアと社会』 ―メディアと広告―	コマーシャルフィルムなどの広告の歴史と社会に与える影響について
10	『メディアとアート』 ―美術史とメディア―	美術におけるメディアの考え方とその変遷について
11	『メディアとアート』 ―メディアとアバンギャルド―	モダンアートとメディアの変化について
12	『メディアとアート』 ―多様化するメディア―	インスタレーション・パフォーマンス・インタラクティブアートなどについて
13	『メディアとアート』 ―メディアとしての建築―	建築とメディア、デザインとメディアについて
14	『メディアとアート』 ―メディアと料理― ―メディアとクリスマス―	料理をめぐるメディア論 日本におけるクリスマスについて
15	まとめ	メディアの未来について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に様々なメディアに接して、体験的に学ぶことが大事です。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内容についてのプリントを配布します。

【参考書】
吉見俊哉『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための 15 話』有斐閣、2004 年
ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門―美術史を超えるための方法論』晃洋書房、2001 年

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点 (50%)
2. 授業毎に行う授業内レポート (50%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
メディアに関する複雑な問題点について、わかりやすく教えていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用して課題を提出してもらう可能性があります。

【その他の重要事項】
初回のオリエンテーションに必ず出席してください。
特別な事情がないかぎり、初回に出席しなかった者は登録できません。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

GA230

身体表象論

鈴木　晶

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**国際文化情報学方法論 I**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**定員 60 名。それを超えたら選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちがみずから体験し、接触し、表現し、鑑賞するのは、身体そのものではなく、身体の表象です。
今年度はさまざまな「ダンス」を取り上げます。ダンスの歴史は人類の歴史と同じだけ古いといわれますが、さまざまなダンスにおいて、身体はどのように表象されているのかについて考えます。ただし、ここで取り上げるのは広義のダンスで、新体操、フィギュアスケート、シンクロナイズドスイミング、太極拳、サーカスなども含まれます。

【到達目標】
ダンスは私たちを取り巻いています。そのさまざまなダンスについて、その歴史的変遷、地域的ヴァリエーションなどを踏まえて、文化のなかでどのような位置を占めているのかについて判断できるようになること。
踊るか、観るだけか（踊る阿呆に見る阿呆、という阿波踊りの歌詞がありますが）にかかわりなく、私たちは一生、ダンスと関わりを持ち続けるはずです。ひとくちにダンスといっても、さまざまなダンスがあるので、それらの特徴を把握できるようになるのが目標である。

【授業の進め方と方法】
さまざまなダンスと、それに近接するジャンルを取り上げて、そこにおける身体の表象について考えます。具体的には、映像でダンスを観ながら、それを解説する、という形で授業をすすめます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要について説明します。
第 2 回	盆踊り	私たちにとって最も身近なダンスのひとつである、伝統的な盆踊りについて学びます。
第 3 回	YOSAKOI ソーラン	盆踊りの現代版ともいえ、日本全国でおこなわれている「YOSAKOI ソーラン」型の祭りに見られるダンスを取り上げます。
第 4 回	古典バレエ	１９世紀のロマンティック・バレエ、およびクラシック・バレエについて学びます。
第 5 回	現代のバレエ	欧米の劇場舞踊の主流であるバレエについて、とくに現代のバレエ作品について学びます。
第 6 回	バレエの姉妹（1）	氷上バレエ、すなわちフィギュアスケートの歴史を学びます。
第 7 回	バレエの姉妹（2）	水中バレエ、すなわちシンクロナイズドスイミングについて学びます。
第 8 回	バレエの姉妹（3）	新体操について学びます。
第 9 回	タップ（1）	アイルランドの伝統的なタップ・ダンス、スペイン舞踊（フラメンコ）におけるタップ、およびアフリカ系アメリカ人のタップについて学びます。
第 10 回	タップ（2）	ハリウッド・ミュージカルに観るタップ・ダンス、とくにフレッド・アステア、ジーン・ケリー、エレノア・パウエル、アン・ミラーについて学びます。
第 11 回	ダンスと武術	太極拳とカポエィラについて学びます。
第 12 回	シルク	シルク（サーカス）におけるダンス的要素について学びます。
第 13 回	ボールルーム・ダンス	ボールルーム・ダンスの歴史と、ダンス・スポーツについて学びます。
第 14 回	ブレイク・ダンスとマイケル・ジャクソン	ヒップホップ文化のひとつであるブレイク・ダンスについて、また、ミュージシャンとしてではなく、ダンサー・コレオグラファーとしてのマイケル・ジャクソンについて、とくに彼が誰の影響を受けているかについて学びます。
第 15 回	試験	記述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げられるダンスは限られていますので、上の予定表には含まれていないダンスを取り上げ、それについてレポートを書いてもらいます。

【テキスト（教科書）】
とくに用いません。毎回資料を配付します。

【参考書】
随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
特別な場合を除き、欠席は認めません。遅刻 2 回で欠席 1 回と見なします。
毎回、レスポンスシートを記入してもらいます。
その授業時平常点（50 %）と、試験の点数（50 %）で、成績をつけます。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
これまでは教授が一方的に講義をするスタイルだったので、今年度は学生の積極的な発言を求めます。また毎回ちょっとした課題を出します。

【学生が準備すべき機器他】
授業中には見られなかった映像を後で各自見てもらうことが多いので、 YouTube が見られる環境、つまりパソコンとインターネットが必要です。スマホ では小さ過ぎます。

【その他の重要事項】
初回に出席しないと、受講できません。

GA231

言語文化概論

衣笠　正晃

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**言語と社会**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「ポスト構造主義」として総括される思想的潮流についてのテキストを主な材料に、言語（ことば）を手がかりとして文化、社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直すための理論・概念を学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】

1）テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、ポスト構造主義の思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
2）学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【授業の進め方と方法】

出席者がテキストおよび事前配布資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。授業形式は講義が中心となりますが、皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、毎回予習の確認をおこなうとともに、リアクションペーパーのかたちで感想や質問を提出してもらいます。また復習を兼ねたミニレポートを課すことがあります。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説と履修意図の確認
2	差異の生き物としての人間（1）	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第 1 章）
3	差異の生き物としての人間（2）	バルトの記号学的分析（テキスト第 1 章）
4	まとめと補足（1）	19 世紀から 20 世紀への思想的転換と言語論
5	差異と文化（1）	バルトにおける「神話」（テキスト第 2 章）
6	差異と文化（2）	アルチュセールにおける「イデオロギー」（テキスト第 2 章）
7	まとめと補足（2）	構造主義とポスト構造主義――レヴィ＝ストロースをめぐって
8	差異と欲望（1）	フーコーの権力論（テキスト第 3 章）
9	差異と欲望（2）	ラカンと欲望の主体（テキスト第 3 章）
10	差異か真理か？（1）	デリダの「脱構築」と「差延」（テキスト第 4 章）
11	差異か真理か？（2）	文学・芸術からの考察（テキスト第 4 章）
12	ポスト構造主義の展開（1）	ジジェクによるデリダ批判（テキスト第 5 章）
13	ポスト構造主義の展開（2）	リオタールのポストモダニズム論（テキスト第 5 章）
14	まとめと補足（3）	学期授業内容の確認・総括
15	学期末試験	筆記試験（60 分）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも教員の指示に従ってテキストおよび事前配布資料を授業までに精読し、予習課題を作成すること。また復習を兼ねてのミニレポートが課された場合は、期日までにまとめ、授業内に提出すること。

【テキスト（教科書）】

・キャサリン・ベルジー（著）『ポスト構造主義（〈1 冊でわかるシリーズ〉）』（岩波書店、初版 2003 年）本体価格 1,600 円
・上記テキスト以外にも随時プリントを配布します。

【参考書】

・Catherine Belsey, *Poststructuralism: A Very Short Introduction* (Oxford University Press, 2002)（テキストの原書）
・その他、授業のなかで随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %、リアクションペーパーなどの提出物を含む）と学期末試験（50 %）をあわせて評価します。

評価にあたっては以下の 4 点それぞれの達成度にもとづいて判断します。
1）テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
2）思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
3）現代の文化・社会についての自らの問題意識を具体的にもちえているか。
4）授業をつうじての学びを（口頭や文章で）主体的・説得的に表現できているか。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

・授業への学生のより積極的な取り組みを促すため、質問箇所の解説に加えて、予習ポイントの解説なども充実させたい。

【その他の重要事項】

・クラス規模に応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。
・配布資料として英語資料を用いることがあります。
・授業妨害行為（私語、携帯電話の使用、歩き回りなど）にはきわめて厳しく対処します。この点が理解できない人はこの授業を履修しないでください。

GA231

比較文化

前川　裕

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は日本の近代文学作品の英訳あるいは、日本人および欧米人による日本文化論などをテキストとして読みながら、日本人の発想と欧米人の発想の相違を比較文化論的に考察する。文学作品をテクストとして用いることも多いが、文学研究そのものの授業ではないから、学生はもっと大きな比較文化的考察と発見を目指し、最終的には文化とは何かについて考える。

【到達目標】
学生が「文化とは何か？」という問に対する、歴史的な議論の流れを理解し、先行研究を踏まえた上で、文化を比較することの意味を理解できるようになること。フランス学派やアメリカ学派などの具体的な比較文化的方法論を身につけ、漠然とした日本と西欧の比較ではなく、アカデミックな意味での文化比較とは何かを認識できるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
授業は基本的には講義形式で進められる。ただ、学生諸君にあらかじめ資料を読んできてもらいたいときは、前週にプリントを配布する。また、学生の学習に役立つように講義メモを配布したり、必要に応じて、講義内容に関連する映画などを見てもらうこともある。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	比較文化論の方法	比較・対比などの用語を用いながら、伝統的な比較文化研究の方法論を概説する。また、文化の静態性・動態性などの概念を説明しながら、近年の方法論の展開も紹介する。
2	伊藤整『近代日本人の発想の諸形式』	島崎藤村の「新生事件」に関連する伊藤整の分析を紹介し、日本社会の構造に存在する＜曖昧さ＞について論じる。
3	ルース・ベネディクト『菊と刀』	日本文化研究の古典と見なされる『菊と刀』の内容を紹介し、その功罪について論ずる。
4	義理と忠・孝	ベネディクトが特に注目した「義理」という概念が、日本社会のなかでどのように機能してきたかについて論ずる。具体的な裁判事件が取り上げられ、「義理」という言葉の意味を考える。
5	小説および映画における「終わり」の問題を考える。	アリストテレスの peripeteia の理論を考えながら、東西における「終わり」の問題を考える。ルネ・クレマンの『太陽がいっぱい』あるいは大島渚の『少年』などのラストシーンを鑑賞し、西洋映画の ending を日本映画の「終わり」と比較して、考察する。
6	ベネディクトの再評価	ダグラス・ラミスやクリフォード・ギアーツなどの諸説を紹介しながら、『菊と刀』の現代的意味を考える。
7	翻訳論	表示義および共示義などの翻訳に関連する基本的用語を紹介しながら、翻訳とは何かを考える。
8	日本近代文学の英訳研究（1）樋口一葉『たけくらべ』	『たけくらべ』の英訳を用いながら、表示義的翻訳と共示義的翻訳を具体的に検証し、その功罪について論ずる。
9	日本近代文学の英訳研究（2）川端康成『雪国』	川端の曖昧な文体が翻訳者エドワード・サイデンステッカーによってどう翻訳されたかを紹介し、翻訳の本質について論じる。
１０	映画『雪国』鑑賞	言語が映像化されるとき、原文がいかに変容するかを考え、それを翻訳の場合と比較考察する。
１１	文化と犯罪	昭和４０年代の犯罪事件を具体的に取り上げ、それが当時の文化的社会的背景といかなる関係があったかについて論ずる。
１２	文化の均質化（1）	トルーマン・カポーティーの『冷血』を取り上げ、事実と虚構の問題について、文化論的に論ずる。
１３	文化の均質化（2）	佐木隆三の『復讐するは我にあり』と『冷血』を比較し、事実を描くということの意味を文化論的に考察する。
１４	文化を比較することの意味	もう一度翻訳論に立ち返り、言語的差違が文化表現にどのように反映されるかを考える。
１５	比較文化研究の最新の動向	それまでの講義内容を総括し、さらには、最新の比較文化研究の動向にも触れ、比較文化研究の将来について論ずる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書をあらかじめ読んできてもらう。

【テキスト（教科書）】
あらかじめ指定するテクストはない。テーマに応じて、読むべき参考書を指定する。

【参考書】
ルース・ベネディクト『菊と刀』
エドワード・サイード『オリエンタリズム』

【成績評価の方法と基準】
講義ノートのみ持ち込み可の授業内試験。大人数の出席が予想されるため、出席は取らない。評価基準は、授業内試験１００％。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
大人数授業のため、板書が見にくくなりがちであるので、講義を整理したプリントの配布回数を増やしたい。学生アシスタントを有効に活用し、配布時間の改善を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
学生が用意すべき情報機器は特になし。

【その他の重要事項】
配布プリントはあくまでも、講義の補助的な役割をするものですから、プリントだけ取りに来ても意味がないことを、学生諸君は自覚してください。

GA229

現代思想

森村　修

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**国際文化情報学方法論Ⅱ**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は「現代思想（contemporary thought）」という名称だが、単に「現代の流行の思想」を学ぶだけではない。「現代=同時代」という時代のなかで起こる出来事や物事の「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」、それが「現代思想」という科目の課題である。
特に 2016 年度は、「公共圏に挑戦する宗教」というテーマで、「公共圏（public sphere）」と宗教の問題を様々な哲学者の議論を中心に検討する。

《授業の目的》
本授業では、様々な異文化交流の次元で宗教と国家、信仰や信教の自由について哲学的に考察することができるようになる。

【到達目標】
(1) 宗教と政治の関わりについて「哲学的に考えること（philosophical thinking）」を、日常生活の場面で用いることができるようになる。
(2) 本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をなすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
基本的には講義形式で授業を行う。必要に応じて、学生との議論を行う。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要説明
2	1. 公共圏とは何か？①	・ハーバーマス『公共性の構造転換』（第二版序文）(1) ——市民的公共圏の生成と概念
3	2. 公共圏とは何か？②	・ハーバーマス『公共性の構造転換』（第二版序文）(2) ——公共圏の構造転換
4	3. 公共圏とは何か？③	・ハーバーマス『公共性の構造転換』（第二版序文）(3) ——理論枠組みの変化
5	4. 公共圏とは何か？④	・ハーバーマス『公共性の構造転換』（第二版序文）(4) ——市民社会あるいは政治的公共圏
6	5. 公共圏とは何か？⑤	・ハーバーマス『公共性の構造転換』（第二版序文）(5) ——市民社会あるいは政治的公共圏
7	6. ハーバーマスと公共圏①	・『ハーバーマスと公共圏』①——トーマス・マッカーシ「道徳と政治の関係」
8	7. ハーバーマスと公共圏②	・『ハーバーマスと公共圏』②——セイラ・ベンハビブ「公共空間のモデル」
9	8. ハーバーマスと公共圏③	・『ハーバーマスと公共圏』③——ナンシー・フレイザー「既存の民主主義の批判のために」
10	9. ハーバーマスと公共圏④	・『ハーバーマスと公共圏』④——ニコラス・ガーンナム「メディアと公共圏」
11	10. 公共圏に挑戦する宗教①	・公共圏における宗教の力——メンディエッタ&ヴァンウントワーペン
12	11. 公共圏に挑戦する宗教②	・政治的なもの——ハーバーマス
13	12. 公共圏に挑戦する宗教③	・なぜ世俗主義を根本的に再定義すべきなのか——チャールズ・テイラー
14	13. 公共圏に挑戦する宗教④	・ユダヤ教はシオニズムなのか——ジュディス・バトラー
15	14. 公共圏に挑戦する宗教⑤	・預言宗教と資本主義文明の未来——コーネル・ウェスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業前に、基本的なテキストを読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
1. ユルゲン・ハーバーマス『公共性の構造転換』（第二版）、未来社、1994 年
2. クレイグ・キャルホーン『ハーバーマスと公共圏』、未来社、1999 年
3. エドワルド・メンディエッタ他編『公共圏に挑戦する宗教——ポスト世俗化時代における共棲のために』、岩波書店、2014 年

【参考書】
参考書については、随時、指示する。

【成績評価の方法と基準】
①討議参加・質問などの積極的な授業参加（40 %）
②期末レポート（60 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
1. 本科目は、「基幹科目」として、言語文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず、政治と宗教、民主主義や政治的暴力などに興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
2. 本学部が提唱する「文化情報学」に関わる科目として、本科目は位置づけられている。
3. テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
4. 万が一、受講生数が多い場合は、選抜も考えている。そのため、第 1 回目の授業には必ず参加すること。初回に参加しない場合は、登録できない可能性もある。

GA228

ジェンダー論

佐々木　一恵

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：**フェミニズム論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】
１．ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
２．言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【授業の進め方と方法】
・ジェンダー研究において重要な諸概念（母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリニティなど）を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。
・一次資料の簡単な分析を行ってもらいます。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。
・毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、A4 一枚のリアクションペーパーの形で提出してもらいます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
１	イントロダクション	ジェンダーと社会構築主義について
２	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ② 1980 年代以降の男性学の系譜について理解する。
３	「男らしさ」と相互行為論	①＜男らしさ＞を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトゥルギーならびにイブ・セジウィックのホモソーシャリティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャリティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。
４	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
５	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
６	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。
７	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ポルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
８	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
９	身体と自己アイデンティティー	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
１０	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
１１	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった３つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
１２	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
１３	復習とまとめ	ディスカッションを通じた、今学期の授業の復習とまとめ
１４	試験（１）	第一回試験
１５	試験（２）	第二回試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996 年）
伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2006 年）
千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013 年）
江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006 年）
木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー　２０％
試験（二回あるうち、必ず一回は受験すること）　８０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業でいちいち学生の意見を聞くなとのコメントを頂きましたが、大教室の授業においても、学生間の意見交換は授業において重要な要素と考えております。そのため、本年度も授業の中で受講生の皆さんに意見を述べてもらったり、また小さなディスカッションを行って頂く予定です。

【その他の重要事項】
・受講希望者が 200 名を越える場合は、選抜を行う可能性があります。
・授業の中で、受講者の皆さんに意見を述べてもらったり、小さなディスカッションを行ってもらうことがあります。

GA232

異文化間コミュニケーション

江村　裕文

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**外国人とのコミュニケーション**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なった文化を背景にひきずった個人同士が出会い、互いに理解しあえる関係を築く、というのが、外国人との交流なり異文化間コミュニケーションに対してみなさんが抱くイメージなのではないかと思う。

異文化を理解するのは、口で言うほど容易ではない。

異文化者が出会ったとき、それぞれの背景の文化が異なることが原因でどういうこと起こってくるのか。最悪のコミュニケーション・ブレイクに陥らないためには、どうしたらいいのか。自らの体験に基づきながら事例を紹介している直塚玲子の著作をテキストにして、異文化（間）が抱える諸問題に触れていきたい。

【到達目標】

異文化間の具体的な問題としてどういうことが起こるかを事例を通じて知ったうえで、自分がそういう場に遭遇した場合に、適切に対処し、問題を最小限に食い止め、可能であれば「相手」との interaction 相互作用を通じて関係を改善できるという能力を養う。

【授業の進め方と方法】

本講では、まず鈴木の著書にある、「文化」とは何か、についての考察をすすめて「文化」に関する理解を共通にし、その上で、日本人と (特に欧米の) 外国人がコミュニケーションをする上での諸問題について、直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』にあげられている事例や、さらに、可能であれば、上級生のＳＡ体験者からの体験談やさまざまな具体的な問題点を持ち寄りながら、討論や考察をすすめていきたい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
１	オリエンテーション・テキスト紹介・報告箇所の割り当て	授業の進め方およびテキストについて解説し、テキストの報告個所について割り当てる
２	「文化」について	「文化」をどうとらえるかについて講義する
３	「文化」が異なるということ	ことばとの関連において、「文化」が異なるということについて講義する
４	「欧米人が沈黙するとき」①	「私と異文化との出会い」 講読と解説
５	「欧米人が沈黙するとき」②	「この間はどうも」 －感謝の気持ちのあらわし方
６	「欧米人が沈黙するとき」③	「すみません」 －人間関係の潤滑油
７	「欧米人が沈黙するとき」④	「何もありませんが…」 －謙遜表現をめぐって 「どうぞよろしく」 －不当な義務
８	「欧米人が沈黙するとき」⑤	「プライベートな質問」 －プライバシーとは 「一杯飲みにいきませんか」 －誘い方・断り方
９	「日本人が沈黙するとき」①	「夜遅くまで、ご熱心な練習ですこと」 －苦情の述べ方 「イエスですか、ノーですか」 －婉曲表現
１０	「日本人が沈黙するとき」②	「ご意見をどうぞ」 －タテマエ 「窓を開けてもいいですか」 －責任回避
１１	「日本人が沈黙するとき」③	「根回し」 －時間の浪費？ 「酒とコミュニケーション」 －日本的契約
１２	討論「異文化間コミュニケーション」における問題点	ＳＡを経験した上級生の経験を踏まえて、異文化コミュニケーションにおける問題点を共有する
１３	討論「異文化間コミュニケーション」のために	授業の内容を踏まえて、「異文化」をどう乗り越えていったらいいか考える
１４	討論「日本文化と異文化」	自分が日本文化の体現者であるということと、異文化を理解するということにおける問題点を考える
１５	まとめとレポート提出	テキストおよび討論を踏まえて、レポートを作成し提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「テキスト」を読む時間においては、割り当てられた個所について報告準備を行い、その内容に関する疑問点や関連して討論してほしい内容、コメント等を用意すること。

「討論」に関しては、設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように情報収集等を行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは以下の二点
鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』大修館書店

【参考書】

授業中に適宜紹介の予定である。

【成績評価の方法と基準】

原則、「平常点」４０点、レポート６０点の合計１００点で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

ＳＡ体験者の上級生の体験談が聞きたいという、特に一年生からの要望が多いので、その機会をもう少し多くしたい。

「今回の課題図書を読んで国際文化学部において学ぶべきことの概観が漸く見えたように思える。これから自分の専門分野を見つける上で基礎的な視野を得ることができた。」（１年生）

「私がＳＡプログラムで直面した問題には日本人の特有さがあったということに授業・レポート作成を通して気づかされた。」（３年生）

以上は最終レポートに書かれた一部である。この授業には、学ぶ側の姿勢次第で、より豊かな学びの可能性があると確信している。

【その他の重要事項】

この授業は「コミュニケーション」の授業である。コミュニケーションが苦手な学生の積極的参加は評価するが、コミュニケーションを最初から拒否する姿勢で授業に臨む、たとえばずっと寝ているとか、は教室内に存在していないと判断する。コミュニケーションは知識よりも実践である。このことを実感してほしい。

GA237

国際関係学概論 I

山田　朋美

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**国際関係学概論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**教室定員を超えた場合には抽選・選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際関係は、決して政治家や外交官、あるいは NGO のメンバーのみによって担われるものでもなければ、はるか遠い地域で繰り広げられている出来事でもない。身近な地域や、個人のレベルでも展開され、また、私たちの暮らしと深く関わるものである。それでは、いったい私たちはどのように国際関係と関わっているのであろうか？ この授業の目的は、国際関係の形成と展開を追うことで、私たちが当たりまえのものと考えている現在の世界がどのように築かれてきたのか、そして、人類がその時々の国際関係とそこに生じる諸問題をどのように捉え、理解し、分析してきたのかを学びながら、私たちと国際関係との関わりあいについて考察することである。

この授業では、国際関係を生み出し、これを突き動かしている行為体（actor）が、西欧国家体制の成立以来、度重なる戦争や市民革命、支配からの解放運動を経てどのように変容し、また多様化してきたかのを学ぶ。そして、その行為体の変化に伴い、当初は主権国家同士のものとされていた国際関係が、いかに変容してきたのかについて理解する。同時に、第一次世界大戦を契機に誕生した国際関係論の展開を追いながら、国際関係を分析するための視点とツールを紹介していく。

【到達目標】

①国際関係の基本概念や理論を、それが生みだされた 17 世紀から第二次世界大戦までの歴史的背景も含めて理解できるようになる。
②貧困や紛争、テロ、グローバリゼーションなど、現代世界で起こっている事象や問題を、歴史的・構造的に理解・分析し、自分の言葉で説明することができるようになる。
③日本、そして私たちが国際関係とどのようにかかわっているのかについて考察を深め、自分なりの答えを見出すことができるようになる。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で進めるが、できるだけ双方向の授業を目指す。そのため、毎回の講義の最後に、受講者に配布するリアクションペーパーに、授業内容についての質問や意見を記入してもらい、次回の授業の冒頭で解説を行う。また、必要に応じて映像資料を利用したり、テーマを設定して受講者同士に議論してもらったりすることがある。受講者の関心や理解度、国内外情勢などに応じて授業内容を一部変更する場合もある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本講義の目的および進め方について提示する。また、日本における国際関係学の特徴について、地域研究および比較文化との関係から説明する。
2	国際関係の成立	現代の国際関係を規定する西欧国家体制について、その成立の背景と性格を学ぶ。また、非西欧世界の国際体制との比較を通じ、西欧国際体制の特徴を考察する。
3	市民革命と国際関係	欧米諸国において市民革命が起こった背景を学び、これが既存の国際関係にどのような問題提起を行ったのかを理解する。
4	ウィーン体制と勢力均衡	ウィーン体制の特徴である勢力均衡が出現した背景を学ぶと同時に、国際関係におけるパワーとは何かについて考察する。
5	ナショナリズム① 発生と展開、地域ごとの特色	ナショナリズムとは何か、いつ、どのように発生し展開してきたのかについて理解する。また、西欧および非西欧におけるナショナリズムを学び、地域によってナショナリズムの表れ方がどのように異なるか考察する。
6	ナショナリズム② ナショナリズム論	主要なナショナリズム論を学ぶ。そしてナショナリズムが生み出す諸問題について考察する。
7	帝国主義の時代① 世界の一体化と人々の分断	列強による世界分割や植民地支配を通じて世界が一体化する一方で、被支配者は差別・排除され、人々の間にへだたりが生じていった過程を学ぶ。また、帝国主義が現在の世界に与えた影響を考察する。
8	帝国主義の時代② 帝国主義論	帝国主義とは何かについて、様々な帝国主義論を通して学ぶ。
9	帝国主義の時代③ 抵抗運動とその論理	列強による帝国主義支配に対し、被支配者側がどのように「連帯」し、抵抗しようとしたのかを学ぶ。
10	第一次世界大戦① 第一次世界大戦の特徴	第一次世界大戦勃発の経緯と、その後の展開について学び、人類初の総力戦の特徴について理解する。
11	第一次世界大戦② 第一次世界大戦と現代世界の諸問題	第一次世界大戦が、その後の国際関係に及ぼした影響について考察する。
12	戦間期国際関係① 新たな国際秩序の模索と国際関係論の登場	第一次世界大戦後の、新たな国際秩序の模索について学ぶ。また、第一次世界大戦への反省から生まれた国際関係論の特徴について理解する。
13	戦間期国際関係② 国際関係における文化の意義への注目	戦間期の国際関係において、文化交流が果たした役割とその限界について考察する。
14	第二次世界大戦の勃発	第二次世界大戦勃発の経緯と、その特徴について理解する。
15	総括	これまでの講義をふりかえり、日本、そして私たちの国際関係における位置づけを再考する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、インターネットで毎日、国際状勢やそれに関する論説をチェックする。その際、必ず複数のメディアを当たり、報道内容の異同を確認し、その理由について考察すること。また、わからない言葉や興味を持ったことは、積極的にテキストや参考文献、事典などで調べること。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。

【参考書】

進藤榮一『現代国際関係学―歴史・思想・理論』有斐閣、2001 年。
高田和夫編『新時代の国際関係論―グローバル化のなかの「場」と「主体」』法律文化社、2007 年。
百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。

【成績評価の方法と基準】

授業内に配布するコメントシートや課題（40 %）。
セメスター末に行う筆記試験（60 %）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

これまで世界史を学習したことがない学生には別途参考文献を紹介する。

【その他の重要事項】

この授業は、国際関係学概論 II の前提となるものである。

GA237

国際関係学概論Ⅱ

山田　朋美

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：**比較民衆社会論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**教室定員を超えた場合には抽選・選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバリゼーション、格差、貧困、紛争、難民、差別、テロ。現在、こうした問題や現象に関する報道を目にしない日はほぼないと言ってもよい。しかし、これらの問題や現象は、身近なようでいて、どこか遠くの世界のものと捉えられがちであり、私たちといったいどのような関係にあるのかを考えたことがある人は、決して多いとはいえないのではないだろうか。この授業の目的は、このような現代世界が直面する諸問題が形成された歴史的経緯を学び、またこれを分析する視点とツールを提供することで、学生が国際関係と自らの関わり合いについて理解を深めることにある。

この授業では、まず、第二次世界大戦後の国際関係を大きく規定した冷戦およびその冷戦体制下で進んだ「脱植民地化」の動きについて学び、現在私たちが直面する問題の歴史的背景を理解する。同時に、冷戦中に生まれた国際関係に関する諸理論を紹介する。次に、冷戦終焉後に次々と表面化してきた諸問題を通じて、国際関係がどのように変容したかについて理解する。そして、国際関係およびそこで生じる諸問題が、私たちと歴史的・構造的にどのような関わりにあるのかについて考察を深める。

【到達目標】

①国際関係の基本概念や理論を、それが生みだされた背景も含めて理解できるようになる。
②現代世界における事象や諸問題を、歴史的・構造的に理解・分析し、自分の言葉で説明できるようになる。
③現代の国際関係における諸問題と日本および自分たちの関係を論理的に説明できるようになる。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で進めるが、できるだけ双方向の授業を目指す。そのため、毎回の講義の最後に、受講者にリアクションペーパーを配布し、授業内容についての質問や意見を記入してもらい、次回の授業の冒頭で解説を行う。また、必要に応じて映像資料を利用したり、学生同士でディスカッションをしたりしてもらうこともある。受講者の関心や理解度、国内外情勢などに応じて授業内容を一部変更する場合もある。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本講義の目的および進め方について提示する。国際関係の成立および展開について概観する。
2	冷戦と国際関係① 戦後国際秩序と国際連合の設立	第二次世界大戦後の国際関係の変化を、国際連合の設立を通して学ぶ。
3	冷戦と国際関係② 日本における国際関係論の誕生と展開	第二次世界大戦後間もなく、アメリカの国際関係論（IR）を導入する形で始まった日本の国際関係論が、政治学・経済学・法学を基盤としつつも、その後、第二次世界大戦以前の植民地政策研究や、移民研究、そして地域研究などを加えながら独自に発展し、「国際関係学」の成立に至る経緯を学ぶ。
4	冷戦と国際関係③ 脱植民地化の動き（アジア）	第二次世界大戦後、アジア諸国では植民地支配からの解放が進んだが、その際、冷戦体制からどのような影響を受けたのかを学ぶ。具体的には朝鮮半島とヴェトナムの事例を取り上げる。
5	冷戦と国際関係④ 脱植民地化の動き（アフリカ）	アフリカ諸国の政治・経済・文化的な脱植民地化の試みと、冷戦体制がこれに与えた影響について学ぶ。
6	冷戦と国際関係⑤ 第三世界からの異議申し立て	非同盟主義や地域協力などを通し、アフリカ諸国をはじめとする第三世界から国際関係および国際関係学に対してなされた異議申し立てについて学ぶ。
7	冷戦と国際関係⑥　冷戦下の国際文化交流	冷戦体制下でどのような国際文化交流が展開されたのかについて学び、文化と国際関係について考察する。
8	冷戦終焉後の国際関係① 民族紛争	冷戦終焉時、世界は「平和」になると期待されていたが、実際は世界各地で民族紛争が相次いでいる。冷戦後頻発した民族紛争の原因を歴史的に考察する。
9	冷戦終焉後の国際関係② 安全保障概念の変容	冷戦後、安全保障概念は大きく変化した。これまでの「国家の安全保障」に対して提示された「人間の安全保障」について学ぶ。
10	冷戦終焉後の国際関係③ 環境問題	環境問題が現実の国際関係に及ぼす影響を学ぶと同時に、越境的性格を持つ環境問題が、既存の国際関係学に提起する問題を考察する。
11	冷戦終焉後の国際関係④ 地域主義とグローバリゼーション	冷戦終焉後、進展したと言われている地域主義とグローバリゼーションを取り上げ、それぞれが私たちの日常生活に与える政治・経済・文化的影響について学ぶ。そして、地域主義とグローバリゼーションがどのような関係にあるかについて考察する。
12	冷戦終焉後の国際関係⑤ NGO の活動とトランスナショナルな市民社会	冷戦後の国際関係において、NGO が果たしてきた役割を概観し、トランスナショナルな市民社会について考察する。
13	9.11 と国際関係	9.11 が起こった背景の歴史的・構造的要因を学び、私たちとの関係性を考察する。また、9.11 後注目を集めた「文明の衝突論」についてその妥当性を検討する。
14	9.11 後の国際関係と「テロとの戦争」	9.11 後間もなく始まった「テロとの戦争」は、日本および私たちとどのような関係にあるか考察する。
15	総括	これまでの講義をふりかえり、日本、そして私たちの国際関係における位置づけを考察し、現代世界の諸問題と私たちの関係について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、インターネットで毎日、国際状勢やそれに関する論説をチェックする。その際、必ず複数のメディアを当たり、報道内容の異同を確認し、その理由について考察すること。また、わからない言葉や興味を持ったことは、積極的にテキストや参考文献、事典などで調べること。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。

【参考書】

進藤榮一『現代国際関係学―歴史・思想・理論』有斐閣、2001 年。
高田和夫編『新時代の国際関係論―グローバル化のなかの「場」と「主体」』法律文化社、2007 年。
百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。
その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内に配布するコメントシートや課題（40 %）。
セメスター末に行う筆記試験（60 %）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
図や地図などは、後方の座席の学生にも見やすいものを使用する。
学生が準備学習に取り組みやすいよう、次回の授業で扱う範囲のテキストの該当箇所について指示する。

【その他の重要事項】
国際関係学概論Ⅰと連動する内容であり、これを受講していることが望ましい。
国際社会コースの関連科目も同時に受講することを勧める。

GA240

国家と民族

中島　成久

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**国民国家と民族Ⅰ, 国民国家と民族Ⅱ**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「宗教と国民統合／非統合」というテーマで講義を行う。アメリカ（キリスト教）、インドネシア（イスラーム）、日本（国家神道）における「宗教と国民統合／非統合」の在り方を比較検討する。そして「無宗教」が当たり前とされる日本の宗教意識を再検討する。

【到達目標】
戦後日本人は「無宗教」を当然のように見做すようになっているが、その大きな原因は、戦前国家神道を「宗教ではない」と強弁してきたことと無関係ではない。日本人の宗教意識を、アメリカ、インドネシアの事例と比較検討することにより、国際的な立場に立った理解を得ることができる。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。視聴覚教材（DVD,VHS,Youtube）などを多用する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業全体の説明、成績評価の説明
第２回	アメリカ①	アメリカの市民宗教
第３回	アメリカ②	進化論とキリスト教ファンダメンタリズム
第４回	アメリカ③	進化論裁判映画「風の遺産」（前半）
第５回	アメリカ④	進化論裁判映画「風の遺産」（後半）
第６回	アメリカ⑤	妊娠中絶をめぐる文化戦争
第７回	インドネシア①	イスラーム原理主義とは何か？
第８回	インドネシア②	「パンチャシラ（建国五原則）」をめぐる対立
第９回	インドネシア③	バリ島爆弾事件とイスラーム過激主義
第１０回	インドネシア④	イスラームファッション
第１１回	日本①	NHK スペシャル「靖国――知られざる占領下の攻防」視聴
第１２回	日本②	国家神道の成立
第１３回	日本③	内村鑑三不敬事件
第１４回	日本④	天皇儀礼と戦後民主主義
第１５回	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１　テキストを読むこと
２　図書館などで関連文献を探し、読むこと

【テキスト（教科書）】
森　孝一　『宗教から読む「アメリカ」』講談社選書メチエ、２００６年
見市　建　『インドネシア　イスラーム主義のゆくえ』平凡社、２００４年
島薗　進　『国家神道と日本人』岩波新書、２０１０年

【参考書】
油井大三郎・遠藤泰生編　『多文化主義のアメリカ――揺らぐナショナル・アイデンティティ』東京大学出版会、１９９９年
倉沢愛子　『９・３０　世界を震撼させた日――インドネシア政変の真相と波紋』岩波書店、２０１４年
原田敬一　『国民軍の神話――兵士になるということ』吉川弘文館、２００１年

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み・態度（３０％）と試験の成績（７０％）を合わせ考慮する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
１　板書をもっときれいに書くこと
２　パワーポイントを使った講義をもっと増やすこと

GA237

平和学

松本　悟

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】
（1）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って実例を説明できる。
（2）自らの研究テーマや関心のある専門領域を平和学の視点から捉えることができる。
（3）平和学で取り上げられる方法を理解し実例に適用できる。

【授業の進め方と方法】
講義のほか、関連した問いを毎回提示し近くの学生と討議する時間を設ける。提示する問いには正解がないので、論理的に物事を考えると同時に、他者の考え方に触れる機会とする。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c 以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとすることについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	正戦論の系譜	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	サマリア人のジレンマ	他者を助けようとして傷つけてしまったとき、その責めを負うべきかを考える
8	紛争研究	武力紛争を研究するときの視点の持ち方について考える
9	構造的暴力への導入	積極的平和を考えるベースとなるケースについて国際開発機関に関する映像資料を観る
10	積極的平和としての開発	開発途上国が誕生した歴史的な経緯を振り返り、開発援助が必要とされた背景を考える
11	構造的暴力としての開発	人々の生活を改善するための開発が被害を及ぼす場合があるのはなぜかを考える
12	オンブズマン	国際機構による「暴力」を防ぐための制度について考える
13	国際機構の制度と平和	国際機構の制度的な特徴が平和や暴力にどう関わるかを考える
14	構造的暴力としてのお金	直接的暴力や構造的暴力と「お金」のつながりについて考える
15	権力と平和	授業全体を振り返った上で、権力が平和と暴力にどのように関わっているかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む習慣をつけ、平和に関わる記事を読んでおくこと。なお、新聞は紙媒体で読むこと

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
関連する文献を毎回の授業で示す

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業で配布するフィードバックシート）20%、中間レポート 40%、期末レポート 40%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生が多くても受講生の議論の時間を設ける

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること

【その他の重要事項】
受講生の関心や反応を見ながら、内容を多少変更することがある

GA240

宗教と社会

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**150 名（超えた場合は、選抜の可能性あり）**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】
１．宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
２．宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【授業の進め方と方法】
・歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。
・毎回、授業の最後に出される問い対する分析を、A4 一枚のリアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS 細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。
4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連していているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・ 紛争の問題を、宗教儀礼（供犠）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	復習とまとめ	ディスカッションを通じた、授業の復習とまとめ
14	試験（１）	期末試験（１）
15	試験（２）	期末試験（２）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。

【テキスト（教科書）】
特になし 。毎回、レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】
望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009 年）
棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005 年）
島薗進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006 年）
田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007 年）
タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006 年）
ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007 年）
ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009 年）
中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002 年）
磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代的カテゴリーの再考』（みすず書房、2006 年）
『岩波講座 宗教（全 10 巻)』（岩波書店、2004 年）
『諸宗教の倫理学（全 5 巻)』（九州大学出版会、1992〜2006 年）

【成績評価の方法と基準】
毎授業ごとのリアクションペーパー（20 %）、期末試験（80 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
レジュメに記載した内容が、授業の進行と前後したことがあったご指摘を受け、レジュメと授業内容が前後しないようにします。

【その他の重要事項】
・150 名を越える場合は、選抜を行う可能性があります。
・大教室の授業ですが、授業中に受講者の皆さんの意見を聞いたり、小規模なディスカッションを行ってもらうことがあります。

Religion and Society

田口　陽子

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will learn anthropological approaches to thinking about various issues regarding religions and societies. Rather than focusing on theological discussions, details of religious teachings, or categories of religions, this course will explore the everyday experiences and understandings of the spiritual, the sacred, the mysterious, or the unexplainable. After building a foundation of anthropological thinking, students will examine religions in relation to symbolism, boundaries, politics, and personhood in different societies.

【到達目標】
Students will:
- Understand basic anthropological approaches to religion and relativize their conceptions of religion, humanity, and society.
- Learn about comparative perspectives and the difficulties of translating and comparing concepts such as religion across different languages and societies.
- Develop critical reading and discussion skills in English and gain new perspectives on their own belief systems.

【授業の進め方と方法】
The course consists of short lectures, student presentations, and class discussion. Readings are assigned for each class. The lecturer first introduces the context of the literature, and then students present their assignments. Pre-assigned discussants prepare questions and comments and facilitate class discussion. Video resources are also used in a few classes. The course design will be adjusted depending on the number of participants and their interests.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course and scheduling (assigning presenters and discussants)
2	Anthropology of religion	Introduction to basic approaches to religions in different cultures and societies (Bowie 2006, chap. 1)
3	Symbolism 1	Introduction to symbolic classifications regarding the religious (Bowie 2006, chap. 2)
4	Symbolism 2: The sacred and cleanliness	Different categorizing systems for pollution, taboos, and uncleanliness in different societies (Douglas, Mary. 2004 (1966). *Purity and Danger: An analysis of concept of pollution and taboo*. London: Routledge)
5	Boundaries 1	Introduction to the boundaries of “us” and “them” and the politics of religious identity (Bowie, chap. 3)
6	Boundaries 2: Gypsy and non-Gypsy	The different concepts of dirtiness and the collective boundary making and management between Gypsy and non-Gypsy (Gorgio) (Okely, Judith. 1983. *The Traveller-Gypsies.* Cambridge: Cambridge University Press.)
7	Boundaries 3: Inside and outside	Changing and overlapping boundaries in the cases of “the public and private” and “the inside and outside” in postcolonial India. (Chakrabarty, Dipesh. 1992. Of garbage, modernity and the citizen’s gaze.*Economic & Political Weekly* 27 (10/11): 541-547. Kaviraj, Sudipta. 1997. Filth and the public sphere: concepts and practices about space in Calcutta. *Public Culture* 10 (1): 83-113.)
8	Boundaries 4: Human and non-human	When and how is a baby (or embryo/fetus) considered a human? Different boundaries between human and non-human (spirit/pre-human) (Video: *The Yanomami*, NHK)
9	Politics 1: Occult economies	The enchantment of modernity and the effects of capitalism (Comaroff, Jean and John L. Comaroff. 1999. Occult economies and the violence of abstraction: Notes from the South African postcolony. *American Ethnologists* 26 (2): 279-303.)
10	Politics 2: Hindu nationalism	Nationalism and religion: The case of Hindu nationalism in India (Jaffrelot, Christophe (ed.). 2007. *Hindu Nationalism: A Reader.* Princeton: Princeton University Press.)
11	Politics 3: Japanese cult	Entangled relations with the state: A new religious group (Aum Shinrikyo), their beliefs, modern state institutions and local communities in contemporary Japan (Video: *A* and *A2*, Tatsuya Mori)
12	Personhood 1: Caste society and homo hierarchicus	Classic comparison of the egalitarian individualism of the modern West and the hierarchical and relational (complementary) persons of Indian caste society (Dumont, Louis. 1980 (1966).*Homo Hierarchicus: the Caste System and its Implications*. (Complete revised English edition) Chicago: The University of Chicago Press.)

13	Personhood 2: Substance-code and dividuals	Another comparison of India and the West: Contrary to Western bounded "in-dividuals," Indian "dividuals" (dividable persons) are considered made of transactions of “substance-code” (food, sexual fluid, conversations, etc.) (Marriot, McKim. and Ronald B. Inden. 1977. Toward an ethnosociology of South Asian caste systems. *In The New Wind: Changing Identities in South Asia*, ed. Kenneth David, 227-238. The Hague: Mouton.)
14	Other worlds 1: Perspectives and multinaturalism	Other worlds 1: Perspectives and multinaturalism Different worlds or ontologies between the Western (multiculturalism) and the Amerindian (multinaturalism) (Viveiros de Castro, Eduardo. 2004. Exchanging perspectives: The transformation of objects into subjects in Amerindian ontologies. *Common Knowledge* 10 (3): 463-484.)
15	Other worlds 2: Spirit rituals	The changing relations and networks among humans and nonhuman entities, including deities and machinery: The case of South Indian spirit rituals (Ishii, Miho. 2015. The ecology of transaction: Dividual persons, spirits, and machinery in a Special Economic Zone in South India. *NatureCulture* 3:7-34.)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read the assigned texts and prepare questions or comments (e.g., about difficult or interesting parts, related cases, or other points for discussion) before class. Students are encouraged to read suggested further readings according to their own interests.

【テキスト（教科書）】
No textbook required. Readings (as suggested in this syllabus) will be shared or provided in class.

【参考書】
General reference:
Bowie, Fiona. 2006. *The Anthropology of Religion: An Introduction*, second edition. Oxford: Blackwell.

【成績評価の方法と基準】
Participation in class (50%)
Presentation (50%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Not applicable (New course)

【その他の重要事項】
Students who are interested in this course must attend the first session, in which we will decide on the course outline and presentation schedule. All participants are expected to read the reading material of the week and join class discussions.

GA240

国際文化協力

松本　悟

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**100 名前後が望ましい**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。1，2 年生には、専攻科目や演習として更に深めたい学問領域やテーマにつなげる機会にして欲しい。

【到達目標】
（1）国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につけること
（2）国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できること
（3）「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマついて説明できること
（4）関連する文献の趣旨を的確に読み取れること

【授業の進め方と方法】
講義、映像、他の受講生とグループディスカッション、フィードバックシートの提出など様々な形態を組み合わせて進める。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論
2	国際文化論とは	文化とか何か、国際文化論とはどのような学問かを考える
3	国際協力とは	グループ演習の形で国際協力について考える
4	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
5	開発コミュニケーション	進んだ技術の伝播をコミュニケーション理論とつなげて考える
6	文化の受容と抵抗	明治日本の近代化を支えたお雇い外国人を通して異文化への反応について考える
7	文化触変	異文化との接触で何が起きるのかを考える
8	文化遺産保護	なぜ文化遺産を守るのか、明治日本とイスラム国（IS）を通して考える
9	博物館学	他国の文化財保護に協力するという発想がどのように誕生したのかを考える
10	国連と文化	文化面での国際協力を進める国連機関の役割について考える
11	文化外交	開発途上国への文化協力を通してパブリックディプロマシーについて考える
12	人権	人権とは何かを歴史的に考える
13	難民受け入れ	難民受け入れ制度について「集団的汚名」という視点を通して考える
14	統合と同化	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
15	まとめ	1 学期の授業を振り返り、基幹科目として何を習得しそれを今後の学習にどう活かすかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に提示する課題文献を読んでくること

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
毎回の授業で提示する

【成績評価の方法と基準】
平常点（フィードバックシートで評価）20%、中間レポート 40%、期末レポート 40%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに必ず事前登録して下さい

【その他の重要事項】
2015 年度から担当教員が変更になっていますので、先輩からアドバイスをもらう際などには留意して下さい。この授業は国際社会コースの基幹科目ですので、特に 1、2 年生には将来どのような専門を学びたいか、SA で何を学んだらいいか、3 年生からどのようなゼミに入ったらいいかを考える場としてこの授業を活かして欲しいと思います。

GA111

情報システム概論

和泉　順子、櫻井　茂明、中村　文隆

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**抽選**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを構成しているハードウエア及びソフトウエアについて学習する。また、アセンブラについて実習し、ハードウエアの動作を理解する。ついで、データベースの機能を理解し、実習して使用できるようにする。さらに、情報処理システムの種類と機能、および開発・保守について学習する。

【到達目標】

コンピュータの構成、ハードウエアの動作、アセンブラなどを理解し、「IT パスポート」または「基本情報処理技術者試験」などの試験の一部に対応可能な知識や技能を習得する。また、データベース機能を学習し、実習をとおして使用可能にする。情報処理システムについては、種類や機能だけでなく、開発・保守についても学ぶ。

【授業の進め方と方法】

授業は 6 つのテーマ、すなわち、1. コンピュータのハードウエアの構成及び役割、2. アセンブラの機能の学習・作成、3. ソフトウエアの構成及び役割、4. データベース ACCESS の機能の修得及び使用、5. 情報処理システムの種類と機能、6. 情報システムの開発・保守の 6 項目である。

アセンブラおよびデータベース ACCESS の学習では、情報室のコンピュータを使用した実習を行う。その他のテーマについては、講義が中心になるが、コンピュータの具体的な事例・事柄を示しながら、理解が容易になるような講義を進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの開発経緯	計算具、計算器、計算機と順に開発され、現在の各種のコンピュータの開発を知る
第 2 回	データの基礎的表現	数値データの 2 進数、8 進数、16 進数および 10 進数について、その関係を含めて、理解する
第 3 回	各種データの表現	数値データ、論理データ、文字データ、音声データ及び画像データについて構造を理解する
第 4 回	中央処理装置	中央処理装置を構成する演算装置、制御装置、主記記憶装置の構造を学ぶ
第 5 回	補助記憶装置、入出力装置、通信制御装置	磁気記憶装置、入力装置、出力装置、通信制御装置の構造と役割について学習する
第 6 回	アセンブラ言語の基礎	仮想的計算機 COMET の構成及びアセンブラ言語 CASL の基礎を学ぶ
第 7 回	アセンブラ言語の応用	計算問題を CASL で作成する実習を行い、実行して結果を確認し、計算機の構造を理解する
第 8 回	ソフトウエアの基本構成	ソフトウエアを構成する基本ソフトウエア、ミドルウエア及び応用ソフトウエアについて学習する
第 9 回	オペレーティングシステム	OS を構成する各種のプログラムおよびその役割、OS の種類と構成について理解する
第 10 回	言語処理ソフトウエア	機械語、アセンブラ言語および高水準言語の種類及びその処理方式について学ぶ
第 11 回	アセンブラの実習	アセンブラ言語の実習を行い、レジスタやメモリの役割や動作などを確認する
第 12 回	ファイルとその構成	ファイル構成、論理レコードの形式、ファイルの編成及びファイル処理方式について学習する
第 13 回	データベース ACCESS の基礎	データベース ACCESS の構造、それを使用してレコードの検索およびレコードの並べ替えを実習する
第 14 回	データベース ACCESS の応用	ACCESS を用いて、レコードの編集、データベースの作成、データ入力などを実習する。さらにクエリを作成し、応用する
第 15 回	授業のまとめ	授業のまとめ、および適宜補足や復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1．授業内容をテキストに従って復習する。
2．課題を提出し、授業内容を復習する。
3．授業で使用したソフトウエアについて、テーマを考えて独自で使用し、その機能を体験する。

【テキスト（教科書）】

標準　コンピュータ教科書（オーム社）

【参考書】

特に指定なし

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、課題・小テスト等（40%）、期末テスト（50%）および平常点（10%）で行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業であり、授業は、教卓機パソコン画面上のテキストや PowerPoint 資料を使用して進める。授業支援システムを利用して課題を提出してもらう可能性があるため、課題作成時おおび提出時には貸与パソコンまたは個人パソコンが必要になる。

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること。
情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。
受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

GA111

メディア情報基礎

大嶋　良明、米倉　明男、菊池　司

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**抽選**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分だけのマルチメディア作品を、Photoshop と Premiere で作ろう
本講義は、メディアとしてのコンピュータに着目する。
「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」では、コンピュータシステムの基本的構造とパーソナル・コンピューティングを利用した文化情報の生産・編集・プレゼンテーションの基本を習得した。本講義では、これらに引き続き、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置く。
　そもそもデジタルとは何かをやさしく読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PC を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTML とスタイルシートによる Web コンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを取り上げ、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを育成する。

【到達目標】
PC マルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
・Photoshop や Premiere などのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Web サイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識。
3	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）基本的なしくみ
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）その特性
5	制作実習Ａ：実習の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法（ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなど）
6	制作実習Ａ：静止画像による作品制作	Photoshop を用いたディジタル画像の制作
7	制作実習Ａ：静止画像による作品制作	PC を用いたマルチメディア・コンテンツ制作（Windows Media, QuickTime, FlashVideo）
8	メディア情報の基礎：動画像	デジタル画像（動画像）のしくみとその特性、画像の情報圧縮の方式。その応用例。
9	制作実習Ｂ：実習の手引き	静止画像・動画像・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識。
10	制作実習Ｂ：映像作品の制作	MovieMaker（または Premiere）を用いたムービー制作の基本
11	制作実習Ｂ：映像作品の制作	MovieMaker（または Premiere）を用いたムービー制作の実践
12	スタイルシートを用いたウェブページ	スタイルシートを活用するメリットと実例。基礎知識と制作手順。
13	制作実習Ｃ：スタイルシート	HTML とスタイルシートを用いた Web コンテンツの構造化、CSS による Web コンテンツの制作実習
14	制作実習Ｃ：スタイルシート	スタイルシートを用いた Web コンテンツの制作実習
15	まとめ	総合的な課題制作とプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。

【テキスト（教科書）】
講義初回に提示する。

【参考書】
講義において適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (40%)、平常点 (授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。
欠席が一定基準を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。

【学生が準備すべき機器他】
画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内 Web 環境ならびに ePortfolio (HOPS) を活用する。

【その他の重要事項】
　学生へのメッセージ：　マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなってくる。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。
本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

GA211

ネットワーク基礎

大嶋　良明、和泉　順子、松田　裕幸

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**抽選**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界中どこでも Internet で安全確実にコミュニケーションできるようになろう
ネットワークは絶えず変化しており、世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできることは、実は思うほど簡単ではない。本講義では、コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端的コミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。これらのネットワーク技術の使いこなしは、まずスタディ・アブロード（SA）において、次にゼミと就職活動において必要となり、ひいては卒業後のグローバルな社会でのサバイバル・スキルとなろう。ネットワーク・コミュニケーションこそが知的都市型社会の特質である。
本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、IT パスポート等にむけての知識習得を目指し、さらにネットワーク関連の上位科目に結びつける。

【到達目標】
インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得し**ビデオ会議やソーシャルメディア**などインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのための**セキュリティ知識**を身に着ける。特に SA の学習記録や SA 帰国報告には ePortfolio を活用するので、**海外でのインターネットの利用と ePortfolio 活用のスキルを身につけて欲しい。**

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
インターネットをいつでもどこでも（学外や SA などで）安全確実に使いこなすために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャル Web など最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御と DNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IP アドレス、ルーティングを理解する。通信データのパケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNS による名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線 LAN	ネットワークコマンド (ping, ipconfig, traceroute, nslookup など) を活用する。無線 LAN でのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み（1）：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解し TCP/IP および UDP/IP の概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み（2）：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSI の参照モデルと TCP/IP の各層との関係を理解する。パケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。
7	電子メール（1）：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアカウントとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール（2）：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータの MIME 符号化を学ぶ。
9	Web サービス（1）：HTML 文書の交換と Web サーバ	HTML 文書の設計とその構成法を理解する。Web サーバの基本動作を理解する。HTTP プロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Web サービス（2）：ハイパーテキストデータ	ハイパーテキストについてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。マルチメディアデータの MIME 符号化を学ぶ。
11	ファイル転送・共有（FTP、WebDAV）	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしての FTP と WebDAV を理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCP と UDP の違いを理解する。RTSP について学ぶ。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。Skype や WindowsMedia 配信などリアルタイムマルチメディアの応用を実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL 暗号化の概念を学ぶ。HTTPS や WinSCP などセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネチケット、パスワード管理、ウィルス対策を理解しセキュリティ意識を身に着ける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM, ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。
15	まとめ	学習内容の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SA など在外環境でもネットワークが適切に活用できるよう十分に課外実習することにより学習効果が上がる。

【テキスト（教科書）】
有賀妙子, 大谷俊郎, 吉田智子 (著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (40%)、平常点 (授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。

欠席が一定基準を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。特に SA などキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置した PC のみならず、学生個人が利用するノート PC や携帯端末、情報センターの貸出ノート PC などさまざまな ICT 機器を活用する。課題提出等には学内 Web 環境ならびに授業支援システム、ePortfolio を活用するため、個人 PC またいは貸与 PC が必要になる。

【その他の重要事項】
本科目では、Web を基盤とする ICT の実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**
【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問う IT パスポート試験（スキルレベル１）のテクノロジ系に密接に関連する。

【前提科目】
前提科目：　「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」
関連科目：　基幹科目「システム論」、「ディジタル情報学概論」

GA311

情報システム応用

和泉　順子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**情報リテラシーⅠ、Ⅱを受講していること。初回の授業に必ず出席すること。**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報システムは個人や家庭のシステムから、企業や役所などの組織におけるシステムまで広範囲に及んでおり、社会ではなくてはならない存在になっている。本講義では、情報システムの構成および処理形態について学び、情報システムの開発および運用・保守に必要な基本的知識・技能を学習する。

【到達目標】
社会的にも情報通信基盤として必要不可欠になりつつある情報システムの構成やそれぞれの役割を理解できることを目指す。情報処理技術者試験のスキルレベル 2 に相当する基本情報技術者試験における試験内容の理解の深化を目指す。また、情報システムが安全に正しく使われるための工夫や応用を、技術的・社会的側面から学習する。

【授業の進め方と方法】
授業は 4 つのテーマに大別される。すなわち、(1) 情報システムの構成、利用形態の変遷、(2) 情報システムの開発・運用、(3) ネットワークおよびデータベース技術、(4) 情報セキュリティと標準化、のそれぞれのテーマを学習する。これらの授業は、講義形式で行う。なお、受講者の理解度に応じて授業進度や内容は適宜変更する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	情報システムの特色	情報処理システムが、コンピュータシステムおよび応用ソフトウェアで構成されることを学ぶ
2	情報処理システムの変遷	コンピュータシステムの構成や利用形態、システム自体の変遷を学ぶ
3	コンピュータ科学基礎	基数と基数変換、歩数、論理シフト、演算などについて学ぶ
4	コンピュータシステム（1）	情報処理システムのうち、ハードウエアに関する知識を学ぶ
5	コンピュータシステム（2）	情報処理システムのうち、ソフトウエアに関する知識としてオペレーティングシステムやファイルシステムについてを学ぶ
6	システム開発と運用（1）	情報処理システムの開発の流れを学ぶ
7	システム開発と運用（2）	システム開発における外部設計、内部設計を理解し、手法を学ぶ
8	ネットワーク（1）	コンピュータネットワーク、インターネットの歴史、構成、利用形態の変遷について学ぶ
9	ネットワーク（2）	ネットワークの接続形態とアクセス制御方式、アーキテクチャについて学ぶ
10	データベース（1）	リレーショナルデータベース管理システムの概念を学ぶ
11	データベース（2）	リレーショナルデータベースの操作として、簡単な SQL 言語を学ぶ
12	情報セキュリティの基礎	情報セキュリティの基礎技術としての暗号・認証技術、ウイルス対策などを学ぶ
13	情報セキュリティと標準化	情報システムが社会的にも正しく活用されるための標準規格について学ぶ
14	期末テスト	授業で学習した内容について、理解度、知識をテストする
15	授業のまとめ	テストに関する解説、および授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を復習し、課題を提出する。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
関連する参考書を、講義内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 20%、課題提出および小テスト 30%、期末テスト 50%で行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
やや難しいと思われる内容については、例題を多く挟んでイメージしやすくする工夫をする予定である。

【学生が準備すべき機器他】
授業は、パソコン画面上のテキストや PowerPoint 資料を使用して進める。
授業支援システムを利用して課題を提出してもらうため、課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になる。

【その他の重要事項】
初回の授業に必ず出席すること。
情報リテラシーⅠ、Ⅱを受講していること。

GA211

メディア表現法

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう
PC を使ってのマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshop を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつもの課題制作に取り組む。見やすい作品つくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、さらにノンデザイナーである我々が、Web やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるかも学びたい。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指そう。

【到達目標】
Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC 上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、ディジタルマルチメディアの特性を活かした**中級以上の作品制作**ができるようになる。

【授業の進め方と方法】
●作品制作の理論と技法 (講義と実習)
・デザインの基礎と Photoshop の応用技法
- 画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用
- レイヤー、マスク、フィルタの技法
- コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realistic な作品作りに必要な写真理論
- DTP に向けてのスキャナ、プリンタの利用法
●クリティーク（合評）と制作メモの提出
各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
●課題
・デジタル写真のリタッチ
・ポスター作り（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・自由なテーマによる最終課題（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
●大事にしたいこと
・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。
・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。
・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。
・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ
2	デザインの基本原則	CRAP の原理 (近接、反復、整列、コントラスト) を学ぶ
3	デザインの基本原則の応用	前２回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。
5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop Elements）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのディジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC 画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	第 9 回に引き続き、制作実習の後半
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質を比較する
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較
14	課題制作	自由課題による最終課題を制作し、Web 公開する
15	まとめ:全作品、制作メモ、相互批評の ePortfolio 化	クラス全員によるクリティーク形式の作品合評、ePortfolio の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC や貸出 PC 等を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。
自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでディジタルカメラを常に携行し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。

【テキスト（教科書）】
制作テキスト（必要部分をプリント配布）： Adobe Photoshop5.5 and Illustrator8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X
制作テキスト（必要部分をプリント配布）： Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499
教科書： R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」毎日コミュニケーションズ（1998）、
ISBN 4895630072

【参考書】
CG-ARTS 協会「入門マルチメディア」、ISBN 4-8443-7021-9
（MM 検定 3 級対応）

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業参加の積極性,30%)、クリティーク (課題作品の相互批評,15%)、課題ならびにマルチメディア作品制作 (35%)、ePortfolio(個人の作品集づくり, 20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。作品を作らない人には単位を認定しない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。
素材撮影のためにデジタルカメラが必要。（学部資料室、情報カフェテリアにて貸出可能）
作品制作のためのメディア費用（出力用紙、CD-R など）が必要。ポスター印刷出力の校正と確認のために長尺インクジェットプリンタを使用する。
提出作品は ePortfolio にて保存公開する。

【その他の重要事項】
情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。
【資格を目指す人のために】本講義の参考書はマルチメディア検定（3 級）の標準テキストであり、すぐれた独習書でもある。活用されたい。

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。
写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshop の応用技法については本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「ディジタル情報学概論」など。

GA211

プログラミング言語基礎

和泉　順子

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報システムを構築する上で必要なプログラミングには様々な言語が用いられている。本講義では基本的なプログラミング言語とも云える C 言語の言語仕様と文法習得を中心に、データ型の概念、配列、関数、構造体、ポインタ、ファイル操作などのプログラミングに関する基本事項を学び、基本的なプログラムを作成する能力を修得する。

【到達目標】
C 言語の基本構成として記述/実行方法や基本的な文法を理解し、C 言語を用いた簡単なプログラムを作成する能力を修得する。具体的には、C 言語で使用する変数やデータ型を学び、演算子、関数、配列、ポインタ、構造体などの構文を理解した上で簡単なアルゴリズムを実装し、中等程度のプログラムを作成する。

【授業の進め方と方法】
授業では、(1)C 言語の言語仕様や構造の理解、(2) 具体的な文法の学習と実行、(3) プログラムの実装とデバッグ、というプログラミングの段階的な学習を行う。すべて計算機を使用した実習形式で行い、課題作成をとおして学習結果を確認する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	C 言語の基本構成	簡単な文を例に、C 言語の書き方、実行の仕方を学習する
2	変数、型、宣言	C 言語で使用できる変数の使い方、使用できるデータの型、宣言の仕方について学習する
3	演算子と式	代入式、算術演算子、インクリメント/デクリメント演算子、代入演算子、関係演算子の用法を学ぶ
4	制御構造、文とブロック	文とブロック、局所変数と大域変数の用法を理解して、使用する
5	if 文および switch 文	If 文、Switch 文の用法を学習して、具体的問題を作成してみる
6	繰り返し文	For 文、While 文および Do While 文の構造を学習し、問題に適用する
7	関数とモジュール	関数の形式、モジュール化の方策を学習し、具体的な例題を作成してみる
8	プリプロセッサ	ヘッダーファイル#include 文、マクロ定義# define 文の用法を理解し、例題を作成する
9	配列	配列の宣言および参照法を学習する
10	多次元配列	多次元配列および文字列表現、文字列関数について学習し、具体的な例題を作成してみる
11	ポインタと構造体	複雑なデータを表現する構造体、ポインタの用法を学習し、応用してみる
12	関数と引数	関数の作成法、データを渡す引数の使用法について学び、具体例を作成する
13	標準入出力	標準入出力関数 scanf、printf、gets、puts の文法、用法を学習し、応用してみる
14	外部ファイル	外部ファイル入出力関数 fgets、fputs の文法、用法を学習し、例題に応用してみる
15	テスト	授業で学習した内容について、理解度、用法をテストする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で行う例題や問題を実習する。
授業内容を復習し、課題を提出する。

【テキスト（教科書）】
C 言語によるプログラミング [基礎編]（オーム社, ISBN-13: 978-4274064401）

【参考書】
必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点（出席、授業に対する貢献など）20%、課題 30%、期末テスト 50%、で行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。授業支援システムを利用して課題を提出してもらうため、課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になる。

【その他の重要事項】
初回の授業に必ず出席すること。
情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。
受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

GA212

仮想世界研究

甲　洋介

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会に表面化する重要主題として「仮想世界」の問題を取り上げる。
手ごたえのない現実　v.s. リアリティを増す仮想世界
メディアテクノロジーの進展によって、現実と仮想との境界は曖昧なものとなった。その一方で私たちの生活は、**”手ごたえ”＝リアリティ**（現実感）を喪失しつつある、とも指摘される。いったい仮想世界が浸透することによって、私たちの日常生活の何がどのように『変化』し、『拡張』した、と言うのだろうか。「情報」を軸とする変革の波は、私たちの考え方や生活に対して、静かに、しかし確実に影響を与え続けている。この変化の意味を私たちは十分に把握しているとは言えない。
　仮想世界がもたらす新たな意味、仮想世界が現実世界とどのようにつながっていくのか、その現在進行形の変化を、受講生と協同作業しながら具体的に問い直し検討を加えていく。

【到達目標】
受講者は本講義を終える頃には、そもそもヒトは、原初から巧みに仮想（バーチャル）な世界を作り出し、それを駆使してつぎつぎに自分の限界を超えてきた動物であることに気づくだろう。
　仮想世界におけるアイデンティティと心の問題、**仮想現実**の考え方と基本理論、代表的な分野における応用例、仮想世界と現実世界の関係性、などについて具体的な検討を加えながら、受講者に現在起きている現象に対する問題意識の形成を促し、この問題に切り込む考え方と洞察力の育成を狙う。

【授業の進め方と方法】
そもそも人間にとって、「バーチャル（仮想）」とはどのような意味を持つのか。
　現実世界のリアリティの希薄化が指摘される一方で、仮想世界のリアリティは増していくように感じられる。この変化を私たちはどのくらい自覚しているであろうか。
　ところで、仮想世界はけして技術者が作り出す世界ではないのである。仮想世界の構築には、あなた自身の欲望が直接関与している。そして、その方向性を無自覚に決定づけている。そうであるとすれば、いったい私たちは、**仮想世界に何を期待し、何を求め、私たちの何を変化させ、何を失い、仮想世界とともにどう生きようとしているのか**。
　講義と討議を組み合わせながら、展開させる。最終レポートまたは期末試験において、その成果を総合的に問う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	仮想世界への誘い	ネットでは不思議と生きやすい －それはなぜ？
2	仮想世界への誘い	ネットでつながる。リンクし、行動し、そして戸惑う
3	仮想世界における「私」	仮想世界における「私」 －それは仮面の私、それともホントの私？
4	仮想世界における「こころ」	戸惑いから受容へ　－ネットで恋した相手、それは○○だった
5	仮想世界における「こころ」	仮想世界における「こころ」　－仮想が現実に、現実が仮想に
6	コンピュータグラフィックスの基礎	仮想空間に、現実を取り込む方法
7	仮想現実とは何か	バーチャルリアリティ（VR）の基本理論
8	仮想現実とは何か	仮想現実（VR）の構成要素
9	仮想現実とは何か	仮想現実（VR）の実装技術
10	仮想現実の応用	仮想現実（VR）の様々な分野への応用　－リアルな仮想体験
11	仮想現実の応用	仮想現実（VR）の様々な分野への応用　－手ごたえのない戦争
12	【グループ討議】欲望と仮想世界	討議テーマ：　ヒトの欲望を吸収し、膨張しつづける仮想世界
13	【グループ討議】仮想化する現実	討議テーマ：　仮想化する戦場、仮想化する現実
14	【グループ討議】現実と仮想世界の関係性	討議テーマ：　現実と仮想世界の関係性を考える
15	まとめ	現実世界と仮想世界が織りなす生活空間を生きるために

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義後に、講義を通じて考えた事柄を、各自が授業支援システムに蓄積する。　受講生のコメントは講義に活かされる。

【テキスト（教科書）】
・映画：「ブレードランナー」(R. スコット)、「2001 年宇宙の旅」(アーサー・C. クラーク)
・「接続された心」*"Life on the Screen"*（S. タークル）
・国際会議 ACM SIGGRAPH Electronic Theater DVD
・M・ミンスキー講演など。他は、講義の中で適宜指示をする。

【参考書】
・アニメ：「攻殻機動隊〜GHOST IN THE SHELL」
・映画：「惑星ソラリス」（アンドレイ・タルコフスキー）
・*"Alone Together"* (S. Turkle)
担当教員の研究プロジェクトや国際学会の資料など、タイムリーなトピックを紹介することがある。　他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
試験・レポート (60 %)
平常点 (40 %、コメントシート、討議への積極的な参画を含む)
レポート未提出者／試験未受験者の単位は認定しない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生の関心が高い、『仮想世界』における”こころの問題”を取り上げる。受講生どうしの討議の時間を十分に取れるように図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
本講義では、討議に積極的に参画し、協同作業を通じて自らの問題意識を育てることが重要になる。仮想世界という「現在進行」の問題について興味を持つ、幅広い皆さんの参画を期待する。

【履修条件】
「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。「メディア情報基礎」を履修済みであることが望ましい。

【関連科目】
「ヒューマンインタフェース論」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「こころの科学」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
講義とデモンストレーションを組み合わせる。ＰＣ、ＤＶＤデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

GA216

メディア情報応用

大嶋　良明

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**特に制限はしませんが，希望者多数の場合のみ選抜します。初回に出席すること。**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、**Flash によるアニメやゲーム、スマホで動くコンテンツ制作**を実習を通して学ぶ。
最近注目されている動画制作を例として取り上げ、ダイナミックな Web コンテンツのオーサリング技法、画像・音声などマルチメディアを活用した応用レベルの情報処理とマルチメディア表現、さまざまな対話性実現のための ActionScript を学ぶ。Flash をはじめとする、いわゆる Motion Graphics はその動作の軽快さとデータ量の小ささから、Web グラフィックの技術としておおいに普及したが、オーサリングツールとして習得にはそれなりの知識と時間が必要である。またそのスクリプト機能である ActionScript は JavaScript と同じく ECMA-262 をもとにするなど、プログラミング言語としての特性も見逃すことができない。このような Flash の発展の経緯とその特性を見据えつつ、技法のみならず、Web グラフィックスをコンピュータとメディアによる自己表現のツールに高める知識を習得することを目指す。

【到達目標】
Flash によるアニメーション作成の基礎技術を身につけ、簡単な Web アプリを作成できるようになる

【授業の進め方と方法】
Flash によるアニメ作品制作（講義と実習）
Web グラフィックスの動向とデザイン論（講義）
課題作品のクリティーク（合評）

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Web グラフィックスの概要：　動画の設計と表現、Web コンテンツの表現技術	Web グラフィックスの特性と Flash メディアの基礎を理解する
2	ツールボックス、パレット、Flash 形式	Flash 制作の基本ツールを習得する
3	基本図形の描画	各種描画ツールを使用して、線、塗り、基本図形、重なり、変形などの技法を学ぶ。
4	テキストの扱い、ペンツールによる描画	文字データの作成、ペンツールによる自由曲線の作画について学ぶ。
5	簡単なアニメーション課題（１）	フレームアニメーション、トゥイーンアニメーションを作成する。【課題】フレームアニメーションを使って文字が躍る簡単な作品を作る。
6	キーフレームの編集、動きの演出と時間構造	キーフレームから発展させるシェイプやモーショントゥイーンアニメーションを作成する。イーズイン・イーズアウトによる動きの演出技法を学ぶ。
7	ムービークリップ、ガイドレイヤ 課題（２）	ムービークリップによる動きの部品化を理解し、作品作りに応用する。【課題】トゥイーン、ムービークリップ、ガイドレイヤーを使って作品を作る。
8	ロールオーバー、サウンドの追加	マウスのイベントを画面の状態遷移に関係づける Flash によるユーザーインターフェースの手法を学ぶ。各種の音素材を作品に利用する。
9	スクリプトによる制御 課題（３）	簡単な Action Script により作品の時間構造、状態遷移などを制御する。【課題】動きのあるユーザーインターフェースを作る。
10	マスクアニメーション	マスクの動作を理解し、マスクアニメーションを作品に応用する。
11	携帯電話への応用（１）	携帯端末向けのサイト構造を理解し、携帯向け Flash 作品のパブリッシュを学ぶ。
12	携帯電話への応用（２） 課題（４）	待ち受け画面や携帯サイトへの Flash 作品の応用を学ぶ。【課題】自分の携帯電話の画面で自作の Flash アニメを動かす。
13	ダイナミックなデータ 課題（最終）	変化するデータを作品に取り入れる手法を学ぶ。【課題】自由な題材で総合的な作品制作にチャレンジする。
14	クリティーク	学期末の総合制作課題の合評を行う
15	まとめ	学習内容の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Flash による作品制作にはさまざまな可能性の分かれ道があるので授業時間内にすべての技法や応用を網羅することはできません。また授業内で習得した制作技法は繰り返し練習することで作品制作のテクニックとして自分のものになります。受講者はかならず次の週までに復習と制作練習を励行してください。また Flash は最終的には Web コンテンツとしてオンライン公開されます。Web や HTML との関係をきちんと理解する必要がありますので、「メディア情報基礎」や「ネットワーク基礎」等の既習単元をよく復習してください。

【テキスト（教科書）】
佐藤 好彦、「Flash レッスンブック」ソシム (2010)、ISBN:978-4-88337-718-3
他に必要に応じて文献を紹介し、資料プリントなどを配布する。

【参考書】
マット・ウールマン、「ムービングタイポグラフィー」、グラフィック社 (2001)、ISBN:4766111907
注： Web グラフィックス制作には Adobe Flash を使用する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%)、中間課題 (30%)、最終課題 (20%) ならびに ePortfolio(作品集づくり,20%) をすべて総合的に評価する。セメスタのまとめとして最終課題に評価の重点をおく。授業参加の指標としては、表現意欲をコンピュータ上で形にする努力、モノ作りの背後にある仕組みへの技術的興味、作品に添付する制作メモ、お互いの作品から学び向上する態度などをポジティブに評価するので十分に心がけてほしい。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Flash のよる制作にはさまざまな可能性があり、作品性への志向も受講者によってさまざまであるため、限られた授業時間内でなるべく多くの受講者に関心を持って取り組んでもらえるよう、単元と課題内容にはきめ細かく対応したい。作品集は ePortfolio(HOPS) において個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。

【その他の重要事項】
学生へのメッセージ： Web という入れ物を得たことによって、コンピュータによる動画やアニメ作品作りが誰にでも可能となりました。この楽しさと感動をぜひ実感して欲しい。授業時間外にカフェテリアで課題や自作をこつこつ仕上げるための作業時間を見込んでおいてください。作品作りはきっと楽しくなります。
情報系教員によるクラス授業であり、Web を基盤とする ICT の活用実習、ならびに発見型学習を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援する。**

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）を前提とする。
また、プログラミングの概念を理解していると、さらに高度な作品作りにチャレンジできる。

GA311

データベース基礎

若林　啓

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり・実習を伴う**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報化社会においてデータベースは欠くことのできない技術です．本授業では，世の中で広く利用されている関係データベースの概念および理論について学び，演習を通してデータの検索やデータベースの設計を行う技能を身につけます．

【到達目標】
関係データベースの基本概念を理解する．
データベース管理システムを利用できる技能，およびデータベースを設計できる技能を身につける．

【授業の進め方と方法】
講義と演習による．前半は演習を主として行い，アプリケーションとして関係データベースについて理解を深める．後半には関係データベースの背後にある理論について講義し，データベースの設計を行うための体系的な知識を学ぶ．

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	概要	授業のガイダンスと概論．
2	関係データベース	関係データモデルの構造について学ぶ．
3	SQL	関係データベースの問い合わせ言語について学ぶ．
4	データの検索	SQL を用いたデータ検索について演習する．
5	データの集計	SQL の集約関数を用いたデータ集計について演習する．
6	データ分析の演習	実際のデータを対象にして，SQL による簡単なデータ分析を演習する．
7	テーブルの作成	SQL によるテーブルの作成および主キーの概念について学ぶ．
8	データの操作	SQL を用いてデータの挿入や更新，削除を行う方法について演習する．
9	関係データモデルの意味制約	主キーと外部キーによる一貫性制約について学ぶ．
10	正規化理論	更新によって起こるデータベースの異状を防ぐ設計の理論について学ぶ．
11	実体ー関連モデル	実世界の概念モデル化を通してデータベースを設計する方法について学ぶ．
12	データベース設計の演習	実際の情報を対象にして，関係データベースの設計を演習する．
13	トランザクション	意味的に分解できない複数のデータベース操作について学ぶ．
14	同時実行制御	複数のユーザのデータベース操作を適切に処理する技術について学ぶ．
15	まとめ	学んだ技術と概念を振り返り，その関係を整理する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に公開する演習資料を用いて，データベース管理システムの操作について復習する．
データベース管理システムを利用した課題レポートに取り組む．

【テキスト（教科書）】
授業中に資料を公開します．

【参考書】
増永良文著「データベース入門」（サイエンス社）

【成績評価の方法と基準】
授業中に行う小テスト課題（20 %）およびデータベース管理システムを利用した 2 回の課題レポート（各 40 %）に基づいて評価します．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業内容を実際の環境で動かして確かめることで，活用できる知識として身につけられるように心がけます．

GA213

社会とデータサイエンス

和泉　順子

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業では IoT（Internet of Things）やビッグデータ等に関連するデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように利活用されているのかを学ぶ。また、データサイエンティストとはどんな人材なのかを議論しながら、様々なデータの性質や扱い方、可視化等を統計学等の観点から学び、実践する。

【到達目標】
ビッグデータ、IoT、オープンデータ、といった言葉で表現される膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値について学ぶ。個々のデータの具体的な内容ではなく、異なるや内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく心理学や社会学など社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。また、同じデータでも可視化の方法によって伝わり方が違う事を学び、実践する。

【授業の進め方と方法】
講義は計算機を使用した実習形式で行い、授業内のプレゼンテーション、小テストおよびレポートにより学習結果を確認する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、社会におけるデータサイエンスの重要性について
2	IoT とビッグデータ	IoT（Internet of Things）とは何か、ビッグデータの利活用事例を学ぶ
3	オープンデータの活用	公開されているオープンデータがどのように活用されているかを学び、自ら調べる
4	仮想空間のプライバシー	デジタルな空間、あるいはインターネット上におけるプライバシー確保に必要な技法の一部を学ぶ
5	統計処理の意味	データを抽出して価値を創出するために、どのような統計手法があるのかを学ぶ
6	統計分析の意味	統計処理したデータの分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
7	データの種類と尺度	４つの尺度と利用可能な測定値、および相関について学ぶ
8	統計の基本と実践（1）	平均値と中央値、正規分布、分散、標準偏差の意味について学ぶ
9	統計の基本と実践（2）	仮説検定の種類と考え方を学ぶ
１０	統計の基本と実践（3）	回帰分析の意味と使い方を学ぶ
１１	データの可視化	同じデータでも可視化の違いによって印象や伝わり方が異なることを学ぶ。また、データを説明するために適切なグラフは何かを学ぶ
１２	データサイエンスの実践	自分の興味のあるオープンデータから適切な統計手法を用いてデータを読み取り表現する
１３	プレゼンテーション	自分が調べ、読み取り、表現したことを授業内で発表する
１４	議論と考察	授業内で発表されたデータについて質問を通して改善の余地を議論し、考察する
１５	授業のまとめ	授業のまとめを行う。また、授業内でレポートを作成し、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計学をはじめ数学の知識を多少使うため、各自の理解度に応じて適宜予習復習をすること。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指定する。

【参考書】
授業内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 20%、小テスト 20%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%で総合的に行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。授業支援システムを利用して課題を提出してもらうため、課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になる。

【その他の重要事項】
初回の授業に必ず出席すること。

GA212

道具による感覚・体験のデザイン

甲　洋介

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アタマとカラダを使って、「体験」という現象を「体験し直す」ことを目指す科目である。

● **体験 *experience* とは何なのか。**
今日ほど「経験」「体験」*(experience)* が注目される時代はない。その一方で、「経験の危機」(E. リード) も指摘される。私たちの「体験」はかつてない速度で変化を続け、どこまでが体験なのか、その境界はますます曖昧になりつつある。

つらい体験、忘れられない体験、可笑しな体験。言及されるのはほとんどが非日常の体験である。しかし、体験の本質に迫りたいなら、豊かな日常の体験にこそ目を向けるべきだろう。たとえ日常的であるとしても、体験は、世界が引き起こすものを受け取るのでなく、私たちが能動的に追い求めて構築するものである。本講義は日常の体験に積極的な価値を与える。

●**【空間をデザインすると、私たちの体験は変わるのか】**
今年度は、「空間の体験」に着目する。たとえばカフェ、電車、エレベーターなど混雑した日常空間の中で、私たちは他人との距離を無意識に実に巧みにコントロールしていることに気づく。その心地よい距離が崩された瞬間に、緊張したり思わずその場を離れたりした体験なら誰にでもあるだろう。こうした空間をデザインし直すと、そこで生まれる体験はどのように変化するか。たとえばもっと快適に安らげるように、あるいはもっと自然に集中できるように。空間の体験をデザインする可能性について考えてみたい。
ここでいう空間は幾何学的空間ではない。「生きられる空間」である。

【到達目標】
目標はシンプルであり、つぎの３つに要約される。
1) 体験する（特に空間を体験する）、とはどのようなことか、
2) 道具としての空間が変わると、そこに生まれる体験はどのように変化するのか、
3) 体験の装置・道具をいかにデザインするか、
について理解し考察を深めることである。

【授業の進め方と方法】
講義と、実際に手を動かすデザイン・ワークショップを組み合わせて進める。講義で取り上げる３つのテーマ、およびワークショップの概要は次の通りである。

●【講義の３つのテーマ】
(a) 身体と感覚、体験するということ
(b) 空間を体験する。道具によって空間の体験を作る
(c) 身体の観点から、感覚・体験装置を再考する

●【デザインワークショップ】
上記テーマのうち (b) 空間体験に焦点を絞って、街角のカフェ、バー、学校、オフィス空間、住宅内のリビングルームなど具体的な空間を例にとり、デザインワークショップによる実践を通じて理解する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の狙い、構成、進め方についてのガイダンス。
第 2 回	**[A] 身体、感覚、体験**	身体と体験。自然・外界との境界としての身体・感覚。
第 3 回	感覚の科学：感覚と体験	感覚の体験。直接体験と間接体験。『経験の危機』とは何か？
第 4 回	感情の科学：感情と体験	感情を伴う体験の記憶。安らぎとリラックス。
第 5 回	**[B] 空間の体験　〜道具によって空間の体験を作る**	カラダで空間を感じる（視・聴・多感覚）。
第 6 回	人間の空間行動〜パーソナルスペース	観察しよう。人間が見せる面白い空間行動。
第 7 回	体験 *experience* から、空間をデザインする	グループワーク 1
第 8 回	デザインワークショップ	グループワーク２ 学校、カフェ、オフィスのデザイン。
第 9 回	グループ発表	発表と討議
第 10 回	**[C] 身体から、感覚・体験装置を問い直す** 〜体験の仮想化	現実と仮想体験の融合。仮想現実 VR、拡張現実 AR、ミックストリアリティ MR、代替現実 SR。
第 11 回	身体からみた『日本庭園』　〜日本庭園のふしぎ	身体を覚醒させる装置としての日本庭園、異空間の接合と調和。時間的連続性
第 12 回	メディア情報空間	スヌーズレン。大切な人とつながる情報空間の試み。
第 13 回	空間のリズム、時間の連続性	建築空間のリズム。絵画のリズム。続くということ
第 14 回	身体、感覚、体験 -revisit -	生きられた空間。経験の危機。経験としての芸術
第 15 回	まとめ	まとめに代えて（自然とつながる生態学的情報空間の可能性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・デザイン課題のグループワーク
・グループ発表のための準備、資料づくり

【テキスト（教科書）】
初回時に指示をする。

【参考書】
・「経験としての芸術」(J. デューイ) 人間の科学新社
・「かくれた次元」(E.T. ホール) みすず書房
・「場所の運命」(E. ケーシー) 新曜社
・「空間の経験―身体から都市へ」(Y.F. トゥアン) ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
試験・レポート (60 %)
平常点 (40 %、レスポンスシート、討議への積極的な参画を含む)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新しく開設された科目である。希望が多いので、建築空間の事例鑑賞コーナーを増やす。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
講義を言葉で理解するだけではなく、日常のあらゆる機会をとらえて、身体と感性を駆使して理解しよう。面白い建築を訪ねたり、新しい観点で街並みをウォッチングしたり、日本庭園を歩いたり、絵画を批評的に味わったり、闇の中で海辺の波音にじっと耳をすます体験が役に立つ。
教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

【関連科目】
「仮想世界研究」「ヒューマンインタフェース論」「こころの科学」「情報コミュニケーション」と組み合わせて受講することが望ましい。多角的に洞察できるようになり、面白くなる仕組みになっている。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣおよび、ＤＶＤデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

GA201

世界の言語Ⅱ

内山　政春

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は「世界の言語Ⅰ」と交替で隔年開講されています．「世界の言語Ⅰ」がヨーロッパ諸言語に関する内容であるのに対して，この授業ではアジアの言語を中心に取り上げたいと思います．しかしそれに限らず，言語をとりまくさまざまな現象に関して言及しながら，みなさんの学習言語が何語であれ，その学習に少しでも役立つような話をしたいと思っています．

【到達目標】
言語について公平な視点をもてるようになること（一例をあげれば「日本語は非論理的，英語は論理的」のような俗説に惑わされないようになること）．そして学習言語と日本語をさまざまな側面から対照できる力をつけること．以上のことを目標にして履修してください．

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行ないますが，ＳＡ先の言語に関して言及するときは，該当する学生に質問することもあるでしょう．

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	導入／世界の言語数	・世界の国家数と言語数 ・言語数は確定できない ・「言語」と「方言」 ・日本の言語
2	国家と言語	・日本は多言語国家か？ ・国語と公用語 ・分断国家と言語 ・国家と言語はイコールではない
3	言語の分類	・言語をいかに分類するか
4	漢字と漢字文化圏	・言語としての漢字文化圏 ・中国語と漢字 ・漢字の伝播 ・表音文字の発達 ・漢字のしくみ ・形を失った漢字 ・漢字圏での固有名詞の読み方
5	中国語とその周辺１	・「中国語」とは？ ・「中国語」の表記
6	中国語とその周辺２	・「中国語」の用いられる地域 ・「中国語」は存在するか？
7	台湾の言語	・「多言語国家」としての台湾
8	朝鮮語とその周辺１	・朝鮮語の使用領域 ・言語と文字の名称 ・歴史と系統 ・朝鮮語の表記
9	朝鮮語とその周辺２	・ハングルの出現 ・近代の朝鮮語 ・戦後の朝鮮語 ・ハングルの海外「進出」 ・南北の朝鮮語のちがい ・語彙と文法
10	アルタイ諸言語	・アルタイ諸言語と日本語 ・少数民族語としてのアルタイ諸言語 ・文字と文化
11	ヨーロッパの諸言語１	・ヨーロッパ諸言語の系統 ・ヨーロッパ諸言語の話者数 ・ヨーロッパ主要言語の語彙 ・語彙の借用
12	ヨーロッパの諸言語２	・ＳＡ先諸国の言語（ロシア語，ドイツ語，英語，フランス語，スペイン語）
13	英語と国際語	・英語＝ヨーロッパ語の異端 ・英語帝国主義 ・人工言語の試み ・英語の２つの側面
14	まとめ	・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ＳＡ先の言語はもちろん，その他の外国語にも，そして日本語にも，ことばと名のつくものに広く関心を持ってください．関連する本を積極的に読んでください．

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを作成して配布します．

【参考書】
特に指定はしませんが，各項目に関して興味のある人は『言語学大辞典』（三省堂）を参照してください．

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業の終わりに講義に関する感想や質問を書いてもらいます．そのシート（20%）と，学期末に課すレポート（80%）を総合して評価します．あまりにも出席が少ない場合は評価の対象から外すこともあります．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
「遅刻した場合に別の紙（講義に関する感想や質問を書くためのもの）を配るのはおかしい」などという意見がありました（遅刻者を判別するために私は昨年度の授業でそのようなことを行なっていました）．授業が始まっているのに遅刻者が教室にゾロゾロ入ってくると，他の学生の迷惑にもなり，授業の進行も遅れがちになります．授業開始の時点で学生が着席しているのは「あたりまえ」のことです．それが守れない人，また私語をする人は，他の学生に迷惑となりますので，受講しないでください．

【学生が準備すべき機器他】
毎回プリントを配布するのと同時に，教員が準備した映像資料を見てもらいながら話を進めます．

【その他の重要事項】
順序と内容に若干の変更がある可能性があります．なお，授業の内容は，2014, 2015 年度の「国際文化情報学入門（言語文化コース）」と一部重複しますが，言語を考えるにあたって，非常に重要なことなので，あえてもう一度お話しすることにします．

GA332

世界の英語

小中原　麻友

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
※注：人数によっては、第 1 回目の授業で【選抜】を行います。履修を希望する場合は、【第 1 回目の授業に必ず参加】してください。※
グローバル社会の現在、英語ほど「国際共通語」として広範に使用されている言語はありません。それでは、それは一体どのようなものなのでしょうか。"World Englishes" や "English as a lingua franca"という言葉を聞いたことがありますか。英語の国際的普及は、地域の社会的要因に連関して多様化した様々な英語変種を生み出しました。英・米・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの各英語だけでなく、インド、シンガポール、タイ、マレーシア等のアジア諸国でも多様な英語変種が存在し、これらは World Englishes と複数形で呼ばれています。また、グローバル化の進展は、ビジネスや教育上の国際交流・協力の急速な拡大をもたらし、国際的な場において英語は、言語文化の異なる者同士の共通語、つまり a lingua franca として幅広く使用されています。
この授業では、英語変種について、歴史的、文化的背景に触れながら、その特徴を発音、文法・語彙を中心に概観すると同時に、国際共通語としての英語でのコミュニケーションの特徴について、実際の事例研究を取り入れながら検討していきます。

【到達目標】
1. 国際的普及によって多様化した英語変種の地域的特徴についてまとめることができる。
2. 国際共通語としての英語でのコミュニケーションの特徴についてまとめることができる。
3. 上記１、２を踏まえ、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について考えをまとめることができる。

【授業の進め方と方法】
学期前半は、グローバル化が社会と言語使用にもたらした影響や、英語の国際的普及の過程を概観した後、英米などの英語を第一言語とする地域の英語変種とインド、シンガポール、マレーシア等のアジア諸国の英語変種について詳しく見ていきます。グループごとに担当地域を決め、調べた内容を発表してもらいます。聞き取り練習も行い、それぞれの英語の音声的特徴を掴みます。
学期後半には、自分たちの普段の会話の録音・分析などを通してコミュニケーション理論について概観した後、国際共通語としての英語 (English as a lingua franca, 以下 ELF) でのコミュニケーションについて、コミュニケーション・ストラテジーを中心にその特徴を学んでいきます。ヨーロッパやアジア諸国のビジネスや高等教育の現場における実際の ELF でのコミュニケーションの調査研究を紹介し、多様な言語文化背景を持つ者同士が、会話を通してどのように相互理解と人間関係を深めているのかについて詳しく検討していきます。会話のトランスクリプト、可能な場合は、音声や動画も提示します。また、各自、オンラインの ELF コーパス（言語資料）にアクセスし、ELF のコミュニケーションの特徴を探る機会も設けます。
授業形式は、学期前半のグループ・プレゼンテーションの他は、PPT とハンドアウトを使用した講義を中心としますが、原則毎回、簡単なタスクとグループ・ディスカッションを行う予定です。授業外には、Reflective Report (授業内容に関する短い考察レポート) やリーディング課題、フィールドワークの課題もあり、授業内外の活動に積極的に参加することを期待します。
※ 授業進度や内容は、履修者の人数、理解状況によって適宜調整する可能性があります。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	授業の紹介、履修条件、選抜試験
Week 2	Globalization and English (1)	Linguistic diversity and English users (Preview: Fieldwork - Find the influence of globalization in town)
Week 3	Globalization and English (2)	The global spread and diversification of English (Preview: Reading Assignment - The history of English)
Week 4	Varieties of English (1)	Englishes in Inner, Outer, and Expanding countries (Group Presentation 15 mins. x 3), Listening Activity ※ グループ数によって、プレゼンの時間・数は変動します。
Week 5	Varieties of English (2)	cont'd (Group Presentation x 3), Listening Activity
Week 6	Varieties of English (3)	cont'd (Group Presentation x 3), Listening Activity
Week 7	Varieties of English (4)	cont'd (Group Presentation x 3), Listening Activity
Week 8	Varieties of English (5)	Summary: Reflective Group Discussion (Submit Reflective Report), exploring varieties of English on the Internet (provisional)
Week 9	Introduction to ELF communication	Theories of communication and analyzing daily conversation (Preview: Fieldwork - Record your conversation)
Week 10	ELF communication (1)	A case study of ELF communication - an ELF perspective, exploring ELF communication on the Internet (corpus of ELF: VOICE and ACE)
Week 11	ELF communication (2)	Communication strategies (CS) for supporting meaning-making
Week 12	ELF communication (3)	CS for coping with communication problems
Week 13	ELF communication (4)	CS for signaling cultural hybridity and creativity
Week 14	Revision	Summary: Reflective Group Discussion, exploring the features on the corpora (provisional)
Week 15	Final exam	期末テスト（人数によっては期末レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外の課題は、以下の 4 つです。
1) Reading Assignment: 事前の配布資料 (英語) の該当箇所を、授業開始前までに読んでくること (Week 3)。
2) Fieldwork: 学期中 2 回、フィールドワークを行ってもらいます (Weeks 2 and 9)。詳細は、授業内で説明します。
3) Group Presentation の準備: Weeks 4-7 に行うグループ・プレゼンの準備は、授業外に行うこととします。グループメイトと協力して準備して下さい。
4) Reflective Report: 学期半ばに 1 回、講義内容に関する考察レポートを提出してもらいます (Week 8)。

【テキスト（教科書）】
Honna, N. & Takeshita, Y. (2009). *Understanding Asia*. Tokyo: Cengage Learning.
・上記教科書は、主に、Listening Activity で使用しますが、グループ・プレゼンテーションの補足資料としても使用できます。
・その他、テーマごとに参考文献を紹介し、適宜、コピーを配布します。配布資料やスライドは、原則英語です。

・授業の PPT は、授業終了後に、授業支援システムで配布します。

【参考書】

1. Crystal, D. (2003). *English as a Global Language* (2nd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.
2. Galloway, N., & Rose, H. (2015). *Introducing Global Englishes*. London ; New York, NY: Routledge.
3. Jenkins, J. (2009). *World Englishes: A Resource Book for Students* (2nd ed.). London ; New York: Routledge.
4. Kirkpatrick, A. (2007). *World Englishes : Implications for International Communication and English Language Teaching*. Cambridge, UK ; New York: Cambridge University Press.
5. Seidlhofer, B. (2011). *Understanding English as a Lingua Franca*. Oxford: Oxford University Press.
6. Trudgill, P. & Hannah, J. (2002). *International English: A Guide to the Varieties of Standard English* (4th ed.). London: Arnold.
7. 田中春美, 田中幸子 (2012). 『World Englishes – 世界の英語への招待』 京都, 昭和堂.
8. 本名信行. (2002). 『事典アジアの最新英語事情』. 東京：大修館
9. ジョセフ・コールマン著、渡辺順子訳 (2008). 『いろんな英語をリスニング』東京. 研究社.
10. 鳥飼玖美子 (2011).『国際共通語としての英語』東京. 講談社.
11. 鶴田知佳子、柴田真一 (2008). 『ダボス会議で聞く 世界の英語』東京. コスモピア.
12. 本名信行 (2003). 『世界の英語を歩く』東京. 集英社新書.

参考ウェブサイト

1. VOICE (Vienna-Oxford International Corpus of English)

www.univie.ac.at/voice/page/index.php

2. ACE (Asian Corpus of English)

corpus.ied.edu.hk/ace/

3. World Englishes - 社会言語学的変異研究に基づいた英語モジュール（神田外語大学 × 東京外国語大学）

http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html

【成績評価の方法と基準】

＜平常点： 10%＞

・「平常点」とは、出席率だけでなく、授業内活動や質疑応答などへの積極的な参加・貢献度を含みます。教室にいるだけでは参加したことになりません。

・就職活動を含め、欠席が２回を超える場合（忌引き、教育実習期間は除く）は、単位を取得できないので、注意して下さい。

・遅刻２回（電車遅延は除く）で、欠席１回とみまします。

＜授業内外課題： 30%＞

・学期半ばに、Reflective Report (講義内容に関する短い考察レポート) を提出（必須）。内容理解度と考察内容を総合的に評価します。方法については、授業内に説明します。

・Group Presentation での発表内容を総合的に評価します。

＜試験： 60%＞

学期末（第 15 週）に試験（あるいはレポート提出）を行い、内容理解度や考察・意見内容を総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

・グループ・ディスカッションは好評だったので、今年も実施します。加えて、学生参加型の授業を更に促進するために、グループ・プレゼンテーションも実施します。

・音声や動画の使用を増やしてほしいという要望があったので、可能な限り、取り入れるようにします。その一貫として、オンラインのコーパス（言語資料）にアクセスして、実際の英語での会話を聞く活動も取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

・Group Presentation の際は、こちらで PC を用意しますが、自分の PC を使用したい場合は、持参すること。

・Weeks 8, 10, 14 には、インターネットが使用できるよう、スマホ、タブレット、あるいは PC を持参するといいでしょう。

【その他の重要事項】

授業中は、適宜ノートを取って下さい。ただし、ノートをとることよりも講義の内容に集中して、そのテーマについて自ら考えるようにしてください。「覚える」のではなく、「考える」ことが重要です。皆さんの意見を聞いて回りたいと思います。答えに正解・不正解はありませんので、積極的に意見交換することを期待します。

GA232

言語の理論Ⅰ

石川　潔

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**言語学概論Ａ**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を与えるよりも、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を紹介しますので、それぞれの分野が、自分に向いているか向いてない分野かの判断の材料になるでしょう。

【到達目標】
-「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きの判断の材料を得る
　（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【授業の進め方と方法】
　具体的な謎の解明（講義およびディスカッション）を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。
　授業計画は参考例に過ぎず、学生の理解度その他により柔軟に変更しまくります。下記の通りに行く保証はありません（し、あるべきでもないはずです）。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業の紹介
第 2 回	「音素」その１（音声学・音韻論）	water はカタカナで「ワラ」？
第 3 回	「音素」その２（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 4 回	「音節」その１（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 5 回	「音節」その２（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 6 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 7 回	今日の文法理論その１（統語論）	「５文型」のアホさ
第 8 回	今日の文法理論その２（統語論）	統語論「研究」実体験
第 9 回	今日の文法理論その３（統語論）	理論的な道具、およびその「心理学的実在性」
第 10 回	今日の文法理論その４（統語論）	新たな（？）潮流
第 11 回	今日の文法理論その５（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 12 回	今日の文法理論その６（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第 13 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その１	「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 14 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その２	Without her contributions failed to come in. ってどういう意味？
第 15 回	予備日	パソコン・デモなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】
　授業支援システムにてハンドアウトを配布します（教室での配布は致しません。）

【参考書】
　参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験 100 %。
　公平性を最重視するので、個人的な事情（努力の有無や、体育会所属など）は一切考慮しません。
　但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
アンケート結果の場所を見つけた時にはアンケート閲覧期間が過ぎてしまっていました……。

【学生が準備すべき機器他】
ハンドアウトは授業支援システムにて配布。
授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】
　ハンドアウト類は授業支援システム上で配布します。教室での配布は一切しません。
　私語は厳禁。
　その他、http://www.i.hosei.ac.jp/~kiyoshi/ を参照のこと。
　なお、この授業は『言語学概論Ｂ』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

GA232

言語の理論Ⅱ

川﨑　貴子

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**言語学概論Ｂ**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語学の様々な分野を紹介します。言語データを様々な角度から分析する楽しさに触れていただければと思います。言語学の基礎知識を応用し、身の回りの言語現象について深く考えることが目的です。

【到達目標】
この授業では理論言語学の諸分野を紹介します。各分野の基礎的な知識を身につけることを目標とします。また、言語学の複数分野の知識を応用し、実際の言語現象を分析できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
自然言語の現象、様々な「不思議」を講義形式で紹介しつつ、皆様にも問題を解きながら一緒に考えていただくことによって、言語学の理論を学び親しんでいただきます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学とは？
第 2 回	言語知識	言語知識の中身
第 3 回	意味・語用論 1	曖昧さ、丁寧表現 1
第 4 回	意味・語用論 2	曖昧さ、丁寧表現 2
第 5 回	音声学・音韻論 1	調音器官、音の単位
第 6 回	音声学・音韻論 2	英語・日本語の子音
第 7 回	音声学・音韻論 3	英語・日本語の母音
第 8 回	音声学・音韻論 4	音節・モーラ
第 9 回	形態論 1	語のなりたち・形態素
第 10 回	形態論 2	複合語
第 11 回	統語論 1	語のカテゴリ
第 12 回	統語論 2	句のなりたち
第 13 回	統語論 3	文の構造
第 14 回	応用言語学	言語理解・獲得
第 15 回	復習	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。指示される映像課題をノートをとりながらみること、宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく書いてまとめることが求められます。言語学は積み重ねの学問ですので、授業の復習を各自行うことがとても重要です。

【テキスト（教科書）】
毎回、プリントを配布致します。また、授業支援システムにも、配布プリントをアップロードいたします。

【参考書】
教科書はありませんが、参考文献を授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験を 100 点満点換算にて評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業改善アンケートの結果はシラバス執筆段階では集計されておりません。

GA332

社会言語学

椎名　美智

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**言語の理論Ⅲ（社会言語学）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会言語学は文字通り「社会と言語の関係についての学問」ですが、この授業では、幅広い視野から社会言語学を概観し、言語的側面から歴史、社会、政治、そして日常生活を見直す考え方を身につけることを目標にしています。

【到達目標】
世界中の様々な国に住む、様々な民族の言語状況に目を向け、その背後にある政治的・社会的・歴史的・民族的な要因を考える習慣を身につけてもらいたいと思います。それと同時に、自分の生活環境における言語的実情を自分で調べる「フィールド・ワーク」をする習慣を身につけてもらいたいと思います。

【授業の進め方と方法】
国会では標準語で話しているのに、地元での選挙演説では方言を使う政治家がよくいます。また、電車の中でおしゃべりしている中高校生の語彙やイントネーションが、まるで外国語のように奇妙に聞こえることも、よくあることです。日常生活におけるこうした言語をめぐるおもしろい言語現象をきっかけに、「社会」と「人間」と「言語」の関わりを探っていきます。また、世界における言語状況を自分たちの身近な問題として考えていきます。テキストおよびハンドアウト、PPT を使った講義形式です。なお、各回の内容は、履修学生の興味によって変更する可能性があります。毎時間、リアクションペーパーに講義で学んだこと、考えたことなどを書いて、提出してもらいます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	社会言語学の学問領域の概説と各自の課題設定
第 2 回	社会言語学の定義	「社会」と「言語」の関係について
第 3 回	社会言語学の射程	扱う領域について
第 4 回	多言語社会	世界における民族と言語について
第 5 回	ダイグロッシア	二言語が使用されている社会について
第 6 回	ドメイン	言語が使い分けられる領域について
第 7 回	コードスイッチング	言語が切り替わる状況と要因について
第 8 回	言語の死	使われなくなっていく少数民族の言語について
第 9 回	ピジンとクレオール	複数の言語が出会う状況での言語状況について
第 10 回	方言	地域方言と社会方言
第 11 回	言語と文脈	言語が使用されるコンテクスト
第 12 回	敬語とポライトネス	日本語の敬語システムと敬語演習、およびポライトネスという概念
第 13 回	言語とジェンダー	ジェンダーの差違と言語使用
第 14 回	ケース・スタディー	『マイフェアレディ』における「方言」
第 15 回	コンサルテーション	各自の課題についてのコンサルテーションアワー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の言語環境を、社会言語学的な観点から見直す訓練をします。

【テキスト（教科書）】
田中晴美、田中幸子編著『社会言語学への招待―社会・文化・コミュニケーション』(1996) ミネルヴァ書房）

【参考書】
内容ごとに参考文献を紹介し、資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】
レポート８割（フィールド・ワーク重視）、平常点２割（課題も含む）で評価の参考にします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
例年、配付資料が数多く、授業内で扱いきれないので、厳選して資料を配付します。PPT 資料は、授業後に授業支援システムにアップしますので、参考にしてください。授業中はノートをとることよりも、講義の内容に集中し、テーマにそって議論できるように、自ら考えるようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントはリクエストがあれば、授業支援システムにアップします。

GA332

応用言語学

川﨑　貴子

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**言語の理論Ⅳ（応用言語学）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】
こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はどのようにその違い、および類似点を説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明
第 2 回	言語知識	子供と大人の言語知識
第 3 回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第 4 回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第 5 回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第 6 回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第 7 回	言語教育〜言語習得	第二言語習得の歴史
第 8 回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第 9 回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第 10 回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第 11 回	SLA 研究	実験方法の変遷
第 12 回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第 13 回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第 14 回	SLA 理論 3	SLA 理論の復習
第 15 回	SLA と教育理論	SLA 理論が教育にどのように生かされるのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に予習は必要無いが、授業の復習を行う必要があります。また宿題も課されます。
指示された映像課題をノートをとりながらみること、宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく書いてまとめることが求められます。これらの宿題も試験の範囲に含まれます。

【テキスト（教科書）】
毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】
参考文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験を 100 点満点換算にて評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
言語習得分野の研究について、興味を持っていただけたようでよかったと思います。
映像の使用については否定的な意見もありましたが、概ね有効であったと感じていただいているようなので、今年度も使用したいと思います。

GA132

英語コミュニケーションⅠ（会話）

マーク・フィールド、アンドリュー・ジョーンズ、ジョナサン・エーブル、ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should be ready to actively preparing themselves for the experience.

【到達目標】
The goal of the course is to develop students' abilities to interact more successfully in English and give them the sociolinguistic skills necessary for a successful study trip abroad.

【授業の進め方と方法】
Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to actively participate in classroom activities, ask questions in class, prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Requirements of the all-English Classroom
2 回	Introductory Learning Strategies:	When in Doubt Ask the Instructor
3 回	Introductory Learning Strategies:	Breaking Old Bad Habits
4 回	Introductory Learning Strategies:	Knowing What You Don't Know
5 回	Types of Communication:	Common Questions & Responding Naturally
6 回	Expanding Discourse:	Talking about Feelings and Favorite Things
7 回	Types of Communication:	Explaining Where You Are From
8 回	Expanding Discourse:	Exchanging Information About Places to Visit
9 回	Types of Communication:	Taking About Different Kinds of Food and Tastes
10 回	Expanding Discourse:	Describing Kinds of Meals and Restaurants
11 回	Types of Communication:	Talking About Places to Shop and Things to Buy
12 回	Expanding Discourse:	Describing the Economy and Money Matters
13 回	Types of Communication:	Talking about Well-know Buildings and Places
14 回	Expanding Discourse:	Explaining Major Historical Events
15 回	Final Assessment:	Examination/Term Project

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】
Course materials and/or textbooks will be assigned by each instructor.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.
The instructors always welcome comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.
The instructors reserve the right to modify this course syllabus whenever necessary.

GA232

英語コミュニケーションⅡ（表現）

マーク・フィールド、アンドリュー・ジョーンズ、ジョナサン・エーブル、ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the English 1-6 series, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【授業の進め方と方法】
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	How is Overseas Study Different?
2 回	The World is Your Classroom!	What kind of student are you?
3 回	The World is Your Classroom!	What kind of student do you want to be?
4 回	The World is Your Classroom!	What kind of student should you become?
5 回	Analysis:	What kind of Discourse is this? Part I Narratives
6 回	Analysis:	What kind of Discourse is this? Part II Opinions
7 回	Analysis:	What kind of Discourse is this? Part III Arguments
8 回	Analysis:	What kind of Discourse is this? Part IV Expositions
9 回	Putting it all together!	Preparing Papers and Presentations Part I
10 回	Making yourself heard!	Discussing Papers & Giving Presentations Part I
11 回	Putting it all together!	Preparing Papers and Presentations Part II
12 回	Making yourself heard!	Discussing Papers & Giving Presentations Part II
13 回	Putting it all together!	Preparing Papers and Presentations Part III
14 回	Making yourself heard!	Discussing Papers & Giving Presentations Part III
15 回	Final Assessment:	Term Project/Paper

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons to enhance their participation in classroom activities and discussions. Students are also expected to find and analyze information from various forms of English media independently as a means of increasing their vocabulary and general knowledge.

【テキスト（教科書）】
Course materials and/or textbooks will be assigned by each instructor.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.
The instructors always welcome comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.
The instructors reserve the right to modify this course syllabus whenever necessary.

GA232

英語コミュニケーションⅢ（留学会話）

マーク・フィールド、アンドリュー・ジョーンズ、ジョナサン・エーブル、ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester.

【到達目標】
Building on what was studied in English Communication I, the goal of the course is to further develop students' abilities to interact more successfully in English and give them the sociolinguistic skills necessary for a successful study trip abroad.

【授業の進め方と方法】
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to actively participate in classroom activities, ask questions in class, prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1 回	Class Reorientation:	How to Prepare for Overseas Study
2 回	Express Yourself:	Talking about Illnesses and Injuries
3 回	Understanding Messages:	Rules in the Home and School
4 回	Express Yourself:	Describing and Comparing Products
5 回	Understanding Messages:	Different Aspects of Education
6 回	Express Yourself:	Describing Courses, Schools, Teachers & Students
7 回	Understanding Messages:	Computer Problems and Technology
8 回	Express Yourself:	Talking about Current Events
9 回	Understanding Messages:	Stories in the News
10 回	Express Yourself:	A Good Communicator is a Good Listener
11 回	The World is Your Classroom:	Places to Learn Outside of Class Part I
12 回	The World is Your Classroom:	Places to Learn Outside of Class Part II
13 回	Expanding Horizons:	Discourse Types Part I
14 回	Expanding Horizons:	Discourse Types Part II
15 回	Final Assessment:	Examination/Term Project

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】
Course materials and/or textbooks will be assigned by each instructor.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project
**Class attendance is a course requirement.
Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.
The instructors always welcome comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.
The instructors reserve the right to modify this course syllabus whenever necessary.

GA332

英語アプリケーション（火曜・4限）Culture, why are there differences?

ウォルター　カズマー

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：なし
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class offers English to talk about experience abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【到達目標】
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【授業の進め方と方法】
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	overview of class requirements
Week 2	Youth culture	Examining aspects of youth trends such as tatoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.
Week 3	Youth employment: where does the money go?	Youth shopping trends for services and products
Week 4	Elderly trends	Shopping for health, plastic surgery and Internet dating
Week 5	Careers and employment Research habits	Working life: what is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Conducting group research-different sharing tips
Week 6	Alternative career tracks Outlining of presentations	Unusual fields for employment Cluster and formal outlining
Week 7	Medical advances Presentation tip - explanation of structure	How medical technology is shaping our world of diseases and viruses Introduction/Body/Conclusion
Week 8	Medical research Presentation tip-use of voice and posture	Big pharma: how medicine changes our reality voice and body language dos and don’t s for English public speaking
Week 9	Health issues Presentation tip-use of slides	Diet considerations for life stages slide making dos and don’ts
Week 10	Mental Health considerations Presentation tip-Group work	Overworking, group and relationship stresses Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together
Week 11	Technology in our blood Presentation tip-Final slide editing	Technology changes: Uber/Lyft, Yelp/Square, Meet up, Run through checklist of questions to ask on final edit
Week 12	Youth trend Presentations	Presentations and discussions of youth trend themes
Week 13	Elderly Presentations	Presentations and discussions of elderly trend themes
Week 14	Health/medical advances Presentations	Presentations and discussions of health and medical advances
Week 15	Course overview discussions	Discussion of life themes used in the semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
homework, blog work, some presentation preparation

【テキスト（教科書）】
No textbook.

【参考書】
handouts, websites, class blog

【成績評価の方法と基準】
Class participation - 50%
Project and presentation - 25%
Other assignments - 25%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
More interactive work on presentation preparation

【学生が準備すべき機器他】
PC/AV

GA332

英語アプリケーション（金曜・3 限）The Art and Science of Persuation

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The ability to persuade others and influence what they think and do is one of the most important skills in business and in life. In this course we will study the masters of persuasion - from business and advertising to politics and religion - to learn how they persuade us to do what they want and how we can use those skills ethically to succeed in our own careers and lives.

【到達目標】
The goal of this course is to build the students understanding and awareness of the tools that others use to manipulate their behavior and beliefs. We will also study and practice using the skills of logic, emotion, rapport and authenticity to persuade others in our own careers and lives.

【授業の進め方と方法】
Students will read and view examples of persuasive language use and then discuss the techniques and tools they used to influence the behavior and beliefs of others. Students will be graded on class participation, written and presentation assignments.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction and overview of the Science and Practice of Persuasion	We will discuss both the positive and negative uses of persuasion in culture.
2	The Science of Persuasion - Reason, Emotion and Identity	We will look at and discuss examples of the roles of reason (logic), emotion (feelings) and identity (brand) in media and business.
3	The Science of Persuasion - Reciprocity and Commitment & Consistency	We will look at and discuss examples of Reciprocity and Commitment & Consistency in media and business.
4	The Science of Persuasion - Social Proof and Liking	We will look at and discuss examples of Social Proof and Liking in media and business.
5	The Science of Persuasion - Authority and Scarcity	We will discuss both the positive and negative uses of persuasion in culture.
6	Mid-term Report preparation	Students will prepare a report on an example of either effective or ineffective persuasion.
7	Mid-term Report Due Introduction to the Practice of Persuasion	We will begin to work on how to effectively use persuasive skills in or personal and professional lives.
8	The Practice of Persuasion - Change and the Core of a Persuasive Argument	We will discuss the structure of a persuasive argument.
9	The Practice of Persuasion - The Flow of Apparent Logic	We will work on the skills of building an apparently logical flow of ideas that leads to a persuasive conclusion.
10	The Practice of Persuasion - Confidence, Energy and Enthusiasm	We will practice the skills of delivering and effectively persuasive presentation.
11	The Practice of Persuasion – Rapport, Emotion and "You" Focus	We will discover the persuasive power of connecting with the audience.
12	The Practice of Persuasion – Authenticity, Presence and Prosody	We will practice the skills that create a powerful presence in a speaker.
13	Final presentations - Preparation	Students will prepare for the final presentation – A persuasive proposal for change.
14	Final Presentations Due	Students will deliver their presentations to the class.
15	Final Presentations Due	Students will deliver their presentations to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Their will be readings and video viewing assignments for homework, as well as preparation for in-class presentations.

【テキスト（教科書）】
影響力の武器 [第三版]: なぜ、人は動かされるのか
ロバート・B・チャルディーニ
ISBN-10: 4414304229
ISBN-13: 978-4414304220

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
20% - In class activities
20% - Class participation
30% - Mid-term presentation
30% - Final Essay

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Not Applicable

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement.
Students are allowed no more than three absences in the semester.

GA332

英語アプリケーション（月曜・2限）Canadian Life

マーティン・ブラッドショー

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：なし
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 ｜ 開講セメスター：春学期
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Though Canada is the second largest country geographically in the world, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. During the course of the semester, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic (b) Canadian fact sheet questions and answers (c) a guided topical conversation and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【到達目標】
The aim of this course is to explore Canadian culture and lifestyle and Canada's development as a nation.

【授業の進め方と方法】
Though Canada is the second largest country in the world geographically, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. During the course of the semester, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic (b) Canadian fact sheet questions and answers (c) a guided topical conversation and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements.
Week 2	Canadian geography	Conversation: 'I'm good at Canadian facts!' Canada Fact Sheet: Week #1 Discussion Topic and Presentation
Week 3	Regions of Canada – The Maritimes Slideshow	Conversation: 'I'm a new immigrant to Canada!' Canada Fact Sheet: Week #2 Discussion Topic and Presentation
Week 4	Regions of Canada – Quebec/Ontario Slideshow	Conversation: 'The Polar Bear Dip' Canada Fact Sheet: Week #3 Discussion Topic and Presentation
Week 5	Regions of Canada – The Prairies Slideshow	Conversation: 'Canoeing the Nahanni!' Canada Fact Sheet: Week #4 Discussion Topic and Presentation
Week 6	Regions of Canada – Western Canada Slideshow	Conversation: 'This weather is amazing!' Canada Fact Sheet: Week #5 Discussion Topic and Presentation
Week 7	Canadian Art – The Group of Seven	Conversation: 'Canada's National Sport?' Canada Fact Sheet: Week #6 Discussion Topic and Presentation
Week 8	Canadian Art – Norval Morrisseau	Conversation: 'What's your favourite Canadian city?' Canada Fact Sheet: Week #7 Discussion Topic and Presentation:
Week 9	Canadian Music – Celtic Music	Conversation: 'Nova Scotia Bound!' ' Canada Fact Sheet: Week #8 Discussion Topic and Presentation
Week 10	Canadian Music – Leonard Cohen, Buffy Saint-Marie	Conversation: 'Trudeaumania!' Canada Fact Sheet: Week #9 Discussion Topic and Presentation
Week 11	First Nations People	Conversation: 'Canadian exports: I need some help!' Canada Fact Sheet: Week #10 Discussion Topic and Presentation
Week 12	First Nations People	Conversation: 'Skiing Mt. Whistler' Canada Fact Sheet: Week #11 Discussion Topic and Presentation
Week 13	Multiculturalism	Conversation: 'Quebec City Winter Carnival!' Canada Fact Sheet: Week #12 Discussion Topic and Presentation
Week 14	Quebec	Conversation: 'Toronto has really changed!' Canada Fact Sheet: Week #13 Discussion Topic and Presentation
Week 15	Over Canada	An Aerial Adventure

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Presentation topics are to be researched outside class. A visual component is required for all presentations. Weekly conversations and Fact Sheet questions and answers are to be studied and practiced before class for fluency.

【テキスト（教科書）】
No required textbook

【参考書】
References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor prior to research.

【成績評価の方法と基準】
Students will be graded on their
1.Bi-weekly presentations – 70%
2.Weekly quizzes – 30%
Passing grade for the class is 60%.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
This course has no changes from 2015.

GA332

英語アプリケーション（月曜・5限）Instant Fluency

マーティン・ブラッドショー

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Through pairwork and group activities, students will converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pairwork practice of a preassigned conversation (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic (d) a news item pairwork reading and listening and (e) a task-based pairwork activity. Students' progress in pairwork activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation. All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities.

【到達目標】
The goal of this class is to increase students' overall communicative ability and fluency in English.

【授業の進め方と方法】
All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pairwork and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pairwork practice of a preassigned conversation (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic (d) a news item pairwork reading and listening and (e) a task-based pairwork activity. Students' progress in pairwork activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
Week 1	Topic: 'Money & Shopping'	Part 1: Conversation: 'What personality type are you?' Part 2: Fact Sheet: Week #1 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #1
Week 2	Topic: 'Single Life'	Part 1: Conversation: 'Some artists are misunderstood!' Part 2: Fact Sheet: Week #2 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #2
Week 3	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Conversation: 'History is my best subject!' Part 2: Fact Sheet: Week #3 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #3
Week 4	Topic: 'What if …?'	Part 1: Conversation: 'I'm against animal testing!' Part 2: Fact Sheet: Week #4 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #4
Week 5	Topic: 'Children'	Part 1: Conversation: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Fact Sheet:Week #5 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #5
Week 6	Topic: 'Cities'	Part 1: Conversation: 'The 60s counterculture!' Part 2: Fact Sheet: Week #6 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #6
Week 7	Topic: 'University Life'	Part 1: Conversation: 'After all, it's only a game!' Part 2: Fact Sheet: Week #7 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #7
Week 8	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Conversation: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Fact Sheet: Week #8 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #8
Week 9	Topic: 'Travel'	Part 1: Conversation: 'Does capital punishment work?' Part 2: Fact Sheet: Week #9 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #9
Week 10	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Conversation: 'My Cat is Cool!' Part 2: Fact Sheet: Week #10 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #10
Week 11	Topic: 'Home'	Part 1: Conversation: 'Staying Fit' Part 2: Fact Sheet: Week #11 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #11
Week 12	Topic: 'Time'	Part 1: Conversation: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Fact Sheet: Week #12 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #12
Week 13	Topic: 'Annoying Things'	Part 1: Conversation: 'New York! New York!' Part 2: Fact Sheet: Week #13 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #12
Week 14	Topic: 'Personality'	Part 1: Conversation: 'I need some information.' Part 2: Fact Sheet: Week #14 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #14

Week 15	Topic: 'Books and Magazines'	Part 1: Conversation: 'Can I borrow your phone?' Part 2: Fact Sheet: Week #15 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #15

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly.

【テキスト（教科書）】
No required textbook

【参考書】
Students are expected to consult grammar texts and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session.

【成績評価の方法と基準】
Final Exam – 30%
Weekly conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests – 40%
Class Participation/Speaking English in class – 20%
Word-up Tests – 10%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
No changes from 2015.

GA332

英語アプリケーション (水曜・3 限) The Renaissance: Culture and Art

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：なし
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 ｜ 開講セメスター：秋学期
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Renaissance was a historical period that brought profound changes in literature, science, government, and social customs. It is, however, perhaps best remembered for its artistic developments. Starting in Italy in the early 1400s, continuing into the 1500s, and finally moving to the Netherlandish Renaissance of Northern Europe, we will look at specific artists that embody these periods, their broader artistic context, and discuss the social and cultural changes taking place that influenced their work.

【到達目標】
The aim of this course is to examine how the great changes occurring at the time (from around 1400 to 1600) affected Renaissance art, and see how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

【授業の進め方と方法】
Students will select a topic relevant to the lecture theme, and will then research, prepare, and give a presentation on that topic.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Introductions, explanations of the course and course requirements.
2	The Early Renaissance	Beginnings of the Italian Renaissance: Giotto, Masaccio.
3	Presentation style	Learning presentation structure, effective posture, eye contact, body language, gestures.
4	The Early Renaissance	Research, draft and edit presentation scripts.
5	The Early Renaissance	Give presentations.
6	The Early Renaissance	Give presentations.
7	The High Renaissance	High Italian Renaissance: da Vinci, Michelangelo.
8	Presentation style	Learning to create effective visuals and present them effectively.
9	The High Renaissance	Research, draft and edit presentation scripts.
10	The High Renaissance	Give presentations.
11	The High Renaissance	Give presentations.
12	The Netherlandish Renaissance	Netherlandish Renaissance: van Eyck, Bosch.
13	The Netherlandish Renaissance	Research, draft and edit presentation scripts.
14	The Netherlandish Renaissance	Give presentations.
15	The Netherlandish Renaissance	Give presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital.

【テキスト（教科書）】
No textbook required.

【参考書】
To be discussed during lectures.

【成績評価の方法と基準】
Presentations – students will make three presentations during the course (3 x 25%)
Class participation – enthusiasm and willingness to speak English in class and helpfulness to others (25%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
After receiving feedback from students, more background information about biblical and mythological characters will be discussed in lectures.

GA332

英語アプリケーション (水曜・4 限) Japanese Culture, World Culture (Focus on Japan)

リービ　英雄

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice in English discourse. Related to Japan.
Students will speak on selected topics, to be decided in consultation with the professor, followed by questions from the other students.

【到達目標】
「文化」について英語で話せるようになる。

【授業の進め方と方法】
Each time students will give short lectures related to Japan, followed by class discourse.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	「日本」を表現する英語
第２回	Traditional Japanese culture 1	発表
第３回	Traditional Japanese culture 2	発表
第４回	Traditional Japanese culture 3	発表
第５回	Traditional Japanese culture 4	発表
第６回	Traditional Japanese culture 5	発表
第７回	Traditional Japanese culture 6	発表
第８回	Modern Japan 1	発表
第９回	Modern Japan 2	発表
第 10 回	Modern Japan 3	発表
第 11 回	Modern Japan 4	発表
第 12 回	Modern Japan 5	発表
第 13 回	Modern Japan 6	発表
第 14 回	Modern Japan 7	発表
第 15 回	コンクルージョン	講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Read about Japanese culture.

【テキスト（教科書）】
毎回、教員が提供する。

【参考書】
毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】
発表 (50%) とリポート (50%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
日本だけでなく外国文化を課題にしてもいい、と分った。

GA332

英語アプリケーション（月曜・2 限）Art, Rebellion and Advertising

マーティン・ブラッドショー

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：なし
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this class is to examine cultural phenomena that impact our lives. Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere appearance. The notion of 'possibility' will be used to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

【到達目標】
The goal of this course is improve students' critical thinking ability by challenging their belief systems.

【授業の進め方と方法】
Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere surface appearance. We will use this notion of 'possibility' to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements; the notion of 'possibility.'
Week 2	Theme: Art	Topic: Symbols and Logos.
Week 3	Theme: Art	Topic: Symbols and meanings – Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'.
Week 4	Theme: Art	Topic: Analysis of Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows.'
Week 5	Theme: Art	Topic: A Comparison of Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife' (1943).
Week 6	Theme: Art	Topic: Art and Function: Can functional objects be works of art?
Week 7	Theme: Rebellion	Topic: Youth rebellion in the 1950s/1960s; counterculture movement.
Week 8	Theme: Rebellion	Topic: Music as means to change – Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s.
Week 9	Theme: Rebellion	Topic: Music as means to change – Bob Dylan and Neil Young.
Week 10	Theme: Rebellion	Topic: Martin Luther King: 'I have a dream' speech.
Week 11	Theme: Advertising	Topic: Advertising techniques.
Week 12	Theme: Advertising	Topic: Advertising techniques continued.
Week 13	Theme: Advertising	Topic: Advertising vs Branding.
Week 14	Theme: Beliefs	Topic: Is the unexamined life worth living?
Week 15	Theme: Conclusion	Topic: Final remarks and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Student presentations are to be researched outside class. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】
No required textbook.

【参考書】
References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor.

【成績評価の方法と基準】
Students are required to give presentations based on topics discussed in class. The purpose of the presentations is to further class discussion. Students are required to complete all assigned presentations to receive a passing grade. Class grade is based on presentations and participation in class discussions.
Presentations – 70%
Class participation – 30%
Passing grade for the class is 60%.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
No changes from 2015.

GA332

英語アプリケーション（火曜・4 限）Why culture matters?-truths and fallacies

ウォルター　カズマー

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class offers English to talk about experience abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【到達目標】
Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan.

【授業の進め方と方法】
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	overview of class requirements
Week 2	Describing your life	Language activities centering around student life
Week 3	Describing other lives	Language activities centering around family and acquaintance rountines
Week 4	Explaining customs in your country	holidays, national/regional habits
Week 5	Explaining customs in selected Asian countries Research habits	holidays, national/regional habits Conducting group research-different sharing tips
Week 6	Explaining customs in selected Western European countries Outlining of presentations	holidays, national/regional habits Cluster and formal outlining
Week 7	Discussion of Asian and Western national differences Presentation tip - explanation of structure	national holidays, customs versus habits Introduction/Body/Conclusion
Week 8	Discussion of South American customs in selected countries Discussing cultural differences Presentation tip-use of voice and posture	national holidays, national/regional habits Examining cultural differences; dos and don'ts voice and body language dos and don't s for English public speaking
Week 9	Discussing food habits Presentation tip-use of slides	Diet and how it affects customs slide making dos and don'ts
Week 10	Habits of selected parts of Africa Presentation tip-Group work	national holidays, national/regional habits Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together
Week 11	Examination of sports by continent-selected countries Presentation tip-Final slide editing	sports comparison by types, number of players variations in styles of play, equipment Run through checklist of questions to ask on final edit
Week 12	Asian presentations with discussion of main themes What would you do?	discuss themes of presentations based on music, art, and traditional public customs Culture clash examples
Week 13	Western European Presentations with discussion of main themes	discuss themes of presentations based on music, art, and traditional public customs Look at unusual food
Week 14	South American Presentations with discussion of main themes What are the rules?	discuss themes of presentations based on music, art, and traditional public customs Relook at sports, but ones with unusual rules
Week 15	Course overview Discussion of presentation theme contrasts	discussion of cultural contrasts from country to country and region to region

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
homework, blog work, some presentation preparation

【テキスト（教科書）】
No textbook

【参考書】
handouts, websites, class blog

【成績評価の方法と基準】
Class participation - 50%
Project and presentation - 25%
Other assignments - 25%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
More interactive work on presentation preparation

【学生が準備すべき機器他】
PC/AV

GA332

英語アプリケーション（木曜・3 限）The History of Tourism

マーク・フィールド

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：なし
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. All third and fourth year students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country through their Study Abroad experience, which is an Intercultural Communication Activity sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

【到達目標】
The goal of this course is to explore how the world continues to become increasingly interconnected due to better communication systems and increasing opportunities for international travel. It will also examine how more people around the world are experiencing interactions with people from different countries and cultures, i.e., directly experiencing Intercultural Communication through tourism.

【授業の進め方と方法】
In this course we will first look at the historical development of tourism and its expanding cultural significance. Later participating students will be asked to investigate potential areas and/or sites where tourism is developing or may be developed in the future.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation	Student Selection & Class Overview
2 回	History of Tourism	World Tourism Day
3 回	History of Tourism	Global Code of Ethics for Tourism
4 回	History of Tourism	The Development of Mass Tourism
5 回	Expanding Roles of Tourism	Student Presentations
6 回	Tourist Markets	Transportation & Infrastructure
7 回	Tourist Markets	Accommodations
8 回	Tourist Markets	Attractions & Activities
9 回	Expanding Roles of Tourism	Student Presentations
10 回	New Modes of Tourism	All-inclusive Resorts
11 回	New Modes of Tourism	Cruises
12 回	New Modes of Tourism	Thematic Tourism
13 回	Business Constraints	The Economics of Tourism
14 回	Social Considerations	The Environmental and Cultural Impacts of Tourism
15 回	Final Assessment	Examination/Term Project

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material early in the semester, and participating students will generate more course material as the semester progresses.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
20% Short Presentations
40% Final Examination/Term Project

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes.
Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.
The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】
OHC and PC presentations.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.
The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

GA132

ドイツ語コミュニケーションⅠ（会話）

ハース豊川　モニカ

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当講座はドイツ語のコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の知識習得をはかる。

【授業の進め方と方法】
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Wie junge Leute wohnen	Ueber Wohnsituationen sprechen
3	Als ich Kind war	Ueber seine Kindheit und Jugend sprechen
4	Alltagsdialoge	Ueberraschung und Wut ausdruecken, etwas erklaeren
5	Traumreisen	Reiseangebote lesen und darueber sprechen
6	Ein Reisebericht	Einen Reisebericht lesen und von einer Reise erzaehlen
7	Gefuehle	Sagen, wie man etwas findet
8	Die deutschen Bundeslaender	Die deutschen Bundeslaender kennenlernen, ueber Deutschland sprechen
9	Beim Arzt	Koerperteile benennen und ueber Krankheiten sprechen
10	Gesundheit	Ratschlaege geben
11	Ernaehrung	Ueber Lebensmittel und gesunde Ernaehrung sprechen
12	Im Restaurant	Gespraeche und bestellen im Restaurant
13	Farben und Mode	Kleidung und Personen beschreiben und ueber Mode sprechen
14	Im Kaufhaus	Einkaufsgespraech in der Modeabteilung
15	Abschluss	Wiederholung und Zusammenfassung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習を必ず行う。宿題を忘れないで行うこと。

【テキスト（教科書）】
Tangram Aktuell 2, Lektion 1 - 4

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。５０％
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。５０％
遅刻はしないこと。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。

【学生が準備すべき機器他】
CD-Player

GA232

ドイツ語コミュニケーションⅡ（表現）

ウテ・シュミット

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Im deutschsprachigen Raum leben und studieren
ドイツ語圏で生活する―ドイツ語圏で勉強する

【到達目標】
困難なくドイツ語圏で学生生活を送ることと、少しでも多く話せるようになることがこの授業の目標です。聴解力・読解力・表現力における弱点を補強し、基礎を確実なもの、使えるものとすることを目標にしています。

【授業の進め方と方法】
この授業では基礎文法を含むテキストを用い、ドイツ語圏の日常生活や文化のさまざまな場面に題材を求めた、会話練習、聴きとり練習等に取り組む。口語表現力を重視しますので、必要な分野の語彙を習得、実践的にパートナー練習を通じて、コミュニケーション能力をアップすることをめざしています。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Einführung オリエンテーション	Sich vorstellen Ich und meine Familie
2	日常生活 Mein Alltag	Zeiten und Termine im Alltag und an der Uni
3	余暇 Freizeit	Hobby und Vereinsleben
4	食生活 Ernährung	Lebensmittel einkaufen und Essen im Restaurant
5	買い物 Kaufen, Kaufen	Im Geschäft: Preise und Konsum
6	住居 Wohnen	Wohnungen und Möbel
7	メディア Medien	Breif-Handy-SMS-Mail
8	健康 Gesundheit	Beim　Arzt
9	街の中 Orientierung	In der Stadt
10	場所と方向 Wege	Wegbeschreibungen verstehen
11	天気 Klima und Wetter	Wetterbericht verstehen
12	休暇 Urlaub	Eine Reise planen
13	祝日とお祭り Feiertage und Feste	Feste in Deutschland und der Schweiz kennenlernen, Japanische Feste erklären
14	まとめ Wiederholung	復習
15	試験	Mündliche Prüfung 面接試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
使える語彙を増やすために毎回単語を覚えること必要です。

【テキスト（教科書）】
コピーを配布します

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
授業の積極的な参加（発言）（40 %）、提出した宿題（30 %）、面接試験（30 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
文章を書く練習は役に立ったようで、引き続き授業で取り上げたいと思っています。

GA232

ドイツ語コミュニケーションⅢ（留学会話）

ハース豊川　モニカ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当講座はドイツ語のコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の知識習得をはかる。

【授業の進め方と方法】
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Wuensche	Ueber Wuensche, Traeume und Fantasien sprechen
3	Wuensche	Wuensche ausdruecken
4	Wohnungen	Eine Wohnung suchen, Wohnungsanzeigen lesen
5	Wohnungen	Ueber Wohnstile sprechen
6	Erinnerungen	Ueber Stationen des Lebens sprechen
7	Lebenslaeufe	Ueber beruehmte Persoenlichenkeiten sprechen
8	Erinnerungen	Sich an Vergangenes erinnern
9	Reisen	Ueber Reisen sprechen
10	Reisen	Einen Tagesablauf in einer anderen Stadt planen
11	Hotels	Hotels vergleichen
12	Reisen und Hotels	Ein Zimmer buchen
13	Im Hotel	Gespraeche im Hotel
14	Aus dem Leben gegriffen	Wiederholung
15	Abschluss	Wiederholung und Zusammenfassung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習を必ず行う。宿題を忘れないで行うこと

【テキスト（教科書）】
Tangram aktuell, Lektion 5 - 8

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。５０％
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。５０％
遅刻はしないこと。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。

【学生が準備すべき機器他】
CD-Player

GA332

ドイツ語アプリケーション（火曜・２限）

林　志津江

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA ドイツ語圏の留学で伸ばしたドイツ語運用能力を維持し、さらに向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】
ドイツ語圏の生活、文化、社会など多様なテーマに関する理解を深め、それらを簡単なドイツ語で表現・説明できる。抽象的なテーマについて、ドイツ語で自分の意見を述べ、議論ができる。まとまった分量のドイツ語作文（レポート）が書ける。上級ドイツ語アプリケーションに進む意欲と情熱が湧いてくる！

【授業の進め方と方法】
各回決められたテーマに沿って自由に議論する形式です。グループワークも取り入れながら、できる限りドイツ語で表現します。繰り返しドイツ語で作文しながら、少しずつ表現が自然に出てくるようになるまで練習するとともに、自分の意見をドイツ語にまとめる練習を行います。それと同時に、スイスやスイス以外のドイツ語圏など地域に関する話題も用意し、自分自身の体験と比べつつ、さまざまに思考をめぐらせる訓練もしていきます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方について、ドイツ語レベルの調整、ドイツ語で SA 滞在時の思い出を語ってみよう！
2	自宅と家族、住まいについて	家族、家庭内での光景、一日の営みについてドイツ語で説明しする練習
3	学校・大学生活	学校・大学制度、学校生活のさまざまな光景を説明する、日本とスイス（ドイツ語圏）では何が違った？
4	食生活と食文化	朝食、昼食、夕食の光景、食文化について語る、レストランで食べたいものを食べる、ウエイター・ウェイトレスさんとして働くには？
5	街中で	乗り物に乗ってどこかへ行くためには？ 街中で見かけるさまざまな光景を説明する
6	仕事と余暇	仕事と余暇の過ごし方について、ドイツ語圏と日本とではどう違うと思う？ 簡単なドイツ語を使って議論する練習
7	社会問題（１）ー 環境政策について	ドイツ語圏の脱原発政策について知識を確認する、自分の意見をドイツ語で言ってみよう。
8	社会問題（２）ー 移民政策、難民の流入	ドイツ語圏の移民政策について、急増する難民に向けた対策、メディアが発することと自分が思ったこと、自分の意見をドイツ語で言ってみよう
9	社会問題（３）ー 教育と大学制度	ドイツ語圏の教育、大学制度について、日本の大学生とスイス（ドイツ語圏）の大学生は何か違うと思う？ ドイツ語で議論してみよう
１０	社会問題（４）ー 日本の社会と教育制度	ドイツ語圏と比べて日本はどうだろう？ 主に教育制度に的をしぼって、周囲とドイツ語で議論してみよう
１１	ドイツ語圏の歴史と政治（１）	ドイツ語圏の歴史に関する平易なテクストを読む、ドイツ語で自分の意見を確認、引き続きドイツ語で議論する
１２	ドイツ語圏歴史と政治（２）	ドイツ語圏の歴史に関する平易なテクストを読む、ドイツ語で自分の意見を確認、引き続きドイツ語で議論する
１３	日本の政治・歴史政策をドイツ語圏と比べると…？！	ドイツ語圏と比べて日本は何か違うと思う？ ドイツのメディアが報道する日本、あなたはどう思う？
１４	まとめ	春学期のまとめ
１５	定期試験	筆記および口頭試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・所定の予習・復習課題を出します。
・新聞（日刊紙）を読むといいです。国際政治を自分の身近な問題として引き受けるために何が必要か、それを常日頃から考えられるといいと思います。
・ドイツ語圏のメディアにはインターネット等で簡単にアクセスできます。SNS 等も効果的に利用して、日頃からそうしたメディアに接するクセをつけると良いでしょう。

【テキスト（教科書）】
『Themen aktuell』（Hueber, 2003）
その他は適宜コピーで配布します。

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と提出物（課題への取り組み）50 %、定期試験 50 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
（今年度より担当します）

【学生が準備すべき機器他】
独和辞典は必携です。（ただし議論の時は使ってはいけません）

【その他の重要事項】
・扱うテーマ、順序は変更されることがあります。
・ドイツ語（外国語）の運用能力は、適切なトレーニングで誰でも上達します。でもそれが楽しめるかどうかは、自分の身の回りの全てに言葉（母語でも外国語でも）で反応できるかどうかにかかっています。活字に触れる日常はもちろんのこと、学校で、バイト先で、サークルで、家で家族と、友だちと、パートナーと過ごす時間の中で自分が何をどう思うのか、気持ちを言葉にするのが難しいのはなぜか、相手が何も言ってくれないのはなぜか、自分と周囲の言葉をいつも意識して見つめてみて下さい。
ご自分がスイス（やその他の国）で体験したことを、言葉の観点からも振り返り続けることで、留学体験はあなたの人生できっと無限大に生かされるでしょう。ご一緒できるのを楽しみにしています。

GA332

ドイツ語アプリケーション（水曜・３限）

熊田　泰章

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA によって学んできたドイツ語学習をまとめ、発展させることを目的とする。
ドイツ語による話す・書くの自己表現をさらにトレーニングする。
また、「ドイツ語を学ぶこと」について学ぶ。
SA の楽しい思い出について語りつつ、また SA での苦労について振り返りながら、共同テーマとして考えたいことは、
　マルチカルチャー社会は失敗したのか？
　異文化への寛容性と文化自己同一性は矛盾するのか？

【到達目標】
ドイツ語運用能力をさらに向上させる。
多文化共生についての理解を深める。

【授業の進め方と方法】
留学中に学んだことをもう一度見つめなおしてみよう。
SA 中に考えたこと、あるいは、疑問に思い、答えを出し切れなかったことなど、いくつかのテーマを選んで、報告してもらい、ともに考え、討論する。
各回の基本トピックは提示するが、具体的に論じるためのテーマは各自の提案によって共同で決定する。
必要な資料は適宜提供する。
授業はドイツ語によって行う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
１	イントロダクション	テーマの提案
２	テーマの提案をまとめる	テーマの提案を評価し、まとめる
３	テーマ１ トピック：スイスとは？	テーマ１とトピック：スイスとは？ について報告と討論
４	テーマ２ トピック：スイスの歴史	テーマ２とトピック：スイスの歴史について報告と討論
５	テーマ３ トピック： St.Gallen の問題	テーマ３とトピック： St.Gallen の問題について報告と討論
６	テーマ４ トピック： St.Gallen で学ぶこと	テーマ４とトピック： St.Gallen で学ぶことについて報告と討論
７	テーマ５ トピック：様々な留学生	テーマ５とトピック：様々な留学生について報告と討論
８	テーマ６ トピック： EU	テーマ６とトピック： EU について報告と討論
９	テーマ７ トピック： EU とスイス	テーマ７とトピック： EU とスイスについて報告と討論
１０	テーマ８ トピック：スイスと日本	テーマ８とトピック：スイスと日本について報告と討論
１１	テーマ９ トピック： EU と日本	テーマ９とトピック： EU と日本について報告と討論
１２	テーマ１０ トピック：スイス／ EU で働く	テーマ１０とトピック：スイス／ EU で働くについて報告と討論
１３	テーマ１１ トピック：次に学ぶこと	テーマ１１とトピック：次に学ぶことについて報告と討論
１４	報告と討論のまとめ	これまでの報告と討論を総合的に考察する
１５	プレゼンテーション	最終レポート内容のプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
SA で学んだことをレポートにまとめる。
討論テーマに関して、必要な資料を調べる。

【テキスト（教科書）】
教員が選んだマテリアルを配布する。
討論テーマに関する文献資料を用いる。

【参考書】
熊田泰章編『国際文化研究への道―共生と連帯を求めて―』彩流社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
討論テーマ、最終レポートで扱うテーマに関する理解度・語彙力・論述力を判定する。
授業での貢献 50 %、最終レポート 50 %。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生からの提案を重視する。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを活用し、授業内においても報告等をアップロードするので、貸与パソコン等を持参することが望ましい。

GA332

ドイツ語アプリケーション（火曜・３限）

ウテ・シュミット

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏の日常文化:
日本と比較してみましょう

【到達目標】
この授業ではドイツ語による口頭および書面の表現力をつけることを目標としています。題材として、身近な事柄から時事問題までドイツ語圏の日常文化を扱います。その実情を調べ、日本と比較しつつ、そのテーマについて発表や意見交換と簡単なディスカッションを試みたいです。受講者は日本の文化や日本が抱える問題をドイツ語で発信するための能力を磨きます。批判的に問題を扱う姿勢、自己の生活文化を見つめ直す姿勢を育てます。

【授業の進め方と方法】
新聞や雑誌の記事、音楽、オーディオやビデオポッドキャストを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション 自己紹介	Einstufung Selbsvorstellung
第２回	日曜日の過ごし方	Der Sonntag heute und in der Vergangenheit
第３回	国と国民:典型的とは何か？	Land und Leute: Was ist typisch?
第４回	休むことが大事？	Ist Urlaub wichtig?
第５回	大学生活	Studium und Studentenleben
第６回	国際文化とは	Studienfach Interkulturelle Kommunikation
第７回	職業を選ぶ	Ansprueche an den Beruf
第８回	ドイツ映画　１	Deutschsprachige Filme
第９回	ドイツ映画　２	Einen Film sehen und eine Filmkritik schreiben
第 10 回	ドイツのニュースを読む	Nachrichten verstehen
第 11 回	ドイツのニュースを見る	Nachrichten im Fernsehen
第 12 回	消費社会	Konsumgesellschaft
第 13 回	伝統行事	Traditionen und Feste
第 14 回	クリスマスを知るクイズ	Weihnachtenquiz
第 15 回	まとめ	Abschlussdiskussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題が出ます。単語の復習は必須。

【テキスト（教科書）】
コピーを配布します。

【参考書】
特にない

【成績評価の方法と基準】
授業での発言と参加５０％、宿題５０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特にない

GA432

ドイツ語アプリケーション（上級）

林　志津江

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでのドイツ語学習、とりわけ SA ドイツ語圏での留学で習得した実践的なドイツ語運用能力を維持するだけでなく、さらに向上させていきます。ドイツ語の読み、聴き、書き、話す能力をもっともっと高めていきましょう。

【到達目標】
ドイツ語で日常的な事柄がスムーズに表現できるとともに、ドイツ語圏の文化や社会について理解を深め、抽象的なテーマに関してもドイツ語で自分の意見が言えること。さまざまなテーマについてドイツ語で意欲的な議論ができること。ドイツ語でまとまった分量の作文（レポート）が書けること。
秋学期も引き続きこの授業で学ぼうという意欲が湧いてきて、自分のドイツ語能力や学習体験を自分の将来に生かせるかどうかを真剣に考えるようになれたら、さらに理想的です。

【授業の進め方と方法】
使用言語は原則としてドイツ語です。あらかじめ所定のテーマについて、与えられた課題（テクスト）を読んできてもらいます。各回そのテーマに沿って、できる限りドイツ語で表現します。話すことでドイツ語の作文の練習を繰り返し、自分の意見をドイツ語でできるだけスムーズに言えるようになるよう、根気よく楽しく練習していきます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	イントロダクション、ドイツ語レベルの確認等
2	ヨーロッパとは？	冷戦の崩壊とドイツ再統一、「ヨーロッパ人」ってアリだと思う？ EU というコンセプト
3	さまざまなドイツ語	ドイツ語で「パン」って何ていうんだっけ？ グーテンベルクとルターの功績
4	家族のあり方	世代間の相違と家族のあり方の変化、少子高齢化社会の悩み、「パッチワーク家族」って？
5	住まいとプライベート	家を買うのか借りるのか？ "gemütlich"という至上の価値について
6	仕事と余暇	職業と余暇の過ごし方について、失業問題と社会保障、仕事／職業の持つ意味
7	余暇とスポーツ	「サッカーこそ我が人生」、「散歩」と"Spaziergang"の違い、あなたはスポーツが好きですか？
8	余暇と休暇（有給休暇・ヴァカンス）	人々が集う楽しみ、旅行（ヴァカンス）の権利と行使、日本の労働者は…？！
9	教育制度	勉強を頑張ることと自分の適正を知ること、大学へ行く選択の持つ意味、日本とはどう違う？
10	大学での学び、学位の意味	大学へ行ったらどうなる？ 行かなかったら？ 大学で何を学ぶべき？ 日本と比べてどうかな？
11	食生活と食べ物（1）	スイスやドイツでは何が美味しかった？ 誇り高き Metzger たち、Vegan 用のソーセージ
12	食生活と食べ物（2）	食文化を守るという意識、ビールの歴史、「ビオ」大好き！
13	プレゼンテーション（1）	各自選んだテーマに沿って、一定量のプレゼンテーションを行う、その後にみなで議論
14	プレゼンテーション（2）	各自選んだテーマに沿って、一定量のプレゼンテーションを行う、その後にみなで議論
15	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・所定の予習・復習課題を出します。
・新聞（日刊紙）を読むといいです。
・ドイツ語圏のメディアにはインターネット等で簡単にアクセスできます。SNS 等も効果的に利用して、日頃からそうしたメディアに接するクセをつけると良いでしょう。国際政治などの場面で話題になっている概念をドイツ語ではどう言うか、ドイツ語の語彙を増やすにも最適です。

【テキスト（教科書）】
"Dreimal Deutsch"（Klett, 2000/2005）
その他は適宜コピーで配布します。

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（課題への取り組み）50 %、定期試験（プレゼンテーション）50 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
（今年度より担当します）

【学生が準備すべき機器他】
独和辞典は必携です（ただし議論の時は使ってはいけません）。

【その他の重要事項】
・各種検定試験の受検を考えている人には、個別に対応します。ぜひ積極的に挑戦して下さい。
・ドイツ語（外国語）の運用能力は、適切なトレーニングで誰でも上達します。でもそれが楽しめるかどうかは、自分の身の回りの全てに言葉（母語でも外国語でも）で反応できるかどうかにかかっています。活字に触れる日常はもちろんのこと、学校で、バイト先で、サークルで、家で家族と、友だちと、パートナーと過ごす時間の中で自分が何をどう思うのか、気持ちを言葉にするのが難しいのはなぜか、相手が何も言ってくれないのはなぜか、自分と周囲の言葉をいつも意識して見つめてみて下さい。皆さんとお目にかかれるのを楽しみにしています。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA432

ドイツ語アプリケーション（上級）

林　志津江

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の「ドイツ語アプリケーション（上級）」の続編です。これまでのドイツ語学習、とりわけ SA ドイツ語圏での留学で習得した実践的なドイツ語運用能力を維持するだけでなく、さらに引き続き向上させていきます。ドイツ語の読み、聴き、書き、話す能力をもっともっと高めていきましょう。

【到達目標】
ドイツ語で日常的な事柄がスムーズに表現できるとともに、ドイツ語圏の文化や社会について理解を深め、抽象的なテーマに関してもドイツ語で自分の意見が言えること。さまざまなテーマについてドイツ語で意欲的な議論ができること。ドイツ語でまとまった分量の作文（レポート）が書けること。
最後までこの授業を楽しんで、これまでに習得したドイツ語能力や学習体験を自分の将来に生かせるかどうかを真剣に考えるようになれたら、さらに理想的です。

【授業の進め方と方法】
使用言語は原則としてドイツ語です。あらかじめ所定のテーマについて、与えられた課題（テクスト）を読んできてもらいます。また今学期は歴史や政治、文化的テーマを多く扱いますが、抽象度の高いテーマに対してもできる限りドイツ語で表現できるよう練習します。話すことでドイツ語の作文の練習を繰り返し、自分の意見をドイツ語でできるだけスムーズに言えるようになるよう、根気よく楽しく練習していきます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	イントロダクション、ドイツ語レベルの確認、各自の春学期と夏休みをドイツ語で振り返る
2	19 世紀とドイツ古典派	王様の立派なお城、立派な大聖堂とバロック建築、ゲーテ・シラーの時代、理想的なドイツ語、
3	ドイツの国家統一	"Bildung"と「私が生きる意味」、ドイツとオーストリアで 1848 年に起きたこと、その頃スイスでは？
4	ウィーンと音楽、宮廷文化の遺産	「クラシック音楽」の黄金期、"3B"って何か知ってる？「第九」で大騒ぎ
5	ベルリン、プロイセン、ビスマルク	宰相ビスマルクの政治、ベルリンの工業化と都市化がもたらしたもの
6	第一次世界大戦の勃発、帝国の終焉、その頃チューリヒで	世界戦争と技術革新の果てに、帝国の崩壊とドイツ革命、チューリヒの「キャバレー・ヴォルテール」
7	ヴァイマール共和国の成立	ヴェルサイユ条約と加速するハイパーインフレ、ドイツとオーストリアの難しい関係
8	ベルリン ー 黄金の 20 年代	ドイツを席巻するアメリカ的価値観、「新しい女」の誕生、スイスからやってきた物理学者、芸術家の使命
9	ナチス・ドイツの台頭、亡命する芸術家たち	カフェに集う芸術家たち、追い詰められる表現の自由、独裁への道
10	ナチス・ドイツ政権下のドイツ、オーストリア、ユダヤ人の迫害と絶滅政策	恐怖政治とニュルンベルク法の制定、第二次世界大戦、絶滅政策の特異性と凡庸な悪
11	連合国による占領時代と冷戦の勃発	占領されるドイツ、ベルリンとウィーン、ドイツマルクの導入、東西ドイツの成立
12	奇跡の経済復興とスイスの現実	フォルクスワーゲンの成し遂げたこと、スイスの理想と欺瞞？
13	プレゼンテーション（1）	各自選んだテーマに沿って、一定量のプレゼンテーションを行う、その後にみなで議論
14	プレゼンテーション（2）	各自選んだテーマに沿って、一定量のプレゼンテーションを行う、その後にみなで議論
15	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・所定の予習・復習課題を出します。
・新聞（日刊紙）を読むといいです。
・ドイツ語圏のメディアにはインターネット等で簡単にアクセスできます。SNS 等も効果的に利用して、日頃からそうしたメディアに接するクセをつけると良いでしょう。国際政治などの場面で話題になっている概念をドイツ語ではどう言うか、ドイツ語の語彙を増やすにも最適です。

【テキスト（教科書）】
"Dreimal Deutsch"（Klett, 2000/2005）
その他は適宜コピーで配布します。

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（課題への取り組み）50 %、定期試験（プレゼンテーション）50 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
（今年度より担当します）

【学生が準備すべき機器他】
独和辞典は必携です（ただし議論の時は使ってはいけません）。

【その他の重要事項】
・各種検定試験の受検を考えている人には、個別に対応します。ぜひ積極的に挑戦して下さい。
・ドイツ語（外国語）の運用能力は、適切なトレーニングで誰でも上達します。でもそれが楽しめるかどうかは、自分の身の回りの全てに言葉（母語でも外国語でも）で反応できるかどうかにかかっています。活字に触れる日常はもちろんのこと、学校で、バイト先で、サークルで、家で家族と、友だちと、パートナーと過ごす時間の中で自分が何をどう思うのか、気持ちを言葉にするのが難しいのはなぜか、相手が何も言ってくれないのはなぜか、自分と周囲の言葉をいつも意識して見つめてみて下さい。皆さんとお目にかかれるのを楽しみにしています。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA132

フランス語コミュニケーションⅠ（会話）

イヴ　ロワゾー

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語コミュニケーションの力を発展させるクラス。フランス語会話を日常生活の中で使えるように土台をつくる。

【到達目標】
フランスの中で旅行および生活するために不可欠な基礎の知識を習得する。

【授業の進め方と方法】
担当する講師は日本人、ネイティブともに同じテキストを使う。日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力を養う。発音の聴き取り、繰り返し、質疑応答などのさまざまな練習を通じてフランス語コミュニケーションの力を発展させる。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の紹介
	Revisions	復習
2	Unité 4 L13	駅の窓口
3	Unité 4 L14	職業に関して話す
4	Unité 4 L15	日常の行動、スポーツ
5	Unité 5 L17	要求、飲食の習慣、量
6	Unité 5 L18	過去の出来事、意見
7	Unité 5 L19	過去について話す, 期間
8	Test de mi-trimestre	中間テスト
9	Unité 5 L20	祝日
10	Savoir-faire p64	復習
11	Unité 6 L21	許可、禁止
12	Unité 6 L22	意志、可能性、必要性
13	Unité 6 L23	提案
14	Savoir-faire p74	復習
15	Test de fin de trimestre	最終テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習問題、復習問題、宿題

【テキスト（教科書）】
Nouveau Taxi 1, Guy Capelle / Robert Menand
Hachette

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal　旺文社

【成績評価の方法と基準】
１：平常点　（10 %）　３：宿題　（30 %）
２：積極性　（10 %）　４：定期試験　（50 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
話す技術を身につけるために会話の機会を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】
CD プレーヤー

GA132

フランス語コミュニケーションⅡ（表現）

大中　一彌

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA フランスを有意義に過ごすために必要な語学的スキル、および文化的教養を身に着けることを目指します。

【到達目標】
１．他の授業と協力しながら、Le Nouveau Taxi!1 を終わらせる。
２．フランス語を通じて発信する内容という観点から、日本や他の国の文化を学ぶ。

【授業の進め方と方法】
1. 文章および動詞活用の暗記、書き取り
2. 教室での発音矯正
3. 各分野で活躍する人びとが執筆したフランス語の文章を講読する（どのテーマに関する教科書の文章を取り上げるかを初回の授業で決める）

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	授業方法の説明 Le Nouveau Taxi! 1	Leçon 21
2	Le Nouveau Taxi! 1	Leçon 22
3	Le Nouveau Taxi! 1	Leçon 23
4	Le Nouveau Taxi! 1	Leçon 25
5	Le Nouveau Taxi! 1	Leçon 26
6	Le Nouveau Taxi! 1	Leçon 27
7	Le Nouveau Taxi! 1	Leçon 29
8	Le Nouveau Taxi! 1	Leçon 30
9	Le Nouveau Taxi! 1	Leçon 31
10	Le Nouveau Taxi! 1	Leçon 33
11	Le Nouveau Taxi! 1	Leçon 34
12	Le Nouveau Taxi! 1	Leçon 35
13	Le Nouveau Taxi! 1	Évaluation
14	Le Nouveau Taxi! 1	同上
15	まとめ	学期を通じて得られた知見を整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に出てきて座っているだけでは、発音は上手になりません。通学途中やお風呂の中など、四六時中フランス語の発音練習をすることが求められます。

【テキスト（教科書）】
Guy Capelle&Robert Menand, *Le Nouveau Taxi! 1 Méthode de français*, Hachette, 2009.

【参考書】
久松健一『ケータイ万能　フランス語文法』駿河台出版社、2000 年。

【成績評価の方法と基準】
文化に関するレポートや発表 25%
課題（動詞活用の暗記・書き取りなど） 25%
期末テスト 25%
その他平常点　25%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
早口の度合いを落とし、聴きやすくする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを用いて連絡、資料配布、成績の公開（学生本人向け）を行う。

【その他の重要事項】
前年度冬の段階で提出された SA 先での研究計画にさらに磨きをかけていく。

GA232

フランス語コミュニケーションⅢ（留学会話）

カレンス・フィリップ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス・アンジェへ行く前の直前準備講座。基礎文法、必須な語彙を復習する。

【到達目標】
前年度よりさらに会話のテーマを広げながら、フランスで暮らせるために色々な角度からコミュニケーションの力を強化させる。

【授業の進め方と方法】
前年度と同じテキストを使い、基本的に同様の教え方を行う。フランスで暮らせる目的を固めながら、フランス語でネイティブとコミュニケーションを取るように会話の能力を強める。それぞれの日常生活の状況に関係がある様々な会話パターンを覚え、反応及び会話のスピードを高める練習も行う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Unité 5 Leçon 20 p62	Les fêtes, la date 祝日、日付
2	Unité 6 Leçon 21 p66	Permission, interdiction 許可、禁止
3	Unité 6 Leçon 22 p68	Possibilités,savoir-faire,volonté, obligation 可能性、能力、意志、義務
4	Unité 6 Leçon 23 p70	Proposer, accepter, refuser 提案、受け入れる、断る
5	Unité 7 Leçon 25 p78	Exprimer ses goûts, fréquence, degrés 趣味, 頻度、程度
6	Unité 7 Leçon 26 p80	Exprimer une opinion, contester 意見、異議
7	Unité 7 Leçon 27 p82	Donner des conseils 好み、助言
8	Savoir-faire p64,74,86	Révisions, test de mi-trimestre 復習、中間テスト
9	Unité 8 Leçon 29 p88	Etats et habitudes passées, évènement récents 過去の習慣、近未来
10	Unité 8 Leçon 30 p90	Evènements passés、circonstances et états passés 過去の出来事、過去の状況
11	Unité 8 Leçon 31 p92	Situer dans le temps,le but 時間の表現、目的
12	Unité 9 Leçon 33 p98	Prévision, probabilité, certitude(météo) 天気予報、可能性
13	Unité 9 Leçon 34 p100	Expression du futur, projets 未来、計画
14	Unité 9 Leçon 35 p102	Hypothèse, condition 仮定, 条件
15	Test de fin de trimestre	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習、復習、宿題

【テキスト（教科書）】
Le Nouveau Taxi 1 Guy Capelle / Robert Menand
Hachette

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal　旺文社

【成績評価の方法と基準】
１：平常点　（５％）　３：宿題　（３０％）
２：積極性　（５％）　４：定期試験　（６０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
より多くの練習問題を課し、実践を通して、フランス語を身につけさせる。

GA332

フランス語アプリケーション（金曜・２限）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé. Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1) comme des "kentei-shiken".

【授業の進め方と方法】
LE NOUVEL ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.
Le cours commence à partir de l'unité 4 pour être tout de suite "dans le vif du sujet" !

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation du manuel - Organisation de la classe. Calendrier des leçons et des devoirs ou tests.
2	Unité 4 dossier 1	C'est de famille
3	Unité 4 dossier 1	C'est de famille (fin)
4	Unité 4 dossier 2	Affaires de coeur
5	Unité 4 dossier 2	Affaires de coeur (fin) Test intermédiaire
6	Unité 5 dossier 1	Bon voyage !
7	Unité 5 dossier 1	Bon voyage ! (fin)
8	Unité 5 dossier 2	Bonne route !
9	Unité 5 dossier 2	Bonne route ! (fin) Test intermédiaire
10	Unité 6 dossier 1	Consommer et jeter
11	Unité 6 dossier 1	Consommer et jeter (fin)
12	Unité 6 dossier 2	À loisirs
13	Unité 6 dossier 2	À loisirs (fin)
14	Récapitulatif	Corrections des derniers devoirs et exposé - suggestions pour le travail personnel
15	Révisions des thèmes et évaluation du cours	Répétitions et évaluations - Test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La présence et la participation en classe sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. apprendre le vocabulaire, structurer un devoir, préparer un exposé).
(出席・予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】
LE NOUVEL ÉDITO, Niveau B1, E. Heu & M. Abou-Samra, Didier.
ISBN : 978-2-278-07269-9

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
Participation active en classe : 30%
Tests, textes et exposés : 70%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés.

【学生が準備すべき機器他】
Le cours se passe en salle LL mais, s'ils le souhaitent, les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

GA332

フランス語アプリケーション（金曜・２限）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours, suite du premier semestre, s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé. Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】
Ce cours, suite du premier semestre, continue de s'adresser à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) et motivés pour la poursuite de leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1) comme des "kentei-shiken".

【授業の進め方と方法】
LE NOUVEL ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	(re-)faire connaissance !	Présentation du manuel - Organisation de la classe. Calendrier des leçons et des devoirs ou tests.
2	Unité 7 dossier 1	Engageons-nous !
3	Unité 7 dossier 1	Engageons-nous ! (fin)
4	Unité 7 dossier 2	Rendre justice
5	Unité 7 dossier 2	Rendre justice (fin) Test intermédiaire
6	Unité 8 dossier 1	L'amour de l'art
7	Unité 8 dossier 1	L'amour de l'art (fin)
8	Unité 8 dossier 2	La belle Histoire
9	Unité 8 dossier 2	La belle Histoire (fin) Test intermédiaire
10	Unité 9 dossier 1	Vivre l'Europe
11	Unité 9 dossier 1	Vivre l'Europe (fin)
12	Unité 9 dossier 2	Si loin, si proches
13	Unité 9 dossier 2	Si loin, si proches (fin)
14	Simulation de l'examen DELF-B1	Corrections des derniers devoirs et exposé - présentation de l'épreuve du DELF aux niveaux B1 et B2
15	Révisions des thèmes et évaluation du cours	Répétitions et évaluations - Test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La présence et la participation en classe sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. apprendre le vocabulaire, structurer un devoir, préparer un exposé).
(出席・予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】
LE NOUVEL ÉDITO, Niveau B1, E. Heu & M. Abou-Samra, Didier.
ISBN : 978-2-278-07269-9

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
Participation active en classe : 30%
Tests, textes et exposés : 70%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés.

【学生が準備すべき機器他】
Le cours se passe en salle LL ; s'ils le souhaitent, les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

GA332

フランス語アプリケーション（木曜・5限）

コンルール　ジョルジュ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire. Les compétences de compréhension et de production à l'oral seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur la culture française.

【到達目標】
Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau intermédiaire, motivés pour la poursuite de leur apprentissage : augmentation du vocabulaire, meilleure capacité d'expression orale (et même écrite), mise en place d'un véritable savoir-faire communicatif. Il peut préparer aux examens du DELF "B1" comme des "kentei-shiken".

【授業の進め方と方法】
LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
①	- Prise de contact (questions et révisions générales). - Explications sur le programme du cours	Tour de classe pour établir le niveau de chaque étudiant et ses demandes particulières. Le programme du cours pourra s'en trouver modifié.
②	Demander des articles, des produits	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
③	Parler des quantités	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
④	Passer une commande	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑤	Réserver	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑥	Réserver (suite et fin)	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑦	Révision générale	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test intermédiaire
⑧	Parler d'argent	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑨	Échanger, se faire rembourser	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑩	Comparer	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑪	Localiser	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑫	Parler des lieux	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑬	Expliquer un vol ou un accident	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑭	Téléphoner (prendre ou annuler un rendez-vous)	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑮	- révisions - test final	Le test final pourra être constitué d'une partie écrite mais aussi orale

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La participation en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (apprendre le vocabulaire et les expressions, préparer la liste d'exercices, être prêt à jouer un rôle à l'oral, etc.)

【テキスト（教科書）】
La Communication Progressive du Français, Niveau Intermédiaire,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-2-09-033726-6)

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé

【成績評価の方法と基準】
Préparation: 25%
Participation en classe: 25%
Tests et devoirs: 50%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Un accent particulier sera mis sur la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】
CD

【その他の重要事項】
On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c6363531333636353638383434393 5.pdf

GA332

フランス語アプリケーション（月曜・3限）

イヴ　ロワゾー

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (fin de B1 et B2). Il offrira des activités des activités de production écrite (essai, article, lettre) et de production orale qui conduiront à la mise en œuvre de tâches effectuées en groupes. Il vise essentiellement la pratique de la langue. Des connaissances complémentaires seront apportées en fonction des productions des étudiants.

【到達目標】
Ce cours vise une autonomisation des étudiants dans leurs pratiques communicatives de la langue écrite et de la langue orale. Il a pour objectif de développer d'une part des stratégies de communication par la pratique de la langue et d'autre part des stratégies d'apprentissage.

【授業の進め方と方法】
Le cours sera consacré à des productions de communication écrite et orale. Les étudiants seront invités à travailler par paires ou par groupes, à collaborer pour atteindre leurs objectifs de communication. Une part importante du cours sera réservée à la réalisation de courts projets. Une attention particulière sera accordée à l'autonomisation des étudiants.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Unité 8, p. 126	Présentations. Discrimination : écrire un essai argumentatif
2	Unité 8, p.127	Discrimination : parler de ses convictions
3	Unité 8, p.130-131	Discriminations :projet - élaboration
4	Unité 8, p.130-131	Discriminations : projet - diffusion
5	Unité 9, p.142	Écologie : écrire un article
6	Unité 9, p.143	Écologie : parler de ses idées
7	Unité 9, p.146-147	Écologie : projet - élaboration
8	Unité 9, p.146-147	Écologie : projet - diffusion
9	Unité 5, p.78	Culture : écrire une lettre de proposition
10	Unité 5, p.79	Culture : parler d'une œuvre d'art
11	Unité 5, p. 82-83	Culture : projet élaboration
12	Unité 5, p. 82-83	Culture : projet diffusion
13	Unité 6, p. 94	Travail : écrire une lettre de motivation
14	Unité 6, p. 95	Travail : parler de son parcours
15	Bilan	Évaluations du cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Tout l'apprentissage et toute la pratique ont lieu en classe. Des activités linguistiques complémentaires seront proposées pour une étude en autonomie hors de la classe.

【テキスト（教科書）】
Yves Loiseau, et al., 2010, Latitudes 3, Paris : Didier
ISBN 978-2-278-6406-9

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】
Toutes les productions font l'objet d'une évaluation.
Productions écrites : 25%
Productions orales : 25%
Projets : 50%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Salle CL

GA432

フランス語アプリケーション（上級）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours, en principe réparti sur deux semestres, est destiné à des étudiants qui se préparent à la vie active et qui veulent communiquer en français, à l'oral comme à l'écrit, dans des situations professionnelles (「ビジネス・フランス語」).

【到達目標】
Ce cours prépare à la vie professionnelle en France ou dans un milieu professionnel francophone. Il est indispensable aux étudiants voulant effectuer un stage professionnalisant en France ou dans un pays francophone (グロバール人材のインターンシップ、など).
Il est également utile à la préparation des examens du DELF ou des "Kentei-shiken", comme à la préparation d'études universitaires en France ou dans un pays francophone.

【授業の進め方と方法】
L'apprentissage sera progressif mais rapide, donc relativement intense. Exercices et activités développeront simultanément les 4 compétences (compréhension de l'oral, de l'écrit ; production orale et écrite). Voir le programme ci-dessous.
Chaque séance de cours sera conclue par quelques éléments de macro-économie et d'actualité économique (15 mn environ).

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 1 (1) ("Une rentrée chargée", pp. 8-23)	Présentation du cours et de la méthode. Parties A et B de l'unité 1.
②	Unité 1 (2) ("Une rentrée chargée", pp. 8-23)	Parties C & D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
③	Unité 2 (1) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
④	Unité 2 (2) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑤	Unité 2 (3) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑥	Unité 3 (1) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑦	Unité 3 (2) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑧	Unité 3 (3) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑨	Unité 4 (1) ("Vous avez dit 'écolo'?", pp. 56-71)	Parties A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑩	Unité 4 (2) ("Vous avez dit 'écolo'?", pp. 56-71)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑪	Unité 4 (3) ("Vous avez dit 'écolo'?", pp. 56-71)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑫	Unité 5 (1) ("En mission", pp. 72-87)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑬	Unité 5 (2) ("En mission", pp. 72-87)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑭	Unité 5 (3) ("En mission", pp. 72-87)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑮	Récapitulatif	Test final et/ou rendu des derniers travaux.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La présence active au cours et la préparation régulière des cours sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque séance, pour le cours suivant.

【テキスト（教科書）】
OBJECTIF EXPRESS 2 (A2/B1),
Anne-Lyse DUBOIS, Béatrice TAUZIN,
Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris
(ISBN : 978-2-01-155509-0)

【参考書】
La possession d'un dictionnaire français-français est fortement recommandée (par exemple : le Robert Micro, ISBN : 978-2-84902-470-6)

【成績評価の方法と基準】
Participation active en classe : 30%
Tests, textes et exposés : 70%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Apprentissage systématique du vocabulaire.

【学生が準備すべき機器他】
Le cours se passe en salle LL mais, s'ils le souhaitent, les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

【グローバル人材育成推進事業公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA432

フランス語アプリケーション（上級）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours, continuation de celui du premier semestre, est destiné à des étudiants qui se préparent à la vie active et qui veulent communiquer en français, à l'oral comme à l'écrit, dans des situations professionnelles (「ビジネス・フランス語」).

【到達目標】
Ce cours prépare à la vie professionnelle en France ou dans un milieu professionnel francophone. Il est indispensable aux étudiants voulant effectuer un stage professionnalisant en France ou dans un pays francophone (グローバル人材のインターンシップ、など).
Il est également utile à la préparation des examens du DELF (à partir du niveau B1) ou des "Kentei-shiken", comme à la préparation d'études universitaires en France ou dans un pays francophone.

【授業の進め方と方法】
L'apprentissage continuera d'être progressif mais rapide et intense. Exercices et activités diverses développeront simultanément les 4 compétences (compréhension de l'oral, de l'écrit ; production orale et écrite). Voir le programme ci-dessous.
Chaque séance de cours sera conclue par quelques éléments de macro-économie et d'actualité économique (15 mn environ).

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 6 (1) ("Que d'événements !", pp. 88-103)	Orientation pour le 2nd semestre. Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
②	Unité 6 (2) ("Que d'événements !", pp. 88-103)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
③	Unité 6 (3) ("Que d'événements !", pp. 88-103)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
④	Unité 7 (1) ("C'est inacceptable !", pp. 104-119)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑤	Unité 7 (2) ("C'est inacceptable !", pp. 104-119)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑥	Unité 7 (3) ("C'est inacceptable !", pp. 104-119)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑦	Unité 8 (1) ("On en parle dans les médias", pp. 120-135)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑧	Unité 8 (2) ("On en parle dans les médias", pp. 120-135)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑨	Unité 8 (3) ("On en parle dans les médias", pp. 120-135)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑩	Unité 9 (1) ("Ça se discute", pp. 136-151)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑪	Unité 9 (2) ("Ça se discute", pp. 136-151)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑫	Unité 9 (3) ("Ça se discute", pp. 136-151)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑬	Unité 10 (1) ("On en est où ?", pp. 152-167)	Parties A & B + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑭	Unité 10 (2) ("On en est où ?", pp. 152-167)	Parties C & D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑮	Récapitulatif	Test final et/ou rendu des derniers travaux.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La présence active au cours et la préparation régulière des cours sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque séance, pour le cours suivant.

【テキスト（教科書）】
OBJECTIF EXPRESS 2 (A2/B1),
Anne-Lyse DUBOIS, Béatrice TAUZIN,
Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris
(ISBN : 978-2-01-155509-0)

【参考書】
La possession d'un dictionnaire français-français est fortement recommandée (par exemple : le Robert Micro, ISBN : 978-2-84902-470-6)

【成績評価の方法と基準】
Participation active en classe : 30%
Tests, textes et exposés : 70%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Apprentissage systématique du vocabulaire

【学生が準備すべき機器他】
Le cours se passe en salle LL mais, s'ils le souhaitent, les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

【グローバル人材育成推進事業公開科目】
他学部公開科目として他学部生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA132

ロシア語コミュニケーションⅠ（会話）

コベルニック　ナディヤ

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常的に使われる会話表現の習得を目標とする授業です。ロシア語の発音とイントネーションに慣れることから始め、挨拶、受け答えの基礎から徐々に語彙を増やしていき、最小限の日常行動が可能となるような会話の基礎を作ります。また、講師との対話（会話）を通して、現地事情を感じてもらえるような授業を目指します。

【到達目標】
簡単なロシア語の質問を正しく理解し、答えることができる。簡単な言葉で自分のことを表現できる。文章を正確に読むことができる。

【授業の進め方と方法】
会話の基礎は、定型的なフレーズの音読練習、暗記、場面での応用で築かれていきます。授業では発音・イントネーションの練習、場面設定でのロール・プレイなどを行います。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	前期の復習	前期に既習した事項を復習する。
2	食材	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
3	料理、飲み物	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
4	料理の味・調理法	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
5	レストラン	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
6	地図、世界の言語	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
7	職業、施設・機関	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
8	移動、交通機関	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
9	町、建物	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
10	形容詞	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
11	動物、鳥、昆虫	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
12	クリスマス、お正月 年賀状の書き方	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
13	「私の一日」（日常生活）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
14	「私の一日」（趣味）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
15	口述試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習（新出単語の意味調べ、文章の音読練習）と復習（授業で学んだことの復習）をすること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
宇多文雄 (2011)『表で学ぶロシア語文法の基礎』東洋書店.

【成績評価の方法と基準】
平常点 (70%)、期末試験 (30%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
個々の学生の長所を伸ばせるような授業を心掛けたいと考えています。

GA232

ロシア語コミュニケーションⅡ（表現）

コベルニック　ナディヤ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
9 月からの現地学習に備え、必要な会話力習得を目的とする授業です。1 年次に学習したことを基に、また、会話表現に必要な事項を補いつつコミュニケーション力をつける練習を繰り返し行います。

【到達目標】
ロシアで学習、生活する上で必要な語彙を習得すること。ロシア語での質問を正確に理解し、それに適切に答えられること。自分の考えをロシア語で表現できること。

【授業の進め方と方法】
授業ではテーマごとに文章を音読し（発音・イントネーションを確認するため）、そこで使われている表現をロール・プレーなどを通して練習します。その後、覚えてきた表現を使い短いロシア語の文章を作成する練習も行います。更に、ロシア語での質疑応答に答えられる訓練を行います。
会話を中心とした授業なので、積極的に授業に参加していただきたい。誤りを恐れずに発言することが語学上達につながります。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと既習の会話表現の復習	既習の会話表現の復習を行う。
2	自己紹介	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
3	家族	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
4	私が住んでいる家（建物、庭）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
5	私が住んでいる家（部屋、家具、設備）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
6	私が住んでいる家（まとめ）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
7	自然、ハイキング	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
8	教育、学生生活	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
9	教育、学生生活（まとめ）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
10	人間の身体部位	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
11	人間の身体部位（まとめ）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
12	人の外見	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
13	人の外見（まとめ）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
14	復習	これまで学んだ表現の復習を行う。
15	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各テーマで読んでいく文章の中でわからない単語があったら調べておくこと。また、授業で学んだ表現をよく復習すること。文章は音読すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
宇多文雄 (2011)『表で学ぶロシア語文法の基礎』東洋書店.

【成績評価の方法と基準】
平常点 (40%)、宿題 (40%)、期末試験 (20%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
個々の学生の長所を伸ばせるような授業を心掛けたいと考えています。

GA232

ロシア語コミュニケーションⅢ（留学会話）

コベルニック　ナディヤ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現地での学習に備えるため、会話でよく使われる語彙や表現を身につけ、それをもとに相手に自分の考えを伝える訓練を行います。また、短いロシア語の文章を作成する練習も行います。さらに、テーマに沿ってロシアでの生活に関することを紹介していきます。

【到達目標】
自分のことをロシア語で表現できる（話す、書く）、他のテーマについても簡単なロシア語を使って表現（話す、書く）できる。

【授業の進め方と方法】
授業では文章を音読し、そこで使われている表現の練習をします。そして、授業中に覚えてきた表現を使い短いロシア語の文章を作成する練習も行います。
会話を中心とした授業なので、積極的に授業に参加していただきたい。誤りを恐れずに発言することが語学上達につながります。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと既習の会話表現の復習	既習の会話表現の復習を行う。
2	日常生活、趣味	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
3	カレンダー、時間の表現	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
4	カレンダー、時間の表現（まとめ）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
5	交通機関、切符売り場	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
6	交通機関、切符売り場（まとめ）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
7	道の案内	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
8	旅行、ホテル	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う
9	買い物	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う
10	電話（友達と話す）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う
11	電話（お問い合わせ、お祝いなど）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う
12	病気と健康	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う
13	診療所・病院にて	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う
14	復習、まとめ	これまで学んだ表現の復習を行う。
15	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各テーマで読んでいく文章の中でわからない単語があったら調べておくこと。また、授業で学んだ表現をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
宇多文雄 (2011)『表で学ぶロシア語文法の基礎』東洋書店.

【成績評価の方法と基準】
平常点 (40%)、宿題 (40%)、期末試験 (20%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
個々の学生の長所を伸ばせるような授業を心掛けたいと考えています。

GA332

ロシア語アプリケーション（月曜・３限）

佐藤　千登勢

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期は、読解力と文法力をつけて、ロシア教育・科学省認定のロシア語検定（ＴＲＫИ）および、ロシア語能力検定試験の、各自が希望する級の合格を目指します。

【到達目標】
SA ロシアで培ったロシア語の、とくに、読解力と文章力、文法の力を向上させ、ロシア語学習に対するモチヴェーションをいっそう高めること、ロシアの文化をロシア語の文献から読みとることが全体的な目標となります。この学習は、ロシア人との会話に際しても、引き出しをたくさん与えてくれるでしょう。テキスト・リーディングと文法問題を積み重ねることで、ロシア連邦教育・科学省が認定するロシア語検定試験（ＴＲＫИ）および、ロシア語能力検定試験の、各自が目標とするレヴェルの合格も目指します。

【授業の進め方と方法】
読解と文法に重点をおきます。リーディングの教材には、外国人向けロシア語検定試（ＴＲＫИ）やロシア語能力検定試験の練習問題、あるいはロシアの文化や習慣をテーマとした文献を教材として、限られた時間に情報を的確に把握し、設問に答える練習を積み重ねていきます。
なお、みなさんの負担を考慮しながら、ロシア語で「書く」力を養うためにロシア語作文を課題とします（添削して返却します）。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	みなさんの要望を訊くアンケートを実施。映像鑑賞。
第２回	ＴＲＫИの文法とロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＲＫИ１級の文法問題と解説。テクスト「ロシア社会におけるマナー」を読む。
第３回	ＴＲＫИの文法とロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＲＫИ２級もしくは１級の文法問題と解説。テクスト「ロシア社会におけるマナー」を読む。
第４回	ＴＲＫИの文法とロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＲＫИ２級もしくは１級の文法問題と解説。テクスト「ロシア社会におけるマナー」を読む。
第５回	ＴＲＫИの文法とロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＲＫИ２級もしくは１級の文法問題と解説。テクスト「ロシア社会におけるマナー」を読む。
第６回	ＴＲＫИの文法とロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＲＫИ２級もしくは１級の文法問題と解説。テクスト「ロシア社会におけるマナー」を読む。ロシア語作文の課題。
第７回	ＴＲＫИの文法とロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＲＫИ２級もしくは１級の文法問題と解説。テクスト「ロシア社会におけるマナー」を読む。
第８回	ＴＲＫИの文法とロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＲＫИ２級もしくは１級の文法問題と解説。テクスト「ロシア社会におけるマナー」を読む。
第９回	ＴＲＫИの文法とロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＲＫИ２級もしくは１級の文法問題と解説。テクスト「ロシア社会におけるマナー」を読む。
第10回	ＴＲＫИの文法とロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＲＫИ２級もしくは１級の文法問題と解説。テクスト「ロシア社会におけるマナー」を読む。
第11回	ＴＲＫИの文法とロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＲＫИ２級もしくは１級の文法問題と解説。テクスト「ロシア社会におけるマナー」を読む。
第12回	ＴＲＫИの文法とロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＲＫИ２級もしくは１級の文法問題と解説。テクスト「ロシア社会におけるマナー」を読む。
第13回	ＴＲＫИの文法とロシア文化を知るテクスト読解。ライティングの課題。	ＴＲＫИ２級もしくは１級の文法問題と解説。「ロシア社会におけるマナー」を知る。ロシア語作文の課題。
第14回	映画鑑賞	ロシア映画を鑑賞
第15回	予備日	やりおおせなかった部分を補う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロシア文化を知るために読むテクストの予習。また、このテクスト内容に関する質疑応答をまとまった分量のロシア語で表現する課題を２、３回提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】
適宜、教場でコピーを配付します。

【参考書】
教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（75 %）、小テスト（25 %）の基準に基づき判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
皆さんの要望に応じて、さらにレヴェルの加減を考えつつ、充実した授業を目指します。

GA332

ロシア語アプリケーション（月曜・3限）

佐藤　千登勢

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
語学力の維持には継続するしか方法はありません。春学期と同様に、引き続き、ロシア語の読解力を維持・向上させると同時に、リスニングに力を入れます。ロシア語を通して情報を迅速に的確に読み取り、記憶に刻むこと、またロシア語の音声を聴いて情報を正しく受け止める力を維持させていきましょう。次年度のロシア語検定試験（ＴＰＫИ）、およびロシア語能力検定試験の希望する級の合格を目標に掲げます。

【到達目標】
読解力と文章力、リスニングを向上させ、ロシア語学習に対するモチヴェーションをいっそう高めること、ロシアの文化をロシア語の文献から読みとる力をつけることが全体的な目標となります。ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ＴＰＫИ）、およびロシア語能力検定試験の各自が目標とするレヴェルの合格を目指します。

【授業の進め方と方法】
ロシア語検定試験　（ＴＰＫИ）、およびロシア語能力検定試験の読解問題やロシア語雑誌のコラム、ロシア文化に関する文献を教材としてリーディングの力を養います。また、ＴＰＫИのリスニング問題を利用して聴解力を高めていきます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	みなさんの要望を訊くアンケートを実施。
第 2 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИのリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第 3 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИのリスニング解説。「ロシア社会での常識」について読む。
第 4 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第 5 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。「ロシア社会での常識」について読む。
第 6 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第 7 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 8 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 9 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 10 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 11 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 12 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 13 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 14 回	映画鑑賞	ロシア映画を鑑賞
第 15 回	予備日	やりおおせなかった部分を補足する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロシア文化を知るために読むテクストの予習。

【テキスト（教科書）】
教場でコピーを配付します。

【参考書】
教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（75 %）、小テスト（25 %）の基準に基づき判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
みなさんの要望に基づき、これまでどおり、ＴＰＫИおよびロシア語能力検定試験に向けた対策、およびロシア語のコラムの読解を続けていきます。

GA432

ロシア語アプリケーション（上級）

コベルニック　ナディヤ

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA ロシアで養ってきたロシア語能力を維持し、「聴く・話す・読む・書く」力をつけ、ロシア語能力検定試験もしくはロシア文科省認定のロシア語検定 (ＴＲＫИ) の希望する級の合格を目指します。春学期の授業では「聴解・語彙・表現（会話・作文)」に焦点を当てます。

【到達目標】
二つのことを到達目標とします。一つは、これらの試験が持っている独特の形式に慣れること。もう一つは、試験対策という目先のことにとらわれることなく、ロシア語の実力を養成すること。春学期は、聴解、語彙と表現（会話・作文）の練習に焦点を絞ります。

【授業の進め方と方法】
毎回の授業の始めに聴き取りの練習を行います。その際、ＴＲＫИもしくはロシア語能力検定試験の聴解の過去問題及びロシア文化・ロシア人の習慣・生活に関する教材を使います。
また、語彙力は表現力の非常に重要な要素であるため、各々の授業にテーマ (「ロシアと日本の祭り」、「人の外見・性格」、「スポーツ」など) を設定し、そのテーマに関する語彙・表現の知識を深め、各テーマについて話せる・意見を述べられるようになるために練習をします。
なお、みなさんの負担を考慮しながら、ロシア語で「書く」力を養うためにロシア語作文を課題とします（添削して返却します)。
* 受講者の要望・ロシア語レベルに応じて授業の内容及び進度を調整します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	ロシアでの留学生活	学生によるプレゼンテーション
3	ロシアと日本の迷信	(1) 聴解練習（聴き取りテスト）とその解説。(2) 授業のテーマに関する語彙・表現を復習・練習し、会話の練習をする。
4	アニメ "Ｔｒｏｅ ｉｚ Ｐｒｏｓｔｏｋｖａｓｈｉｎｏ"[1/2]	ロシアのアニメの聞き取り練習。
5	アニメ "Ｔｒｏｅ ｉｚ Ｐｒｏｓｔｏｋｖａｓｈｉｎｏ"[続き： 2/2]	ロシアのアニメの聞き取り練習。
6	プレゼント、お祝い	(1) 聴解練習（聴き取りテスト）とその解説。(2) 授業のテーマに関する語彙・表現を復習・練習し、会話の練習をする。
7	お正月とクリスマスの習慣	(1) 聴解練習（聴き取りテスト）とその解説。(2) 授業のテーマに関する語彙・表現を復習・練習し、会話の練習をする。
8	アニメ "Ｍａｓｈａ ｉ Ｍｅｄｖｅｄ'"	ロシアのアニメの聞き取り練習。
9	スポーツ、オリンピック	(1) 聴解練習（聴き取りテスト）とその解説。(2) 授業のテーマに関する語彙・表現を復習・練習し、会話の練習をする。
10	ロシアと日本の食文化	(1) 聴解練習（聴き取りテスト）とその解説。(2) 授業のテーマに関する語彙・表現を復習・練習し、会話の練習をする。
11	映画鑑賞 "Ｐｉｔｅｒ FM"[1/3]	ロシアの映画の聞き取り練習。
12	映画鑑賞 "Ｐｉｔｅｒ FM"[続き： 2/3]	ロシアの映画の聞き取り練習。
13	映画鑑賞 "Ｐｉｔｅｒ FM"[続き： 3/3]	ロシアの映画の聞き取り練習。
14	ロシアと日本の祭り	(1) 聴解練習（聴き取りテスト）とその解説。(2) 授業のテーマに関する語彙・表現を復習・練習し、会話の練習をする。
15	まとめ	前期に学習した事柄に関するまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
文章を読み、語彙を予習すること。作文を書くこと。
また、教室に来る前には必ず前週までのプリントを確認し、目を通しておいてください。

【テキスト（教科書)】
プリントを配付します。

【参考書】
宇多文雄 (2011)『表で学ぶロシア語文法の基礎』東洋書店.
宇多文雄 (2009)『ロシア語文法便覧』東洋書店.

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、宿題 (40%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
皆さんの要望に応じて、さらにレベルの加減を考えつつ、充実した授業を目指します。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
(国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。)

GA432

ロシア語アプリケーション（上級）

コベルニック　ナディヤ

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語の「聴く・話す・読む・書く」力を維持・向上させ、ロシア語能力検定試験もしくはロシア文科省認定のロシア語検定 (ＴＰＫИ) の希望する級の合格を目指します。秋学期は、「読む・書く」練習及び文法に焦点を当てます。

【到達目標】
二つのことを到達目標とします。一つは、これらの試験が持っている独特の形式に慣れること。もう一つは、試験対策という目先のことにとらわれることなく、ロシア語の実力を養成すること。秋学期は、読む力と書く力をつけるための練習（文法問題・読解・作文）に焦点を絞ります。

【授業の進め方と方法】
読む練習と書く練習に重点をおきます。読解と文法問題の教材には、外国人向けロシア語検定試（ＴＰＫИ）やロシア語能力検定試験の練習問題、あるいはロシアの文化や習慣、社会問題などをテーマとした教材を使い、設問に答える練習を積み重ねていきます。
また、書く力と表現力を養うため、文章の内容をまとめる課題、そしてロシア語作文の課題を出します（添削して返却します）。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、過去問題演習（文法・読解）	授業の進め方についての説明。ロシア語検定試験・ＴＰＫИの過去問題（文法・読解）を解く。
2	文法：数詞と数を表す名詞	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。文法の練習。
3	文法：ロシア語の動詞の体とその意味	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
4	文法：不完了体動詞の用法	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
5	文法：完了体動詞の用法	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
6	文法：移動動詞	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
7	文法：移動動詞（"Ⅴ-て行く"と"Ⅴ-て来る"動詞）	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
8	文法：移動動詞に付加する接頭辞	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
9	文法：-sya 動詞の種類	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
10	文法：-sya 動詞の用法	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
11	文法：無人称動詞	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
12	文法：形容詞述語の短語尾	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
13	文法：形容詞の比較級と最上級	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
14	文法：関係代名詞	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
15	まとめ	後期に学習した事柄に関するまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文章・語彙を予習し、文章の内容のまとめを準備する。
また、提案されたテーマに関して自分の意見をまとめる課題（作文）を 3・４回提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】
プリントを配付します。

【参考書】
宇多文雄 (2011)『表で学ぶロシア語文法の基礎』東洋書店.
宇多文雄 (2009)『ロシア語文法便覧』東洋書店.

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、宿題 (40%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
皆さんの要望に応じて、更にレベルの加減を考えつつ、充実した授業を目指します。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション」科目として履修します。）

GA132

中国語コミュニケーションⅠ（会話）

蒋　彧婷

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の発音及び基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】
中国語コミュニケーションにとって必要不可欠な発音と基礎的な文法に関する知識と技能を身に付ける。

【授業の進め方と方法】
発音及び読解の練習を中心としつつ、徐々に習熟度を高めるよう授業を進める。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
①	会話と授業への説明	中国語会話の練習と授業への注意事項の説明
②	第１課	新出単語とポイント説明
③	第１課	本文と練習
④	第２課	新出単語とポイント説明
⑤	第２課	本文と練習
⑥	第３課	新出単語とポイント説明
⑦	第３課	本文と練習
⑧	第４課	新出単語とポイント説明
⑨	第４課	本文と練習
⑩	第５課	新出単語とポイント説明
⑪	第５課	本文と練習
⑫	第６課	新出単語とポイント説明
⑬	第６課	本文と練習
⑭	復習	ここまで習った内容を復習する
⑮	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に出るまでに必ず復習と予習してくること。毎課の新出単語とポイントをしっかり記憶し、理解したかどうかチェックすること。

【テキスト（教科書）】
李貞愛著
『リアルスコープ』－現代中国事情－
朝日出版、2013 年

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テストを主に（50 %）、学習態度や学習意欲（20 %）、小テスト（20 %）、平常点なども（10 %）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
よりよい授業を行うために、前年度の授業アンケートの内容を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

GA232

中国語コミュニケーションⅡ（表現）

薬　会

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語による作文の能力を向上させます。

【到達目標】
初級後段階中級前段階の作文能力を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
毎回、こちらが提示した作文の練習問題を、既習の語彙・文法知識に基づき完成し、提出する。また、提出し添削されたプリントを理解し、その後の作文に生かすために復習する。最終的にＳＡ開始時の「宿題」に対応できるための基礎作りとする。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	数字・量詞の文	時間　お金　「二」と「両」量詞
2	断定の文　否定	「是」構文　動詞・形容詞構文 「不」「没有」
3	疑問文	「☒」「呢」　反復疑問文　疑問詞疑問文
4	連体・連用修飾を含む文	「的」「地」　副詞と形容詞
5	「把」を使用した文	「把」構文
6	受け身文	「被」「叫」「☒」など
7	使役文・兼語文・連動文	「叫」「☒」「去」など
8	存現文	「在」「有」「動詞＋着」
9	比較の文	「比」「一☒」など
10	介詞を使用した文	「从」「离」「在」「跟」「为了」など
11	助動詞の文	「会」「能」「可以」など
12	テンス・アスペクト	「了」「着」「☒」
13	補語の文	程度・方向・結果・数量・可能補語
14	復習	復習
15	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①　この授業が始まるまでに『ポイント学習初級中国語』（大石智良他著　東方書店）の内容を復習し、また毎回必ず教室に持参してください。
②　教室へ来る前に、必ず前週までに習った内容や授業中に使用したプリントを確認し、事前に目を通しておいてください。

【テキスト（教科書）】
プリント

【参考書】
『ポイント学習初級中国語』（大石智良他著　東方書店）。また、出版社は指定しませんが、各自自分の使い慣れた日中、中日辞典を持参してください。

【成績評価の方法と基準】
小テストや提出物の完成度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特にありません。

GA232

中国語コミュニケーションⅢ（留学会話）

蒋　彧婷

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一年次の既習内容に引き続き、更に基礎を固め、読解力や表現力などのスキルアップにつないでいくことを目的とする。

【到達目標】
一年次に習った内容を軸に、留学に必要な音読・訳読がこなせる。
コミュニケーションを取れるスキルがアップできる。
表現力を身に付ける。

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って、履修者のレベルを確認の上、内容への理解をチェックしながら、効果的に授業を進めていく。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
①	復習	発音のブラッシュアップと授業を取得する注意事項の説明など
②	第５課	新出単語と文法の説明
③	第５課	本文と練習
④	第６課	新出単語と文法の説明
⑤	第６課	本文と練習
⑥	第７課	新出単語と文法の説明
⑦	第７課	本文と練習
⑧	第８課	新出単語と文法の説明
⑨	第８課	本文と練習
⑩	第９課	新出単語と文法の説明
⑪	第９課	本文と練習
⑫	第１０課	新出単語と文法の説明
⑬	第１０課	本文と練習
⑭	復習	ここまで習った内容を復習する
⑮	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に出るまでに必ず復習と予習してくること。毎課の新出単語と文法をしっかり記憶し、理解したかどうかチェックすること。

【テキスト（教科書）】
尹景春・竹島毅著
『中国語つぎへの一歩』
白水社、2010 年

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テストを主に（５０％）、学習態度や学習意欲（２０％）、小テスト（２０％）、
平常点なども（１０％）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
よりよい授業を目指すために、前年度の授業アンケートを生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

GA332

中国語アプリケーション（水曜・２限）

曽　士才

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで積み上げてきた中国語能力を基礎に、長文の読解力を身につけ、それを翻訳力にまで高めることをめざしている。

【到達目標】
中国の報道記事や評論文を辞書を使いながら十分に読めるレベルを目標としている。

【授業の進め方と方法】
主として『人民日報』『新民晩報』『南方周末』などの報道記事や『新華文摘』『新華月報』などの評論文を熟読し、和訳することによって中国語の読解力、翻訳力を高めるとともに、中国の政治、経済、社会、文化、歴史について理解を深める。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、教材配布
第 2 回	プリント１①	受講者が分担して、報道記事を読み、日本語に訳す。
第 3 回	プリント１②	翻訳と講読を続ける。
第 4 回	プリント１③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 5 回	プリント２①	受講者が分担して、報道記事を読み、日本語に訳す。
第 6 回	プリント２②	翻訳と講読を続ける。
第 7 回	プリント２③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 8 回	プリント３①	受講者が分担して、報道記事を読み、日本語に訳す。
第 9 回	プリント３②	翻訳と講読を続ける。
第 10 回	プリント３③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 11 回	プリント４①	受講者が分担して、評論文を読み、日本語に訳す。
第 12 回	プリント４②	翻訳と講読を続ける。
第 13 回	プリント４③	翻訳と講読を続ける。
第 14 回	プリント４④	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 15 回	読解力テスト	既習教材を範囲とするが、応用問題を入れた試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業はプリント教材を読み、翻訳することになるが、受講者は事前に分担部分を読み込み、訳文を用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】
プリント教材。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（分担翻訳、15 %）と学期末に実施するテスト（85 %）で判定する。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
中国語そのものではなく、記事内容の背景が分りにくい場合もあったので、従来以上に十分な背景説明をするよう心がけたい。

GA332

中国語アプリケーション（火曜・３限）

鈴木　靖

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教科書で学んだ中国語と、実際の生活の中で使われている中国語との間には、話すスピードや語彙、表現の豊かさに大きな違いがある。
この授業では、中国のドラマやドキュメンタリー番組を教材に、上級レベルの中国語力を身につけていく。

【到達目標】
中国のドラマやドキュメンタリー番組は、インターネットでのオンデマンド配信などを通じて、多くの作品が鑑賞できるようになっている。この授業を通じて、こうした番組を鑑賞できる中国語力を身につけることにより、“中国語を”学ぶから“中国語で”学ぶ、あるいは楽しむという、教室学習から生涯学習への転換を図る。

【授業の進め方と方法】
授業時間を有効に利用するため、e ラーニングによる予習と教室での学習を組み合わせたブレンド型学習を行う。
授業の具体的な進め方は、次のとおり。
①はじめに自宅で e ラーニングを使い、教材の映像翻訳を行う。
②授業では、担当者を決めて映像翻訳の結果を発表し、意見交換を行う。
③自宅に帰った後、e ラーニングを使い、学習した内容を復習する。
また、毎回授業のはじめに、前回の学習成果を確認するため、小テストを行う。後述のように、この結果が成績評価の 50 %を占めるので、遅刻しないよう注意すること。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明するとともに、ドラマのディクテーションに使う映像翻訳実習システムの利用方法について解説する
第 2 回	「愛是一顆幸福的子弾」第１集	ドラマの映像翻訳と模擬上演
第 3 回	「愛是一顆幸福的子弾」第２集	同上
第 4 回	「愛是一顆幸福的子弾」第３集	同上
第 5 回	「愛是一顆幸福的子弾」第４集	同上
第 6 回	「愛是一顆幸福的子弾」第５集	同上
第 7 回	「愛是一顆幸福的子弾」第６集	同上
第 8 回	「愛是一顆幸福的子弾」第７集	同上
第 9 回	「愛是一顆幸福的子弾」第８集	同上
第 10 回	「愛是一顆幸福的子弾」第９集	同上
第 11 回	「愛是一顆幸福的子弾」第１０集	同上
第 12 回	「愛是一顆幸福的子弾」第１１集	同上
第 13 回	「愛是一顆幸福的子弾」第１２集	同上
第 14 回	「愛是一顆幸福的子弾」第１３集	同上
第 15 回	まとめ	ドラマの中に出てきたさまざまな表現を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に以下の予習をすること。
①映像翻訳システムを使い、ドラマの字幕を作成する
②前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、模擬上演できるよう準備する

【テキスト（教科書）】
オンラインの映像翻訳システムを教材とするため、テキストは使用しない。

【参考書】
劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】
①毎回の映像翻訳の内容（50 %）
②授業のはじめに行う小テスト（50 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度からドキュメンタリー番組とテレビドラマを隔年で教材とすることにした。
昨年度は中国の世界遺産を紹介するシリーズ番組「世界遺産在中国」の第 22〜24 集「秦始皇帝陵と兵馬俑」を教材にやや硬い文章語を学んだので、今年度は中国のテレビドラマ「愛情是一顆幸福的子弾」を教材に、ドラマの一部を演じながら、自然な口語を身につけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
映像翻訳システムの利用には、パソコンとインターネット環境が必要である。自宅でこれらの環境がない場合は、学内の情報カフェテリアなどを活用してほしい。

GA332

中国語アプリケーション（金曜・２限）

金　玉英

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA 等で養ってきた中国語能力を維持し高め、各種中国語検定試験の合格を目指す。

【到達目標】
それぞれが獲得した中国語能力に見合った社会的評価を得ておくことは、これからの社会において、一定の役に立つと思います（ただし実際に受験するかどうかは受講者の自由意志に任せ、特定の試験の受験を強制することはありません）。各自の中国語をそれぞれのレベルにあわせてきめ細かくチェックし、少しずつスキルアップしていきます。

【授業の進め方と方法】
各種の中国語検定問題に即した課題について問題を解きながら、必要な注意点についてコメント、レクチャーします。受講者の希望により、ある程度の課題のレベルや種類の調整をしながら進めていきます。受講者の希望により、中国語で授業を行う時間を設ける場合があります。
状況に応じて、現代中国事情に関する資料も取り入れます。また、授業の進度も調整します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業担当者と一緒に、これまで学んできた中国語を振り返り、自分の中国語能力を再検討する。
第２回	発音１	「中国語音節表」を使用し、自分の「ピンイン」に対する理解を確認し、発音の面からみた自分の「ヒアリング」の弱点を発見する。「中国語音節表」を使用し、自分の「ピンイン」に対する理解を確認し、発音の面からみた自分の弱点を発見する。
第３回	発音２	「中国語音節表」を使用し、自分の「ピンイン」に対する理解を確認し、発音の面からみた自分の「ヒアリング」の弱点を発見する。
第４回	発音３	「中国語音節表」を使用し、自分の「ピンイン」に対する理解を確認し、発音の面からみた自分の「ヒアリング」の弱点を発見する。
第５回	語彙１	「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）、中国で出版された HSK 関連の教科書や単語表等を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第６回	語彙２	「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）、中国で出版された HSK 関連の教科書や単語表等を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第７回	語彙３	「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）、中国で出版された HSK 関連の教科書や単語表等を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第８回	語彙４	「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）、中国で出版された HSK 関連の教科書や単語表等を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第９回	語彙５	「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）、中国で出版された HSK 関連の教科書や単語表等を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第１０回	文法１	基本文法事項の確認と特に日本語話者が間違いやすい「文法項目」を繰り返し復習。
第１１回	文法２	基本文法事項の確認と特に日本語話者が間違いやすい「文法項目」を繰り返し復習。
第１２回	文法３	基本文法事項の確認と特に日本語話者が間違いやすい「文法項目」を繰り返し復習。
第１３回	総合問題演習１	「中国語検定協会問題集」新 HSK 関連の問題集等の問題を解き、それについて担当者が解説する。
第１４回	総合問題演習２	「中国語検定協会問題集」新 HSK 関連の問題集等の問題を解き、それについて担当者が解説する。
第１５回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教室へ来る前には必ず前週までのプリントを確認し、事前に目を通してください。

【テキスト（教科書）】
プリント

【参考書】
『ポイント学習初級中国語』（大石智良他著　東方書店）。「中国語検定協会問題集」また、出版社は問いませんが、必ず辞書を持参してください。また、自分が使いなれた中国語文法の参考書も持参してください。

【成績評価の方法と基準】
テストの結果の他、出席状況、提出部の完成度などの平常点を勘案して、総合的に評価する。授業内で発表・討論を行う場合には、それへの貢献も評価の対象になる。
（目安　　期末テスト 50 %　小テスト・提出物 20 %　授業参加 30 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
受講者の学習状況に応じて、「発音・ヒアリング」「語彙」「文法」「総合問題演習」の回数を変更することがある。
中国語の語彙は、その語彙に固有・特有の使い方を記憶した方が文法事項にも繋がり中国語の運用能力向上に効果的な場合が多いので「語彙」授業回数を多めに設定した。

GA332

中国語アプリケーション（水曜・４限）

髙田　裕子

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論説文及び新聞記事の講読

【到達目標】
最新時事関連の論説文及び新聞記事等の実務的な文章表現並びにその読み方と大意の捉え方を習得し、現代中国社会及び日中関係、更には国際社会における日本と中国それぞれの主張とスタンスについて理解を深める。

【授業の進め方と方法】
新聞及び時事関連雑誌・ネット上の最新時事教材を用いて実務的文章表現について学び、関連する背景知識を得、実務的文書に対する理解と考察を深めるとともに、効率の良い、実践的な講読スキルを習得すべくトレーニングを行う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	新聞記事－時事トピック１	本科目の学習方法 読解・情報の処理に関するスキル紹介 時事トピック１のキーワード確認 読解演習
2	新聞記事－時事トピック２	時事トピック１のサイトトランスレーション 時事トピック２　読解演習 背景知識解説 キーワード確認
3	新聞記事－時事トピック３	時事トピック２のサイトトランスレーション 経済３　読解演習 背景知識解説 時事トピック１～３サマライズ
4	新聞記事－経済１	経済１キーワード確認 キーワードの捉え方講義 リサーチスキルの紹介 経済用語確認・解説
5	新聞記事－経済２	経済１のサイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 経済２キーワード確認 経済用語確認・解説 読解演習
6	新聞記事－経済３	経済２のサイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 経済３キーワード確認 経済用語確認・解説 読解演習 経済１～３サマライズ
7	新聞記事－政治１	中国政治関連基礎知識講義 政治１キーワード確認 読解演習
8	新聞記事－政治２	政治１サイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 政治２キーワード確認 読解演習
9	新聞記事－政治３	政治２サイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 政治３キーワード確認 読解演習 政治１～３サマライズ
10	論説文１	論説文の読み方講義 論説文１キーワード確認 読解演習
11	論説文２	論説文１サイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 論説文２キーワード確認 読解演習
12	論説文３	論説文２サイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 論説文３キーワード確認 読解演習
13	論説文４	論説文３サイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 論説文４キーワード確認 読解演習 論説文１～４サマライズ
14	その他実務関連文書	背景知識に関する解説 キーワード確認 サイトトランスレーション サマライズ
15	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示された課題

【テキスト（教科書）】
プリント教材

【参考書】
『中国語新語ビジネス用語辞典』大修館書店（電子辞書搭載コンテンツ）

【成績評価の方法と基準】

平常点	30 %
課題達成率	30 %
期末テスト	40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
基本的な中国語の書き言葉の習得は、大学における中国語学習の仕上げ段階には不可欠である。
講読スキル（情報の処理方法）をより定着させるため、８回目以降の授業では復習確認を定例化する。

GA432

中国語アプリケーション（上級）

周　重雷

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新 HSK（漢語水平考試）問題集を中心に検討し、SA 等で養ってきた中国語能力 (5 級程度) を維持し高め、新 HSK（漢語水平考試）6 級の合格を目指す。（他の中国語検定試験にも対応する）

【到達目標】
それぞれが獲得した中国語能力に見合った社会的評価を得ておくことは、これからの社会において、一定の役にたつ。新 HSK5 級（語彙量 2500）レベルの語学力を維持し、新 HSK6 級（語彙量 5000）レベルに少しでも近づくことを目標とする。各自の中国語をそれぞれのレベルにあわせてきめ細かくチェックし、少しずつスキルアップしていく。

【授業の進め方と方法】
新 HSK 問題集を中心に、各種中国語検定問題に即した課題について問題を解きながら、必要な注意点についてコメント・レクチャーする。受講者の希望により、ある程度課題のレベルや種類の調整をしながら進めていく。基本として中国語で授業を行う。
状況に応じて、現代中国事情に関する資料も取り入れる。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業担当者と一緒に、これまで学んできた中国語を振り返り、自分の中国語能力を再検討する。
第 2 回	発音・ヒアリング	「中国語音節表」を使用し、自分の「ピンイン」に対する理解を確認し、発音の面からみた自分の「ヒアリング」の弱点を発見する。
第 3 回	ヒアリング (HSK)	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）の聴解問題を中心に解きながら授業を進める。
第 4 回	ヒアリング (中検)	中国語検定協会問題集（2 級レベル以上）の聴解問題を中心に解きながら授業を進める。
第 5 回	会話	新 HSK 問題（6 級）の口頭試験に倣って口語の練習をする。
第 6 回	語彙 (HSK)	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第 7 回	語彙 (中検)	中国語検定協会問題集の語彙問題や単語表（2 級以上）を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第 8 回	基本文法	構文・態など基本文法事項の確認をする。
第 9 回	文法と修辞	特に日本語話者が間違いやすい「文法項目」を繰り返し復習する。
第 10 回	短文作文	習得した語彙と表現及び文型を用い、比較的短い文章を作る練習をする。
第 11 回	長文作文	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）の「書写」問題に倣って作文の練習をする。
第 12 回	読解 (HSK)	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）の読解問題を中心に解き、それについて担当者が解説する。
第 13 回	読解 (中検)	中国語検定協会問題集（2 級以上）の読解問題を中心に解き、それについて担当者が解説する。
第 14 回	総合問題演習	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）の総合問題を中心に解き、それについて担当者が解説する。
第 15 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教室へ来る前には必ず前週までのプリントを確認し、事前に目を通してくる。

【テキスト（教科書）】
プリント中心になる。

【参考書】
出版社は問いませんが、必ず辞書を持参してください（電子機器も可）。また、自分が使いなれた中国語文法の参考書も持参してください。
また各自の目標に沿って、新 HSK か中国語検定の過去問題集を活用してください。

【成績評価の方法と基準】
期末テストの結果（40%）、提出物の完成度などの平常点（60%）とする。授業内で発表・討論を行う場合には、それへの貢献も評価の対象となる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
クラス全体に配慮しつつ、なるべく個別の受講者の要望にも応えるようにする。
またより実践的な練習を適宜増やします。

【学生が準備すべき機器他】
LL 教室を利用する。

【その他の重要事項】
新 HSK5 級には「中国語の雑誌や新聞の内容を理解することができ中国語のテレビ番組や映画の内容を理解することができ、中国語を用いて比較的完全なスピーチをすることができる」という目安がある。一方新 HSK6 級には「中国語による情報をスムーズに聞いてまたは読んで理解することができ、口頭または書面で自分の考えをスムーズに発表することができる」という目安がある。自分の中国語学力をチェックし、維持、向上させてください。5 級と 6 級の間の差も大きいと考えられるが、6 級の語学力を確実に獲得するためには現在持っている語学力を繰り返し確認し、更に高いレベルに挑戦してください。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
(国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。)

GA432

中国語アプリケーション（上級）

金　玉英

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA 等で養ってきた中国語能力 (5 級程度) を維持し高め、新 HSK（漢語水平考試）６級の合格を目指します。（他の中国語検定試験にも対応します）

【到達目標】
それぞれが獲得した中国語能力に見合った社会的評価を得ておくことは、これからの社会において、一定の役にたつと思います。新 HSK5 級（語彙量 2500）レベルの語学力を維持し、新 HSK6 級（語彙量 5000）レベルに少しでも近づくことを目標とします。各自の中国語をそれぞれのレベルにあわせてきめ細かくチェックし、少しずつスキルアップしていきます。

【授業の進め方と方法】
新 HSK 問題集を中心に、各種中国語検定問題に即した課題について問題を解きながら、必要な注意点についてコメント・レクチャーします。受講者の希望により、ある程度課題のレベルや種類の調整をしながら進めていきます。中国語で授業を行う時間をなるべく多く設けます。
状況に応じて、現代中国事情に関する資料も取り入れます。また、授業の進度も調整します。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業担当者と一緒に、これまで学んできた中国語を振り返り、自分の中国語能力を再検討する。
第 2 回	発音・ヒアリング 1	「中国語音節表」を使用し、自分の「ピンイン」に対する理解を確認し、発音の面からみた自分の「ヒアリング」の弱点を発見する。
第 3 回	発音・ヒアリング 2	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）や中国語検定協会問題集（2 級レベル）「聴解 (短文)」の問題を中心に解きながら授業を進める。
第 4 回	発音・ヒアリング 3	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）や中国語検定協会問題集（2 級レベル）「聴解（長文）」の問題を中心に解きながら授業を進める。
第 5 回	発音・ヒアリング 4	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）や中国語検定協会問題集（2 級レベル）「聴解（複合問題）」の問題を中心に解きながら授業を進める。
第 6 回	語彙 1	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）を中心に、中国語の語彙（体言系）の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第 7 回	語彙 2	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）を中心に、中国語の語彙（用言系）の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第 8 回	文法 1	基本文法事項の確認と特に日本語話者が間違いやすい文法項目（構文系）を繰り返し復習する。
第 9 回	文法 2	基本文法事項の確認と特に日本語話者が間違いやすい文法項目（虚詞系）を繰り返し復習する。
第 10 回	総合演習問題 1	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」(2 級、2010 年度 A 版以降のもの）の総合問題を中心に解きそれについて担当者が解説する。
第 11 回	総合問題演習 2	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」(2 級、2010 年度 B 版以降のもの）の総合問題を中心に解き、それについて担当者が解説する。、
第 12 回	総合問題演習 3	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」(2 級、2011 年度 A 版以降のもの）の総合問題を中心に解きそれについて担当者が解説する。
第 13 回	総合問題演習 4	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」(2 級、2011 年度 B 版以降のもの）の総合問題を中心に解き、それについて担当者が解説する。
第 14 回	総合問題演習 5	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」(2 級、2012 年度版以降のもの）の総合問題を中心に解き、それについて担当者が解説する。
第 15 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教室へ来る前には必ず前週までのプリントを確認し、事前に目を通してきてください。

【テキスト（教科書）】
プリント中心になります。

【参考書】
出版社は問いませんが、必ず辞書を持参してください。また、自分が使いなれた中国語文法の参考書も持参してください。

【成績評価の方法と基準】
テスト 50%、提出物 25%、授業内の議論への貢献 25%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
新 HSK5 級には「中国語の雑誌や新聞の内容を理解すること・中国語のテレビ番組や映画の内容を理解することができ、中国語を用いて比較的完全なスピーチをすることができる」という目安があります。また新 HSK6 級には「中国語による情報をスムーズに聞いてまたは読んで理解することができ、口頭または書面で自分の考えをスムーズに発表することができる」という目安があります。自分の中国語学力をチェックし、維持、向上させてください。5 級と 6 級の間のギャップは大きいと考えられます。6 級の語学力を確実に獲得するためには現在持っている語学力を繰り返し確認し、更に高いレベルに挑戦してください。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA132

スペイン語コミュニケーションⅠ（会話）

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas comunicativas.

【到達目標】
El objetivo de este curso es que los alumnos se familiaricen con el español hablado. Llevaremos a la práctica, mediante conversaciones sencillas, los conocimientos gramaticales que ya hayan adquirido y los que vayan adquiriendo. Cuidaremos la correcta pronunciación y entonación.
Que al final de este curso los alumnos sean capaces de entender y desarrollar en español conversaciones sencillas de la vida cotidiana, ese es nuestro objetivo principal.

【授業の進め方と方法】
Para conseguir el objetivo arriba mencionado,además de usar el libro de texto fijado para esta clase,yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Alfabeto. Ortografía y pronunciación.
2	Comunicación	Expresiones útiles en clase. Comunicación : Saludos y presentaciones.
3	Comunicación	Nombres propios. Números (I). Cultura : Nombres y apellidos.
4	Comunicación	Género y número de los sustantivos. Práctica. Expresiones con el artículo determinado. Práctica de los pronombres personales de sujeto.
5	Comunicación	Verbo SER, presente de indicativo. Usos y práctica. Oraciones interrogativas y negativas.
6	Comunicación	Números (II). Profesiones. Nacionalidades. Práctica. Cultura : Personajes históricos.
7	Comunicación	Expresiones con el artículo indeterminado. Práctica de los adjetivos posesivos y calificativos.
8	Comunicación	Verbo TENER, presente de indicativo. Usos y práctica. Interrogativos (I). Números (III).
9	Comunicación	Miembros de la familia. Comunicación : descripción de personas. Cultura: Gestos. Repaso.
10	Comunicación	Verbo ESTAR, presente de indicativo. Usos y práctica. Usos de HAY. Práctica de los adjetivos y pronombres demostrativos.
11	Comunicación	Comunicación :localización de personas y objetos. Adverbios de lugar. Números (IV)
12	Comunicación	Números ordinales. Cultura : Ciudades patrimonio de la Humanidad.
13	Comunicación	Presente de indicativo, verbos regulares e irregulares. Usos y práctica. Interrogativos (II). Comunicación : actividades cotidianas. Días de la semana
14	Comunicación	Cultura : Don Quijote de la Mancha. Repaso general.
15	Comunicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
Panorámica del español
スペイン語のある風景
（出版社）同学社

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Reforzar el uso de material complementario elaborado por mí.

GA232

スペイン語コミュニケーションⅡ（表現）

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas comunicativas.

【到達目標】
Nuestro objetivo es elevar la capacidad de comprensión y expresión, fundamentalmente oral, de los alumnos.
La ampliación y enriquecimiento de su vocabulario será uno de nuestros principales objetivos.

Nos proponemos que, semana tras semana de clase, los alumnos vayan adquiriendo una mayor destreza en comprender y expresarse oralmente en muy diversas situaciones.

【授業の進め方と方法】
Para conseguir el objetivo arriba mencionado,además de usar el libro de texto fijado para esta clase,yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Repaso. Comunicación : las vacaciones de primavera.
2	Comunicación	Expresiones con IR A + infinitivo. Hablar de planes e intenciones.
3	Comunicación	Práctica de los verbos con cambio vocálico y las preposiciones. Expresión de la hora.
4	Comunicación	Meses y estaciones del año. Medios de transporte Hablar de acciones futuras. Cultura : Museos.
5	Comunicación	Práctica de los erbos reflexivos. La casa. Partes de ella.
6	Comunicación	Expresiones del clima. Cultura : Hábitos y costumbres.
7	Comunicación	Práctica de los pronombres de objeto directo. Expresiones con SABER, CONOCER y PODER.
8	Comunicación	Práctica de QUERER + infinitivo y PODER + infinitivo. Comidas y bebidas. Recetas de cocina.
9	Comunicación	Comunicación: pedir en un restaurante. Repaso. Cultura : Las comidas.
10	Comunicación	Práctica de las preposiciones y los pronombres de objeto indirecto. Expresiones del comparativo y superlativo.
11	Comunicación	Ropa, accesorios, etc. Práctica de los colores.
12	Comunicación	Comunicación: de compras en una tienda. Cultura: La Navidad.
13	Comunicación	Práctica del verbo GUSTAR y otros que se usan de la misma manera. Expresión de la comparacion del adverbio.
14	Comunicación	Actividades del tiempo libre. Deportes. Comunicación: hablar de gustos y aficiones. Cultura: Fiestas populares. Repaso general.
15	Comunicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
Panorámica del español
スペイン語のある風景
（出版社）同学社

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Reforzar el uso de material complementario elaborado por mí.

GA232

スペイン語コミュニケーションⅢ（留学会話）

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas comunicativas.

【到達目標】
Nuestro objetivo es,como en los cursos anteriores,elevar la capacidad de comprensión oral de los alumnos y su destreza en expresarse oralmente.
Tienen que conseguir aumentar considerablemente su vocabulario, de cara,sobre todo,a su próxima ida a España.
Antes de ese momento,nos proponemos que lleguen a un nivel que les permita aprovechar al máximo su estancia y sus clases en España.

【授業の進め方と方法】
Para lograr el objetivo arriba mencionado, además de usar el libro de texto indicado para esta clase, yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Repaso. Expresiones con el verbo DOLER.
2	Comunicación	Expresionens con SER, ESTAR + adjetivo. Oraciones exclamativas. Expresiones con TENER QUE y HAY QUE + infinitivo. Práctica de los pronombres y adjetivos indefinidos.
3	Comunicación	Partes del cuerpo. Comunicación : estado físico y sentimientos. Cultura : Hábitos Deportivos.
4	Comunicación	Práctica del pretérito indefinido de indicativo. Verbos regulares e irregulares. Uso de los marcadores de tiempo.
5	Comunicación	Actividades del tiempo libre. Comunicación : hablar de acciones pasadas.
6	Comunicación	Repaso. Cultura : Lenguas.
7	Comunicación	Práctica del pretérito imperfecto de indicativo. Verbos regulares e irregulares. Práctica del pronombre relativo QUE.
8	Comunicación	Diferencias entre el indefinido y el imperfecto. Práctica. Repaso general.
9	Comunicación	Usos del infinitivo, gerundio y participio. Práctica.
10	Comunicación	Uso del presente continuo. Práctica.
11	Comunicación	Pretérito perfecto de indicativo. Usos y práctica.
12	Comunicación	Pretérito pluscuamperfecto de indicativo. Usos y práctica.
13	Comunicación	Práctica del imperativo.
14	Comunicación	Repaso general.
15	Comunicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
Panorámica del español
スペイン語のある風景
（出版社）同学社

【参考書】
Concretamente,ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Reforzar el uso de material complementario elaborado por mí.

GA332

スペイン語アプリケーション（金曜・２限）

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas aplicativas.

【到達目標】
Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.
Otro objetivo que nos proponemos es preparar a los alumnos para que aquellos que deseen presentarse al examen DELE, puedan pasarlo y obtener el correspondiente diploma.
Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible : comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【授業の進め方と方法】
Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Su estancia en Barcelona. Planteamiento del curso. Información sobre el examen DELE.
2	Aplicación	La primavera. Inicio del curso académico y del año laboral. "Ohanami".
3	Aplicación	Situaciones en las que puede encontrarse una persona en un país extranjero, por ejemplo, ser víctima de un robo e ir a denunciarlo. Debate.
4	Aplicación	En la consulta del médico. Síntomas, dolencias, etc.
5	Aplicación	Temas sugeridos por los alumnos. Debate.
6	Aplicación	Reservar una habitación de hotel por teléfono. Trámites, ya en el hotel, a la hora de entrar y a la hora de dejar la habitación. Consultas,reclamaciones, quejas, etc.
7	Aplicación	Cocina. Recetas. Platos diversos.
8	Aplicación	De compras. Precios, colores, tallas, etc.
9	Aplicación	Días de muy buena suerte y de muy mala suerte. Debate.
10	Aplicación	Temas de actualidad y de interés para los alumnos.
11	Aplicación	Tópicos sobre los países, sobre las regiones, etc.
12	Aplicación	Cómo sería nuestro país ideal y otro en el que no querríamos vivir.
13	Aplicación	Cómo cambia la vida de las personas. O no cambia. La lotería.
14	Aplicación	Distintos trabajos realizados por una persona. El mundo del trabajo. Debate.
15	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
プリント使用

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

GA332

スペイン語アプリケーション（水曜・4限）

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas aplicativas.

【到達目標】
Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.
Otro objetivo que nos proponemos es preparar a los alumnos para que aquellos que deseen presentarse alexamen DELE, puedan pasarlo y obtener el correspondiente diploma.
Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【授業の進め方と方法】
Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Su estancia en Barcelona. Planteamiento del curso. Información sobre el examen DELE.
2	Aplicación	En un restaurante. Pidiendo la comida y preguntando muchas cosas.
3	Aplicación	Distintas personas hablan de sus experiencias vividas. Debate.
4	Aplicación	El tiempo. Diversidad. Relación con el carácter y la forma de vida de las personas.
5	Aplicación	Temas sugeridos por los alumnos. Debate.
6	Aplicación	Cartas,solicitudes, mensajes, correos, etc.
7	Aplicación	Situaciones de la vida cotidiana,por ejemplo,en una peluquería.
8	Aplicación	Entrevista de trabajo. El mundo laboral.
9	Aplicación	La televisión, el cine,los medios de comunicación...
10	Aplicación	Temas de actualidad y de interés para los alumnos.
11	Aplicación	Costumbres. Creencias religiosas. Debate.
12	Aplicación	Reservar hora por teléfono en el dentista, por ejemplo. Tratamientos médicos. El sistema sanitario.
13	Aplicación	Aficiones, diversiones. El ocio. Alcohol, tabaco...
14	Aplicación	Malentendidos graciosos, chistes, bromas...
15	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
プリント使用

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

GA332

スペイン語アプリケーション（金曜・２限）

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas aplicativas.

【到達目標】
Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.
Otro objetivo que nos proponemos es preparar a los alumnos para que aquellos que deseen presentarse al examen DELE, puedan pasarlo y obtener el correspondiente diploma.
Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible : comprensión y expresión,oral y escrita,gramática y vocabulario.

【授業の進め方と方法】
Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Las vacaciones de verano. Planteamiento del curso. Sobre el examen DELE.
2	Aplicación	Voluntarios. JICA y otras organizaciones. Su labor.
3	Aplicación	Países muy diferentes. Vida, costumbres, cultura...Debate.
4	Aplicación	Libros, películas, etc.
5	Aplicación	Temas planteados por los alumnos. Debate.
6	Aplicación	Bromas y equivocaciones graciosas.
7	Aplicación	Genios de la pintura,el arte...
8	Aplicación	El sistema educativo. Debate.
9	Aplicación	Fiestas populares muy conocidas.
10	Aplicación	Temas de actualidad e interés para los alumnos.
11	Aplicación	Canciones. Letra de algunas.
12	Aplicación	Temas de la historia reciente de España. Debate.
13	Aplicación	La Navidad. Forma de celebrarla en España y en Japón. El fin de año.
14	Aplicación	El Año Nuevo y sus celebraciones. Tradiciones y costumbres.
15	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
プリント使用

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

GA332

スペイン語アプリケーション（火曜・4限）

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas aplicativas.

【到達目標】
Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.

Otro objetivo que nos proponemos es preparar a los alumnos para que aquellos que deseen presentarse al examen DELE, puedan pasarlo y obtener el correspondiente diploma.

Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión,oral y escrita, gramática y vocabulario.

【授業の進め方と方法】
Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Las vacaciones de verano. Planteamiento del curso. Sobre el examen DELE.
2	Aplicación	Biografía de personajes famosos (escritores).
3	Aplicación	Biografía de personajes famosos (pintores).
4	Aplicación	El campo y la ciudad. Cambio de vida de un medio a otro. Debate.
5	Aplicación	Temas propuestos por los alumnos. Debate.
6	Aplicación	Discriminación racial y otros problemas sociales.
7	Aplicación	Vidas de personas anónimas, por ejemplo, un taxista,un hombre de campo, etc.
8	Aplicación	Días festivos de Japón.
9	Aplicación	Días festivos de España.
10	Aplicación	Temas de actualidad e interés para los alumnos.
11	Aplicación	La emigración. La vida en el nuevo país. La vuelta a las raíces. Debate.
12	Aplicación	Vidas de genios.
13	Aplicación	Deportes. Campeonatos. Explicar las reglas de algunos juegos y deportes.
14	Aplicación	El mundo de los sueños. La interpretación y el significado de algunos sueños.
15	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
プリント使用

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

GA432

スペイン語アプリケーション（上級）

瓜谷　アウロラ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Preparación del DELE

【到達目標】
Aprender el idioma español del nivel
avanzado para poder aprobar el examen del DELE B2.

【授業の進め方と方法】
Haremos ejercicios para facilitar la comprensión de las cuatro destrezas (expresión lectora, expresión escrita, comprensión auditiva y expresión oral) requeridas en el examen del Diploma de Español (DELE) del nivel B2, utilizando modelos de exámenes completos similares a los reales.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Examen1 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1) Comprensión auditiva(Tarea1) (Tarea1)
2	Examen1 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
3	Examen1 (3)	Comprensión de Lectura(Tarea2) Comprensión auditiva(Tarea4)
4	Examen1 (4)	Comprensión de lectura(Tarea3) Comprensión auditiva (Tarea5)
5	Examen1 (5)	Comprensión de lectura(Tarea4) Tiempo de ajuste
6	Examen1 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
7	Examen1 (7)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
8	Examen2 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1) Comprensión auditiva (Tarea1)
9	Examen2 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
10	Examen2 (3)	Lectura(Tarea2) Comprensión auditiva(Tarea4)
11	Examen2 (4)	Comprensión de lectura(Tarea3) Comprensión auditiva(Tarea5)
12	Examen2 (5)	Comprensión de lectura(Tarea4) Tiempo de ajuste
13	Examen2 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
14	Examen2 (7)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
15	Aclaración dudas.	Tiempo de ajuste

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
En principio, sólo habrá que preparar en casa la comprensión lectora.El resto de las pruebas intentaremos hacerlas en la clase ciñéndonos al tiempo del examen real

【テキスト（教科書）】
Destino DELE, B2

【参考書】
Si hubiera alguna referencia se daría la información en la clase.

【成績評価の方法と基準】
Participación en clase 100%. No habrá examen final. Cada clase es como si fuera un examen. Se calificará de acuerdo con el trabajo realizado cada semana por el estudiante.
Se penalizarán las faltas de asistencia. Pasando de tres no se conseguirá el aprobado.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Ninguno en especial.

【その他の重要事項】
Para participar en esta clase se requieren un conocimiento del español avanzado y muchas ganas de trabajar.
Respecto a la expresión lectora y a la comprensión auditiva, aclararemos las dudas en la clase.La expresión escrita será devuelta a cada estudiante tras su corrección.
Se espera que sea una clase dinámica y con alto grado de participación.

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA432

スペイン語アプリケーション（上級）

瓜谷　アウロラ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Preparación del DELE

【到達目標】
Aprender el idioma español del nivel
avanzado para poder aprobar el examen del DELE B2

【授業の進め方と方法】
Haremos ejercicios para facilitar la comprensión de las cuatro destrezas (expresión lectora, expresión escrita, comprensión auditiva y expresión oral) requeridas en el examen del Diploma de Español (DELE) del nivel B2, utilizando modelos de exámenes completos similares a los reales.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Examen3 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1) Comprensión auditiva (Tarea1)
2	Examen3 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
3	Examen3 (3)	Comprensión de Lectura(Tarea2) Comprensión auditiva(Tarea4)
4	Examen3 (4)	Comprensión de lectura(Tarea3) Comprensión auditiva (Tarea5)
5	Examen3 (5)	Comprensión de lectura(Tarea4) Tiempo de ajuste
6	Examen3 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
7	Examen3 (7)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
8	Examen4 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1) Comprensión auditiva (Tarea1)
9	Examen4 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
10	Examen4 (3)	Lectura(Tarea2) Comprensión auditiva(Tarea4)
11	Examen4 (4)	Comprensión de lectura(Tarea3) Comprensión auditiva(Tarea5)
12	Examen4 (5)	Comprensión de lectura(Tarea4) Tiempo de ajuste
13	Examen4 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
14	Examen4 (7)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
15	Aclaración dudas.	Tiempo de ajuste

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
En principio, sólo habrá que preparar en casa la comprensión lectora.El resto de las pruebas intentaremos hacerlas en la clase ciñéndonos al tiempo del examen real

【テキスト（教科書）】
Destino DELE, B2.

【参考書】
Si hubiera alguna referencia se daría la información en la clase.

【成績評価の方法と基準】
Participación en clase 100%. No habrá examen final. Cada clase es como si fuera un examen. Se calificará de acuerdo con el trabajo realizado cada semana por el estudiante.
Se penalizarán las faltas de asistencia. Pasando de tres no se conseguirá al aprobado.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Ninguno en especial.

【その他の重要事項】
Para participar en esta clase se requieren un conocimiento del español avanzado y muchas ganas de trabajar.
Respecto a la expresión lectora y a la comprensión auditiva, aclararemos las dudas en la clase.La expresión escrita será devuelta a cada estudiante tras su corrección.
Se espera que sea una clase dinámica y con alto grado de participación.

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA132

朝鮮語コミュニケーションⅠ（会話）

安岡　明子

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の学習内容を理解しているという前提で，文法と語彙をさらに学び，複雑な表現ができるようにつとめます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です．

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語４」「朝鮮語６」「朝鮮語コミュニケーションⅠ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます．一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します．

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	テストの返却と解説，復習
2	第 1 課	語基の復習，変格用言１
3	第 2 課	「～している」の２つの形，否定の命令形
4	口頭練習 (1)	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
5	第 3 課	「～したい」，変格用言２
6	第 4 課	「～するつもりだ」，変格用言３
7	口頭練習 (2)	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
8	第 5 課	用言の名詞形
9	第 6 課	疑問詞，話しことば
10	口頭練習 (3)	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
11	第 7 課	「～して」，指定詞の第Ⅲ語基
12	第 8 課	下称形と間接話法
13	口頭練習 (4)	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
14	総復習	総復習を行ないます．
15	テスト	期末テストを行ないます．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は不要ですが，なるべく復習の時間を多く取ってください．また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．

【テキスト（教科書）】
共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います．

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお薦めします．

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績によります．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【その他の重要事項】
既習者も，「わかっているから」と思わずに，はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください．

GA132

朝鮮語コミュニケーションⅡ（表現）

梁　禮先

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA に行った時のために、ある程度の生活会話が可能であることがこの授業の到達目標です。「話す」「聞く」力を一層レベルアップを計り、重なる「話す」「聞く」訓練を通して、自信を持って自然な朝鮮語の会話を身に付けていくことであります。
テーマ、「朝鮮語で考えて話すこと」

【到達目標】
SA に行ったときのために、ある程度の意思相通ができる会話を到達目標とします。

【授業の進め方と方法】
会話中心の授業であります。会話体の言葉に慣れていくように、話す訓練などを通して身に付けていくことです。また、一年間習った朝鮮語の語彙・文法などを使って、自分で文章を考えて言葉にする訓練を繰り返していく方法で授業を進めていく予定です。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	授業の進め方	授業の進め方についての説明をします。
第２回	お久しぶりです	課題と会話とあいさつ文についての説明。
第３回	病気のとき	課題と会話と病気に対する関連単語などの説明。
第４回	私の家族	課題と会話とその説明について。
第５回	歌で習う韓国語	課題と韓国の歌から韓国語を習う。
第６回	天気について	課題と会話と四季などについての説明。
第７回	今日は何をしますか？	課題と会話と会話の言い回しの説明。
第８回	今日は何をしますか？	課題と会話とバンマルについて。
第９回	遊園地にいきましょう	課題と会話とその説明について。
第１０回	学校で	課題と会話とその説明について。
第１１回	郵便局で	課題と会話とその説明について。
第１２回	ホテルで	課題と会話とその説明について。
第１３回	美容院で	課題と会話の練習。
第１４回	美容院で	課題と会話とその説明について。
第１５回	前期試験	総合テストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題について準備すること。また、事前に出すレポートもやってくること。

【テキスト（教科書）】
梁　禮先「朝鮮語コミュニケーションⅡ」とプリント（教室内教材）

【参考書】
朝鮮語辞書など。

【成績評価の方法と基準】
韓国語で積極的に発言をしてください
発表・課題・小テスト・平常点の総合点 (30%)、期末テスト (70%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
もっと会話に力を入れること。
発音をもっと練習したいなど。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
内容は少々変わることもあります。

GA232

朝鮮語コミュニケーションⅢ（留学会話）

安岡　明子

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に，「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします．

【到達目標】
ＳＡに通用する語学力の習得，具体的には韓国外国語大「韓国語文化教育センター」の「３級」に編入できることを目標とします．

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語７」「朝鮮語８」「朝鮮語コミュニケーションⅢ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます．一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します．

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	導入	前学期の復習と今学期の方針の説明をします．
2	第 9 課	下称形と間接話法
3	第 10 課	間接話法と第Ⅲ語基
4	口頭練習 (1)	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
5	第 11 課	動作の反復，合成語の濃音化
6	第 12 課	「～と思う」，助詞の尊敬形
7	口頭練習 (2)	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
8	第 13 課	論説文
9	第 14 課	北朝鮮の文章
10	口頭練習 (3)	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
11	第 15 課	まとめ
12	口頭練習 (4)	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
13	総復習	総復習を行ないます．
14	テスト	期末テストを行ないます．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１年次の授業で配布した単語集を中心に，語彙力を高めるよう自主的に努力してください．

【テキスト（教科書）】
共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います．

【参考書】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社，梅田博之『韓国語Ⅰ・Ⅱ』

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績によります．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
語学の勉強は授業時間内だけで完結するものではありません．日常生活のなかで「朝鮮語ではどう表現するのか？」ということを考える習慣をつけましょう．

GA332

朝鮮語アプリケーション（月曜・４限）

梁　禮先

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ＳＡ韓国で得た朝鮮語の知識を活用したり、もっと包括的に知識を吸収できることを目標にします。韓国の新聞、雑誌、随筆、映像などを使って、テキストには出ない、自然な朝鮮語の使い方や、多様な表現を学んでいきます。

【到達目標】
韓国のニュースなどが理解できることを到達目標とします。

【授業の進め方と方法】
韓国の新聞、雑誌、随筆、映像などを使って、現在の生きた朝鮮語の表現を学んでいきます。読む力・聞く力、また、ディスカッションを通した話す力を定着していきます。それから、秋学期の韓国の短編小説を読む力に結び付けていきたいと思います。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	授業の説明	春学期の授業の進め方について説明します。
第２回	韓国語の随筆を読む	内容を読んで意見を話し合います。
第３回	韓国の新聞を読む	韓国の最新記事を読んで新しい単語を勉強します。
第４回	韓国のビデオを見る	韓国のビデオを見て、内容を把握します。
第５回	韓国語の随筆を読む	韓国の随筆を読みます。
第６回	韓国語の随筆を読む	内容について意見を話します
第７回	韓国新聞を読む	韓国の最新記事を読んで、韓国事情について把握。
第８回	韓国のテレビを見る	韓国の話題のテレビを見て内容を把握します。
第９回	韓国語の情報番組を見る	内容について感想を書きます
第 10 回	韓国のテレビを見る	韓国のテレビを見ます。
第 11 回	韓国語で発表する。	発表内容を聞く。
第 12 回	韓国語で発表する。	発表内容を話し合う。
第 13 回	韓国語で発表する。	討論をする。
第 14 回	総合ディスカッション	春学期の話題からディスカッションを行います。
第 15 回	期末試験	春学期総合テストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
韓国のテレビ、新聞、小説などを読むこと。

【テキスト（教科書）】
プリント、インターネット、ビデオなど。

【参考書】
韓国語の辞書など。

【成績評価の方法と基準】
積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。
発表・レポート・平常点を総合して (50%) 期末テスト (50%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
DVD などの映像をもっと活用すべきことなど。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業の内容は少々変わることもあります。

GA332

朝鮮語アプリケーション（月曜・４限）

梁　禮先

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　韓国の文学作品を読むことによって、読解力・発表力・文章力・表現力など、朝鮮語の総合的能力の定着を目指すのがこの授業の目標であります。また、自分の意見を朝鮮語で発表することにより、朝鮮語での表現能力のレベルも高めていきます。
テーマは、「朝鮮語での表現能力の発揮」。

【到達目標】
韓国の文学作品が読めること。

【授業の進め方と方法】
　韓国の近代小説を読みながら、韓国の近代文学の流れと、植民地時代の状況、人間の生き方、韓国の伝統と文化・歴史など、様々なことについて考えることと学ぶことができます。
短編小説を読んだり、映像などを使って自分の意見を発表したり、意見交換の場をもっと設定して、自由な韓国語の表現をより多く実践的に使えるようにしていきます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	授業の進め方	授業の進め方についての説明をします。
第２回	運のいい日	ヒョンジンゴンの「運のいい日」を読みます。
第３回	赤い山	キンドンインの「赤い山」を読みます。
第４回	そばの花が咲く頃	イヒョウソクの「そばの花が咲く頃」を読みます。
第５回	つばさ	イサンの「つばさ」を読みます。
第６回	ツバキの花	キンユジョンの「ツバキの花」を読みます。
第７回	ボムボム	キンユジョンの「ボムボム」を読みます。
第８回	ジャガイモ	キンドンインの「ジャガイモ」を読みます。
第９回	映像から韓国語	映像を見て、自由討論
第 10 回	おしのサムリョンイ	ナドヒャンの「おしのサムリョンイ」を読みます。
第 11 回	星	ファンスンウォンの「星」を読みます。
第 12 回	B 舎監とラブレター	ヒョンジンゴンの「Ｂ舎監とラブレター」を読みます。
第 13 回	水車	ナドヒャンの「水車」を読みます。
第 14 回	授業を振りかえって	授業の問題点や感想などの意見交換したり、討論します。
第 15 回	後期試験	総合テストをやります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にそれぞれの作品を調べてくること。

【テキスト（教科書）】
『中・高生が必ず読むべき教科書に出る韓国短編３４』（ホンシン文化社）

【参考書】
韓国の近代文学作品
湯浅克衛作品集『カンナニ』（インパクト出版会）

【成績評価の方法と基準】
積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。
発表・レポート・平常点を総合して (50%) 期末テスト (50%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
文学作品だけではなく、後期も映像を取り入れる授業の必要性について。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業内容は少々変わることがあります。

GA217

朝鮮語アプリケーション（金曜・４限）

髙栁　俊男

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

韓国でのＳＡ期間中、朝鮮語の運用能力は大いに高まったはずである。３〜４年次生を対象とする「朝鮮語アプリケーション」は、その語学能力を維持し、さらに向上させる目的で置かれている。

私が 2016 年度において新規に担当するこのコマでは、いろいろな朝鮮語の文章を自然で正しい日本語に翻訳するための作業を中心に進める。朝鮮語は日本語と語順をほぼ同じくし、共通に使われる漢字語も多いため、翻訳は概して簡単かと思われるが、固有の難しさがあり、また日韓両語が類似しているがゆえの落とし穴もある。

朝鮮語を自然な日本語表現に直すには、朝鮮語の能力が問われるが、それ以上に母語である日本語の力が試されると言えよう。また、日本語と比較することで、朝鮮語のもつ言語学的な特性にあらためて気づくことにもなるはずである。

【到達目標】

朝鮮語の日本語への翻訳にはどのような陥穽や問題点があるのかについて、より自覚的になること。その上で、いろいろなタイプの朝鮮語の文章を、自然で違和感のない日本語に直せる力を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

髙栁が作成するオリジナル教材を、順次進めていく。そこでは、誤訳が起こりやすいケース、実際の誤訳の例などについて学んだ後、受講生の皆さんに翻訳作業をやっていただき、それを受講者全員でよりよい日本語へと直していくこととする。

また、韓国以外の国や地域の朝鮮語や、古い時代の朝鮮語にも接してみる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	導入	この授業の概要や進め方について解説し、当面のテキストを配付する。
2	日韓対照言語①	誤訳しやすい朝鮮語表現について検討する（その１）
3	日韓対照言語②	誤訳しやすい朝鮮語表現について検討する（その２）
4	日韓対照言語③	誤訳しやすい朝鮮語表現について検討する（その３）
5	誤訳の例①	実際に刊行されている本などから、誤訳と思われる例を探し、検討の俎上に載せてみる。
6	誤訳の例②	尹東柱「序詩」を素材に考える。
7	翻訳の実習①	実際に受講生に翻訳をしてもらい、全員で訳文を検討する（その１）
8	翻訳の実習②	実際に受講生に翻訳をしてもらい、全員で訳文を検討する（その２）
9	南北朝鮮の朝鮮語	韓国と北朝鮮とで、文法や発音上、どのような違いがあるかについて整理する。
10	在日朝鮮人の朝鮮語	朝鮮学校で学ぶ在日朝鮮人が陥りやすい朝鮮語の誤りに関して書かれた文章を読む。
11	北朝鮮の文章を読む	いくつかの時代の北朝鮮の文章を実際に読んで、翻訳してみる。サイビョについても考える。
12	中国の朝鮮族の文章を読む	中国で刊行されている朝鮮語の書籍や雑誌の文章を読む。漢語からの影響について考える。
13	旧ソ連の高麗人の文章を読む	旧ソ連で刊行されている朝鮮語の書籍や新聞の文章を読む。ロシア語からの影響について考える。
14	植民地時代の朝鮮語	今とは表記が異なる 20 世紀前半の朝鮮語の文章にチャレンジしてみる。
15	まとめ	半年間の学習のまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配付したテキストの予習と、授業中に配付する資料類を使っての復習など。

【テキスト（教科書）】

オリジナルのプリントを配付する。

【参考書】

油谷幸利『間違いやすい韓国語表現 100』初級編・中級編・上級編（白帝社）、ほか。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業に臨む態度や貢献度 50 %、担当した翻訳の完成度 50 % で評価するのを原則とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

初めての授業である。

【その他の重要事項】

ＳＡ後に、皆さんの朝鮮語の実力を具体的に知る授業を担当するのは久しぶりで、教師自身とても楽しみにしている。

なお、韓国でのＳＡを終えた学生を主たる受講生とするが、それと同等レベルの語学力があれば、参加してかまわない。

GA432

朝鮮語アプリケーション（上級）

富所　明秀

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なジャンルの文に触れることで，韓国社会の理解を深めながら読解力を養います.

【到達目標】
・文法を理解して丁寧に読解すること.
・辞書を活用して長文を読解すること.
・まとまったセンテンスを聞き取って訳せるようにすること.
・正しい発音で音読できること.

【授業の進め方と方法】
・授業開始に小テストを実施
・教科書の文法説明，音読と聞き取り練習
・新聞記事翻訳

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	第１課 (1/2)	教科書
第２回	第１課 (2/2)	教科書
第３回	第２課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第４回	第２課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第５回	第３課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第６回	第３課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第７回	第４課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第８回	第４課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第９回	第５課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１０回	第５課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１１回	第６課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１２回	第６課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１３回	リスニング①	聞き取り練習
第１４回	リスニング②	聞き取り練習
第１５回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・小テストの準備をしてください.
・新聞記事の翻訳をして来てください.

【テキスト（教科書）】
使用する教科書については１回目の授業で紹介します.
朝鮮語の辞書を持参してください.

【参考書】
朝鮮語辞典

【成績評価の方法と基準】
・小テスト２０％
・新聞記事翻訳３０％
・期末試験５０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
CD の活用

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA432

朝鮮語アプリケーション（上級）

富所　明秀

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なジャンルの文に触れることで，韓国社会の理解を深め読解力を養います.

【到達目標】
・文法を理解して丁寧に読解すること.
・辞書を活用して長文を読解すること.
・まとまったセンテンスを聞き取って訳せること.
・正しい発音で音読できること.

【授業の進め方と方法】
・授業開始に小テスト実施
・教科書の文法説明，音読と聞き取り
・新聞記事の翻訳

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	第７課 (1/2)	教科書
第２回	第７課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第３回	第８課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第４回	第８課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第５回	第９課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第６回	第９課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第７回	第１０課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第８回	第１０課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第９回	第１１課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１０回	第１１課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１１回	第１２課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１２回	第１２課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１３回	リスニング①	聞き取り練習
第１４回	リスニング②	聞き取り練習
第１５回	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・小テストの準備をしてください.
・新聞記事の翻訳を行ってください.

【テキスト（教科書）】
春学期に同じ

【参考書】
朝鮮語辞典

【成績評価の方法と基準】
・小テスト２０％
・翻訳３０％
・期末試験５０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
CD の活用など

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA212

情報コミュニケーションⅠ

甲　洋介

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**受講状況により選抜することがあります**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
モノづくりの『面白さ』と『難しさ』の両面を実践的に学ぶ科目
２つのテーマ「使いやすい道具をデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。そのための具体的な方法論を実践的に学ぶ科目である。学習効果を高めるため、理論と実習の両方をバランスよく配置して講義を構成する。
●　**道具をもっと使いやすくデザインし直す**
講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。
日常に溢れている道具を、人間にとって使いやすいものにするにはどのようにすればよいか？　道具を使いやすさの観点から改良する具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。
●　**新しく、近未来の道具をデザインする**
講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいのか？　利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実験実習を通じて学ぶ。

【到達目標】
「使いやすい道具をデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」の２つのテーマについて実践的に学ぶ。
●　それぞれのテーマについて、その基本的な考え方、計画の立て方、実践方法を習得する。
●　テーマごとに成果発表の機会を設け、グループによる実験・調査データに基づく独自の改良案・コンセプト案の提言を行い、レポートにまとめる。

【授業の進め方と方法】
「使いやすい道具をデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」の２つのテーマについて、実験実習を通じて実践的に学ぶ。
●　前半では、身近で気になる道具を１つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。
●　後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を１つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。
●　それぞれのテーマごとに成果発表の機会を設け、グループによる独自の改良案・コンセプト案の提言を行う。
　授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン技法
2	道具の使いやすさ（理論編）	ユーザの認知過程の理論と、道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ
3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ評価（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ評価（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすくする改良事例を互いに学ぶ
9	デモンストレーション	ヒューマンインタフェースの新しい潮流
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活の場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイディア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ
15	全体のまとめ	まとめ成果発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「実習科目」の効果的な履修のために、教室外での一定の課題活動を含む。具体的には、教材の予習／復習、グループワークによる実習の準備、データ収集と、各自によるレポート作成である。

【テキスト（教科書）】
・「人間計測ハンドブック」第 3 章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）

【参考書】
・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）
・International Encyclopedia of Human Factors and Ergonomics. W. Karwowski (Ed.) 2nd Edition, (Taylor & Francis).
他については講義開始時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（討議への積極性を含む）　50%
課題レポート、プロトタイプ制作　50%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義と実習を効果的に組み合わせて、実践的な方法を深く学べるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。
〔情報コミュニケーション共通のテーマ〕
本学部には、情報コミュニケーションⅠ〜Ⅲ、SA におけるプロジェクト等、文化情報学を実践するさまざまな機会が用意されている。
　情報コミュニケーション科目では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT 活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告など方法論的訓練を行う。

【前提科目と関連科目】
「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を履修済みであること。
「ヒューマンインターフェイス論」「道具による感覚・体験のデザイン」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。条件ではないが、「情報コミュニケーションⅡ・Ⅲ」を並行して履修、あるいは履修済みであることが望ましい。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣおよび、ＤＶＤデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

GA211

情報コミュニケーションⅡ

大嶋　良明

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**実習設備の許容人数を超えた場合に行う**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA での文化研究と成果発表の方法を身に着けよう
【情報コミュニケーションⅠ〜Ⅲ共通テーマ】
文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法論的訓練を行う。
【情報コミュニケーションⅡの学習の目的】
本講義の前半において、Study Abroad 環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと問題解決の方法を学ぶ。
本講義の後半では、文化情報編集のツールとして Weblog を取り上げる。WordPress を例に、各自が Weblog を構築し、それら Weblog 同士を連携させることで、SA 等の在外環境も含めたインターネットでの総合的な情報流通の有効性を学ぶ。Web 環境での有機的な情報共有を体験し、それを活かして実り多き SA を実現してもらいたい。

【到達目標】
SA において異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に着ける。インターネット環境を十全に活用し、自前のブログサイトを学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムできちんと共有することでネット社会にフィードバックできる。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（情報実習室を使用する）
学習内容を授業計画を沿ってゆるやかに仕分けしてみると
前半：
● SA 環境におけるインターネットの実践スキル
後半：
●文化研究としての SA: Blog、ePortfolio からの情報発信
となります。セメスタ全体を通して SA で自分（たち）は何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させて行くことを目指します。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れます。
注意：セメスターを通じての実習内容が SA の事前準備学習となる。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体）インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体）インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IP アドレス枯渇とその対応技術、無線 LAN の利欠点等）を学ぶ
2	ネット社会の情報構造	IP アドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する
3	情報活用のための実践知識（１）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題整理と対処法を学ぶ
4	情報活用のための実践知識（２）	（承前）インターネットに接続できない状態になった場合の問題整理と対処法を学ぶ
5	ネットワークスキルのまとめ	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、外国での快適な情報活用のポイントと問題点を理解する。
6	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
7	SA 文化研究にむけての準備	各受講者による文化研究の個人テーマを持ち寄りクラス討議によりアイデア出しを行う。以後の授業では調査テーマや方法論についてのブラッシュアップを継続する。過去の研究事例を検討する。
8	学習成果の蓄積方法：情報ツールとしての WordPress ブログ	在外環境での Web ベースの情報活用の有用性を認識する。なかでも WordPress ブログの特徴を学ぶ。SA での文化研究の可能性についてクラス討論を行う。
9	WordPress ブログの導入	LAMP 環境で WordPress を導入と利用環境を設定する。最初の記事投稿。SA での研究活動の検討着手。SA 個人研究テーマのクラス討議。
10	学習成果の公開方法：WordPress ブログの運営	記事投稿、写真アップロード、コメント、ブログロール、固定ページの構築、記事編集などを練習し、各自が相互参照する仕組を実習する。在外環境での VPN、ホットスポットについて調査する。
11	特色あるブログ構成法：WordPress カスタマイズの手法	プラグインの導入、デザイン・レイアウトのカスタマイズ、Google Maps の貼り付け。スパムフィルタの実装。SA 個人研究の問題点把握とグループワークの検討。事前調査事項の洗い出し。
12	情報共有の手法：コメント、リンクとトラックバック	トラックバックの実習。コメントとトラックバックの使い分け練習。SA 研究計画の事前検討結果と問題点の報告。
13	情報活用の応用手法：相互閲覧の仕組みづくり	RSS、ブックマークなどの仕組と Weblog との連携の実習。SA 研究計画の詳細化と最終的な検討。
14	ブログ技法のまとめ、SA 研究計画の完成	学習成果の発表。事前学習成果と SA 研究計画との接続
15	全体のまとめ 成果発表	まとめ成果発表とクラス討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には：
1. (SA 準備として)　SA 個人研究テーマの構想着手、Web 外部公開申請書の用意、在外インターネット環境の事前調査
2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
4. Web 外部公開申請書提出、SQL アカウント申請書提出、SA 個人研究テーマの検討
5. WordPress 導入作業の完了、学外からの記事投稿と公開の確認
6. 授業内の未了実習項目の完了、学外環境からの Weblog 活用の実習、SA 個人研究の計画書、携行 AV 機器の準備着手
7. 学外からの相互投稿による Weblog コンテンツ蓄積、SA 個人研究、グループワークの実施計画の検討ミーティングと報告書作成
8. 学外からのトラックバックによる Weblog コンテンツ蓄積、SA 検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査
9. Weblog コンテンツ蓄積、SA 検討ミーティング、事前調査の続行と報告書作成
10. 最終報告書の作成、SA 研究計画の公開

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
SA での文化研究の方法：
佐藤郁哉、「フィールドワーク―書を持って街へ出よう」、新曜社; 増訂版 (2006/12/20) ISBN 978-4788510302
サーバ環境でのエンドユーザスキル：
水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版（1996）、ISBN4-320-02842-2
ブログからの情報発信：

エビスコム、「WordPress デザインブック 3.x 対応」、ソシム (2011)、ISBN 978-4883377831
エビスコム、「WordPress レッスンブック 3.x 対応」、ソシム (2010)、ISBN 978-4883377244

【成績評価の方法と基準】
授業参加（30%）, ブログ（40%）、実習課題（20%）、発表（10%）を目安とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
携行予定の情報機器や SA 先での WiFi 接続など、実際の学習環境は年々変化する。
これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室において授業を行います。受講者は学外（とくに SA 先）でのインターネット接続を励行しますのでスマホ、ノート PC もしくはタブレット端末など実際に現場で使用する機器類を授業ない実習でも持って来てください。不明な点は担当教員にご相談ください。また情報蓄積には ePortfolio を併用しますので、ふだんから HOPS の活用を心がけて下さい。

【その他の重要事項】
情報文化コース生ならびにボストン大学への夏期留学 SA を選択した者にとって、SA とは文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つので、かならず受講してください。
Web を基盤とする高度な ICT の活用実習、ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援します。**

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。
SA 環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を並行履修すること。

GA216

情報コミュニケーションⅢ

稲垣　立男

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**席数を超えた場合選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンを使ってデザインやアートの作品制作をするための入門的かつ実験的な実習授業です。
絵を描くことなどに苦手意識のある人、パソコンでのイラストレーションや写真の加工、映像制作が初めての人にもわかりやすく、楽しく進めていきます。

【到達目標】
1. 作品制作を通じてコミュニケーションに必要な視覚表現の基礎的な事柄を学びます。加えて創作全般に通じるクリエイティブな造形表現や映像表現に必要な感覚や技術を養います。
2. 多くのアーティストやデザイナーに使用されている Adobe Illustrator、Photoshop、Premiere などクリエイティブ系ソフトのベーシックな使い方をマスターします。

【授業の進め方と方法】
1. イラストレーション（ドローイング）
2. 写真の加工（フォトレタッチ）
3. 映像制作（コマ撮りアニメ）
の 3 つのテーマで、課題制作を進めます。
課題に取り組む際には課題の意義及び各ソフトの使い方のレクチャーについて講義をします。各課題の最後にはお互いの作品を鑑賞し（プレゼンテーション）、講評会を行います。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
2	イラストレーション	Adobe Illustrator の使い方 課題の説明（ドローイング、マンガなどの線による表現について）
3	イラストレーション	課題制作 1 （この課題は 2 回に分けて制作をする。制作中は個別の指導となる。）
4	イラストレーション	課題制作 2 （この課題は 2 回に分けて制作をする。制作中は個別の指導となる。）
5	イラストレーション	作品のプレゼンテーション 講評
6	フォトレタッチ	Adobe Photoshop の使い方 課題の説明（コラージュ、写真の加工など）
7	フォトレタッチ	課題制作 1 （この課題は 2 回に分けて制作をする。制作中は個別の指導となる。）
8	フォトレタッチ	課題制作 2 （この課題は 2 回に分けて制作をする。制作中は個別の指導となる。）
9	フォトレタッチ	作品のプレゼンテーション 講評
10	ショートムービー	Adobe Premiere の使い方 課題の説明（音と映像、コマ撮りアニメの手法など）
11	ショートムービー	課題制作 1 （この課題は 3 回に分けて制作をする。制作中は個別の指導となる。）
12	ショートムービー	課題制作 2 （この課題は 3 回に分けて制作をする。制作中は個別の指導となる。）
13	ショートムービー	課題制作 3 （この課題は 3 回に分けて制作をする。制作中は個別の指導となる。）
14	ショートムービー	作品のプレゼンテーション 講評
15	講評会	個々の作品を見ながらのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
街の中のサインやポスター、本や雑誌、様々なプロダクツなどについて、視覚的な情報伝達の方法やデザインの工夫などを意識して読み解いてください。また、大学近郊の美術館やギャラリーなどで、さまざまな作品を鑑賞するのもよいと思います。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
参考書、参考作品については授業の中でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）
課題提出（50%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
あまり難しく考えずに、楽しく制作しましょう。

【学生が準備すべき機器他】
使用する主なソフトは以下の通りです。
Adobe Illustrator（イラストレーションを描くためのソフト）
Adobe Photoshop（写真を加工するためのソフト）
Adobe Premiere（映像を編集するためのソフト）
課題提出に授業支援システムを使いますので登録しておいてください。

【その他の重要事項】
初心者の皆さんには、各ソフトを使っての作品制作のコツをまず掴んで、さらに完成度を高めていく方法をお伝えします。技術的な経験は問いませんので、アートやデザインの作品制作に自信のない人も是非チャレンジしてみてください。
※課題制作については各受講者の能力やそれぞれがやりやすい進め方などを考慮して、毎回の内容や目標を掲げていません。ディスカッションを通じて各自の課題を見極め、柔軟に取り組んでください。
初回のガイダンスに必ず出席してください。
特別な事情がないかぎり、初回に出席しなかった者は登録できません。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

GA311

情報アプリケーションⅠ

重定　如彦

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウェブページを記述する HTML は近年新しいバージョンが作られ、その表現力が増している。本授業では最新の HTML5 をベースに、CSS や Javascript などを用いて表現力の高いウェブページを作るための技法について学ぶ。
最終的には HTML5 を使って簡単な 3D グラフィックスを表現する方法を学び、迷路のウェブページを構築できることをめざす（完成例としては http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/software/maze/maze.html を参照のこと。3D の迷路を見るにはページの「webgl を使って描画する」をチェックする。ブラウザは Firefox、Chrome、IE11 以上を推奨）

【到達目標】
ウェブページを記述する言語である HTML について理解し、自分でウェブページを作成できるようになる。
CSS を使って表現力の高いウェブページを作成できるようになる。
Javascript を使って動きのあるウェブページを作成できるようになる。
Three.js を使って 3D グラフィックスを使ったウェブページを作成できるようになる。
インターネット環境で応用力のある豊かな情報発信能力を身に着ける。

【授業の進め方と方法】
授業の前半で HTML などに関する説明の講義を行い、授業の後半でテキストエディタとウェブブラウザーを用いて実際にウェブページを作成する実習を行う。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	HTML5	HTML5 とはどういうものかについて学ぶ HTML の基礎知識について学ぶ
2	タグその 1	見出し、段落、箇条書きなどの HTML の基本的なタグについて学ぶ
3	タグその 2	その他の HTML の代表的なタグについて学ぶ
4	CSS	スタイルシートについて学ぶ
5	Javascript	Javascript の基礎について学ぶ
6	Javascript を使ったグラフィックス	HTML の Canvas タグと Javascript を使ったグラフィックスについて学ぶ
7	Three.js	Javascript の 3D グラフィックスのライブラリである Three.js について学ぶ
8	3D グラフィックスの基礎	3D グラフィックスの基礎について学ぶ
9	3D グラフィックスアニメーション	3D グラフィックスのアニメーションについて学ぶ
10	迷路の表現方法	コンピューターで迷路をどのように表現するかについて学ぶ
11	迷路の 2D グラフィックス	コンピューターで表現した迷路を 2D グラフィックスで表現する方法について学ぶ
12	迷路の 3D グラフィックス	コンピューターで表現した迷路を 3D グラフィックスで表現する方法について学ぶ
13	迷路の自動生成	ランダムな迷路をコンピューターに自動生成させる方法について学ぶ
14	迷路の中を動き回る	コンピューターが作成した迷路内を動き回る方法について学ぶ
15	まとめ	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業が終わった後に復習を行うこと。
また、最終課題として自分のオリジナルの迷路のページを作成する課題を課すので、各自締切（最後の授業の 1 週間後）までに制作を行うこと。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示する

【参考書】
授業中に指示する

【成績評価の方法と基準】
平常点 10% 課題 40% 最終課題 (迷路の課題）50%
課題は授業内で適宜指示する。
最終課題をもって定期試験の代わりとするので、試験は行わない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピューターを使って授業を行う。

【その他の重要事項】
プログラミングやウェブページ関連の授業を受講していることが望ましいが、やる気があればプログラミングの経験が無くても歓迎する。

GA311

情報アプリケーションⅡ

和泉　順子

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報技術が社会基盤となり、広く一般に利活用される一方で、セキュリティや個人情報保護等の問題も広く認識されるようになってきた。この授業の前半では、身近に利用している情報サービスに対するリスクや問題について学習し、議論する。
授業の後半では議論を通じて調査し、理解を深めたことに関するプレゼンテーションの方法を学習し、実践する。

【到達目標】
身近な情報サービスの一例として Web アプリケーションや地理位置情報を例に、広く使われている情報技術とリスクについて考え、自らの意見を構築する。議論を通して自らが調査し考えた「意見」を他の人に伝えるためのプレゼンテーション方法を学び、実践・確認することで、客観性のある有為なプレゼンテーションができることを目指す。

【授業の進め方と方法】
授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した議論および実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明。
2	情報サービスとその問題（1）	仮想世界の「名前」は現実とどうリンクしているか、匿名であるとはどういうことか、それがあると何がどう安全なのかを学ぶ
3	情報サービスとその問題（2）	地理位置情報とは何か、どこで利活用され、どのような情報が公開されているのかを学習する
4	データと統計処理（1）	統計処理したデータとは何か、統計分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
5	データと統計処理（2）	統計処理ツールを使い、単純な回帰分析等を学習する
6	調査テーマの決定と議論	自らが調査し、意見を構築するテーマを決め、発表する
7	先攻研究調査と参考文献の引用	参考文献の引用の仕方、プレゼンテーションにおける引用の方法について学ぶ
8	データの選択	学習した統計処理を用い、公開されているデータを用いて自らの意見に必要なデータを検討する
9	データの表現	先攻研究の対象と調べ方について学習し、論文やレジュメを作成する際の必要なデータを抽出または作成した上で、それをどう表現すれば効果的に他人に伝えられるかを学習する
１０	小テスト	授業で得られた知見を確認する
１１	プレゼンテーション作成	実際に調査し、分析した結果をプレゼンテーションにまとめる作業を行う。なお、作業中は適宜授業内で質問をすることで、プレゼンテーションに参加者からの意見を反映する
１２	レジュメ作成	プレゼンテーションの際に配布するレジュメを作成し、発表準備を行う
１３	調査報告と議論（1）	自らが調査した情報サービスの問題点を整理したプレゼンテーションを行う
１４	調査報告と議論（2）	成果物である発表資料、制作物をもとに、相互にその問題を検討する
１５	まとめ	授業を受ける前と後とで、情報サービスに対する問題意識が変化したかを確認するため、参加者同士で発表・議論した内容についてレポートにまとめ、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムにアップロードされるテキストに従って関連書籍を読み、予・復習および各自制作の実習を行う。
課題は〆切までに必ず提出すること。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義中に紹介する。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
2 回のプレゼンテーションとレジュメの作成 (40%)、小テスト (30%) および最終講義日に作成・提出するレポート (30%) により評価する

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストや PowerPoint 資料を使用し、各種ソフトウエア等を用いて進める。
授業支援システムを利用して課題を提出してもらうため、課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になる。

【その他の重要事項】
情報コミュニケーションⅠ・Ⅱを履修していること。
未修者の履修希望については担当教員の判断による。

GA312

こころの科学

森村　修

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**認知科学**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「こころ」とはいったい何だろうか。私たちは、日常生活では特に「こころ」とは何かと問うことはほとんどない。というのも、私たちは「こころ」があること、あるいは「こころ」をもっていることをあらためて問う必要もないと考えているからだ。しかし、私たちは、「こころ」について何を知っているのだろうか。しかも、「こころ」があるとされている「からだ」のことも、私たちはどの程度知っているのだろうか。

「こころ」への探求、さらには「こころと身体」との関係についての哲学的議論は、哲学が始まった当初から長い歴史を持っている。その一方で、「こころ」の働きを「科学的に」解明しようとして、哲学から心理学が分かれてきたのは、ここ 100 年ほどの歴史しかない。また「こころと身体」との関係の理解については、相変わらず「心身二元論」の枠を出ていない。しかし今では「こころ」の探求については心理学だけでなく、言語学や脳科学、情報学など様々なアプローチが試みられている。そこでは「こころ」の探求に関して、「身体」や身体を取り巻く「環境」との関係を視野に入れた研究が進められている。しかしそれでも、単一の領域からアプローチする方法では、「こころ」の本質に迫ることは難しい。近年では、「こころの科学」として、「こころ」を巡る様々な学問領域との連係を必要とする新しい学問が起こってきた。

「学際的科学」としての「こころの科学」では、専門分野の異なる二人の研究者が、情報学、哲学、認知心理学を機軸として、私たちの「こころ」を明らかにしようと試みる。特に、「こころ」の「働き」の中で、「認知」という「謎」に取り組み、「人間が認識する働き」、もしくは「知るという働き」を解明することが目指されている。また、「認知」については「身体」への眼差しが重視されていることも忘れてはならない。

そこで本授業のテーマは、「こころ」のみならず、「こころと身体」との関係、「こころと環境との関係」についても視野に入れて、「こころ」の謎に迫ることにある。

【到達目標】

・「こころ」の働きを哲学の観点から考察することで、「こころとは何か」「こころとからだとの関係」はどのようになっているのかということについて説明できる。
・「こころ」の哲学史を研究することで、「こころ」と言われてきたものが様々な科学との関係の中で、様々に解釈されてきたことを理解することができる。

【授業の進め方と方法】

本年度は、甲（情報学）が在外研究のため、森村（哲学）が専門分野から「こころ」という難問にアプローチする。
《授業の進め方》
・基本的に、授業は講義形式で行なう。授業内で質疑応答のみならず、「こころ」をめぐる問題についてディスカッションをする予定である。
【重要】
本科目は複数教員担当による「オムニバス講義」である。しかし 2016 年度は、甲洋介（こころの情報学）が不在なので、情報学からのアプローチは行なわない。今年度については、森村が担当し、哲学からのアプローチに焦点をあてる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	こころの科学とは何を目指す学なのか、講義と議論の進め方
2	こころの哲学:デカルト心身二元論	・デカルトの心身二元論
3	こころの哲学: 心身二元論批判	・ライルによる行動主義
4	こころの哲学: 心脳同一説（タイプ同一説）	・スマート、ファイグルの哲学
5	こころの哲学: 心脳同一説（トークン同一説）	・心的状態と脳状態の違いについて
6	こころの哲学: 機能主義（パトナム）	・心的状態と機能について
7	こころの哲学: 解釈主義（ディヴィドソン）	・非法則的一元論
8	こころの哲学: 解釈主義（デネット）	・道具主義
9	こころの哲学: 消去主義（チャーチランド）	・物理主義と民間心理学
10	認知哲学: 古典主義	古典的計算主義
11	認知哲学: 古典主義批判（ドレイファス）	・身体性
12	認知哲学: 古典主義批判（サール）	・「中国語の部屋」の問題
13	認知哲学: コネクショニズム	・分散表象
14	認知哲学: こころから身体へ	・生態学的アプローチ（ギブソン）
15	討議とまとめ	履修生を交えた共同討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

小レポートを数回提出を求める。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

講義中に適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 (30%：討議への参画、小レポートを含む) と、試験あるいは課題レポート (70%、開講時に指示する) を総合的に評価する。
期末試験と小レポートによって評価する。場合によっては、期末試験に代えて最終レポートに切り替えることもありうる（開講時に指示をする）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

・実際の現象を理解しやすいように、説明の中にできる限り実験や具体例等を取り入れる。

【その他の重要事項】

本科目では、「こころとは何か」と「知とはどのように働くか」という問いに興味のある学生の参加を期待する。

GA313

ゲーム構築論

重定　如彦

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**モデリング・シミュレーション**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、**情報学を適用したモノづくりの面白さと難しさ**をコンピュータゲームのモノづくりを通して学ぶ。コンピュータにはワープロ、メールソフト、ウェブブラウザ、ゲームなどありとあらゆるソフトウェアがあり、我々は日々それらの他人が作成したソフトウェアを利用しているが、これらのソフトウェアが実際にどのようにして作られているかについて知っている人はあまりいないのが現状である。そのためコンピュータで何かを行う場合、他人の作成したソフトウェアを探して利用する必要があるが、そのようなソフトウェアが見つからなければあきらめるしかない。

実際にはプログラミングを学ぶことで、簡単なソフトウェアであれば必要に応じて自分で作ることができるようになる。つまり、コンピュータのソフトウェアの消費者から、コンピュータのソフトウェアの生産者になることができるようになるである。

日常にあふれるコンピュータのソフトウェアはどのようにして作られているのか？ 本授業ではソフトウェアの中でも親しみやすいコンピュータゲームのプログラミングの観点から具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。

コンピュータゲームの題材としては主に、現実世界のものを題材に、現実世界の現象をモデル化し、シミュレーションするというモデリングシミュレーションを用いたものを主に扱う。

【到達目標】

コンピュータゲームのモノづくりを通じてコンピュータのソフトウェアがどのようにして動いているかを理解し、自分の力で簡単なソフトウェアを作り出すことができるような実践的な能力を身に着けることを目指す。

現実世界のものをモデル化し、コンピュータでシミュレーションを行うことができる力を身に着ける。

2015 年度の本授業の学生の作品を e ポートフォリオにまとめておいたので、以下のアドレスから参考にしてほしい。https://epf.hosei.ac.jp/mahara/view/groupviews.php?group=188

授業で取り扱う題材のソフトウェア（一部授業で取り扱う Visual Basic 以外のプログラム言語のものもある）の一部が下記のウェブページから見ることができるので、興味があれば参照してほしい。
http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/software/

【授業の進め方と方法】

授業ではコンピュータプログラミングの入門用言語として Visual Basic を用いたソフトウェア制作の実習を行う。様々なソフトウェアの制作を通じてプログラミングの基本となる考え方、課題、解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。

前半では、「占い」、「じゃんけん」、「数当てゲーム」、「○ × ゲーム」、「簡単なシューティング」といった簡単なゲームを扱うことによってプログラミングの基礎を学ぶ。

後半では現実の世界の重力を題材とした「2D ゴルフゲーム」や誰もが知っている「テトリス」などといった複雑なゲームを扱うことでコンピュータのソフトがどのような考え方によって作られているかについて学ぶ。

実際に取り上げるゲームの題材は学生の興味と理解に合わせて臨機応変に取り上げる予定であり、学生の要望によっては他の題材を取り上げる可能性もある。下記の授業計画は上記の題材を取り上げた場合の計画である。

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	プログラミングとはどういうものかについて学ぶ。Visual Basic の基礎について学ぶ
2	「占い」と「じゃんけん」	変数、乱数、条件分岐について学び、占いとじゃんけんのゲームを作成する
3	数当てゲーム	変数を使って回数を数える方法について学び、数当てゲームを作成する
4	グラフィックスと簡単なシューティングゲーム	グラフィックスの描画方法について学ぶ。グラフィックスを使った非常に簡単なシューティングゲームを作成する
5	○ × ゲーム	配列変数について学び、○ × ゲームの盤をどのように表現するかを学び、○ × ゲームを作成する
6	モデルリング	現実世界の重力に関するモデルを学ぶ
7	シミュレーション	重力のモデルをコンピューター上でシミュレーションする方法について学ぶ
8	2D ゴルフゲームその 1	重力のモデルとシミュレーションを使って 2D のゴルフゲームをどのようにして作るかについて学ぶ
9	2D ゴルフゲームその 2	ボールの移動のアニメーションの方法について学ぶ
10	3D ゴルフゲームその 1	2D のゴルフゲームを 3D のゴルフゲームに発展させる
11	3D ゴルフゲームその 2	3D のゴルフゲームを完成させる
12	テトリスその１	テトリスの盤面を表現する方法について学ぶ。様々な種類のブロックをどのように表現するかについて学ぶ
13	テトリスその２	ブロックの移動、回転の方法について学ぶ。ブロックがくっついた時の処理の方法について学ぶ。
14	テトリスその３	ブロックを消す方法について学ぶ。新しいブロックを生成する方法について学ぶ。その他点数、ゲームオーバーなどテトリスに必要な機能を実現する方法について学び、ゲームを完成させる
15	まとめ	学習内容のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する教科書の内容を予習復習し、各自制作の実習を行う。

【テキスト（教科書）】

「学生のための詳解 Visual Basic」 東京電機大学出版局

【参考書】

必要に応じて授業内で説明する

【成績評価の方法と基準】

平常点 10%、ソフトウェア制作　90%
ソフトウェア制作は授業で取り上げたソフトウェアを評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

進め方が早すぎてわからなくなることがあったという意見があったので、早くなりすぎないように注意したい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストや PowerPoint 資料を使用し、各種ソフトウエア等を用いて進める。

【その他の重要事項】

プログラミング関連の授業を受けていることが望ましいが、熱意があればプログラミングの未経験者も歓迎する。

GA212

ヒューマンインターフェイス論

甲　洋介

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は、道具がなければ、自然界においてとても非力な存在である。
人間は道具を巧みに操ることによって、自分の身体的・感覚的・知的な限界を超えることを可能にしてきたと言えよう。
一方で、日常生活を観察すると、人間は実にさまざまな種類の道具に囲まれて生活している。日常の道具をよく考えてデザインし使いやすいモノにすると、日常生活は自然に豊かで快適なものとなる。
本講義は、**道具を使いやすく、魅力的なものにするための設計方法論**について、具体的かつ実践的に学ぶ。その決め手は「ヒューマンインターフェイス」のデザインである。
文化や性質が異なるために摩擦を生じるのは人間と人間だけではない。人間が作り出した人工物は、カタチや素材、知能、言語、感覚、情動などさまざまな特性において人間と異なっており、人工物である道具と人間との間では様々な形で摩擦が生じている。このような観点から近年では、ロボットと人間の共生問題も議論され始めている。　これらの異質な存在どうしが接している境界面が、「ヒューマンインターフェイス」なのである。

【到達目標】
新しい、魅力ある商品の企画書を作ってみよう！
ここでは、使いやすい道具をデザインするための設計手法について、基本的な考え方から具体的な設計手順までを学べる。
最終課題では、新しい道具・商品・サービスのデザイン案を、履修者ひとりひとりがユーザーセンタードデザインの設計手法を使って企画を提案できるようになる。すなわち、講義で理論を学ぶだけでなく実践的に習得することを目指している。
講義の一部には、ワークショップを通じたクリエイティブな発想法のトレーニングも含まれる。

【授業の進め方と方法】
本講義では、ユーザーを主役においた道具のデザイン手法**「人間中心の設計法」***User-Centered Design* を実践的に学ぶ。
使いやすい道具をデザインするには、人間の諸特性を知ることが大切になる。たとえば、人間は覚えたことを忘れやすいし、ある確率で誤りを起こす。道具を設計する時に、利用者が誤りをたまに起こしても構わないように、人間の特性を配慮してデザインすると、道具は利用者にとって気軽に使えるものになる。利用者が巧みに使いこなして、初めて道具の価値が生まれる。利用者が使いこなせない道具では意味がないのである。
講義後半ではワークショップ方式を取り入れ、履修者それぞれが日常生活を豊かに暮らしやすくする道具・商品・サービスのデザイン実習に取り組む。**履修者どうしがアイディアを提案し合い、改良点をディスカッションする機会**が提供される。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	『暮らしのシナリオ』を書いてみよう	日常生活で出会う道具に着目して「暮らしのシナリオ」を描く
2	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手はヒューマンインターフェイスである
3	ヒューマンインターフェイスとは	人間と道具のコミュニケーション
4	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する方法
5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、新しい事柄をなかなか覚えない動物である
6	魅力的な商品を作り出す発想法	発想法の練習：ブレーンストーミング、6 色ハットの理論
7	「人間中心の設計法」*User-Centered Design (UCD)* ①	ユーザの体験 *(experience)* をデザインする、という考え方
8	「人間中心の設計法」②	*UCD* の基本原則を理解しよう
9	「人間中心の設計法」③	デザインに必要となるさまざまなコンピテンス（専門性）
10	道具のデザイン実習①	新しい、魅力ある商品の企画書を作ってみよう！
11	道具のデザイン実習②	ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③	ユーザの快適な体験 *(experience)* をデザインする
13	道具のデザイン実習④	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション
15	まとめ	住み心地のよい情報生活空間のデザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で学習した方法論に沿って、デザイン実習を行う。その成果を、方法論に沿って、企画提案レポートとして仕上げ、発表し、提出する。

【テキスト（教科書）】
・「誰のためのデザイン」（D.A. ノーマン、新曜社）
・「人間計測ハンドブック」（甲ほか、朝川書店）
・「新世紀エヴァンゲリオン」(GAINAX)
他については適宜指示する。

【参考書】
・「ヒューマンインタフェースの発想と展開」（B. ローレル）「コンピュータは難しすぎて使えない」（A. クーパー）「情報デザイン―分かりやすさの設計」（情報デザインアソシエイツ）
・「6 色ハット発想法」（E. デボノ、ダイアモンド社）
・NPO 人間中心設計推進機構：　http://www.hcdnet.org/

【成績評価の方法と基準】
発表とレポート (60 %)
平常点（40 %、コメントシート、討議への積極的な参画を含む）
課題の未提出者は単位認定できない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
最終日の、受講生によるデザイン案のプレゼンテーションとグループ討議が、互いに大いに刺激になったとの感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインにこだわりのある皆さんの参画を期待する。

【履修条件】
・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。
・「仮想世界研究」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」「文化情報空間論」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。

【関連科目】
・「情報コミュニケーションⅠ」のグループワーク実習を並行して履修することを勧める。知識と実践の相乗効果により、理解をさらに深めることができる。
・「システム論」を履修済み、または並行して履修することを想定している。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣおよび、ＤＶＤデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

GA211

情報セキュリティとプライバシー

和泉　順子

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**ネットワークセキュリティ**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC や携帯電話などのようにネットワーク接続する情報機器を使用する際、ウィルスなど意図しないプログラムを引き込んで、被害にあうことがある。情報技術が社会基盤となり、広く一般に利活用される一方で、セキュリティや個人情報保護等の問題も広く認識されるようになってきた。この授業では、身近に利用している情報サービスに対するリスクや脅威を学習し、情報セキュリティやプライバシー、および匿名性に関する議論を行い、有効にネットワークを使用するため、ネットワークユーザー個人として、あるいは組織のネットワーク管理者としての基本的な知識と情報管理技術を身につけることを目標とする。

ネットワーク上のウィルス等の脅威から身を守るためには、ファイアウォールやアンチウィルスソフト等に代表される情報システム的手法と、ルールや法律によりそれを抑止する手法がある。両者を解説する。

【到達目標】

· PC 等、個人用情報機器を利用する上で、必要な情報セキュリティ知識を身につける。
· より高いセキュリティを実現する方策を立案できる。
· セキュリティを守るためにどのような社会制度があるかを理解する。

【授業の進め方と方法】

講義中心に進めるが、一部で情報端末による実習を取り入れる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	セキュリティ概要	ネットワークセキュリティの概念授業を解説。スケジュール、テキスト等の紹介。
第 2 回	自分の PC を守る	アンチウィルスソフト、ファイアーウォール、アップデート。
第 3 回	アタックのパターン (1)	個人 PC を狙う攻撃。コンピューターウィルスやパスワードクラッキング。
第 4 回	アタックのパターン (2)	WEB を使う攻撃。クロスサイト・スクリプティング、DNS キャッシュポイズニング。
第 5 回	仮想世界の「名前」	情報サービス上で用いている「名前」とプライバシー、匿名。
第 6 回	アクセス制限と効果	ファイアウォールの効果と動作。
第 7 回	暗号とは (1)	暗号の歴史と基礎理論。ハッシュ、電子署名などその応用。
第 8 回	暗号とは (2)	公開鍵暗号法の原理と実際。
第 9 回	デジタル署名と認証	CA の機能。SSH によるネットショッピング。
第 10 回	コンテンツ配信と著作権	著作者の利益保護。
第 11 回	組織でのセキュリティ管理	情報漏洩への対策と管理。
第 12 回	法制度による情報安全対策 (1)	国際的なサイバー犯罪に関する法規・法律。
第 13 回	法制度による情報安全対策 (2)	不正競争防止法、特許法、著作権法。
第 14 回	期末テスト	授業内容の理解度を確認。
第 15 回	授業のまとめ	テストに関する解説、ネットワークセキュリティの考えかたと将来。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会生活を送る上で、情報セキュリティとしてどんなリスクや脅威があり、そのためにどんな対策があるのか意識する。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）とレポート（30%）、期末テストの成績（50%）を併用した評価を行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

履修者の理解に合わせた実習を検討する。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業であり、授業は、教卓機パソコン画面上のテキストや PowerPoint 資料を使用して進める。
授業支援システムを利用して課題を提出してもらうため、課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になる。

GA268

バイオインフォマティクス

島野　智之、月井　雄二

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の生物学は情報科学的側面を強く持っています。ここでは，情報という視点からみた生命の実像を講義と実習を通じて学びます。前半の講義は月井が，後半の実習は島野が担当します。

【到達目標】
講義では，生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について，人間が作り出す言語を中心とした情報，及び，計算機が扱う情報と対比しつつ理解する。実習は，実際に行われている計算機を利用した生物学の手法を体験し，生物学の現状を理解する。

【授業の進め方と方法】
前半の講義（11 回）は，生物学の実習室（BT0900）で行います。随時，ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。後半の実習（12 回以降）は，情報実習室に移動して行います。実習は，計算機を用いて，外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して実習を行います。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義内容のあらすじを紹介します。
2	情報とは？	講義全体の基礎となる「情報」とは何かを理解する。
3	情報の発現過程（計算機の場合）	キーボードの「a」を押すとどのようにしてモニタに「a」の文字が表示されるのか？，コンピューターが動作する基本的な仕組みを学ぶ。
4	コンピュータ誕生の歴史	トランジスタの開発からコンピュータが誕生するまでをビデオを使って紹介する。
5	情報の発現過程（遺伝情報の場合）	AGTC というわずか４つの記号の並びから，どうやって複雑・多様なタンパク質ができるか、そのしくみを学ぶ。
6	情報の構造（計算機／遺伝情報）	ディスクの構造，OS とアプリケーション，オペロン，回文構造，反復配列など。
7	コンピュータ言語と遺伝暗号	コンピュータ情報は 0 と 1，遺伝情報は AGTC というわずかな要素で構成されているにもかかわらず，いずれも複雑・多様な機能を実現している。両者の共通点・相違点を探る。
8	情報の発生機構（遺伝情報）	突然変異とは，遺伝情報の伝達の誤りを意味する。突然変異の積み重ねが進化だが、これらを情報の発生過程としてとらえ直す。
9	情報系の進化	生物の進化過程を情報の視点からとらえ直す。生物は互いに関係しながら全体（地球生態系）として進化してきた。
10	インターネットのしくみ	インターネットが生まれた経緯をビデオを使って学ぶ。
11	生物学とインターネット	インターネットの登場で生物学はどう変わったか，変わりつつあるかを紹介する。
12	DNA 配列と分子進化	DNA は AGTC の配列（塩基配列情報）によって構成されていることについて復習と発展．塩基配列情報が違うことから生物の進化を推定する。
13	バイオ・インフォマティクス	塩基配列解析の様々な手法および大量ゲノム解析が社会に与える影響。
14	塩基配列	DNA 情報をテキスト配列として，操作して，様々な生物の塩基配列情報を扱う。
15	系統樹作成	生物の塩基配列情報から，実際に系統樹を作成する（生物進化の推定を行う）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は，生物学だけでなく，情報科学，人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので，学生自身も普段から情報という視点で，様々な知識を相互に連関させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。

【テキスト（教科書）】
講義テーマに合致する市販のテキストはない。個人的に作成した講義資料を使用する。

【参考書】
講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある。

【成績評価の方法と基準】
基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート (60%) だが、この他に講義内で提出してもらう様々な文書 (ビデオ等の感想、小テストなど)(40%) も加え、総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
カリキュラムを改訂・改善につとめている途中である。
受講生の数にもよるが，少数の場合は，個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
12 回から 15 回までは情報機器を使用します。パソコンにインストールされているソフトを元に，実習します。遺伝子データベース
http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html を使います。

【その他の重要事項】
前半の講義（11 回）は，生物学の実習室（BT0900）で行い，後半の実習（12 回以降）は，情報実習室に移動して行うことに注意してください。【ただし予定です】

GA311

ネットワーク環境構築論

松浦　知史

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**ネットワーク・プログラミング，ネットワークサーバ構築論**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンやスマートフォン等を用いて、WEB サイトの閲覧やメールの送受信を始め様々なアプリケーションを利用する事がごく一般的になった。本講義ではこのようなサービスを成り立たせているネットワーク技術、サーバ技術について演習を通して学習する。

【到達目標】
Linux の基礎的な操作方法やプログラミング言語 (Perl) の文法の基礎を習得し、プログラミング言語 (Perl)、サーバ (Linux) を用いながら WEB サーバ等の構築方法やネットワークを通した情報収集/解析の手法を習得する事を目標とする。

【授業の進め方と方法】
Linux 環境を利用して、その上で基本操作やプログラミング言語、ネットワーク技術およびサーバ技術の学習を行う。演習形式の講義であり、全ての講義で演習室の計算機を利用して講義を進める。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Linux 基礎 (コマンド操作)	ls, cd といった代表的なコマンド等を紹介しながら、Linux の基本操作を学ぶ
2	Linux 基礎 (ソフトウェア)	代表的なソフトウェアを紹介しながら、Linux の基本操作を学ぶ
3	プログラミング基礎 (基礎文法)	Perl を利用してプログラミングの基礎文法を学ぶ
4	プログラミング基礎 (制御構造)	Perl を利用して条件分岐や繰り返しといった制御構造を学ぶ
5	プログラミング基礎 (文字列操作)	Perl を利用して正規表を用いた文字列操作を学ぶ
6	ネットワーク基礎 (通信プロトコル)	インターネットを支える TCP/IP といった通信プロトコルについて学ぶ
7	ネットワーク基礎 (ネットワークサーバ技術)	メールや WEB サーバ等々の仕組みについて学ぶ
8	ネットワークプログラミング (WEB コンテンツの取得)	WEB サーバから情報を取得するプログラミング手法を学ぶ
9	ネットワークプログラミング (WEB コンテンツの解析)	WEB サーバから情報を取得し HTML の内容を解析するプログラミング手法を学ぶ
10	ネットワークプログラミング (データの整形と保存)	WEB サーバから情報を取得し HTML の内容を解析したデータをユーザに取って閲覧しやすいように整形し、またデータを保存する方法を学ぶ
11	WEB サーバ構築 (構築手順)	Linux 上に WEB サーバを構築する手順を学ぶ
12	WEB サーバ構築 (コンテンツのアップロード)	Linux 上に WEB サーバを構築し、コンテンツの掲載方法を学ぶ
13	WEB サーバ構築 (サーバサイドのプログラミング)	サーバ側のプログラミングを行い動的なコンテンツ生成を可能とする WEB サイトの構築方法等を学ぶ
14	WEB サーバ構築 (クライアントサイドのプログラミング)	JavaScript を利用し、サーバ/クライアント両方を含めた WEB プログラミング手法を学ぶ
15	講義全体のまとめ	講義全体の習熟度を課題や試験等を通して確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内でプログラミング、サーバ構築に関する課題を適宜出す。課題をこなすだけで無く、課題をこなした成果物を各自で拡張することを強く勧める。

【テキスト（教科書）】
講義開始時に配布する。

【参考書】
初めての Perl 第 6 版 (オライリージャパン)
はじめて UNIX で仕事をする人が読む本 (アスキー書籍)

【成績評価の方法と基準】
課題 (サーバ構築やプログラミング) の達成度で 100%評価するが、サーバ環境の構築スキルやプログラミングのスキルが講師側で判断できれば試験/課題を省略し、その場合は平常点で 100%評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生の進度を考慮しながら、講義ペースや課題の難易度を設定していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】
演習室の計算機を利用し、Linux 環境で講義を進める。

【その他の重要事項】
「ネットワーク基礎」、「プログラミング言語基礎」といったネットワークやプログラミングに関する講義を修了している事を前提に講義を行う。

GA202

文化情報空間論

甲　洋介

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちが生きているこの世界は、けして自然的な世界ではない。むしろヒトが作り出した人工的世界の中に生きていると考えるほうが自然である。そこで本講義では、まず「人工物の科学」について紹介し、それに基づく「知的人工物との暮らしのデザイン」を学ぶ。

自分の身の回りにある**人工物（artificial creature）**に着目してみよう。人工物は実にさまざまな存在形態を有していることに気づくだろう。人工物は暮らしのいろいろな場面に埋め込まれ、人間と人工物の境界はすでに曖昧でさえある。

人工物は、玩具や文具のように人間から独立して存在するモノだけではない。人間の身体に装着する義足や高機能な衣服、脳波によって作動する器具のように、人間の身体や能力と一体化して機能する人工物もある。住宅建築や空間のように人間を包み環境として存在する人工物もある。このように捉えなおすと、現在の「都市」はある意味で空間化した知的人工物として捉えることができるようになる。

【到達目標】
人間と人工物の共生社会を捉えるための分析観点、知的人工物が変化を感じ取り環境に適応するための諸技法を学べる。

さらに、「ヒューマンインターフェイス論」を履修した者にとっては、User-Centered Design 設計手法の上に立って、私たちの暮らしを穏やかに支える知的生活空間デザインの基本的枠組みを理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】
本講義は、まず「現在」を人間と人工物との共生社会として捉えることから始まる。　そして、私たちの生活空間のさまざまな局面に人工物が浸透する様態に着目し、
①人間の身体や能力と一体化して作動する人工物、
②人間と独立したモノとして存在する人工物、
③空間化し人間を包み込む環境として存在する人工物、
の 3 つの存在形態について検討を加える。

これらの人工物が日常生活に入り込むことによって、私たちの生活習慣や文化はどのように変容し、生活空間はいかに拡張されうるのか、具体的に切り出された生活場面を詳細に検討し、新たな設計を試みる講義とする。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション〜サイバーパンクＳＦを超えて	知的人工物との暮らし
2	人工物のサイエンス	人工物を科学するとはどういうことか
3	人工物のサイエンス	日常生活を構成する人工物の諸相
4	人工物との暮らしをデザインする	人間の身体・感覚・認知の諸特性を拡張する暮らしの人工物
5	環境を感じて適応する人工物	環境を感じとり、身体を持つ知能としてのロボット
6	環境を感じて適応する人工物	ニューラルネットワーク（神経回路網）モデル
7	環境を感じて適応する人工物	自然淘汰と遺伝的アルゴリズム
8	人間と一体化する人工物	身体と人工物の境界はすでにあいまいである
9	人間と一体化する人工物	知覚、感覚的諸能力の一体化
10	人間と協調する知的人工物	認知的諸能力の一体化
11	人間と協調する知的人工物	人工物に感情は必要か
12	空間化する知的人工物	情報化する空間と、空間化する情報
13	空間化する知的人工物	ユビキタスコンピューティングがもたらす情報空間
14	まとめ	知的人工物としての都市
15	まとめ	文化情報空間における知的生活

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に、講義を通じて各自で考えた事柄をまとめ、授業支援システムに蓄積する。受講生からのコメントは講義で活かされる。

【テキスト（教科書）】
・「システムの科学」(H. サイモン、パーソナルメディア)
他については、講義の進行に応じて指示する。

【参考書】
・「深層学習：ディープラーニング」(麻生英樹他、近代科学社)
・「攻殻機動隊」
・「複雑さと共に暮らす」(D.A. ノーマン)
他については、講義の進行に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席＋討議への参加＋コメントシート（40 %）、レポート＋期末試験（60 %）。
レポート未提出者／試験未受験者の単位は認定しない。再試・追試は実施しないので注意すること。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
人工物によって人間のどのような側面が、どのように拡張されてきたのか、具体例を増やし、分かりやすい説明を試みる。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
人間の心の特性や、**「ロボット」「知能」「モノづくり」に興味のある皆さん**に参画を期待する。

【履修条件】
・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】
・「ヒューマンインターフェイス論」「仮想世界研究」「こころの科学」と組み合わせて受講することにより、履修効果が高まるようにデザインされている。

GA311

コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋　良明、阪本　正治

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**コンピュータ音楽と音声情報処理，メディアシステム構築論，メディア処理**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータの性能の急速な向上に伴い、コンピュータと人間を結ぶヒューマン・マシン・インターフェースの重要性が増し、人間の表現行為を工学的に扱う必要性が生じている。人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。本講義では、情報デザインならびにメディア表現の上位科目として、コンピュータ上で音を扱う方法について学ぶ。サウンドプログラミング言語である Pure Data(Pd) のビジュアルプログラミング機能の使い、さまざまな音の表現方法を学ぶ。

【到達目標】
コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎を身に着ける。
本講義では、サウンドプログラミング環境として Pure Data(Pd) のビジュアルプログラミング機能を利用する。パッチと呼ばれるプログラムの作成を通じて、コンピュータ音楽の製作を体験する。オープンソースソフトウェアとしての Pd の利点を認識し、Windows, Mac など OS や機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようになる。

【授業の進め方と方法】
デスクトップミュージックとマルチメディア作成用の言語である Pure Data(Pd) のビジュアルプログラミング機能を使い、Pd によるデモとプログラミング実習を中心に学習を進める。3 回のプログラミング課題を課す。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび PureData(Pd) の概要	PureData(Pd) のインストール方法・操作方法の基礎を学びます。
2	Pd の初歩	パッチと呼ばれる Pd のプログラムを作成する方法を学び、パッチ作成に慣れる。
3	音を出す	音を出すパッチを作成する。 課題１を出す。
4	メトロノーム (1)	Pd における音出しのタイミング制御の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。
5	メトロノーム (2)	メトロノーム機能のプログラミングにおいて、サブパッチ、アブストラクションなどプログラミング技法を学ぶ。
6	リズムマシン (1)	サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンを作成する。 課題２を出す。
7	リズムマシン (2)	リズムマシンを完成させる。
8	シンセサイザー (1)	ウェーブテーブル合成によるシンセサイザーを作成する。
9	シンセサイザー (2)	シンセサイザーの出力音にポルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。
10	音と映像の同期	音に映像を同期させる手法を学ぶ。
11	物理音のモデリング	楽音だけでなく、機械音を作成する。ジェットエンジンなど現実世界の音響現象のモデル化を取り上げる。
12	最終課題 (1)	最終課題のためのガイダンスを行い、最終課題を構想する。
13	最終課題 (2) ：進捗状況と問題点の共有	課題制作の進捗状況、技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
14	最終課題 (3) ：制作の仕上げ	作品完成に向けての作業のまとめに入る。
15	まとめ	作品発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
情報リテラシー、メディア情報、ディジタル情報学等の関連科目を前提知識として挙げておく。

【テキスト（教科書）】
実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】
美山千香士,『Pure Data チュートリアル＆リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424
松村 誠一郎,『Pd Recipe Book -Pure Data ではじめるサウンドプログラミング』, ビー・エヌ・エヌ新社 (2012) ISBN: 978-4861007804
中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』, 工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、３回の課題の評点（30 %）、最終課題の評点（40 %）で成績を評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、毎週一時間半の授業だけでは、サウンドプログラミングの習得は難しいようである。情報実習室や個人の PC を利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。復習を促すために３回の課題を課す。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のデスクトップ PC を使用する。

GA203

ハイパーテクスト論

川村　たつる

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ハイパーテクストを広義の意味で捉え、Airbnb や Uber 等に代表されるシェアリング・エコノミーの事例を、人・物・事の新しい繋がり方、新しいコミュニティの在り方として考察していく。
※ハイパーテクスト…複数の文書をパイパーリンクで相互に結びつける仕組み
※ Airbnb（エアー・ビー・アンド・ビー）…個人の部屋の貸し借りをマッチングするサービス
※ Uber（ウーバー）…自家用車を使用するライド・シェアリング・サービス

【到達目標】
現代社会におけるネットワークやコミュニティの在り方、人と人との繋がり方を各自が再考できるようにしたい。

【授業の進め方と方法】
シェアリング・エコノミーや新しい形態のコミュニティ、組織等に関わる事例や、その他いろいろな分野の「人の繋がり方」に関する事例の検証を行い、ワークショップ、課題制作を通して考察を行っていく。
※ワークショップはテーマを決め、グループワークで行います。
※発表に関しては、それぞれの技術的な出来・不出来を評価するものではなく、条件をどのように理解し、どのように考え、どのように表現しようとしたかに重点を置いて評価する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方についてのガイダンスとハイパーテクストに関するのイントロダクション
第 2 回	事例紹介・考察 1	時事の事例紹介と考察
第 3 回	事例紹介・考察 2	時事の事例紹介と考察
第 4 回	事例紹介・考察 3	時事の事例紹介と考察
第 5 回	ワークショップ 1 a	テーマに沿ったワークショップ
第 6 回	ワークショップ 1 b	テーマに沿ったワークショップ
第 7 回	発表と講評会 1	ワークショップ 1 の結果発表と講評会
第 8 回	事例紹介・考察 4	時事の事例紹介と考察
第 9 回	事例紹介・考察 5	時事の事例紹介と考察
第 10 回	事例紹介・考察 6	時事の事例紹介と考察／※ワークショップ 2 のテーマ設定と解説
第 11 回	ワークショップ 2 a	テーマに沿ったワークショップ
第 12 回	ワークショップ 2 b	テーマに沿ったワークショップ
第 13 回	ワークショップ 2 c	テーマに沿ったワークショップ
第 14 回	発表と講評会 2	ワークショップ 2 の結果発表と講評会
第 15 回	まとめ	本授業のまとめ日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。
ワークショップは授業内に時間を設定して行うが、発表の準備等は l 個別にグループ毎に行うこととする。

【テキスト（教科書）】
テキスト・図版等は必要に応じて講義時に随時配布。

【参考書】
「新ネットワーク思考」アルバート＝ラズロ・バラバシ著（NHK 出版）、「複雑な世界、単純な法則」マーク・ブキャナン著（草思社）、「接続された心」シェリー・タ ーク著（早川書房）。これ以外は必要に応じて講義時に随時提示。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70%）、ワークショップ活動・発表内容（30%）で成績評価を行います。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新たな知識を得たことで満足するのではなく、それぞれ各自がしっかり再考できるように授業の進め方、振り返り方法を考えたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内では情報機器は使用しない。課題制作に関しても特定の情報機器の使用は指示しない。

【その他の重要事項】
参加人数により授業計画は若干変更する場合があります。

GA216

情報編集論

川村　たつる

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**50 人前後　あまりにも人数が多い場合は選抜も検討**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
昨今、社会やビジネスの中でデザイン思考という考え方が注目されています。デザイン思考とは、これまでデザインという分野で培われてきた手法を利用し、物・事を創出していく方法です。この授業では、このデザイン思考という方法を使いながら、情報の編集を学んでいきます。

【到達目標】
自身の考えを「文章化」「視覚化」する際に、情報編集を実践できることを目標としたい。

【授業の進め方と方法】
時事の事例を考察し、ワークショップ、課題制作を通して情報の編集方法を身に付けていく。
※課題制作に関しては、それぞれの技術的な出来・不出来を評価するものではなく、条件をどのように理解し、どのように考え、どのように表現しようとしたかに重点を置いて評価する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方についてのガイダンスとデザイン思考についてのイントロダクション
第 2 回	デザイン思考 1	デザイン思考とは何か 1
第 3 回	デザイン思考 2	デザイン思考とは何か 2
第 4 回	デザイン思考 3	ワークショップ/※課題 1 の設定
第 5 回	デザイン思考 4	ワークショップ
第 6 回	発表と講評会 1	課題 1 の発表と講評会
第 7 回	広告と情報編集 1	広告に関わる事例紹介と解説
第 8 回	広告と情報編集 2	広告に関わる事例紹介と解説／※課題 2 の設定
第 9 回	広告と情報編集 3	広告に関わる事例紹介と解説
第 10 回	発表と講評会 2	課題 2 の発表と講評会
第 11 回	製品と情報編集 1	製品に関わる事例紹介と解説
第 12 回	製品と情報編集 2	製品に関わる事例紹介と解説／※課題 3 の設定
第 13 回	製品と情報編集 3	製品に関わる事例紹介と解説
第 14 回	発表と講評会 3	課題 3 の発表と講評会
第 15 回	まとめ	本授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。
課題の制作は、授業外で行うこととする。

【テキスト（教科書）】
テキスト・図版等は必要に応じて講義時に随時配布。

【参考書】
「デザイン思考が世界を変える」ティム・ブラウン著（早川書房）、「知の編集工学」松岡正剛著（朝日文庫）、「情報の歴史」松岡正剛監修（NTT 出版）、「Design Rule Index ―デザイン、新・100 の法則」ウィリアム・リドウエル/クリスティーナ・ホールデン/ジル・バトラー共著（BNN 等）。これ以外は別途随時提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70%）、課題（30%）で成績評価を行います。
課題に関しては、技術的な出来・不出来を評価するものではなく、条件をどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新たな知識を得たことで満足するのではなく、各自が講義の内容を再考し、自身の表現に活かしていけるように授業の進め方、振り返り方法を考えたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内では情報機器は使用しない。課題制作に関しても特定の情報機器の使用は指示しない。

【その他の重要事項】
参加人数により授業計画は若干変更する場合があります。

GA213

文化情報の哲学

森村　修

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**デザインの思想**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、「柳宗悦（やなぎ・むねよし 1889-1961）における美と文化の哲学」という副題のもとで、柳の思想を、間文化哲学（intercultural philosophy）の視点から学ぶことを目的とする。
柳は民藝運動の創始者として著名であるだけではない。陶磁器の美を発見する中で、中国や朝鮮半島との文化交流を重視し、その中で日常的な美を探究していき、最終的には仏教美学にまで到達している。

【授業の概要】
本授業では、中見真理『柳宗悦――時代と思想』（東京大学出版会、2003 年）を用いて、柳宗悦の思想と時代について考察する。
《授業の目的》
柳宗悦の美学思想を学び、日本における「アーツアンドクラフツ」運動としての「民藝」運動について理解を深めることができる。さらに、磁器を通して朝鮮の美や中国の美を日本にもたらしたことを学ぶことができる。

【到達目標】
(1)「柳宗悦の間文化哲学」を学ぶことで、「器の美・日常性の美とは何か」という問いについて考えることができる。
(2) 21 世紀を生きる私たちにとって、「日常美の間文化哲学」がいかに重要であるかを学ぶことができる。
(3) 哲学的思考を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
テキストを中心に、教員による解説を行ない、受講生と討議していく。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など
2	1. 柳の時代とその特徴	・社会思想とアナキズム思想
3	2. 思想形成の母胎としての白樺派	・柳の文学観の形成
4	3. ブレイク思想の受容	・柳のブレイク理解について
5	4. アナキズムとの接点	・大逆事件 ・大杉栄と石川三四郎
6	5.「東洋と西洋」という問題	・「東洋的なもの」への眼差し
7	6. 東洋の中の「日本と朝鮮」	・朝鮮の「美」について
8	7. 民衆芸術論と民藝の問題	・民衆観と民藝運動
9	8. ギルド社会主義思想	・民藝におけるギルド
10	9. 平和思想の形成	・「複合の美」の平和思想
11	10. 戦時下の姿勢	・柳の政治思想
12	11. 戦後の仏教研究	・仏教美学研究
13	12. カルチュラル・スタディーズとしての柳研究	・柳宗悦とオリエンタリズム
14	13. 柳宗悦の美意識	・やきものへの眼差し
15	14. まとめ	・受講生とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に必要な文献を読んでおく

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
(1) 中見真理『柳宗悦　時代と思想』（東京大学出版会 2003 年）
(2) 竹中均『柳宗悦・民藝・社会理論――カルチュラル・スタディーズの試み』（明石書店、1999 年）
(3) 水尾比呂志『評伝　柳宗悦』（筑摩書房、1992 年）

【成績評価の方法と基準】
・平常点（40 %）
・期末レポート（60 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
・本科目は、哲学的思考の訓練の場であるので、自分でいろいろと考えることが重要であることに注意してもらいたい。
・受講生数が多い場合には、初回に選抜試験を行う。初回の授業に参加しない場合は、受講資格がないので要注意。

GA316

情報デザイン

稲垣　立男

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報デザインでは、視覚的に情報を伝えるためのアプローチを理論的かつ実践的に学びます。
また、デザインワークにおいては、伝えるべき内容についてのコンテクストを作り手が十分に理解することが大切となります。そのための見方や考え方について学んでいきます。

【到達目標】
講義では、情報を伝えるということについて、送り手と受け手の両方の立場を踏まえて多角的に検討します。
課題制作に関しては講義を踏まえて、コンセプチュアルなこと（考えること）とプラクティカルなこと（手を動かすこと）の両方をバランスよく進められるよう、制作を進めてください。

【授業の進め方と方法】
講義では各課題の意義やポイントを説明します。
課題制作では実際に様々な分野のデザインにチャレンジし、お互いの作品についてディスカッションをします。下記の 3 つの課題に取り組みます。
1　情報を伝える
「学部パンフレットのデザイン」
キーワード：レイアウト・タイポグラフィ・カラー・バランス
2　情報が機能する
「サイン、ロゴ、キャラクターなどのデザイン」
キーワード：ユーザビリティ・アフォーダンス
3　情報を織り込む
「コミュニティのデザイン」
キーワード：地域・コミュニティ・フィールドワーク

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと選抜試験	授業内容の説明 教科書・参考書 評価基準など
2	情報デザイン概論	講義 情報デザインについて
3	課題 1　情報を伝える 「学部パンフレットのデザイン」	講義とワークショップ 1. デザインを進めるにあたって 2. 国際文化学部について調べてみよう
4	課題 1　情報を伝える 「学部パンフレットのデザイン」	デザイン実習 ソフトの操作方法など
5	課題 1　情報を伝える 「学部パンフレットのデザイン」	デザイン実習　作品制作 1 ※ 2 回に分けて制作をする。
6	課題 1　情報を伝える 「学部パンフレットのデザイン」	デザイン実習　作品制作 2 ※ 2 回に分けて制作をする。
7	課題 1　情報を伝える 「学部パンフレットのデザイン」	プレゼンテーション 講評・ディスカッション
8	課題 2　情報が機能する 「サイン、ロゴ、キャラクターのデザイン」	講義とワークショップ 1. 視覚言語 2. サイン、ロゴ、キャラクターのデザインについて
9	課題 2　情報が機能する 「サイン、ロゴ、キャラクターのデザイン」	デザイン実習　作品制作 1 ※ 2 回に分けて制作をする。
10	課題 2　情報が機能する 「サイン、ロゴ、キャラクターのデザイン」	デザイン実習　作品制作 2 ※ 2 回に分けて制作をする。
11	課題 2　情報が機能する 「サイン、ロゴ、キャラクターのデザイン」	プレゼンテーション 講評・ディスカッション
12	課題 3　情報を織り込む 「コミュニティのデザイン」	講義、ワークショップ 1. コミュニティのデザイン事例について 2. 市ヶ谷校舎のサイン計画など
13	課題 3　情報を織り込む 「コミュニティのデザイン」	デザイン実習　作品制作 ※ 2 回に分けて制作をする。
14	課題 3　情報を織り込む 「コミュニティのデザイン」	デザイン実習　作品制作 ※ 2 回に分けて制作をする。
15	課題 3　情報を織り込む 「コミュニティのデザイン」	プレゼンテーション 講評・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. イラストレーターやフォトショップなどでの作品制作に興味のある方。
2. 美術やデザインに興味のある方
3. 意欲的に課題に取り組める方を希望します。
※スケッチブックや鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【テキスト（教科書）】
適時プリントを配布します。

【参考書】
参考書や参考作品は授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）
課題作品（50%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
アートやデザインの政策に関して苦手意識のある方もいらっしゃると思いますので、わかりやすく教えていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
使用する主なソフトは以下の通りです。
　Adobe Illustrator
　Adobe Photoshop
課題提出に授業支援システムを使いますので登録をお願いします。

【その他の重要事項】
※課題制作については各受講者の能力やそれぞれがやりやすい進め方などを考慮して、毎回の内容や目標を掲げていません。ディスカッションを通じて各自の課題を見極め、柔軟に取り組んでください。
初回のガイダンスに必ず出席してください。
特別な事情がないかぎり、初回に出席しなかった者は登録できません。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

GA330

サブカルチャー論

島田　雅彦

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**サブカルチャー批評**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**教室定員を超過した場合は選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サブカルチャーは新興の文化流行として、大衆文化や通俗趣味に分類されるが、表現者たちにより洗練が加えられ、いつしかメインカルチャーとなってゆく。文学、美術、音楽、漫画、映画、旅行、食文化、政治、科学あらゆるジャンルを横断し、文化流行全般を対象に、時代別の考察を通じ、コミュニケーション能力の土台にもなる雑多な教養を身につける。

【到達目標】
イデオロギーや哲学の代わりにキャラクターやコピーがものをいう現代、政治も文化も素人が担い手になってゆく風潮を踏まえ、柔軟な批評精神を獲得し、サブカル全般に関する教養の底上げを図ると同時に、先人の斬新な発想の秘密に迫る。

【授業の進め方と方法】
原則的に講義形式で進めるが、質疑応答や議論にも時間を割き、履修者のコメントや発表をも取り入れながら、対話的に行いたい。文化流行全般に興味のある学生、「オタク」や「マニア」の参加も歓迎する。豊富な画像、映像をサンプルとして、見せつつ、歴史的な背景を踏まえることで、各ジャンルの未来に対する提言を行う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	サブカルチャーの定義	概論
2	モダニズムの敗北	２０世紀の芸術運動としてのモダニズムの検証。ダダ、シュールレアリスム、未来派など。
3	カウンターカルチャー	１９６０年代のアメリカのカウンターカルチャーの研究。ヒッピー、サイケデリック、ゲイ・レボリューションなど。
4	江戸町人文化	日本のサブカルチャーの原点としての江戸。
5	アマチュアリズム	素人の手習い。趣味とサブカル。日曜画家。若者バカ者よそ者の力。素人の乱
6	エロ・グロ・ナンセンス	コミックス、ヤクザ、風俗産業の揺籃としての戦後の焼跡闇市。
7	漫画史	漫画独特の表現について。コミック進化論、多様性獲得に向けて。
8	徘徊・巡礼・観光	遊歩の思想。物見遊山の哲学。
9	食文化の多様性	グルメという思想。越境する胃袋。
10	茶道と酒道	もてなしの文化。接待の流儀。
11	錬金術とオカルト	マッドサイエンス。自然科学のサブカル化。スピリチュアル。文化流行。
12	メディアとサブカル	テレビ、新聞ＶＳウェブ 紙と電子。コミックの行方。音楽、出版文化の変遷。
13	サブカル化した政治	サブカル化した政治としてのポピュリズム　政党政治、代表制のゆくえ
14	まとめ	質疑応答。
15	試験	授業内試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内での議論に参加すべく、質問を用意したり、得意分野での鑑賞を個人的に熱心に行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
教室で指示する。

【参考書】
教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間に予告して、筆記試験を行うが、議論への積極的参加も評価されよう。評価基準は平常点 20 %、レポート、論文 80 %とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
質疑応答、討論への積極的参加を促す。

GA330

マルチメディア表現法

大嶋　良明

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり（15 名）。希望者多数のは場合は選抜します。初回授業に出席すること。**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、**少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習**です。

多様な種類のメディア情報をコンピュータで表現し、ネットワークマルチメディア環境においてわかりやすく統合的に提示する手法を学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について考えたい。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Web マルチメディア、DTP などの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品や DTP 作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作してゆく。

資格取得をめざす学生諸君のために：本講義の教科書はマルチメディア検定（3 級、2 級）の標準テキストであり、すぐれた独習書でもあることをご案内します。

【到達目標】

写真表現、ポスター作り、DTP、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【授業の進め方と方法】

●作品制作の理論と技法 (講義と実習)
・デザインの基礎
・ポスター作り（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
・写真技法：ライティング、構図、光の読み方、モデル（銀塩＋デジカメ、レフ、ストロボ）
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・映像制作技法： Jingle、絵コンテ、ショートフィルム（ハンディカム）
●クリティーク
各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
●課題
・ポスター作り（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・Jingle (短い 15 秒程度の CM 的映像)
・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。
●大事にしたいこと
・コンピュータ上でのメディアデータの特性と tangible なモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAP の原則を学ぶ。【自由課題による写真課題】
2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。クリティーク：各自の写真作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。【写真課題： line, pattern, texture】
3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド　実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。クリティーク： line, pattern, texture【写真課題：光と影、色】
4	コミュニケーションデザインの手法－ Web	Web の特性とデザインについて理解する。クリティーク：光と影、色【写真課題：人物ポートレート、ライティング（2 週間）】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア（ＣＤ，ＤＶＤなど）の構成法を理解する。実習： Premiere による短いビデオ【課題：写真ポートフォリオ（2 週間）】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース　制作	情報デザインの基本原則を理解する。クリティーク：人物ポートレート、ライティング【課題： Web 写真アルバム（2 週間）】
7	タイポグラフィの基礎中間のまとめ：課題のクリティーク	タイポグラフィの基礎を学ぶ。各自のポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。学期末課題のガイダンス、絵コンテについて学ぶ。
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。クリティーク： Web アルバム【課題：ポスターのデザイン】
9	ヒューマンファクタと認知モデル	ヒューマンファクタと認知モデルについて理解する。クリティーク：ポスター【課題：広告のデザイン】
10	情報デザインとマルチモーダルインターフェース　実習：期末課題の絵コンテあるいは企画書提出	情報デザインとマルチモーダルインターフェースを学ぶ。クリティーク：広告
11	知的所有権とメディア表現	知的所有権とメディア表現について学ぶ。
12	コンテンツの流通、管理と電子透かし	コンテンツの流通、管理の仕組みと電子透かしの技法を理解する。
13	インターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。
14	マルチメディア応用システム	マルチメディア応用システムについて学ぶ
15	まとめ：学期末課題のクリティーク	各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力や Web 上での公開を求めており単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するには DTP や Web 制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。**長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。**

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する

【参考書】
参考書（1）CG-ARTS 協会「入門マルチメディア」、ISBN 4-8443-7021-9（MM 検定 3 級対応）
参考書（2）CG-ARTS 協会「マルチメディア・基礎から応用まで」、ISBN 4-906665-45-4
備考： 作品制作のためのメディア費用（SD など映像の記録媒体、CD-R、プリント費用など）を必要とする。カメラ持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業参加の積極性を含む,30%)、クリティークなど授業参加による平常点 (20%)、中間課題 (30%) ならびに最終課題 (20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。作品を作らない人には、単位を認定しない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
2011 年度までは 3〜4 年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を採り入れ、また教学上の配慮も含め、**2012 年度より 2 年次より履修可能とした。** 作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
本科目は国際文化学部・情報セミナー室（BT#0704）にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PC を必要とする。
長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびに ePortfolio に提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】
学生へのメッセージ： Premiere、Photoshop などを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PC やソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため 20 名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。**作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。**
情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、高度な ICT の活用実習、ならびに作品制作を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援します。**

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）
Photoshop の応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「ディジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

GA330

メディア表現ワークショップ２

島田　雅彦

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　書くことと読むことは表裏一体だが、書く技術の研究を通じ、読み巧者になる手もある。実例を挙げつつ、実作者の立場から小説、エッセイ等の書き方 ABC を伝授する。メールから企画書、報告書、論文、創作、これら全ては特定のセオリーに基づいているので、これらを踏まえつつ、説得力や感動を与える手法に触れ、眠っている才能を引き出す。

【到達目標】
半期の授業を通じ、受講生は表現意欲や批評意識を刺激されるだろう。自己を語るコトバ、他者とのコミュニケーション能力を磨き上げるには、創作を実践することがショートカットになる。創作のエクササイズを重ねれば、説得力のある企画書の書き方、他者の関心を誘うプレゼンテーションの仕方も自ずと身につけられる。学生はそのスキルの獲得を目指し、課題をこなすこと。

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式を取るが、出席者からの質問、意見を交えた対話形式も面白かろう。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	執筆のエンジン	人はなぜ書かずにはいられないのか？
2	日常の研究	日記の書き方
3	小説の構成	起承転結のマジック
4	キャラクター作り	無個性　奇怪な普通人、気弱な英雄
5	メメント・モリ	死のデザイン　人はいかに死を受け入れ、解釈してきたか？
6	旅と文学	ロード・ノベル　放蕩息子の帰還
7	時間の処理	文学における独自の時間軸について
8	語り手は誰か？ 人称の問題	私、吾輩、彼、伯爵夫人？
9	おカネの話	貧乏と散財　賭博と文学
10	労働というテーマ	専門家、フリーター、探偵
11	小説のトポロジー	現代小説の８割は東京が舞台
12	恋する者の普遍性	求愛のもっとも洗練された手段としての詩
13	まとめ　討議	文学は終わらない
14	試験	授業内試験
15	予備日	質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み、指示通りに参考書を読むこと。そして、よく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと

【テキスト（教科書）】
『小説作法 ABC』島田雅彦著　新潮選書 2009

【参考書】
『小説作法 ABC』島田雅彦著　新潮選書 2009　それ以外は授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験を行う。授業への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は平常点 20 %、レポート、論文 80 %とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
議論への参加を促す。

GA204

メディア表現ワークショップ３

佐藤　好彦

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**メディアアート**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
先端的芸術表現の一つとして、テクノロジーと共に発展・進化し続けるメディアアート。学生はその概念や思考をアナログな手法で考察し、その気づきをもとに知覚表現の可能性を学びます。

【到達目標】
・対象をあらゆる角度から考察する観察眼を養う。
・既成概念にとらわれない表現の可能性を発見する。
・各自の専門分野に於いて、コミュニケーションの向上に役立てる。

【授業の進め方と方法】
はじめに表現に必要なリサーチを行います。次にそのデータを基にメディアアートとして作品化させる演習を行い、それらを通じて未知な表現の可能性を探り、後半のグループワークへと導きます。
グループワークでは作品のプロポーザルを作成し、プレゼンテーションを行います。プレゼンの形式は問いませんが、どう伝えるかを熟考します。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について説明、選抜
2	リサーチ演習 1-形態	形態観察としてのデッサン
3	リサーチ演習 2-言葉	言葉による考察としてキーワード出し
4	リサーチ演習 3-数値	あらゆる測定を試みる
5	リサーチ演習 4-まとめ	リサーチで得られたデータを分析
6	変換演習 1-ストーリーへの変換	リサーチを元に物語を考える
7	変換演習 2-視覚的変換	リサーチ以外の視覚的変換作業
8	変換演習 3-音への変換	リサーチを元にイメージを音にする
9	変換演習 4-インタラクティブ性への変換	リサーチのデータを元に相互作用する仕組みを考える
10	作品プロポーザル制作-1	グループでのアイディア出し
11	作品プロポーザル制作-2	作品のテーマ・コンセプトを洗い出す
12	作品プロポーザル制作-3	プロポーザルまとめ
13	作品プロポーザル制作-4	プレゼンに必要な素材の作成
14	プレゼンテーション	プレゼンテーションと講評
15	まとめ	ディスカッションを通しての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
主に変換演習では解説とディスカッションを中心に行う為、制作は宿題とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
授業ごとに参考書や作品について紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習に対する積極性と課題の評価（50 %）。グループワークでの協調性を含む提出作品（50 %）により成績評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
豊かで自由な発想を重視するが、表現に責任を持ってもらえるような指導を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
演習ごとに必要なものは事前に伝えます。
グループワークではグループごと作業の準備を行い、制作物などは各自で責任をもって管理すること。

【その他の重要事項】
協同作業も多いので、休まず出席すること。

GA230

映像文化論

鈴木　晶

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**映像文化論・映像表現法**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**定員 60 名。それを超えたら選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ここでいう映像とは「映画」のことである。今年度はミュージカル映画の黄金時代について学びます。ミュージカル映画はハリウッド映画の主流であり、もっともアメリカ的なジャンルでもあります。ただし、ふつう黄金時代というと 1960 年代を指しますが、ここでいう黄金時代は 1920 年代末〜 1950 年代初頭のことです。また、ミュージカルの主流はストーリー中心の作品ですが、ここでは「歌あり踊りあり」の側面に注目します。

【到達目標】
ミュージカル映画に正当な評価を与えることができることをめざします。
就業力はつきません。しかし、仕事だけが人生ではありません。映画の好きな人にとっては、映画のほうが仕事よりも大事かもしれません。映画、とくにミュージカル映画を一生楽しめるようになる、これがいちばん重要な目標です。

【授業の進め方と方法】
毎週ミュージカル映画（の抜粋）を観ながら、ハリウッド・ミュージカルの本質的特徴を学びます。
映画の好きな人、ミュージカルの好きな人が対象です。ただし、「サウンド・オブ・ミュージック」も「オペラ座の怪人」も「キャッツ」も扱いません。扱うのは古いミュージカルばかりです。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の目標と概要、スケジュールについて説明する。
第 2 回	バズビー・バークリー	「天才」と称されるバズビー・バークリー作品、「42nd Street」「Gold Diggers of 1933」「Dames」などについて学びます。
第 3 回	フレッド・アステア (1)	史上最高のダンサーであるフレッド・アステアの初期作品、とくにジンジャー・ロジャーズとの黄金コンビについて学びます。
第 4 回	フレッド・アステア (2)	ロジャーズとのコンビを解消した後のアステア作品、「バンド・ワゴン」などについて学びます。
第 5 回	ジーン・ケリー (1)	フレッド・アステアと並ぶ、ハリウッド最高のダンサー、ジーン・ケリーの初期作品について学びます。
第 6 回	ジーン・ケリー (2)	ジーン・ケリーの後期作品、「巴里のアメリカ人」「雨に唄えば」などについて学びます。
第 7 回	エリノア・パウエル	「女アステア」と呼ばれたエリノア・パウエルの代表作について学びます。とくにアステアとの共演について、ふたりのスタイルの違いを詳細に分析します。
第 8 回	アン・ミラー	アン・ミラーのタップに関して、主に「キスミー・ケイト」の映像を分析しながら、学びます。
第 9 回	ジュディ・ガーランド	ハリウッド最高のスターであるジュディ・ガーランドの代表的な作品について学びます。
第 10 回	移行期のミュージカル	黄金時代が終わった後のミュージカル、とくに「ウェストサイド物語」について学びます。
第 11 回	アメリカ以外のミュージカル	1930 年代のソ連製ミュージカルと、70 年代のフランス製ミュージカルについて学びます。
第 12 回	日本のミュージカル	日本のミュージカルについて学びます。
第 13 回	新しいミュージカル映画	「サタディ・ナイト・フィーバー」以降の、「フェーム」「フラッシュ・ダンス」などについて学びます。
第 14 回	まとめ	学んできたことのまとめと、補足追加。
第 15 回	試験	試験の内容については授業中に説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、レスポンスシートを配るので、その回に何を学んだかについて整理してもらう。
授業中にすべてを説明している時間的余裕がないので、時々、課題を出す。

【テキスト（教科書）】
市販の教科書は用いない。随時、プリントを配布する

【参考書】
随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）とレポート（30 %）と試験（30 %）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
映画鑑賞体験をできるだけレポートしてもらうつもりである。

【学生が準備すべき機器他】
授業中には見られなかった映像を後で各自見てもらうことが多いので、 YouTube が見られる環境、つまりパソコンとインターネットが必要です。スマホ では小さ過ぎます。

【その他の重要事項】
遅刻・早退厳禁。就活による欠席も原則として認めない。
初回に出席しないと、受講できません。

【旧科目との重複履修】
なし。

GA330

映像と文学

林　志津江

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！ 私の知ってるアレとは全然違うんですけど！！！」と感じてしまった経験はありますか？ この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テクスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しうるものについて考えていきます。あなたのガッカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上だった」という気持ちの正体に、斜め 45 度くらいの位置から迫ってみませんか。

【到達目標】
最初の目標は、さまざまな文学作品や映画に触れることで、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めることです。古典的なメディア論のテーゼ（マクルーハン、キットラーなど）の真意についても、文字テクストと映像の両者を扱う当授業中で実感できるのではないでしょうか。文学や映画の分析につきものの「オリジナリティー」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くことも重要です。そしてこの授業の経験を、どんな分野であれ自分のゼミでの勉強や卒論執筆、その他のさまざまな場面に役立てられる自分になって下さい。その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になったら嬉しいです。

【授業の進め方と方法】
文学作品とその映像化（映画）、あるいは文学作品とそれに触発されて作られた翻案映画作品のいくつかの組み合わせを扱います。それぞれ特徴的な箇所・シーンを取り上げ、対照的に検討する作業を繰り返し行いながら、必要に応じて重要な理論・概念を参照し、文学・映像作品のそれぞれについてみなで議論し考えていきます。毎授業ごと、自分の考えをまとめ小レポート（リアクションペーパー）として記述し提出します。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアと技術革新が可能にしたもの、文学（物語テクスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入
2	J. K. ローリング／ C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説 1995 年、映画 2001 年）	ファンタジー小説 V.S. 映像テクノロジー、「空を飛ぶ人／魔法使い」の描写
3	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967 年、映画 1983 年、2006 年）ー その 1	モティーフとしての「タイムトラベル」（1）、時間芸術としての映画
4	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967 年、映画 1983 年、2006 年）ー その 2	モティーフとしての「タイムトラベル」（2）、身体感覚の記憶を表現する
5	H・マン『ウンラート教授』（1905 年）/J・スタンバーグ『嘆きの天使』（1930 年）	誰が主人公だったんだっけ？ トーキーが可能にしたこと、小説と映画・世代の違い
6	W・シェイクスピア／ F・ゼフィレッリ『ロミオとジュリエット』（戯曲 1595 年頃、映画 1968 年）	戯曲というテクストの多義性・映画で明確化されるもの、映画によるクリシェ化、映画と音楽（サウンドトラック）
7	E・ケストナー／ F・ブーフ他『エーミールと探偵たち』（小説 1928 年、映画 1931 年・2001 年）	児童文学の変遷とアクチュアリティーの変化（1）ー ベルリンの移り変わり
8	E・ケストナー／ K・リンク他『点子ちゃんとアントン』（小説 1931 年、映画 1953 年・1999 年）	児童文学の変遷とアクチュアリティーの変化（2）ー 子どもという存在の変化
9	トーマス・マン／ L・ヴィスコンティ『ヴェニスに死す』（小説 1912 年、映画 1971 年）	小説にあって映画にはないもの、映画によって決定的になるヴィジュアルイメージ
10	V・デル・ポスト『影の獄にて』（1954 年）／大島渚『戦場のメリークリスマス』（1983 年）	戦争の記憶の表象、戦闘シーンのない戦争映画、人間性の危機あるいは西洋・東洋の衝突
11	山崎豊子／市川崑『ぼんち』（小説 1959-60 年、映画 1960 年）	「今ではありえない価値観・生き方」へのオマージュ、映画から文学への応答
12	S・アヘイレム『牛乳家テヴィエ』（1894 年）／ N.・ジュイソン『屋根の上のヴァイオリン弾き』（1971 年）	文学に遺された世界とそれを消費する商業映画、ヨーロッパを回顧するアメリカ
13	J・コルタサル『悪魔の涎』（1959 年）／ M. アントニオーニ『欲望』（1967 年）	「得体のしれない不気味さ」の表現、時代の最先端をいく映画監督
14	掘辰雄『風立ちぬ』（1937 年）『菜穂子』（1941 年）／宮崎駿『風立ちぬ』（2013 年）	大胆な翻案と同名タイトルが連想させるもの、「小説家」のイメージ、芸術家の使命
15	まとめ	本学期で学んだ内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文学作品については該当箇所をあらかじめ読んでおきます。
毎授業ごと、自分の考えをまとめた小レポート（リアクションペーパー）を、次回授業開始前までに提出します。

【テキスト（教科書）】
授業で扱う作品について、文学作品については事前に指示ないしプリントで配布します。映画の DVD 等はこちらで用意します。

【参考書】
・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995 年/1996 年所収）
・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987 年
・F・キットラー（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999 年
・A・バザン（野崎歓ほか訳）『映画とは何か（上）（下）』（岩波文庫）2015 年
・R・バルト（蓮實重彦ほか訳）『映像の修辞学』（ちくま学芸文庫）2005 年
・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』（ちくま学芸文庫）1990 年
・西村清和『イメージの修辞学 ことばと形象の交叉』（三元社）2009 年

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（議論、レポート含む）50 %、最終レポート課題 50 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
（今年度より担当します）

【その他の重要事項】
扱う作品・順序は変更されることがあります。

GA205

ポピュラー音楽論

大嶌　徹

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポピュラー音楽史に関する基本的な事項を学ぶ。主に、20 世紀英米圏を中心とした商業流通を前提とする音楽実践の爆発的拡張と、その影響下にある日本の音楽文化に触れ、「ポピュラー音楽」がいかなる音・観念・社会の相互関係から展開してきたかを理解する。

【到達目標】
ポピュラー音楽史のおおまかな流れを理解する。
ポピュラー音楽諸ジャンルの特徴と来歴を知る。
「音楽そのもの」だけでなく、社会的条件（メディア、産業、エスニシティ、地域等々）をふまえて音楽を考察する能力を身につける。

【授業の進め方と方法】
講義形式。映像、音源を用いて多くの音楽に接してもらう。
毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	導入	ポピュラー音楽とは何か、その歴史はいかに語りうるのか説明する。
2	娯楽的音楽空間の台頭	19 世紀欧米都市文化における娯楽的音楽空間の台頭、および「芸術」と「娯楽」の分断について説明する。
3	音楽産業の形成	楽譜出版業の興隆から、レコード産業の成立にいたる、音楽産業の形成過程を説明する。
4	レコードのメディア史	様々な利用可能性を持つ音響記録の技術が、音 (楽) を楽しむためのメディアとして定位していく過程を説明する。
5	日本における音楽産業の形成	「音楽」概念の導入からレコード産業成立にいたるまでの、近代日本大衆音楽史の要点を説明する。
6	人種にもとづく音楽区分とそのジャンル化	アメリカのレコード産業が設定した人種にもとづく音楽区分と、それを条件として形成されたジャンル（ブルースとカントリー）について説明する。
7	「黒人の魂」神話の創造	戦前におけるブルース受容と、1950 年代以降に普及するブルース観の相違について考察する。
8	ダンス音楽としてのジャズ	「ジャズ」がいかなる文化を示す言葉として用いられてきたかを概観する。ジャズ・エイジからスイング・ブームまでを扱う。
9	鑑賞音楽としてのジャズ	ビバップ登場以降を扱い、ジャズがアメリカの生んだ「もうひとつの芸術音楽」として位置づけられていく諸相を検討する。
10	日本のジャズ受容	日本におけるジャズの展開を説明する。
11	若者文化と音楽の人種混交	ロックンロールの登場と、それがもたらした音楽産業の転換について検討する。
12	フォークとロックの対抗精神	対抗文化とフォーク、ロックの関係について説明する。
13	日本のロック受容	日本におけるロックの展開を説明する。
14	ダンス文化の拡散	レコードで踊るディスコ／クラブ文化の世界的広がりを概観する。
15	まとめ	授業内容を振り返り、こんにち生じている情報環境の変容のなかでのポピュラー音楽について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に参考文献を読み、音楽を聴いてほしい。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 70 %：講義内容をふまえ、筋道を立てて自身の論を展開しているか否かで判断する。テーマは授業内に指示する。
授業への取り組み 30 %：リアクションペーパーで判断する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度より担当する。要望などあればその都度伝えてほしい。

GA206

コミックス論

野田　謙介

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外で日本の漫画が人気だという話をしばしば耳にします。実際、日本語を学ぼうとする若者たちのなかで、日本のアニメ・漫画を原語で味わうことを目的にあげる人は、おどろくほど多いです。しかしながら、はたしてその実態はどうなっているのでしょうか。そもそも、日本の「漫画」とは何をさすのでしょう。本授業は、漫画を理論的、歴史的、社会的な側面から概観することで、マンガについて自覚的・客観的に考える手がかりを得ようとするものです。

【到達目標】
◆具体的な数字をあげて（数字による類推の限界を指摘しつつ）市場の規模を比較することができる。
◆漫画の歴史について基礎的な知識を身につける。
◆漫画がそれほど自明な概念でないことを理解し、説明できるようになる。
◆普段なにげなく読んでいる漫画について、その表現の仕組みを指摘することができる。

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式ですすめます。毎回リアクションペーパーの提出をお願いします。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：まんが、マンガ、漫画？	漫画の呼称と現状
2	漫画の読み方 I	漫画の三要素について
3	漫画の読み方 II	時間・運動・音について
4	漫画の読み方 III	感情の表現について
5	漫画の歴史	起源について
6	漫画の歴史：日本編 I	戦前
7	漫画の歴史：日本編 II	戦前から 80 年代まで
8	漫画の歴史：日本編 III	80 年代以降
9	漫画とアニメーション	マンガ版とアニメ版の「ナウシカ」比較
10	漫画の歴史：海外編 I	米・仏における日本マンガの受容史
11	漫画の歴史：海外編 II	米・仏のマンガ史
12	漫画ファンダム史：日本編	コミケの誕生
13	漫画ファンダム史：アメリカ編	悪書追放運動
14	漫画ファンダム史：フランス編	国際的ネットワーク
15	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として、指定作品を読んで/見てきてもらい、設定した質問に口頭で答えてもらうことがあります。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要なテキストについては適宜配布します。

【参考書】
各回のテーマにそって、授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と期末試験（60%）。

文化を相対化する視点と自覚的に漫画を読む方法を身につけたかどうかを評価基準とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講者人数がそれほど多くなければ、出席者の発言をより促す工夫をします。

GA230

比較表象文化論

竹内　晶子

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**比較思想**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「日本的」とされている様々な文化現象を、歴史軸に沿って、そして異文化との比較を通じて検証します。また文化について考えるにあたって我々を助けてくれるいくつかの理論をとりあげ、応用を通じてその理解を深めます。

【到達目標】
・ジャンル・時代・言語等を異にする文化の作品間の比較文化的な分析ができるようになる。
・オリエンタリズム、ジェンダー、構造主義、ナラトロジー、文化人類学、演劇記号論などの理論を理解し、作品分析に応用できるようになる。

【授業の進め方と方法】
映画、オペラ、日本人論、和歌、連歌、英詩、ハイパーテキスト文学作品、能、モダニズム演劇、など実際の作品をとりあげ、比較文化的見地から「日本的なるもの」がどのように表象されているかを分析します。またオリエンタリズム、構造主義、ナラトロジー、文化人類学、演劇記号論などの理論がどのように作品分析に応用できるのかも、こうした実践を通じて身に着けていきます。
したがって、単に講義を聞くだけの授業ではありえません。課題テキストを読んで SQ（Study Questions）への答えを用意して毎回の授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、文化と文化の間の差異をより深く考えるための素材と思考ツールが身に着く筈です。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業説明
第二回	オリエンタリズム I	オペラ『蝶々夫人』鑑賞
第三回	オリエンタリズム II	オペラ『蝶々夫人』台本分析
第四回	オリエンタリズム III	映画『サヨナラ』鑑賞
第五回	オリエンタリズム IV	映画『サヨナラ』分析
第六回	オリエンタリズム V	『菊と刀』分析
第七回	ジェンダー論 I	ディズニー映画『リトル・マーメイド』と『アナと雪の女王』鑑賞
第八回	ジェンダー論 II	ディズニー映画『リトル・マーメイド』と『アナと雪の女王』分析
第九回	和歌と英詩	恋をめぐる和歌と英詩の比較。構造主義概説。
第十回	能とモダニズム演劇 I	英語圏における能の受容概観
第十一回	能とモダニズム演劇 II	〈養老〉と"At the Hawk's Well"比較
第十二回	日本古典演劇と語り	ナラトロジー概論、演劇記号学概論、能・歌舞伎・人形浄瑠璃の特質。
第十三回	文化人類学と演劇 I	ターナー、ギアツ、シュックナー概説。
第十四回	文化人類学と演劇 II	作品分析への応用（能、オペラ、映画他）
第十五回	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題テキストの読解と、ＳＱへの答えの提出

【テキスト（教科書）】
適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】
『オリエンタリズム』（上）（下）、サイード、平凡社、1993 年。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　20 パーセント
・課題（ＳＱ）40 パーセント
・期末試験　40 パーセント

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書をできるだけ利用します。

GA230

異文化と身体表現

鈴木　晶

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**受講希望者数が教室の収容人数を超えたら選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ここでいう身体表現とは、日常的な動作のことではなく、ダンスのような芸術的身体表現を指す。ただし純粋な舞踊芸術だけでなく、歌舞伎や京劇のような総合芸術、また文楽のような人形を用いた舞台芸術も扱う。

私たちの身体は文化によって制度化されている。農耕民族の生んだダンスが、重心を低く保ち、主に上半身を用い、模倣的であるのに対し、牧畜民族の生んだダンスは上昇志向をもち、下半身の表現が中心となり、内発的である。この講義では、さまざまな文化における身体表現、とくにダンスを通して、文化によって身体表現がいかに異なるかを学ぶ。

また、SA 先で日本やアジアの伝統舞踊について紹介できるようにすることも目標の一つであるので、能や歌舞伎に関して、英語でどう説明するかについても講義する。

【到達目標】

パフォーミングアーツの文化による違いを学び、諸外国のパフォーミングアーツの特徴が把握できるようになること。
日本およびアジアの伝統芸能について、英語で説明できるようになること。

【授業の進め方と方法】

主に日本とアジア諸国の伝統舞踊や舞台芸術について学ぶ。
当然ながら、映像資料を多く使用する。

授業の方法は「講義」であるが、英語テキストを用いて、日本語で知っていることでも、それを英語でなんというかも学ぶ。したがって、予習・復習が必要になる。

試験には英語も必要になる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ヨーロッパのダンス、アジアのダンス	概してヨーロッパのダンスは「脚のダンス」であり、アジアのダンスは「上半身（とくに手）のダンス」である。それは基本的に前者が内発的ダンスであり、後者が模倣的ダンスであることによる。具体例を通じて、その両者を比較検討する。
第 2 回	日本の伝統芸能 1 能（1）	能は、それ以降の、たとえば歌舞伎などの芸能の「基本」となった芸術である。その発生と現在までの歴史について学ぶ。
第 3 回	日本の伝統芸能 2 能（2）	能という舞台芸術の特徴について学ぶ。まず面（仮面）について。能舞台の特性について。舞台芸術としての特徴について、など。
第 4 回	日本の伝統芸能 3 狂言	狂言と能の対比、狂言の特徴を学ぶ。
第 5 回	日本の伝統芸能 4 文楽	文楽、すなわち人形浄瑠璃は歌舞伎に大きな影響をあたえたが、ここでは、演じる（踊る）のは人間ではなく、人形である。しかし人形の動作は、人形独特の動きであると同時に、人間の動作にもとづいている。ユネスコ無形文化遺産にもなっている文楽について、外国人にも説明できるようにする。
第 6 回	日本の伝統芸能 5 歌舞伎 (1)	歌舞伎の発生と歴史を学ぶ。また、演劇と音楽と舞踊による総合芸術としての歌舞伎について、京劇や西洋のオペラを比較しながら学ぶ。
第 7 回	日本の伝統芸能 5 歌舞伎 (2)	歌舞伎の代表的な作品の分析を通じて、そのシステムを学ぶ。
第 8 回	日本の伝統芸能 5 歌舞伎 (3)	現代を生きる伝統芸能としての歌舞伎について考察する。
第 9 回	日本の伝統芸能 5 上方舞と日本舞踊	上方舞や日本舞踊は、歌舞伎から派生したともいえるし、歌舞伎のなかの所作事を独立させたものともいえるが、いずれにせよ、独自の発達を遂げた。その特性について考える。
第 10 回	朝鮮半島の舞踊（サルプリ、僧舞、ナムサダン、他）	朝鮮半島は、アジアでは例外的に 3 拍子をもつ民族であるが、その朝鮮半島に伝わる宮廷舞踊、民間宗教から発生した舞踊、そして大衆演劇的な舞踊について学ぶ。
第 11 回	中国の舞台芸術（京劇）(1)	京劇は、英語では Chinese Opera と呼ばれる。その総合芸術の発生と歴史、そして舞台芸術としての特徴について学ぶ。
第 12 回	中国の舞台芸術（京劇）(2)	京劇の役者になるためには長年の鍛錬を必要とする。どのような教育によってどのような技術が習得されていくのかについて理解を深める。
第 13 回	東南アジアの舞踊 1 タイ、カンボジア、ビルマの舞踊	東南アジアの舞踊には独自の特徴がある。タイ、ビルマ、カンボジアの例をみながら、東南アジアの舞踊の特徴について学ぶ。
第 14 回	東南アジアの舞踊 2 バリ島の舞踊	バリ島はインドネシアに属するが、そこにおける舞踊芸術は独自の発達を遂げた。古い宮廷舞踊に起源をもつレゴン・クラトンと、1920 年代に作られたケチャを中心に、バリ島の舞踊を学ぶ。またガムラン音楽についても理解を深める。
第 15 回	南アジア、とくにインドの舞踊（バラタナティアム他）	インドのバラタナティアム、カタック、カタカリなどについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

もしそのような機会があったならば、学外で伝統芸能を鑑賞する。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への取り組み＋レスポンスシートの内容）50%
試験 50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

これまでは純粋な講義形式であったが、学生とのインタラクティヴな授業をこころがけたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業中には見られなかった映像を後で各自見てもらうことが多いので、 YouTube が見られる環境、つまりパソコンとインターネットが必要です。スマホ では小さ過ぎます。

【その他の重要事項】

私語をする学生、および居眠りをしている学生は退室してもらい、以後の出席を禁じる。
また、就職活動による欠席も認めない。

GA330

パフォーマンス・スタディーズ

森村　修

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**アート・アクティヴィズム**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり・選抜試験**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、「パフォーマンス（performance）」概念を中心に、さまざまなアートの表現手段との関連させることで、政治的・社会的な文脈で「パフォーマンス」を取り上げていく。
特に 2016 年度は、ニューヨーク大学シェクナー教授で有名になった「パフォーマンス・スタディーズ（Performance Studies）」に基づいて「パフォーマンス・スタディーズ」の実際を検討する。特に 2016 年度は、「セクシュアリティとパフォーマンス・アート」というテーマで、主に女性アーティストが「パフォーマンス・アート」の手法を用いて、積極的に自らの性／アイデンティティーを問題にしていることを取り上げる。
《授業の目的》
多様化する性／セクシュアリティについて、「パフォーマンス・スタディーズ」という観点から、新しいアートやパフォーマンスの可能性を探る。

【到達目標】
（1）アートについて、既成の価値観・マスメディアの流す価値観に対する、批判的視点を身につけることができる。
（2）自らの価値観を問い直し、新たに刷新するための表現手段を具体的に説明することができる。
（3）高校までの芸術教育や制度的なアート認識を新たに問い直し、自らの視点で「パフォーマンス」や、パフォーマンスを用いたアートについての鑑賞方法や参加方法について、説明できる。
（4）アートの領域の内部で生じた、20 世紀以降のさまざまな変遷を辿ることで、「前衛芸術」のあり方について、現在のパフォーマンス・アートのあり方を予測することができる
（5）「パフォーマンス・スタディーズ」の基本について学ぶことができる。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
①基本的には、「講義形式」で行うが、受講生との積極的な対話や討議を行う。
②パフォーマンス・スタディーズに関わる代表的な作品をさまざまに解釈しながら、授業参加者と討議していく。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義の目的と概要についての解説を行う。
2	パフォーマンス・スタディーズの基礎①	・パフォーマンス・スタディーズの歴史について概観する。
3	パフォーマンス・スタディーズの基礎②	・パフォーマンス・スタディーズの概念について概観する。
4	パフォーマンス・スタディーズの応用——フェミニズムとパフォーマンス①	・セクシュアリティについて
5	パフォーマンス・スタディーズの応用——フェミニズムとパフォーマンス②	・セクシュアリティとパフォーマンスの関係
6	パフォーマンス・スタディーズの現在①:シャノン・ベル「売春という思想」	・ポストモダンの美的価値観としてのパフォーマンス・アート
7	パフォーマンス・スタディーズの現在②:「売春婦のパフォーマンス」	・フェミニズム・パフォーマンス・アート
8	パフォーマンス・スタディーズの現在③:「売春婦のパフォーマンス・アート」	・売春婦パフォーマンス・アート
9	パフォーマンス・スタディーズの現在④:売春婦の身体	・ポスト・ポルノ・モダニスト——アニー・スプリンクル
10	パフォーマンス・スタディーズの現在⑤:売春婦のポリティクス	・新たな政治的主体としての売春婦
11	パフォーマンス・スタディーズの現在⑥:性的倒錯と性愛	・性器のエロスと検閲
12	パフォーマンス・スタディーズの現在⑦:性的欲望の多元性	・視線と覗きの暴力
13	パフォーマンス・スタディーズの現在⑧:複数化する性	・性愛の倫理学とパフォーマンス・アート
14	パフォーマンス・スタディーズの現在⑨	・変態性欲とアート
15	パフォーマンス・スタディーズの未来	・思想としてのパフォーマンス・スタディーズ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
パフォーマンス・スタディーズは、1980 年代に登場した新しい研究である。日常性の中に潜む様々なパフォーマンス（言語的な物語に始まり、演劇やダンスなどの身体表現や、祭祀や儀礼などの文化的儀式など）に注意を向け、概念化し、言語表現にもたらすことで、パフォーマンス・スタディーズそのものの裾野の広がりを注視してもらいたい。

【テキスト（教科書）】
特に、特定のテキストは用いない。

【参考書】
授業中に、指示する。

【成績評価の方法と基準】
【成績評価】
①授業内での積極的な議論参加、発言・質問など（25 %）
②期末リポート（75 %）
【評価基準】
①作品を読んだり、見たりする際に、積極的に自らの意見を表明すること。表現することが、本講義にとって重要な評価基準になっている。
②期末リポートは、あくまで「批評（critique）」が求められている。単なる感想・意見では評価できない。「批評文」には、一定の「規準（criterion）」が前提されている必要がある。
（1）自分自身の「評価規準」が明確であること。
（2）自らの「評価規準」に照らして、自分の意見・主張が明確に述べられていること
（3）自分の意見・主張を読み手に説得的に表現できていること
（4）自分の表現が自分勝手な思い込みによる羅列ではなく、きちんと論理的に組立てられて述べられていること

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
・本講義がめざしているのは、パフォーマンス・スタディーズを学ぶことによって、受講生自らが自分の美意識や価値観を問い直すことである。それゆえ、パフォーマンスという概念の検討を通じて、参加者全員に、既成の価値観やマスメディアが大量に流す情報に対する批判的な姿勢が求められている。それゆえ、本講義では、自らの価値観を積極的に打ち破る勇気をもつ学生の参加を望む。
・インターネットやマスメディアに毒された価値観をいったん破壊して、新しい美意識や価値観を構築するきっかけを掴むことが本講義の真の目的である。

・本科目は「表象文化」の科目群に位置づけられているが、本科目が重視する「現前性（presentation）」は「表象（representation）」概念の批判を含んでいることに注意すべきだろう。「現前性」にとって重要なのは、「「現場性」・「直接性」・「現在性」に特化した「パフォーマンス性（performativity）」であり、「いま・ここ」を最大限重視するアート作品に積極的に関与し、参加する態度であることを明記しておきたい。

【受講上の注意】

・授業に積極的に参加し、自らの価値観を問う実践（パフォーマンス）を行わない学生の参加は遠慮してもらいたい。
・受講生多数の場合は、初回の授業で選抜することも考えているので、初回の授業には必ず出席すること。初回の授業に参加しないものは、受講を認めない場合もあるので、要注意。

GA330

現代美術論

稲垣　立男

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代美術の理論と実践についての授業です。
今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術（美術、建築、音楽、パフォーミングアーツ、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。
現代美術のコンテクストを、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】
講義では、現代美術と同様に関連のある芸術分野についても扱います。現代美術を中心に、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し、俯瞰することで、それらの考え方、アイディアについての理解を深めます。
みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【授業の進め方と方法】
講義とワークショップが中心となります。講義毎に授業内レポートを提出してもらいます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画について
	現代美術の基礎知識 1	印象派、フォービズム、キュビズム、未来派・ダダ、シュルレアリズム
第 2 回	現代美術の基礎知識 2	アクション、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート
第 3 回	ワークショップ 1	プレゼンテーションとディスカッション
第 4 回	現代美術とパフォーマンス	アクション、ハプニング、パフォーマンスアート
第 5 回	ダンスとパフォーマンス	ダンス/コンテンポラリーダンス、舞踏
第 6 回	現代音楽とパフォーマンス	現代音楽/ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック
第 7 回	ワークショップ 2	プレゼンテーションとディスカッション
第 8 回	絵画・彫刻・ドローイング	プラークシスな実践としての芸術作品について
第 9 回	メディアとアート	写真・映像・インスタレーション
第 10 回	関係性の美術	パブリックアート・参加型プロジェクト・ワークショップ
第 11 回	ワークショップ 3	プレゼンテーションとディスカッション
第 12 回	現代美術と言葉	現代詩/ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ
第 13 回	現代美術とコミュニケーション	ポップアート、インターネット、SNS
第 14 回	ワークショップ 4	プレゼンテーションとディスカッション
第 15 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術の展覧会や音楽コンサート、ダンスや演劇の公演などを多く観るようにしてください。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内容に関連した資料を配布します。
授業を通じて参考書や映像資料、おすすめの展覧会などを紹介します。

【参考書】
1.Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice（Berg Pub Ltd）
2. 芸術表象コンセプトブック　アート・プラットフォーム（美学出版）

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）
授業内レポート（50%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますのでやりがいがあると思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する可能性がありますので、登録をしておいてください。

【その他の重要事項】
初回のガイダンスに必ず出席してください。
特別な事情がないかぎり、初回に出席しなかった者は登録できません。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

GA331

世界の中の日本文学

川村　湊

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文学の世界のなかでの位置を追究する

【到達目標】
日本文学がどのように世界各国（語）で受容され、変容しているのかを認識し、日本文学の在り方、本質を考える。

【授業の進め方と方法】
欧米、アジア諸国での日本文学の翻訳の状況、受容の実態を調べ、その特徴点を探る。外国における日本文学の翻訳本、研究書、報告などを参照する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	海外における日本文学 1	アメリカにおける日本文学紹介の状況
第 2 回	海外における日本文学 2	ヨーロッパ諸国の日本文学紹介の状況
第 3 回	海外における日本文学 3	中国における日本文学の翻訳と紹介
第 4 回	海外における日本文学 4	韓国における日本文学の紹介
第 5 回	海外における日本文学 5	韓国における日本文学の翻訳
第 6 回	海外における日本文学 6	日韓の文学交流の実情
第 7 回	海外における日本文学 7	ブラジルにおける日本文学の在り方
第 8 回	文学史の問題 1	古典文学の翻訳と評価
第 9 回	文学史の問題 2	近代文学の翻訳と評価
第 10 回	現代文学の展開 1	現代文学の翻訳と評価
第 11 回	現代文学の展開 2	文学と他ジャンルの交流
第 12 回	総論 1	まとめ―戦前の日本文学の紹介
第 13 回	総論 2	まとめ―戦後の日本文学の紹介
第 14 回	総論 3	世界のなかの日本文学・現在と未来
第 15 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介する参考文献、参考書籍を読むこと。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示。

【参考書】
授業内で指示。

【成績評価の方法と基準】
平常点　五〇パーセント、レポート点　五〇パーセント。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
通時的な観点での学習を重視し、文学史的な基礎を入門的に導入する。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で適宜指示。

GA332

世界の中の日本語

リービ　英雄

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　日本文学のいくつかの作品（主に近代・現代）に出てくる文章を英語に翻訳しながら「世界の中の日本語」と「日本語の中の世界」を考える。実際の日本語のテキストを学生たちが翻訳する。
　その実習を通して、表現のことばとしての日本語の姿を浮きぼりにして、二十一世紀にふさわしい日本文学論を展開する。

【到達目標】
言葉のレベルで「日本と世界」を考えることができること。

【授業の進め方と方法】
毎回、テキストを翻訳し、講じる。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	英訳を通して日本語について考える
第２回	ノーベル文学賞と「日本」上	大江健三郎と「あいまいな日本の私」
第３回	ノーベル文学賞と「日本」下	川端康成と「美しい日本の私」
第４回	戦後文学の英訳	キーンとサイデンステッカー等
第５回	安部公房の文学と英訳	「砂の女」について
第６回	英訳で見た三島由紀夫	「金閣寺」と日本語の美意識
第７回	宮沢賢治等	「雨ニモマケズ」と not defeated
第８回	夏目漱石と英訳	「我輩は猫である」は英語で言えるのか
第９回	現代詩と英訳	谷川俊太郎の詩
第 10 回	「在日」と日本語	日本のマイノリティ文学
第 11 回	越境時代の文学	ポストコロニアルと日本語
第 12 回	バイリンガルと日本文学	日本人バイリンガル作家、多和田葉子
第 13 回	日本語で「世界」を書く	リービ英雄「千々にくだけて」
第 14 回	コンクルージョン	世界における日本語の「位置」
第 15 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
近代日本文学を自分で読む。

【テキスト（教科書）】
毎回、教員が提供する。

【参考書】
毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50%) と期末試験 (50%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
大変人気のある授業だと分りました。

GA227

世界とつながる地域の歴史と文化

髙栁　俊男

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、2012 年度から夏休みに長野県の飯田・下伊那地域で実施している「ＳＪ国内研修」（ＳＪ＝ Study Japan）に参加する留学生・ボランティア補助員および希望する一般学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである。

「ＳＪ国内研修」とは、一般学生のＳＡに相当するもので、地方の中山間地域での生活を体験することで、留学生にとってのＳＡとも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、地方の視点でも考えうる目を養うことを趣旨としている。

したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、7 泊 8 日の「ＳＪ国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係に重点を置きながらみていく。

【到達目標】

授業の進展につれ、長野県の中山間地域の飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「ＳＪ国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマをみつけ、夏休み中の学習を経て研修本番につなげられるようにすることが目標である。

「ＳＪ国内研修」に参加せず、単なる一授業として受講することも可能だが、そうした受講者にとっては、飯田・下伊那を例に日本の多様性や多文化を考える視点を得ることが到達目標となる。そこで得られた視点やアプローチは、日本の他の地域を考える際にも有効に機能するであろう。

【授業の進め方と方法】

テーマに沿って、教員による講義を中心に進めていく。関連する映像の上映も、随時織り交ぜる。

特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界につながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべき事項は理解し、覚えるべき固有名詞（地名、人名など）は覚えていただく。

毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などを「コメントシート」に書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるよう心がけたい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本授業と「ＳＪ国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施することもあるので、初回の授業に必ず出席すること。
第 2 回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある 1 市 3 町 10 村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県東部・静岡県西部との県境を越えたネットワーク（三遠南信）についても考える。
第 3 回	飯田・下伊那の概況②	前回に続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937 年に成立した当初の市域に、1950 年代以降、周辺の 15 の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味、言い換えれば飯田市の統一性と多様性を具体的に考察する。
第 4 回	飯田・下伊那の歴史	飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。
第 5 回	飯田線建設史①	現在のＪＲ飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。
第 6 回	飯田線建設史②	前回学んだカネトについて、近年、飯田線沿線で上演されている合唱劇『カネト』をＤＶＤ鑑賞しながら、再度考える。
第 7 回	満州移民の歴史①	1930 年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。
第 8 回	満州移民の歴史②	前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ『蒼い記憶』をＤＶＤ鑑賞しながら、再度考える。
第 9 回	満州移民の歴史③	現在、この地域の人々が、満州移民の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児・中国帰国者のことを、どう後世に伝えようとしているかを、阿智村に開館した満蒙開拓平和記念館などを例に探る。また、「残留孤児の父」と称される阿智村の長岳寺住職、山本慈昭について知る。
第 10 回	飯田・下伊那の多民族共生の現在	外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。
第 11 回	飯田・下伊那の文化①	人形芝居や歌舞伎など、この地域に残る各種の伝統民俗芸能や、それをもとにした現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内にある黒田人形・今田人形について、映像で確認する。
第 12 回	飯田・下伊那の文化②	この地域の特色ある文化活動として、70 年以上の歴史を誇る郷土雑誌『伊那』の発刊や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。
第 13 回	飯田・下伊那の文化③	この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ椋鳩十・西尾実・森田草平の３人について、自校教育の意味も含めて取り上げる。

第14回	まちづくりや自然との共生	早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。
第15回	まとめと課題設定	学習を振り返り、「ＳＪ国内研修」の中で重点的に学びたい課題を各人に設定してもらうことで、全体のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の授業支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：授業から２週間後）。

７月初旬に、この授業と関連した学部イベントを実施するので、ぜひ参加してほしい。今年度は、満蒙開拓や中国人強制連行をはじめ、庶民が経験してきた伊那谷の歴史を短歌に詠み込んできた小林勝人さん（歌会始入選者）をお招きし、それらの短歌をもとに考える場を設ける予定である。

また、山本慈昭を描いた映画『望郷の鐘』が一昨年完成し、いま全国で順次上映されている。上映スケジュールを調べて、ぜひ観てみることを推奨する。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、Ａ３で１枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場にも持参して活用すること。

留学生には従来、自習用として、しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州 大好き』（2010年）を当方で用意していたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数あるので、そちらで利用してほしい。

【参考書】

授業の中で適宜指示する。それらの大半は、ＢＴ20階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」（書籍約1,000冊、映像ＤＶＤ約250点所蔵）に収められているので、大いに利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出する「コメントシート」に反映された授業に取り組む姿勢50％、学期末のレポート50％を目安とする。場合によっては、途中で小課題を課すこともある。その場合はその比率を20％とし、他を40％ずつに変えたい。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

とくにＳＪ国内研修に参加せず、１つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか？」という疑問があるかもしれないが、「個別を極めることを通して普遍に至る」を目指してやっている。自国のことを知り、外国人にも伝えられることは国際人の重要な要素であるので、今後とも、そのアプローチのもつ意義を理解してもらいながら授業を進めたい。

シラバスを読まないで授業に参加したくせに、授業改善アンケートに「予想と違った」などと書く受講者が散見されるが、言語道断である。

【学生が準備すべき機器他】

各種の情報機器が常備されているBT0300で授業できる予定。

上述のように、授業支援システムをもう一つの教室として活用する。

【その他の重要事項】

「ＳＪ国内研修」への参加が義務づけられている外国人留学生入試経路による留学生は、２年次春学期に必ず履修すること。また、それ以外の学部学生で「ＳＪ国内研修」への参加を希望する学生も、この事前学習授業の履修が参加の前提条件となる。留学生以外のＳＪ国内研修は、①ボランティア補助員としての参加（経費は大学負担；単位なし）と、②一般参加（経費の約半額に相当する奨学金が国際文化情報学会から支給可能、残りは自己負担；単位あり）の２種類がある。詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照のこと。

「ＳＪ国内研修」に参加しない人の受講も認めるが、受講者数によっては選抜を行なうことがあるので、第１回目の授業に必ず参加すること（やむを得ず来られない場合は、事前にメールで連絡を入れること。アドレスはシラバス最後の「教員紹介」参照）。

なお、ボランティア補助員の選抜や、一般参加者への奨学金支給の可否の決定は、事前学習における意欲や成果をもとに、６月末から７月上旬に行なう予定である。

【選抜の有無】

「その他の重要事項」欄にも記載されているように、留学生、およびＳＪ参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、教室の収容人員を超えた場合は初回授業で選抜を行なうことがある。

GA331

日英翻訳論

リービ　英雄

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　日本文学の名作を英訳することによって、英作文をみがき、同時に翻訳という鏡に映った日本語の特徴を考える。英語と日本語の究極的な比較。

【到達目標】
日本語と英語の本質を理解すること。

【授業の進め方と方法】
毎回、教授のレクチュアと、学生全員による英訳。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	講義
第２回	俳句の翻訳　「古池や」	発表
第３回	俳句の翻訳　「荒海や」	発表
第４回	俳句の翻訳　「夏草や」	発表
第５回	俳句の翻訳　「おくの細道」Ⅰ	発表
第６回	俳句の翻訳　「おくの細道」Ⅱ	発表
第７回	俳句の翻訳　その他	発表
第８回	和歌の翻訳　万葉集	発表
第９回	和歌の翻訳　奈良の京	発表
第 10 回	和歌の翻訳　天の香具山	発表
第 11 回	和歌の翻訳　富士山のイメージ	発表
第 12 回	和歌の翻訳　万葉仮名等	発表
第 13 回	和歌の翻訳　山上憶良等	発表
第 14 回	和歌の翻訳　古今集　新古今集	発表
第 15 回	コンクルージョン	講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「おくの細道」「万葉集」などを読むこと。

【テキスト（教科書）】
毎回、教員が提供する。

【参考書】
毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】
毎回学生が作る英訳 (50%) と、期末試験 (50%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
大変人気がある授業だと分りました。

GA213

実践翻訳技法

リービ　英雄

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**受講者の人数制限および選抜もありうる。**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文学の代表的なテキストを英語に翻訳する。原文に忠実でありながらすぐれた英語の表現をめざす。

【到達目標】
日本語と英語の本質を理解すること。

【授業の進め方と方法】
古典文学（特に翻訳と俳句）からも近・現代文学（小説と詩）からもテキストを選ぶ。

【授業計画】
後期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	講義
第２回	詩の翻訳①	翻訳
第３回	詩の翻訳②	翻訳
第４回	詩の翻訳③	翻訳
第５回	散文の翻訳①	翻訳
第６回	散文の翻訳②	翻訳
第７回	散文の翻訳③	翻訳
第８回	散文の翻訳④	翻訳
第９回	散文の翻訳⑤	翻訳
第 10 回	散文の翻訳⑥	翻訳
第 11 回	現代文の翻訳①	翻訳
第 12 回	現代文の翻訳②	翻訳
第 13 回	現代文の翻訳③	翻訳
第 14 回	現代文の翻訳④	翻訳
第 15 回	コンクルージョン	講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語をよく読むこと。

【テキスト（教科書）】
代表的な古典詩歌（万葉集など）および近・現代文学（戦後から現代までを中心に）

【参考書】
代表的な古典詩歌（万葉集など）および近・現代文学（戦後から現代までを中心に）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 パーセント・期末試験 50 パーセント

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
古典より現代に力を入れるべきである。

【その他の重要事項】
受講者の人数制限および選抜もありうる。

GA227

中国の文化Ⅰ（現代中国社会）

曽　士才

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国は歴史的、文化的そして経済的にも日本と関係の一番深い国である。しかし、マスメディアを通して報道される中国はあまりにも政治経済に偏りすぎており、しかも表面的なものが多い。中国の一般庶民の日常生活や物の考え方についてどれだけ日本人は知っているのだろうか。この授業ではマスメディアとは異なった物差しで中国を紹介し、中国を実物大で理解できるようにすることが目標である。

【到達目標】
中国に関するリテラシーの力を高め、中国に対するステレオタイプな見方から自由になる。

【授業の進め方と方法】
授業では都市と農村、人の移動、家族と婚姻、信仰と習俗、日本と中国の５つのテーマに沿って、庶民生活の次元に立って、近代化や都市化による社会変容や価値観の変化、日中関係の現状を紹介する。授業の進め方は講義を主体とするが、必要に応じて映像資料による再確認を行う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	多様な風土	北と南の違い、水問題、南水北調
第 2 回	都市と農村（1）	拡大する格差、三農問題
第 3 回	都市と農村（2）	リテラシーの現状、学校教育、就職難
第 4 回	都市と農村（3）	拡大する中産階級
第 5 回	人の移動（1）	農村の社会変化、経済特区、郷鎮企業
第 6 回	人の移動（2）	農民工、留守児童
第 7 回	人の移動（3）	都市の出稼ぎ者、農民工政策の変遷、ポイント制度
第 8 回	家族と婚姻（1）	伝統的家族制度、都市の家族
第 9 回	家族と婚姻（2）	一人っ子政策、新人類の若者たち「80 後」「90 後」
第 10 回	家族と婚姻（3）	高齢化社会、老人扶養
第 11 回	信仰と習俗（1）	宗教事情、国家と宗教
第 12 回	信仰と習俗（2）	風水思想
第 13 回	日本と中国（1）	日中協力
第 14 回	日本と中国（2）	強制連行、戦争の記憶
第 15 回	日本と中国（3）	反日の背景、中国人の日本観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前または事後に指示された参考書所収の論文を読み、授業内容の理解を深める。

【テキスト（教科書）】
プリント教材

【参考書】
高井潔司・藤野彰・遊川和郎『現代中国を知るための 40 章【第 4 版】』明石書店 2012 年。

【成績評価の方法と基準】
授業の復習を兼ねたクイズ（15 %）と期末に課すレポート（85 %）で成績評価を行う。レポート課題は事前に説明するが、評価の基準は主に授業内容の理解度である。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
私語により周りの学生が迷惑を蒙らないよう、引き続き円滑な授業運営に努めたい。使用する映像資料は必要に応じて更新した。

GA207

中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）

曽　士才

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国文明は、多様な風土のなかでそれぞれ独自の歴史と文化を築いてきた諸民族と漢族との、古くからの交流によって形成されてきた。この授業では、民族の多様性を紹介するとともに、20 世紀以降、国家統合を進めるなか、各少数民族社会において生じた変化を通して、中国における国家と民族集団との関係、民族間関係、民族意識、民族文化の現状などを紹介する。

【到達目標】
「民族」をキーワードにして中国を読み解く力を養う。

【授業の進め方と方法】
前半の授業では、中国における民族集団とその文化の多様性について論じ、後半では、政治的統一性と文化的多様性との折り合いのつけ方に主眼を置いて論じる。授業の進め方は講義を主体とするが、テーマごとに映像資料を見る。また、回収したレスポンスシートに基づき、まとめの授業を行う。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	多民族国家中国を概観、授業および授業外学習の説明
第 2 回	民族文化の多様性（1）	森林地帯の狩猟民オロチョン族の伝統と現状
第 3 回	民族文化の多様性（2）	草原地帯の遊牧民モンゴル族の伝統と現状
第 4 回	民族文化の多様性（3）	シルクロードの民ウイグル族の伝統と現状
第 5 回	民族文化の多様性（4）	西南中国山の民イ族の伝統と現状
第 6 回	民族文化の多様性（5）	照葉樹林の民タイ族の伝統と現状
第 7 回	前半のまとめ	前半のまとめとレスポンシートへの応答
第 8 回	国家と民族（1）	進化論・人種観と民族政策
第 9 回	国家と民族（2）	メディアにおける民族表象
第 10 回	国家と民族（3）	民族エリートとエスニック・シンボル
第 11 回	国家と民族（4）	国民教育と民族教育
第 12 回	国家と民族（5）	観光文化と民族文化
第 13 回	チベット問題の読み方（1）	民族問題の分析の視点
第 14 回	チベット問題の読み方（2）	関係報道の読解のコツ
第 15 回	後半のまとめ	後半のまとめとレスポンシートへの応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は毎回の授業の終わりに出されるクイズに、授業支援システムを使って回答し、同時に授業で得た知見、感想、質問を記入し、提出する。なお、教員は次の回の授業でクイズの正解を公表するとともに、まとめの回の授業で、教員からもレスポンスがあります。

【テキスト（教科書）】
プリント教材

【参考書】
末成道男・曽士才編『世界の先住民族―ファースト・ピープルズの現在　01 東アジア』明石書店 2005 年

【成績評価の方法と基準】
授業支援システムを使ったクイズへの回答（15 %）と期末に課すレポート（85 %）で成績評価を行う。レポート課題は事前に説明するが、評価の基準は主に授業内容の理解度である。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
私語によって周りの学生が迷惑を蒙らないように、円滑な授業運営に努めたい。

GA332

中国の文化Ⅳ（中国語の構造）

渡辺　昭太

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点がきちんと把握できていないと感じたり、自分で作った中国語文が、伝えたいことを正しく表現できているかどうかわからないといった経験がある人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、さらに詳しい説明・解説を交えながら、問題演習を通じて応用力の育成を図る。とりわけ、『ポイント学習　中国語初級［改訂版］』で学んだ文法項目を中心に、各項目の基本的用法を確認しつつ、より詳しい用法や発展的な内容を学び、その知識を応用した作文練習や翻訳練習を行うことで、様々な中国語文を適切に理解・表現できる力を養う。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
(2) 既習の文法項目の応用的用法を身に付ける。
(3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現 1	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現 2	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現 3	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語 1	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語 2	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語 3	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把” 構文	「“把” 構文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
10	受身表現	「受身表現」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
11	使役表現	「使役表現」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
12	比較表現	「比較表現」及びそれに関連する表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
13	その他の重要な表現 1	「存現文」、「連動文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
14	その他の重要な表現 2	「助動詞」、「“是…的” 構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
15	まとめ	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】
・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級［改訂版］』東京：東方書店
・相原茂 他 1996『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』東京：同学社
・木村英樹 1996『中国語はじめの一歩』（ちくま新書 066）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語　読みとく文法』東京：白帝社
・劉月華 他 2001『実用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館

【成績評価の方法と基準】
期末レポートを 60%、平常点（問題演習への取り組み、発表・質疑応答など）を 40%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度授業担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】
PC 等を利用する可能性があるが、講師が準備する。

【その他の重要事項】
初級中国語の文法知識があることを前提に授業を行う。

GA218

中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）

渡辺　昭太

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級中国語の学習を終えて、中級段階に進んだ際に、難易度の高い中国語の意味を取り違えたり、中国語作文において間違った表現を使った経験がある人は多いだろう。また、SA などで中国人日本語学習者の日本語に触れた時、その日本語が不自然だと思いながらもその理由をうまく説明できないという経験をした人もいるかもしれない。本授業では、このような誤用例にスポットをあて、なぜそのような誤用が起きるのか、どのような表現にすれば適切な中国語／日本語表現になるのかを的確に分析できる力を養う。また、日中対照研究的視点から中国語を見ることにより、普段何気なく使っている日本語の文法的特徴を考える視点も養う。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 中国語／日本語学習者の誤用例の検討を通じて、その原因に関して自分なりに説明できる。
(2) 関連する論考や資料の講読を通じて日中両言語の文法的諸特徴を適切に理解する。
(3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	動詞関連表現 1	アスペクトに関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
3	動詞関連表現 2	助動詞に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
4	動詞関連表現 3	副詞的表現、否定表現に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
5	形容詞関連表現 1	形容詞に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
6	形容詞関連表現 2	比較表現に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
7	名詞関連表現 1	名詞、数量詞に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
8	名詞関連表現 2	連体修飾に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
9	補語 1	結果補語、方向補語に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
10	補語 2	可能補語、数量補語に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
11	様々な構文 1	把構文、受身文、使役文に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
12	様々な構文 2	存現文、是…的構文に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
13	日本語と中国語の表現論的特徴 1	日本語と中国語の表現論的相違（相対的表現と絶対的表現など）に関して考察する。
14	日本語と中国語の表現論的特徴 2	日本語と中国語の表現論的相違（言語と文化など）に関して考察する。
15	まとめ	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】
・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級［改訂版］』東京：東方書店
・相原茂 他 1996『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』東京：同学社
・木村英樹 1996『中国語はじめの一歩』（ちくま新書 066）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語　読みとく文法』東京：白帝社
・劉月華 他 2001『実用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館

【成績評価の方法と基準】
期末レポートを 60%、平常点（問題演習への取り組みや考察、発表・質疑応答など）を 40%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度授業担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】
PC 等を利用する可能性があるが、講師が準備する。

【その他の重要事項】
初級中国語の文法知識があることを前提に授業を行う。

GA331

中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）

野村　英登

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら諸子百家の思想はしばしば独立ないし対立するものとして扱われますが、実際には古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読み解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。

【到達目標】

＊中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯
＊中国古典を現代語訳で読むときの注意点
＊中国古典の背景となる当時の社会環境
以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。

【授業の進め方と方法】

授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』の全体像を説明します。
2	『論語』と孔子	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。
3	『論語』と学び	『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
4	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
5	『論語』の秘密	現在語られているような“道徳”的ではない『論語』の内容を学びます。
6	『易経』で易占い	テキストを使って、実際に易占いを行います。
7	『易経』の世界観	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。
8	『老子』の哲学	老子の“道”（タオ）の思想を儒教の“天”の思想と対比して学びます。
9	『老子』と健康法	老子の思想の実践性を処世術や健康法の立場から学びます。
10	『老子』と政治	老子の思想の具体的な展開として、法家の韓非子の思想を学びます。
11	『荘子』と神話	荘子の神話的な奇想と実践的な哲学の結合を考えてみます。
12	『荘子』の哲学	荘子の“無為自然”の思想が老子とどう異なるか、また後代への影響を学びます。
13	『孫子』の兵法	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
14	『孫子』の哲学	孫子の兵法と老子の思想の関係を学びます。
15	まとめ	これまでの授業内容を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらいます。

【テキスト（教科書）】

『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）。
『老子・荘子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）。
『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）。
『孫子・三十六計』（湯浅邦弘、角川ソフィア文庫、2008）。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（60 %）。
期末試験（40 %）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。

GA331

中国の文化Ⅶ（近代文学）

廣野　行雄

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の近代文学を素材として中国の文化について考察する。
人間にとっての文学の意味とは何かを考える。

【到達目標】
中国の近代文学について基礎的な知識を得る。
中国の近代がかかえていた問題について認識を深める。

【授業の進め方と方法】
授業形態は、講義であるが、なるべく対話のある双方向的授業を目指す。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第一回	オリエンテーション	授業のねらい、進め方について説明する。
第二回	近代 (文学）とは？	中国の近代の特異性について。
第三回	中国の近代文学１	近代文学とは何か？ 近代文学としての『紅楼夢』その構成。
第四回	中国の近代文学２	近代文学としての『紅楼夢』人物設定と恋愛というテーマ。
第五回	中国の近代文学３	近代文学としての『紅楼夢』内面への関心と内的独白の手法。
第六回	文学革命	文学革命を進めた人々
第七回	魯迅という文学者	『吶喊』自序を素材に魯迅の半生をたどる
第八回	魯迅の文学世界１	『狂人日記』を読む。狂気と覚醒。
第九回	魯迅の文学世界２	『狂人日記』を読む。 回心の訪れ。
第十回	魯迅の文学世界３	『阿Ｑ正伝』を読む。 精神勝利法について。
第十一回	魯迅の文学世界４	『阿Ｑ正伝』を読む。 阿Ｑの地獄めぐり。
第十二回	魯迅の文学世界５	『阿Ｑ正伝』を読む。 阿Ｑとは誰か？
第十三回	魯迅の文学世界６	『祝福』を読む。 儒教の宗教性。
第十四回	魯迅の文学世界７	『祝福』を読む。 祥林嫂を殺したのは誰か？
第十五回	試験	内容把握の程度をはかるため試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストである魯迅の作品はもちろんであるが、授業内で触れる文献を積極的に読んで欲しい。

【テキスト（教科書）】
魯迅「『狂人日記』『阿Ｑ正伝』その他十二篇」岩波文庫

【参考書】
岩波新書の中国近代史シリーズなど。

【成績評価の方法と基準】
試験では、到達目標を理解しているかどうかを問う問題を出題する。平常点 (授業の核心をつくような質問、感想など) ５０％、期末試験５０％で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
中国の近代社会、近代文学の独自性を理解しやすくするため、ヨーロッパや日本のそれとの対比を具体的な歴史事項や作品を例示しつつ行うよう努める。
毎回できるだけ履修者の感想や意見を聞きつつ授業を進めていきたい。

GA331

中国の文化Ⅷ（現代文学）

廣野　行雄

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の現代文学が背負わねばならなかった課題を講述する。
現代の中国をより深く認識するために、歴史的背景や社会的背景をふくめて考察を加える。

【到達目標】
現在もなお存在し続けている、中国の現代文学が抱えている問題を現中国政権建国以前から丁寧にたどってゆくことによって理解する。

【授業の進め方と方法】
建国以前の「革命文学論争」「国防文学論戦」「延安の文学問題」「反右派闘争」等の事象をたどり、現代の中国文学の抱える問題を解説する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の目標、講義の方法などを解説する。
第 2 回	魯迅と革命文学 1	魯迅が目指した文学について解説。
第 3 回	魯迅と革命文学 2	20 年代の革命文学論争について。
第 4 回	魯迅と革命文学 3	革命文学論争の意味。
第 5 回	魯迅と国防文学論戦 1	30 年代の魯迅の位置について。
第 6 回	魯迅と国防文学論戦 2	国防文学論戦の実相。
第 7 回	延安での文学粛正。	「野の百合」批判。丁玲と肖軍。
第 8 回	建国後の文学 1	「我々夫婦の間」批判について。
第 9 回	建国後の文学 2	胡風批判。
第 10 回	建国後の文学 3	反右派闘争について。
第 11 回	新時期文学 1	作家王蒙について 1
第 12 回	新時期文学 2	作家王蒙について 2
第 13 回	新時期文学 3	陸文夫の作品について。
第 14 回	新時期文学 4	莫言らの作品について。
第 15 回	試験	講義内容の理解度を知るために試験を課す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現代の中国の歴史について基本的な知識を備えておく。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
「魯迅評論集」竹内好編訳、岩波文庫。
岩波新書中国の近現代シリーズ。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を６０パーセント、平常点 (授業内容についての核心を突く質問の有無などの受講態度) ４０パーセントで評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
第 1 回で担当者の狙いを丁寧に説明することを心がける。
中国の現代史を考えるについて欠かせない知識をできるだけ受講者が関心を持てるように今日の状況に結びつけて解説する。
講義内容が理解されたかどうか、その都度対話で確認しつつ授業を進める。

GA331

中国の文化Ⅸ（中国俗文学）

鈴木　靖

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ＳＡを機会に日本文化について改めて考え直す機会を得た人も多いだろう。しかし、日本文化とは何かを考えるには、古来、日本文化に多大な影響を与えてきた中国文化への理解が不可欠である。

この授業の目的は巨視的・微視的という二つの視点から中国文化史を通観することにある。

巨視的な視点からいえば、中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計り知れない。表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語（Lingua Franca）を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに倫理観にもとづく国際秩序と社会秩序を与え、サンスクリット語仏典の漢語への翻訳は東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。紙や印刷術の発明は東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。

いっぽう微視的な視点からいえば、中国歴代の文学、とりわけ市井の人々の間で次々と生み出された俗文学は、東アジアに庶民の文学を生み出す契機を与えた。この授業でも取り上げる三国志演義や水滸伝などは、わが国の文学にも多大な影響を与えている。

【到達目標】

中国の古代から近世に至る文化史を理解し、東アジアという広い視野から自文化を考え、説明できる力を身につける。

【授業の進め方と方法】

授業は、準備学習と講義、レスポンス・シートによる質問・意見を組み合わせて行う。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への理解を深めるとともに、質問や意見がある場合には、レスポンス・シートを通じて積極的に発言してほしい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の進め方と目的について概説する
第 2 回	殷代	文字の誕生
第 3 回	周代	采詩の官と詩経
第 4 回	春秋戦国時代	儒教経典が伝える民間伝承
第 5 回	秦代	亡国の民が伝えた物語
第 6 回	漢代	紙の誕生
第 7 回	魏晋南北朝時代	北朝と南朝の民間伝承に描かれた女性像
第 8 回	隋唐時代	敦煌変文の世界
第 9 回	五代十国時代	書籍出版のはじまり
第 10 回	北宋時代	三国志の誕生
第 11 回	南宋時代	水滸伝の誕生
第 12 回	元代	演劇の隆盛
第 13 回	明代	出版文化の隆盛
第 14 回	清代	民間芸能の隆盛
第 15 回	まとめ	これまでの講義を通じて学んだこと、疑問に感じたことなどを出し合い、意見交換を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習の資料をｅポートフォリオを通じて配布するので、授業前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しないが、授業で使用するスライドを PDF ファイルとしてｅポートフォリオにアップしていく。

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のような基準で行う。
①毎回の授業で提出するレスポンス・シート（90 %）
②期末レポート（10 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

授業で使用するスライドの PDF を事前にアップしてほしいとの要望があったため、今年度は前日までにアップするようにする。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントを使用し、映画やドキュメンタリービデオなどの映像資料を多用する。

GA233

朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）

内山　政春

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮半島は日本にとって，地理的，歴史的にもっとも密接な関係をもつ地域のひとつです．この授業では，朝鮮半島全般に関し，常識ともいうべき基礎知識をひととおり身につけることを目的とします．

【到達目標】
朝鮮半島に関する基礎知識を身につけることによって，その中の興味のある分野について，自分から引き続き勉強を続けていけるような土台を作るこができればと考えています．

【授業の進め方と方法】
まず，朝鮮半島の地理と歴史を概観し，その上で各項目についてみていきます．朝鮮と日本とのあいだの文化的影響や類似点を重視するとともに，あることがらの，日本と朝鮮とでのとらえかたの違いなどにも注目したいと思います．
この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち，もっとも入門的なもののひとつです．

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	導入／朝鮮とは	・「朝鮮」とはどこか？ ・朝鮮半島の２つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・参考文献の紹介
2	南北分断時代	・朝鮮の植民地からの「解放」と２つの朝鮮の建国 ・朝鮮戦争と南北朝鮮の対立，主導権争い ・南北共存時代 ・日本との関係
3	日本の植民地時代	・植民地支配とその前史 ・日本の開国と「開化」 ・明治の二大戦争と朝鮮 ・植民地支配 ・日中戦争，太平洋戦争と朝鮮 ・他の列強植民地との比較
4	在外朝鮮人	・朝鮮半島以外に居住する朝鮮民族の歴史と現状
5	李朝時代	・李朝前期の日本との関係 ・ソウルと王宮 ・李朝の身分制度 ・文禄・慶長の役による影響 ・江戸時代の日朝関係 ・日本，朝鮮の外交関係 ・朝鮮通信使
6	古代から高麗時代まで	・王朝の変遷 ・高麗時代 ・新羅時代 ・三国時代 ・神話時代 ・朝鮮，朝鮮史の領域
7	社会のしくみ１	・２つに分かれた国の社会 ・国家のシンボル ・休日と暦 ・社会のネットワーク
8	社会のしくみ２	・親族関係 ・地域社会 ・教育・マスコミ
9	社会のしくみ３	・政党と政治 ・兵役と軍事文化 ・ナショナリズム
10	言語１	・朝鮮語の使用地域 ・言語と文字の名称 ・朝鮮の文字ハングル ・朝鮮語の語彙，文法，系統 ・漢字文化圏と朝鮮語 ・朝鮮語の漢字表記 ・日本の朝鮮語学習の流れ
11	言語２	・ハングル以前の朝鮮半島の文字 ・ハングルの出現 ・近代の朝鮮語 ・解放後の朝鮮語 ・南北の言語のちがい
12	文学	・文学の歴史 ・ハングル登場以前の文学 ・ハングル登場以後の文学 ・李朝末期から植民地時期の文学 ・独立後の文学 ・北朝鮮の文学
13	食と住	・現在の都市の住居 ・伝統的な住居 ・植民地時代の住居 ・家庭での食生活 ・キムチと基本のおかず
14	宗教など	・仏教 ・儒教 ・キリスト教 ・新興宗教 ・日常の宗教的風習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
朝鮮語の知識は必要ありません．朝鮮に関する報道に関心を持ち，関連する本を積極的に読んでください．

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを作成して配布します．

【参考書】
参考文献はその都度指示しますが，参考書として『もっと知りたい韓国〔第 2 版〕』（弘文堂），『新版　韓国朝鮮を知る事典』（平凡社），『岩波小辞典　現代韓国・朝鮮』（岩波書店）などがお勧めできます。また現代の韓国人の生活を知るには『2002 年ソウルスタイル』（国立民族学博物館）が手頃な資料となります．最後の資料は授業中に何冊か持ってきてみなさんといっしょに見る予定です．

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業の終わりに講義に関する感想や質問を書いてもらいます．そのシート（20%）と，学期末に課すレポート（80%）を総合して評価します．あまりにも出席が少ない場合は評価の対象から外すこともあります．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
「遅刻した場合に別の紙（講義に関する感想や質問を書くためのもの）を配るのはおかしい」などという意見がありました（遅刻者を判別するために私は昨年度の授業でそのようなことを行なっていました）．授業が始まっているのに遅刻者が教室にゾロゾロ入ってくると，他の学生の迷惑にもなり，授業の進行も遅れがちになります．授業開始の時点で学生が着席しているのは「あたりまえ」のことです．それが守れない人，また私語をする人は，他の学生に迷惑となりますので，受講しないでください．

【学生が準備すべき機器他】
毎回プリントを配布するのと同時に，教員が準備した映像資料を見てもらいながら話を進めます．

【その他の重要事項】
ＳＡ韓国２年生はかならず受講してください（韓国人に「ええっ！こんなことも知らないの？」と驚かれないためにも）．他学部の学生の受講も歓迎します．なお順序と内容に若干の変更がある可能性があります．

GA208

アジアの伝統芸能

鈴木　靖

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国には「戯曲」と総称される 300 種あまりの伝統歌劇と「曲藝」と総称される 400 種ほどの語り物がある。こうした芸能を通じて、中国庶民の文芸世界を垣間見ようというのが本講義の目的である。中国の庶民が、どのような物語に笑い、怒り、涙したのかを、彼らの一番身近にあったメディアを通じて追体験していく。
授業では、できるだけ多くの映像資料を使い、中国の伝統芸能とそこから生まれた音楽や映画などの世界を体感していきたい。

【到達目標】
この授業を通じて、中国の伝統芸能の全体像とその代表的作品、技法などを体系的に理解することができる。また、それと併せて、映像資料を ICT を利用して効果的に活用し、表象文化を分析する手法を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】
授業は、事前学習と講義を組み合わせて行う。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に関連する資料を読み、出席カードに 400 字程度の意見や感想を記入してもらう。資料はｅポートフォリオを通じて pdf ファイルとして配布する。
・ｅポートフォリオＨＯＰＳ「アジアの伝統芸能」
https://epf.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=27

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに〜講義の目的と内容について	中国の伝統芸能を学ぶ目的と意義について考える
第 2 回	中国の伝統芸能とは	中国の伝統芸能にはどのようなものがあるのかを概観する
第 3 回	伝統芸能の美〜川劇「白蛇伝」を例に	川劇「白蛇伝」を例に、中国伝統演劇の作品や技法を学ぶ
第 4 回	川劇「白蛇伝」の世界（一）	川劇「白蛇伝」を例に、中国伝統演劇の作品や技法を学ぶ
第 5 回	川劇「白蛇伝」の世界（二）	川劇「白蛇伝」を例に、中国伝統演劇の作品や技法を学ぶ
第 6 回	白蛇故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「白蛇伝」の歴史的変遷について学ぶ
第 7 回	現代によみがえる伝統芸能〜「梁山泊と祝英台」を例に	中国の四大民間故事の一つである「梁山伯と祝英台」が、民間伝承から伝統芸能、西洋音楽、映画へ発展いく過程を学ぶ
第 8 回	映画「舞台姐妹」から見た中国の伝統演劇	中国の伝統演劇の一つである越劇の女優たちを描いた映画「舞台姐妹」を通じて、役者たちの近代への歩みを学ぶ
第 9 回	中国のロミオとジュリエット〜越劇「梁山泊と祝英台」の世界	越劇を通じて、中国のロミオとジュリエットと呼ばれる「梁山伯と祝英台」の物語を学ぶ（一）
第 10 回	中国のロミオとジュリエット〜越劇「梁山泊と祝英台」の世界	越劇を通じて、中国のロミオとジュリエットと呼ばれる「梁山伯と祝英台」の物語を学ぶ（二）
第 11 回	伝統演劇から西洋音楽へ〜バイオリン協奏曲「梁祝」	民族の交響曲と呼ばれる、越劇の旋律を主題として作曲されたバイオリン協奏曲「梁祝」の成立の過程を学ぶ
第 12 回	伝統演劇から現代のメディアへ〜映画「梁祝」	映画など現代のメディアが描く「梁山伯と祝英台」の世界を学ぶ
第 13 回	梁祝故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「梁山伯と祝英台」の歴史的変遷について学ぶ
第 14 回	中国伝統芸能の現在	中国伝統芸能の現状について考える
第 15 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前にｅポートフォリオを通じて関連する資料を配布する。これを読み、出席カードに 400 字程度の意見や感想を記入してもらう。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
・村松一弥『中国の音楽』（勁草書房、1965 年）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次のような基準で行う。
①毎回の授業で提出するレスポンス・シート（90 %）
②期末レポート（10 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
一昨年の開講の際、授業に使用するスライドを事前にアップしてほしいとの要望があったので、今年度からは授業前にｅポートフォリオＨＯＰＳ上にスライドの PDF をアップする予定である。

【学生が準備すべき機器他】
双方向性のある授業を実現するため、授業期間中はｅポートフォリオに事前学習の資料や授業で使用するスライドの PDF をアップする。質問や意見交換のためのフォーラムを開設するので、質問や感想などを積極的に書き込んでいただきたい。
・ｅポートフォリオＨＯＰＳ「アジアの伝統芸能」
https://epf.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=27

GA209

ロシア・中央アジアの文化

アンドレイ・クラフツェビチ

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の目標はロシア語圏の歴史と現状に関する知識を拡大することである。　前世紀 90 年代初めにソビエト社会主義共和国連邦が解体し、15 の独立した国家が誕生した。その内の五カ国はいわゆる中央アジアの国々であった。それはウズベキスタン、タジキスタン、キルギスタン、トルクメニスタンとカザフスタンである。数百年にわたってロシア帝国、ソ連邦の部分であったその国々は千年以上の歴史をもち独特の文化をもたらした。シルク・ロードの北の部分であった同じ地域、似ている文化、共同の歴史をもってこの国々は独立してからどのように発展していくのか、それらの国々がかかえている重要な政治、社会、経済等の問題は何であるのか、ロシアと日本を始め、他の外国との関係、交流はどう進んでいるのかを学ぶ。

【到達目標】
ロシアと中央アジア諸国の歴史、文化、お互いの影響を分かり、その地域の現状を理解するという目標がある。

【授業の進め方と方法】
授業の方法は講義であるが、学生は関心がある問題に関するディベートも考えられる。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講座の内容と目的を説明する
第 2 回	ロシアと中央アジア古代史	最初のコンタクト
第 3 回	ロシアと中央アジア中世史	定期的交流
第 4 回	中央アジアのロシア帝国併合・加入	自発的参加と占領
第 5 回	帝政ロシアにおける中央アジア	ロシア式植民地
第 6 回	1917 年のロシア革命と中央アジア：一時的独立	帝国解体中の民族解放運動
第 7 回	二回目の併合：ソ連邦における中央アジアのソビエト社会主義共和国	ボリシェヴィキの民族政策
第 8 回	ソ連邦における中央アジア	中央アジアのソビエト化
第 9 回	ソ連邦解体と中央アジア	ソ連破壊に対する中央アジア各国の態度
第 10 回	中央アジアの国々の内政問題：カザフスタン	独立カザフスタンの政権：権威主義
第 11 回	中央アジアの国々の内政問題：ウズベキスタン	独立ウズベキスタンの政権：文明の進んだ独裁
第 12 回	中央アジアの国々の内政問題：タジキスタン	独立タジキスタンの政権：穏健な独裁
第 13 回	中央アジアの国々の内政問題：トルクメニスタンとキルギスタン	独立トルクメニスタンとキルギスンの政権：虐政的独裁
第 14 回	中央アジア各国に対するロシアの政策	統一防衛− 経済空間：アイデアと現実。資源と安い労働力の根源地
第 15 回	ロシアに対する中央アジア各国の政策	パトーナか兄貴か又は収入の財源

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
推薦された文献を読む

【テキスト（教科書）】
特に教科書、テキストは使用しない

【参考書】
各テーマに関する参考文献を講義中に指示する

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度等 30 %）とテスト（学期末試験 70 %）で評価する

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
もっと分かりやすい日本語を話してみる。できる限り分かりやすいレジュメを使う積りがある。

【その他の重要事項】
特に前提条件がない。
勉強するテーマの一つの教科書または本が存在しないので一番大事なことは講義に出席すること。

GA327

ロシア・東欧の文化

佐藤　千登勢

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアと東欧は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方が EU 加盟を果たした東欧諸国。今日、これらの国々に対しては、中欧、もしくは中東欧という呼称が定着しつつあります。東欧という位置づけは、ロシア・ソ連との関係性、そして地理的・歴史的要因といった多面的な観点から考察される必要があるでしょう。

この講義では、ロシアと東欧諸国、それぞれの民族的差異や特殊性を主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を確認すると同時に、ナショナリズムの問題を提起していきます。また、日本との交流のあり方も視野に含めつつ、話を進めていきます。テーマが大きいだけに、まとまった結論を提示することはしません。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の国家や民族が共生するとはどういうことなのか、学生のみなさんに考えてほしいと思います。

SA ロシアに向かう予定の２年生は事前準備の一環として、必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【授業の進め方と方法】

当講義で論じる「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及します）。これらの国々の史実や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、アニメーション、アートなど）の視聴覚資料を通して、東欧諸国とソ連・ロシアとの関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや社会体制の問題を提起していきます。私たちにとってもアクチュアルな問題として捉え、考えていくようにしたいものです。授業の最後には毎回、意見や疑問点をまとめたレヴューシートをみなさんに提出してもらい、次回の授業に活かしていきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	みなさんの異文化体験を訊くアンケートを実施。ロシアと中東欧諸国の言語・宗教／日本と東欧の関係の一断面
第２回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、汎ヨーロッパ・ピクニック事件の映像を鑑賞。
第３回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉施設を中心に解説、映像で紹介。
第４回	ハンガリー：音楽と映画とアートをめぐって	ジプシー楽団からリスト、バルトーク、コダーイの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ベーラらの独特な作風の映画を紹介。ハンガリー構成主義からグロテスク・デザインまでアーティストを紹介。
第５回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第６回	ポーランド：街並みと風土／世界遺産を中心に	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所の記録を映像を通して概説。
第７回	ポーランド：音楽と映画と政治をめぐって	伝統音楽からショパンの音楽を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。伝統的歌唱法ホワイトヴォイスや伝統的リズムを利用した現代のポピュラーミュージックも紹介。映画と政治の問題はワイダ作品を鑑賞しながら検討。
第８回	ポーランド：映画と文学をめぐって	ポランスキー、キェシロフスキ、スコリモフスキの映画を一部鑑賞しつつ、ポーランド映画の美に触れる。シェンキェヴィチ、シュルツ、ミウォシュ、シンボルスカ、レムら作家や詩人を紹介。
第９回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『プラハ！』に描かれるチェコ事件を紹介。
第 10 回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	プラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいを映像を通して概説。
第 11 回	チェコ：文学と映画をめぐって	プラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、チェコ・アヴァンギャルド、プラハ言語学サークルについて、さらに、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて、映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリャ、愛のプラハ』を紹介。
第 12 回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのパペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品、現代社会の個人の内的精神の問題を描くパヴラートヴァーのセルアニメを鑑賞し、チェコのアニメーション文化の多様性とイデオロギー的機能について考える。
第 13 回	ソ連・ロシア：歴史概観	被抑圧と抑圧、全体主義体制をキーワードに古代ロシアから現代までのロシア史を概観。
第 14 回	ソ連・ロシア：ソ連邦崩壊を体験した子供たち	ソ連邦の崩壊を体験した子供達が、今日のロシアを支える世代となっている。国家体制が崩壊することとはどういうことか、無力で犠牲になりがちな子供達の観点からソ連崩壊を考える。
第 15 回	予備日	やりおおせなかったテーマを補足。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会をなるべく設けてほしいと思います。映画作品の DVD は大学の AV ライブラリーにある場合も多く、文学作品は図書館で借りることができます。

【テキスト（教科書）】
教場で資料を配付します。

【参考書】
教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レヴューシート（50 %）、期末レポート（50 %）の基準により判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
大教室での授業となる可能性がありますが、静かな環境を保ちつつ講義を進められるよう、配慮します。

GA219

ドイツ語圏の文化Ⅰ

林　志津江

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏のうち、ドイツとその首都であるベルリンを主に取り上げます。19 世紀後半から 20 世紀前半のベルリンとその周辺都市の文化現象を、技術革新という側面に着目しながら概観します。日本が明治維新に湧いた頃、ドイツもまた史上初の国家統一をなしとげ、近代国家としての一歩を踏み出しました。ただし周知の通り、19 世紀末のドイツと日本では大きく異なる部分もあります。高校で学んだ世界史からもう一歩先の世界を、文化現象を通して探究していきましょう。

【到達目標】
日本の近代化に決定的な影響を及ぼした 19 世紀後半〜 20 世紀前半のベルリンとドイツ語圏（ドイツ帝国、ハプスブルク帝国）、ひいてはヨーロッパ諸国と日本との関連を理解するとともに、文学や造形芸術などを批判的に読解する能力、自分の考えを他人に伝わる言語で表現できる能力を身に付けることです。と同時に、見知らぬ国・地域を見つめる作業が、自分自身と自身が背負うものを振り返る時間になる現実を実感して下さい。近代ヨーロッパに関する理解を、私たちの属する文明社会を問い直す方法、ひいては異文化間コミュニケーションの可能性についての考察にまでつなげられれば、いっそう理想的だと思います。

【授業の進め方と方法】
各回、教員が資料を用いて各テーマの内容を紹介します（各テーマは時系列的に進みます）。文学作品を扱う回は、該当箇所を輪読形式で読みます。映画や造形芸術を扱う回は、スクリーン上で作品を観てもらいます。そのあとは皆さんが気づいた点や疑問点を指摘したり、意見を述べる時間です。授業の最後には必ず小レポート（リアクションペーパー）を書き、自分の考えを言語にしてまとめます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・前史	この授業について、「ドイツ語圏」ってどこ？ 何で「ドイツ」って言うの？
2	都市労働者とドイツ帝国の誕生（1）	「ドイツ人」という意識、普墺戦争と普仏戦争 （メンツェル『鉄圧延伸工場』、ドーデー『最後の授業』）
3	都市労働者とドイツ帝国の誕生（2）	私ってドイツ人になったの？「母語」と「母国語」って違うの？ （ドーデー『最後の授業』）
4	ビスマルクの時代（1）	技術革新と人口の爆発的増加、ベルリンの劣悪な住環境 （森鴎外『舞姫』『独逸日記』）
5	ビスマルクの時代（2）	ベルリンの上下水道、都市化に翻弄される人々 （森鴎外『衛生學大意』、フォンターネ『迷誤あれば』）
6	ヴィルヘルム帝政期のベルリン	工業化と人々の新しいつながりの様式、余暇の誕生とサッカー （映画『コッホ先生と僕らの革命』）
7	世紀転換期の芸術と社会（1）ー ブルジョワ層と芸術家意識	技術革新が芸術にもたらしたもの、ユーゲントシュティールとウィーンのカフェーハウス、芸術 VS. 工芸
8	世紀転換期の芸術と社会（2）ー 大都市を描く	表現主義の目指す道、「ブリュッケ」の描くベルリン （キルヒナー『ポツダム広場』ほか）
9	第一次世界大戦と敗戦	揺れるヨーロッパと帝国の終焉 （ツヴァイク『目に見えないコレクション』）
10	ヴァイマール共和国の誕生と黄金の 20 年代	新しい職業と「新しい女」の誕生、アメリカからやってきた大衆文化、表現主義から新即物主義へ （ジークフェルト・フォーリーズの凱旋公演、ディックス『大都市』、シャート『ソーニャ』など）
11	ヴァイマール共和国の光と影	「新しい女」の現実、自由に生きるという意識と法律のはざまで （I・コイン『人工シルクの女の子』）
12	ヴァイマール共和国の終焉	「新しい女」の現実、ヒトラーとナチスの台頭 （I・コイン『人工シルクの女の子』）
13	ナチス政権下の文化・芸術政策	「大ドイツ芸術展」と「退廃芸術展」、ベルリンオリンピックが目指したもの （リーフェンシュタール『意志の勝利』など）
14	ナチ政権下に生きる人々と芸術	ニュルンベルク法の成立とオーストリア併合、ベルリンフィルとナチス
15	ナチス・ドイツの絶滅政策と敗戦	絶滅政策をくぐりぬけられなかった生に向けて （ツェラン「死のフーガ」）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業ごと、自分の考えをまとめた小レポート（リアクションペーパー）を、次回授業開始前までに提出します。
前回の資料を見直し、次回のテーマに関する資料（配布物）にも目を通してくること。

【テキスト（教科書）】
こちらから資料を用意・配布します。

【参考書】
・木村靖二（編著）『ドイツ史（新版 世界各国史）』（山川出版社）2001 年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007 年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015 年
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（議論、小レポート含む）50 %と最終レポート課題 50 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
（今年度より担当します）

【その他の重要事項】
・取り扱う文学・芸術作品は変更される場合があります。
・ドイツ語の知識は必須ではありません。

GA210

フランス語圏の文化Ⅲ（文学）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世時代から現代にいたるまでのフランス語圏の文学の概説。

【到達目標】
フランス語圏の文学の基礎知識を深める。
さまざまな仏文学潮流の代表的な作品の抜粋を読み、分析研究をする。十九世紀から非常に盛んになった大衆文学の研究も主に探偵・ミステリー小説を通して行う。

【授業の進め方と方法】
豊かなフランス語圏の文学の概説をするのは容易ではないが、いくつかの名作の抜粋を通して、この探検を試みる。
フランス語圏の文学の様々な潮流やその歴史的な背景の概説も必要であるが、なるべく原文に没入し解読を試み、その芸術的な喜びを味わう。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
①	中世の文学	授業紹介 フランス文学の最初の作品
②	ルネッサンスの文学	詩とエセー
③	十七世紀の文学	寓話詩と芝居
④	十七世紀の文学	芝居と小説
⑤	十八世紀の文学	エセーと小説
⑥	十八世紀の文学	小説と芝居
⑦	十九世紀の文学	エセーと小説
⑧	十九世紀の文学	小説と詩
⑨	十九世紀の文学	詩と芝居
⑩	二十世紀の文学	エセーと小説
⑪	二十世紀の文学	小説と詩
⑫	二十世紀の文学	詩と芝居
⑬	二十一世紀の文学	小説
⑭	現代大衆文学	ミステリー小説など
⑮	フランス語圏の文学	アフリカ、アメリカ、など レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書は限定するので（莫大な読書量にはならない）、あらかじめ指定された箇所はしっかり読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示

【参考書】
開講時指示

【成績評価の方法と基準】
1）フランス語や日本語による発表：50%
2）期末レポート：50%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
一定のレベル（2 年間学習済）の仏語学力が望ましい。
この授業はフランス語または日本語で行う（英語も可）。

【学生が準備すべき機器他】
必須ではないが、パソコン、録音機の持参推奨

GA220

フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）

廣松　勲

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界 5 大陸に広がるフランス語圏（フランコフォニー）社会を「複言語・複文化社会」と捉えた上で、それぞれの社会において複数の言語・文化が、どのように共存しているのか、またはどのように軋轢が解消されているのかを論じる。

具体的には、カリブ海域諸島、カナダのケベック州、北アフリカ・マグレブ、サハラ以南アフリカ、フランス語圏ヨーロッパなどにおける言語・社会状況を解説することで、フランス語圏社会の普遍性と差異を提示する。

【到達目標】

(1) フランス語圏社会が複言語・複文化が共存する社会であることを具体的に知ること。
(2) 言及する各社会において、言語・文化の多様性がどのようにして維持されているのかを知ること。
(3) 言及する各社会において、在来言語・文化とフランス語・文化とが、どのような関係にあるのかを述べられるようになること。

【授業の進め方と方法】

日本語で行われる講義形式の授業である。フランス語の予備知識は特に必要としない。

2〜3 コマごとに言及する地域を変更しながら、それぞれの地域特性（歴史・政治・社会・言語状況など）を解説する。紙媒体の配布資料の他に、映画や音楽も参照する。

評価は、主に平常点と期末レポートによって行う。レポート作成については、各自がいずれかの地域（または国）における資料や作品を一つ選んだ上で、複数の言語や文化がどのような方策によって共存しているのかを論じてもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要や評価の説明 ・「フランス語圏（フランコフォニー）」とは、いかなる概念なのか？ ・具体的なフランス語圏地域の解説
2	Ⅰ．カリブ海域諸島	・カリブ海域諸島の歴史、社会および言語状況の説明 【マルチニック島】：ネグリチュード運動（エメ・セゼールとフランツ・ファノン） ・フランス語とクレオール語の関係
3	Ⅰ．カリブ海域諸島	【マルチニック島】：アンティユ性の提唱（エドゥアール・グリッサン 【グアドループ島】：定住と彷徨（マリーズ・コンデ） ・クレオール語の地位復権運動
4	Ⅰ．カリブ海域諸島	【マルチニック島】：クレオール文学運動（パトリック・シャモワゾーとラファエル・コンフィアン） ・クレオール語表現文学の可能性 ・その他の島々とのつながり
5	Ⅱ．カナダ連邦・ケベック州	・北米大陸の歴史、社会および言語状況の説明 【ケベック】フランス系カナダ人からケベック人へ：ミシェル・トランブレー、ジャック・ゴドブー ・フランスのフランス語とケベックのフランス語の関係
6	Ⅱ．カナダ連邦・ケベック州	【ケベック】：インターカルチャー／トランスカルチャーの文学：レジーヌ・ロバン（ユダヤ系）、マルコ・ミコーネ（イタリア系）、エミール・オリヴィエ（ハイチ系） ・母語とフランス語の関係
7	Ⅱ．カナダ連邦・ケベック州	【ケベック】「移動するエクリチュール」の現在：ダニー・ラフェリエール（ハイチ系）、イン・チェン（中国系）、アキ・シマザキ（日系） ・ケベック社会におけるハイチアン・コネクション ・母語とフランス語の関係 ・その他の北米フランス語圏とのつながり
8	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）	・マグレブの歴史、社会および言語状況の説明 【アルジェリア】：カテブ・ヤシーヌ、アシア・シェバール、ニナ・ブラウィ ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
9	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）	【モロッコ】：アブデルケビール・ハティビ、タハール・ベンジェルーン ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
10	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）	【チュニジア】：アルベール・メンミ、アブデルワハブ・メデブ ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
11	Ⅳ．サハラ砂漠以南のアフリカ	・サハラ砂漠以南のアフリカの歴史、社会および言語状況の説明 【セネガル】：レオポール・セダール・サンゴール、マリー・ンディアイ ・アフリカ諸語とフランス語との関係
12	Ⅳ．サハラ砂漠以南のアフリカ	【コート・ジボワール】：アマドゥ・クルマ 【コンゴ共和国】：ソニー＝ラブ・タンシ、アラン・マバンク ・アフリカ諸語とフランス語との関係
13	Ⅴ．ヨーロッパのフランス語圏	・ヨーロッパのフランス語圏の歴史、社会および言語状況の説明 【スイス】：シャルル＝フェルディナン・ラミュ、アリス・リヴァ、ニコラ・ブヴィエ ・フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語の関係
14	Ⅴ．ヨーロッパのフランス語圏	【ベルギー】：ジョルジュ・シムノン、ジャン＝フィリップ・トゥーサン、ジャン＝ピエール・ヴェルヘゲン ・フランス語、フラマン語、ドイツ語の関係
15	まとめ	本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末レポート作成のためでもあるが、日頃から文学・映画・音楽・言語政策など、できるだけ多くフランス語圏の情報を収集すること。

授業で言及する資料の邦訳（可能であれば原典）などにも当たり、できるだけ理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回、関連資料を配布する。

【参考書】
授業内容の理解やレポート作成の際に参考となる書籍や図書館の蔵書を、以下に挙げる。希望者には、さらに詳しく参考書などを提示する。
・鳥羽美鈴著,『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』（関西学院大学出版会），2012 年.
・平野千香子著,『フランス植民地主義の歴史』（人文書院），2002 年.
・中村隆之著,『カリブ－世界論』（人文書院），2013 年.
・小畑精和著,『ケベック文学研究』（御茶の水書房），2003 年.
・明治大学中央図書館所蔵の「ケベック文庫」
・鵜戸聡著,「アラブ・フランコフォニーと越境の文学」『反響する文学』（土屋勝彦編，名古屋市立大学『人間文化研究叢書』創刊号，風媒社），2011 年.
・『アフリカのことばと社会：多言語状況を生きるということ』（梶茂樹・砂野幸稔編著，三元社），2009 年.
・岩本和子著,『周縁の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナリズムの変遷』（松籟社），2007 年.
・法政大学多摩図書館所蔵の「スイスロマンド文学コレクション」

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、期末レポート 70 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
主に配布資料を中心にして説明を行うが、出来るだけ説明が緩慢にならないように、映像・音声資料なども盛り込みながらメリハリをつける。

【学生が準備すべき機器他】
CD や DVD を用いることがある。

【その他の重要事項】
フランス語の知識は前提としない。

GA332

スペイン語圏の文化Ⅰ（多言語国家スペイン）

佐々木　直美

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**人数枠を 30 名とし、それを超えた場合は抽選とする**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン文化の多様性を知ることを糸口に、文化や社会の多様性のあり方について考え理解を深めることを目的とする。
授業内ではスペイン語のテキストや映像資料を用いるため、1 年次に初級文法を学んだものおよび同等レベルのスペイン語力を有する学生を対象とする。

【到達目標】
　このクラスではスペインの歴史と文化全般を取り上げ、受講生が更にスペイン語学習のモチベーションを高めることを目的とする。
　スペインの地域と文化の多様性をより深く理解し、自分なりのスペイン像を描けるようになることが目標である。

【授業の進め方と方法】
　教員が準備する AV 資料を用いながら、担当となった受講生がプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション終了後には、全体でのディスカッションを行い、最後に各自コメント―シートを記入する。第 1 回の授業でプレゼンテーションの担当者を決定するため、1 回目からの出席が強く望まれる。テーマの順序は、プレゼンテーションの担当者と調整するため入れ替わる可能性もある。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（プレゼン担当決定）	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
第 2 回	スペイン概説	スペインの歴史と文化について大まかな理解を得る。
第 3 回	エル・シドとその時代	エル・シドに焦点をあて、スペインの歴史について理解を深める。
第 4 回	ベラスケスとその時代	ベラスケスの作品と人物、彼が生きた時代について理解を深める。
第 5 回	ゴヤとその時代	ゴヤの作品とその時代について理解を深める。
第 6 回	女王フアナ	女王フアナに焦点をあて、スペイン史について理解を深める。
第 7 回	スペインの宗教と社会 1	聖ロシオ祭を取り上げ、スペインの宗教と祭りについて理解を深める。
第 8 回	アルハンブラ宮殿とアンダルシアの文化	世界遺産アルハンブラ宮殿とアンダルシアの歴史と文化について理解を深める。
第 9 回	スペインの民族（民俗）舞踏と芸能	フラメンコやスペインの民俗舞踏・その他の芸能について理解を深める。
第 10 回	スペインの宗教と社会 2	サンティアゴ・デ・コンポステーラとその巡礼道を通じてスペインの宗教実践について理解を深める。
第 11 回	スペインの食文化	食文化を通して、スペインの多様性について理解を深める。
第 12 回	ピカソ	ピカソの作品とそれが制作された背景について理解を深める。
第 13 回	ダリ	ダリの作品とそれが制作された背景について理解を深める。
第 14 回	ガウディとドメネク	建築家ガウディとドメネクについて理解を深める。
第 15 回	エル・グレコと古都トレド	エル・グレコの作品と画家ゆかりの地トレドについて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。
また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。

【テキスト（教科書）】
岩根圀一『物語スペインの歴史　人物編』中公新書、2004 年

【参考書】
田澤耕『物語　カタルーニャの歴史』中公新書、2000 年。
その他はテーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
　発表の内容 (30 %)、学期末レポート（30 %）、出席（40%）を総合評価する。出席は毎回配布するコメントシートの提出をもって、出席とみなし、3 回以上の欠席は不可とする。
　学期中 1 度は発表することが、単位認定の最低条件とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
　議論の時間を十分に確保する。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンの持参

GA327

スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）

佐々木　直美

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**人数枠を 30 名とし、それを超えた場合は抽選とする**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　このクラスでは、スペイン語圏の自然や歴史、文化全般に渡って受講生が幅広く興味と知識を得て、更にスペイン語学習のモチベーションを高めることを目的とする。
授業内で使用するテキストや映像資料はスペイン語も用いるため、１年次に「スペイン語１」〜「スペイン語６」を履修したものおよび同等レベルのスペイン語力を有するものを受講対象とする。

【到達目標】
　ラテンアメリカに関する記事やニュースをより深く理解し、自分なりの意見を述べられるようになる。

【授業の進め方と方法】
　教員が準備する AV 資料を用いながら、担当となった受講生がプレゼンを行う。プレゼン終了後に全体でのディスカッションを行う。第１回目の授業でプレゼンの担当者を決定し、日程を調整するので１回目からの受講が強く望まれる。なお、各テーマの順序は担当者との調整で入れ替わる可能性がある。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当者の決定。
第 2 回	ペルーの民俗芸能とアイデンティティ	講師の研究について紹介しながら、ペルーの社会変容について学ぶ。
第 3 回	ペルーの世界遺産と考古学遺跡①	マチュピチュやその他の考古学遺跡について学ぶ。
第 4 回	ペルーの世界遺産と考古学遺跡②	ナスカの地上絵について学ぶ。
第 5 回	ラテンアメリカと日本	移民とデカセギを通して、日本とラテンアメリカの関係について学ぶ。
第 6 回	ラテンアメリカの子供たち①	ペルーの児童労働を例に、働く子供たちの現状について学ぶ。
第 7 回	ラテンアメリカの子供たち②	児童兵士に関する映画を取り上げ、ラテンアメリカの内戦の歴史について学ぶ。
第 8 回	メキシコの考古学遺跡	メキシコの考古学遺跡について、その歴史と共に学ぶ。
第 9 回	メキシコの芸術家たち	ディエゴ・リベラとフリーダ・カーロを取り上げ、歴史的背景とともに画家と作品について学ぶ。
第 10 回	ラテンアメリカの食文化	食文化を通じて、ラテンアメリカ各国の歴史を学ぶ。
第 11 回	ゲバラとカストロ	キューバ革命を担った二人の人物について学ぶ。
第 12 回	エバ・ペロンとその時代のアルゼンチン	元大統領夫人エビータとその時代のアルゼンチンについて学ぶ。
第 13 回	チリの歴史	「新しい歌運動」とチリ社会について学ぶ。
第 14 回	チリの詩人	パブロネルーダとその時代について学ぶ。
第 15 回	総括	学期中に学んだことの総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼンテーションの準備として、自分が担当するテーマの図書を３冊以上読むこと。

【テキスト（教科書）】
禪野美帆ほか『初級〜中級スペイン語　世界遺産を訪ねて　改訂版』、朝日出版、2014 年。2300 円＋税。

【参考書】
網野徹哉『インカとスペイン帝国の交錯』、講談社、2008 年。
岩根 圀和『物語 スペインの歴史―海洋帝国の黄金時代 』、中公新書、2002 年。
増田義郎『物語ラテン・アメリカの歴史―未来の大陸』、中公新書、1998 年。
テーマに応じて、授業内でも追加で指示する。

【成績評価の方法と基準】
　発表の内容（40 %）、コメントカード（40 %）、学期末レポート（20 %）を総合評価する。
　学期中 1 度は発表することが、単位認定の最低条件である。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
映像資料の使い方をもっと工夫し、取り入れる。

GA332

カタルーニャの文化Ⅰ（言語 A）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カタルーニャの文化Ⅰはカタルーニャ語についての授業です。
カタルーニャ語で自己紹介や周りの人を紹介できるようになります。

【到達目標】
簡単なカタルーニャ語会話ができるようになりましょう。
そして、ローマ帝国の言語であったラテン語から（スペイン語やフランス語同様に）どのようにしてカタルーニャ語ができあがって行ったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。
内容が関連する秋学期の「カタルーニャの文化 II] の受講もお勧めです。

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語を使ってカタルーニャ語について説明します。
スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。
逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	自己紹介ー名前を伝える ［カタルーニャ語とは？］	自己紹介 Em dic... Com et dius...? Sóc la... カタルーニャ語とは？
2	アルファベットと発音	アルファベットと発音 Com s'escriu? Lletrejar
3	数字0－１００ 年齢、電話番号を伝える	数字 0－１００ Quants anys tens? Tens telèfon? TENIR 動詞
4	自己紹介ー出身を伝える	国の名前／国籍の形容詞 D'on ets? Sóc japonès. Sóc del Japó. Masc.-Fem. / Sing.-Pl.
5	世界の言葉 ［カタルーニャ語の歴史］	言語 Quines / Quantes llengües parles? PARLAR 動詞 カタルーニャ語の歴史［Historia de la lengua］
6	自己紹介ー趣味の話をする	趣味に関する語彙 Què t'agrada fer en el temps lliure? AGRADAR 動詞
7	自己紹介ー職業	職業 Professions De què fas? Sóc estudiant. FER 動詞
8	具体的に職業の話をする ［現在のカタルーニャ語］	On treballes? Què estudies? 疑問詞のまとめ TREBALLAR/ESTUDIAR 動詞
9	自己紹介ーお住まいの話をする	住所ー On vius? Fa 10 anys que visc a Tòquio. VIURE 動詞
10	場所の描写をする	場所の描写をする On és? Com és? Què hi ha?
11	［中間テスト］ 人を紹介する	TEST EQUADOR 人を紹介する Coneixes la Maria? És la meva professora. CONÈIXER 動詞
12	人の描写をする	人の描写 Com és? És rossa i prima.
13	家族のことを尋ねる、伝える	家族関係 (TENIR 動詞) EN 代名詞 Tens germans? No, no en tinc.
14	家族のメンバーの話をする	所有形容詞 La meva germana té vint anys
15	試験	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習をすること。
カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
「ニューエクスプレス カタルーニャ語」（白水社）
「Veus 1」Publicacions de l'Abadia de Montserrat
Parla.cat

【成績評価の方法と基準】
授業参加 ７０％
宿題提出 １０％
小テストと期末試験 ２０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。

【その他の重要事項】
進行状況により、内容変化あり。

【助成機関】
Aquest curs esta patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

Aquest curs esta patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

GA332

カタルーニャの文化Ⅱ（言語 B）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カタルーニャの文化 II はカタルーニャ語についての授業です。
カタルーニャ語で日常生活や自分の過去の話ができるようになります。カタルーニャ語の文法だけをやる、ということではありません。

【到達目標】
簡単な日常生活などのカタルーニャ語会話ができるようになりましょう。
また、ローマ帝国の言語であったラテン語から（スペイン語やフランス語同様に）どのようにしてカタルーニャ語ができあがって行ったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。
秋学期だけの受講も可能ですが、関連する春学期の「カタルーニャの文化Ⅰ」と一緒に受講することを勧めます。

【授業の進め方と方法】
授業はカタルーニャ語とスペイン語で行います。スペイン語を使ってカタルーニャ語について説明するわけです。スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	日常活動の話をする	日常活動 Què fas normalment? Què fas al matí? 朝、昼、晩 カタルーニャ語とは？
2	時刻を尋ねる、伝える	Quina hora és? Són dos quarts de deu. A quina hora comencen les classes?
3	頻度を伝える	頻度を表す表現 Quantes vegades a la setmana fas classe de català? Vas al cinema sovint?
4	余暇活動、週末の話をする	Què t'agrada fer els caps de setmana? No m'agrada veure la televisió, m'estimo més anar al cinema. 動詞 AGRADAR, PREFERIR, ESTIMAR-SE MES
5	余暇活動に対して感想を伝える	SEMBLAR / TROBAR 動詞 形容詞 El beisbol em sembla molt avorrit. カタルーニャ語とスペイン語の使い分け
6	先週末の話をする	過去形 Què vas fer el cap de setmana passat? Vaig anar a esquiar.
7	先週末の話をするーその感想	AGRADAR / SEMBLAR / TROBAR 動詞の過去形 La pel.lícula no em va agradar gens. La vaig trobar previsible.
8	写真を説明する	進行形 Mira, en aquesta foto estic plorant.
9	自分の過去の話をする	生年月日　数字１００〜 過去形 Vaig néixer l'any 1982.
10	買い物ーお店の営業時間	A quina hora obren al supermercat? 曜日、時間
11	食料品の買い物リストを作る	量を表す表現 食料品 1 quilo de ceba
12	食料品を買う	VOLER 動詞 商品の性質について話す Com vol els tomàquets? Ben madurs, sisplau.
13	レストランで	PODER 動詞 命令形 Em pot portar més pa?
14	人を招待する	義務を表す表現　HAVER DE その他の表現： Passa, passa. Seu, seu.
15	期末試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習をすること。
カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
「ニューエクスプレス　カタルーニャ語」（白水社）
「Veus 1」Publicacions de l'Abadia de Montserrat
Parla.cat

【成績評価の方法と基準】
授業参加　７０％
宿題提出　１０％
小テストと期末試験　２０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。

【その他の重要事項】
進行状況により、内容変化あります。

【助成機関】
Aquest curs està patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

Aquest curs esta patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

GA333

カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カタルーニャというと何を思い浮かべますか？ ガウディ？ バルサ？ それももちろんカタルーニャ文化の一部ですが、それだけではありません。皆さんがスペイン文化だと思っているものの中にも実はカタルーニャ文化だ、というものが少なくありません。ダリもミロもカタルーニャ人。ピカソも重要な時期をバルセロナで過ごしました。音楽では、ホセ (ジュゼップ)・カレラスやムンセラ・カバリェ。スポーツで言えば、北京オリンピックの代表選手の 80 %がカタルーニャ人。テニスのナダルだってカタルーニャ語圏の出身です。このほか海と山に囲まれたカタルーニャには豊かな歴史と文化があります。食文化、ワインの文化、民族舞踊、民謡... カタルーニャ文化の魅力を語り始めたらきりがないほどです。この授業では、カタルーニャの地理や歴史と関連させて文化について勉強して行きたいと思います。バルサやガウディを見る目が変わりますよ。きっと。

【到達目標】
カタルーニャ文化 III では、知っとかないといけない、基本的なカタルーニャの文化をやります。カタルーニャ文化 IV では、ニュースを読みながら現代のカタルーニャについて学びます。カタルーニャ文化 III か IV どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずです。

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語でやります。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使って行きます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができると思います。皆さんの積極的な参加を求めて、スペイン語による簡単な発表をしてもらいたいと思います。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1.	はじめに	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャの文化について概論。
2.	カタルーニャの地理と歴史	古代の歴史
3.	カタルーニャの地理と歴史	中世の歴史
4.	カタルーニャの地理と歴史	現代の歴史
5.	食文化	カタルーニャの郷土料理
6.	食文化	カタルーニャのワインやカバ
7.	民族芸能	民族舞踊サルダナ
8.	民族芸能	民族芸能「人間の城」
9.	民族芸能、カタルーニャの芸術家	民族音楽、民話; カタルーニャの音楽家
10.	カタルーニャ歳時記	クリスマスやカーニバルなどの年中行事
11.	カタルーニャの芸術家	ダリ、ミロなどの画家
12.	カタルーニャの芸術家	ガウディとムダルニズマ建築
13.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャの文学
14.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャ映画
15.	カタルーニャのスポーツ文化	バルサの歴史など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。
発表のために参考できる本、Web など。

【テキスト（教科書）】
とくにありません。プリントなどを授業中に渡します。

【参考書】
「物語　カタルーニャの歴史」（中公新書）
「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
その他

【成績評価の方法と基準】
発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。
授業参加　７０％
発表　２０％
宿題の提出　１０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【その他の重要事項】
進行状況により、内容変更あります。

【助成機関】
Aquest curs esta patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

Aquest curs esta patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

GA333

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カタルーニャという地名は日本ではあまり知られていなかったにもかかわらず、独立問題で最近日本のニュースでも報じられています。ニュース報じられている現代カタルーニャの背景にある豊かな歴史と文化を発見しましょう。

【到達目標】
カタルーニャ文化 IV では、ニュースを読みながら現代のカタルーニャ、そしてその背景にある歴史や文化について学びます。カタルーニャ文化 III か IV どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずです。

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語でやります。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使って行きます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができると思います。皆さんの積極的な参加を求めて、簡単な発表をしてもらいたいと思います。もちろんスペイン語で。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1.	はじめに。	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャのメディア。
2.	カタルーニャのニュース Noticias sobre Catalunya	カタルーニャの新聞 ニュースの読み方 Dónde encontrar noticias sobre Catalunya. Cómo leerlas.
3.	ニュースでのカタルーニャの社会 Catalunya en las noticias	現代のカタルーニャ 独立、アイデンティティなどについて Catalunya en las noticias: Independentismo e identidad.
4.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 Arte en las noticias	芸術 - Pintura 発表
5.	ニュースでわかるカタルーニャの経済 Economía catalana en las noticias	経済 - Economía (Índices del paro, PIB, balanzas fiscales) 発表
6.	ニュースでわかるカタルーニャの社会 La sociedad catalana (mobilidad)	社会ー Sociedad (División territorial, transporte) 発表
7.	ニュースでわかるカタルーニャのスポーツ Deporte en Catalunya	Más allá del FC Barcelona. カタルーニャのスポーツ選手 発表
8.	ニュースでわかるカタルーニャの政治 Política en Catalunya	Partidos políticos, elecciones, independentismo. 発表
9.	ニュースでわかるカタルーニャの社会 Sociedad: Escuela y lengua	カタルーニャの教育制度、カタルーニャ語　La escuela catalana. 発表
10.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 Arquitectura en las noticias	カタルーニャの建築家 Arquitectura catalana 発表
11.	ニュースでわかるカタルーニャの社会 Tradiciones en la actualidad	カタルーニャの伝統的な祝祭 発表
12.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 El cine catalán hoy en día	Actualidad del cine catalán. 現在のカタルーニャのシネマ 発表
13.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 Música	Festivales, conciertos, artistas. 発表
14.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 Gastronomía	La actualidad en el mundo de la alta cocina. La cultura del vino. 発表
15.	まとめ	カタルーニャの文化について 概論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。

【テキスト（教科書）】
とくにありません。プリントなどを授業中に渡します。

【参考書】
「物語　カタルーニャの歴史」（中公新書）
「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
その他

【成績評価の方法と基準】
発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。
授業参加　７０％
発表　２０％
宿題の提出　１０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】
できるだけカタルーニャに関する DVD やビデオを積極的に活用します。

【その他の重要事項】
進行状況により、内容変更あります。

【助成機関】
Aquest curs està patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

Aquest curs esta patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

GA211

英語圏の文化Ⅰ（文化史）

宇治谷　義英

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時代の変革期における大衆文化を通して見たイギリス社会

【到達目標】
(1)16 世紀末〜17 世紀初めの所謂ルネサンス期のイギリス演劇 (特に William Shakespeare の劇) を時代の移り変わりと関連させて把握できるようになること，(2) ルネサンス期のイギリス演劇のみならず，時代の変革期における大衆文化と社会を関連づけて考えられるようになること，(3) 英文で書かれた論考を自分なりに読み解いて，さらにそれを批評することができるようになること．

【授業の進め方と方法】
講義形式の回もありますが，受講者からの意見を聞く機会はとりたいと思います．途中からは受講者の発表が中心になります．受講者の発表は割り当てられた英語論考のまとめ，そして自分で選んだ作品の今日的解釈です．

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロ	授業の説明
2	劇団	ルネサンス期劇団の事情
3	劇場	ルネサンス期劇場の事情
4	テクスト	ルネサンス期上演台本の出版事情
5	論文の解読 (1)	Foakes 著"Playhouses and players"の発表 ("The arena theatres")
6	論文の解読 (2)	Foakes 著"Playhouses and players"の発表 ("The early private playhouses")
7	論文の解読 (3)	Foakes 著"Playhouses and players"の発表 ("The later theatres")
8	論文の解読 (4)	Foakes 著"Playhouses and players"の発表 ("Players and playing")
9	論文の解読 (5)	Hattaway 著"Drama and society"の発表 ("Literature and history")
10	論文の解読 (6)	Hattaway 著"Drama and society"の発表 ("The condition of England")
11	論考の解読 (7)	Hattaway 著"Drama and society"の発表 ("The court")
12	論考の解読 (8)	Hattaway 著"Drama and society"の発表 ("The city")
13	論文の解読 (9)	Hattaway 著"Drama and society"の発表 ("Women and families")
14	論文の解読 (10)	Hattaway 著"Drama and society"の発表 ("Other cultures")
15	時代と文化	1960 年代の社会と大衆文化について（Steven Berkoff とサッチャー主義など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義形式の授業では内容に関して毎回課題を与えられるので，翌週提出する．論考を扱う授業では前もって当てられた範囲について発表できるように準備する．グループ発表では前もってテーマを決めてグループ内で準備しておく．

【テキスト（教科書）】
特に使わない．

【参考書】
The Cambridge Companion to English Renaissance Drama, eds. A.R. Braunmuller, Michael Hattaway (Cambridge: Cambridge University Press, 1990).
1599: A Year In The Life Of William Shakespeare, James Shapiro (London: Faber and Faber, 2005).

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー等課題の提出 (30%)，プレゼン (30%)，試験 (40%)．なお，**教員による講義中および受講生による発表中の私語，やむを得ない場合を除く教室の出入りは厳禁です．再度注意を受けた場合はそれ以後授業に参加することはできません．**

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
担当した文献の英語について意見をいくつかいただいたので，教員から前もってある程度の道しるべ的な助言を与えることを検討したいと思っています．

GA329

英語圏の文化Ⅱ（思想史）

マーク・フィールド

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Culture, Language, and Thought of the English-Speaking World is the product of many historical interactions between a variety of peoples with different ways of thinking and living in the world. To understand many aspects of the societies in the modern English-Speaking World, one must first recognize the historical forces that shaped them and brought them about.

【到達目標】
The primary goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to understand: 1) how societies and cultures change in general and 2) how the cultures of the English-Speaking World developed their unique forms. Using the framework of cultural change, we will examine the formation of “Western” religious and political institutions that developed before 1500 CE in order to better appreciate the roots of “Western” social, political, and economic thought. Building on this foundation, the evolution of modern social systems and political-economic thought that occurred in the English-Speaking World after 1500 CE will be discussed.

【授業の進め方と方法】
The course will start out by outlining the forces behind cultural change. This will be followed by a series of lectures discussing the development of European political and religious institutions following the Ancient Greco-Roman era. We will then attempt to analyze Britain’s rather unique political & economic institutions at the beginning of the modern era as a product of cultural change. Building on this foundation, the cultural changes, i.e., the changes in thought, caused by the Protestant Reformation and Enlightenment Philosophy will be examined and their impact on the development of British and American Political-Economic Systems through the 19th and 20th Centuries will be discussed.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Introduction to the Forces Behind Cultural Change
2 回	Religion & Philosophy:	The Foundations of Culture & Thought?
3 回	The Role of Myths:	Social Formation in the Ancient World
4 回	Cultural Conflicts:	Change in the Hellenic World
5 回	The World at the End of the Ancient Era:	Roman’s Unique Position
6 回	Mass Migration:	The End of the Roman Empire
7 回	Political and Religious Conflicts:	The Medieval World
8 回	The World at the Beginning of the Modern Era:	Britain’s Unique Position
9 回	The Renaissance:	The English Reformation & The English Enlightenment
10 回	The English World:	Revolutionary Challenges, Industrialization & Empire
11 回	World War I:	Wilson’s Democratic Vision
12 回	World Depression:	Keynesian Economics & FDR’s New Deal
13 回	Post-War America & Britain:	The New International Order
14 回	The New-New Deal:	New Conservatives, New Democrats, New Labor
15 回	The Assessment:	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lectures at home to enhance their participation in classroom lectures and discussions. Students are also expected to find and analyze information from various forms of English resource materials and media independently during the preparation of their Research Papers.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course reading material during the semester.

【参考書】
Participating students will do independent reading for their Research Papers.

【成績評価の方法と基準】
30% In class Evaluation (Participation, Discussions, etc.)
30% Homework/Research Paper/Midterm Examination,
40% Final Examination/Term Project.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.
The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.
The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

GA327

英語圏の文化Ⅲ（現代事情）

栗飯原　文子

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**教室定員以上の受講希望者がいる場合には抽選します**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語圏世界とは、むろんイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土なども）を多く含みこむ。したがって、英語圏世界について学ぶこととは、多くの場合、旧植民地地域について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「第三世界」あるいは「南」と呼ばれた旧植民地地域の歴史的な軌跡を概観して、「世界史」を異なる視座から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。

【到達目標】
・旧植民地地域について学び、現代の国際状況の理解につなげる。
・旧植民地地域の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。
・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域の経験から再考する。

【授業の進め方と方法】
・講義形式をとり、毎回プリントを配布する。
・なるべく時系列にそって進めていくが、地域・トピックにもとづいて時代が前後することもある。
・授業中に複数の映像資料を参照するほか、学期の後半には一度、映画の全編を観賞して批評コメントを書いてもらう。
・授業の最後 10 分程度でリアクションペーパーを作成、提出してもらう。
・学期末の最後の授業で筆記試験を実施する。
授業中に配布したプリントやノートなどの持ち込みは許可するが、講義内容を把握していないと解答できないので、積極的に授業に参加して、しっかりメモをとってもらいたい。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション―第三世界とはなにか	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。
第 2 回	第一次世界大戦後の世界―民族自決	1919 年の民族自決の世界的な動向について学ぶ。
第 3 回	反帝国主義連盟とコミンテルン	植民地地域から多数の代表が集まった 1927 年のブリュッセル会議、また旧植民地地域とコミンテルンの関係について学ぶ。
第 4 回	第二次世界大戦後の世界―独立への道	第二次世界大戦前後の植民地地域の独立への動きを考える。
第 5 回	アジア・アフリカ会議	今年 60 周年を迎えるアジア・アフリカ会議（バンドン会議）の重要性を再考する。
第 6 回	アフリカ諸国独立	1957 年のガーナ独立からのアフリカ諸国独立の時代を振り返り、また、独立後の困難について考える。
第 7 回	アルジェリア戦争	アルジェリアは 1954 年から 1962 年の独立まで宗主国フランスに対して激しい独立戦争を戦った。アルジェリア戦争を中心に植民地の独立の経験について学ぶ。
第 8 回	非同盟諸国運動	1961 年にベオグラードで誕生した非同盟諸国（運動）というまとまりについて学ぶ。
第 9 回	キューバ革命と三大陸人民会議	1959 年のキューバ革命の衝撃、そして革命後のキューバを中心にして発展した連帯運動について考える。
第 10 回	第三世界から見る冷戦①	旧植民地において冷戦とは、決して「冷戦」などではなく、その影響下で激しい戦争が起こっていた。また、多くの場ではアメリカによる軍事介入を受けた。旧植民地地域における「冷戦」とはなんであったか、二度にわけて学ぶ。
第 11 回	第三世界から見る冷戦②	前回の続き。いくつかの地域と国の事例をもとに、旧植民地地域の「冷戦」の経験を学ぶ。
第 12 回	映画のなかの第三世界	映画の全編を鑑賞し、旧植民地の問題を学ぶ。
第 13 回	構造調整の時代―第三世界の弱体化	旧植民地地域はどのようにして苦境に陥っていったのか。その背景をたどり、現在の文脈につなげて考える。
第 14 回	現代の諸問題・全体のまとめ	全体のまとめをおこない、現在の旧植民地地域について概観する
第 15 回	期末試験	全体の復習として筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　10 %
・授業で提出する課題（リアクションペーパーなど）　30 %
・期末試験　60 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。

【その他の重要事項】
定員を超える受講希望者がいる場合には抽選をおこなう。
受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席すること。

GA331

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会Ａ）

須藤　祐二

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカのいくつかの文化的側面をアメリカ文学と関係づけて考察する。また、各時代における文学作品の描写や問題提起が、時には時代を超えて、アメリカの漫画、映画、音楽など、他の分野とどのようなつながりを結びうるのかも考えることで、アメリカ文学および文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】
文化史的な観点から、アメリカについての基本的な知識を身につける。また、アメリカ文学をいくつかの角度から考察することで、それぞれの文学作品の内容を知るとともに、そこに表れているアメリカ社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。
第 1 回授業でいくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマからアメリカの文学（や文化）がどう見えるのかを説明する。そのため、各テーマと関係した時代を切り取って、それを考察する、というプロセスが、何度か繰り返されるだろう。時間的な制約から時系列に沿った歴史の説明はできない。受講生は、アメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの設定	いくつかのテーマを設定する。
第 2 回	丘の上の町と法	植民地時代の理念がアメリカを支える神話としてどのように現代に受け継がれてきたのかを考える。
第 3 回	怖いのは心	ゴシック小説を中心に、恐怖を描く文学に焦点を当てて、その裏にあるアメリカの歴史との関係を考える。
第 4 回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説や絵画を検討しながら、この「アメリカ的な風景」の国家主義的な利用の歴史を考察する。
第 5 回	東と西への疾走	フロンティア消滅以後の東部と西部がどのような価値のメタファーとして捉えられ、それを 19 世紀から 20 世紀の文学がどう活用してきたかを考える。
第 6 回	アメリカを飛び出てみれば	アメリカ大陸を超えていくアメリカ文学（文化）を取り上げる。その独自性の考察とともに、これまでのアメリカ文学（文化）との比較を行う。
第 7 回	時間と都市	19 世紀末から 20 世紀半ばのアメリカの産業化とともに変化していった時間表象や都市表象に焦点を当てる。モダニズム以降の作家を取り上げ、彼らの作品が産業的発展のさまざまな影響をどのように受けているのかを考える。
第 8 回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様なエスニシティが混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、近代アメリカにおいて、国家としてのアメリカがこの概念に担わせてきた社会的・文化的意味を文学や映画を参照しながら考える。
第 9 回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家からみたアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。
第 10 回	観念としての「黒人」は誰のものか	20 世紀前半のハーレム・ルネッサンスを取り上げて、アフリカ系アメリカ人の芸術家たちが自分たちの文化をアメリカ社会にどう位置づけようと苦闘してきたかを考える。その反面で、ジャズがたどった歴史を学び、彼らの挫折と限界も論じる。
第 11 回	メディアと消費文化の拡張	アメリカにおけるメディアの歴史を概説し、アメリカ文化におけるメディアの果たしてきた役割を考える。
第 12 回	アフリカ系アメリカ人とスポーツ、スペクタクル	アメリカにおけるスポーツの文化的な価値づけの歴史と、アフリカ系アメリカ人の関わり方の変遷を解説する。
第 13 回	アフリカ系アメリカ人と音楽、スペクタクル	黒人音楽と消費文化の関係、さらに、消費文化のなかにとりこまれる「黒人」イメージを論じ、そこから取り残される現実を黒人作家がどのように描いてきたかを論じる。
第 14 回	ジェンダー観の変容	女性の権利拡大運動の推移を確認する。また、ジェンダー観の変化に伴って何が変化し、何が変わらずにいるのかを 20 世紀の文学や映像文化を例に考える。
第 15 回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業、資料（英文）を配布するので、その資料を読み込むこと。また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない。各回で必要になる資料は配布する。

【参考書】
『アメリカの歴史――テーマで読む多文化社会の夢と現実』
有賀夏紀 (編集) 油井大三郎 (編集) 有斐閣アルマ
『アメリカ文化史入門――植民地時代から現代まで』
亀井俊介 (編集) 昭和堂
『はじめて学ぶアメリカ文学史』
板橋 好枝 (著) 高田 賢一 (著) ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
学期末レポートを 70 %、中間レポートを 30 %とする。
なお、両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度と同様、視覚資料も用いる。
静かに受講できた、という感想が聞かれた。同様の授業になるように工夫をするつもりだが、受講生にもそのつもりで受講してもらいたい。

【その他の重要事項】
教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席すること。

GA331

英語圏の文化Ⅴ（文学と社会Ｂ）

北　文美子

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限・選抜あり**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１８世紀から２０世紀にかけての英語圏（イギリスとアイルランド）の文学作品を取り上げ、各作品の社会的・文化的・歴史的背景を考察しながら、文学を理解するうえでの知的視野を広げることをめざします。

【到達目標】
それぞれの文学作品にうかがえる文体・人物造型・風景描写などを仔細に検討することで、時代の思想を読み解き、近代・現代における文学と社会のつながりについて理解を深めます。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。毎回、講義内容についての各自の理解を確認するため、授業で扱った作品の引用をテキスト分析し、リアクション・ペーパーとして提出してもらいます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
１回	イントロダクション	コース概要について説明します。
２回	デフォーと近代資本主義	『ロビンソン・クルーソー』と資本主義社会の合理精神について考察します。
３回	メアリー・シェリーと近代ロマン主義	『フランケンシュタイン』とロマン派の興隆について考察します。
４回	マックファーソンとケルティシズム	『オシアン』とケルティシズム、オリエンタリズムとの関係を考察します。
５回	マシュー・アーノルドと帝国主義	『ケルト文学研究』とビクトリア朝時代の帝国主義、社会ダーウィン主義について考察します。
６回	バーナード・ショーと地方主義	『ピグマリオン』とビクトリア朝の標準英語化の動きについて考察します。
７回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、前半のまとめをします。
８回	イェイツと民族主義	『ケルトの薄明』と民話蒐集の政治的意図について考察します。
９回	ジョイスとモダニズム	『ユリシーズ』とモダニズム運動について考察します。
１０回	ベケットとポストモダニズム	『モロイ』とポストモダニズム思想について考察します。
１１回	アンジェラ・カーターとフェミニズム	『血染めの部屋』とフェミニズム思想、童話の脱構築について考察します。
１２回	ブライアン・フリールとポストコロニアリズム	『トランスレーションズ』とアイルランドの植民地経験について考察します。
１３回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、後半のまとめをします。
１４回	予備日	２１世紀の文学の展望について取り上げます。また、これまでの授業についての質疑応答を適宜行います。
１５回	試験	授業内試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回取り上げる作品を原書あるいは翻訳で事前に読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】
各回、プリントを配布します。

【参考書】
適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、リアクション・ペーパー（１０％）
試験（９０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
レビューでは授業のまとめに加えて、リアクション・ペーパーで出された個別の質問についても、個人が特定されない配慮をしながら、授業内で紹介し、適宜全体での情報共有をはかります。

GA331

英語圏の文化Ⅵ（文学と社会Ｃ）

中和　彩子

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限・選抜あり**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀から 20 世紀の変わり目に特有の「不安」――ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、男女の役割の変化、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖――にとりつかれた、世紀末のイギリス・アメリカ小説を読む。

【到達目標】

単に物語を追うのではなく、小説全体の構造と細部を同時に読みとることができるようになる。
作品と作者の文学史における位置づけを理解する。
19 世紀末のさまざまな「不安」がどのように表象されているか理解する。
イギリス・アメリカ小説を原語でも読めるようにする。

【授業の進め方と方法】

作品ごとに演習と講義を行う予定。
毎回、ワークシートとリアクションペーパーを課す。
受講者の人数によっては、授業内での発表や、グループワークも行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。
第２回	R. L. スティーヴンスン『ジーキル博士とハイド氏』(1886 年)	前半（演習）
第３回	『ジーキル博士とハイド氏』	後半（演習）
第４回	『ジーキル博士とハイド氏』	全体（講義）
第５回	アーサー・コナン・ドイル「まだらの紐」(1892 年)	演習
第６回	シャーロット・パーキンズ・ギルマン「黄色い壁紙」(1892 年)	前半（演習）
第７回	「黄色い壁紙」	後半（演習）
第８回	「まだらの紐」「黄色い壁紙」	講義
第９回	H. G. ウェルズ『タイム・マシン』 (1895 年)	前半（演習）
第 10 回	『タイム・マシン』	後半（演習）
第 11 回	『タイム・マシン』	全体（講義）
第 12 回	ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』 (1902 年)	前半（演習）
第 13 回	『闇の奥』	後半（演習）
第 14 回	『闇の奥』	全体（講義）
第 15 回	期末試験	試験の詳細については、授業にて指示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、全員の準備学習を前提として授業を進める。
演習の回、講義の回ともに、指定のテキストや資料を読み、予習用ワークシートをやり、授業に持参する。
具体的な方法については、第一回授業で説明する。

【テキスト（教科書）】

(1) 以下の作品の邦訳は教科書販売所にて購入のこと。
① 村上 博基訳『ジーキル博士とハイド氏』 光文社古典新訳文庫, 2009.
② 池 央耿訳『タイムマシン』光文社古典新訳文庫, 2012.
③ 黒原敏行訳『闇の奥』光文社古典新訳文庫, 2009.
(2)「まだらの紐」「黄色い壁紙」のテキスト、および、講義の回に読む資料については配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回提出するワークシートおよびリアクションペーパーが主）（40%）と期末試験の成績（60%）の総合評価。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

英語が不得意な学生に配慮し、テキストは、原書ではなく邦訳を主に使用することにした。
文学作品を読み慣れていない学生に配慮し、毎回、事前学習用ワークシートを作成することにした。

【その他の重要事項】

(1) 第一回授業で受講者の選抜を行った場合、原則として、第二回以降の受講者追加受け入れはしない。
(2) 授業支援システムを各自必ず使えるようにしておくこと。
授業で伝達したことや配布プリントのほとんどは、授業支援システムにもアップする。授業を欠席した場合は授業支援システムをチェックし、必要な情報やプリントを入手すること。

GA332

英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）

奥石　哲哉

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の構造について，様々な面から考察することが，本授業のテーマです．良きにつけ悪しきにつけ国際語になっている英語は，どのような言語であるのか，授業で考察していきます．

【到達目標】

１．学生が英語の音声面，文法面等の構造について，知識を得られること．
２．学生が英語の構造についての研究の仕方について，ある程度の知識を得られること．
３．学生が英語という言語に関しての様々な問に対して，答えるべき道筋をつけられること．
４．併せて，学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること．

なお，上記の１，２で述べた知識ですが，ヤマとなる点は以下の通りです．

a) 音声器官，発音記号．
b) 音素の考え方（構造主義）．
c) 言語の知識を構成する各部門の考え方．
d) 記述上のさまざまな単位．
e) 統語範疇（品詞論）．
f) 直接構成素分析，句構造．

【授業の進め方と方法】

履修者の数，知識のレベルなど未知数が多いため，現時点で具体的なことをすべて決定することはできない状況にあります．現時点で考えていることは以下の 2 点です．
１．講義形式の授業にせざるを得ませんが，可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思います．
２．何をトピックにするか明確にし，履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思います．

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション，英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方，教材について説明します．後半は，英語という言語について，どこでどのように話されているかなどを見た上で，英語史について簡単に触れます．
2	英語の音声について（1）	英語の音声について，その特徴を学んでいきます．言語音声に関する初回になりますので，音声研究において必要な調音器官などの用語，発声の原理について学びます．
3	英語の音声について（2）	英語の音声について，その特徴を学んでいきます．今回は，英語を離れ，一般的に単音の記述について見た後，子音・母音の分類原理について学習します．
4	英語の音声について（3）	英語の音声について学ぶ 3 回目です．英語の母音について，その分類を学んだ後，各母音について見ていきます．
5	英語の音声について（4）	英語の音声について学ぶ 4 回目です．二重母音，弱母音等について触れ，その後，フォニックスについて学習します．
6	英語の音声について（5）	英語の音声について学ぶ 5 回目です．母音についてまとめ，英語の子音を見ていきます．
7	英語の音声について（6）	英語の音声について学ぶ 6 回目です．子音についてまとめた後，音節，音結合について触れます．最後に，かぶせ音素（アクセント，リズム，イントネーション等）について解説します．
8	英語の文法について（1）	英語の文法について学ぶ 1 回目です．初回ですので，文法という用語の伝統的な意味と，新しい意味，生成文法の考え方等について学びます．
9	英語の文法について（2）	英語の文法について学ぶ 2 回目です．日英の語順の相違について概観した後，形態素，語，語彙素といった基本的な用語について学びます．
１０	英語の文法について（3）	英語の文法について学ぶ 3 回目です．統語範疇という概念について概観します．具体的に，形容詞を例にとって，いかに統語範疇が規定されるか，検討します．
１１	英語の文法について（4）	英語の文法について学ぶ 4 回目です．形容詞についての話をまとめ，他の統語範疇と形容詞の関係について学びます．英語の辞書の記述についても，検討します．
１２	英語の文法について（5）	英語の文法について学ぶ 5 回目です．構成素という概念（おおまかな説明：語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか）について学びます．そして，不連続構成素をどのように扱うかについての話をします．
１３	英語の文法について（6）	英語の文法について学ぶ最後の回です．この回は，SVO+不定詞という構文を例にとり，それがどのように分析されるか，検討します．
１４	まとめ〜今後につなげて	これまでの授業を総括し，その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか，授業で学んでいきます．
１５	試験	これまでの授業の内容理解に関して試験を実施します．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回，前回の内容を復習しながら，新しい内容に進みますので，学生は，基本的な用語を習得し，方法論を理解しながら，参考文献等を読んで授業に臨んでください．重要なのは，授業において，何らかの「引っ掛かり」を覚え，それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて，定着させていくことです．

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません．適宜，プリントなどを配布，提供いたします．

【参考書】

授業中，随時指定いたしますが，とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます．

・加島祥造 (1976).『英語の辞書の話』．東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載．]
・加島祥造 (1983).『新・英語の辞書の話』．東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載．]
・竹林滋・斉藤弘子 (1998).『改訂新版　英語音声学入門』．東京：大修館書店．
・中島文雄 (1991).『英語学とは何か』．東京：講談社 [講談社学術文庫].
・田中菊雄 (1992).『英語研究者のために』．東京：講談社 [講談社学術文庫].

・竹林滋 (1991).『英語発音に強くなる』. 東京：岩波書店 [岩波ジュニア新書].

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして，平常点を加味します．言うまでもないことですが，出席することはすべての前提です．欠席は基本的に認めません．（やむを得ない場合に限り，欠席 3 で-10%（大体のところ評価にして 1 段階下がる），欠席 5 で失格，というのを一応の目安とします．）

最終試験 50%，プロジェクト 30%，平常点 20%というのが，基本的な評価基準です．（プロジェクトについては，課さないこともありえます．その場合は，最終試験 60%，平常点 40%とします．）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

昨年度は英語で行ったこともあり，難しいという印象が多かったようです．従って，教えるべき内容については再度見直し，減らす方向で考えたいと思います．しかし，到達目標に記したことは，ことばの学問の道筋として知っておいてほしいものですので，「授業支援システム」等で発信するフィードバックを元に，何とか学んでいってほしいと思います．

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利ですし，発音記号のフォント，樹形図の書き方等に慣れることが可能になります．さらに，いろいろ興味深いサイトもありますので，授業や「授業支援システム」等を通じて，幅広く勉強ができます．

【その他の重要事項】

１．具体的なことは履修者の数，知識のレベルなどを加味して決めたいと考えています．
２．かなり速いペースで英語の構造についてお話しますので，真面目な態度で出席しないと履修は困難です．

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は，言語文化コースの 3,4 年次以上対象の授業です．（科目の性質上，SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます．）英語の構造をひと通り駆け足で学び，言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です．半期ですので，かなり駆け足で勉強することになりますが，英語の構造について，基本的な知識は網羅するように心がけます．履修者は，自分なりに興味があるトピックを見つけ，方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です．

GA332

英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）

奥石　哲哉

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の歴史は，ゲルマンの民族がブリテン島に侵入してから始まります．本授業では，本来は大陸のゲルマンの部族の言語であった言語がブリテン島に入り英語になってから，どのような変化を遂げて，21 世紀の今のような国際的な言語となっていったか，学ぶことをテーマとします．

【到達目標】

1．学生が英語の歴史について，ひと通りの知識を得ること．
2．学生が英語の歴史に興味を持ち，現代英語の様々な事象について，歴史的な説明を試みること．
3．学生が言語の歴史研究について，その大まかな方法論を知ること．
4．学生が英語の運用力をつけること．

【授業の進め方と方法】

本授業では，教材を読みながら英語の歴史について学んでいきます．履修者は，毎回指定する箇所まで教材を読んでくることから始めてください．この要領については後述し，さらに初回の授業でもお話しします．授業では，教材の内容について担当教員が質問したり，付加的な情報を加えたりして，履修者の参考になるべく努めます．その後，復習をして固めれば，理解力が高まります．

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション，英語以前の歴史	- 授業の進め方等の解説． - 印欧語族，比較言語学について． - 印欧祖語について． - 英語史上の時代区分．
2	英語以前の歴史（続）	- 印欧語族について（続き）． - ケルト人について． - ローマ人について．
3	英語以前の歴史（続々），古英語 (1)	- ラテン語の英語に対する影響． - アングロ・サクソン侵入． - ゲルマン諸語，下位区分について．
4	古英語 (2)	- 地名研究について． - Angli と wealas. - キリスト教化． - Viking の侵入． - Alfred 大王の治世． - 古英語期のルーン文字碑文． - Undley Bracteate と Franks Casket.
5	古英語 (3)	- 古英語の発音について． -「後舌から前舌へ」
6	古英語 (4)	- 古英語の文献と詩 (Law of Æthelberht, Ælfric's *Colloquy*, Lindisfarne Gospels, *Beowulf*). - 口承の伝統，頭韻，古英語の複合語化について．
7	古英語 (5)，中英語 (1)	- 古英語の詩と頭韻について． - Norman Conquest. - 英国の社会的 bilingualism について．
8	中英語 (2)	- 英国の社会的 bilingualism について（続）． - 英語の状況． - 中英語（文法，語，方言区分，語順など）について．
9	中英語 (3)	- 中英語の文献 (*Sumer is Icumen in*, *The Canterbury Tales*, *Piers Plowman*). - 社会変化について． - 大母音推移について．
10	現代英語 (1)	- 大母音推移について（続）． - 英語の復権． - 借用語について． - Shakespeare と欽定訳聖書について．
11	現代英語 (2)	- 大母音推移について（続）． - Shakespeare のオリジナル発音について． - 綴りの改革．
12	現代英語 (3)	- 初期の辞書について (*A Table Alphabeticall*, Johnson's dictionary). - 規範意識の成立． - 新語について． - *The Oxford English Dictionary*.
13	現代英語 (4)，20 世紀以降の英語 (1)	- *The Oxford English Dictionary*（続）． - 受容発音 (RP) と一般米語 (GA) について． - 英語の地域的な変異について．
14	20 世紀以降の英語 (2)	- 英語の地域的な変異について（続）． - ジャーゴンとスラング． - 英語の未来．
15	試験	これまでの授業の内容理解に関して試験を実施します．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は，まず，教材を読んでくることから始めてください．この際，批判的に読むこと（書かれていることに疑問はないか，曖昧な記述はないか等問題意識を持って読むこと），出てくる用語等を資料，ネット等を用いて調べること，を意識的に行うことが重要です．授業後，復習をして固めれば，理解力が高まります．重要なのは，授業において，何らかの「引っ掛かり」を覚え，それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて，定着させていくことです．

【テキスト（教科書）】

Viney, Brigit (2008). *The History of the English Language*. Oxford: Oxford University Press. (Oxford Bookworms Library, Stage 4.)[このシリーズは学習者用に語彙制限をかけており，Stage 4 は 1,400 語のレベルです．履修者は各自ネット等で購入し，初回に必ず持参ください．]

【参考書】

授業中，随時指定いたしますが，とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます．

・北村達三 (1980).『英語を学ぶ人のための英語史』．東京：桐原書店．（内容として一番標準的ですが，最近の英語についての記述が少々足りません．）
・寺沢盾 (2008).『英語の歴史　過去から未来への物語』．東京：中央公論新社 [中公新書].
・中尾俊夫，寺島廸子 (1988).『図説　英語史入門』．東京：大修館書店．
・ブラッドリ，H. 寺澤芳男訳 (1982).『英語発達小史』．東京：岩波書店 [岩波文庫].

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして，平常点を加味します．言うまでもないことですが，出席することはすべての前提です．欠席は基本的に認めません．（やむを得ない場合に限り，欠席 3 で-10%（大体のところ評価にして 1 段階下がる），欠席 5 で失格，というのを一応の目安とします．）

最終試験 50%，プロジェクト 30%，平常点 20%というのが，基本的な評価基準です．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

教材をしっかり読まなかった学生がいたのには，驚きました．やはりしっかり教材を読むことより初めて欲しいです．担当教員の話を聞いただけではダメで，やはり自分から勉強する態度が大切です．内容については，英語の授業だったので一見難しく思えるが，その実，そんなに難しいことは要求されていない，という意見もありました．

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利ですし，発音記号のフォント，樹形図の書き方等に慣れることが可能になります．さらに，いろいろ興味深いサイトもありますので，授業や「授業支援システム」等を通じて，幅広く勉強ができます．

【その他の重要事項】

１．本科目はグローバル・オープン科目の History of English と内容が同一ですので，重複履修はできません．英語の歴史を英語で学びたい方は是非そちらの科目を履修してください．

２．皆さんが学部で学ぶことの基礎となるのは，しっかりとした語学力（英語力）です．その意味から，教材を読んでいくことを中心にした授業構成にしています．授業に関しての具体的なことは，初回履修者を見て決定したいと思います．

３．「英語史」と「英国史」とは異なります．ことばに焦点を当てる授業であるということを，理解した上で履修してください．

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は，言語文化コースの 3,4 年次以上対象の授業です．（科目の性質上，SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます．）英語の歴史をひと通り駆け足で学び，言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です．半期ですので，かなり駆け足で勉強することになりますが，英語の歴史について，基本的な知識は網羅するように心がけます．履修者は，自分なりに興味があるトピックを見つけ，方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です．

GA332

History of English

奥石　哲哉

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this course is twofold:
1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and
2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

【到達目標】
1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense. (You see, you must keep that level of English acquired through your SA experience!)

【授業の進め方と方法】
Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (227 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:
- download and print out the slides and skim them over;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the H'etudes, i.e. 授業支援システム, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned in H'etudes for further comprehension.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction; early history	- Introduction - IE studies & comparative linguistics - Proto-Indo-European
2	Early history (cont'd)	- Proto-Indo-European (cont'd) - Celts - Romans
3	Early history (cont'd) and Old English	- Latin influence on English - Anglo-Saxon invasion - Germanic languages sub-divisions
4	Old English (cont'd)	- Place name studies - *Angli* vs *wealas* - Christianisation - Viking raids - King Alfred's reign - OE runic inscriptions - Undley Bracteate and Franks casket
5	Old English (cont'd)	- Old English Pronunciation - 'Back to front' movements
6	Old English (cont'd)	- Old English documents and poems (Law of Æthelberht, Ælfric's *Colloquy*, Lindisfarne Gospels, *Beowulf*) - Oral tradition, alliteration, and OE compounding
7	Old English (cont'd)and Middle English	- OE poems and alliteration - Norman Conquest - Social bilingualism in England
8	Middle English (cont'd)	- ME: social bilingualism - English started to be spoken! - Middle English (Grammar and lexis, OE and ME dialects, word order, etc.)
9	Middle English (cont'd)	ME documents (*Sumer is Icumen in*, *The Canterbury Tales*, *Piers Plowman*) - Social changes - Great Vowel Shift
10	Modern English	- Great Vowel Shift (cont'd) - English becoming commoner! - Borrowed words - Shakespeare and the King James Bible
11	Modern English (cont'd)	- Biblical parallel texts - Shakespeare in original pronunciation - Spelling innovations
12	Modern English (cont'd)	- The first dictionaries (*A Table Alphabeticall*, Johnson's dictionary) - Linguistic prescriptivism - New words - *The Oxford English Dictionary*
13	Modern English (cont'd) and Present-day English	- *The Oxford English Dictionary* (cont'd) - Received Pronunciation and General American - Regional varieties
14	Present-day English (cont'd)	- Regional varieties (cont'd) - Jargon and slang - The future of English
15	Final exam	Students are to take the final in-class exam, which is a comprehensive one covering all the contents of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to visit the relevant H'etudes site and get as much information as needed.
Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested in お知らせ posted immediately after each class session by the instructor.

【テキスト（教科書）】
Viney, Brigit (2008). *The History of the English Language*. Oxford: Oxford University Press.

【参考書】
Suggested reading materials to enhance students' comprehension will be mentioned through H'etudes in due course. However, the following are worth reading prior to the opening of the course:
- Algeo, John (2010). *The Origins and Development of the English Language*. Sixth edition. Boston: Wadsworth. [Based on the original work of Thomas Pyles. Careful about special phonetic notations used.]

- Barber, Charles, Joan C. Beal, and Philip A. Shaw (2009). *The English Language: A Historical Introduction*. Second edition. Cambridge: Cambridge University Press. [Offers clear explanations of linguistic ideas.]
- Bradley, Henry (1970). *The Making of English*. Tokyo: Seibido. [A bit out of date, but still a good introduction. Japanese translation available from Iwanami.]
- Schmitt, Norbert and Richard Marsden (2009). *Why Is English Like That? Historical Answers to Hard ELT Questions*. Ann Arbor: The University of Michigan Press. [A recent book; easy to read; written for English language teachers.]

【成績評価の方法と基準】
- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- Final exam: 50%.
- Project: 30%
- Class participation: 20%.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Overall, the instructor gets favourable comments from the students.

【学生が準備すべき機器他】
Using a personal computer is recommended, which enables you to get accustomed to make use of phonetic fonts as well as tree-drawing applications. Also, there are many interesting sites on the web which the instructor recommends you to visit.

【その他の重要事項】
In terms of its content, this course is the same as「英語圏の文化 VIII（英語の歴史）」taught in Japanese. Therefore, if you have obtained credits taking that course, you cannot obtain credits by taking this course.
This course is just a half-year (semestral) course about the history of the English language. Students are highly encouraged to study various matters not treated in class sessions.
Also, as is shown in Goals above, always having a strong interest in English per se is important. So, please study English hard and try to develop a 'feel' for the language.

【カリキュラム上の位置づけ】
Open for the third- and fourth-year FIC students (many of them probably being the SA-English students). Also open for non-FIC students. Appropriate for those who have strong interest in the English language and historical linguistics.

GA340

実践社会調査法

松本　悟

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的社会調査の実践と量的社会調査の原則を学ぶことで卒業研究などで活かせるようになることを目指す。なお、量的社会調査については原則を学ぶに留め実践は行わない。

【到達目標】
（1）統計的な社会調査データの読み取りができる
（2）質的調査（観察、ドキュメント分析、ライフストーリー調査）を実践できる
（3）研究発表の方法を理解・実践できる

【授業の進め方と方法】
グループワークを中心とする実習形式の授業。宿題（文献講読、調査）、講義、討議、発表で授業を進める

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと課題	本授業の内容を説明し、人数が多い場合は選抜のための課題に取り組む
2	問いと社会調査	研究や調査の前提である問いについて考える
3	問いの発表	宿題として課した「問い」を各人発表し「良い問い」とは何かを議論する
4	半構造化インタビュー練習	インタビューとはどのような調査方法かを理論と実践で学ぶ
5	ライフストーリー	ライフストーリー調査について実例をもとに学ぶ
6	観察結果のグループ討議	宿題として課した観察の結果をグループで共有し改善策を討議する
7	ライフストーリー構想	宿題として課したライフストーリーの構想についてグループで討議する
8	観察結果の発表（グループ A）	宿題として課した観察の結果を A グループのメンバーが個々に発表する
9	観察結果の発表（グループ B）	宿題として課した観察の結果を B グループのメンバーが個々に発表する
10	量的調査のリテラシー（グループ A）	宿題として課した量的調査の分析について A グループのメンバーが個々に発表する
11	量的調査のリテラシー（グループ B）	宿題として課した量的調査の分析について B グループのメンバーが個々に発表する
12	ライフストーリー初稿	宿題として課したライフストーリー調査の初稿をグループで討議する
13	ドキュメント分析（グループ A）	宿題として課したドキュメント分析の結果について A グループのメンバーが個々に発表する
14	ドキュメント分析（グループ B）	宿題として課したドキュメント分析の結果について B グループのメンバーが個々に発表する
15	振り返りとまとめ	KJ 法を使って調査において何が重要かをグループで討議し発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題、課題を多くこなす必要がある。その分、実践的な力が身につく

【テキスト（教科書）】
特にない

【参考書】
大谷他、2005、社会調査へのアプローチ―論理と方法、ミネルヴァ書房.
その他適宜授業で提示する

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%（フィードバックシートや互評で評価）、各自で調査と発表を行う「観察」「ドキュメント分析」「量的調査のリテラシー」がそれぞれ 15%、期末レポート（ライフストーリー）25%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
前年度の 30 人だと十分なフィードバックをできないと指摘されたため今年度は 24 人を定員とする

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。発表の際にはレジュメを人数分用意し事前に配布すること

【その他の重要事項】
1．この授業は演習形式で行うため、履修者の上限を 24 人とする。希望者は必ず初回の授業を受けること。初回の授業で上限を超える出席者がいた場合は、その場で選抜のための課題に取り組んでもらい、その結果をもとに履修許可者を決定する。履修許可者は最初の授業から 4 日以内に Web および学部掲示板で学生証番号を発表する。
2．この授業の位置づけは、卒業研究など実際の研究活動に必要な方法論を身につけることにある。
3．事前に統計の知識がなくても履修に問題はない。
4．選抜の基準は知識の有無や学力とは関係ない。
5．課題が多いので覚悟して履修すること。
6．遅刻は授業の進行の大きな妨げとなるので始業時には教室に入っていること

GA237

実践国際協力

松本　悟

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育で「実践」から学ぶことには 2 つの意義があると考える。1 つは体系立った学習の応用として、もう 1 つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探求の端緒となるようにする。

【到達目標】
（1）国際開発協力の理解に必要な概念を理解し説明できるようになる。
（2）国際開発協力の実践課題を学問的な問いに関係付けられるようになる。
（3）グループ討議の意義を理解する。

【授業の進め方と方法】
具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員による補足講義、の 3 つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース１　保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ発表。ケースの理解を深める。
4	ケース１を受けたグループ討議（１）	ケース１に関するグループ討議、その後全体討議。
5	ケース１を受けたグループ討議（２）	ケース１に関するグループ討議、その後全体討議。
6	ケース２　少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ発表。ケースの理解を深める。
7	ケース２を受けたグループ討議（１）	ケース２に関するグループ討議、その後全体討議。
8	ケース２を受けたグループ討議（２）	ケース２に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース３　参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ発表。ケースの理解を深める。
１０	ケース３を受けたグループ討議（１）	ケース３に関するグループ討議、その後全体討議。
１１	ケース３を受けたグループ討議（２）	ケース３に関するグループ討議、その後全体討議。
１２	ケース４　緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ発表。ケースの理解を深める。
１３	ケース４を受けたグループ討議（１）	ケース４に関するグループ討議、その後全体討議。
１４	ケース４を受けたグループ討議（２）	ケース４に関するグループ討議、その後全体討議。
１５	国際開発協力と私たち	授業全体をまとめ、国際開発協力と私たち一人ひとりのつながりについて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。大学に向かう通学電車でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。

【テキスト（教科書）】
山口しのぶ・毛利勝彦編『ケースで学ぶ国際開発』東信堂, 2011 年.
W. エレット『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社, 2010 年

【参考書】
授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する

【成績評価の方法と基準】
毎回の参加度（フィードバックシートで評価）20%、グループ討議での積極性（互評）40%、期末試験 40%（試験はケースに対する考察と、その結果の応用力を問うものとなる）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
遅刻や欠席によって固定したグループでの討議が困難になることがあるので、そうした問題が生じないような工夫をする

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に授業支援システムを使う

【その他の重要事項】
遅刻や欠席はグループワークを困難にし仲間に多大な迷惑をかけるので、第 1 回の授業には必ず出席し履修するかどうかを慎重に判断すること

GA237

国際関係研究１

松本　悟

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、ＮＧＯ、国際組織、民間助成団体、民間企業を主な考察の対象とし、国家の枠組みとは異なる視点から国際社会で生じている諸問題について考える。そのために必要な理論を習得するとともに、それを通して培った分析力を応用する意義を理解することを目指す。

【到達目標】
（１）授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
（２）「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
（３）関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【授業の進め方と方法】
講義のほか、授業に関連した問いを提示し周囲の学生と小グループで討議する時間を設ける。問いには正解はなく、論理的な思考力の涵養と他者の考えから学ぶ姿勢を習得する。歴史への理解を深めるため映像を使う場合もある。英語の専門的な文献読解を自由課題レポートとして課す。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
１	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
２	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する
３	国際関係の理論（１）	具体例を通して国際関係の基本的理論（リアリズム）を習得する。
４	国際関係の理論（２）	具体例を通して国際関係の基本的理論（リベラリズム）を習得する。
５	国際関係の理論（３）	具体例を通して国際関係の基本的理論（コンストラクティビズム）を習得する。
６	非国家アクター	ＮＧＯ、国際組織、民間助成団体、民間企業を国際関係の理論からどう捉えるかを学ぶ
７	国際社会におけるＮＧＯの機能（１）	ＮＧＯの機能として「政府や国家間機関の補完」に着目して考える。
８	国際社会におけるＮＧＯの機能（２）	ＮＧＯの機能として「政府や国家間機関の意思決定への影響」に着目して考える。
９	国際社会におけるＮＧＯの機能（３）	ＮＧＯの機能として「政府や国家間機関への抗議」に着目して考える。
１０	国際社会におけるＮＧＯの機能（４）	ＮＧＯの機能として「規範起業家」について考える。
１１	国際関係におけるＮＧＯの理論化	ＮＧＯの影響力や活動パターンの理論化を試みる。
１２	民間助成団体と国際関係	国際関係分野で活動するＮＧＯの主たる資金源である民間の助成団体の役割について考える。
１３	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える
１４	プライベートレジーム	国際関係において「民間」が形成する枠組みを理論的に考える
１５	非国家アクター分析から見える国家	授業全体のまとめをし、今後の学習の指針を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む習慣をつけ、国際関係に係る記事を毎日読むこと。その際紙媒体で読むようにすること。理論については授業で指示する文献を読むこと

【テキスト（教科書）】
松本悟・大芝亮編、2013、ＮＧＯから見た世界銀行―市民社会と国際機構のはざま―、ミネルヴァ書房.

【参考書】
毛利聡子、2011、NGO から見る国際関係：グローバル市民社会への視座、法律文化社.
最上敏樹、2006、国際機構論第 2 版、東京大学出版会.

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（毎回のフィードバックシートで評価）20%、中間レポート 40%、期末レポート 40%（レポートはいずれも知識を問うものではない）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業中の議論の時間を確保する

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること

【その他の重要事項】
「国際関係学概論」「平和学」を受講していることが望ましい。

GA212

他者イメージ論

中島　成久

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
他者との遭遇、他者の表象をテーマとした講義なので、われわれの自己認識の歴史的形成過程を学ぶことができる。

【到達目標】
われわれの自己認識のためには必ず他者の存在が不可欠である。そうした他者の存在をどのように理論化するかという問題で、エドワード・サイードの「オリエンタリズム」論を基礎におきながら、博物館、博覧会という装置の文化史的な意味を検討する授業である。最後の５回はその応用問題として、バリ島認識の背景を分析する内容である。

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業であるが、映像（DVD、Youtube など）を多用する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	オリエンタリズムについて
第２回	他者との遭遇	ディズニー映画「ポカホンタス」論
第３回	民族誌展示の系譜①	博物館が作り出した野蛮人像
第４回	民族誌展示の系譜②	１９世紀の万国博覧会
第５回	植民地主義と他者イメージ①	１９０３年「人類館」事件
第６回	植民地主義と他者イメージ②	１９０４年セントルイス博覧会
第７回	植民地主義と他者イメージ③	１９３１年パリ植民地博覧会①フランスとアンコールワット
第８回	植民地主義と他者イメージ④	１９３１年パリ植民地博覧会②フランスとアンコールワット②
第９回	植民地主義と他者イメージ⑤	１９３１年パリ植民地博覧会③オランダとバリ
第１０回	楽園バリ①	１９３０年代シュピースと楽園の「創造」
第１１回	楽園バリ②	１９３０年代コバルヴィアス、ミードのバリ島研究
第１２回	楽園バリ③	解釈人類学によるギアツのバリ研究
第１３回	楽園バリ④	観光人類学によるバリ研究
第１４回	まとめ	授業全体のまとめと補足
第１５回	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①テキスト、資料を読むこと。
②図書館などで関連文献を探し、参照すること。

【テキスト（教科書）】
吉田憲司　『文化の「発見」――驚異の部屋からヴァーチュアルミュージアムまで』岩波書店
吉見俊哉　『博覧会の政治学――まなざしの近代』中公新書
パトリシア・モルトン　『パリ万国博覧会――オリエンタリズムの欲望と表象』ブリュッケ
永渕 康之　『バリ島』講談社現代新書

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（７０％）＋平常点（３０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書をきれいに行うこと、

GA229

宗教社会論Ⅰ(仏教思想)

関口　和男

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**仏教思想**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド初期仏教のさまざまな思想を概観して、東洋的な考え方の特質をじっくり学び、それによって、わたしたちのものの見方を決定する思惟構造の相違を自覚する。

【到達目標】
インドの初期仏教思想の展開を手掛かりにして、西欧的思考法とは異なる東洋的な思考法を身につけることによって、自分を見直す力を養い、複眼的な視点を身につけ、身の回りの諸問題に対して様々なアプローチができるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
授業計画にある通り、インド初期仏教の成立から密教への道程を中心に授業を行います。参加する学生諸君との質疑応答をできるだけ入れて、ユニークな講義形式をとっていくつもりです。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教思想を学ぶ今日的意義	西洋的な思考とは全く異なる仏教の思想がもたらす新たな視点について考える。
第 2 回	初期仏教思想史の概観とゴータマ・ブッダの生涯	巷にあふれる誤った仏教史・仏教思想史を正し、初期インド仏教史を概観する。
第 3 回	ゴータマ・ブッダの思想（Ⅰ）四諦説	四諦（四つの真理）について学び、それらを「無明」という視点から総括する。
第 4 回	ゴータマ・ブッダの思想（Ⅱ）五蘊説	西洋的な主観や自我の観念との相違を明らかにする。
第 5 回	初期仏教の基本概念－苦・無我・無常－	アーガマ経典類が説く苦・無我・無常について考える。
第 6 回	説一切有部の教説の意義	いわゆる有部の思想を概観し、それが仏教思想史において果たした役割を考える。
第 7 回	大乗仏教の興起（Ⅰ）仏塔崇拝集団・アショーカ王の事績	いわゆる大乗仏教とは、何かをその形成過程から考える。
第 8 回	大乗仏教の興起（Ⅱ）十方世界観の形成と諸仏・菩薩論	同上
第 9 回	大乗仏教の理論的展開（Ⅰ）中観の思想	ナーガルジュナの中観の思想を概観する。とくに、「空」の観念を徹底的に考える。
第 10 回	大乗仏教の理論的展開（Ⅱ）唯識の思想	唯識の内容とその現代性について考える。
第 11 回	大乗仏教の理論的展開（Ⅲ）如来蔵の思想	いわゆる大乗仏教の思想的な柱である「如来蔵」思想の意味と意義を明らかにする。
第 12 回	インド密教の形成とその特質	密教についての正しい理解のために、その形成過程を学ぶ。
第 13 回	チベット仏教の史的概観	チベット仏教とは、そもそも何か、史的側面から学ぶ。
第 14 回	チベット仏教の思想	チベット仏教の思想的特質を考える。
第 15 回	中国・日本の仏教の特質	とくに、日本の仏教とは何か、上記の講義を振り返りつつ考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
今まで皆さんが、当たり前として受け取ってきた仏教行事や説法などを整理して、授業に臨むこと。新聞の文化思想芸術関係の記事を精読し、そこに現れてくる現代社会の精神的な病巣を認識しておくこと。

【テキスト（教科書）】
原則として用いません。

【参考書】
授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末に実施されるテストの結果によります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
もっと積極的に質問することを望みます。

GA333

宗教社会論Ⅱ (キリスト教と社会運動)

佐々木　一恵

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**キリスト教思想**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業では社会思想史・社会運動史の立場から、１９世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）をどのように捉えたのか、そして新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていったのかについて議論していきます。

【到達目標】
１．近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
２．宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
３．キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【授業の進め方と方法】
・各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
・各回ごとに、関連する一次史料の分析を、A4 一枚程度のリアクション・ペーパーにまとめて提出してもらいます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19 世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。
4	キリスト教社会主義の思想と実践	19 世紀初頭から半ばにかけて、キリスト教の立場から、産業資本主義の発達に伴う諸矛盾を解決しようとしたキリスト教社会主義の運動について議論する。
5	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19 世紀半ばから 20 世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。
6	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪悪とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
7	社会的福音運動とリベラル神学	19 世紀末から 20 世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的ゴスペル運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920 年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。
8	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
9	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
10	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19 世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
11	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
12	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
13	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
14	期末試験（１）	論述試験（持ち込み可）
15	期末試験（２）	記述・論述試験（持ち込み不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の復習をしっかり行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。

【テキスト（教科書）】
テキストはとくに使用しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】
岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995 年。
田村秀夫『千年王国論―イギリス革命思想の源流』研究社、2000 年。
森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006 年。
グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000 年。
土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004 年。
アリスター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】
1. リアクションペーパー（２０％）
2. 期末試験（８０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
史料分析の文書を、もう少し少しわかりやすいものにします。

GA214

宗教社会論Ⅲ (イスラーム思想)

江村　裕文

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**イスラーム思想**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このところアラビアおよびイスラームへの関心が急速に高まってきている。だが、一言でアラビアといっても、その内容はそう簡単ではない。ましてやイスラームとなると、さらに複雑である。第一に、アラブは三千年にわたる古い歴史を持ち、古典アラビア文化の華を咲かせた時期があり、それらは西欧文明の一部をさえなしている。第二に、今日のアラビア世界は純粋なアラビア民族ばかりでなく、政治的にアラブと呼ばれるにすぎない民族をも包含している。アラブあるいはアラビアという呼称は時代的にも地域的にも、かなり広い範囲にわたって使われるようになっている。イスラームはアラブのもとで生まれたが、アラビアの領域外に拡大し、今日ではきわめて多数の非アラビア民族のもとで活力を保っている。

本講では、イスラームを、宗教面と世界史の流れから概観したいと考えている。

【到達目標】

アラビアないしイスラームについて基本的な知識を得ること。

【授業の進め方と方法】

テキストを使用する。受講者にテキスト内容を報告してもらい、その内容について質問を受けたり、補足のコメントを加えたりして、「イスラーム」全般を取り扱う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション・アラビアの国々	授業の進め方の解説、アラビア諸国の紹介
②	イスラームの発見へ・報告箇所の割当	イスラームに関する一般的な紹介、報告箇所の割当
③	「宗教」とは	イスラームに限らず一般的に「宗教」をどうとらえるか紹介
④	イスラームの誕生	テキストの該当箇所の報告と解説（以下同様）
⑤	経典と教義 I	クルアーンの紹介と教義の概要
⑥	経典と教義 II	クルアーンの紹介と教義の概要
⑦	共同体と社会生活	ウンマの成立とイスラーム社会について
⑧	ハディース	預言者ムハンマドの言行録について
⑨	知識の担い手と国家	ウラマーの位置づけについて
⑩	神を求める道	神秘主義と正統神学について
⑪	スンナ派とシーア派	はじまりと教義上の違いについて
⑫	黄金期のイスラーム世界	イスラーム文化について
⑬	現代世界とイスラーム	現代のイスラーム世界と他の、特に西欧世界の諸問題について
⑭	まとめ	まとめ
⑮	試験あるいはレポート提出	試験あるいはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な箇所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料を参考にして、理解をしておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

小杉泰『イスラームとは何か』講談社現代新書

【参考書】

井筒俊彦氏の（著作集を含む）一連の著作を推薦する。またその他の参考文献等は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席点 40 点と、レポートあるいは試験の点 60 点によって評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

「パレスチナ問題」や「アラブの春」「イスラム国」「シリア内戦」等の現在進行中の出来事についても詳しく知りたいという要望がある。それらの問題にも可能な限り触れるようにしたい。

GA332

間文化性研究翻訳論

熊田　泰章

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**翻訳と情報**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
翻訳が自然言語間の転換作業であるにとどまらず、人間の意志表出のすべてを可能とする基本であることを学ぶ。
実例分析としては、文学作品の自然言語間における翻訳テクストを取り上げ、翻訳の基本概念を把握する。
サン・テグジュペリ：『星の王子さま』を使用する。できる限り多くの言語の翻訳を参照する。
星の王子さまは、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、中国語、朝鮮語、そのどれにおいても、私たちが子どもの時に読んだのと全く同じイメージなのでしょうか。小生意気な小さい大人なのか、めそめそした幼児なのか、元気一杯のわんぱくなのか、テクストに忠実に分析します。
日本語訳が新しく数冊出版されました。その比較検討も行ないます。

【到達目標】
翻訳の原理と可能性・限界を知る。
私たちが日常的に行っている他言語テクストの相互関係について、学術的概念をあてはめて理解する。

【授業の進め方と方法】
翻訳の基本概念を概説する。順次導入する概念、ターミノロジーを用いつつ、実例分析を行なう。日本語、英語以外のテクスト実例は、学生による分析に付する。学生による分析レポート提出、そのプレゼンテーションも随時行なう。
　１回目の授業でミニレポートを書いてもらいます。
　その課題：「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
１	イントロダクション	「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？
２	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明１:シニフィエ
３	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明２：恣意性
４	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明３：共時的・通時的
５	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明４：間文化性
６	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明５：固有名詞と代名詞
７	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明６：オノマトペと慣用表現
８	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明７：社会制度
９	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明８：翻訳と言語変容
１０	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明９：翻訳と文化変容
１１	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明１０：翻訳の双方向性
１２	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明１１：解釈学的循環
１３	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明１２：複合的テクスト
１４	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明１３：基本概念の総括
１５	まとめ	まとめと最終レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
『星の王子さま』の各言語翻訳版を読み比べる。
導入されたターミノロジーについて参考文献を用いて調べ、理解する。

【テキスト（教科書）】
『星の王子さま』の翻訳版を以下のように各自で購入・用意してください：
　１日本語訳がかなりの数出版されていますが、そのどれか１冊。
　２加えて、英語、フランス語などなどのどれか１冊。
　（日本語以外のものは、大きな書店の洋書売り場などにあります）
毎回の授業に持参してください。

【参考書】
熊田泰章編『国際文化研究への道―共生と連帯を求めて―』彩流社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
毎回ミニレポートを課すので、必ず提出すること。
その上で、最後に最終レポートを書く。
ミニレポート・最終レポートでは、導入したターミノロジーを適切に使用して、翻訳に関する考察を論述できるようにする。
ミニレポート 50 %・最終レポート 50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生からの提案を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
概念語の確認のために、授業内でも電子辞書を用いることが必要です。

GA332

多文化社会と人間

村野　節子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは、自分の文化というフィルターを通して世の中を見ています。同じ文化に属している人は同じようなフィルターを持っています。日常生活で「あの人？、ふつうの人だよ」、「それってあたり前、常識だよ」など言われたときに、会話の中でコミュニケーションギャップはほとんど起こりません。私たちは、普段「ふつうって何？」「ふつうの人ってどんな人？」「あたり前、常識って？」ということを考えることは、あまりありません。しかし、フィルターを少しだけ変えることで今までとは違ったフィルターを見つけ、何気なく使っている「ふつう」を見直すことができます。本授業は、無意識のうちに規定してしまっている自分の中の「ふつう」を意識化し対話を始めることをテーマとしています。最終的には、多文化に対して複眼的な視野を持てるようになることを目指します。

【到達目標】
・自分が持つ「ふつう」「常識」について疑問を感じ、違った視点を持つことができる。
・自分が学び、理解したことを自分の言葉で表現し、伝え、行動を起こすことができる。

【授業の進め方と方法】
毎回テーマに関連した新聞記事・書籍の一部の読み込み、映像資料を通してグループディスカッションや全体討論を重ねる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション ウオーミングアップ	授業の進め方の説明 ディスカッションのためのウオーミングアップ
第 2 回	新しい常識を発見する	様々な質問から自分の中の’常識’を再考する
第 3 回	自分の中の「ふつう」とは？	自分や周囲の人に無意識に存在するステレオタイプを意識化する
第 4 回	学校に行けない子供たち	外国人児童の問題を取り上げ、関連資料を基にディスカッションを行う
第 5 回	図書館ってすごい！	正しい情報を制するものは勉強（=人生）を制す。本授業のみならず大学でよりよく学ぶために必要な資料の集め方、高度な検索法などを学ぶ
第 6 回	移動する子どもたち	幼年期に異文化の中で過ごした人の体験を読み、ことば・思考・アイデンティティについてディスカッションを行う
第 7 回	ホームからの転落確率？	視覚に困難のある人の体験談を紹介し、公のサービスについてディスカッションを行う
第 8 回	ジェンダーと’〜らしさ’	セクシュアルマイノリティの問題を取り上げ、関連資料を基にディスカッションを行う
第 9 回	仕事とコミュニケーション	さまざまな人の「はたらく現場」について関連資料を基にディスカッションを行う
第 10 回	マイノリティとマジョリティを体験する	ゲームを通してマイノリティ、マジョリティの立場を体験し、ディスカッションする
第 11 回	企業文化のグローバル化？	日本の企業文化輸出について関連資料を基にディスカッションを行う
第 12 回	多文化を教育する 1	これまでの事例を基に、多文化教育実践や多文化向けサービスのアイディアを出し合う
第 13 回	多文化を教育する 2	「多文化を教育する 1」で出し合ったアイディアをシェアする
第 14 回	レポート課題・第一稿提出	自分のアイディアを効果的に示すレポートの書き方とより良いアイディアについて構想を練る
第 15 回	まとめ	講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最終課題（レポート）のための資料の読み込みや資料探し

【テキスト（教科書）】
適宜資料配布

【参考書】
適宜参考資料を紹介、指定

【成績評価の方法と基準】
最終レポート４０％、毎回の意見シート４５％、参加度５％、レポート第一稿完成度１０％（レポート提出資格者：８割以上の出席。就活をしている場合は考慮しますのでオリエンテーション時に申し出てください。）
レポートの書き方の詳細については、授業内で指示します。
毎回授業時に記入する意見レポートは、一回の出席につき１〜３で点数化されます。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
欠席した場合は欠席時の資料は翌週までは保管しておきますが、それ以降は破棄します。支援システムの「教材」に入れておきます。保存期間は１週間ですので手渡しで受け取れなかった場合は、ダウンロードをし忘れないように注意してください。
最終レポートは授業時提出ですが、最終授業後に支援システムの「課題」にも入れてください。

【その他の重要事項】
受講者数に応じて各回の内容は、多少前後、変更する可能性があります。
履修希望者はオリエンテーションには可能な限り出席してください。
本授業は、対話を通して学びます。「私、コミュニケーション苦手」「考えること苦手」という方、また「話すこと大好き」「考えること大好き」という方も是非参加してください。
担当講師はキュレーターとして授業を運営していきますが、主体は学生の方です。
グループは固定しませんので、日ごろ話さない人と意見交換をする機会が持てます。
連絡先　setsukomurano@gmail.com

GA227

国際関係研究２

松本　悟

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**国際関係研究**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：〇

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では東南アジア半島部のメコン河流域国という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。特に「開発と環境」をテーマにすることで、社会科学と自然科学の融合的な視点を身につけることを目指す。なお、本授業では環境を自然環境と社会（生活）環境の両者を含む概念として捉える。

【到達目標】
（1）「国際関係」に「地域研究」の視点を応用できる。
（2）「開発と環境」に係る「国際関係」を分析する際に有用な学問的な理論や概念を理解し説明できる。
（3）東南アジア半島部の「国際関係」を論じた英語論文を適切に理解できる。

【授業の進め方と方法】
現地の様子を知るための映像、事例の講義、理論的なインプットという 3 つの要素で構成する。授業内容に係る問いを提示し近くの席の学生同士で議論する時間を設けることもある。自由提出課題レポートとして英語の専門的な文献を課し、英語論文の読解力を養う。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙いやレポートなどについて説明する。
2	地域を学ぶ意義	メコン地域を概観した上で、国際関係の中で地域を学ぶことの意義について考える。
3	越境環境問題	「メコン地域」内で起きている越境的な問題を捉える分析視角を考える。
4	村から見た国際関係	１つの村の歴史を紐解きながら、ミクロとマクロの視点で国際関係について考える。
5	第三世界のポリティカルエコロジー	自然・社会環境問題の政治経済的側面について事例をもとに理論的に考える。
6	国際関係と調査	メコン地域の開発事業を事例に環境・社会影響評価調査の課題について考える。
7	公的資金と民間投資	ビルマの資源開発が引き起こした人権侵害を例に資金源の「目隠しの効果」を考える
8	資源の呪い	ビルマを例に、資源が結果的に人々を不幸にする実態について考える
9	国家間債務の機能	対ビルマＯＤＡの分析を事例に国家間債務が国際関係に及ぼす機能について考える
１０	コモンズと財	カンボジアの漁業紛争を財の性質という視点から考える。
１１	市場の失敗、政府の失敗	資源が枯渇する原因を囚人のジレンマなどの理論を使って考える
１２	洪水と水害	ベトナムの洪水を事例に「多過ぎる水」の問題について考える
１３	メコン河開発の歴史	地域の歴史と重ね合わせて、開発の歴史を紐解くことで地域の視点で国際関係を捉える意義を考える。
１４	歴史を捉える視点	解釈学、系譜学、考古学の視点から授業で扱ったイシューを再度検討する。
１５	振り返りと責任論	授業全体をまとめた上で、メコン地域で生じている問題に対する責任をどのように考えるのか議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指示する文献（日本語や英語）を読んでくること

【テキスト（教科書）】
松本悟, 1997, メコン河開発, 築地書館.

【参考書】
毎回の授業で示す

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（フィードバックシートで評価）40%、期末レポート 60%（レポート課題は授業中に提示する。国際関係と地域研究について論理的な思考を求める内容）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
理論で躓くことが多いので、前回の授業のフィードバックを受けた補足説明を次回授業の冒頭で行う

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って授業支援システムの自己登録すること

【その他の重要事項】
「国際関係学概論」「平和学」「国際関係研究１」を受講していることが望ましい。

GA215

移民研究Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）

髙柳　俊男

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮民族のディアスポラ（離散）について考察する。

我々の暮らす日本社会には、「在日韓国人」「在日朝鮮人」「在日コリアン」などと呼ばれる韓国・朝鮮系の人々が大勢住んでいるが、同様の現象は中国・旧ソ連・アメリカなど、世界各地で見られる。これらの人々が朝鮮半島を離れ、各地に移住した歴史やその後の変化、とくに現地社会での他民族との衝突や共生の営みを、各種の研究成果や私自身の見聞をもとに講義する。

朝鮮民族の移動と定着という個別のテーマを探求することを通して、移民現象や移住地での多文化共生・文化の変容という、世界に普遍的にみられる現象への理解につながるよう努めたい。

【到達目標】

・各地に暮らす朝鮮民族について、その形成の歴史や現状の概略を理解する。
・それらをもとに、朝鮮民族のディアスポラ（離散）全体について考察する。
・朝鮮民族の事例を普遍化し、移民や多民族共生全般について考える契機をつかむ。
・とりわけ私たちの住む日本における移民や多民族共生について、具体性を伴って考えられるようにする。

【授業の進め方と方法】

世界各地に散らばっている朝鮮民族について、中国・旧ソ連・日本・アメリカを中心に、各数回ずつ取り上げて講義する。関連する映像資料を随時使用し、可能ならゲストをお招きした授業も実施したい。

毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などを「コメントシート」に書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、限定的ながら双方向的な授業になるよう心がけたい。

また、ネット上の授業支援システムを、もう１つの授業の場として活用し、授業の補足や発展に資したい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業計画の解説、参考書紹介、受講理由書の記入など。導入として、日本の各界で活躍する外国ゆかりの人物について触れる。
第 2 回	概況	ディアスポラ概念および朝鮮民族のディアスポラの概要について、まず学ぶ。
第 3 回	朝鮮内ディアスポラ	朝鮮内の人口移動の典型として、火田民・土幕民の存在とその実態を知る。
第 4 回	中国の朝鮮族①	多民族国家中国の少数民族の一つに位置づけられる朝鮮族について、その概要を知る。
第 5 回	中国の朝鮮族②	前回学んだ中国の朝鮮族について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第 6 回	旧ソ連の高麗人①	旧ソ連の高麗人（朝鮮系の人々）について、その概要を知る。とくに、スターリンによる 1937 年の強制移住について学ぶ。
第 7 回	旧ソ連の高麗人②	前回学んだ旧ソ連の高麗人について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第 8 回	在日韓国・朝鮮人①	私たちにとって一番身近であるはずの在日韓国・朝鮮人については、回数をかけて重点的に学ぶ。今回はまず、その概要として、形成史を知る。
第 9 回	在日韓国・朝鮮人②	在日韓国・朝鮮人史に関して、とくに海峡を越えた人の移動の観点から再整理する。
第 10 回	在日韓国・朝鮮人③	海峡を越えた人の移動の一つで、現在にも大きな影響を及ぼしている 1959 年からの北朝鮮帰国事業について、詳しく学ぶ。
第 11 回	在日韓国・朝鮮人④	在日韓国・朝鮮人について、ここまで学んできた内容を映像視聴を通してまとめる。
第 12 回	在日韓国・朝鮮人⑤	在日韓国・朝鮮人についての最終回として、若い世代のアイデンティティについて考察する。
第 13 回	在米コリアン	在米コリアンについて、ごく大まかな概要と、とくに 1992 年のロス暴動に関して学ぶ。
第 14 回	海外養子問題	韓国から戦後、孤児や私生児などが多数、養子として欧米に送られた。近年、当事者自らによってつくられた映画も紹介しながら、この問題を重点的に考察する。
第 15 回	全体のまとめ	朝鮮民族のディアスポラについて、半年間の学習を総括するとともに、移民や多民族共生のあり方全般への考察を加えて最後のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するプリントに「自習課題」を設定し、同じものを授業支援システム上にも載せる。これは「自習」なので必ずしも提出を要しないが、認識を深化させるためにもやってみることをお勧めする。提出した学生には、たとえば就職活動による授業の欠席などを補う要素として加味する。

【テキスト（教科書）】

特定の書籍をテキストとしては使用せず、毎回、Ａ３で表裏１枚のプリントを作成して配付する。

【参考書】

参考文献はそのつど指示するが、事典として『朝鮮を知る事典〔新版〕』（平凡社）、『岩波小辞典　現代韓国・朝鮮』（岩波書店）、『世界民族問題事典』（平凡社）、『世界民族事典』（弘文堂）、『人の移動事典：日本からアジアへ・アジアから日本へ』（丸善出版）などを適宜参照すること。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出する「コメントシート」に反映された授業に取り組む姿勢 40 %、授業支援システムを利用した中間での小課題 20 %、学期末のレポート 40 %を基準とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

過去のアンケートでは、「映像を使っていてわかりやすい」「ゲストを招いての対談がよかった」「学部の中でもすばらしい授業の一つ」、などの好評をいただいた。

今回も新たな授業改善に取り組みながら、そうした授業になるよう努力したい。

【その他の重要事項】

朝鮮半島の歴史や文化についての一定の知識を前提に話を進める、やや応用篇の授業である。事前に、毎年開講の「朝鮮語圏の文化Ⅰ朝鮮半島の文化史」を受講しておくことが望ましい。未受講の場合は、そうした前提知識を自分で補うよう努めながら授業に臨むこと。

また、中華系や日系の移民を扱う「移民研究Ⅰ」「移民研究Ⅲ」（ともに隔年開講）も用意されているので、あわせて受講することをお勧めする。

GA227

地域紛争とエスニシティ

中島　成久

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「インドネシアのポストコロニアリズムというテーマで講義を行う。オランダ植民地時代にまでさかのぼる領土と暴力の問題を詳細な現地研究を元にした資料から考える。
現代国民国家が普遍的に抱える「国家と暴力」の問題を、植民地時代にまでさかのぼり検討することで、その本質を理解する。

【到達目標】
１９６６年登場したスハルト政権は「開発独裁」体制と呼ばれるが、その本質を理解するにはオランダ植民地時代だけではなく、日本軍政時代の影響を考慮する必要がある。
オランダ植民地体制の確立に伴う「民族」概念、抵抗、独立革命時代の国民意識の形成、そしてスハルト時代における開発と紛争の関係を理解し、現代国民国家に特有な「暴力」の起源の問題に迫る。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。DVD、VHS、Youtube などの視聴覚教材を多用する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	国家と暴力	１９６５年の９月３０日事件に関するジョシュア・オッペンハイマー監督のドキュメンタリー映画解説
第２回	領土と起源①	オランダ東インド会社
第３回	領土と起源②	シンガポールの成立
第４回	領土と起源③	オランダ領東インド（蘭印）
第５回	領土と起源④	アチェ戦争
第６回	領土と起源⑤	慣習法共同体の発見
第７回	革命①	インドネシアの国民音楽
第８回	革命②	日本軍政から独立へ
第９回	開発の時代①	移住政策の西パプア問題
第１０回	開発の時代②	東ティモール「統合」
第１１回	開発の時代③	アサハン・プロジェクト
第１２回	開発の時代④	アブラヤシ開発①
第１３回	開発の時代⑤	アブラヤシ開発②
第１４回	開発の時代⑥	コトパンジャンダム裁判
第１５回	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１　授業内で指示した参考文献をよく読むこと
２　図書館などで関連文献を調べ、さらに深めること

【テキスト（教科書）】
中島成久　『インドネシアの土地紛争――言挙げする農民たち』創成社新書、２０１１年
加納啓良（編）　『インドネシアの検定』メコン、２０１０年

【参考書】
池端雪浦（編）　『東南アジア史 II、島嶼編』山川出版社、１９９９年
その他随時紹介する

【成績評価の方法と基準】
試験（７０％）と平常点（３０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書をもっと丁寧に行うこと

GA221

持続可能な社会

島野　智之

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**人数によっては選抜する。初回授業に出席すること。**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々な分野で持続可能な社会をどの様に作っていったら良いのかが，考えられている．ここでは生物多様性にもとづいて，持続可能な社会作りについて考えたい．
例えば生物の分布は国境とは無関係だ．人間以外の生物側の論理は，人間社会とは関係がない．しかし，人間社会では自分たちの利潤を理由付けしながら生物多様性を取り扱う，それは人間社会で，生物多様性に価値を与えるときに説明がしやすいからだ．むしろ，生物多様性とは，人間が多様な価値観をみとめるという人間側の論理なのかもしれない．
また，いわゆる不快動物をとりあげて生物多様性についても考えて見る．

【到達目標】
人間が本来その一部であるはずの生物についても理解し，生物多様性について説明が出来る．その上で国家を超えた国際社会を捉え直すことが出来る．

【授業の進め方と方法】
講義および討議・ゼミ形式で行う。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、レポートにまとめる。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	生物多様性と価値観の多様性 人間は、なぜ不快動物を不快と感じるのか？
第 2 回	持続可能な社会作り	なぜ持続可能な社会を作らなければならないか
第 3 回	持続可能な社会のために	DVD で学ぶ
第 4 回	生物多様性とは 1	生物多様性とは何か？ 名古屋議定書
第 5 回	生物多様性とは 2	地球上でおきている生物多様性問題についての問題提起
第 6 回	生物多様性とは 3	地球上でおきている生物多様性問題についての問題に関する発表
第 7 回	不快動物・都市に生息する生き物	講義と討議，不快動物・都市に生息する生き物についてあげてみる
第 8 回	生物の学名	学名とは何か（図鑑の学名が読めるようになる）
第 9 回	遺伝とは何か？	メンデル遺伝〜生物の多様性がなぜ生じるか〜
第 10 回	遺伝子解読の衝撃	遺伝子解読が個人の生活に，どの様に不利益をもたらすか
第 11 回	世界の気候	世界の気候と生物分布
第 12 回	持続可能な農業　1	DVD で農業生産現場について学び　我々は，他の生物の命を食べている事を学ぶとともに，農薬などは，実際には生産者への害が多いという視点の転換を迫る
第 13 回	持続可能な農業　2	日本の持続可能な農業について （事前調査による討議）
第 14 回	東南アジアの自然	東南アジアの生物多様性の状況 （事前調査による討議）
第 15 回	持続可能な社会作りのための教育	2030 年-2050 年の社会で，舵を切るのは，現在，高校生以下の児童生徒である．これらの児童生徒にどのような教育を行っていったら良いのだろうか．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。
事前につたえるので，必要な知識などを予習しておくこと（その方法などお知らせします）．また，レポートを課すので，授業の内容に沿って作成するようにしてください．

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】
必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回行う実験についてのレポート（30%）および授業への積極的な貢献度（25%）を主たる評価とします。試験は適宜おこないます。討議発表も行いますので，その内容も評価します (45%).

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント画像やビデオ映像も用います。パソコンの使用も一部予定しています．

【その他の重要事項】
希望者多数の場合は選抜を行いますので、最初の授業には必ず出席して下さい。
1 年生，2 年生，3 年生，4 年生の順に優先的に 30 名を限度として選抜を行います．
授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。

GA337

地域協力・統合

大中　一彌

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ヨーロッパという概念の由来から説きおこし、20 世紀中葉における統合の制度化までの歴史を学習する。

【到達目標】
地中海やアフリカ大陸、またロシアや中東地域を含むユーラシア大陸といった隣接地域との交流も念頭に置きながら、時事問題として取り上げられることの多いヨーロッパ統合の問題を、より包括的、原理的な視点において考える姿勢を身につける。

【授業の進め方と方法】
講義形式。授業支援システムをつうじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事、基本的な用語の説明	授業内容の紹介と質疑（科目選択にあたって）。地域とは？　経済統合の諸段階。統合をめぐる諸仮説
2	世界の中心としてのヨーロッパ？	主要なトピックの概説①西ヨーロッパ中心史観の背景（17-19 世紀　ウェストファリア体制、産業革命、市民革命）
3	支配と人の移動	主要なトピックの概説②越境をめぐる不平等（植民地支配、冷戦とその終結、EU 域外からの避難民）
4	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ①地中海世界とその終焉	古典古代における「ヨーロッパ」という用語の誕生、西欧と東欧、イスラームとの隣接
5	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ②キリスト教の広がり	中世における封建制、領主による割拠を越える範囲でのキリスト教の制度化 → ヨーロッパ意識の萌芽
6	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ③非ヨーロッパ圏との出会いと「人間」の概念	大航海時代、ルネサンス、宗教改革、ヨーロッパの地理的定義（ブリント）、30 年戦争
7	啓蒙思想と市民革命	啓蒙思想と平和論、ヴォルテール、ルソー、アメリカ独立、フランス革命
8	ウィーン会議から二月革命まで：大陸諸国におけるナショナリズムの息吹と社会主義の登場	Confederation と Federation、ギリシア独立戦争（1821-）、マッツィーニ、自由貿易 vs 保護貿易、ヴィクトル・ユゴー
9	19 世紀後半の西ヨーロッパ	ナポレオン３世、クリミア戦争、普仏戦争、スペンサー、プルードン、ヨーロッパ合衆国、黄禍論（コンスタン）（Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像②激動の世紀への胎動』）
10	世紀転換期から第 1 次世界大戦まで	エンジェル『大いなる幻想』、ベネディクトゥス 15 世、ドゥマンジョン、シュペングラー、ヴァレリー（Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像④塹壕から見た人類発の大戦』）国際連盟、ルール占領
11	戦間期のヨーロッパ①	クーデンホーフ・カレルギー、ブリアン＝シュトレーゼマン時代（Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像⑥勝者と敗者』）、各国財界からの統合論、ファシズム側、レジスタンス側の統合論
12	戦間期のヨーロッパ②	第 1 次世界大戦以降の難民保護の歴史（ギリシア／トルコ間の戦争）Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像⑦中東　分割の悲劇』
13	第二次世界大戦から冷戦へ	鉄のカーテン（チェコのクーデタ、ベルリン危機）、インドシナ戦争、チャーチルの諸演説、ヨーロッパ審議会、ザール問題、ルールの国際管理 →ECSC の成立
14	主要なトピックにかんする振り返り	ヨーロッパにおける移民のプレゼンス、「要塞ヨーロッパ」
15	まとめ	学生発表（希望者のみ）含む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前半の授業回で取り上げるヨーロッパの概念の変遷についての説明は、文明論の古典的な素材からの抜粋からなっています。ぜひそうした古典のテクストに親しむ機会を作って下さい。
・中盤以降の授業回で論ずる、第２次世界大戦以降のヨーロッパ統合については、今日の国際情勢の背景となっています。ぜひ新聞やニュースなどをつうじて最新のヨーロッパ情勢に触れるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
遠藤乾編『原典　ヨーロッパ統合史　史料と解説』名古屋大学出版会，2008 年。

【参考書】
金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史―人物を通して見たあゆみ』有斐閣、1996 年。
ジェラール・ノワリエル『フランスというるつぼ』法政大学出版局、2015 年。
エティエンヌ・バリバール『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』平凡社，2006 年。

【成績評価の方法と基準】
・小テストの受験【全員必須。ただし多くは授業支援システム上で授業外実施】45%
・学生による発表、運営への協力【希望者のみ】10%
・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%
・レポート【希望者のみ】35%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
前半の授業回では、とくに高校や大学１年時の学習との橋渡しを意識しています。

【学生が準備すべき機器他】
・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることができる。
・Twitter 上で質問を受け付ける。@kazouille

【その他の重要事項】
・シラバスを熟読してください。

情報文化演習ー PureData で音楽、CG、ディジタル・アートを創ろうー

大嶋　良明

配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
●テーマ
永遠のテーマは、「マルチメディアとネットワーク」です。
2016 年度の重点学習テーマは
「PureData で音楽、楽器、CG、ディジタル・アートを創ろう」
です。
●授業運営の方針
“Be Proactive!” これに尽きます。
●ことし研究室では何をするのか？
Pure Data というメディア処理ソフトに習熟し、MIDI 機器や iPad で対話的に反応する音楽や CG 作品の制作技法を身に着けて、その学習成果を ePortfolio にまとめます。
●研究室ではいままで何をしてきたのか？
2011 年度：学部の動画配信システムを構築しました。
2012 年度： e-Portfolio を学部に導入しツールとしての機能や管理運用を学びました。
2013 年度： e-Portfolio の全学導入に関わり教育的活用を推進しました。研究室で Pure Data への取り組みを開始しました。
2014 年度： Pure Data Japan のパッチング・サークルに積極参加して勉強しました。
2015 年度（研究留学）：大嶋は Carnegie Mellon 大学の Music & Technology プログラムにおいてコンピュータ音楽とサウンドデザインの研究に携わりました。ゼミの運営は東京工科大学デザイン学科の松村誠一郎先生にお願いしました。
それ以前の年度も含めてこれまでの学術活動は学会発表しており、概要および論文発表は主に『異文化』に採録されています。

【到達目標】
●目標
・コンピュータを自分の表現のために応用すること
・インターネットネット社会で自分を表現すること
・新しい物作りを構想し提案すること
を通して
・社会の中で十分に役に立つもの
・長期的に世の中を見通す力
を身につけたいものです。

【授業の進め方と方法】
● ICT の最先端を学びます。
●各自がテーマを決めて、個人研究あるいは作品制作に取組みます。
●学習成果の「見える化」には e-Portfolio を積極活用しましょう。
● 4 年生は各自（あるいは連名）で、3 年生は全員でひとつのテーマで、**国際文化情報学会**および学外での成果発表に向けて取組みます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、学術活動とその基盤	【講義】　アカデミック・スキルズと研究環境を理解する。とくにネットワーク環境について全員で習得する。Web を学ぶためのクライアント環境、端末について検討する。 【演習】　ePortfolio を立ち上げる。
2	Pure Data 入門	【講義と演習】　Pure Data とは何かを学ぶ。
3	Pure Data の導入と起動	【講義と演習】　環境設定、パッチ、オブジェクト、入出力、パラメータなど Pure Data の構成要素を理解する。
4	リズムを作る	【講義と演習】　音叉の生成、リズムの生成、テンポ（BPM）の指定方法などを理解し、メトロノームを作成する。
5	サンプリング音源	【講義と演習】　Pure Data にサンプリング音源ファイルを読込んで利用する。マイクからの Pure Data へ音データを録音する。 【月例報告】　ePortfolio
6	ドラムマシン	【講義と演習】　サンプル音源によるドラムマシンを作成する。テンポの可変化、音源増設など機能を拡張する。
7	Pure Data 応用（１）：ビートボックスの自作	【課題演習】　学習内容を組合せてビートボックスの自作に挑戦する。 【調査】　メディア・アートと Pure Data
8	【第 1 回中間発表（構想発表）】	【発表】　研究構想を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。
9	ループ・サンプラー	【講義と演習】　サンプラ、ループ、ピッチ変換、逆再生などサンプルデータの書込み・読出し操作による音の処理を学ぶ。
10	エフェクト（１）	【講義と演習】　ギターエフェクト（音色系）：　ディストーション、イコライザ、ワウワウ、ディレイ、コンプレッサなど楽器音の音色加工の原理と実装を学ぶ。
11	エフェクト（２）	【講義と演習】　ギターエフェクト（空間系）：　コーラス、フランジャー、ハーモナイザなど楽器音の音像定位や時間処理の原理と実装を学ぶ。
12	Pure Data 応用（２）：オリジナル・エフェクターの自作	【課題演習】自作エフェクタのデモ　リング・モジュレータやビット・クラッシャーなど市販製品にない仕様の音響効果の自作に挑戦する。 【調査】デバイス系への応用 Arduino, Raspberry Pi と Pure Data 【月例報告】　ePortfolio
13	シンセサイザー（１）：音源の原理	【講義と演習】　シンセサイザーとは何か、正弦波音源、MIDI による音源制御、エンベロープ生成を学ぶ。
14	シンセサイザー（２）：音色加工の手法	【講義と演習】　様々な音源波形、フィルタによる音色変化、ポリフォニック化による機能拡張、FM 音源の手法などを学ぶ。
15	【第 2 回中間発表】	【発表】　研究構想を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。 【夏休み宿題】　Raspberry Pi 上で Pure Data を立ち上げておく。

秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期キックオフ	【月例報告】　個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。
17	アプリ操作性の向上	【講義と演習】　スケーラなど直感的なインターフェースの作成とプリセットによるパラメータ設定の自動化を学ぶ。

18	機能の部品化と可視化	【講義と演習】　アブストラクションによるモジュール化、GUI ボックス、VU メータなど操作インターフェースの部品化と可視化を学ぶ。
19	外部アプリとの連携	【講義と演習】　オーディオデータのルーティングを設定し、Pure Data と DAW などの外部アプリを連携させる手法を学ぶ。
20	ネットワークの利用	【講義と演習】　LAN 環境を構築し、相互接続した複数機器上の Pure Data を連携して稼動させる手法を学ぶ。LAN 上で連携するドラムマシンを作成する。 【月例報告】ePortfolio
21	モバイル端末との連携	【講義と演習】　iPad などのモバイル端末と PC, Mac 上の Pure Data を連携して稼働させる手法を学ぶ。
22	【第 3 回中間発表・学会発表準備】	【発表】　研究の進捗状況を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。本中間報告会の成果により学会発表応募の形態を検討する。
23	映像の生成： GEM とコンピュータグラフィックス	【講義と演習】　GEM の基本、ウィンドウの生成、３次元モデルへの操作とチェーン、照明、テクスチャー、Web カメラ映像の取り込み、簡単なアニメーションの作り方を学ぶ。
24	Web カメラの活用	【講義と演習】　Web カメラ映像から動きや色を検知抽出する方法を学ぶ。
25	Pure Data 応用（３）：音と映像のインタラクション	【課題演習】　音、映像、GUI、外部機器を組合わせた作品制作に挑戦する。 【報告】　個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。12 月初めの学会発表にむけての準備状況を情報共有する。
26	イメージ処理	【講義と演習】　外部イメージデータの取込み、フィルタの適用、複数イメージのレイヤー化、背景の消去などの技法を学習する。
27	対話性の実現：マウス、キーボード	【講義と演習】　マウス位置、キーボードイベントの検知法、ビデオコントローラ、簡単な対話的アニメの作成を学ぶ。
28	物理モデル	【講義と演習】物理演算モデルと pmpd、バネの動き、重力の影響のモデル化、複数のモデル要素の連結、GEM による視覚表現などを学ぶ。
29	【期末発表】	【発表】　個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。
30	まとめ	学習内容の総まとめを実施する。ePortfolio で学習成果の公開コンテンツ化を目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読、プロジェクト活動、自主的な学習など授業時間外に求められる学習行動はかならず必要です。プロジェクト運営、文献レポータなど積極的に活動してください。
とくに学外での貴重な学びの機会として Pure Data Japan のパッチングサークルのような勉強会やオトアソビなどのメディアアート関連のイベントがあります。まずは聴講参加を心がけてください。そしてできれば作品発表できるようになりたいものです。

【テキスト（教科書）】
演習では学ぶべきことが多岐にわたるので必要に応じて文献を紹介します。
今年度にとりあげる PureData の教科書として
松村 誠一郎,「Pd Recipe Book － Pure Data ではじめるサウンドプログラミング」, ビー・エヌ・エヌ新社 (2012),ISBN 978-4861007804
を指定します。
関連文献については、こちらのページを参照ください。
https://epf.hosei.ac.jp/mahara/view/view.php?id=10296
PureData 関連の Web については、こちらのページを参照ください。
https://epf.hosei.ac.jp/mahara/view/view.php?id=10554

【参考書】
【Pure Data】
Pure Data の参考書として：
美山千香士,「Pure Data　チュートリアル＆リファレンス」, ワークスコーポレーション (2013), ISBN 978-4862671424
中村隆之,「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」工学社 (2015), ISBN: 978-4777518821
の 2 冊を挙げておきます。
最新動向については、Pure Data Japan の Web サイトを参照してください：
http://puredatajapan.info/
【Raspberry Pi】
日本語で読める参考書がたくさん出版されています。例えば
Japanese Raspberry Pi Users Group,「Raspberry Pi〔実用〕入門」, 技術評論社 (2013),ISBN: 978-4774158556
は良くまとまっています。
【Arduino】
PureData と Arduino の連携については上に挙げた「Pure Data　チュートリアル＆リファレンス」のほかに
藤本 直明ほか,「電脳 Arduino でちょっと未来を作る」,CQ 出版 (2010),ISBN: 978-4789818506
が参考になります。
【Web】
今日の Web の最前線に触れると言う意味で：
「Web サイト制作 最新トレンドの傾向と対策」MdN(2012)、ISBN: 978-4844362456 を多く参照しますが、これに限らず他の文献も多用します。
【文化情報学】
大学院で情報学系の研究を目指す学生のためにじっくりとまた批判的に読んでもらいたい論集と書籍を挙げておきます：
Durham and Kellner (ed), "Media and Cultural Studies Keyworks", Blackwell(2001), 978-0-631-22095-4
Thomas Swiss(ed), "Unspun - Key Concepts for Understanding the World Wide Web", New York University Press(2000), ISBN 0-8147-9759-8
Cambridge, "Eportfolios for Lifelong Learning and Assessment", Jossey-Bass(2010), ISBN: 978-0470503768
西垣通,「基礎情報学―生命から社会へ」, NTT 出版 (2004)、ISBN-13: 978-4757101203

【成績評価の方法と基準】
●成績評価方法　セメスタ毎に総合評価します。欠席は認めません。止むを得ない事情で欠席する場合には必ず申し出てください。また講義内容を復習して次の授業までに実習課題を済ませておいてください。
Proactive な運営方針にもとづき、学生個人によるゼミ制作・ゼミ論研究（25%）、全体プロジェクトとグループ活動 (25%)、学会への参加や外部コンペへの作品応募 (20%)、各種資格（情報・英語関連など実践力形成に限る）の取得努力 (20%)、研究指導を受けるための個別面談 (10%) などをすべて総合的に評価します。
最後にまとめとしてのゼミ論、あるいは何らかの作品制作（狭い意味での表現に限らず、システム・プログラム等でもよい）と制作レポートを課します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
（１）演習形式であるため、授業アンケートのような期末アンケートではその場の学習ニーズに対応できない。面談による個別指導によってこれまでも対応してきており、今後もこの方針を継続します。
（２）意欲ある学生の聴講参加（2 年次より）を歓迎します。

4 年次からの研究や作品制作も可能ですので、編入希望の場合は事前に相談ください。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミは国際文化学部情報セミナー室（BT#0704）にて行います。
2016 年度の学習には、Windows PC, Mac, iPad, LINUX サーバ、MIDI 機器、Raspberry Pi などのデバイス等が必要になりますがすべて研究室にあります。講義時間外での作業のために WindowsPC か Mac(あるいは LINUX サーバ) が必要です。Pure Data はオープンソースですので、自分にパソコンにダウンロードしてすべての課題実習と作品制作に取り組むことができます。またユーザー同士の交流もとてもさかんです。
研究活動は情報準備室（BT#0703）のネットワーク、サーバ、マルチメディア装置からなる SOHO 環境を基盤として実習します。

【その他の重要事項】

●履修上の注意

まず手を動かす、自分で調べる、しっかり聞く、物怖じせずに発言する。そこから文化と情報を発想します。自分ひとりでは解らないこともありますから、担当教員と面談を通じて指導を受ける、あるいは作品制作について助言を受けるなど風通しの良いコミュニケーションを心がけてください。

また、

・情報系、メディア系専門科目の 3〜4 年次での履修
・情報処理・メディア関連の検定資格取得
・継続的な英語力養成の必要性

を明言します。
非常に関連が深い科目として「コンピュータ音楽と音声情報処理」があります。おなじく Pure Data を重点的に扱う科目として、きっと参考になると思います。

【学部・外部学会への参加】

【学部学会】3 年生は連名で学部学会に発表参加する、4 年生は個人で研究成果を発表することを目指す。
2014 年度は研究室からポスターとデモで 3 件の発表をしました。
2015 年度は 4 年生が卒業研究の成果を学会発表しました。
【学外の学会等】
2012 年度の学会参加
私情協の「教育改革ＩＣＴ戦略大会」
教育システム情報学会「全国大会」
日本教育工学会「e ポートフォリオの活用と普及」研究会
2013 年度の学会参加
Mahara Open Forum 2013 での研究発表（2 件）
2014 年度の学会参加
Mahara Open Forum 2014 での研究発表（1 件）
Pure Data パッチングサークルへの参加（5 回）
外部の学会や研究会に参加することではじめて自分たちの問題意識や研究成果が今日的であることが判りますので、2016 年度も積極的に参加しましょう。

情報文化演習－情報科学技術の問題の発見と考察－

和泉　順子

配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、ネットワークを始めとする情報科学技術の社会との関わりについて考察します。社会基盤として認知される情報技術の一部は、社会動向に依存して開発の方向性が変わり、以前は問題と認識されなかった事も時代や社会動向によって大問題となる場合があります。仕組みは分からないけれど便利に使える情報サービスが遍在する中、優れた技術なのに普及しないものがあるのは何故か、以前は問題にならなかったものが現在は大問題に発展しているのは何故か、等の疑問を考察・検証し、自分の意見を組み立てていきます。

【到達目標】
一般的には問題を解決することよりも、問題を正しく認識することの方が難しい場合が多々あります。問題を明確に抽出し、それに対する考察を他の人にできるだけ正しく伝えるために、多くの文献を継続的に読みこなし、体系的に必要なデータを再構築して論理を展開したものを、効果的にプレゼンテーションできることを目指します。

【授業の進め方と方法】
この演習では、問題を発見することの意味を考えることを前提に「本を読むこと」と「自分の意見を論理的に説明する」を継続的に行います。
情報学や社会との関わりに関する問題意識に沿って輪講や文献調査を行い、得られた知見から現状の問題点を論理的に議論すること、必要に応じて、自分の手を動かして Arduino や Raspberry Pi のような小さな計算機を制御したりソフトウェアを設計、構築することを学びます。
情報システム関連の基礎技術に関する知識を身につけつつ最終的に課題に対する提案や考察をプレゼンテーションや論文としてまとめます。
[国際文化情報学会における発表]
各自の研究成果を国際文化情報学会において発表することを念頭に、各自の調査・研究をまとめます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ゼミについて	ゼミの進め方、評価方法等についての説明と、自己紹介、課題の説明等
2	情報学と社会（１）	生活に直結しているネットワーク技術や情報システム環境に対する意見を出し合い、課題として取り組む問題を設定する。
3	情報学と社会（２）	設定した課題に関連する情報技術の変遷や社会動向、文化情報としての位置づけ等を調査する。
4	情報学と社会（３）	設定した課題を調査した結果を発表して議論する。
5	課題の整理（１）	設定した課題に関する問題点を技術的側面、社会的側面に分けて整理する。
6	課題の整理（２）	設定した課題に関する問題点について技術的側面を調査し、整理・考察を行う。
7	課題の整理（３）	設定した課題に関する問題点について社会的、文化的側面を調査し、整理・考察を行う。
8	文献調査報告	現在までに読んだ文献（書籍や論文）の報告を行う。また、課題を通して得られた知見も併せ、今後読むべき書籍や作るべきソフトウェア等の方向性を検討する。
9	先行事例研究（１）	設定した課題に関連する既存技術や先行事例を調べる。
10	先行事例研究（２）	設定した課題に関連する既存技術や先行事例から、問題解決への糸口を探る。
11	提案のまとめ	設定した課題に対し、問題解決のための自分提案や考察をプレゼンテーションにまとめる。
12	方向性の確認	実際にプレゼンテーションをした結果をもとに、内容の過不足の検討、読むべき書籍、作るべきソフトウェア等の方向性を検討する。
13	提案と設計（１）	設定した課題を解決するための具体的な提案として、精査すべき文献群やシステムを検討する。
14	提案と設計（２）	設定した課題を解決するための具体的な提案のため、具体的な文献調査やシステム構築を行う。
15	文献調査報告	現在までに読んだ文献の報告を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
16	文献調査報告	夏期休暇中に読んだ文献の報告を行う。
17	進め方の確認	課題の進め方について確認し、今後の調査テーマや研究の方向性を確認する。
18	情報セキュリティ（１）	社会問題として認識される情報セキュリティが、設定した課題にどのように関わるか考察する。
19	情報セキュリティ（２）	課題に関わる情報セキュリティについて、現在までの先行事例を調査する。
20	情報セキュリティ（３）	調査した情報セキュリティ関連の先行事例をもとに、課題解決に向けた提案の妥当性を検討する。
21	提案と設計（３）	課題を解決するためには何を提案するのか、何が明らかになれば良いのか確認する。
22	実装と考察（１）	課題を解決の結論を意識しつつ、具体的なシステム実装または文献精査を行い、結果を考察する。
23	実装と考察（２）	課題を解決の結論を意識しつつ、具体的なシステム実装または文献精査を行い、結果を考察する。
24	課題解決のまとめ	設定した課題について、問題点を明らかにし、関連研究を踏まえた提案をどのように実現したのか、プレゼンテーションにまとめる。
25	プレゼンテーション	実際にプレゼンテーションをしてみて、内容の過不足を検討する。
26	コンピュータと仕事（１）	情報技術と仕事について、関連書籍の輪講をする。
27	コンピュータと仕事（２）	情報技術と仕事について、関連書籍の輪講の続きを行い、内容を議論する。
28	コンピュータと仕事（３）	情報技術と仕事についてを論じるために提案や考察を文章（小論文）にまとめる。
29	文献調査報告	現在までに読んだ文献の報告を行う。
30	まとめ	学習内容の総まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教えてもらうのではなく、主体的に学ぶ姿勢を必要とします。

文献講読や自主的な学習など授業時間外に求められる活動は少なくありません。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜指示します。

【参考書】
必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（30%）、各自の成果（論文、ソフトウェア等 70%）で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
該当なし

【学生が準備すべき機器他】
ゼミ室のコンピュータ、および研究テーマに応じて Arduino や Raspberry Pi 等の情報機器を使用する。研究を進めるために必要な機材は教員が用意するが、授業支援システムを利用して課題を提出してもらうため、課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になる。

情報文化演習ーこころとココロ、コミュニケーションと『知』の新しいカタチー

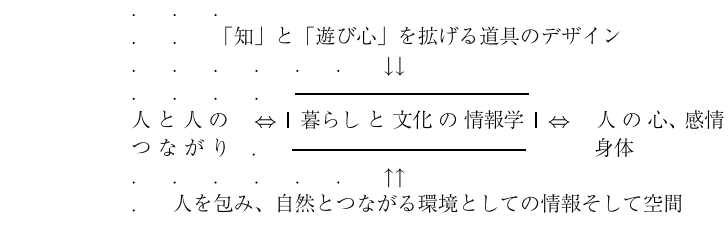
春学期担当：甲洋介 、秋学期担当：渡邊日出雄

配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
こころとココロをつなぐ、コミュニケーションと『知』の新しいカタチ
心のはたらきについて学んだり、感覚体験を実験したり、建築空間のフィールドワークに出かけたり、コトバに頼らないコミュニケーションの体験をしたり、知の仕組みを学んだり、それらに基づいて道具をデザインしたり、モノづくりに挑戦する演習である。
言葉で伝わらない「思い」を伝え合うコミュニケーションの空間、思わず愛着を感じる道具、「知」を拡げ、遊び心がふくらむ情報空間を君たちと創り出そうと思う。 そのために、ふだん忘れている感覚、懐かしい匂い、音の風景、ほっとする色合い、うっとりする肌触り…、そういう身体の感覚を呼び起こし、心の声にじっくり耳を傾けよう。
【興味あるテーマの例】
(1) 楽しくて、使いやすい「情報の道具、インテリア、家具」の制作
(2) 空間デザイン、パーソナルスペース、遊び心のデザイン
(3) 心とココロをつなぐ、感情豊かで穏やかなコミュニケーションのしくみ
(4) 身体と感覚を呼び起こし、心を響かせるアートとコミュニケーションの情報空間
(5) 言葉でウソをついても、身体は思わず正直に動いてしまう現象
(6) 仮想世界における「私」、心の問題
(7) 身体や、脳で起こる現象の変化で道具を動かす技法 (BCI)
(8) こころの科学、感情の脳科学
(9)「個・域・種」を越境し、身体、いのち、自然の息吹を伝える『禅的』情報空間の探求
(10) 人工知能はヒトの何を超えるのか、機械翻訳システム
あなたのこころと他人のココロは、本当に同じ？
このゼミでは、当たり前すぎて考えなかった事柄も注意深く点検する。あなたもこのゼミで討議するうちに、この問いが『機械のココロ』(AI) の可能性につながって行くことに気づくだろう。

【到達目標】
言葉で伝わらない『思い』の存在、正直な身体の性質をだいじにする
・目標は、日常の具体的な場面を切り出して、感情を考慮したエクスペリエンス・デザイン手法を駆使した体験デザインをできるようになること。
・演習を通じて、問題を見極める洞察力、方向性を嗅ぎ分ける美意識、研究活動を計画しやり遂げる実行力、を育む。
君もやがて、実社会に出たとき解答のない課題に取り組むことになる。これらの力はそのときに頼りになるはずである。

【授業の進め方と方法】
感情豊かな君の「遊び心」と「知」を拡げる、「コミュニケーション」「道具」「空間」のデザインを目指す「暮らしと文化の情報学」を、つぎの３つのテーマのスタディを基盤にし、実験や調査を組み合わせながら、地道なやり方で展開する。この演習の研究テーマのいくつかは世界に未だ解答がない。したがって、本演習はその答を探し求める知的冒険となる。



【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、自己紹介
2	暮らしの道具デザイン①	基礎的な考え方を学ぶ
3	暮らしの道具デザイン②	身近な道具のフィールドワーク
4	暮らしの道具デザイン③	実例を学ぶ、デザイン方法を学ぶ
5	暮らしの道具デザイン④	デザイン実習（グループ）
6	ワークショップ	グループワークの成果発表
7	こころと感情の科学①	こころと感情について考える
8	こころと感情の科学②	基礎的な考え方を学ぶ
9	レッスン：研究の育て方	個人研究、グループ研究のテーマ設定の仕方と研究の育て方
10	心と心をつなぐ、コミュニケーション①	基礎的な考え方を学ぶ
11	心と心をつなぐ、コミュニケーション②	方法を学ぶ
12	心と心をつなぐ、コミュニケーション③	コミュニケーションの新しいカタチの探求
13	心と心をつなぐ、コミュニケーション④	実例を学ぶ、体験する
14	ワークショップ	グループワークの成果発表
15	発表会、まとめ	個人研究の構想発表

秋学期

回	テーマ	内容
16	オリエンテーション②	ゼミの進め方、自己紹介（秋）
17	遊び心と知を刺激する道具①	遊び心と創造性を刺激する AI
18	遊び心と知を刺激する道具②	『知』の新しいカタチ〜よきパートナーに人工物がなるために
19	遊び心と知を刺激する道具③	いろいろな実例を学ぶ
20	遊び心と知を刺激する道具④	モノづくり実習／人工知能を作ってみる
21	遊び心と知を刺激する道具⑤	モノづくり実習／人工知能を作ってみる
22	ワークショップ	人工知能は本当にヒトを超えるのか？
23	情報社会と心の豊かさ①	基礎的な考え方を学ぶ
24	情報社会と心の豊かさ②	実例を学ぶ：体験する
25	情報社会と心の豊かさ③	実例を学ぶ：考えを深める
26	近未来の情報空間デザイン①	基礎的な考え方を学ぶ
27	近未来の情報空間デザイン②	実例を学ぶ／モノづくり実習
28	近未来の情報空間デザイン③	モノづくり実習
29	ワークショップ	グループワークの成果発表
30	発表会、まとめ	個人研究の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み込み、発表を準備し、学外に出てグループワークする。合宿は春 (新歓) と夏、OG・OB と合同で行っている。美術館・展示・建築空間の探検にはゼミでよく出かける。

【テキスト（教科書）】
各自の研究テーマを伺い、道具のデザイン、こころの科学、コミュニケーション、空間デザイン、情報学と人工知能、を中心に提示する。

【参考書】
・「感情の科学」「コミュニケーションと思考」「こころの情報学」
・「未来のモノのデザイン」「ネット接続された心」「遊びと人間」
・「続・基礎情報学〜IT による生命の活性化はあり得るか？」
・「建築する身体」「アフォーダンス」「サステナブル建築」
・森の葬祭場（アスプルンド）、湖畔のアトリエ（コルビュジエ）、ヘドマルク博物館（フェーン）、光の教会（安藤）、修学院・桂離宮。

【成績評価の方法と基準】
①発表と討議への参画 (40%)、②グループ実習の取り組み (30%)、③成果レポート (30%) を総合評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
モノづくり実習と、先進的な機材を使った実験、を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や、リアクションペーパー・課題提出に授業支援システムを利用するので演習前後にアクセスし確認すること。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
情報セミナー室と甲研究室の先進的な研究・実習機材を生かした実習も行う。

【参加希望者へ】
人間の心や感情のしくみ、コミュニケーション、モノづくり、建築、空間、玩具、家具のデザインに興味をもつ方に向いている。
次のような人物とのコラボレーションに興味がある： ①不完全燃焼なまま大学生活を終わりたくない、②少なくともゾウとイルカには心が通じると信じている、③モノづくりが好き、④土俗的な感性を持つデザイナー、⑤言葉で伝わらない思いを大切にしている、⑥建築、空間デザイン、インテリアに興味がある、⑦幼い子供、高齢者が楽しめる情報の道具を作りたい、⑧芸術家肌のプログラマー、⑨北欧建築の透明感、日本庭園の奥義、仏像の表情に魅せられる、⑩海中に、自分の見ていない地球があと半分あることを知ってしまったダイバー。　好奇心旺盛で常識ある個性派、歓迎。
関連科目
仮想世界研究、ヒューマンインタフェース論、道具による感覚・体験のデザイン、こころの科学、システム論、情報コミュニケーション

【注意】
”パソコン実習のゼミ”ではない。

GA313

情報文化演習ーコンピュータエンターテイメントー

重定　如彦

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、われわれの身の周りにはコンピュータを使ったありとあらゆるエンターテイメントが満ち溢れており、電車の中などでスマートフォンや携帯のゲーム機を楽しんでいる人の姿はめずらしくなくなってきている。また、単なる娯楽だけではなく、学習の場においてもコンピュータを使って楽しみながら学習効果を上げることを目的としたエデュテイメントと呼ばれるソフトウェアが注目を浴びている。実際に 2011 年度に発表された、文部科学省の「教育の情報化ビジョン（http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/04/__icsFiles/afieldfile/2011/04/28/1305484_01_1.pdf）」の３章の「学びの場における情報通信技術の活用」では、デジタル教科書、教材が 21 世紀にふさわしい学校教育の実現の項目の一つとして挙げられている。本演習ではそういったコンピュータを使ったエンターテイメントについて学び、自ら作品を作り上げていくことを目標とする。

【到達目標】

コンピュータエンターテイメントといってもそのジャンルは幅広く、プラットフォームもパソコン、ゲーム機、携帯端末を使ったものなど様々である。コンピュータエンターテイメントの特徴や、コンピュータエンターテイメントをどのようにして実現するかについて学び、理解する。

次にソフトを作成するための技法（プログラミングやウェブを使ったシステムの使い方）を学び、実際にソフトウェアを作成する。

われわれは普段はコンピュータのコンテンツを消費する立場であるが、コンテンツを提供する側の立場に立つことによって新しい視点を獲得し、新しいものをクリエイトする力を身につける。

【授業の進め方と方法】

演習の概要は以下の通り。

・輪講

コンピュータエンターテイメントに関する様々なテーマについて輪講を行い、基礎知識を身につける。

・プログラミングの演習

本演習の最終目的は何らかの作品を作成することであるが、そのためにはプログラミングの知識が必要不可欠になる。そのための演習を行う。

なお、学生のプログラミングの習熟度が異なっている場合は、習熟度別にグループを作り、演習を行う予定である。

・作品の設定と実習

3 年次ではグループごとにいくつかの作品を設定し、その作品を製作する実習を行う。また、作品に関して中間発表と作品発表を行う。後期には対戦可能な作品を作成し、お互いのグループで対戦会を行う予定である。

・テーマの設定と構想発表

3 年次の最後に、輪講やプログラミング演習を通じて、4 年次に作成する作品に関するテーマを各自考え、構想を発表する。

・個人研究

4 年次では各自のテーマに従って研究を行い、各自の研究成果をまとめ、発表する。

・国際文化情報学会における発表

各自の研究成果を国際文化情報学会において発表する。また、国際文化情報学会での発表の際に得られた意見などを自分の研究にフィードバックする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	概論とテーマ設定	コンピュータエンターテイメントの概論について学び、グループごとの輪講のテーマを設定する
2	グループ１の輪講と演習	グループ１のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（変数について）
3	グループ２の輪講と演習	グループ２のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（条件分岐について）
4	グループ３の輪講と演習。2 回目のテーマ設定。	グループ３のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（繰り返しについて）。2 回目の輪講のテーマの設定を行う。
5	グループ１の輪講と演習	グループ１のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（関数について）
6	グループ２の輪講と演習	グループ２のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（ファイル操作について）
7	グループ３の輪講と演習	グループ３のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（アルゴリズムについて）。なお、必要であれば、演習は引き続き行う。
8	作品のテーマの設定と実習	グループごとに作成する簡単な作品のテーマを設定し、実習を行う
9	グループ１の作品の中間報告と実習	グループ１の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
10	グループ２の作品の中間報告と実習	グループ２の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
11	グループ３の作品の中間報告と実習	グループ３の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
12	グループ１の作品発表と実習	グループ１の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
13	グループ２の作品発表と実習	グループ２の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
14	グループ３の作品発表と実習	グループ３の作品の発表を行うまたグループごとに作品を作成する実習を行う
15	品評会とまとめ	各グループの作品の品評会をおこない、春学期のまとめを行う

秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期のテーマの設定と実習	お互いが対戦可能な作品のテーマを設定し、実習を行う
17	グループ１の作品の中間報告と実習	グループ１の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
18	グループ２の作品の中間報告と実習	グループ２の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
19	グループ３の作品の中間報告と実習	グループ３の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
20	グループ１の作品発表と実習	グループ１の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
21	グループ２の作品発表と実習	グループ２の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
22	グループ３の作品発表と実習	グループ３の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う

23	作品の品評会と次のテーマの設定	お互いの作品を対戦させ、品評会を行う。次の少し複雑な作品のテーマの設定を行う。
24	グループ１の作品の中間報告と実習	グループ１の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
25	グループ２の作品の中間報告と実習	グループ２の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
26	グループ３の作品の中間報告と実習	グループ３の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
27	グループ１の作品発表と実習	グループ１の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
28	グループ２の作品発表と実習	グループ２の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
29	グループ３の作品発表と実習	グループ３の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
30	作品の品評会と 4 年次のテーマの設定	作品の品評会を行い、各自の 4 年次のテーマの設定を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、輪講の準備や作品の作成の作業などを行うこと。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて各自のレベルにあったものを指示する。

【参考書】
必要に応じて各自のレベルにあったものを指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加度（３０％）、輪講や作品の制作（７０％）で評価する。発表資料や作品はｅポートフォリオに提出すること。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生のプログラミングの習熟度別にグループを分けたほうが良いという意見があったので、臨機応変にグループ分けを行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミ室のコンピュータを使用する。

【その他の重要事項】
プログラミングは一見難しく、とっつきにくそうに思えるかもしれないが、しっかりと勉強すれば 2 年間で自分自身の作品を作ることは十分に可能である。過去のゼミ生の一人に、途中まではあまりプログラミングに興味がなかったが、16 パズルを作成する演習を行ったところプログラミングに興味を持ち始め、自分で本などを購入してシューティングゲームを作成した学生がいた。本ゼミでは、やる気があればプログラミングの未経験者でも歓迎する。

また、以下のウェブページに過去のゼミの論文や、ゼミ生の作品の一部があるので興味のある方は参考にして欲しい。ただし、過去のゼミのテーマは現在のものと異なっているので、過去のゼミ論にはコンピュータエンターテイメントとは異なるテーマのものがある。
http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/zemi/

また、2013 年度からゼミ生の制作物をｅポートフォリオに保存することにした。https://epf.hosei.ac.jp/mahara/view/groupviews.php?group=142 からこれまでのゼミの作品のページにアクセスすることができるので興味のある方は見てほしい。

情報文化演習－環境問題と生物多様性－

島野　智之

配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の加速的破壊が進むなか、持続可能な社会作りを考える．

フィールドワーク等を通して，我々はどうあるべきかを各自考える．世界に視野を広げ見直してみる．

特に，教室を出てフィールドワークを考える（たとえば，地方の農業者への訪問など）．また，ゼミに関係したゲストをお招きする予定．

【到達目標】

与えられた課題をこなすだけでなく、自分で問題点を見つけて取り組むことが出来るようになること．具体的には、積極的に現場に出かけて情報を収集できるようになること．

【授業の進め方と方法】

授業だけではなく夏期休暇などを利用して，フィールドワークを計画している．

また、メイン・テーマ以外に、自由な視点でプロジェクトを企画・実践し、秋学期に開催される学部内の研究発表会に参加する（予定）．そして、論文作成に取り組む．

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介および 1 年間の授業計画
第 2 回	生物多様性とは何か	生物多様性についての概観
第 3 回	生物多様性はなぜ重要か	生物多様性の意義
第 4 回	生物多様性条約	生物多様性条約について
第 5 回	日本の農業事情	日本の農業と生物多様性
第 6 回	日本の食料事情など	日本の農業生産と食糧事情
第 7 回	世界の農業事情など	世界の農業と生物多様性
第 8 回	世界の食料事情など	世界の農業生産と食糧事情
第 9 回	４年生の論文テーマ発表（事前準備）	論文のテーマについて，プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．
第 10 回	４年生の論文テーマ発表（本報告）	論文のテーマについて，プレゼンテーションを交えて発表し，確定する．
第 11 回	地域の生物多様性に関する討議	出身地域の生物多様性について調べて，討議する
第 12 回	地域の生物多様性に関する問題を探る	地域の生物多様性について調べて，討議する
第 13 回	３年生のプロジェクト発表	前回，前々回の討議を踏まえて，3 年生の調査研究テーマを発表する．
第 14 回	４年生の論文中間報告	論文のテーマについて，プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．
第 15 回	４年生の論文中間報告（再）	再び，論文のテーマについて，プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．

秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	4 年生の論文中間作成（前半）	進捗状況に基づいて，作成にかかる
第 17 回	4 年生の論文中間作成（後半）	進捗状況に基づいて，作成にかかる
第 18 回	3 年生のプロジェクト成果発表	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．
第 19 回	国際文化学部学会準備①	テーマを出し合って討議する
第 20 回	国際文化学部学会準備②	討議したテーマに基づいて，調査研究をすすめる．
第 21 回	国際文化学部学会準備③	まとめ
第 22 回	4 年生の論文発表①	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．（4 年生の１／３について）
第 23 回	4 年生の論文発表②	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．（4 年生の１／３について）
第 24 回	4 年生の論文発表③	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．（4 年生の最後の１／３について）
第 25 回	ゼミ論文作成①	テーマを出し合って討議する
第 26 回	ゼミ論文作成②	討議したテーマに基づいて，調査研究をすすめる．
第 27 回	ゼミ論文作成③	まとめ
第 28 回	ゼミ論文発表会①	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．（全体の半数）
第 29 回	ゼミ論文発表会②	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．（全体の残りの半数）
第 30 回	ゼミ反省会	１年間のまとめと，総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分で課題を見つけ、多角的に取り組むこと．文献を収集するだけでなく、直接、調査・取材活動をおこなうこと．可能な限り、情報源に当たり，なにが，オリジナルであるのかを明確にした上で，レポートなどを作成すること．

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します．

【参考書】

「地球の論点 ―現実的な環境主義者のマニフェスト」 スチュアート ブランド (著), 仙名 紀 (翻訳)

他は必要に応じて、その都度、指示します．また、ゼミに関係したゲストをお招きする予定です．

【成績評価の方法と基準】

年度末までにまとめた各自の成果（50%）、およびそのために各自が行った企画・調査活動状況（＝平常点: 50 %）．　頑張る姿勢、真摯な姿勢を評価したいと思います．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

ゼミは、受け身的な授業と異なり積極的にみんなで作り上げていくものです．４年生は後輩をサポートしお手本となるように心掛け、３年生は先輩をよく見て学んで下さい．

【学生が準備すべき機器他】

授業には、主としてパワーポイント映像およびビデオ資料を用い，各自に，パワーポイント，あるいは，ポスターなどでプレゼンテーションをしていただくことがあります．

【その他の重要事項】

本ゼミの目標は、文献などの間接情報だけに頼るのではなく、直接出向いて生の情報に触れ、それらを通して学ぶことの面白さを知り、自己を鍛えることでもある．

そして、グループ活動を通じて切磋琢磨し、相手を思いやる心を身に付け、少しでも一人前の社会人に近づくこと．

与えられたことを行うだけでは一人前とは言えず、自分でさらに課題を見つけて取り組んでこそ、一人前と言えます．そのためには、小さな事でも損得を考えずに手抜きせず真面目に取り組むことが大切です．

授業の各回のテーマは、受講生の希望や最新のトピックスなど取り入れることがありますので、内容や順番が異なる場合があります．

情報文化演習ー「前衛芸術と精神分析」研究ー

森村　修

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「前衛芸術と精神分析」研究――モダニズム／ポストモダニズム／それ以後

本演習のテーマは、広い意味で「前衛芸術（アート）」と「精神分析学」との関係を、J. ラカン（Jacques Lacan,1901-1981）の思想にもとづいて理解し、「アート」と「深層心理（無意識・欲望）」との関係を探ることにある。

《授業の目的》

本演習では、ラカン精神分析の入門テキストや彼の講義録などを題材にして、私たちの深層心理がどのように構造化されているかということについて考察することができる。さらにまた、アート表現を深層心理学的・精神医学的に分析することで、「深層心理の表現」とアートとの関係、さらには健常者の表現と精神病者の表現との関係を明らかにすることができる。

【到達目標】

(1) 私たちの心理や思考を根底で支えている「深層心理（無意識・欲望）」にアプローチすることで、意識と無意識、欲望などの深層心理の構造について理解することができる。
(2) ラカンの思想を研究することで、無意識とアートの関係を精神分析のアプローチから学ぶことができる。
(3) 精神病者のアートが、モダン・アートにいかなる影響を与えたかをアートの歴史から理解することができる。また、表現としての「アート」を分析する手法について説明することができる。
(4) 精神分析や他の心理学、哲学思想との関係性について、広範な知識を得ることができる。
(5) 心理学的・哲学的テキストの読解方法を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】

通常の授業では、①指定テキストに基づいた「グループ研究」と、②個人がそれぞれ自分のテーマを研究する「個人研究」の発表を交互に行う。③三年生には「ゼミ論・ゼミ制作」を、四年生には「ゼミ総括研究」を義務づける。④課外活動として、年三回（初夏・夏・冬）行う「ゼミ合宿」を実施する。⑤個別の希望者には、外部講師と連繋した「課外セミナー」や美術館・博物館などの公共施設の訪問なども考えている。

①「グループ研究」では、ゼミ生をいくつかのグループに分けて、事前にそれぞれ担当箇所のテキストを読解し、レジュメを作成しておき、ゼミ当日に担当グループが発表し、それ以外のゼミ生と討議する。

②「個人研究」では、ゼミ生各自が自らのテーマに即して研究を進め、ゼミの所定の時間内に研究発表を行う。その成果を、「ゼミ論」・「ゼミ制作」や「ゼミ総括論文」・「ゼミ総括制作」にまとめてもらう。「個人研究」については、2015 年度も引き続き、川村たつる先生のご協力をお願いするつもりである。おもに個人研究の作品制作については、川村先生からの直接的な指導があり、ケアの実践指導ならびに論文制作を、森村が担当する。

③「ゼミ研究」・「ゼミ総括研究」では、三年生には、春学期のグループ研究のまとめとして「ゼミ論」（春学期）を、また年間を通して「個人研究」のまとめとしての「ゼミ論」・「ゼミ制作」（秋学期）が義務づけられており、四年生には、一年間を通して「ゼミ総括論文」・「ゼミ総括制作」が義務である。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①演習の概要説明 ②自己紹介 ③ゼミ役員決定
2	グループ研究① 「ラカンの仕事」①:序章	①フロイトとラカン
3	グループ研究② 「ラカンの仕事」②:初期の著作	「パラノイア精神病とその人間への関連」
4	グループ研究③ 「ラカンの仕事」③: 「鏡像段階」	ラカンと発達心理学
5	グループ研究④ 「ラカンの仕事」④: 「現実原則の彼岸」	快感原則と現実原則
6	グループ研究⑤ 「ラカンの仕事」⑤: 「ローマ講演」	無意識と言語
7	グループ研究⑥ 「ラカンの仕事」⑥: 「盗まれた手紙」	秘密と無意識
8	個人研究① 「ゼミ論」発表①	ゼミ生の個人研究発表
9	個人研究② 「ゼミ論」発表②	ゼミ生の個人研究検討
10	個人研究③ 「ゼミ論」発表③	ゼミ生の個人研究総括
11	グループ研究⑦ 「ラカンの仕事」⑦: 「文字（手紙）という審級」	文字と無意識
12	グループ研究⑧ 「ラカンの仕事」⑧ 「エディプス・コンプレックス」	・フロイトとラカン ・「主体の転覆」
13	グループ研究⑨ 「ラカンの仕事」⑨:精神病	・精神病と神経症 ・「アンコール」 ・ラカン研究要約と最近の発展
14	個人研究④ 「ゼミ総括研究」中間発表①	四年生個人研究発表
15	個人研究⑤ 「ゼミ総括研究」中間発表②	四年生個人研究発表総括

秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期イントロダクション	①秋学期の演習概要説明 ②学会のテーマ決定 ③総括研究の注意など
17	グループ研究① 「哲学による精神分析入門」研究①:序章	・フロイトの「草稿」からラカンの論理へ
18	グループ研究② 「哲学による精神分析入門」研究②:第一部	・現実的なものの実存（在）
19	グループ研究③ 「哲学による精神分析入門」研究③:第二部	・想像的なものの現象学
20	個人研究① 「ゼミ論」中間発表①	三年生個人研究発表
21	個人研究② 「ゼミ論」中間発表②	四年生個人研究発表
22	グループ研究④ 「哲学による精神分析入門」④:第三部	・象徴的なものの構造
23	グループ研究⑤ 「哲学による精神分析入門」⑤:第四部	・小文字の対象 a の論理
24	グループ研究⑥ 「ラカンとアート」①:『不実なる鏡』第一章・第二章	・ラカンの言ったこと ・鏡の反転

25	グループ研究⑦ 「ラカンとアート」②: 『不実なる鏡』第三章・第四章	・鏡と割れ目 ・ポルノグラフィー
26	グループ研究⑧ 『不実なる鏡』第五章・第六章	・颱風の目 ・近親相姦的エクリチュール
27	グループ研究⑨ 『不実なる鏡』第七章・第八章	・享楽あるいは私は-意味を-聴く ・眼差しの解除
28	個人研究③ 「ゼミ論」発表①	三年生個人研究発表
29	個人研究④ 「ゼミ論」発表② 「ゼミ総括研究」発表①	三年生・四年生個人研究発表
30	個人研究⑤ 「ゼミ総括研究」発表② 全体のまとめ	①発表・ゼミ生による討議 ②担当教員による総括 ③ 2016 年度の反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習

グループ研究は、毎回の担当箇所のテキストを読解し、レジュメを作成するため、グループごとに集まって事前に準備する必要がある。テキストの読解はもとより、他の資料を検討することで、テキストの理解を一層充実させることができるからである。そのために、授業外にグループで集まって集中学習することが、ゼミ内の活性化にも繋がり、各自の研究の広がりと深みを増すことになる。

【テキスト（教科書）】

ラカンの著作ならびにラカン講義録を使う。
ビチェ・ベンヴェヌート『ラカンの仕事』、青土社
ロバート・サミュエルズ『哲学による精神分析入門』、夏目書房
ミシェル・テヴォー『不実なる鏡――鏡・ラカン・精神分析』、人文書院

【参考書】

ラカン精神分析学に関するもの
アウトサイダー・アート、アール・ブリュットに関するもの
美術・芸術史に関するもの

【成績評価の方法と基準】

①グループ研究発表・レジュメの完成度・討議の参加（25 %）
②個人研究発表・レジュメの完成度・討議の参加（25 %）
③ゼミ論（三年生）（50 %）／ゼミ総括研究（四年生）（50 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【授業外の活動】

①ゼミ卒業生や大学院生との交流がある。年一回年末の「望年会」には、１期生から現役のゼミ生まで、ほとんどの学年の卒業生が集まる。これは、本演習の最大の人的資産であり、他のゼミには絶対に負けない資産といえる。それ以外にも、様々な方面で活躍する卒業生たちの交流が、密接に行われている。

②年三回の「ゼミ合宿」もまた、基本的には参加が義務だが、拘束力はない。向上心をもって、より成長したい人だけが積極的に参加してくれることが前提である。ただ、本演習としては、欠かすことのできない課外活動であることに変わりはない。合宿では、ゼミ生同士の交流、教員との親睦、さらには東京近郊では体験できない他の地域の施設などの訪問など、刺激を得る機会となっている。

※　本演習では、授業外の活動が重要である。積極的に参加し、自らを磨く「修練」を積むことが本演習では要求されているので、注意を要する。

【注意】

基本的に、ゼミで課される課題に集中し、他のゼミ生と交流することが重要である。

表象文化演習ーコミュニケーションとアートー

稲垣　立男

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習のテーマは「コミュニケーションとアート」です。
「背景の異なる人々の生活や文化を理解し、様々な方法で相互の考えを伝えること。」
コンテンポラリーアートを中心に様々な芸術活動（音楽、パフォーミングアーツ、映像等）を通じて、特にコミュニケーションに関する研究を実践的に行います。研究活動を通じて様々な人々とのコラボレーションを経験することになるでしょう。
演習の担当者は国際的に活動しているアーティストであり、学生のみなさんはアートプロジェクトやワークショップなどの制作を直接体験することと、背景となる理論についての研究を並行して進めていきます。
春学期はビデオアート・映像インスタレーション及びプロジェクト型アートワークのプレゼンテーションに関するワークショップを行います。秋学期は国際文化情報学会での発表及びゼミ展示に向けての計画を進めます。

【到達目標】
アートの実践を通じて
1. 既成概念に囚われずに自由に発想すること
2. 様々な方法で他者に伝えること
3. ものごとの本質を見極めること
これらについて掘り下げて考え、その能力を身につけることが大きな目標です。
このような能力は、周囲の情報に流されがちな現代社会において自らの方向を定め、みなさんの日々の生活を豊かにすることになるでしょう。

【授業の進め方と方法】
◯ 共同研究
春学期・・・アートプロジェクトやワークショップを中心とした活動です。
秋学期・・・グループ研究のまとめとして国際文化情報学会に参加します。
今年度は、下記のプロジェクトと関わる予定です。
・高郷プロジェクト（福島県喜多方市）
他に機会があれば国内、海外のアートプロジェクトやワークショップの研修、展覧会の鑑賞なども積極的に行います。
・ドイサケット・プロジェクト（チェンマイ・タイ）
※今年度は学生から希望があった場合のみ実施します。
◯ 個人研究
個人研究については、個別に相談をしながら進めていきます。春学期と秋学期の最後に研究発表会（展覧会）を行います。研究方法については以下の 2 つから選んでください。
1. 作品制作＋ポートフォリオ
2. 論文＋ポスター制作
◯ ぜんまい
毎回 1 名の方が順番に、それぞれの選んだテーマで 10 分程度の短いプレゼンテーションをしています。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今年度の運営方法・活動スケジュールについて
第 2 回	個人研究 1	個人研究について 研究計画書の作成
第 3 回	ワークショップ演習 1 ビデオアート/映像インスタレーション	ワークショップについて ブレーンストーミング
第 4 回	ワークショップ演習 2 ビデオアート/映像インスタレーション	外部講師によるレクチャー・トレーニング 1
第 5 回	ワークショップ演習 3 ビデオアート/映像インスタレーション	外部講師によるレクチャー・トレーニング 2
第 6 回	ワークショップ演習 4 ビデオアート/映像インスタレーション	企画・プランニング
第 7 回	ワークショップ演習 5 ビデオアート/映像インスタレーション	制作・準備
第 8 回	ワークショップ演習-発表 ビデオアート/映像インスタレーション	鑑賞・講評
第 9 回	個人研究 2	プレゼンテーション（口頭発表）
第 10 回	アートプロジェクト演習 1	アートプロジェクトとは レクチャーと実験
第 11 回	アートプロジェクト演習 2	フィールドワーク （展覧会見学）
第 12 回	アートプロジェクト演習 3	計画
第 13 回	アートプロジェクト演習 4	制作・準備
第 14 回	アートプロジェクト演習 5	制作・準備
第 15 回	ポスター発表 個人研究の発表	ポスター＋作品展示 展覧会形式による研究発表及び講評会

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期活動についての説明 夏季課題提出
第 2 回	個人研究 3	プレゼンテーション（展示形式）
第 3 回	共同研究-アイディア 1	国際文化情報学会とは 研究発表の方法について
第 4 回	共同研究-アイディア 2	ディスカッション フィールドワーク 資料収集
第 5 回	共同研究-アイディア 3	企画案づくり
第 6 回	共同研究-中間発表	グループによる発表
第 7 回	共同研究-制作 1	プレゼンテーションの手法の検討
第 8 回	共同研究-制作 2	材料などの検討と準備
第 9 回	共同研究-制作 3	作品制作と展示設営の準備
第 10 回	共同研究-制作 4	作品制作と展示設営の準備
第 11 回	共同研究-作品発表	鑑賞と講評会
第 12 回	個人研究 4	プレゼンテーション（口頭発表） 展示デザインの検討
第 13 回	個人研究 5	展示設営の準備
第 14 回	個人研究 6	展示会場の設営
第 15 回	個人研究-作品発表	鑑賞と講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 経験などは問いませんが、年間を通じて意欲的に取り組んでください。
2. 個人研究については自力で進めていくことになります。質問・疑問点については教員によく相談してください。
3. 展覧会・コンサート・映画館などで作品鑑賞する機会を持ち、また他のアートやデザインの授業も受講するようにしてください。

【テキスト（教科書）】
1.Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice（Berg Pub Ltd）
2. 芸術表象コンセプトブック　アート・プラットフォーム（美学出版）

【参考書】
以下のような研究に関する実践例（プロジェクトや展覧会）および参考文献を各自で参照しておくこと。
1. 福祉施設、博物館、広場や公園など公的空間における環境計画
2. 病院や学校など、公的な場所でおこなうワークショップなどの研究

3. 地域コミュニティのポータルサイトや映像作品、冊子などの企画制作
4. 地域活性化のためのイベントやプロジェクトなどの計画案

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）
個人研究（50%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
チームワークが大切な研究活動となります。日頃からよくコミュニケーションを取るようにしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
作品制作やプレゼンテーションで PC を活用する機会も多いと思いますので、関連した実習授業を履修しておくとよいでしょう。ブログや、LINE、facebook などの SNS も積極的に活用します。
また、課題提出に授業支援システムを使います。

【その他の重要事項】
活動記録（ブログ）がありますので、履修したい方は見ておいてください。
http://inagaki-seminar.blogspot.com/
教員のウェブサイト
http://www.tatsuoinagaki.com

表象文化演習ー場所論ー

岡村　民夫

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「場所」とは、私たちの文化を文字通り足下から支える基盤である。文化の観点から場所を研究するとともに、文化を「場所」の観点から見なおす。

春学期の主題として、これまでに「建築」「風景」「旅行」「東京」「水際」「歩行」「都市」「観光」「庭園」などを取り上げてきた。今年度は、「宮崎駿およびジブリアニメ」を春学期の主題とする。

【到達目標】

文化と場所の相関性に関して、知識をつけるだけではなく、作品鑑賞やフィールドワーク（とミニレポート）を通して、作品分析力、感受性、想像力を、体験的・実践的に養うことを目指す。またゼミの諸活動を通じて、調査力、発表力、コミュニケーション力、責任感を身につける。

【授業の進め方と方法】

春学期は、主として宮崎アニメや、関連する文献・建築・場所などについてグループ発表とディスカッションを行う。

秋学期前半は、４年生による研究発表、秋学期後半は３年生による研究発表（秋学期末レポート予備発表）を行う。秋学期の発表・レポート・卒論の主題は、場所に関する文化的研究であれば「宮崎アニメ」以外の主題でも構わない。

年間を通じ、合間に適宜フィールドワークや展覧会見学を実践する。なお夏休みには、２年生の意見を尊重した夏合宿をする予定である。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。 一年間の計画の説明。 「宮崎駿」に関する概説。 春学期のグループ発表の計画。
2	フィールドワーク	江戸東京たてもの園を散策し、ミニレポートを作成する。
3	第１回講義	教員がアニメないし映画の分析方法について基本的なレクチャーをする。
4	第１回グループ発表	発表とそれをめぐる全員での討議。
5	第２回グループ発表	発表とそれをめぐる全員での討議。
6	フィールドワーク	法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
7	第３回グループ発表	発表とそれをめぐる全員での討議。
8	第４回グループ発表	発表とそれをめぐる全員での討議。
9	第５回グループ発表	発表とそれをめぐる全員での討議。
10	フィールドワーク	法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
11	第６回グループ発表	発表とそれをめぐる全員での討議。
12	第７回グループ発表	発表とそれをめぐる全員での討議。
13	第８回グループ発表	発表とそれをめぐる全員での討議。
14	春学期の補習	春学期の補習とレポートに関する注意。教員による宮崎アニメのレクチャー。
15	春学期末レポート フィールドワーク	３年は春学期やった主題に関するレポートを提出。 ４年は自由研究レポートを提出。 法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。

秋学期

回	テーマ	内容
1	秋学期ガイダンス	新ゼミ長ほかの挨拶。 秋学期の計画。 春学期レポートについてのコメント。教員による場所論レクチャー。
2	第１回個人研究発表	４年生による研究発表。
3	第２回個人研究発表	４年生による研究発表。
4	フィールドワーク	法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
5	第３回個人研究発表	３年生による研究発表。
6	第４回個人研究発表	３年生による研究発表。
7	第５回個人研究発表	３年生による個人研究発表。
8	フィールドワーク	法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
9	第１回３年生研究発表	３年生による個人研究発表。
10	第２回３年生研究発表	３年生による個人研究発表。
11	国際文化情報学会準備	国際文化情報学会の展示物の作成等。
12	国際文化情報学会準備	国際文化情報学会の展示物の作成等。
13	フィールドワーク	法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
14	３年生秋学期レポート	３年生秋学期レポート提出。 秋学期の補習。
15	卒論提出。 フィールドワーク	法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表や研究に関する文献調査やフィールドワークや作品鑑賞。
ゼミ生と相談のうえ夏期合宿を行う。
ゼミ生と相談のうえ国際文化情報学会で研究発表をする。

【テキスト（教科書）】

授業時に随時プリントを配布する。また岡村研究室から借りてもらう。

【参考書】

宮崎駿『出発点 1979~1996』（徳間書店）、同『折り返し点 1997~2008』（岩波書店）。ほかは授業時に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ参加度 (50 %）と期末レポート（50 %）を総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

学生の議論をより活発にする。メリハリをつける。

【学生が準備すべき機器他】

DVD を使う場合、教授室受付にデッキの鍵を借りに行き、返却すること。

【その他の重要事項】

書籍を買ったり、美術館へ行ったり、映画鑑賞をしたり、街歩きや旅行をしたりする好奇心と体力と余裕があること。ゼミのメンバーと協力しあい、責任を分担すること。

表象文化演習ーカネより頭と足を使え。ローコストでリッチコンテンツー

島田　雅彦

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミを作品制作班と研究班に分け、前者では映像制作やキャラクターや脚本の開発を行い、後者はおもにサブカルチャー研究に当たってもらう。個々のテーマに沿った論文やエッセイ、小説、シナリオなどの執筆指導も行うが、その成果をドキュメンタリーやインスタレーションの作品に仕上げることも可能。両者に共通しているのは、コンテンツ作りの具体的ノウハウ、理解や共感を作り出す実践的な表現テクニックを磨くレッスンを行うことである。

【到達目標】
秋学期の学部学会に向け、計画的に論文、作品制作をすすめ、より完成度の高い映像作品の制作、問題に鋭く切り込む批評、エッセイの執筆を指導する。個々の中に眠っている表現欲や表現スキルを春学期のうちに開発するので、秋学期には成長の証明を学生諸君に求める。

【授業の進め方と方法】
セメスターの初めに企画会議を行い、各班の方針を決め、早速、必要なレッスンの準備に取り掛かる。またゼミ生が個人的に興味を抱いているテーマを聞き、今後いかに研究を進めるべきか、またどのような形態でその成果を発表するかの相談を受ける。共通の問題系での思考、議論を通じ、また個人研究の指導を通じ、コンテンツ作りに必要な企画力、事務能力を育めればと思う。春学期はエッセイや論文、シナリオや映像の試作品を作ることに当てられるだろう。夏合宿や課外授業を挟んで、秋学期には春学期の成果を生かし、公開可能なレベルの映像作品、エッセイ、そして論文の完成までを指導する。
文章であれ、音楽であれ、映像であれ、身体表現であれ、表現意欲や好奇心あふれる諸君、眠っている才能を開花させたい学生、プレゼン能力を向上させたい学生などの能動的な参加を望む。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1.	はじめに　ゼミの狙い	自己紹介の発展形としてのセルフプロモーション 「私」の研究
2.	企画　企画会議	キャラクター開発の具体例 歴史上の人物の研究
3.	企画　企画会議	キャラクター開発 現在必要とされるヒーロー、ヒロイン像
4.	実習　基礎編	カメラ、録音機器、編集ソフトの扱い
5.	実習　基礎編	シナリオの書き方　原作のもじり方　脚色の魔術
6.	実習　基礎編	カット割り、絵コンテ、カメラワーク
7.	発表　試作品作り	簡単な映像作品、ビデオクリップを作る。各班に分かれ、小品の競作。
8.	個人研究　個人研究テーマの発表	それぞれのテーマ選びに際し、アドバイス
9.	個人研究　個人研究テーマの吟味	個別相談
10.	共同制作　本作品製作に向けての準備	企画会議
11.	共同制作　本作品の制作準備	本作品の製作開始
12.	共同制作　本作品の制作	ロケハン、リハーサル、撮影①
13.	共同制作　本作品の制作	ロケハン、リハーサル、撮影②
14.	共同制作　本作品の制作	撮影、編集、夏合宿①
15.	共同制作　本作品の完成	撮影、編集、夏合宿②

秋学期

回	テーマ	内容
1.	共同製作　本作品の上映	撮影、編集、完成
2.	個人作品制作　新たな企画	個人もしくはグループに分かれ、再度、企画会議
3.	個人作品制作　思い思いのコンテンツ作り	個人もしくはグループに分かれ、再度、企画会議
4.	論文指導　3 年のレポートのための指導	中間発表①
5.	論文指導　3 年のレポートのための指導	中間発表②
6.	個人作品制作　撮影、編集	複数の作品作りを同時進行で行う①
7.	個人作品制作　撮影、編集	複数の作品作りを同時進行で行う②
8.	個人作品制作　撮影、編集	複数の作品作りを同時進行で行う③
9.	学会準備　春学期、秋学期に作った作品の吟味、新作の制作	これまでに培った技術を生かし、新たな作品作り 映像編
10.	学会準備　春学期、秋学期に作った作品の吟味、新作の制作	これまでに培った技術を生かし、新たな作品作り 論文、エッセイ編
11.	学会準備　春学期、秋学期に作った作品の吟味、新作の制作	これまでに培った技術を生かし、新たな作品作り
12.	学会発表　一年の成果の公開	商品化、完成度アップ
13.	学外発表　学外でも成果公表	うまくいけば商品化
14.	論文指導　レポートの発表	面接試験
15.	論文指導　レポートの発表	論文評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
編集ソフトやカメラの扱いに関しては学外研修もあり。ゼミの時間外にこちらが推薦する映画、書籍にできるだけ多く触れること。

【テキスト（教科書）】
「小説作法 ABC」新潮社刊　それ以外は授業で指示する。

【参考書】
授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
共同製作での役割、個人研究の成果、学部学会発表などの総合的評価で決定する。評価基準は平常点 20 %、レポート、論文 80 %とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
共同作業の中では必ずサボる学生がいる。ゼミ内の温度差を解消する。

【その他の重要事項】
２０１６年度は水曜日の４限に授業を行う。

表象文化演習ーヴィジュアル文化の探求ー

鈴木　晶

配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映像技法、より具体的には映画の技術について学びます。私たちはたいていストーリーを追いながら映画を見ます。しかしストーリーだけが重要ならば、マンガでも小説でもいいはずです。映画に特有の表現、つまり映画でしかできない表現とは何かについて考えながら、模範となる古典作品を分析すると同時に、それを通じて学んだことを用いて、実際に映像作品を製作します。

【到達目標】
映像の技法を学ぶことによって、映画を見たときに、ストーリーや俳優だけでなく、その作品がどのような技術によって作られているかが見えるようになります。そのことによって、いわば映画を二倍、三倍楽しめるようになります。それが目標です。みなさんは卒業後も一生、テレビや映画を見続けるわけですから、大げさにいえば、映画の見方を知ることで、人生が大きく変わっていくはずです。
また、実際に映像作品を製作するためには、学んだ技術だけでなく、チームワークが必要になります。この共同作業は、就職してからもひじょうに役に立つはずです。また、卒業生の経験から、就活においてひじょうに有利であることが実証されています。

【授業の進め方と方法】
このゼミは本ゼミ（月４限）とサブゼミ（月５・６限）からなります。本ゼミでは、グループに分かれて、課題として与えられた映像作品を分析し、発表（プレゼン）をします。春学期は、主にヒッチコックの短編を取り上げ、学びます。秋学期はリメイクを取り上げ、オリジナルとリメイクの比較研究をおこないます。サブゼミは、最初は、本ゼミで学んだことを実際にやってみます（カメラを使ってみる。編集をしてみる）。その後、CF などの短編を制作し、夏休み後は、学会に向けて 20 分程度の作品を製作します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	映画の歴史	本ゼミは講義形式でおこないます。サブゼミでは４年生が３年生に、昨年度の活動について報告します。
第２回	レンズとカメラ	本ゼミでは講義形式でおこないます。 サブゼミでは実際にムービーカメラをいじってみます。
第３回	映像編集について	本ゼミでは講義形式でおこないます。 サブゼミでは映像編集の基礎を実際にやってみます。
第４回	ロケと音声について。	本ゼミは講義形式でおこないます。サブゼミでは実際にロケをしてみます。また音声の録音を実践してみます。
第５回	ヒッチコック劇場の分析（１）	ヒッチコック劇場のなかから「生と死の間」「ペラム氏の事件」「酒蔵」を取り上げ、分析します。この回以降は、本ゼミはグループごとの発表形式です。
第６回	ヒッチコック劇場の分析（２）	ヒッチコック劇場のなかから「もうあと１マイル」「賭」「神よ許し給え」を取り上げ、分析します。
第７回	ヒッチコック劇場の分析（３）	ヒッチコック劇場のなかから「凶器」「亡霊の見える椅子」「女性専科第一課　中年夫婦のために」を取り上げ、分析します。
第８回	第１回作品上映会	サブゼミで制作した作品の上映会をおこない、各作品についてディスカッションをします。
第９回	ヒッチコック劇場の分析（４）	ヒッチコック劇場のなかから「毒蛇」「殺人経験者」「バアン！ もう死んだ」を取り上げ、分析します。
第１０回	ヒッチコック劇場の分析（５）	ヒッチコック劇場のなかから「復讐」「雨の土曜日」「越してきた人」を取り上げ、分析します。
第１１回	ヒッチコック劇場の分析（６）	ヒッチコック劇場のなかから「黄金のセダン」「事故死構成法」「渇き」を取り上げ、分析します。
第１２回	新ヒッチコック劇場の分析（１）	新ヒッチコック劇場のなかから「錯乱の白昼夢」「殺意の放課後」「真夜中の迷路」を取り上げ、分析します。
第１３回	新ヒッチコック劇場の分析（２）	新ヒッチコック劇場のなかから「午後４時の地下室」「最終脱獄計画」「殺人幻覚」を取り上げ、分析します。
第１４回	新ヒッチコック劇場の分析（３）	新ヒッチコック劇場のなかから「暗闇のささやき」「日に焼けたロープ」「俳優悪夢」を取り上げ、分析します。
第１５回	第２回作品上映会	サブゼミで制作した作品の上映会をおこない、各作品についてディスカッションをします。

秋学期

回	テーマ	内容
第１回	夏休みの成果発表会	夏休みにおこなった研究の発表、合宿の報告、作品の上映。
第２回	リメイクの研究（１）	黒澤明「羅生門」
第３回	リメイクの研究（２）	リット「暴行」
第４回	リメイクの研究（３）	黒澤明「用心棒」
第５回	リメイクの研究（４）	セルジオ・レオーネ「荒野の用心棒」
第６回	リメイクの研究（５）	黒澤明「七人の侍」
第７回	リメイクの研究（６）	ジョン・スタージェス「荒野の用心棒」
第８回	リメイクの研究（７）	周防正行「Shall We ダンス」
第９回	リメイクの研究（８）	ピーター・チェルソム「Shall We Dance?」
第１０回	リメイクの研究（９）	神山征二郎「ハチ公物語」
第１１回	リメイクの研究（１０）	ラッセル・ハルストレム「HACHI 約束の犬」
第１２回	学会用映像作品試写（１）	学会用に制作した作品をみて、ディスカッションをおこなう。それにもとづいて修正する。
第１３回	学会用映像作品試写（２）	再度、学会用作品をみて、最終チェックをする。
第１４回	卒業記念用映像作品製作準備	卒業記念用に、どのような映像作品を作ったらいいか、ディスカッションする。
第１５回	卒業記念用映像作品の試写	卒業記念用作品の試写と、それをめぐるディスカッション。修正点を洗い出す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
いちおう本ゼミは月曜４限、サブゼミは月曜５，６限となっているが、さらに延長することもありうる。授業はグループ発表が中心なので、授業時間以外に、グループで集まって発表の準備をする必要がある。

【テキスト（教科書）】
とくに用いない。

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点。原則として欠席はいっさい認めない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ひじょうに楽しい充実したゼミである、というのが先輩たちの感想である。

【学生が準備すべき機器他】
撮影機材はほとんど学部資料室にあるので、それを利用しますが、編集は自宅でおこなうこともあるので、パソコンと映像編集ソフトが必要になります。

【その他の重要事項】
この演習は２０１７年３月に閉講となる。つまり、１年限りである。その後、学生には二つの選択肢がある。（１）４年次にはゼミに属さない。（２）他のゼミに移る。
したがって、１年間でもいいから映像製作をしたい、という学生が対象となる。

表象文化演習－比較文化・比較演劇－

竹内　晶子

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
比較文化・比較演劇
「演劇と越境」がテーマ。言語、文化、国籍、ジャンル、性別など、さまざまな「境」を演劇がどう乗り越えていき、新しい作品を作り出していくのかを、具体的な作品鑑賞と分析を通じて考えていきます。
キーワード：オリエンタリズム、翻案、異性装、ジェンダー、オペラ、オペレッタ、映画、アニメ、ミュージカル、能、文楽、歌舞伎、宝塚

【到達目標】
・小説、漫画、オペラ、ミュージカル、映画、アニメ、舞台劇、テレビドラマ、古典演劇、バレエなど、異なるジャンルの作品間の比較文化的な分析ができるようになる。
・オリエンタリズム、ジェンダー、演劇論といった理論を応用した作品分析ができるようになる。
・日本の演劇（能・歌舞伎・人形浄瑠璃・宝塚）の舞台上の特性について、基本的な知識を身につける。
・先行研究をふまえ、細密なテキスト分析にもとづいた、客観的かつ説得力をもった論文を書くことができるようになる。

【授業の進め方と方法】
春学期は主にオペレッタ『ミカド』と映画『サヨナラ』を例にオリエンタリズムの理論を、さらにディズニー映画『シンデレラ』を例にジェンダー理論を学びます。作品鑑賞とテキストの詳細な読みを組み合わせ、理論の応用を身を以て体験するとともに、ディズニーアニメと童話と実写映画の比較など、異なるジャンルの作品間の比較にも慣れていきます。
秋学期は日本を代表する特異な演劇ジャンルである、能・歌舞伎・宝塚をとりあげます。それぞれのジャンルの舞台上の特性を学ぶと共に、基本的な演劇理論を応用しながら西洋演劇との比較を行います。演劇における異性装（男装・女装）の問題、舞台と観客の関係、演劇における「非リアリズム」の問題などを、作品分析と実際の舞台鑑賞と組み合わせながら考察し、こうして学んだ演劇の可能性や理論を応用して、新たな演劇作品を自作します。
春・秋どちらの学期においても、上記の様々なジャンルの舞台に足を運ぶ予定。
両学期ともに、学生には各自研究発表を課します。研究テーマは、「比較文化」の枠内で学術的に調査する限りにおいて基本的には自由です (ただし 3 年時春学期にはテーマに縛りがあります)。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業説明、オリエンタリズム概説
第二回	映画『サヨナラ』I	映画『サヨナラ』鑑賞
第三回	映画『サヨナラ』II	映画『サヨナラ』DVD 分析
第四回	オペレッタ『ミカド』I	オペレッタ『ミカド』台本分析
第五回	オペレッタ『ミカド』II	オペレッタ『ミカド』DVD 鑑賞
第六回	オペレッタ『ミカド』III	オペレッタ『ミカド』分析
第七回	『シンデレラ』I	ディズニー版アニメ『シンデレラ』鑑賞
第八回	『シンデレラ』II	ディズニー版アニメ『シンデレラ』分析
第九回	『シンデレラ』III	実写版映画『エバーアフター』鑑賞
第十回	『シンデレラ』IV	実写版映画『エバーアフター』分析
第十一回	学生発表 I	四年次生中間発表①
第十二回	学生発表 II	四年次生中間発表②
第十三回	学生発表 III	四年次生中間発表③
第十四回	学生発表 IV	三年次生研究発表①
第十五回	学生発表 V	三年次生研究発表②

秋学期

回	テーマ	内容
第十六回	日本古典演劇概要	早稲田大学演劇博物館訪問
第十七回	能	能の歴史・構造、欧米の演劇との比較
第十八回	演劇理論概要	セリフ論、演劇空間論など、演劇理論の説明
第十九回	能の展開	能の応用例
第二十回	歌舞伎・宝塚	歌舞伎と宝塚歌劇団の歴史・構造理解
第二十一回	歌舞伎・宝塚の展開	歌舞伎・宝塚の応用例
第二十二回	創作劇発表 I	新作能・新作人形浄瑠璃・新作宝塚のグループ発表
第二十三回	創作劇発表 II	新作能・新作人形浄瑠璃・新作宝塚のグループ発表
第二十四回	学生発表 I	四年次生研究発表①
第二十五回	学生発表 II	四年次生研究発表②
第二十六回	学生発表 III	四年次生研究発表③
第二十七回	学生発表 IV	三年次生研究発表①
第二十八回	学生発表 V	三年次生研究発表②
第二十九回	学生発表 VI	三年次生研究発表③
第三十回	まとめ	レポートフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・課題テキストを読み、発表準備をすること。
・期末論文の調査・執筆・書き直し。

【テキスト（教科書）】
適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。（予定）

【参考書】
・エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』平凡社、1992 年。
・若桑みどり『お姫様とジェンダー　アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』（ちくま新書）筑摩書房、2003 年。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　30 パーセント
・課題提出　20 パーセント
・発表　20 パーセント
・期末論文　30 パーセント

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
実際の観劇と視聴覚教材を多用し、できるだけ多くの演劇ジャンルを取り上げたいと考えています。

【その他の重要事項】
その時々で上演される作品を出来るだけ授業内容に取り入れたいので、授業予定は変更する可能性があります。

表象文化演習ーポピュラー音楽の系譜ー

林　志津江

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ポピュラー音楽」について、さまざまに思考をめぐらせてみたいと思います。ロック、ジャズ、ポップミュージック、ラップ、ヒップホップ、テクノ、フォーク、パンク、歌謡曲、映画音楽…などと呼ばれる音楽現象の実像や、音楽シーンを成立させているさまざまな要素とともに、私たちと音楽の関わりを通して見える社会のあり方にするどく迫ります。キーワードは「メディア、テクノロジー、ボディ（身体）、アイデンティティ」です。

【到達目標】
・音楽という芸術形式、さらにはポピュラー音楽を形成しているものの基本要素と前提に関する知識を身につけ、批判的な洞察を行うことができる。
・メディア論の主要なテーゼや、「記憶」「世代」「身体性」「アイデンティティ」といった概念の意味、それらとポピュラー音楽との関連を理解できる。
・ポピュラー音楽という現象の特質、あるいは個々の作品や音楽シーンに関するテーマで、論理的に明解でまとまった自分のテーゼを提示できる。
・良いリスナーになれる。ミュージシャン／作曲家と批評家の関係、正当な音楽批評とは何か、音楽批評は印象批評を超えることができるのかについて、思考をめぐらせることができる。
・特定の楽曲やミュージシャンについて、自分の言葉で正当な評価を下せる分析・思考能力と審美眼を身につけられれば、なおのこと素晴らしいです！

【授業の進め方と方法】
両学期ともに、参加者は研究発表を行います。
春学期と秋学期初頭は、全授業回、こちらが提示する特定のテーマで進行します。参加者はどれかテーマを選び発表して下さい。
秋学期は、主に自分自身のテーマで発表を行う方法で進めます。
各回、発表の後は全員で議論を行い、授業後に発表者以外は全員リアクションペーパーを提出します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この演習について、研究発表の分担を決める、「音楽」について自分が感じていること、「ポピュラー音楽」と自分の関わりについて、みなでざっくばらんに話してみよう
2	理論的導入（1）	「ポピュラー音楽」って？「ポピュラー音楽」じゃない音楽って何？ ポピュラー音楽を成立させている要素について
3	テクノロジーの夜明け	大量生産・大量消費時代の幕開け、レコード（フォノグラフ、グラモフォン）の誕生とラジオ
4	メディアが切り開く余暇のかたち	ラジオ・レコード・マイクロフォン、映画館とダンスホール
5	国家と戦争	放送・録音技術の進歩を促進したもの、二度の世界大戦がもたらしたもの
6	若者と音楽	ヨーロッパ近代の産物、中産階級の産み出した「若者」世代、余暇の誕生、プチ・ブルと労働者の断絶
7	新しいメディア、新しい音楽	アメリカの高度経済成長、第二次世界大戦後のアメリカ合衆国、「郊外に住む若い夫婦」の日常と余暇、ロックンロールの誕生
8	ラジオ、テレビの普及と映画	映画にとって好都合なヒーロー・ヒロイン像、「LP レコード」と「ドーナツ盤」、45 回転シングルレコードとラジオの音楽番組、アメリカのジャズ・ミュージシャンの苦悩
9	ロックンロールからロックへ	フォークソングとビートニク、リバプールにあってロンドンになかったもの、階級か音楽かサッカーか？！
10	カウンターカルチャーの台頭	ロックミュージックの市場価値、ロックが音楽的批評の対象となる、FM 電波の誕生とニューシネマ、 ヴェトナム戦争とロックフェスティバル
11	反抗の音楽／文化産業としてのロック	疎外される若者たちと彼らの余暇の過ごし方、「詩人的な生き方」を夢みる労働者階級の若者たち、イギリスの「アートスクール」が作り出した音楽
12	階級と人種（1）	階級と人種、難しくなるロックとそれについていけない若者たち、「パンクはアティテュードだ」、移民たちのスカ／レゲエ
13	ロック／ポップミュージックとジェンダー	孤独とエンターテイメントの志向の両極化、インテリの奏でるロック、「女性ロックミュージシャン」という職業、女性による女性たちのための歌
14	階級と人種（2）	「ディスコに行く」というライフスタイル、ゲットーから生まれた音楽、R&B から「ハウス」「ラップ」「テクノ」へ、社会への意義申し立ての新たなスタイル
15	音楽のデジタル化と冷戦の終結	CD の登場とデジタル・サウンド、イギリスへ渡ったハウス、ベルリンでテクノが興隆した理由、パーティーとアンセムソング

秋学期

回	テーマ	内容
16	理論的導入（2）	春学期のまとめ、各自レポートで提示されたテーゼについて討論、研究発表の分担を決める
17	「日本のロック」ー 洋楽と邦楽	グループサウンズ、アメリカへの飽くなき憧れ、ロックかフォークか？「はっぴいえんど」の登場
18	歌謡曲 ー ニューミュージックかアイドルか	ロックの困難と歌謡曲の時代、アイドルという存在（1）
19	記号化するバンド、豊かさの後の音楽	アイドルという存在（2）、インディーズ系とバンドブーム、「渋谷系」な人々、J-POP の夜明け
20	研究発表（1）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
21	研究発表（2）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
22	研究発表（3）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
23	研究発表（4）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
24	研究発表（5）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
25	研究発表（6）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
26	研究発表（7）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う

２７	研究発表（８）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
２８	研究発表（９）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
２９	研究発表（１０）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
３０	まとめ	本年度のまとめ、演習内で提起されたさまざまな疑問やテーゼに対するフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自に必要な文献を読み、研究発表の準備を行います。
・自分にとって必要だと思う文献や、考えるヒントをつねに探し、アクセスして下さい。他の授業にも全力で取り組み、さまざまなメディアにも目配せし、情報を入手ないし取捨選択する術を磨きましょう。
・音楽を聴いたりライブへ出かけたりするのはもちろん素晴らしいです。そしてその他にもいろいろな活字に触れる、映画や展覧会、ダンスや演劇、スポーツ観戦、寺社巡りや街歩きなど、何でも積極的にチャレンジして、心揺さぶられる体験にたくさんめぐりあって下さい。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は用いない予定です。

【参考書】
・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（１）（２）』ちくま学芸文庫、1995 年/1996 年所収）
・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987 年
・F・キットラー（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999 年
・H・プレザンツ（片岡義男訳）『音楽の革命 ー バロック・ジャズ・ビートルズ』（晶文社）1971 年
・小川博司『音楽する社会』（勁草書房）1988 年
・渡辺裕『聴衆の誕生 ー ポスト・モダン時代の音楽文化』（中公文庫）1989 年
・渡辺潤『アイデンティティの音楽 ー メディア、若者、ポピュラー文化』（世界思想社）2000 年
・南田勝也『ロックミュージックの社会学』（青弓社）2001 年
・野田努『ブラック・マシン・ミュージック ー ディスコ・ハウス・デトロイト・テクノ』河出書房新社（2001 年）
・東谷護編著『ポピュラー音楽へのまなざし』（勁草書房）2003 年
・マキタスポーツ『すべての J-POP はパクリである ー 現代ポップス論考 ー』（扶桑社）2014 年
その他適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究発表 40 %、レポート課題 40 %、授業への積極的な参加（リアクションペーパーと議論への貢献度）20 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
（今年度より開講です。）

【その他の重要事項】
・今年度より開講ということもあり、皆さんの興味や関心に沿って、上記の項目や内容・順序は変更されることがあります。
・発表準備に際し、希望者については事前にオフィスアワーで対応します（必要と判断されれば全員に対して行います）。
・音楽が大好きという方の参加はもちろん歓迎します。自分でバンドをやっている、オケに入っている、長年何か楽器を弾いている、中高でブラスバンド部だったというような演奏の楽しさ（辛さ？）を知っている人はもちろんのこと、大好きなミュージシャンやアイドルについて何か語りたい、実はクラシック音楽が（も）好き、とにかく自分の熱い気持ちを（本当は）誰かに伝えたいと思っている人は、いろいろな意味でこの演習が楽しめると思います。
・もちろん「音楽とか正直別にそんなに興味ないかも」など思っている人も大歓迎です。日頃「音楽とかよくわからないんだよね」と感じている人にとっても、大いに刺激の得られる演習であって欲しいですし、そうあるべきだとも思います。音楽に対する眼差しが冷静な人にこそ見える真実があるかもしれません。ポピュラー音楽とは、私たちが好むと好まざるに関わらず、現代人の日常に深く浸透している文化現象であり、演習を通じて私たちは、私たち自身の属する文明社会の一端をかいま見ることになるはずです。
・音楽コンテンツを制作するという演習ではありません。音楽を単なる印象ではなく正当に評価することは可能なのか、作り手／演奏と批評の問題を客観的な立場で考えていくことが演習の主眼であり目的です。
・音楽学（楽典、音楽理論）やデジタル音楽技術についての知識は特に必要ありませんが、それがあればより楽しめるテーマもありえます。また平易な音楽理論は楽曲分析に必要ですが、そこは発表者の説明次第で、参加者の誰もが理解できると思います。
・メディア技術の発展のおかげで、今や音楽ソフトはさまざまな文化現象の中で最も安価（＝タダ同然で手に入るように思えるもの）なコンテンツのひとつになりました。演習ではもちろんそうした現象についても批判的な検討を試みますが、著作権は絶対に守って下さい。もちろん音楽以外の著作権についても同様です。

GA327

言語文化演習ーアフリカの文化を学ぶー

粟飯原　文子

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんはアフリカについて何を知っていますか？　何を連想するでしょう？
わたしたちが「知っている」アフリカとは、えてして、広大な大陸のごく一部を、ある特定の見方から切り取ったイメージでしかありません。アフリカとは実に 50 以上の独立国を含み、地域や民族によって全く異なる言語・文化・慣習が存在する広大で豊かな場所。この演習では、そんな多様性豊かなアフリカの文化表現に触れ、さまざまな時空間を「旅」することで、アフリカについて多角的に学んでいきます。
なお、アフリカを学ぶことで、他の旧植民地地域の歴史や文化にも関心を向けられるかもしれません。受講生個人の研究・発表のテーマは、アフリカに限らず、南アジアやカリブ海などの地域を対象とすることも可能です。

【到達目標】
・　アフリカのさまざまな文化表現を通して、アフリカの多様性を理解し、かつアフリカの歴史・社会・政治に幅広く触れる。
・　アフリカ（および旧植民地地域）について学び、考えることで、「世界史」への新しい視座を得る。
・　批評・議論の力を発展させ、自主的な調査・研究の方法を身につける。

【授業の進め方と方法】
・アフリカの文化表現とそれに関する議論や批評に触れる。そこから、文化表現が指し示す文脈、ないしは文化表現が生まれる文脈についても理解を深められるようにする。
・映画鑑賞の回以外は基本的にはゼミ形式で進めていく。担当者が問題提起を含む発表を行い、そのつど全体で討論する。
・春学期のレポートは授業内で扱ったテーマを選んで作成する。
また秋学期の後半には、秋学期のレポートのもとになる研究発表を行ってもらう。春学期同様、授業内で扱ったテーマから選んでもよいが、個人の関心や問題意識にもとづいて自由にテーマを設定することもできる。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	春学期の演習の進め方、発表やレジュメ作成の方法について説明。
第２回	レポートと論文の書き方を身に付ける	レポートや論文の書き方について、疑問や不明な点を解消できるように基本事項を復習する。
第３回	アフリカの歴史を学ぶ①	わたしたちはどのようにアフリカにアプローチすべきか。まずは大陸の歴史を概観する。
第４回	アフリカの歴史を学ぶ②　抵抗の歴史	アフリカ大陸の歴史を「抵抗」という切り口から学ぶ。
第５回	ルワンダへの視座①	ルワンダ虐殺事件とは何であったのか。歴史的に長いスパンで考えて、理解を深める。
第６回	ルワンダへの視座②	映像作品やエッセイなどを通じて、ルワンダ虐殺事件について考える。
第７回	アルジェリア解放戦争①	アルジェリアの歴史を概観し、さまざまな文献にふれて解放戦争についての理解を深める。
第８回	アルジェリア解放戦争②	映画『アルジェの戦い』を鑑賞したうえで、作品について議論を行う。
第９回	独立タンザニアの挑戦	タンザニアの現代史を学び、独立期の夢と挫折について振り返る。
第 10 回	ドキュメンタリー映画で見るアフリカ	アフリカに関するドキュメンタリー映画を見て、討論を行う。
第 11 回	イメージとしてのアフリカ①	アフリカに関する偏見やステレオタイプはどのようにつくられてきたのか。複数の文献から、歴史的に検証する。
第 12 回	イメージとしてのアフリカ②	引き続き、さまざまな文献の精読を通じて、「アフリカのイメージ」がつくられてきた歴史と背景を学び、討論を行う。
第 13 回	アフリカ文学を学ぶ①	アフリカ人作家のエッセイを通して、アフリカ文学を読解する手がかりをつかむ。
第 14 回	アフリカ文学を学ぶ②	アフリカ人作家のエッセイを通して、アフリカ文学を読解する手がかりをつかむ。
第 15 回	春学期のまとめ	レポートの提出。春学期で学んだことの復習。

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期の演習の進め方について説明。後半に行う個人研究発表に関して意見を交換する。
第 2 回	アフリカ文学を読む①	アフリカ文学作品を精読、担当者が批評・分析の対象となる箇所を指摘したうえで、全体で討論を行う。
第 3 回	アフリカ文学を読む②	アフリカ文学作品を精読、担当者が批評・分析の対象となる箇所を指摘したうえで、全体で討論を行う。
第 4 回	アフリカ文学を読む③	アフリカ文学作品を精読、担当者が批評・分析の対象となる箇所を指摘したうえで、全体で討論を行う。
第 5 回	パンアフリカニズムという夢①	パンアフリカニズムの歴史、思想について、複数の文献を参照しながら理解を深める。
第 6 回	パンアフリカニズムという夢②	パンアフリカニズムについて、アフリカ大陸の経験と絡めて学ぶ。
第 7 回	ネグリチュードとはなにか	「ネグリチュード」について、その担い手、思想・表現のあり方など、基本事項を学び、複数の文献を通して関連する議論に触れる。
第 8 回	アフリカのポピュラーカルチャー①	アフリカのポピュラーカルチャーのいくつかの事例を、さまざまな文献や映像資料を通して学ぶ。
第 9 回	アフリカのポピュラーカルチャー②	引き続き、アフリカのポピュラーカルチャーについて学び、全体で討論する。
第 10 回	研究発表①	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 11 回	研究発表②	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 12 回	研究発表③	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 13 回	研究発表④	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 14 回	研究発表⑤	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 15 回	秋学期のまとめ	秋学期のレポートの提出。秋学期で学んだことの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・次週のための準備・予習は必ず行うこと。
・文献を読む場合、指名された担当者はレジュメを作成して発表する。また、発表担当の有無によらず、受講者全員が文献を共有し、問題意識をもって授業に臨んでほしい。
・春学期・秋学期ともにレポートを課題として出すので、そのための調査を独自に行うこと。

【テキスト（教科書）】
授業時にコピーを配布する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への貢献度、授業時間内の課題の提出）10 %
・授業での発表（調査やレジュメの完成度）　30 %
・学期末のレポート　60%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生の自主的な学習、授業への積極的な参加をうながせるよう工夫をおこないたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
・全員が何らかの形で授業に貢献すること。
・授業で提示された文献をしっかり読むのは言うまでもなく、
自分で文献を探して積極的に読んでいき、研究テーマをできるだけ早く見つけられるようにする。
・英語（仏語）の読解能力を身につけてもらいたいので、
個人の調査・研究にもなるべく英語（仏語）文献や資料を用いること。

GA332

言語文化演習－対人配慮の語用論－

江村　裕文

配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では言語によるコミュニケーションを中心に考える。
言語を話せることとその言語でコミュニケーションすることとは全く異なった問題である。
最近の若者はコミュニケーション能力に問題があるという。彼らは日本語が話せないわけではない。日本語でのコミュニケーションのやり方が問題なのである。
日本人は母語を日本人のやり方で使用している。外国人も彼らのやり方で自分たちの言語を使用している。この言語の使用法の違いを異文化と称する。つまり「やり方」が異なっているのだ。日本人は日本語の「やり方」を無意識に身につけている。彼らも同様だ。
自分の「やり方」を意識化することで把握し、相手の「やり方」も理解できれば、「異文化コミュニケーション」も可能となる。これなしの異文化者との接触・交流は誤解しかもたらさない。

【到達目標】
授業を通して、基本的な「語用論」・「日本語」・「敬語」等に関する概念を共有し、それらの知見を応用して、現実の日本人の日本語使用の分析できる学力および知識を身につける。

【授業の進め方と方法】
まずは自分たちが母語をどのように使用しているかという実態を観察し、次に「語用論」・「談話分析」・「発話行為論」・「コミュニケーション論」等の知見を応用して分析する。
具体的には、授業計画であげたような項目について、観察をはじめる（ボトムアップのアプローチ）。同時に並行して理論書の講読をすすめていく（トップダウンのアプローチ）。
　最終的には、受講者の問題意識に応じて、現象の断片について個々に考察をすすめる。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	具体的エピソードⅰ	外国人の日本語使用から「気づく」日本語使用上の問題点を紹介する。
第２回	具体的エピソードⅱ	第一回に引き続き、問題点を紹介する。
第３回	文献購読　①	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第４回	文献講読　②	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第５回	文献講読　③	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第６回	文献講読　④	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第７回	文献講読　⑤	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第８回	文献講読　⑥	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第９回	文献講読　⑦	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第 10 回	文献講読　⑧	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第 11 回	文献講読　①	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第 12 回	文献講読　②	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第 13 回	文献購読　③	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第 14 回	文献購読　④	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第 15 回	春学期試験	「普通体」と「丁寧体」に関する試験

秋学期

回	テーマ	内容
第１回	文献購読　⑤	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第２回	文献購読　⑥	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第３回	文献購読　⑦	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第４回	文献購読　⑧	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第５回	文献購読　⑨	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第６回	文献購読　⑩	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第７回	文献購読　⑪	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第８回	文献購読　⑫	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第９回	文献購読　⑬	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第 10 回	文献購読　⑭	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第 11 回	テーマに関する報告①	各自のテーマについて報告する
第 12 回	テーマに関する報告②	各自のテーマについて報告する
第 13 回	テーマに関する報告③	各自のテーマについて報告する
第 14 回	テーマに関する報告④	各自のテーマについて報告する
第 15 回	全体のまとめ レポートの提出	各自のテーマに関して、最終的な講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
その都度言及するアサインメントに必ずアクセスし、自分で自分が扱うべき領域を開拓していくように努めること。

【テキスト（教科書）】
最初に、鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を購読し、次いで、井出祥子『わきまえの語用論』を購読する。

【参考書】
ブラウン＆レヴィンソン／田中典子監訳『ポライトネス』研究社
滝浦真人『日本の敬語論』大修館書店
滝浦真人『ポライトネス入門』研究社
三宅和子『日本語の対人関係把握と配慮表現行動』ひつじ書房
トマス／浅羽亮一監修『語用論入門』研究社
オーティー編／浅羽亮一監修『異文化理解の語用論』研究社

【成績評価の方法と基準】
春学期は、平常点４０点、試験の得点６０点、合計１００点で評価する。
秋学期は、平常点４０点、レポートの得点６０点、合計１００点で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
テキストとなる文献を読み進むにあたって、前提となる知識が要求されることがある。今回はそのつど説明するようにしていたが、課題として課したほうが、手間はかかるが結果的に受講生のためになると考えられるので、できるかぎりその方向で進めていきたい。

言語文化演習 －身近な文化を読みほどく－

衣笠　正晃

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのような社会でも、その文化はつねに異文化＝他者との出会いや対決のなかで自らを形成し続けており（＝相関的）、その結果として多様な（＝複数的）要素が、重なり合って存在する（＝重層的）ものとなっています。

本ゼミではこのような〈相関性・複数性・重層性〉という視点から、われわれを取り巻くさまざまな文化事象を、ゼミの仲間との自主的な議論を通じて考察してゆきます。そのなかで現代社会のあり方、その抱える問題について深く理解するとともに、自らそれに向き合う判断力を身につけることを目指します。

【到達目標】

1）比較文化・比較文学、カルチュラル・スタディーズ、文化社会学など、文化を研究・分析するために必要な理論的枠組みや知識を習得する。
2）幅広い知的好奇心を保ちつつ自らの関心領域を絞り込み、具体的な文化事象の考察をおこない、現代世界の諸問題とその歴史的文脈について理解し、自らの考えを深める。
3）個人研究の発表、グループでの討議・報告を通じて、自らの意見を説得的に伝えることのできる論理性・プレゼンテーション力を身につける。
4）先行研究など文献の読解やフィールドワークなどの調査に必要なアカデミック・スキルを学び取る。

【授業の進め方と方法】

上記の目標を実現するため、このゼミではグループワークと個人研究を並行しておこないます。

春学期には、文化を考えるための基礎となる理論や考え方を確認するため、先行研究を一緒に読み進め、討議します。学期後半からは秋学期の国際文化情報学会での発表テーマ選定を兼ねて、グループごとに話し合いやフィールドワークにもとづいてトピックを定め、グループワークによるプレゼンテーションをおこないます。

秋学期は国際文化情報学会への参加準備としてのグループワークが中心となりますが、各自の個人研究の紹介・発表もおこないます。また随所で理論的な枠組み、モデルとなる研究を検討します。

演習参加者は自分の関心に応じてテーマを自由に設定し（必要に応じて担当教員がアドバイスします）、授業を通じた学び、ゼミ生相互の批評やアドバイスを生かしながら、自らの研究として集約します。

発表者はグループの場合も、個人の場合も、レジュメを作成し、パワーポイントなどを用いて発表をおこないます（必要に応じて事前に資料を配布してもらいます）。発表に対しては全員が参加してのディスカッションをおこないますので、担当者とならなかった場合でも十分な予習と積極的な発言が求められます。また毎回各自のコメントを書き、提出してもらいます。

なお授業での講読文献・グループワークのテーマについては、ゼミメンバーの関心や研究テーマを考慮して決定します。

また夏休み中に実施予定の合宿では、テーマを決めた学習会と、研究の中間報告を予定しています。加えて学期中にフィールドワークを実施する予定です。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	シラバスの確認、各自が関心をもつトピックの紹介、授業の進め方の確認
2	イントロダクション	文献や資料探索の方法の紹介・確認
3	個人研究紹介	4 年生による個人研究の紹介
4	文献講読の導入	とりあげる文献についての紹介・解説
5	グループワーク (1)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(1)
6	グループワーク (2)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(2)
7	グループワーク (3)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(3)
8	グループワーク (4)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(4)
9	フィールドワーク	東京の街を歩くなかでの問題発見とレポートの作成
10	グループワーク (5)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (1)
11	グループワーク (6)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (2)
12	グループワーク (7)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (3)
13	グループワーク (8)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (4)
14	グループワーク (9)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (5)
15	総括と反省	春学期の議論のまとめ、夏合宿の準備

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期のスケジュールの確認
2	個人研究発表 (1)	3 年生による個人研究構想の紹介 (1)
3	個人研究発表 (2)	3 年生による個人研究構想の紹介 (2)
4	学会準備 (1)	国際情報文化学会でのゼミ発表の準備 (1)
5	学会準備 (2)	国際情報文化学会でのゼミ発表の準備 (2)
6	学会準備 (3)	国際情報文化学会でのゼミ発表の準備 (3)
7	学会準備 (4)	国際情報文化学会でのゼミ発表の準備 (4)
8	グループワーク (1)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (1)
9	個人研究発表 (3)	3 年生による個人研究の中間発表 (1)
10	個人研究発表 (4)	3 年生による個人研究の中間発表 (2)
11	グループワーク (2)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (2)
12	グループワーク (3)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (3)
13	個人研究発表 (5)	4 年生による個人研究の発表 (1)
14	個人研究発表 (6)	4 年生による個人研究の発表 (2)
15	総括と反省	秋学期の議論のまとめ、来年度に向けての話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・指定ないし配布された文献・資料を十分に読み込んでおくこと。関連する資料・情報について事前の指示にしたがって（または自主的に）収集・入手し、理解につとめること。

・発表を担当する場合（グループ、個人とも）は、レジュメ等の資料作成を含め、プレゼンテーションの準備をおこなうこと。担当しない場合も事前の指示にしたがって予習をおこない、質問・議論すべき点をあらかじめ考えておくこと（内容の要約をミニレポートとして提出してもらう場合があります）。
・フィールドワークなどの際、指示にしたがってレポートを作成し、提出すること。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】にあげたブックガイドなどを参考に、文献や資料をとりあげて使用します。必要に応じてプリント等を使用します。

【参考書】

授業中に随時紹介します。ブックガイドとして下記のものを挙げておきます。
・井上俊・長谷正人（編著）『文化社会学入門――テーマとツール』（ミネルヴァ書房、2010 年）
・井上俊・伊藤公雄（編）『日本の社会と文化』（世界思想社、2010 年）
・井上俊・伊藤公雄（編）『文化の社会学』（世界思想社、2009 年）
・佐藤健二・吉見俊哉（編）『文化の社会学』（有斐閣、2007 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業準備、発表、議論への参加など。50 %）、提出物（リアクションペーパー、課題、レポートなど。50 %）をあわせて評価します。

なお評価にあたっては、以下の 5 点に着目します。
(1) 文化を研究・分析するための基本概念と方法論を理解・習得できているか。
(2) 対象とする事例について、十分な情報にもとづいて、社会的・歴史的文脈のなかで正確に理解できているか。
(3) 文献読解や調査のスキルを習得できているか。
(4) 報告や討論を通じてコミュニケーション能力を向上させ、共同の学びに積極的に参加・貢献できているか。
(5) 授業での学習成果を主体的・説得的に表現できているか。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

・とくに秋学期において、学会準備と並行しつつ、各自の論文執筆のサポートのための個別指導を充実させたい。執筆にあたっての形式的な問題については、クラスでの具体的な周知・確認を実施したい。

【その他の重要事項】

自分の研究テーマに閉じこもるのではなく、幅広い知的関心をもってグループワークに参加するとともに、他のメンバーのテーマにたいして積極的にコメントし、アドバイスできる皆さんの参加を期待しています。

GA332

言語文化演習－英語，英語圏文化研究－

奥石　哲哉

配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は，学生が英語・英語圏文化を中心に，その言語・文化事象をさまざまな形で受信し，自らの考えを学部学会等で発信していくことを目的とします．

【到達目標】

到達目標としては，1）学生が授業を通じ，できるだけ多くの英語に触れ，英語の力をつける，2）学生が学んだことを可能なかぎり発信していく，の二つです．具体的には，学生がまず英語を理解する力をつけ，文献が読めたり，ニュース等が聞けるようになったりしなければいけません．そのために，数多くの言語・文化事象を自ら受信する能力を高めることで，きちんと英語圏の言語・文化を理解していく態度を身につけていきます．その上で，それを学生が発信していきますが，可能なかぎり，英語で発信することを考えていきます．

【授業の進め方と方法】

基本的に英語・英語文化について，あるいはより一般的に，言語・文化についての材料を用意して，学生が読んだり見聞きしながら体験していくことから始めます．その後，ゼミ生同士で気づきを共有したり，さらに各自が自らの考えを発表したりすることで，より考察を深めていきます．

春学期では，主に英語の言語・文化事象を体験していくことに焦点を当てます．担当教員や学生が選んだ教材を読んだり，見聞きしたりしながら，きちんと理解できる能力を培います．担当者だけでなく，他のゼミ生も教材を徹底的に素材を調べてくることが要求されます．

秋学期では，教材を理解していくことを続けながら，グループワークに基づくプレゼンや各自の選んだテーマについてのプレゼンを混ぜていきます．自らの意見を発信し，全員で討論することによって，学生は視野を広げ，より深い理解に繋げることを目指します．

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学生との話し合い．ゼミについての概略を説明．学生・担当教員の自己紹介．春学期でどのような教材を用いるか確認．すぐ次回の教材（教材_1）を配布し，担当者を決める．
2	教材_1（1 回目）	教材_1 について担当者が正確に理解しているか，チェック．
3	教材_1（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．併せて教材_2 を配布．担当者を決める．
4	教材_2（1 回目）	教材_2 について担当者が正確に理解しているか，チェック．併せて教材_3 を配布．担当者を決める．
5	教材_2（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
6	教材_3（1 回目）	教材_3 について担当者が正確に理解しているか，チェック．併せて教材_4 を配布．担当者を決める．
7	教材_3（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
8	教材_4（1 回目）	教材_4 について担当者が正確に理解しているか，チェック．併せて教材_5 を配布．担当者を決める．
9	教材_4（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
10	教材_5（1 回目）	教材_5 について担当者が正確に理解しているか，チェック．併せて教材_6 を配布．担当者を決める．
11	教材_5（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
12	教材_6（1 回目）	教材_6 について担当者が正確に理解しているか，チェック．
13	教材_6（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
14	総括_1	これまでの教材の理解の仕方を総括する．資料の用い方等についても，再度検討し，今後の研究に役立てる．
15	総括_2	これまでの教材の理解の仕方を総括する．資料の用い方等についても，再度検討し，今後の研究に役立てる．さらに問題点などをプレゼンしてもらい，全員で討議．その後，秋学期へどう続けていくか総括において考えていく．

秋学期

回	テーマ	内容
16	イントロダクション	春学期を振り返り，改めて秋学期の授業開始に際し，スケジュール等を確認する．教材_7 を配布し，担当者を決める．
17	教材_7（1 回目）	教材_7 について担当者が正確に理解しているか，チェック．教材_8 を配布し，担当者を決める．
18	教材_7（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
19	教材_8（1 回目）	教材_8 について担当者が正確に理解しているか，チェック．
20	教材_8（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
21	学部学会に向けた取り組み_1	グループワーク等を行い，学部発表の内容を固めていく．
22	学部学会に向けた取り組み_2	グループワーク等を行い，学部発表の内容を固めていく．
23	学部学会に向けた取り組み_3	グループワーク等を行い，学部発表の内容を固めていく．
24	学部学会のリハーサル_1	学部学会の発表を念頭に置き，これまで研究してきたことを実際に発表してみる．プレゼンの仕方などについて学習する．
25	学部学会のリハーサル_2	学部学会の発表を念頭に置き，これまで研究してきたことを実際に発表してみる．プレゼンの仕方などについて学習する．
26	学部学会の最終リハーサル	学部学会を控え，最後のリハーサルを行う．実際の発表を見据え，あくまで当日のことを頭に描きながら，よりよい発表になるようベストを尽くす．
27	教材_9（1 回目）	教材_9 について担当者が正確に理解しているか，チェック．

28	教材_9（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
29	総括_1	1 年間のゼミの総括を行う．英語の教材をどう読んでいくか再度検討し直し，併せて秋学期に行った学部学会への取り組みを反省．
30	総括_2	1 年間のゼミの総括を行う．英語の教材をどう読んでいくか再度検討し直し，併せて秋学期に行った学部学会への取り組みを反省．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材の扱っている事柄や学部学会のトピックについて，学生がきちんと先行研究を読むこと．また，固有名詞（人名，地名等）もおろそかにせず，きちんと下調べをしておくこと．最近ではネットを用いたりすればたいていの情報は入手できます．

【テキスト（教科書）】

特定のものは用いません．プリントの形で配布，あるいは授業支援システムを通じて配布します．

【参考書】

随時，指定します．

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)，学部学会への貢献等 (50%) を合計して成績を出します．なお，授業は出席することが当然なので、成績評価基準として「出席点」や「出席」という記載はしませんが，欠席が 4 回以上になりますと，参加度ゼロという扱いをするため平常点が極めて低くなり，単位取得が困難になります．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

総じて好評のようです．学会発表などをやり遂げたことで，ゼミ生の自信につながっている様子が見て取れます．

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンの時，パソコン，スクリーンを用います．また DVD 等も随時使用いたします．

【その他の重要事項】

1．英語に興味が持てない方には不向きです．例えば，英語を読むのが億劫な学生には向きません．
2．スケジュールは実状に合わせて変更・修正を行います．
3．遅刻・欠席は原則として一切認めません．

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は，3 年生，4 年生が SA 等を通じて自ら選んだコース（言語文化コース）での集大成の科目です．4 年間を一つの山にたとえた場合その頂点の科目なので，その重要性をしっかりと認識してください．

言語文化演習－世界遺産に学ぶ－

佐々木　直美

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんは SA 中あるいは個人旅行などでこれまでにいくつかの世界遺産に触れ感動した経験があることでしょう。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。南米ペルーを代表する世界遺産マチュ・ピチュの劣化や中東のエルサレムに生じている危機はそれらの例です。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれにまつわる様々な問題を掘り下げ研究します。

【到達目標】
①世界遺産を通じて歴史と異文化への理解を深める。
②世界が抱える諸問題を認識し、それについて自分の意見を述べ議論を展開させる力を付ける。
③資料収集、文献・資料の分析をつじて、研究発表や論文執筆を行う。

【授業の進め方と方法】
3 年次では個人研究のテーマの選択と発表を行います。
基礎文献の輪講、個人およびグループでの報告のほか、場合によってはフィールドワークへ出ることもあります。
また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会への参加準備も行います。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 1	3 年生に対する、昨年度何をやってきたか、の説明（4 年生と教員による）。 今年度のテーマについての議論。
2	イントロダクション 2	世界遺産の基礎知識を学ぶ。
3	フィールドワークについて	フィールドワークの技法について学ぶ。
4	フィールドワークについて	フィールドワークについての技法を学ぶとともに、計画を立てる。
5	文献講読 1	世界遺産の基礎知識と昨今指摘されている世界遺産の問題点について学ぶ。木曽功『世界遺産ビジネス』佐滝剛弘『「世界遺産」の真実』をテキストとする。
6	文献講読 2	長崎の原爆の記録を通して、戦争と平和について討論する。 取り上げる文献は永井隆『長崎の鐘』。
7	文献講読 3	長崎の被爆体験記録、秋月辰一郎『死の同心円』を取り上げ、戦争と平和そして長崎の歴史について学ぶ。
8	文献講読 4	続いて永井隆『この子を残して』を取り上げ、戦争そして原爆の現実について学び理解を深める。
9	個人研究発表 1	４年生による個人研究発表を行う。
10	個人研究発表 2	４年生による個人研究発表を行う。
11	文献講読 5	エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を通じて国際関係の諸相を学び、「世界遺産」の価値について再検討する。
12	文献講読 6	『オリエンタリズム』を通して「世界遺産」の価値について再検討する。
13	文献購読 7	宮崎賢太郎『カクレキリシタン オラショ』を取り上げ、日本人がどのようにキリスト教を受容しその信仰を保持してきたかを学ぶ。同時に長崎の歴史と文化、キリスト教関連の文化遺産について理解を深める。
14	文献講読 8	松井圭介『観光戦略としての宗教-長崎の教会群と場所の商品化』を取り上げ、宗教ツーリズムと「世界遺産」について議論する。
15	まとめ	春学期の間に学んできたことをまとめ、各メンバーが考えたことを持ち寄り、自由に議論する。

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期に学んだことの復習と輪講準備、学会発表についての方針と内容の策定
2	グループ・ワーク（1）	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
3	グループ・ワーク（2）	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
4	グループ・ワーク（3）	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
5	グループ・ワーク（4）	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
6	グループ・ワーク（5）	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
7	グループ・ワーク（6）	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
8	グループ・ワーク（7）	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
9	グループ・ワーク（8）	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。 学会発表準備
10	グループ・ワーク（9）	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。 学会発表準備
11	個人研究発表（1）	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。 学会発表準備
12	個人研究発表（2）	個人研究の発表と議論を行う。
13	個人研究発表（3）	個人研究の発表と議論を行う。
14	個人研究発表（4）	個人研究の発表と議論を行う。
15	個人研究発表（5）	個人研究の発表と議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
・個人研究を進める。

【テキスト（教科書）】
『世界遺産検定公式ガイド 300』NPO 法人世界遺産アカデミー、2010 年。

佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010 年。
木曽功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015 年。
永井隆『長崎の鐘』アルバ文庫、2002 年。
永井隆『この子を残して』アルバ文庫、1995 年。
秋月辰一郎『死の同心円―長崎被爆医師の記録』講談社、1985 年。
宮崎賢太郎『カクレキリシタン　オラショ―魂の通奏低音』長崎新聞社、2004 年。
松井圭介『観光戦略としての宗教-長崎の教会群と場所の商品化』筑波大学出版会、2013 年。

その他必要に応じて授業内で指示します。

【参考書】
奈良大学文学部世界遺産を考える会『世界遺産学を学ぶひとのために』（世界思想社、2000 年）
松浦晃一郎『世界遺産　ユネスコ事務局長は訴える』（講談社、2008 年）
中村俊介著　『世界遺産が消えてゆく』（千倉社、2006 年）
七海ゆみ子　『無形文化遺産とは何か』（彩流社、2012 年）
国末憲人　　『ユネスコ「無形文化遺産」』（平凡社、2012 年）
宮本常一『イザベラ・バードの『日本奥地紀行』を読む』（平凡社、2002 年）
　その他必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション、研究報告、ゼミへの貢献度などの平常点（50 %）、課題（50 %）で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生と相談しながらフィールド・ワークを企画し、演習内容を柔軟に対応させる。

【学生が準備すべき機器他】
　PC

【その他の重要事項】
希望者は『世界遺産検定』（NPO 法人世界遺産アカデミー主催）の２級取得を目指し、ゼミの先輩たちと共に受検対策をサポートします。

GA330

言語文化演習－映画で学ぶ国際情勢と人間の内的世界－

佐藤　千登勢

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、さまざまな国の映画作品を通して、象徴性・メタファー・寓意的表象で語られる映画言語を読み解き、背後にある、それぞれの国・地域の土着的文化、慣習、歴史的経緯、イデオロギー、社会体制の差異を確認する作業も含めて、映画鑑賞と作品分析を楽しみます。そのための基礎概念として、《ファシズム・全体主義》《亡命・離散》、《差別》、《抑圧》、《エスニシティ》といった社会的テーマから《エディプス・コンプレックス》、《分身》、《母胎回帰》、《潜在意識》、《欲望》など個人の内的世界に関わるモチーフをキーワードに、映画作品の多面性・両義性・重層性、そして映画作品に反映する国や地域の文化や社会を見ていきます。扱う映画作品は、ロシア（ソ連）、アメリカ、イギリス、デンマーク、フランス、イタリア、ドイツ、ポーランド、チェコのもの、及び、監督がこれらの国の出身である作品が中心となるでしょう。

なお、「映画テクスト解読」のみならず、ロシア（および旧ソ連）・中東欧の文化や社会研究の分野も、当演習でとりくむ用意があります。

【到達目標】

映画作品は、世界の縮図モデルであり、多様な国々の社会、経済、文化、民族的な傾向を反映したモデルとも言えます。ですから、映画作品の分析により、学生のみなさんは、洞察力、ものごとの本質を見抜く力を身につけ、さらにこれを言語化してプレゼンテーションする能力を身につけることが、この演習の目標となります。また、毎回の映画鑑賞を経ての議論内容、および自身の意見を A4 用紙 1 枚程度でまとめ、文章表現の鍛錬、自身の見解を論理的に記述する練習を重ねることで、レポート作成能力の向上を目指します。

【授業の進め方と方法】

初回から第６回までは、教員が選択する映画作品を鑑賞し、教員による概説と問題提起に基づき、みなさんに自由に討論をしてもらいます。さらに、討論を通して、自身の見解を次週までに短いレポートとしてまとめてもらいます。第６回から以後は、学生のみなさん一人ひとりに映画作品の選択から分析、見解をまとめたプレゼンテーションをしてもらい、質疑応答をみなさんで行います。また、毎回の映画鑑賞と議論の後には、これらを整理し、記憶に留めるためにも、またレポート作成能力の向上のためにも、A41 枚程度の鑑賞記録文を提出してもらいます。

なお、映画作品を扱った発表ではなく、ロシア・中東欧の文化や社会に関する発表を希望する学生は、予め相談してください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	演習の方向性を示すとともに、学生みなさんの意見をきき、春学期の計画を明確にする。いくつかの映画作品をとりあげ、手法や技巧について概説。
2	社会体制と個人	『存在の耐えられない軽さ』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
3	エスニシティと暴力	『神々と男たち』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
4	母権と狂気	『ワイルド・アット・ハート』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
5	エディプス・コンプレックス	『ツリー・オブ・ライフ』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
6	自己犠牲と共依存	『奇跡の海』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
7	学生による報告１	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
8	学生による報告２	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
9	学生による報告３	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
10	学生による報告４	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
11	学生による報告５	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
12	学生による報告６	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
13	学生による報告７	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
14	学生による報告８	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
15	学生による報告９	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	演習の方向性を示すとともに、学生みなさんの意見をきき、秋学期の計画を明確にする。
2	全体主義・パロディ・寓意	『ゼロ・シティ』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
3	冷戦と個人	『東ベルリンから来た女』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。

4	抑圧と抵抗	『地下水道』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
5	社会批判とメロドラマの混淆の妙味	『１年の９日』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
6	東欧革命・ソ連邦崩壊後の民族離散	『カフェ・ブダペスト』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
7	学生による報告１	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
8	学生による報告２	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
9	学生による報告３	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
10	学生による報告４	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
11	学生による報告５	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
12	学生による報告６	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
13	学生による報告７	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
14	学生による報告８	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
15	学生による報告９	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予め読んでくるべきテキスト（参考文献の一部コピーなど）を配付することがあります。その場合には、必ずテキストを精読し、演習での議論に活発に参加できるようにしてきてください。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用しません。適宜、教員がテーマと関連する文献のコピー、および教員が作成したレジュメを配付します。

【参考書】

適宜、文献や参考となる映像ソフトを紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、リアクションペーパー（25 %）、報告内容（25 %）に基づき、評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

学生の議論を中心とした演習を望む声もあれば、教員からの概説を中心とした演習を望む意見もありました。以後は、両者の配分のバランスに配慮しながら演習を進め、学生のみなさんに知識を得る楽しさや充実感を味わってもらうと同時に、自らの意見をまとめて見解を述べ、議論する技術を身につけてもらうよう尽力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

GA333

言語文化演習ーアジアから見た日本ー

鈴木　靖

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジアの人々は日本にどのようなイメージを持っているのか。文献や映像資料を通じて、「アジアから見た日本」について学ぶ。３年次にはドキュメンタリー映像作品の制作を通じてメディア・リテラシーと情報発信の力を身につけ、４年次には学会での研究発表を通じて批判的思考と知的生産の力を身につける。

【到達目標】

アジアの人々の対日イメージがどのように作られてきたのかを歴史的に学ぶことにより、信頼できる情報をもとに、自己と他者の双方の視点から問題を考える力（＝共感力 empathy）を身につけ、複雑化するアジアの諸問題に対して適切な判断と行動がとれるようにする。

【授業の進め方と方法】

春学期には『中国人の日本研究史』、秋学期には『日韓歴史共通教材・日韓交流の歴史』を課題図書に、プレゼンテーションとディスカッションによって学習を進めていく。夏合宿では日本とアジアとの交流に関連した史跡を見学するとともに、ビデオ取材の基礎を学ぶ。秋学期には現地取材をもとにドキュメンタリー映像作品を制作する。昨年度はノグンリ事件（朝鮮戦争の中で起こった米軍による韓国市民虐殺事件）の生存者に取材し、『市民にとっての戦争』をテーマにドキュメンタリー映像作品を制作した。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第１回	はじめに	授業の目的と到達目標について
第２回	中国人の日本研究の特色	中国における日本研究の歴史と特色
第３回	中国正史の中の倭国伝	中国の史書に描かれた「倭国」
第４回	中国正史の中の日本伝	中国の史書に描かれた「日本」
第５回	明代の日本研究	倭寇と豊臣秀吉の朝鮮出兵による日本研究の高揚
第６回	清代の日本研究①	アヘン戦争と幕末の日本
第７回	清代の日本研究②	明治維新と戊戌変法前後の日本研究の高揚
第８回	辛亥革命から九・一八事変までの日本研究	日本帝国主義への批判
第９回	十五年戦争期の日本研究	日中戦争期の日本研究
第１０回	戦後の日本研究①	戦後の日本経済の発展にともなう新たな日本研究の高揚
第 11 回	戦後の日本研究②	戦後の中国および台湾における日本史・日本文化研究
第 12 回	中国の日本研究機構と翻訳事業	中国の官民の日本研究組織と翻訳事業
第 13 回	中国人の著作に見られる日本人観	中国人の著作から日本人のイメージを概観する
第 14 回	中国人の日本研究の現在	中国人による日本研究の現状
第 15 回	合宿の準備	・これまでの学習を振り返り、夏季合宿での取材のテーマと取材先等について計画を立てる ・取材に必要な機材の準備と使用方法、インタビューの仕方について学ぶ

秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	『日韓歴史共通教材・日韓交流の歴史』について	課題図書の編纂の目的と出版までの経緯を考える
第 17 回	先史時代の文化と交流	・先史時代の文化と交流
第 18 回	三国・加耶の政治情勢と倭の交流	・三国・加耶の対立と倭 ・人々の移動と文化交流
第 19 回	隋・唐の登場と東北アジア	・百済・高句麗の滅亡と日本・新羅 ・新羅・渤海と日本の交流
第 20 回	10〜12 世紀の東北アジア国際秩序と日本・高麗	・東北アジア世界の再構成 ・10〜12 世紀の日本・高麗の関係
第 21 回	モンゴル帝国の成立と日本・高麗	・モンゴルの侵略と高麗・日本 ・14 世紀後半の東北アジア情勢と倭寇
第 22 回	15・16 世紀の中華秩序と日本・朝鮮関係	・明中心の国際秩序と日本・朝鮮 ・日本と朝鮮の交流
第 23 回	16 世紀末の日本の朝鮮侵略とその影響	・戦争の経過と朝鮮の対応 ・戦争の影響
第 24 回	通信使外交の展開	・日本と朝鮮の国交回復過程 ・通信使外交と日朝貿易 ・通信使外交の変質と崩壊
第 25 回	西洋の衝撃と東アジアの対応	・開港と不平等条約の締結 ・日朝関係の展開と摩擦 ・日清戦争と大韓帝国の成立 ・日露戦争と統監政治 ・抗日闘争と大韓帝国の主権喪失
第 26 回	日本帝国主義と朝鮮人の民族独立運動	・朝鮮総督府の武断政治 ・３・１独立運動と文化統治 ・大韓民国臨時政府と様々な独立運動 ・日本人の朝鮮認識と朝鮮人の日本認識 ・朝鮮に生きた日本人と日本に生きた朝鮮人 ・日本の満州侵略と朝鮮社会の動向 ・戦時体制の展開と独立闘争
第 27 回	敗戦・解放から日韓国交正常化まで	・日本の敗戦と朝鮮半島の解放 ・朝鮮戦争と日本 ・日韓条約の締結 ・日本の朝鮮・韓国人（日韓条約締結まで）
第 28 回	交流拡大と新しい日韓関係の発展	・交流の拡大とその明暗 ・日本の朝鮮・韓国人（日韓条約締結後） ・日韓関係の今とこれから
第 29 回	校外学習	・日中韓の交流史に関連した史跡を訪ねる
第 30 回	まとめ	・今年度学んだ内容を振り返り、今後アジアの国の人々とどのように向き合っていくかを話し合う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表者は、課題図書の内容をパワーポイントを使ってわかり易く報告できるよう準備をする
・発表者以外は、課題図書の当該箇所を精読し、事前に他の資料を参照して、批判的思考をもって意見や質問を行えるよう準備する

【テキスト（教科書）】

【春学期課題図書】
・武安隆・熊達雲著『中国人の日本研究史』（六興出版、1989 年）
【秋学期課題図書】
・歴史教育研究会・歴史教科書研究会編『日韓歴史共通教材・日韓交流の歴史』（明石書店、2007 年）

【参考書】

・木宮泰彦著『日華文化交流史』（冨山房、1955 年）
・王暁秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000 年）
・王勇著『中国史のなかの日本像』（農文協、2000 年）

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回以下の項目について５段階の自己評価をしてもらい、その合計点で評価する。

①遅刻や早退、私語などをすることなく、演習のマナーを守ったか（20 %）

②輪読資料を事前に精読し、意見交換ができるように準備したか（20 %）

③他のゼミ生の発表をしっかり聞き、積極的に意見や質問を行ったか（20 %）

④ディスカッションで積極的に議論に参加したか（20 %）

⑤ゼミ終了後、教室や機材などの後始末をきちんと行ったか（20 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

昨年度は校外学習を希望する声が多かったため、今年度も授業期間中に二回、合宿で二回、日本とのアジアとの交流に関連した史跡を訪ねてみたい

【学生が準備すべき機器他】

演習の活動はＨＯＰＳ（ｅポートフォリオ）を活用して行う。ＵＲＬは、

・言語文化演習（アジアから見た日本）

https://epf.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=21

授業の中では次のような情報機器を使用する。

(1) プレゼンテーション

パワーポイントを使ってわかりやすく伝える技術を身につける

〔使用機材〕ＰＣ、パワーポイント、プロジェクタ、スクリーンなど

(2) ディスカッション

マイクを使ってはっきりと意見を述べ、また他者の発言にしっかりと耳を傾けるというディスカッションの基本的なルールを身につける

〔使用機材〕マイク、教室内の拡声装置

(3) 現地取材

取材の申し込みから、現地でのインタビュー、映像撮影、インタビューの起こし、礼状の送付までの一連の作業を通じて、コミュニケーション能力とメディア・リテラシーを学ぶ

〔使用機器〕ビデオカメラ、三脚、マイク、ＨＯＰＳ（インタビューの起こしと翻訳に利用）

(4) 映像制作

文献での調査と現地取材からドキュメンタリー映像作品を制作し、パソコンを活用した映像制作の技術とメディア・リテラシーを学ぶ

〔使用機器〕パソコン、ＨＯＰＳ（資料の共有と構成表の共同作成に利用）、映像編集ソフト、ビデオカメラ、三脚、マイクなど

GA327

言語文化演習ースペイン語を使って、スペイン語圏の文化を研究しようー

田澤　耕

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1）SA スペインで身につけた語学力の維持、向上を図る。
2）スペイン留学で見聞きして関心を持った事項、特にカタルーニャの文化について研究する。

【到達目標】
スペイン語圏の文化と関連したテーマを発見し、「翻訳論」、「社会言語学」「社会学」、「文化人類学」、「サブ・カルチャー論」などの理論を活用しつつ、研究するスキルを身につける。

【授業の進め方と方法】
学生が主体となって授業を進める。進め方は、学期の始めに話し合って決める。
参考までにこれまでのことを記せば、上記 1）の目的では、スペイン語によるスピーチ、ディベートなどが行われた。ときにはスペイン語でゲームを楽しんだこともある。上記 2）については、各自の研究に関する計画、途中経過などの報告が行われた。また、それとは別に、グループに分れてそれぞれテーマを定めて研究発表も行った。
教員は大まかな道筋を示し、各人の発表、報告についてコメントをした。希望があって教員による講義形式の授業をしたこともある。
これまでに学生が取り組んだ研究テーマの中からいくつか例を挙げる：
「スペインと日本の女性週刊誌の比較―社会学的見地から」
「スペインのおたく文化について」
「スペインのスポーツ新聞で使われる、特殊なサッカー用語について」
「スペインのビールについて」
「スペインにおけるマリア信仰について」
「サンティアゴ巡礼について―人はなぜ歩くのか？」
「バルセロナのエスニック音楽について」
「スペイン語、イタリア語、カタルーニャ語版『星の王子様』の比較」
要するに、身の回りにあるほとんど全てのことがテーマになると考えてよい。
グループ研究のテーマ。
「スペインや中南米に進出している日系企業について」
「スペインの実践的観光案内」
「スペインのファースト・ファッション産業の戦略」

通常、一年一回の合宿を行っている。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	運営方針についての話し合い	運営方針の話し合い
第 2 回	四年生の研究の進捗状況報告	四年生の研究の進捗状況報告
第 3 回	四年生の研究の進捗状況報告	四年生の研究の進捗状況報告
第 4 回	四年生の研究の進捗状況報告	四年生の研究の進捗状況報告
第 5 回	三年生：自分が興味を持っているテーマとそれについて今までどんなことをしてきたかについて発表	三年生：自分が興味を持っているテーマとそれについて今までどんなことをしてきたかについて発表
第 6 回	三年生：自分が興味を持っているテーマとそれについて今までどんなことをしてきたかについて発表	三年生：自分が興味を持っているテーマとそれについて今までどんなことをしてきたかについて発表
第 7 回	四年生の研究の進捗状況報告	四年生の研究の進捗状況報告
第 8 回	四年生の研究の進捗状況報告	四年生の研究の進捗状況報告
第 9 回	四年生の研究の進捗状況報告	四年生の研究の進捗状況報告
第 10 回	四年生の研究の進捗状況報告	四年生の研究の進捗状況報告
第 11 回	グループ研究のテーマ策定	グループ研究のテーマ策定
第 12 回	グループ研究準備	グループ研究準備
第 13 回	グループ研究準備	グループ研究準備
第 14 回	グループ研究準備	グループ研究準備
第 15 回	夏季合宿計画策定	夏季合宿計画策定

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	グループ研究作業	グループ研究作業
第 2 回	グループ研究作業	グループ研究作業
第 3 回	グループ研究作業	グループ研究作業
第 4 回	グループ研究作業	グループ研究作業
第 5 回	グループ研究作業	グループ研究作業
第 6 回	グループ研究作業	グループ研究作業
第 7 回	グループ研究作業	グループ研究作業
第 8 回	四年生研究報告	四年生研究報告
第 9 回	四年生研究報告	四年生研究報告
第 10 回	四年生研究報告	四年生研究報告
第 11 回	四年生研究報告	四年生研究報告
第 12 回	グループ研究報告	グループ研究報告
第 13 回	グループ研究報告	グループ研究報告
第 14 回	グループ研究報告	グループ研究報告
第 15 回	三年生研究中間報告	三年生研究中間報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自のテーマに沿って参考文献を指示するので、それをきちんと読むこと。スペイン語の研鑽に努めること。「スペイン語上級」をあわせて受講することを勧める。

【テキスト（教科書）】
随時指示する。

【参考書】
随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究発表７０％、準備や発表スキルを評価。ディベート３０％、準備、積極性を評価。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
スペイン語運用能力の一層の充実を図る。学会発表という具体的な目標を持ってグループ研究をする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
1)SA スペイン修了程度のスペイン語力が必要。DELE で言えば、B1〜B2 レベル。
2))「カタルーニャの文化」（言語）、「カタルーニャの文化」（歴史と社会）を受講することが望ましい。カタルーニャ文化に興味がある学生はもちろんだが、これらの授業はすべてスペイン語で行われるので、スペイン語力を向上するという意味でも有益である。
３）「スペイン語上級」では読み・書きの能力を向上させることができるので、合せて受講するとよい。
4)2017 年度は、大西教授が担当する。2016 年度の三年生は田澤と共にスペインについて研究し、四年次（2017 年度）には大西教授とラテン・アメリカについて研究することができる。もちろん、2016 年度からラテン・アメリカのテーマに取り組むこともできるし、三年次に始めたスペインに関するテーマを引き続き大西教授に指導してもらうことも可能である。

言語文化演習 ー知ってるアメリカ・知らないアメリカ ー

栩木　玲子

配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一つの「場」から別の「場」へ足を踏み入れるとき、人は多くの発見をします。日本を離れて初めて見えてきたことが、SA 期間中には数多くあったのではないでしょうか。音楽、映画、テレビなどのメディア文化の豊かさや危うさ、生活様式、教育システム、あるいは大統領選挙、銃規制問題、国や人に対するイメージなどについて、当たり前だと思い込んでいた事柄がもろくも崩れ去ってしまう経験は「自分」という狭い箱から抜け出すきっかけとして、とても貴重です。当演習では、せっかく得られたその経験を忘れないうちに、一つ一つ切り出し、俎上にのせ、分析を加えます。テーマは「異文化を知り、自分を知る」。担当教員の専門領域がアメリカ文化なので、アメリカに関する知見を深めることがサブテーマとなるでしょう。

【到達目標】
I. この演習で学生は以下の力を身につけます。
(1) 一つの題材から、検討に値する問題点を見つけ出す。
(2) 上記「？」の理由を調べ、解釈・検討し、それを他者に伝える。
(3) 他者の意見に耳を傾け、場合によっては見解を修正しつつ、より正確で精緻な、説得力のある結論へと練り上げる
言い換えれば (1)~(3) のプロセスを通して、学生は問題発見、情報収集、解釈と分析と思考 、そして表現のスキルを磨いてゆきます。それが当演習の目標の一つです。
II. こうした探求の姿勢は、一つの事象の背景が決して単一で単純ではないことを、改めて気づかせてくれるはずです。その複雑さをときほぐすための、強靱かつ繊細な知力と感受性を身につけることも、当演習の目標となります。

【授業の進め方と方法】
教員が用意し、または学生のリクエストによる文献、映画、テレビ番組、音楽などを読み/聞き/観てから、それらについて問題設定を行い、プレゼンテーションならびにディスカッションを行います。また、学生は授業で浮かび上がった問題や、自分の経験を通して興味を抱いた事柄をテーマに選び、授業で獲得した方法論を使って、情報を取捨選択しながらゼミレポートを完成させます。もちろん一人で作業するだけではありません。随時レポートの進行状況を報告しあいながら、学生同士の意見やアドバイスが活発に交差する機会を、授業内外で提供します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明。自己紹介がわりに異国での「？」や「！」体験の洗い出し（グループによる討議とプレゼンテーション）。
第 2 回	表象分析（１）	一回目の授業で気づいたことに基づいて、表象作品（映画・音楽など）では、どんなテーマ設定が可能か検討し、実際に分析してみます。
第 3 回	表象分析（２）	前回の続き。
第 4 回	アメリカ理解のためのトピック（１）	人種とその歴史的背景について検討します。
第 5 回	アメリカ理解のためのトピック（２）	おもに宗教について日本と比べながら検討します。
第 6 回	レポート合評会（1-1）	４年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 7 回	レポート合評会（1-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 8 回	レポート合評会（2-1）	４年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 9 回	レポート合評会（2-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 10 回	春学期レポート助走	テーマ設定の仕方やレジュメの書き方、書式などについて説明。レポートの構成や論理的な思考についてもトレーニングします。
第 11 回	レポート合評会（3-1）	４年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 12 回	レポート合評会（3-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 13 回	レポート合評会（4-1）	４年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 14 回	レポート合評会（4-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 15 回	予備日	レポート相談ならびに春学期授業内容の補足説明をします。

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ理解のためのトピック（３）	ホワイトカラーとブルーカラーについて検討します。
第２回	アメリカ理解のためのトピック（４）	マニフェスト・デスティニーとフロンティアについて検討します。
第３回	アメリカ理解のためのトピック（５）	肥満と階級について検討します。
第４回	レポート合評会（1-1）	３・４年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第５回	レポート合評会（1-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第６回	レポート合評会（2-1）	３・４年次のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第７回	レポート合評会（2-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第８回	レポート合評会（3-1）	３・４年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第９回	レポート合評会（3-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第１０回	フィールドワーク (1)	身の回りにある「アメリカ」に係わる事柄を集め、日本の「アメリカ化」について検討します。
第１１回	フィールドワーク (2)	前回の続き
第１２回	秋学期レポート助走	春学期レポート執筆からの気づきと表現の困難、ならびに一般化とステレオタイプをめぐる境界設定を確認します。

第 1 3 回	レポート合評会（4-1）	３・４年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 1 4 回	レポート合評会（4-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 1 5 回	予備日	レポート相談ならびに秋学期授業内容の補足説明をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週に向けた事前準備（題材を読む・観る・聞く・調べる）は授業に参加するためには不可欠です。準備の方法や範囲は、毎回具体的に指示します。春・秋学期のレポート作成には相応の時間と労力を費やすことになりますが、完成時の知的な満足感・充実感は学生時代の思い出の一つとして、なにものにも換えられないはずです。また社会へ出てからも大きな自信となることでしょう。

【テキスト（教科書）】
とくになし。主に論文、新聞、雑誌、ネット記事などの印刷物を使用します。

【参考書】
適宜、授業時間内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
（1）発表 (30%)
（2）発言や毎授業における貢献度 (10%)
（3）レジュメや各回コメントシートなどの課題の完成度（10 %）
（4）レポート（50 %）
上記 4 つの側面を主たる評価の対象として、総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
引き続き学生が主体的に授業を企画・運営できるよう、サポートしていきます。また英語によるレポート執筆にも対応し、英語圏への留学も極力アシストし続けるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
DVD プレイヤー、PC、ならびに授業支援システム

【その他の重要事項】
（1）授業や授業準備を優先させられる
（2）向上心・知的好奇心が強い
（3）USA や特定の文化、あるいは文化全般に興味がある
– 以上の条件を満たす学生を望みます。また、当演習には学部 SA 先がアメリカ以外の学生や「嫌米」の学生もいます。多様な背景をもつ学生を歓迎します。

GA331

言語文化演習―フランコフォニーの言語文化―

廣松　勲

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランコフォニー（フランス語圏）の言語や文化を分析することで、現代世界におけるフランス語・フランス文化の社会的位置を考察する。それにより、フランコフォニーに留まらず、文化接触や文化的差異の調整を理解する際の分析手法を身につけることを目的とする。

研究対象としては、社会科学系の文献（社会学、政治学等）に限らず、文学作品（詩、小説、劇作）や映画を含めた映像作品も扱うことになる。テーマとしては、言語と社会・文化との関わりを念頭に置きつつ、より広い・細かい観点から現代のフランコフォニー社会の状況について考える。

【到達目標】

到達目標は、大きく分けて 2 つある。一つには、「フランス共和国」の言語文化を超えて、「フランコフォニー」のそれへと変貌を遂げつつあるフランス語・フランス文化が、各地域において、どのような方法によって多文化・他文化との共生の道を探っているのかを説明できること。

もう一つには、文化接触や文化的差異の「妥当なる調整」といった現象を分析する際に必要となる方法論を、確りと意識して分析・考察に取り組むことができるようになること。

参加学生は、自ら選んだフランコフォニー地域におけるフランス語・フランス文化の社会的位置を調査・分析することで、どのような文化接触の結果として、どのような共生への道が目指されてきたのか、その上でそのような共生への道が今後も有効なものであるのかどうかを考察することになる。

以上の調査・分析・考察の結果を、レポートや論文などの形に纏めることを、最終的な到達目標とする。

【授業の進め方と方法】

本演習では、参加学生の人数・関心に鑑みながら、以下のような構成に則って演習を進める予定である。なお、毎年、扱う地域を変更することがありうる。

≪ 春学期について ≫ テクストや映像を丁寧に読み込む方法を知るために、主に演習形式（レジュメ発表と討議）で進める。邦訳・字幕版の存在する代表的なフランコフォニーの文献・映像、それらに関するエッセイなどを分析対象とする。まず最初の数回の演習では、参加学生と対話しながら、フランコフォニーの言語文化を読解する際の方法論とレジュメの作成方法などを概説的に講義する。その後、演習形式の講読では、担当の学生が分担箇所をレジュメ発表し（何がどのように描かれているか？ など）、その上で問題提起とゼミ全体での討議を行う（なぜそのように描かれているのか？ など）。

春学期の最後には、個人研究のテーマや分析方法を決定する際のヒントを見つけるべく、演習での学習内容についてレポートを提出してもらう。

≪ 秋学期について ≫ 前半では、講読形式を継続する予定である。後半では、各自が自らの関心・問題意識から個人研究の口頭発表を行った上で、全員で討議を行うことになる。

秋学期末までに、個人研究の成果を論文などの形で提出してもらう。

≪ リアクション・ペーパーについて ≫ 全体討議などで触れられなかった疑問点や意見、さらに演習運営上の希望を含めて、各演習の最後にリアクション・ペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本演習（特に春学期）の内容および参加方法を説明する。 ・「フランコフォニー（フランス語圏）」とは何か？ ・春学期の講読分担を決める。
2	Ⅰ．方法論の概説、レジュメ作成方法・問題提起の仕方の確認	・言語芸術・言語文化を分析する際の方法論を概説する。テクストや映像を対象とした「テクスト分析」や「社会学的分析」を中心に論じる。 ・講読の際に準備することになるレジュメの作成方法に関して解説を行い、参加学生全員に共通理解を作る。
3	Ⅱ．フランス植民地帝国の歴史を知る	・平野千香子の評論『フランス植民地主義の歴史』（序、第一章、第二章）を読む。
4	Ⅱ．フランス植民地帝国の歴史を知る	・平野千香子の評論『フランス植民地主義の歴史』（第三章、第四章）を読む。
5	Ⅱ．フランス植民地帝国の歴史を知る	・平野千香子の評論『フランス植民地主義の歴史』（第五章）を読む。 ・フランス最古の植民地であるカリブ海域諸島に関する映画『はじまりの小屋』を見る。
6	Ⅲ．カリブ海域諸島の言語文化	・概説的にカリブ海域諸島に関する解説を行う。 ・特に、ネグリチュード、アンティユ性、クレオール性、クレオール化といった文化概念を説明する。 ・エメ・セゼールの『帰郷ノート／植民地主義論』、訳者による「エメセゼール小論」を講読する。
7	Ⅲ．カリブ海域諸島の言語文化	・エドゥアール・グリッサンの評論『関係の詩学』（ⅠとⅡ）を講読する。 ・エメ・セゼールに関する映像を見る。
8	Ⅲ．カリブ海域諸島の言語文化	・エドゥアール・グリッサンの評論『関係の詩学』（ⅢとⅣ）を講読する。
9	Ⅲ．カリブ海域諸島の言語文化	・エドゥアール・グリッサンの評論『関係の詩学』（Ⅴ）を講読する。 ・ジャン・ベルナベ、ラファエル・コンフィアン、パトリック・シャモワゾーの評論『クレオール礼賛』を講読する。
10	Ⅳ．アフリカ諸国の言語文化	・アフリカのフランコフォニーに関して概説する。特にセネガルについて扱う。 ・宇佐美久美子の『アフリカ史の意味』を講読する。 ・アフリカのフランコフォニーに関するドキュメンタリーを見る。
11	Ⅳ．アフリカ諸国の言語文化	・梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのことばと文化』（2 つの総論）を講読する。 ・センベーヌ・ウスマンの『母たちの村』を見る。
12	Ⅳ．アフリカ諸国の言語文化	・砂野幸稔の『ポストコロニアル国家と言語』（第一章）を講読する。 ・梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのことばと文化』（一章分）を講読する。

１３	Ⅳ．アフリカ諸国の言語文化	・砂野幸稔の『ポストコロニアル国家と言語』（第二章）を講読する。 ・梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのことばと文化』（一章分）を講読する。
１４	Ⅳ．アフリカ諸国の言語文化	・砂野幸稔の『ポストコロニアル国家と言語』（第三章＋補論）を講読する。 ・梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのことばと文化』（一章分）を講読する。
１５	春学期のまとめ	・春学期で扱った文献・映像などを中心に、カリブ海域諸島とアフリカ諸国における言語文化に関してまとめる。 ・レポートの提出

秋学期

回	テーマ	内容
１６	イントロダクション	・秋学期の演習内容と参加方法を確認する。 ・秋学期の講読分担を決める。 ・ヨーロッパのフランコフォニーに関する映像を見る。
１７	Ⅴ．ヨーロッパの言語文化（スイス）	・ヨーロッパのフランコフォニーに関して概説する。特にスイスを扱う。 ・河村英和の『観光大国スイスの誕生』（はじめに、第一章、第二章）を講読する。
１８	Ⅴ．ヨーロッパの言語文化（スイス）	・河村英和の『観光大国スイスの誕生』（第三章～第五章）を講読する。 ・アゴタ・クリストフの『悪童日記』を見る。
１９	Ⅴ．ヨーロッパの言語文化（スイス）	・クリストフ・ビュヒの『もう一つのスイス史』（第一章～第四章）を講読する。
２０	Ⅴ．ヨーロッパの言語文化（スイス）	・クリストフ・ビュヒの『もう一つのスイス史』（第五章～第七章＋追記）を講読する。 ・
２１	Ⅴ．ヨーロッパの言語文化（ベルギー）	・ヨーロッパのフランコフォニーに関して概説する。特にベルギーを扱う。 ・松尾秀哉の『物語　ベルギーの歴史』（序章～第三章）を講読する。
２２	Ⅴ．ヨーロッパの言語文化（ベルギー）	・松尾秀哉の『物語　ベルギーの歴史』（第四章～終章）を講読する。 ・ダニー・ブーンの『Rien à déclarer』を見る。
２３	Ⅴ．ヨーロッパの言語文化（ベルギー）	・石部尚登の『ベルギーの言語政策：方言と公用語』（第一部と第二部）を講読する。
２４	Ⅴ．ヨーロッパの言語文化（ベルギー）	・石部尚登の『ベルギーの言語政策：方言と公用語』（第三部～第五部）を講読する。 ・ラウル・ペックの『ルムンバの叫び』を見る。
２５	Ⅵ．個人発表①	・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表 20 分程度／討議 20 分程度を予定。 ・「サハラ以南アフリカ」に関する映画『母たちの村』を見る。
２６	Ⅵ．個人発表②	・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表 20 分程度／討議 20 分程度を予定。 ・「ベルギー」への移民に関する映画『肌の色は、はちみつ色』を見る。
２７	Ⅵ．個人発表③	・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表 20 分程度／討議 20 分程度を予定。 ・「ベルギー」に関する映画『ポーリーヌ』を見る。
２８	Ⅵ．個人発表④	・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表 20 分程度／討議 20 分程度を予定。 ・「ニューカレドニア」に関する映像を見る。
２９	Ⅵ．個人発表⑤	・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表 20 分程度／討議 20 分程度を予定。 ・フランス郊外に関する映画『憎しみ』を見る
３０	総まとめ	・春学期および秋学期において扱った文献・映像を中心にして、フランコフォニー社会における言語文化の状況をまとめる。 ・レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

≪準備学習に関して≫ レジュメ作成担当の学生は、レジュメの準備をする際に、充実した討議のために、「要旨」と「問題提起」を確りと提示すること。また、担当ではない学生も積極的に全体討議に参加するために、講読文献を含めた関連資料にも触れておくことが望ましい。

≪情報収集に関して≫ 参加学生は、各種メディアを介して、フランス語圏（フランコフォニー）社会の言語・文化・社会に関する情報について、できるだけ収集するように心掛けてほしい。また、演習内などで告知する講演会や上演会への参加はもちろん義務ではないが、できれば積極的に参加してくれることを願う。

【テキスト（教科書）】

講読文献に関しては、参考文献とともに、初回の演習において一覧を配布する。ただし、参加学生との相談を通じて、講読文献・映像を追加・変更する可能性がある。

【参考書】

参考文献に関しては、講読文献とともに、初回の演習において一覧を配布する。当然ながら、希望者には、さらに詳しい参考文献・映像を提示するつもりである。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出など）：10 %、講読発表：30 %、全体討議への参加度合：20 %、学期末ごとのレポート：40 %を見て、総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

文献講読を行うために必要なレジュメ作成や問題提起の仕方等については、春学期最初の授業だけでなく、適宜解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】

CD, DVD, BD などを用いることがある。

講読におけるレジュメ発表や個人発表の際には、パソコンおよびスクリーンを用いることがある。

【その他の重要事項】

履修に際しては、できるだけ春学期と秋学期合わせての履修を推奨する。

フランス語の知識（＝語学能力）は要求しない。ただし、講読の際にフランス語原典を読み、レジュメを作成しても構わない（ただし、フランス語を知らない学生にも分かるようなレジュメであって欲しい）。また、日本語以外の文献も積極的に参照することが望ましい。

講読文献の分量や内容によっては、比較的多くの準備時間が必要となることがある。そのため、レジュメ作成担当者は、早めに準備作業を始めることを推奨する。

講読や個人研究を進める上で疑問点などがあれば、廣松研究室（BT2008）での個人面談やメール面談にて、直接話し合うことができる。

GA331

言語文化演習－比較文化研究（小説と映像）－

前川　裕

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は小説の研究や映像の鑑賞を通して、文化を比較することの意味を考える。研究対象は、芥川龍之介、谷崎潤一郎のような純文学作家だけでなく、江戸川乱歩・横溝正史・松本清張・綾辻行人・東野圭吾などの大衆作家にも及ぶ。また、学生は純文学作家でありながら、推理小説の元祖と言われる、エドガー・アラン・ポーの作品も取り上げ、探偵・推理小説の歴史をも学ぶ。あるいは、それらの文学作品と関連する映画の鑑賞も大きなテーマとなる。これらの作品（小説・映像）を、西洋の関連作品と比較・対比することによって、最終的には日本文化および西洋文化の本質について考える。

【到達目標】
学生が文化研究の伝統的な方法論を知り、それを踏まえた上で自分独自の創意工夫を凝らした研究を行うことができるようになること。最終的には、あらゆる領域の文化について、論文としての体裁の整ったゼミ論を書くことを目指す。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式と演習形式の併用によって進められる。学生諸君のグループによって、発表してもらうこともある。せまい意味での文化研究ではなく、文学作品や映画を通して、浮き彫りにされる各時代の文化的諸相の理解が望まれる。また、映像を通して見る大衆文化も中心的な研究テーマの一つとなるため、映画撮影の現場を訪れ、実際にエキストラ出演してもらい、映画制作を体感してもらうこともあり得る。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	大衆文化研究の意味	マシュー・アーノルドの『文化と無秩序』やレイモンド・ウイリアムズの『長い革命』を紹介し、大衆文化を研究することの意味を検証する。
2	比較文化研究の視点	マーシャル・マクルーハンの『グーテンベルグの銀河系』およびマックス・ウエーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を紹介しながら、比較文化的な視点とは何かを考える。
3	アルフレッド・ヒチコック『フレンジー』を見る。	映画の古典的名作を鑑賞することによって、アーノルドの説を検証する。ロンドンの絞殺魔を描いた、ヒッチコックサスペンス。恐怖とは何かだけでなく、イギリス的諧謔とは何かを考える。
4	推理小説の歴史的研究　『点と線』と『悪魔の紋章』を読む。	江戸川乱歩の『悪魔の紋章』と松本清張の『点と線』を読み、「本格」と「変格」をキーワードにして、推理（探偵）小説の歴史を考察する。
5	映画『点と線』を見る。	松本清張の原作『点と線』を読み、それがいかに映像化されたかを考える。
6	エドガー・アラン・ポー『アッシャー家の崩壊』を読む。	ポーの『アッシャー家の崩壊』を読み、家系図が持つ象徴性について考察する。
7	『地獄変』の英訳研究	芥川龍之介『地獄変』の一部原文と英訳を検討し、翻訳とは何かを考える。また、ポーの『黒猫』とも比較し、日米の小説で動物がどのように取り扱われているかも考察する。
8	「田端文士村記念館」見学	『地獄変』が書かれた背景を「田端文士村記念館」の訪問によって学習する。単なる作品研究ではなく、その時代の背景を知ることも重要である。また、この記念館では芥川の動画を見ることができる。
9	学生による発表１	レジュメの書き方、発表の方法などについて、学生の発表を参照しながら、解説する。
１０	映画『蒲田行進曲』を見る。	深作欣二監督の『蒲田行進曲』を見ながら、文化の大衆性とは何かを考える。また「入れ子構造」というキーワードから映画における演劇性の問題を考える。
１１	横溝正史『八つ墓村』を読む。	この作品が津山事件とどういう関係にあるかを検証し、『アッシャー家の崩壊』との関連を考える。
１２	映画『悪魔が来たりて笛を吹く』を見る。	映像を見ながら、帝銀事件という実際の事件を原作がどのように取り入れ、それがどのように映像化されているかを考察する。
１３	学生による発表２　松本清張『鬼畜』を読む。	松本清張『鬼畜』について、学生に発表してもらう。社会派推理小説の意義について考察する。
１４	映画『鬼畜』を見る。	映画と原作の違いを考察し、映像の長所と短所について議論する。
１５	レポートの回収と講評	論文の書き方について、回収レポートを見ながら、解説する。

秋学期

回	テーマ	内容
１６	ルネ・クレマン『太陽がいっぱい』の鑑賞	フランス映画における、終わりの問題を考える。アリストテレスのペリペティアの理論を映画の演出に関連させて考察する。
１７	フェデリコ・フェリーニ『道』を見る。	巨匠フェリーニの初期作品『道』に用いられているネオ・リアリズムの手法を考察する。
１８	溝口健二『雨月物語』の映画鑑賞	上田秋成原作『雨月物語』が、溝口の手によって、どのように映像化されたかを、原作との差異を考察しながら、検証する。
１９	小津安二郎『東京物語』の映画鑑賞	溝口や小津が海外で高い評価を受ける理由を、オリエンタリズムという視点から考察する。
２０	東野圭吾『容疑者Ｘの献身』を読む。	ミステリー小説の構造を、アリストテレスが『詩学』の中で述べている理論で分析する。ギリシャ悲劇と近代ミステリーの類似点についても、考察する。
２１	『容疑者Ｘの献身』の映画鑑賞	映像が小説に対して、一層、大衆的なものになり得る理由を考察し、映像と活字の問題を研究する。
２２	レイモンド・ウイリアムズ「感情の構造」と昭和歌謡	ウイリアムズの言葉「感情の構造」を用い、横光利一の『上海』とも対比させながら、日本の昭和歌謡がどのような裏の意味を持っていたかを考える。
２３	学生の発表４	４年生３人によるゼミ論の中間発表会。１人２０分程度で、自分のゼミ論の構成と要旨を概説してもらい、それぞれが質疑応答を受ける。

２４	学生の発表５	４年生によるゼミ論の中間発表会。具体的なやり方は、２３に同じ。
２５	学生の発表６	４年生によるゼミ論の中間発表会。具体的なやり方は、２３に同じ。
２６	遠藤周作『海と毒薬』を読む。	『海と毒薬』を読み進めながら、日本における罪の意識と西洋における罪の意識について考える。
２７	イングマール・ベルイマン『沈黙』の映画鑑賞	神の不在、人間の罪という問題を扱う際、活字とは異なる映像という媒体がどのような効果を生み出すか考察する。
２８	６０年代および７０年代の背景	三島由紀夫の『鏡子の家』を紹介しながら、作品そのものよりも、むしろ、当時の時代背景に焦点を当てて概説する。
２９	映画『復讐するは我にあり』を見る。	佐木隆三の原作『復讐するは我にあり』を読み、今村昌平の映画と比較考察する。
３０	レポート回収と総括	講義・発表の総括を行い、比較文学・文化研究の将来の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書は必ず読んで、授業に出席しなければならない。課題図書は、推理小説・日本近代文学作品・海外の翻訳作品など多岐に渡る。

【テキスト（教科書）】
共通のテキストは使わない。日本文学作品の英訳を取り扱うときは、英訳のプリントを配布する。原文の方は、各自で用意してもらう。また、参考書としてアリストテレス/ホラーテイウス『詩学・詩論』（岩波文庫、1997）を使用する。

【参考書】
『グーテンベルグの銀河系』（M. マクルーハン、みすず書房、1986））

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（６０％）、発表などの平常点（４０％）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業改善アンケートはおおむね良好だが、授業の延長については、映画鑑賞や特別な発表に限るべきだろう。部屋は２コマ分確保してあるが、目的もなく延長するのは好ましくない。むしろ、基本的には９０分内にゼミが終了することを目指したい。

【学生が準備すべき機器他】
学生が用意すべき情報機器は特になし。

【その他の重要事項】
文化について考えることが好きな学生の参加を希望します。映画好きも大歓迎。このゼミでは、今まで見たことがないような風変わりで、興味深い映画を鑑賞することができます。また、知識よりも感性、頭のよさよりも、性格のよさを重視します。もちろん、ゼミ参加には協調性が一番大事です。特に今年は、映画関係者などと共同作業をすることがあり得ますから、そういうことに積極的に参加してくれる人間が望まれます。

言語文化演習－国際文学論－

リービ　英雄

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文学の国際化を代表する作家とともに、日本文学と外国文学を両方読む。それぞれの国、それぞれの言語、それぞれの時代にとって、真に新しい表現は何なのか、追求する。
越境、マイノリティ、ポストコロニアル、バイリンガル、紀行文学などを、情熱的に読み、楽しく話し合う。文学を専門にしない学生を歓迎する。ＳＡにおいて異言語に身をさらした、その体験を活かし、現代にとって書き言葉の表現の最先端はどこにあるかを問う。

【到達目標】
日本と世界の一流の文学表現にふれて、理解する。

【授業の進め方と方法】
テキストを読んで、それについて学生が発表をする。
ゼミナール形式を中心に授業を行う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	ゼミナールについて	イントロダクション
第２回	越境とバイリンガル①	書くべきことがあるのか
第３回	越境とバイリンガル②	発表①
第４回	越境とバイリンガル③	発表②
第５回	越境とバイリンガル④	発表③
第６回	マイノリティの表現①	発表①
第７回	マイノリティの表現②	発表②
第８回	マイノリティの表現③	発表③
第９回	世界の中の日本文化の表現①	発表①
第10回	世界の中の日本文化の表現②	発表②
第11回	世界の中の日本文化の表現③	発表③
第12回	島国と大陸の表現①	発表①
第13回	島国と大陸の表現②	発表②
第14回	島国と大陸の表現③	発表③
第15回	結論	コンクルージョン

秋学期

回	テーマ	内容
第１回	ゼミナールについて	イントロダクション
第２回	世界の新しい文学①	発表①
第３回	世界の新しい文学②	発表②
第４回	世界の新しい文学③	発表③
第５回	世界の新しい文学④	発表④
第６回	日本文学における「新しさ」①	発表①
第７回	日本文学における「新しさ」②	発表②
第８回	日本文学における「新しさ」③	発表③
第９回	ボーダーを越えた新しい表現①	発表①
第10回	ボーダーを越えた新しい表現②	発表②
第11回	ボーダーを越えた新しい表現③	発表③
第12回	日本の中で「世界文学」を読む①	発表①
第13回	日本の中で「世界文学」を読む②	発表②
第14回	新しい表現とは何か	発表
第15回	結論	コンクルージョン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連書を読むこと

【テキスト（教科書）】
二十世紀後半から現代までの日本と、主に英米の小説（たとえばメイラー、大江健三郎、三島由紀夫、ボールドウィン、中上健次、トニー・モリソン、在日朝鮮文学、ポスト・コロニアルの小説）。常に「時代」を切り開く文学を選ぶ。短い作品を原文で読んで、長い作品を日本語の翻訳文で読むこともある。

【参考書】
多和田葉子「エクソフォニー」
安部公房「砂の女」
リービ英雄「日本語を書く部屋」

【成績評価の方法と基準】
毎回の発表（50 %）、および参加（50 %）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生は全員満足しているようです。

国際社会演習 ー「国際関係」を問い直すー

今泉　裕美子

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界の諸問題あるいは諸事象を分析し、取り組むための視点と方法を、国際関係学を通じて学ぶ。

自分の関心あるテーマを人類の歩みのなかで、また同時代に起きているさまざまな現象との関係のなかで追究し、次の３点の問い直しから「国際関係」を問い直す。(1)「世界」と「日本」を二分しがちな思考、(2) 現代世界に起きている問題に自分たちは無関係、もしくは関係はありそうだがよくわからないし、それらの解決に無力だという意識、(3) (1) (2) をもたらす「国際関係」それ自体への認識。そこで、「国際関係」に関する基本的な概念、理論、思想、歴史、現状を学び、自分の「国際関係」認識をゆさぶり、突き崩し、再構成する。「国際関係」を支え、変化させてゆく存在としての自分の立場性と役割、具体的な方法を見出す。

【到達目標】

(1) ゼミで共有する研究テーマと、自分が追究したい研究テーマを設定し、テーマに取り組む視点と方法を、国際関係学の方法論から学ぶ。
(2) 他のゼミ生のテーマ、あるいは現代世界の諸事象について、自分の研究テーマ、関心に引きつけて意見が述べられるようにする。
(3) ひとりひとりが「国際関係」にどのように影響を受け、また自分が「国際関係」を紡ぎ出す存在でもあることを自覚し、現在は学生として、将来はどのような仕事や立場にあっても、現代世界の諸問題について責任ある意見をもち、行動できるようにする。
(4) 議論の方法、研究の方法（資料収集（資料館、図書館等での調査、フィールドワーク、聞き取り等）、分析など）及び研究発表の方法（ポスターやレジュメによる報告、学術論文の執筆）を習得する。

【授業の進め方と方法】

(1) ゼミ生が共有するテーマを設定し、関連する文献、資料を選ぶ。担当者を割り当て、レジュメを作成し報告、議論する。
(2) ３年、４年生とも個人の研究テーマを設定し、調査、分析した成果を報告会にて報告、教員からの個別指導も受ける。３年次末には個人の研究テーマを決定、4 年次末には学術論文を公表する。
(3) ゼミの最初に毎回 5 分程度、その時々に起こった関心ある出来事について解説、コメントする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業目標、進め方、方法を確認。
2	文献１に基づく議論１	文献１についての報告と議論。
3	文献１に基づく議論２	文献１についての報告と議論。
4	4 年生個人の研究テーマについて中間報告	先行研究の整理に基づく課題設定、論文構成を報告。
5	文献１に基づく議論３	文献１についての報告と議論。
6	文献１に関する映像観賞と議論４＋春学期前半の総括	映像に関する報告と議論。春学期前半を総括し、文献２と担当者を決定。
7	学術論文の書き方及び研究計画の立て方を学ぶ	4 年生が学術論文の書き方のテキストをもとに報告し、現時点までの研究過程を振り返り、研究計画を検討し３年生にアドヴァイスする。
8	文献２に基づく議論１	文献２についての報告と議論。
9	文献２に基づく議論２	文献２についての報告と議論。
10	ゼミで共有する研究テーマについてフィールドワーク、もしくは学部内外のゼミとの合同ゼミ	フィールドワークにより新たな情報を収集し、分析する。もしくは他ゼミとの議論を通じて国際関係学の方法論を深く学ぶ。
11	文献２に関する議論３	文献２についての報告、フィールドワークもしくは学部内外のゼミとの合同ゼミの成果を踏まえて議論。
12	文献２に関する映像観賞と議論４	映像に関する報告と従来の議論を踏まえ、映像から得た知見をもとに議論を深める。
13	春学期後半の総括の議論	文献 2 の議論の総括
14	個人の研究テーマについて中間報告	3 年生は個人の研究テーマの最初の発表。4 年生は個人の研究テーマの中間報告。
15	春学期の総括と秋学期の準備	春学期を総括し、ゼミで共有する研究テーマについて議論を発展させるべく秋学期の準備をする。

秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期のイントロダクション	秋学期のゼミで共有する研究テーマと進め方を提示。
17	個人の研究テーマについて中間報告	3 年生、4 年生各個人が夏休みの研究成果を報告。
18	文献３に基づく議論１	文献３についての報告と議論。
19	文献３に基づく議論２	文献３についての報告と議論。
20	文献３に基づく議論３	文献３についての報告と議論。
21	個人の研究テーマについて中間報告	3 年生は先行研究の収集と整理及び資料調査の現状報告。4 年生は学術論文の半分以上を書き上げて報告。
22	文献３に関する映像観賞＋秋学期前半の総括	映像に関する報告と従来の議論を踏まえ、映像から得た知見をもとに議論を深める。＋秋学期前半を総括し、文献 4 と担当者を決定。
23	文献４に基づく議論１	文献４についての報告と議論。
24	文献４に基づく議論２	文献４についての報告と議論。
25	国際文化情報学会準備報告	ゼミで共有した研究テーマについて、学会報告のプレ報告。
26	文献４に基づく議論３	文献４についての報告と議論。
27	ゼミで共有する研究テーマについてフィールドワーク	フィールドワークにより新たな情報を収集し、分析を進める。
28	文献４に関する映像観賞と議論４	文献４についての報告、フィールドワークの成果を踏まえて議論。
29	秋学期後半の総括＋１年の総括	秋学期後半の総括及び 1 年間のゼミで共有したテーマを総括。
30	4 年生が個人の研究テーマについて最終報告、3 年生が個人の研究テーマ報告と決定。	4 年生は個人の研究の最終報告と教員による口頭試問。3 年生は個人の研究テーマを決定、研究計画を提示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 毎回の報告では、担当者同士で関連文献を読み、レジュメを作成する。報告者以外も基礎的な事項は調べておく。
(2) 個人の研究テーマについては自主的に教員から指導をうける。資料館、図書館、研究所など関係機関に出向いたり、聞き取り、フィールドワークを実施する。第一・第二外国語を活用する。
(3) ゼミで共有するテーマについて調査旅行の企画・実施（2015 年度は沖縄）、シンポジウムや講演会、映画、博物館などに積極的に足を運ぶ。
(4) 新聞は１紙以上を毎日必ず目を通し（その新聞の社説やコラムにも目を通す。まとめサイトだけの閲覧は厳禁）、毎日 1 つ以上の報道に関心をもち、説明できるようにする。

【テキスト（教科書）】

○国際関係学に関する基本文献は以下の通り。
百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。
百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。

○ 2015 年度のゼミで共有したテーマに関する文献（毎回の報告者の関心に応じてさらに複数の文献を読んだ）
・春学期…「第二次世界大戦終結 70 年目の国際関係とそこにおける日本」をテーマに、鈴木亮『日本からの世界史』（大月書店、1994 年）、荒井信一『戦争責任論―現代史からの問い』岩波現代文庫（岩波書店、2005 年）。
・秋学期…「われわれにとって平和とは何か」をテーマに、渡辺治・和田進編『講座戦争と現代 5 ―平和秩序形成の課題（大月書店、2004 年）。
○学術論文の書き方
斉藤孝他『学術論文の技法』（新訂版）日本エディタースクール出版部、2005 年。

【参考書】
決定したテキストや資料などに応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミで共有するテーマに関する報告と議論、総括レポート（50 %）、各個人の研究テーマに関する報告や論文（50 %）。前者は、報告のための準備、議論（司会の仕方、議論参加と内容）、報告後の補足調査、学期ごとの総括とレポート、国際文化情報学会での発表。後者は、個人テーマの調査、分析、中間口頭報告・レポート、自主的に論文指導を受ける、国際文化情報学会での発表、最終提出の研究論文と口頭試問。提出物の締め切りを守れない場合は減点する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
個人の研究テーマの追究について２年間の進め方をわかりやすくした。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコン、DVD など映像資料など。

【その他の重要事項】
(1) 3 年、4 年を継続して受講すること。継続は 3 年次末に行う論文構想発表会でテーマを決定し、課された準備を行い得た学生にのみ認める。
(2) 国際関係学概論Ⅰ, Ⅱは必ず受講し、国際社会コースの関連する授業を出来るだけ受講する。各自の研究テーマに応じて他コースの授業を受け、テーマを「学際的」に追究する方法を学ぶ。具体的な課題、地域を対象とする研究方法として「アジア・太平洋国際関係史―沖縄から問い直す」（今泉担当）を受講することが望ましい。
(3) 本ゼミは①ひとりひとりが研究テーマをみつけ、学術的な分析と文章化する力をつける、②ゼミで共有する研究テーマに取り組み、ゼミ運営は役割分担し協力する、によって成立する。①、②は密接に関連し、責任をもって取り組む学生を歓迎する。

GA337

国際社会演習－グローバル化と政治理論－

大中　一彌

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校という環境を卒業し、グローバル化された社会に出て行くに際し、自分自身の考えを練り上げていくために必要な知識や技法を身につける。

【到達目標】
１．教養としての政治学を学ぶ（時代を超えて見られる原理的な課題について考察する。今年度は特に**衰退・混乱する社会**と**ひとびとの離脱**の関係に注目する）。
２．ニュースが分析されるあり方自体を分析する視点を獲得する（ニュースを受身で消費する態度から脱却する）。

【授業の進め方と方法】
１．教科書の輪読
２．新聞コーナー（学生による話題提供、報道のされ方の分析、討論）

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	ゼミ長の選出 輪読や新聞コーナーの担当日程決定
2	テキストの講読 新聞コーナー①	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
3	テキストの講読 新聞コーナー②	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
4	テキストの講読 新聞コーナー③	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
5	テキストの講読 新聞コーナー④	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
6	テキストの講読 新聞コーナー⑤	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
7	テキストの講読 新聞コーナー⑥	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
8	テキストの講読 新聞コーナー⑦	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
9	テキストの講読 新聞コーナー⑧	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
10	テキストの講読 新聞コーナー⑨	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
11	テキストの講読 新聞コーナー⑩	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
12	テキストの講読 新聞コーナー⑪	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
13	テキストの講読 新聞コーナー⑫	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
14	テキストの講読 新聞コーナー⑬	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
15	期末提出物の提出	セメスター全体の活動を踏まえ、タームペーパーを作成、提出してもらう。

秋学期

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	輪読や新聞コーナーの担当日程決定
2	テキストの講読 新聞コーナー①	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
3	テキストの講読 新聞コーナー②	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
4	テキストの講読 新聞コーナー③	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
5	テキストの講読 新聞コーナー④	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
6	テキストの講読 新聞コーナー⑤	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
7	テキストの講読 新聞コーナー⑥	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
8	テキストの講読 新聞コーナー⑦	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
9	テキストの講読 新聞コーナー⑧	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
10	テキストの講読 新聞コーナー⑨	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
11	テキストの講読 新聞コーナー⑩	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
12	テキストの講読 新聞コーナー⑪	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
13	テキストの講読 新聞コーナー⑫	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
14	テキストの講読 新聞コーナー⑬	講読、新聞コーナーをそれぞれ 30-40 分程度で行う。
15	期末提出物の提出	セメスター全体の活動を踏まえ、タームペーパーを作成、提出してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１．次回で扱われる教科書の内容を読む
２．新聞コーナーの担当にあたった場合、その準備をする。

【テキスト（教科書）】
【春】砂原庸介・稗田健志・多湖淳『政治学の第一歩』有斐閣、2015 年。
【秋】Ａ・Ｏ・ハーシュマン『離脱・発言・忠誠』矢野修一訳、ミネルヴァ書房、2005 年。

【参考書】
プラトン『国家』（上）岩波文庫、1979 年。

【成績評価の方法と基準】
次の１～５の項目それぞれを２０％として評価
１．授業内発表（レジュメ、新聞コーナー）
２．授業参加・発言の積極性
３．ゼミの運営全般への協力
４．期末提出物（タームペーパーなど）
５．平常点

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
いわゆる「滑舌」が悪いので、学生の皆さんが聞きやすいように留意する。

【学生が準備すべき機器他】
報告原稿やさまざまな連絡、学期末の提出物の提出など、基本的にすべてウェブ上（授業支援システム）で行なう。また、新聞コーナーでのパソコン、タブレット等を用いたプレゼンを歓迎する。学外からの法政大学図書館のオンラインデータベースの利用ができるよう、VPN 接続の使い方をマスターすること　http://www.hosei.ac.jp/library/kensaku/gakugai_access.html

【その他の重要事項】
進路について、定期的に個別の面接を実施している（特に大学院進学、留学、公務員試験、教職課程などについては早めにご相談を）。

GA332

国際社会演習 ーアートは国境を越える？！ - 間文化性研究ー

熊田　泰章

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＊インターカルチュラリティ研究＝文化というテクストを解読する

国際文化学部の英語表記にも含まれる概念： Interculturality ＜インターカルチュラリティ＞を研究する。文化記号論によって、文化というテクストを理解し、その仕組みを考える。そのための一番重要なキーワードがインターカルチュラリティであり、グローバリゼーションの進む中では、個々の文化の独自性を互いに尊重し、多くの文化の独自性を保つことがさらに重要になっていることをふまえ、そのための最初の一歩として、文化の多様性が成り立つ仕組みとしてのインターカルチュラリティを知る。ゼミでは、文化表象が記号として構築されていることを理解することから始め、絵画・音楽・スポーツ・衣服・建築・食事・医療・福祉などなどのすべてが、言語がそうであるのと同じく、一定の記号体系によって成立していることを確認する。学生一人ずつが興味を持つありとあらゆるすべての文化表象の一つ一つを、その深層の意味のレベルで理解する。

担当教員自身は、通時的な問題設定として、古代ローマ・ポンペイにおいてすでに『パン屋夫婦肖像画』が可能であったその後に、ヨーロッパ中世において肖像画そのものが禁じられ、ルネッサンスにおいて個人の肖像画が再び可能になったことの文化記号論的意味について、あるいは、共時的な問題設定として、現代アートのビエンナーレなどが、作品の個性を競い合う場でありながら、それらのビエンナーレがすべて同じもののコピーに見えてしまうことについて、引き続きゼミの中で考えようと思っています。

【到達目標】

国際文化学部の基本概念： Interculturality ＜インターカルチュラリティ＞を理解し、文化というテクストの仕組みを分析することができるようにする。各自の研究テーマを決め、個人研究を行う。

【授業の進め方と方法】

基本文献と英語論文を読み、討論する。
個人研究発表を行なう。
現代アートの展覧会を見に行く。
作品制作と発表を行なう；春学期に 1 回、秋学期には学部学会で発表する。
個人研究論文集を作成する。
ゼミ合宿や、現代アート展覧会などを訪ねる、日本国際文化学会の研究会に参加する、ゼミにゲストを招待することも積極的に実施。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミ運営について決定
2	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 1 章	基本文献第 1 章担当者レポートと全員の討論・エクササイズ
3	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 1 章第 2 回 英語論文第 1 回	基本文献第 1 章担当者レポートと全員の討論・エクササイズの第 2 回 英論第 1 回のレポート・全員の討論
4	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 2 章 個人研究構想発表第 1 回	第 2 章 個人研究構想を順に発表する第 1 回
5	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 2 章第 2 回 個人研究構想発表第 2 回	第 2 章第 2 回 個人研究構想発表第 2 回
6	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 3 章 作品構想第 1 回	第 3 章 作品制作の構想について討論第 1 回
7	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 3 章第 2 回 作品構想第 2 回	第 3 章第 2 回 作品制作の構想について討論第 2 回
8	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 4 章 作品制作第 1 回	第 4 章 作品制作第 1 回
9	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 4 章第 2 回 作品制作第 2 回	第 4 章第 2 回 作品制作第 2 回
10	作品発表会	作品発表と解説を行う
11	英語論文第 2 回 作品発表総括	英論第 2 回 作品発表の振り返りとまとめ
12	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 5 章 個人研究発表第 1 回	第 5 章 個人研究発表と質疑第 1 回
13	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 5 章第 2 回 個人研究発表第 2 回	第 5 章 2 回 個人研究発表と質疑第 2 回
14	英語論文第 3 回 個人研究発表第 3 回	英論第 3 回 個人研究発表と質疑第 3 回
15	まとめ	このセメスターの総括

秋学期

回	テーマ	内容
16	イントロダクション	秋学期ゼミ運営について決定
17	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 6 章	基本文献第 6 章担当者レポートと全員の討論・エクササイズ
18	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 6 章第 2 回 個人研究中間発表第 1 回	第 6 章第 2 回 個人研究の中間発表と質疑第 1 回
19	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 7 章 個人研究中間発表第 2 回	第 7 章 個人研究の中間発表と質疑第 2 回
20	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 7 章 2 回目 個人研究中間発表第 3 回	第 7 章 2 回目 個人研究の中間発表と質疑第 3 回
21	英語論文第 4 回 作品構想第 1 回	英論第 4 回 作品制作の構想について討論第 1 回
22	基本文献『イメージ・リテラシー工場』第 8 章 作品構想第 2 回	第 8 章 作品制作の構想について討論第 2 回

２３	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 8 章第 2 回 作品制作 1 回	第 8 章第 2 回 作品制作開始
２４	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 9 章 作品制作第 2 回	第 9 章 作品制作継続
２５	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 9 章第 2 回 学部学会発表準備 作品制作	第 9 章 2 回目 最終準備ゲネプロ
２６	学部学会発表総括と次年度準備	発表の総括と次年度に向けての討論
２７	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 10 章 最終個人研究発表 1 回目	第 10 章 年度締めくくりの個人研究発表と質疑第 1 回
２８	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 10 章 第 2 回 最終個人研究発表第 2 回	第 10 章 2 回目 最終個人研究発表と質疑第 2 回
２９	英語論文第 5 回 最終個人研究発表第 3 回	英論第 5 回 最終個人研究発表と質疑第 3 回
３０	今年度のまとめ	今年度の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・英語論文を系統的に読み、学習ノートに書き込み、整理する。
学習ノートは、準備学習 ⇒ 授業内 ⇒ 復習で順次参照し、書き込んでいく。
学術用語・人名などは、学習ノートに書き込み、自分自身で編集した辞典・事典として活用する。
ゼミ活動の一環として現代アート展覧会を訪ねる。

【テキスト（教科書）】
基本文献：
１ジャン＝クロード・フォザ他『イメージ・リテラシー工場－フランスの新しい　美術鑑賞法』犬伏雅一他訳、フィルムアート社、2006 年
２ミシェル・フーコー『マネの絵画』阿部崇訳、筑摩書房、2006 年
３ツヴェタン・トドロフ『個の礼賛―ルネサンス期フランドルの肖像画』岡田温　司・大塚直子訳、白水社、2002 年
４同上『日常礼賛―フェルメールの時代のオランダ風俗画』塚本昌則訳、白水　　社、2002 年
５同上『ゴヤ―啓蒙の光の陰で』小野潮訳、法政大学出版局、2014 年
６ジョン・A・ウォーカー／サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入　門－美術史を超えるための方法論－』岸文和他訳、晃洋書房、2001 年
英語論文：
　英文アート専門誌から現代アートに関する英語論文を随時選ぶ

【参考書】
ジェラール・ジュネット『芸術の作品Ｉ－内在性と超越性』和泉涼一訳、水声社、2013 年
熊田泰章編『国際文化研究への道 -　共生と連帯を求めて』彩流社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
発表と討論（50 %）、個人研究（50 %）によって評価。
基本文献で展開される概念を理解し、理解したことを発表することが重要です。基本概念をふまえて、個人論文で論証力を鍛錬します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生によるゼミ運営についての提案を受けて授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】
貸与ないし各自のパソコン持参が望ましい。
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
アートを通して国際社会を分節する！
Articulate the international community with art!

国際社会演習 ートランスナショナル・ヒストリー研究ー

佐々木　一惠

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
過去とは、私たちにとっては＜異文化＞の一つであり、また過去の出来事や事象を探究することとは、現代と過去との間の関係性を相関的に捉えていくことでもあります。この演習では、国境を越える人・モノ・カネ・思想・文化の移動によって生じた現象及び問題を歴史的な視点から検討していきます。そこから、私たちにとって「当たり前」な事象や歴史認識を、批判的に捉えなおしていく力を養っていきます。また、ナショナルな境界を越える諸問題について、自分なりの研究テーマ（対象や地域は自由）を構想し、調査・分析し論文としてまとめていく方法・技術の修得を目指します。

【到達目標】
・文献を読み、内容を理解するだけでなく、自分なりの解釈や批判を含めたクリティカル・レビューや先行研究分析ができるようになる。
・一次資料に関して、それが書かれた政治的・経済的・社会的・文化的文脈の中で解釈できるようになる。
・自分が関心のある事象について、歴史的な視点から史料（資料）収集や現地調査を行い、研究論文（3 年生のゼミ論は 10,000 字程度、4 年生の卒論は 20,000 字程度）としてまとめていけるようになる。

【授業の進め方と方法】
本年度のテーマ：「レジャー (leisure)」という概念の出現と人々のレジャー体験（recreation, entertainment, tourism, sports, arts, media, tourism 等) の変容
（1）文献に関する発表（レジュメを作成し、文献の要旨を報告し、疑問点・問題点を提起する）
（2）グループ研究発表（一次資料の分析を含めた発表を行う）
（3）新聞記事発表（トランスナショナルな事象・問題・事件を取り上げた日本語と外国語の新聞記事を選び、内容の言説分析を行うとともに、ディスカッションポイントを挙げ、ゼミで討議する）
（4）個人研究の発表（個人研究の構想・概要・進捗状況に関する発表を行う）
（5）先行研究レビュー（自分のテーマに関する先行研究を整理しレポートにまとめ発表する）
（6）その他（夏合宿、他大学との合同ゼミ、国際文化情報学会での発表、卒論合評会など）

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業概要の説明
第２回	グローバル化に関する基本概念・理論１	文化とグローバル化
第３回	グローバル化に関する基本概念・理論２	経済とグローバル化
第４回	グローバル化に関する基本概念・理論３	政治とグローバル化
第５回	異文化としての歴史を捉えるための概念・方法１	余暇学からレジャー・スタディーズへ①
第６回	異文化としての歴史を捉えるための概念・方法２	余暇学からレジャー・スタディーズへ②
第７回	異文化としての歴史を捉えるための概念・方法３	レジャーの歴史と現在①
第８回	異文化としての歴史を捉えるための概念・方法４	レジャーの歴史と現在②
第９回	異文化としての歴史を捉えるための概念・方法５	レジャーの諸相①
第 10 回	異文化としての歴史を捉えるための概念・方法６	レジャーの諸相②
第 11 回	グループ発表①	レジャーの事例研究
第 12 回	グループ発表②	レジャーの事例研究
第 13 回	グループ発表③	レジャーの事例研究
第 14 回	論文作法	論文の書き方や準備の調べ方
第 15 回	予備日	春学期に消化できなかった内容を取り上げます。

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文献レビュー発表	3 年生による発表
第２回	文献レビュー発表	3 年生による発表
第３回	文献レビュー発表	3 年生による発表
第４回	新聞記事発表	A 班
第５回	新聞記事発表	B 班
第６回	新聞記事発表	C 班
第７回	歴史からみるグローバル化と文化１	消費から考えるグローバル化と社会変動①
第８回	歴史からみるグローバル化と文化２	消費から考えるグローバル化と社会変動②
第９回	歴史からみるグローバル化と文化３	消費から考えるグローバル化と社会変動③
第 10 回	学会発表に向けて	発表の準備
第 11 回	個人研究発表	４年生
第 12 回	個人研究発表	４年生
第 13 回	個人研究発表	３年生
第 14 回	個人研究発表	３年生
第 15 回	論文検討会	論文に対するコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１．文献を読み、疑問点や質問、意見を準備してくる。
２．発表にあたっている班は、事前に集まって発表のための準備を行う。
３．個人研究の準備を進める（文献表の作成、先行文献の整理と批判、資料収集、調査、等）

【テキスト（教科書）】
瀬沼克彰『西洋余暇思想史』（世界思想社、2008 年）.
渡辺潤編『レジャー・スタディーズ』（西洋思想社、2015 年）.
遠藤薫『聖なる消費とグローバリゼーション』（勁草書房、2009 年）.

【参考書】
デュマズディエ (牛島千尋訳)『レジャー社会学』(社会思想社、1981 年).
アラン・コルバン (渡辺響子訳)『レジャーの誕生』(藤原書店、2010 年).
川北稔編『「非労働時間」の生活史：英国風ライフ・スタイルの誕生』（リブロポート、1987 年）.
指昭博編『祝祭がレジャーに変わるとき：英国余暇生活史』(創知社、1993 年）.
瀬崎圭二『海辺の恋と日本人：ひと夏の物語と近代』(青弓社、2013 年).
ルイーズ・マクレイノルズ（高橋一彦他訳）『「遊ぶ」ロシア：帝政末期の余暇と商業文化』（法政大学出版会、2014 年）.
河合信晴『政治がつむぎだす日常：東ドイツの余暇と「ふつうの人びと」』（現代書館、2015 年）.
三浦展『昭和「娯楽の殿堂」の時代』（柏書房、2015 年）.
吉田則昭, 岡田章子編『雑誌メディアの文化史：変貌する戦後パラダイム』（森話社、2012 年）.
アルベルト・ゴンサレス・トゥロヤーノ（岡住正秀他訳）『集いと娯楽の近代スペイン：セビーリャのソシアビリテ空間』（彩流社、2011 年）.

【成績評価の方法と基準】
発表・プリゼンテーション５０％、提出課題５０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
文献発表だけでなく、新聞記事発表やグループ研究を取り入れた。

GA327

国際社会演習―ヒトの移動で読み解く世界―

曽　士才

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本や諸外国において、国際労働力や留学生として、または国際結婚などによって移入してきた様々な外国人、あるいは観光客として訪れる人たちに焦点を当て、ヒトの移動を切り口にして、その国のグローバル化や多文化共生について考える。

【到達目標】

日本や諸外国のなかのエスニックタウンやニューカマーを支援するＮＧＯなどの訪問、あるいは外国人観光客誘致に力を入れている地域や外国人に人気のある観光スポットをフィールドワークしたり、研究文献を読むことにより、その国における多文化共生の現状と課題を学び、学部の国際文化情報学会で発表し、最終的には分析レポートとしてまとめる。

【授業の進め方と方法】

19 世紀は「移民の世紀」と呼ばれ、ヨーロッパから多くの移民が新大陸アメリカへと渡って行った。同じ頃、アジアでも中国やインドから欧州列強の植民地へのヒトの移動が見られた。「戦争の世紀」と呼ばれる 20 世紀に入ると、難民や国際労働力としてのヒトの移動が世界規模で広がっていった。そして、21 世紀は「観光の世紀」とも呼ばれ、人類最大の異文化接触や交流が日々、世界で展開するようになっている。

春セメスターでは、ヒトの移動に関する共通文献の講読と関連ビデオを見て、討論を行う。また、自身の研究調査テーマを設定し、先行研究の洗い出し、研究調査計画の立案を行い、チームまたは個人単位で、フィールドワークや研究文献の渉猟を行う。

秋セメスターではチームまたは個人単位で研究調査したことを整理分析し、発表し、討論する。必要に応じて補充調査をし、11 月の国際文化情報学会で成果発表を行う。また、研究を深めるために、ゲストスピーカーをお呼びして特別講義をしていただく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	春学期授業の説明、自己紹介、共通文献の選定
第 2 回	共通文献 1、2 の講読と討論	分担者の発表と共同討論。
第 3 回	共通文献 3、4 の講読と討論	分担者の発表と共同討論
第 4 回	共通文献 5、6 の講読と討論	分担者の発表と共同討論
第 5 回	共通文献 7、8 の講読と討論	分担者の発表と共同討論
第 6 回	共通文献 9、10 の講読と討論	分担者の発表と共同討論
第 7 回	研究発表と討論 1	3 年生が各自の研究テーマの先行研究について発表し、グループ討論する。グループは 3、4 年生の混成グループ
第 8 回	研究発表と討論 2	3 年生が各自の研究テーマの先行研究について発表し、グループ討論する
第 9 回	研究発表と討論 3	3 年生が各自の研究テーマの先行研究について発表し、グループ討論する
第 10 回	研究発表と討論 4	3 年生が各自の研究テーマの先行研究について発表し、グループ討論する。
第 11 回	研究発表と討論 5	3 年生が各自の研究テーマの先行研究について発表し、グループ討論する
第 12 回	研究発表と討論 6	3 年生が各自の研究テーマの先行研究について発表し、グループ討論する
第 13 回	研究計画の立案 1	フィールドワークや文献調査の計画案を練る（テーマと調査対象の決定）
第 14 回	研究計画の立案 2	フィールドワークや文献調査の計画案を練る（調査内容と調査方法の決定）
第 15 回	研究計画発表	チームまたは個人単位で実施するフィールドワークや文献調査の計画案を発表し、質疑応答を行う

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロダクション	チームまたは個人単位で研究調査の中間報告
第 2 回	調査結果の整理・分析 1	チームまたは個人単位で整理・分析 or 補充調査の準備
第 3 回	調査結果の整理・分析 2	チームまたは個人単位で整理・分析 or 補充調査の準備
第 4 回	調査結果の整理・分析 3	チームまたは個人単位で整理・分析 or 補充調査の準備
第 5 回	調査結果の整理・分析 4	チームまたは個人単位で整理・分析
第 6 回	調査結果の整理・分析 5	チームまたは個人単位で整理・分析
第 7 回	調査結果の整理・分析 6	チームまたは個人単位で整理・分析
第 8 回	研究成果の中間発表会	ゼミ生全員の前で成果発表をする
第 9 回	学会発表の準備 1	国際文化情報学会での発表に向けた準備を行う
第 10 回	学会発表の準備 2	学会発表直前の準備、リハーサルを行う
第 11 回	学会発表の反省会	学会発表を振り返り、今後の課題を明らかにする
第 12 回	ゲストスピーカー特別講義 1	観光・旅行分野のレクチャー
第 13 回	ゲストスピーカー特別講義 2	移民・マイノリティ分野のレクチャー
第 14 回	分析レポート作成準備	分析レポート作成の準備を行う
第 15 回	研究報告会	分析レポートに関する口頭発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期では、共通文献の読み込みを行うとともに、自身の研究テーマの先行研究の洗い出し、読み込みを行う。秋学期では、フィールドワークや文献調査によって得られた調査結果の整理・分析を随時行う。

【テキスト（教科書）】

初回の授業で相談して決めたい。

【参考書】

山下晋司編『観光文化学』新曜社 2007 年
神田孝治編『観光の空間―視点とアプローチ』ナカニシヤ出版 2009 年
S. カースルズ、M.J. ミラー （関根政美・関根薫監訳）『国際移民の時代 ［第 4 版］』名古屋大学出版会 2011 年
日本移民学会編『移民研究と多文化共生』御茶の水書房 2011 年
吉原和男編『現代における人の国際移動―アジアの中の日本』慶応義塾大学出版会 2013 年

【成績評価の方法と基準】

春学期は授業中の討論への参加度、調査への参加度 70 %、期末に課すレポート（研究調査計画書）30 %、秋学期は授業中の討論への参加度、調査への参加度 70 %、期末に提出する分析レポート 30 % の割合で成績評価を行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

ゼミ参加者数が多く、グループワークの時間が占める割合が高い。ゼミ生全体の交流の機会を確保するために、懇親会や授業支援システムの活用を心がけたい。

GA327

国際社会演習－朝鮮半島と日本－

髙柳　俊男

配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昨 2015 年は、戦後 70 年であると同時に、日本と韓国が過去を清算し、国交を樹立してから 50 周年に当たる、まさに節目の年であった。

現在、隣国の韓国に向ける日本の視線には、K-POP をはじめ韓流による関心や憧れがある一方で、領土問題や歴史問題をめぐって軋轢や厳しい見方もある。もう一つの北朝鮮には、かつては熱い視線が注がれた時代もあったが、いまだ国交がなく、冷やかな眺めが支配的である。

どうしてこのような現状になっているのであろうか？　そこに至るまでの間には、どのような出来事や人々の営みがあったのだろうか？　状況を少しでも良い方向に動かしていくためには、何が必要なのだろうか？

この授業では、日本と朝鮮半島の間の複雑に絡まっている糸を、少しずつ解いていく作業をする。それを踏まえてあるべき未来を考察することをめざしたい。なかでも、現在は埋もれてしまっている貴重な歴史的諸経験や未発の可能性を掘り起こすことに力を注ぎたい。

同時に、朝鮮問題を中心にしながらも、日本の異文化理解や多文化共生・多民族共生全般という、より広い文脈の中で捉えることを心がける。

私の演習では、理論から出発するようなアプローチは採らない。むしろ具体的な諸事実をとことん突き詰めるなかで、自らの認識を深化させること――いわば個別を極めることで普遍に至るような学び方を身につけることを重視したい。

【到達目標】

日本と朝鮮半島が歩んできた歴史と現在を、自らの知性と感性により時間的・空間的広がりの中で理解し、特定の個人の事例をも媒介にしつつ、受け売りではなく、自らの言葉で語れるようにすることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

第１回目に、参加ゼミ生個々人がこれまで読んで感銘を受けた韓国・朝鮮関連の本で、ぜひ他のメンバーと議論したい作品を挙げてもらう。それらをリスト化し、個々人の読書の参考にするとともに、一部を年間スケジュールの中にも組み込みたい。

第２回目以降は、まずウォーミングアップから始め、髙柳が執筆したいくつかの関連文献を、導入教材として読む。

続いてテキストに入り、第１章から順次、レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。討論の中で出た疑問点・不足点を、レポーターに次回冒頭で補足してもらい、知識・認識の深化をはかる。

関連映像の視聴を随時まじえ、夏休みなどを利用した合宿や関連スポットへのフィールドワークも、受講生の自発性と創意工夫で適宜実施したい。

朝鮮語ができる人には、関連する朝鮮語文献を活用していただくが、朝鮮語能力はこの演習を受講するにあたっての必要条件ではない。

また、授業は登録上では１コマだが、４限と５限にまたがって行なうので、ほかの授業やアルバイトを入れないこと。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講者の自己紹介、自分の推薦する本、年間授業スケジュールの確認、導入教材の配付、レファレンスブックの紹介など
第 2 回	導入教材①	髙柳執筆の論文①を読む
第 3 回	導入教材②	髙柳執筆の論文②を読む
第 4 回	導入教材③	髙柳執筆の論文③を読む
第 5 回	映像上映①	学習内容の映像による確認
第 6 回	テキスト導入	これからテキストを講読するにあたって、まず著者である朴裕河氏について、新聞・雑誌でどのような報道があるかを確認する
第 7 回	テキストの個人報告①	第１章前半 レポーターの報告と全員による討論
第 8 回	テキストの個人報告②	第１章後半 レポーターの報告と全員による討論
第 9 回	映像上映②	学習内容の映像による確認（教科書問題）
第 10 回	テキストの個人報告③	第２章前半 レポーターの報告と全員による討論
第 11 回	テキストの個人報告④	第２章後半 レポーターの報告と全員による討論
第 12 回	映像上映③	学習内容の映像による確認（慰安婦問題）
第 13 回	テキストの個人報告⑤	テキスト第３章前半 レポーターの報告と全員による討論
第 14 回	テキストの個人報告⑥	テキスト第３章後半 レポーターの報告と全員による討論
第 15 回	春学期のまとめ	ここまでの学習のまとめと、夏休み中の学習計画の策定を行なう

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の導入①	夏期休業中の各自の学習成果の報告
第 2 回	秋学期の導入②	夏期休業中の各自の学習成果の報告
第 3 回	映像上映④	学習内容の映像による確認
第 4 回	秋学期の導入③	夏期休業中の関連新聞記事の分析（朝日／毎日）
第 5 回	秋学期の導入④	夏期休業中の関連新聞記事の分析（読売／韓国の新聞）
第 6 回	映像上映⑤	学習内容の映像による確認
第 7 回	私の推薦する本	年度始めにゼミ生全員が推奨した本の中から１冊を選び、全員で読んでみる
第 8 回	テキストの個人報告⑦	第４章前半 レポーターの報告と全員による討論
第 9 回	テキストの個人報告⑧	第４章後半 レポーターの報告と全員による討論
第 10 回	映像上映⑥	学習内容の映像による確認（領土問題）
第 11 回	テキストの個人報告⑨	第５章前半 レポーターの報告と全員による討論
第 12 回	テキストの個人報告⑩	第５章後半 レポーターの報告と全員による討論
第 13 回	映像上映⑦	学習内容の映像による確認
第 14 回	テキストの最終総括	１年間読み進めてきたテキスト全体のまとめ 著者や訳者などのゲストをお招きすることも含めて考える
第 15 回	年間の学習のまとめ	1 年間の学習のまとめと春休み中の学習計画、次年度への橋渡し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する各種参考文献の講読、関連スポットへの訪問、学内外における関連イベントへの参加など。とくに、同じ筆者による『反日ナショナリズムを超えて』（河出書房新社）『帝国の慰安婦』（朝日新聞出版）にも目を通せば、テキストの理解が増進するはずである。

また、別の科目になるが、可能な限り４年次秋学期に「卒業研究」を提出して卒業できるよう、日頃から作成に向けた準備を念頭に置きながら演習にも臨むことが望ましい。

なお、日本近現代史・東アジア近現代史の大きな流れについて、高校で習う程度の基礎知識を前提にするので、不足を感じる人は自分で補うよう努めること。

【テキスト（教科書）】

朴裕河『和解のために：教科書・慰安婦・靖国・独島』（平凡社、2006 年；のちに平凡社ライブラリー№ 740 として出た廉価版＝本体価格 1,300 円でかまわない）。

今年度、この本を取り上げることとしたのは、著者の近著『帝国の慰安婦』が名誉棄損に当たるとして、韓国で在宅起訴された事件を直接の契機としている。

私のゼミでは 2003 年度、日韓関係を扱った朴裕河氏の最初の本『誰が日本を歪曲するのか』（韓国語）をゼミ生で分担して部分的に翻訳し、それをテキストに著者をお招きして交流させてもらった、貴重な経験がある（同書はのちに、「反日ナショナリズムを超えて」のタイトルで日本語訳された）。

それから 13 年、この間に流れた歴史を振り返りながら、いまもう一度、朴裕河氏の思索を手がかりに、日韓間の懸案問題について考察してみたい。

【参考書】

レファレンスブックとして、『朝鮮を知る事典』（平凡社）『朝鮮人物事典』（大和書房）『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』『在日コリアン辞典』（明石書店）などを随時参照すること。韓国・朝鮮について深く考えたいと願う人は、自分で購入し、ゼミに持参することを強く推奨する。

【成績評価の方法と基準】

演習なので、毎回事前にテキストを読み込み、ポイントを把握して来たうえで出席し、必ず何かしら自分の見解を表明することが大切。そうした平常時の貢献度と発表時の報告内容を 35 ％ずつ、学期末のレポートを 30 ％として判断する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

ゼミはサークルや「仲良しクラブ」ではないが、かといって参加者個人の孤独な作業とも異なる。探究心に溢れた一人一人の営みの上に、みなで切磋琢磨できるような場となるよう、ともに努力してしていきたい。

【その他の重要事項】

年間を通して、「知の蓄積」という課題を常に考えながら学んでいきたい。

その意味は、一つはこれまでの歴史の中で蓄積されてきた人類の膨大な知をどう活用できるかという課題、もう一つは自分の中に知をどう蓄積していけるかという課題を指している。

とくに後者については、一度学んだ内容が再度登場した場合、より高いレベルで考えられるようにするためにはどうしたらよいかを、常に念頭において取り組んでほしい。すなわち、漫然とした受け身の学びではなく、真に能動的な学びとはどうあるべきかという問いかけである。

国際社会演習―人種・民族・宗教紛争研究―

中島　成久

配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは担当者が学部の授業で行っている「文化人類学 I, II ――人種・民族問題入門」、「国家と民族――宗教と国民統合／非統合」、「地域紛争とエスニシティ――インドネシアのポストコロニアリズム」で展開した議論を、さらに詳しく検討することを目指している。

現代世界で深刻な問題となっている人種・民族・宗教に絡む紛争を、グローバル化と国民国家、新自由主義、文明の衝突、ポストコロニアリズムといった理論的な枠組みの中で検討する。

理論から個別の事例に入ることも可能だが、具体的な事例から、さらに大きな理論的な体系に進むことも可能である。

【到達目標】

このゼミで学ぶ学生は、人種・民族・宗教に関する基礎知識を必要とされているが、閉じた小さな世界を対象とするのではなく、特に紛争という形で現れてきた現象を、国家とか、多国籍企業（資本）、歴史（世界システム論）などとの関係性のなかで位置づけることが重要となる。

担当者の授業を通してわかるように、担当者はアメリカ、東南アジア（インドネシア）、日本の事例に通じているが、受講者はそうした事例分析を参照にしつつも、自分の関心のある地域の問題を扱うことができる。

【授業の進め方と方法】

授業は共通テキストの講読、国際文化情報学会での発表、それに個人の研究発表という３つの課題の組み合わせで進められる。担当者の専門上、インドネシアの事例研究を多く紹介するが、受講者はそこで展開された分析枠組みを他の事例に適用して考えることができる。

春学期の１０回の授業を使って、このゼミに関する基本テキストを共同で読み、問題点を深める。国際文化情報学会では、３年生にはポスター発表、４年生には個人の研究発表を行ってもらっているので、その準備を進める作業を行う。さらに、個人の研究発表では、自分の最も関心のある問題について、深く掘り下げた研究を行ってもらい、最終的にはまとまった論文を書くことを目指す。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	顔合わせ、自己紹介、ゼミの進め方説明
第２回	「〈境界〉を生きる思想家」（国際社会人叢書２）	担当者が執筆したベネディクト・アンダーソン論の講義
第３回	民族とネーション①	塩川伸明『民族とネーション』のなかの３章を選び、受講者による発表とディスカッション
第４回	民族とネーション②	塩川伸明『民族とネーション』のなかの３章を選び、受講者による発表とディスカッション
第５回	民族とネーション③	塩川伸明『民族とネーション』のなかの３章を選び、受講者による発表とディスカッション
第６回	イスラーム主義の台頭①	倉沢愛子『インドネシア　イスラームの覚醒』のなかの２章を選び、受講者による発表とディスカッション
第７回	イスラーム主義の台頭②	倉沢愛子『インドネシア　イスラームの覚醒』のなかの２章を選び、受講者による発表とディスカッション
第８回	人種について①	竹沢泰子編『人種概念の普遍性を問う』のなかの２章を選び、受講者による発表とディスカッション
第９回	人種について②	竹沢泰子編『人種概念の普遍性を問う』のなかの２章を選び、受講者による発表とディスカッション
第１０回	資源をめぐる紛争①	秋道智彌・岸上伸啓編『紛争の海――水産資源管理の人類学』のなかの２章を選び、受講者による発表とディスカッション
第１１回	資源をめぐる紛争②	秋道智彌・岸上伸啓編『紛争の海――水産資源管理の人類学』のなかの２章を選び、受講者による発表とディスカッション
第１２回	受講者による研究発表①	第２〜１１回で学んできたテーマについて受講者による研究発表とディスカッション
第１３回	受講者による研究発表②	第２〜１１回で学んできたテーマについて受講者による研究発表とディスカッション
第１４回	受講者による研究発表③	第２〜１１回で学んできたテーマについて受講者による研究発表とディスカッション
第１５回	受講者による研究発表④	第２〜１１回で学んできたテーマについて受講者による研究発表とディスカッション

秋学期

回	テーマ	内容
第１６回	秋学期へのイントロダクション	春学期に学んだことの復習と秋学期の課題の確認
第１７回	４年生による研究発表①	各回２名ずつの研究発表
第１８回	４年生による研究発表②	各回２名ずつの研究発表
第１９回	４年生による研究発表③	各回２名ずつによる研究発表
第２０回	４年生による研究発表④	各回２名ずつによる研究発表
第２１回	４年生による研究発表⑤	毎回２名ずつによる研究発表
第２２回	学会への準備①	３年生はポスター発表、４年生は口頭発表の準備を行う
第２３回	学会への準備②	３年生はポスター発表、４年生は口頭発表の準備を行う
第２４回	学会への準備③	３年生はポスター発表、４年生は口頭発表の準備を行う
第２５回	３年生による研究発表①	ゼミのテーマに関わる３年生の研究発表
第２６回	３年生による研究発表②	ゼミのテーマに関わる３年生の研究発表
第２７回	３年生による研究発表③	ゼミのテーマに関わる３年生の研究発表
第２８回	３年生による研究発表④	ゼミのテーマに関わる３年生の研究発表
第２９回	３年生による研究発表⑤	ゼミのテーマに関わる３年生の研究発表
第３０回	３年生による研究発表⑥	ゼミのテーマに関わる３年生の研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１　テキストを十分を読みこなすこと
２　インターネットで関連する文献を探すこと
３　図書館などで関連する文献を調べ、読み、検討すること

【テキスト（教科書）】

国際文化学部編　『〈境界〉を生きる思想家』国際社会人叢書２、法政大学出版局、２０１６年
塩川伸明　『民族とネーション――ナショナリズムという難問』岩波新書、２００８年
倉沢愛子　『インドネシア　イスラームの覚醒』洋泉社、２００６年
竹沢泰子編　『人種概念の普遍性を問う――西洋的パラダイムを超えて』人文書院、２００５年

秋道智彌・岸上伸啓編『紛争の海――水産資源管理の人類学』人文書院、２００２年

【参考書】

蓮實重彦・山内昌之編　『いま、なぜ民族か』東京大学出版会、１９９４年
堀内一史　『分裂するアメリカ社会――その宗教と国民的統合をめぐって』麗澤大学出版会、２００５年
小熊英二　『単一民族神話の起源――＜日本人＞の自画像の系譜』新曜社、１９９５年
桜井 啓子　『イスラーム圏で働く――暮らしとビジネスのヒント』岩波新書、２０１５年
森下明子　『天然資源をめぐる政治と暴力』京都大学学術出版会、２０１５年

【成績評価の方法と基準】

ゼミは単なる平常点 (40%) だけではなく、日ごろの授業へどの程度主体的に参加したかどうか (20%)、学会発表などでどの程度イニシアティブをとって参加したかどうか (20%)、さらにレポートの内容 (20%) によって総合的に成績を評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

ディスカッションを活発にするゼミの運営方法を構築する。

【その他の重要事項】

担当者の授業（文化人類学、国家と民族、地域紛争とエスニシティ、他者イメージ論）を受講しておくこと。

国際社会演習－国際協力を捉える視点－

松本　悟

配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春・秋**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「国際協力」とは異なる文化的背景を抱えた人々のつながりの一形態であり、演習で扱うイシューは国際協力を必要とする背景や実施した影響も含む。具体的には、貧困、環境、開発、格差、紛争、難民、教育などの「グローバルイシュー」、国際機構、ＮＧＯ、政府機関、企業などの「組織」、ボランティア、募金、善意、助け合いなど「国際協力を実践する個人や社会のあり方」、そうした実践を表象するメディアも学びの対象とする。その前提に立って、国際文化学部の学生として「国際協力」やその背景要因、意図せざる結果を考察する多様な分析視角＝視点を見つけることを演習のテーマとしている。

【到達目標】
【3 年春学期】「国際協力」を広く分析する人文社会科学の視点や方法論を習得し、各自が研究したいテーマと研究方法を見出せるようになる。
【3 年秋学期】実際に調査・取材や研究に携わってその結果を発表したり、先輩の研究の進捗に積極的に触れたりすることを通して、研究に必要な方法を習得し、各自が研究したいテーマに関わる意義ある問いや仮説を立てられるようになる。
【4 年春学期】「国際協力」に係る事象を分析する人文社会科学の視点を深めるとともに、自らの研究テーマに沿った調査を進めることで、実践知（フロネーシス）として知識を捉えることができるようになる。
【4 年秋学期】先行研究や適切な方法に基づいた研究論文の執筆と研究発表を行うことができるようになる。

【授業の進め方と方法】
【概要】春学期は国際協力やそれを必要とする問題群および人文社会科学の調査方法に関する日本語もしくは英語の文献を読んで議論する。秋学期は日本語もしくは英語の学術論文を読んで研究方法を議論すると同時に 4 年生の研究発表を題材に実践的な演習を行う。そのために法政大学懸賞論文国際文化情報学会を積極的に活用し、4 年生は原則全員が発表する。また、夏休みには開発途上国へのフィールドワークを予定している（自由参加、自費）。
【方法】
◆文献講読：課題文献を毎回割り当てられた学生が読んで来て発表し、それをもとに議論する。担当教員は関係する分野についてインプットをする。
◆外部講師：課題文献の内容を深く理解するために外部講師を招くこともある。
◆海外フィールドワーク（開発途上国）：テーマを定めて夏休みに実施する（自由・自費参加）
◆ゼミ合宿：夏休みの終わりに行う予定。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の中身を共有し受講生の関心に合わせて変更する。
第 2 回	国際協力とは何か	国際協力の種類と仕組みを学ぶ。
第 3 回	国際協力の歴史	第二次世界大戦後の国際協力の歴史を学ぶ
第 4 回	貧困と貧困削減	貧困の捉え方や様々な貧困削減のアプローチについて学ぶ
第 5 回	平和構築と復興支援	紛争地域の平和構築や復興に対する国際協力のあり方について学ぶ
第 6 回	持続可能な発展とガバナンス	自然・社会環境と調和した開発のあり方や、それに必要なガバナンスについて学ぶ
第 7 回	国際協力に関わるアクター	企業、市民社会など、国際協力に関わるアクターについて学ぶ
第 8 回	開発経済学の視座①	開発問題を開発経済学から捉えた視点を学ぶ
第 9 回	開発政治学の視座②	開発問題を開発政治学から捉えた視点を学ぶ
第 10 回	開発社会学の視座③	開発問題を開発社会学から捉えた視点を学ぶ
第 11 回	調査方法（1）	量的調査法を実践的に学ぶ
第 12 回	調査方法（2）	質的調査方法を実践的に学ぶ
第 13 回	春学期のまとめ	春学期に学んだ内容についてＫＪ法を用いて議論する
第 14 回	フィールドワーク準備（1）	夏休みの海外フィールドワークの事前学習を行う
第 15 回	フィールドワーク準備（2）	夏休みの海外フィールドワークの調査項目検討などの事前準備を行う

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、発表の方法	春学期の振り返りと秋学期の説明。発表の方法に関する講義
第 2 回	研究論文の検討（1）仮説検証型論文Ａ	実際の研究論文を読む
第 3 回	研究論文の検討（2）仮説検証型論文Ｂ	実際の研究論文を読む
第 4 回	研究論文の検討（3）サーベイ論文Ａ	実際の研究論文を読む
第 5 回	個人研究発表と批評（1）	3 年生が夏休みまでに実施したライフストーリーの発表とグループに分かれての批評会（12 人のゼミ生中最初の 4 人）
第 6 回	個人研究発表と批評（2）	3 年生が夏休みまでに実施したライフストーリーの発表とグループに分かれての批評会（12 人のゼミ生中次の 4 人）
第 7 回	個人研究発表と批評（3）	3 年生が夏休みまでに実施したライフストーリーの発表とグループに分かれての批評会（12 人のゼミ生中最後の 4 人）
第 8 回	研究論文要旨に対する討議	国際文化情報学会の予稿を事前に読んできた上で議論しあう
第 9 回	個人研究発表と批評（4）	国際文化情報学会の発表練習（発表者の半分、8 人程度）
第 10 回	個人研究発表と批評（5）	国際文化情報学会の発表練習（発表者の半分、8 人程度）
第 11 回	学会振り返り	国際文化情報学会での発表に対する相互批評
第 12 回	研究論文の検討（4）サーベイ論文Ｂ	実際の研究論文を読む
第 13 回	秋学期のまとめ	秋学期に学んだ内容についてＫＪ法を用いて議論する
第 14 回	パネル討論会	2 年間のゼミでの学びについてパネル討論を行う
第 15 回	個人研究発表と批評（6）	3 年生による個人研究発表と批評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・春学期は毎回課題文献を指定するので、発表者だけでなく全員が必ず事前に「精読」してくること。分量が多かったり、文章が難解だったり、時には英語だったりするので、時間をかけて時には他のゼミ生と議論をしながら読んでくること。
・秋学期は他のゼミ生の原稿をもとに議論することが多いので、事前に与えられた原稿を必ず精読してくること。その際、表面的な批判に留まらず、執筆者の懐に入ったコメントをできるようにすること。
・毎回演習後の HOPS へのフィードバックを通して復習を行うこと。
・ライフストーリー、研究進捗、論文執筆など提出物が多いので必ず期限までに執筆を終わらせ提出すること。
・夏休みに英語で実施する開発途上国へのフィールドワークに参加する場合は、事前学習を十分行い、帰国後論文やポスター等にまとめて発表すること。
・法政大学懸賞論文や英語スピーチコンテストなど大学内外のコンテストへの投稿・出展を奨励・サポートするので、積極的に挑戦すること。

【テキスト（教科書）】
4 月の演習が始まるまでに最低 1 度は以下の文献を読んでおくこと。
下村恭民ら編『国際協力新版』有斐閣選書，2009 年.
鹿島茂『勝つための論文の書き方』文春新書，2003 年.
伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣，2001 年.

【参考書】
演習の中で指定する

【成績評価の方法と基準】
毎回「演習の学び」を HOPS に提出： 40%、文献講読と発表： 30%、個人研究論文の執筆と発表： 30%。ただし 3 年生は各学期に 4 回以上欠席した場合は単位を取得できない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
2015 年度秋学期に実施した振り返りの結果に基づき、講読する文献の内容を発表に含めないなど時間を有効に使うように改善する

【学生が準備すべき機器他】
・HOPS を頻繁に使用する
・正式の連絡は演習の ML で伝える
・パワーポイントでの発表の際はパソコンを用意すること

【その他の重要事項】
・図書館、CiNii や Web of Science などの大学のリソースを早めに使えるようになること。
・授業内容は変更がありうるので 3 月の演習説明会や 4 月の授業時に説明する。
・3 年、4 年と継続して履修すること。ただし、途中で関心を失ったり、他にやりたいことを見出した場合は履修登録を見送ることを推奨する。
・4 年次から履修する場合は、3 年次までに人文社会科学的な見方や学術的な研究の方法を一定程度身につけ、かつ本演習に係る具体的なテーマを設定し文献研究を進めていること。
・国際文化協力、平和学、国際関係学概論、国際関係研究、実践社会調査法、実践国際協力など、関連する授業を受講すること。
・本演習を希望する現 2 年生や 1 年生は、2016 年 1 月 31 日（日）の終日、55 年館で開催される『松本ゼミ公開卒論発表会』への参加を推奨する。詳しくは松本ゼミの知り合い、もしくは教員に直接問い合わせること。

GA200

インターンシップ事前学習

中島　成久、廣松　勲

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「国際文化学部に親和性のある企業／団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事案内」を目的としています。

この科目は複数の外部講師が担当するオムニバス授業です。国際文化学部を卒業してどのような仕事に就けるのか、というのは多くの学生の皆さんが不安に思っている事案です。国際文化学部を卒業して必ず有利になる職種はありませんが、いくつかの業界は国際文化学部との親和性が非常に大きいものがあります。そうした業界の第一線で働く経験豊富な講師をお招きして、それぞれの業界、企業の仕事の内容と将来展望を直接話していただく機会を提供するのがこの授業の目的です。また、卒業生による就活体験、就業体験のお話を聞く時間も作っています。

この授業を取ることによって、国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集し、「インターンシップ」という就業体験、就活などに生かすことができます。

【到達目標】
国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍されている外部講師による講義であり、その業界の特徴、問題などを学ぶほか、実社会で生きることとはどういうことかを最新のデータを交えて学ぶことです。

【授業の進め方と方法】
初回を除いて、外部講師によるオムニバス授業。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回 4 月 7 日	イントロダクション	授業の説明＋卒業生によるプレゼン 担当　中島成久（教授）＋廣松勲（講師）＋卒業生
第 2 回 4 月 14 日	「テレビを取り巻く環境の変化 2016」	山本　隆司氏（株式会社テレビ朝日総合編成局放送基準担当局長）
第 3 回 4 月 21 日	「総合商社とは何か」	榎本　裕洋氏（丸紅株式会社シニア・アナリスト、経済同友会出向中）
第 4 回 4 月 28 日	「世界で一番貧しい国マラウイでのボランティア活動」	和泉澤　浩氏（独立行政法人　国際協力機構（JICA）千葉デスク　国際協力推進員
第 5 回 5 月 12 日	「新聞ジャーナリズムの現状と採用の現場」	早坂　文宏氏（毎日新聞社人事・総務本部採用担当部長）
第 6 回 5 月 19 日	「インターネットの会社ってなにしてるんですか？」	島 慶一氏（株式会社 IIJ イノベーションインスティテュート主幹研究員）
第 7 回 5 月 26 日	「グローバルな出会いの場としてのホテル業界」	櫨山　博文氏（株式会社京王プラザホテル人事部副部長兼人材開発支配人）
第 8 回 6 月 2 日	「航空業界の現状と課題について」	安藤　正裕氏（株式会社 ANA 総合研究所大学連携グループ　総括主席研究員）
第 9 回 6 月 9 日	「IT ビジネスについて」	藤村　剛氏（株式会社 NTT データ IT サービス・ペイメント事業本部交通・流通事業部　第三統括部　イノベーティブリテーリング担当）
第 10 回 6 月 16 日	「広告会社のホンシツ」	大城　勝浩氏（株式会社朝日広告社　統合マーケティングコミュニケーション本部・本部長補佐　兼　デジタルソリューション局・局長）
第 11 回 6 月 23 日	「SARAYA の CSR からソーシャルビジネスへの展開事例」	代島　裕世氏（サラヤ株式会社コミュニケーション本部　本部長）
第 12 回 6 月 30 日	「国際文化交流を支える仕事」	庄司理恵氏（独立行政法人国際交流基金　総務部人事課課長補佐）
第 13 回 7 月 7 日	「国際 NGO で働く〜アムネスティ・インターナショナルの活動と役割り〜」	川上　園子氏（公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本活動マネージャー）
第 14 回 7 月 14 日	「出版の今―縮む世界と広がる世界」	神野　斉氏（株式会社明石書店編集部　部長）
第 15 回 7 月 21 日	成績評価	課題レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味のある外部講師のテーマについて図書館などで関連する文献を調べ、視野を広げること。

【テキスト（教科書）】
無し。授業内で関連する資料を配布する。

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０％）＋レポート（６０％）
レポートの提出方法については、第 1 回の授業時に説明する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
各講師の授業の最後に質問の時間をとっているが、質問が出ない場合には早く切り上げてもいい。個人的に質問したいこともあるので、柔軟な運営方法を模索する。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、DVD など。

GA227

社会貢献・課題解決教育

配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**年間**
人数制限・選抜・抽選：**定員約 40 名。初回授業に必ず出席すること。**
他学部への公開：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、学生自身が中小企業、商店街のコンサルティング（問題解決）に実際に取り組むプロジェクト型授業です。複数学部、学年の学生が履修可能な公開授業です。社会で必要とされる、問題発見・解決能力、コミュニケーションとチームマネジメントの能力、プレゼンテーションの能力などが身につきます。

【到達目標】
東京都台東区内（上野、浅草、カチクラ等）の中小企業、商店街（クライアント）の経営課題の解決に取り組みクライアントを笑顔にする具体的な成果をあげること、そして、それを通して下記のスキルや知識を身につけること、以上 2 つが、授業の到達目標です。
本授業に参加した学生が身につけるべき能力は、以下の 5 点です。
1. 問題を発見する力＜発見＞
2. 問題を分析し解決策を提案する力＜分析＞
3. 解決策を実践する力＜実践＞
4. コミュニケーションとチームマネジメントの力
5. プレゼンテーションの力

【授業の進め方と方法】
学生はチームに分かれて、年間を通して各チームが 1 つの中小企業や商店街を担当し、問題の「発見 → 分析 → 提案 → 実践」というコンサルティングプロセスを実地に体験します。
年間の授業スケジュールとしては、アイスブレイクを経て、最初に取組に必要な見方、考え方等基礎を身につけるためのレクチャーとワークショップを集中的に行います。学年も学部も様々な学生が集まる授業なので、お互いにスムーズにコミュニケーションを取るためにも、最初のアイスブレイクは重要です。春学期は問題の「発見と分析」に、後期は解決策の「提案と実践」に重点を置き、活動を進めていきます。授業の最終回には、社長や経営陣などクライアントの皆さまや関係者に集まっていただき、提案・展示を行う最終成果報告会を実施します。この報告会は、司会進行も含め、全て学生自身が企画運営します。また、夏休みにはフィールドスタディ合宿を実施し、多数の学生が参加して地域課題の解決に取り組み、最終的には市長をはじめ地元の方々に向けて成果報告を行います。（これまで石川県七尾市、栃木県益子町、秋田県仙北市で実施しました。）
一年間を通じて中小企業や商店街の方々と行動をともにすることにより、社会貢献、地域貢献および、問題解決のための実践的能力が身につく授業内容となっています。
授業は、レクチャーやワークショップ、現場でのフィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーション、E ラーニング教材を使った自宅学習等から構成されています。
これまでの成果としては、例えば、学生が提案したアイディアを商品化して売り出した企業もありますし、学生の提案により店舗を移転し内装をまったく変え、訪問客を倍増させた企業もあります。あるチームは、企業の企画会議に定期的に参加し、社員とともに広告戦略の重要媒体であるチラシのデザインを一新しました。商店街のプロモーションビデオを作成し関係者から絶賛されたチーム、産直市の企画運営に尽力し商店街の方々に表彰されたチームもあります。ネット販売の仕組みを提案して採用されたチームもあります。中には乞われて就職した学生もいます。
本授業は全学的な取組みとなっており、学部や学年を越えて様々な学生が参加しています。既習者の多くから「異なる分野を専門としている他学部生との交流から得られるものは大きく、楽しい」という声が聞かれます。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	説明と質問
第 2 回	レクチャー・アイスブレイク	会社とは何か・自己紹介・全員と話す
第 3 回	フィールドワーク	下町を歩く
第 4 回	レクチャー・ワークショップ	魅力を発見する（社課教の出発点）
第 5 回	レクチャー・ワークショップ	問題を発見する（社課教のロジック①）
第 6 回	レクチャー・ワークショップ	問題を解決する（社課教のロジック②）
第 7 回	レクチャー・ワークショップ	チーム編成・チーム紹介・担当クライアント決定 実践する（プロジェクトマネジメントの実際①）
第 8 回	レクチャー・ワークショップ	実践する（プロジェクトマネジメントの実際①）
第 9 回	チーム別面談	クライアント訪問の準備
第 10 回	グループワーク	クライアント訪問
第 11 回	チーム別面談	クライアントの魅力を発見する
第 12 回	プレゼンテーション	クライアントの紹介と今後の方針
第 13 回	グループワーク	クライアントの魅力を発見する
第 14 回	チーム別面談	前期成果報告の準備
第 15 回	プレゼンテーション	前期成果報告
第 16 回	グループワーク	これまでの成果と今後の方針
第 17 回	チーム別面談	これまでの成果と今後の方針
第 18 回	グループワーク	問題の原因を分析する
第 19 回	レクチャー	春学期集中レクチャーの復習
第 20 回	チーム別面談	課題を絞り込む
第 21 回	プレゼンテーション	課題を絞り込む
第 22 回	グループワーク	解決策を提案する
第 23 回	チーム別面談	解決策を提案する
第 24 回	プレゼンテーション	解決策を提案する
第 25 回	ワークショップ	夏合宿成果検討会
第 26 回	グループワーク	解決策を提案・実践する
第 27 回	プレゼンテーション	中間成果報告
第 28 回	グループワーク	最終成果報告会の準備・役割分担
第 29 回	プレゼンテーション	最終成果報告会のための直前練習
第 30 回	プレゼンテーション	最終成果報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼン資料の作成、フィールドワーク、クライアント訪問に加えて、E ラーニング教材の独習など。具体的には授業内で指示します。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
履修生は、法政大学地域研究センターが提供している E ラーニング教材（課題発見・解決教育、クリティカルシンキング、マーケティング、コンサルティング手法等）を無料で利用できます。授業と並行して、これらのコンテンツを自習することにより、予備知識の無い学生でも、無理なく基礎的な知識、スキルを身につけることができます。

【成績評価の方法と基準】
本授業には正解はありません。知識量で判断するのではなく、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力がどれだけ身についているかで判断します。具体的には（詳細は初回授業の際に説明しますが）、授業への参加姿勢（出席を前提としたうえで、積極的な発言、発表・討議などの平常点）50%、フィールドワーク 25 %、プレゼンテーション 25 %とし、総合的に評価します。プロジェクト型授業なので、参加することが前提です。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学部も学年も違うメンバーの混成チームでプロジェクトを進めるため、メンバー間のスケジュール調整の難しさに履修生は直面します。そこで、授業時間内になるべくグループワーク・クライアント訪問の時間を設けるよう工夫しています。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しません。

【その他の重要事項】
1）予備知識は特に必要ありませんが、熱心に取り組む意欲のある学生の受講を希望します。とりわけフィールドワークに対する積極的参加が不可欠です。質問等は喜んで受け付けます。これまでの実績などは、以下のホームページを参照してください。http://www.hosei-hurin.net/tri/kadai/index.html
2）履修希望者は初回の授業（ガイダンス）に必ず出席してください。どうしても出席できない場合は、必ず法政大学地域研究センターにお問い合わせください。
3) 公開科目となっているキャリアデザイン学部開講の「地域活性論」（宮木いっぺい担当）を同年度もしくは別年度に履修すると広い視野から問題発見・解決力を身につけることができます。（ただ、3 年生は忙しくなるので同年度に同時履修しない方が良いかもしれません。）

【オフィスアワー】
①授業後に質問を受け付けます。なお履修した学生にはメールアドレスを教えるので、E-mail でも受け付けます。

市ヶ谷基礎科目

０群（導入）

１群（人文科学分野）

２群（社会科学分野）

３群（自然科学分野）

４群（外国語科目群）

５群（保健体育分野）

- **市ヶ谷基礎科目の講義概要は簡易版です。必ず WEB シラバスを確認してください。**<u>**授業に関する重要な内容は WEB シラバスに掲載されています。**</u>本冊子に掲載している市ヶ谷基礎科目はあくまで補助的なものです。履修予定の科目は、授業開始前までに必ず WEB シラバスを確認してください。

- 学部で配布される時間割で各科目の履修対象（入学年度・学年・クラス等）を確認してください。履修対象以外の方はその授業を履修することができません。履修に関する詳細は「履修の手引き」を確認してください。語学や体育、学部専門科目等を考慮した上で、WEB シラバスで詳細を確認し、履修計画をたてましょう。

- シラバスの掲載内容に変更等が生じた場合は、**市ヶ谷基礎科目掲示板**でお知らせしますので、**登校時には必ず確認するようにしてください。**

LA102

法政学への招待

髙柳　俊男

カテゴリ：**0 群・選択**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**金・5**

履修可能年次： 1〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生のみなさんは法政大学について、どのくらい知っているでしょうか。たとえば、その名前にちなんで建物が命名された「ボアソナード博士」とは、どんな人なのでしょう？ 法政大学の創立者でしょうか？ …答えは「NO」です。では、いったい法政大学にとってどんな存在なのでしょう？ この授業に出ればわかります。

1880（明治 13）年に設立された東京法学社を起源として 130 年余の歴史を誇る法政大学は、激動の近現代史の中で「自由と進歩」の精神を涵養し、時代の変化とともに新たな挑戦を続け、日本の私立大学の中でも独自の存在感を発揮してきました。実社会とのつながりを重視し、社会に有為の人材を育てようとする設立当初からの精神は、混迷する現代の世界にあって、自ら考え行動する「自立型人材の育成」という教育理念にも表れています。

法政大学の在学生、とくに新入生の皆さんが法政大学の歴史と現在を知ることによって、あらためて本学で学ぶことの意義や可能性を考える機会を提供します。

到達目標 130 年あまりにおよぶ本学の歴史の概要を、日本近現代史の流れに沿って、ひと通り理解することをまず課題とします。そのうえで、そうした史実や、そこで涵養されてきた精神を踏まえて、本学で学ぶ意義を考え、自分の将来像へとつなげられるようにすることを目標とします。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 50 %
テキストおよび授業中の振り返りクイズ等をもとに出題する期末試験（法政学検定）50 %
以上によって総合的に評価します。
「法政学検定」のうち選択問題については、5割以上の正答をもって単位取得の必要条件とします（十分条件ではない）。

LA102

法政学の探究 A

古俣　達郎

カテゴリ：**0 群・選択**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**金・5**

履修可能年次： 1〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では「法政学への招待」を受講した学生を対象に、「招待」の段階から「探究」の段階にレベルアップすることを目的とし、「法政学への招待」の中で紹介された様々なテーマ（創立期及び建学の精神、留学生、夏目漱石門下を中心とした「法政の黄金時代」の教員と法政騒動、校歌、学徒出陣等）はもちろんのこと、その他、法政大学に関するテーマを法政大学史編纂に携わる科目担当者が共に探究したいと思います。法政大学で生活する中で、ふと疑問に思ったことや所属する部活の由来などが、実は法政大学の歴史に欠かせない重要な意味を持っていたり、意外な由来をもっていたりすることは少なくありません。体育会・スポーツの歴史も法政大学史と密接な関係を持っており、それなくしては「法政学」を語ることはできません。

各テーマに従った調査方法を修得しながら、自分なりの視点で、主体的に「法政学」を探究できる場としたいと思います。また、各学部の専門ゼミの履修が始まる前に、法政大学をテーマとして発表や議論などゼミナール形式の授業に慣れる機会にもなるでしょう。

到達目標 「法政学」及び「法政大学史」について自分なりの視点で語り、記述できるようになること。また、法政大学を閉ざされた存在としてではなく、開かれたものとして捉えられる柔軟な視野を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点と発表（各 50 %）にて判断します。

LA102

法政学の探究 B

古俣　達郎

カテゴリ：**0 群・選択**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火・5**

履修可能年次： 1〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では法政大学の歴史に関するテキストをゼミナール形式で講読していきます。

今期は、「学生」に焦点をあて、法政大学の卒業生の回想や法大生ついて書かれた記事などを読解することによって、法政大学の歴史を「学生」の観点から「読み直し」ます。

明治期の法律学校時代の学生・書生とはどのような存在だったのか、専門学校から大学への昇格は学生たちにどのような影響を与えたのか、大正末から昭和初期に体育会・文化系団体などの学生活動がはじまったのはなぜか、戦時下において学生たちは戦争についてどのように考えていたのか、戦前の留学生の学生生活はどのようなものだったのか、法政大学に女子学生が誕生したのはいつだったのか、戦前・戦中・戦後の法大生像にはどのような変遷があるのか、そして、法大生の特質・独自性とは何か。これらのテーマを資料に基づいて、科目担当者とともに検証していきます。

なお、対象は、「法政学の探究A」と同様、「法政学への招待」を受講した学生です。ただし、「法政学への招待」を受講していない学生は、同授業を同時履修することを条件に、履修を認めます。各学部の専門ゼミの履修が始まる前に、法政大学をテーマとして発表や議論などゼミナール形式の授業に慣れる機会にもなるでしょう。

到達目標 法政大学はその創立者たちが若き法学徒であり、その後の歴史においても学生たちの主体的な活動によって発展していった大学です。かつての法大生の先進的な取り組みに学ぶことによって、法大生としての主体性、批判的な視野や独立性、そして、多様性と「他者」に開かれた精神を涵養することを目的とします。

成績評価の方法と基準 平常点とテキスト報告（各 50 %）にて判断します。

LA110

情報リテラシー I

各担当者

カテゴリ：**0 群・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**各曜日・時限**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

到達目標 コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

成績評価の方法と基準 「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

LA110

情報リテラシーⅡ

各担当者

カテゴリ：**0 群・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**各曜日・時限**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

到達目標 情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

成績評価の方法と基準 「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

LA101

キャリアデザイン入門

有田　五郎

カテゴリ：**0 群・選択**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**金・1**

履修可能年次：1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「現場を知る」ことで、社会に出る・働くことに対する理解を深める。そこに自分自身の価値観や強みについて考え、なりたい自分のイメージをつかみ、キャリアをデザインしていくという考え方を学ぶ。日々の大学生活を充実させ、一度きりの人生を自分らしく生きていくための戦略づくりを行う。

到達目標 ①人生設計（キャリアデザイン）の基礎を作る。②将来へ備え、自分から考え・動くという主体的に生きる態度を身に付ける。③その基礎となる、相手目線で自分を見るという姿勢を会得する。

成績評価の方法と基準 配分　毎回の小テスト（70 %）、期末試験（30 %）
評価基準　キーコンセプトの理解に基づく論述問題の解答を求める。期末試験答案では自らの考え方の論述を重視します。

LA101

キャリアデザイン入門

有田　五郎

カテゴリ：**0 群・選択**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**金・2**

履修可能年次：1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「現場を知る」ことで、社会に出る・働くことに対する理解を深める。そこに自分自身の価値観や強みについて考え、なりたい自分のイメージをつかみ、キャリアをデザインしていくという考え方を学ぶ。日々の大学生活を充実させ、一度きりの人生を自分らしく生きていくための戦略づくりを行う。

到達目標 ①人生設計（キャリアデザイン）の基礎を作る。②将来へ備え、自分から考え・動くという主体的に生きる態度を身に付ける。③その基礎となる、相手目線で自分を見るという姿勢を会得する。

成績評価の方法と基準 配分　毎回の小テスト（70 %）、期末試験（30 %）
評価基準　キーコンセプトの理解に基づく論述問題の解答を求める。期末試験答案では自らの考え方の論述を重視します。

LA101

キャリアデザイン入門

石関　裕子

カテゴリ：**0 群・選択**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**月・1**

履修可能年次：1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） キャリアには、仕事、経験、能力等の多様な意義があるが、主体的な人生を描くための必要な概念である。この授業では、就職テクニックではなく「大学生のキャリア」について、大学で必須のアカデミック・スキルの習得を指導しながら、社会で通用する働く力の育成を目指す。

到達目標 ・現在までの経験を意味づけし、将来に向けての自分のキャリアの目標設定ができること
・次年度において、取得科目やゼミ・研究室の選択を十分な情報収集と強い意志をもってできること
・自分自身のキャリア開発を、自己責任の意識をもってできること
・大学にある有形無形の資産に気づき、有効活用できるようになること

成績評価の方法と基準 受講態度および各授業における小レポート（リアクション・ペーパー）、期末テストを７０：３０の比重で配点し、総合評点が６０点以上を合格とする（欠席が３回以上の者は成績評価対象外とする）
＊私語、居眠り、携帯電話の使用は退席を命じる

LA101

キャリアデザイン入門

石関　裕子

カテゴリ：**0 群・選択**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**月・2**

履修可能年次：1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） キャリアには、仕事、経験、能力等の多様な意義があるが、主体的な人生を描くための必要な概念である。この授業では、就職テクニックではなく「大学生のキャリア」について、大学で必須のアカデミック・スキルの習得を指導しながら、社会で通用する働く力の育成を目指す。

到達目標 ・現在までの経験を意味づけし、将来に向けての自分のキャリアの目標設定ができること
・次年度において、取得科目やゼミ・研究室の選択を十分な情報収集と強い意志をもってできること
・自分自身のキャリア開発を、自己責任の意識をもってできること
・大学にある有形無形の資産に気づき、有効活用できるようになること

成績評価の方法と基準 受講態度および各授業における小レポート（リアクション・ペーパー）、期末テストを７０：３０の比重で配点し、総合評点が６０点以上を合格とする（欠席が３回以上の者は成績評価対象外とする）
＊私語、居眠り、携帯電話の使用は退席を命じる

LA101

キャリアデザイン入門

鈴木　美伸

カテゴリ：**0 群・選択**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火・4**

履修可能年次：1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） キャリアには、仕事、経験、能力等の多様な意義があるが、主体的な人生を描くための必要な概念である。この授業では、就職テクニックではなく「大学生のキャリア」について、大学で必須のアカデミック・スキルの習得を指導しながら、社会で通用する働く力の育成を目指す。

到達目標 ・現在までの経験を意味づけし、将来に向けての自分のキャ

リアの目標設定ができる
・次年度において、取得科目やゼミ・研究室の選択を十分な情報収集と強い意志をもってできる
・自分自身のキャリア開発を、自己責任の意識をもってできること
・大学にある有形無形の資産に気づき、有効活用できる
・他者を納得説得できるコミュニケーション力ができる
・大学生活のセルフマネジメント（言動・時間管理）ができる

成績評価の方法と基準 受講態度および各授業における小レポート（リアクション・ペーパー）、期末テストを７０：３０の比重で配点し、総合評点が６０点以上を合格とする（欠席が３回以上の者は成績評価対象外とする）
＊私語、居眠りは退席を命じる

LA101

キャリアデザイン入門

鈴木　美伸

カテゴリ：**０群・選択**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火・５**

履修可能年次：１年

授業の概要と目的（何を学ぶか） キャリアには、仕事、経験、能力等の多様な意義があるが、主体的な人生を描くための必要な概念である。この授業では、就職テクニックではなく「大学生のキャリア」について、大学で必須のアカデミック・スキルの習得を指導しながら、社会で通用する働く力の育成を目指す。

到達目標 ・現在までの経験を意味づけし、将来に向けての自分のキャリアの目標設定ができる
・次年度において、取得科目やゼミ・研究室の選択を十分な情報収集と強い意志をもってできる
・自分自身のキャリア開発を、自己責任の意識をもってできること
・大学にある有形無形の資産に気づき、有効活用できる
・他者を納得説得できるコミュニケーション力ができる
・大学生活のセルフマネジメント（言動・時間管理）ができる

成績評価の方法と基準 受講態度および各授業における小レポート（リアクション・ペーパー）、期末テストを７０：３０の比重で配点し、総合評点が６０点以上を合格とする（欠席が３回以上の者は成績評価対象外とする）
＊私語、居眠りは退席を命じる

LA101

キャリアデザイン演習

有田　五郎

カテゴリ：**０群・選択**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**木・１**

履修可能年次：１年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期授業「キャリアデザイン入門」での「現場を知る」「自分を知る」という姿勢を基礎に、演習（グループワーク）により他者の理解を通して「働く力」を身に付けることを目指す。

到達目標 ①文章力と情報を収集・吟味・発信する力を身に付ける。
②社会人生活と大学での学びのつながりを理解する。
③対人関係能力を強める。

成績評価の方法と基準 配分　毎回の小テスト（７０％）、期末試験（３０％）
評価基準　キーコンセプトの理解に基づく論述問題の回答を求める。

LA101

キャリアデザイン演習

鈴木　美伸

カテゴリ：**０群・選択**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**火・５**

履修可能年次：１年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期授業「キャリアデザイン入門」での基礎知識を活かし、演習（グループ・ディスカッション、プレゼンテーション等）を通じて応用的な能力開発を進める
＊「キャリアデザイン入門」を履修していることが望ましい

到達目標 ・自分自身のキャリアモデルを発見し分析する
・ロジカルシンキングを活かしたグループ・ディスカッションを行える
・研究成果を他者に説明する（プレゼンテーション＆レポート）

成績評価の方法と基準 積極的な受講態度およびレポート（毎回の授業のリアクション・ペーパーと小レポート）と、期末テストとを７０：３０の比重で配点し、総合評点が６０点以上を合格とする（欠席が３回以上の者は成績評価対象外とする）
小レポートは、３０００字程度のものを２本提出する

LA201

就業基礎力養成Ⅰ

鈴木　美伸

カテゴリ：**０群・選択**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水・１**

履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、社会で働くための様々な動向や事例を分析・理解・提言し、大学の学び（アカデミックスキル）を社会で通用させるための素養（就業力）を身につけます。
多くの社会人ゲストを招いて議論を行い、コミュニケーションスキルの修練も行います。

到達目標 １．データの見方（統計学の基本）を身につける
２．定量調査（アンケート調査）を実施できる
３．社会動向を把握し、持論を展開できる
４．他者に論理的な説明（プレゼンテーション）ができる
５．チームワーク力を身につける

成績評価の方法と基準 受講態度および各授業における小レポート（リアクション・ペーパー）、期末テストを７０：３０の比重で配点し、総合評点が６０点以上を合格とする（欠席が３回以上の者は成績評価対象外とする）
＊私語、居眠りは退席を命じる

LA201

就業基礎力養成Ⅱ

鈴木　美伸

カテゴリ：**０群・選択**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水・１**

履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学から職業社会への移行は、皆さんの人生において、大きな転機になると思います。しかし、多くの学生にとって就職（活動）は初めて経験することであり、雇用契約や働く人の権利、多様な働き方については、必ずしも自明のことではありません。そこで、本講義では、就職後の初期キャリアの形成に着目しながら、働くうえで基礎となる知識やスキルを身につけることを目的とします。

到達目標 １．情報を収集する力、吟味する力、分析する力を身につける
２．プレゼンテーション技法を身につける
３．データを批判的によみとく力を身につける
４．企業人を説得・納得させされるコミュニケーション力を身に付ける
５．グループに積極的に参加するリーダーシップを身に付ける

成績評価の方法と基準 受講態度および各授業における小レポート（リアクション・ペーパー）、期末テストを７０：３０の比重で配点し、総合評点が６０点以上を合格とする（欠席が３回以上の者は成績評価対象外とする）
＊私語、居眠りは退席を命じる

LA201

就業基礎力養成Ⅰ

鈴木　美伸

カテゴリ：**0 群・選択**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水・2**

履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、社会で働くための様々な動向や事例を分析・理解・提言し、大学の学び（アカデミックスキル）を社会で通用させるための素養（就業力）を身につけます。
多くの社会人ゲストを招いて議論を行い、コミュニケーションスキルの修練も行います。

到達目標 １．データの見方（統計学の基本）を身につける
２．定量調査（アンケート調査）を実施できる
３．社会動向を把握し、持論を展開できる
４．他者に論理的な説明（プレゼンテーション）ができる
５．チームワーク力を身につける

成績評価の方法と基準 受講態度および各授業における小レポート（リアクション・ペーパー）、期末テストを７０：３０の比重で配点し、総合評点が６０点以上を合格とする（欠席が３回以上の者は成績評価対象外とする）
＊私語、居眠りは退席を命じる

LA131

文学Ⅰ（日本文学史）

島田　雅彦

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・2**
履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　文学にまつわる通念をはずし、能動的かつ創造的に読むことを指導し、訓練する。履修者諸君が主に日本の近現代小説に秘められた欲望を掘り起こすことを手伝う。受験までの「現代国語」を越え、多様な作品解釈に向けて、知性を解放することを目指す。文学は活用次第では政治経済を凌ぐ実学たりうるし、文学史を踏まえれば、議論でも優位に立つことができる。

到達目標　日本近代文学必読のテクストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテクストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。

成績評価の方法と基準　筆記試験を行う。質疑や討論への参加も平常点として評価されよう。評価基準は筆記試験80％、平常点20％とする。

LA131

文学Ⅱ（世界文学史）

島田　雅彦

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・2**
履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　文学にまつわる通念をはずし、能動的かつ創造的に読むことを指導し、訓練する。履修者諸君には主に西洋古典の必読書と向き合い、世界史の中の文学の役割を認識してもらう。漠然と、あるいは確固たる意思を持って、文章を書きたいと考える人、また人文系教養に飢えている人々の履修、聴講を歓迎する。文学は活用次第では政治経済を凌ぐ実学たりうるし、文学史を踏まえれば、議論でも優位に立つことができる。

到達目標　世界文学必読のテクストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテクストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。

成績評価の方法と基準　筆記試験を行う。質疑や討論への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は筆記試験80％、平常点20％とする。

LA131

文学Ⅰ（日中比較文学）

呉　念聖

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・3**
履修対象：法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　英雄は偉大であればあるほど歴史の重みと神秘さを負うものだ。だからこそ、万人に憧れられ、求められてきた。そして、長い歳月を経て万人の手によって作り上げられてきた。本授業では、中国演義小説と日本中世軍記物語から、奸雄タイプのリーダーである曹操と平清盛、暴れん坊タイプの武将である燕人張飛と鎮西八郎源爲朝、そして義兄弟（主従）関係で結ばれた宋江・李逵と義経・弁慶を取り上げ、関連作品を読み、英雄の魅力を説き、感じ、また、比較眼をもって中日両国の英雄の共通点と相違点を捉えることを旨とする。

到達目標　この授業を通して、日本人学生は、中国の古典に触れ、中国に対する理解を深めると同時に、自国の文学・文化・歴史を再認識し、そして中国人留学生は、日本の古典に触れ、日本に対する理解を深めると同時に、自国の文学・文化・歴史を再認識することを目標とする。

成績評価の方法と基準　平常点35％、試験65％。
詳細は開講時説明します。

LA131

文学Ⅱ（日中比較文学）

呉　念聖

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・3**
履修対象：法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　本授業の春学期は、主として人物の角度から中日両国の英雄を見る。秋学期は方法を変え、幾つかのカテゴリーで比較することにする。外的なものとして容貌・甲冑・武器などがあり、社会的な地位に関して出身・官位などがあり、個性表現に関して生死・性格・悲劇か喜劇的な要素をもつ挿話などがあり、さらに何かの特徴を反映する渾名もある。春学期より、より多くの英雄を対象にし、取り扱う作品も増える。本授業を通して英雄の魅力・文学の魅力をいっそう感じ、また理解できるようにすることを旨とする。

到達目標　この授業を通して、日本人学生は、中国の古典に触れ、中国に対する理解を深めると同時に、自国の文学・文化・歴史を再認識し、そして中国人留学生は、日本の古典に触れ、日本に対する理解を深めると同時に、自国の文学・文化・歴史を再認識することを目標とする。

成績評価の方法と基準　平常点35％、試験65％。
詳細は開講時説明する。

LA131

文学Ⅰ（日韓比較文学-日韓の交流と理解）

梁　禮先

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
履修対象：法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　日韓の文化や興味あるテーマを取り上げて、日本語の力や韓国語の力を伸ばすことは勿論、日韓の総合知識を深めていくことを目指して行きたいと思います。

到達目標　日韓の文化や習慣の差などを総合理解していくことを目標にします。

成績評価の方法と基準　課題、レポート、出席、発言力、期末テストなどの総合評価します。

LA131

文学Ⅱ（日韓比較文学-日韓の交流と理解）

梁　禮先

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
履修対象：法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　春学期の授業を踏まえて、韓国と日本の文化や話題について別な視点からしたり、日韓の様々な問題にも触れて行きたいと思います。

到達目標　授業で取り上げた日韓の文化や話題や問題点について、韓国語と日本語で自然に意見を述べたり質問ができることを目指します。

成績評価の方法と基準　出席、課題、レポート、発言力、授業態度、期末テストなどを総合して評価します。

LA101

文章論Ⅰ

浅沼　博

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・5**

履修対象：法・文・経営・国際文化学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 簡潔な文章は、簡潔な文によって構成されている。ここでは実用文という観点から、「わかりやすく書くこと」を学ぶ。

到達目標 平易な短文によって段落をつくる。さらに段落をうまく連結させることで、わかりやすい実用文を構成することができる。文章とは「わかりやすく書くもの」という認識を深める。

成績評価の方法と基準 各単元にそって進めていくため平常授業の演習を重視する。したがって平常点を６０％、期末レポートを４０％とする。演習やレポートについては、テキストにそった「わかりやすさ」を評価基準とする。

LA101

文章論Ⅱ

浅沼　博

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・5**

履修対象：法・文・経営・国際文化学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 引用力（要約力）によって文章力を高めることを学ぶ。

到達目標 過不足のない的確な引用によって説得力のある文章をつくる。ここでは実用文という観点から、「引用力のある文章を書くこと」を目標とする。

成績評価の方法と基準 各単元にそって進めていくため平常授業の演習を重視する。したがって平常点を６０％、期末レポートを４０％とする。演習やレポートについては、テキストにそった「引用力」の有無を評価基準とする。

LA101

文章論Ⅰ

川鍋　義一

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・1**

履修対象：法・文・経営・国際文化学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（５回の提出物がきちんと提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか、および提出物の点数、漢字テストの点数）で評価します。１回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

LA101

文章論Ⅱ

川鍋　義一

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・1**

履修対象：法・文・経営・国際文化学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（５回の提出物がきちんと提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか、および提出物の点数、漢字テストの点数）で評価します。１回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

LA129

倫理学Ⅰ

森村　修

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・3**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 《授業の概要》
本授業「倫理学Ⅰ」では、「倫理学Ⅱ」へと継続するテーマとして「ケアの倫理」の観点に基づき、「ケアとは何か」という問いから、「誰をケアするのか」という問いへとシフトしながら、様々な「ケアの対象者」の現実を概観する。まずは、「ケアの倫理」の重要概念として、「ケア」概念を検討する。その際に、自己と他者、自己へのケア・他者へのケアという観点から、「ケアの倫理」の基礎を学んでいく。その流れのなかで、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比、さらには「ケアの倫理」の進展を検討することにしたい。その中で、新しい「ケアの倫理学」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。
また、毎回、授業開始時にヨーガの簡単なポーズをとることで、心身のケアを実践する。
《授業の目的》
「ケアの倫理」を通して、現代社会の倫理性の問題を哲学的に分析する力を得ることができる。

到達目標 (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
(2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
(3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
(4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。
(5) ヨーガの実践を通じて、心身のバランスについて考えることが可能となり、自らのセルフ・ケアに役立てることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験で評価する（100 %）

LA129

倫理学Ⅱ

森村　修

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・3**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 《授業の概要》
現代社会では、他者に対する「不寛容」と、自分と近しい価値観を共有しない（共有したくない）「異質な他者」の「排除」が、インターネット空間で進行しつつある。それは同時に、人と人とが直接的に接する現実社会の中でも徐々に進行していることが見てとれる。本講義では、“意

識的に行っている”と思っている「他者との対立」や、「他者の排除」が、実は私たちの「無意識の投影」によるものであることを、ユング分析心理学の分析に基づいて明らかにする。
《授業の目的》
私たちの「不寛容」と「他者排除」の社会構造が、ある意味で、私たちの「無意識的な心理（自分自身の投影）」の問題と密接に関わっているがゆえに、なかなか解決することが難しいことを理解する。
また、セルフ・ケアの一環として、授業時に、ヨーガの呼吸法や簡単なポーズを実践する。ヨーガの呼吸法は集中力を高めるのに役立つため、ヨーガを実践することで、自分自身の内面を振り返り、心身のバランスに気づくことが可能となる。

到達目標 (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
(2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
(3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
(4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。
(5) ヨーガの実践を通じて、心身のバランスについて考え、自らのセルフ・ケアに役立てることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験で評価する（100 %）。

LA133
日本史Ⅰ
小口　雅史
カテゴリ：**1 群・選択必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**金・3**
履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。また日本古代の歴史は、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。
この講義では、こうした特徴ある日本古代史を、1 回毎に時代を代表するメルクマールを設定しながら、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえる方法の取得を目標に、論じていきます。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。この講義でも、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえる方法の取得を目標にしています。高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90%予定）。平常点を考慮することもあります（10%予定）。
この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

LA133
日本史Ⅱ
小口　雅史
カテゴリ：**1 群・選択必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**金・3**
履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、日本史の見直しが盛んになり、「歴史は北から」をキャッチフレーズとした日本北方史の解明が急速に進んでいます。これまで陽の当たらなかった北方世界に、中央とはかなり異なる「もう一つの日本」の歴史があったことが明らかにされつつあり、より豊かな日本史像が提供されるようになりました。この講義では、蝦夷（エミシからエゾへ）・防御性集落・安藤氏といった北の世界の主人公たちを素材に、最新の日本史研究の成果を提供します。

到達目標 この講義を受講することによって、みなさんに、日本史の多様性、様々な日本文化の存在を理解して（日本文化は単一では無いこと）、再認識してもらうことを最大の目標にします。試験によってその認識の度合いを判定します。

成績評価の方法と基準 出席点１０％
期末試験９０％
各回の講義で、中央の日本史との比較を必ず行いますので、それをよく理解して、自分なりに北方世界の歴史の特徴（中央の日本史との違い）を押さえる努力をしてください。

LA133
東洋史Ⅰ
齋藤　勝
カテゴリ：**1 群・選択必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**月・5**
履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

到達目標 現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

成績評価の方法と基準 期末試験 100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。なお、Web シラバスの【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】の欄の記載も参照して下さい。

LA133
東洋史Ⅱ
齋藤　勝
カテゴリ：**1 群・選択必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**月・5**
履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 台湾の歴史と現在
歴史の学習を通じて台湾への理解を深め、日本・中国との関わりについて考えていく。

到達目標 歴史を辿りながら、現在の台湾が抱える国際問題、政治問題、民族問題の根源を理解し、その歴史の当事者の一人であった日本人の責任についても認識を深めていく。

成績評価の方法と基準 期末試験 100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。なお、Web シラバスの【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】の欄の記載も参照して下さい。

LA133
西洋史Ⅰ
渡辺　知
カテゴリ：**1 群・選択必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**木・3**
履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） ヨーロッパの近現代のあゆみを世界システム論の観点から見ていきます。具体的には、１５世紀以来のヨーロッパ諸国による非ヨーロッパ世界への進出の過程と両者に与えた影響を検討することにより、現在の世界がどのように形作られたのかを論じます。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたの

か、また、過去の出来事が現在の社会といかに関係するのか、あるいは、一地域の動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします。

LA133

西洋史Ⅱ

渡辺　知

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**木・3**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） １７世紀から２０世紀にかけての国際体制の展開をヨーロッパを中心に見ていきます。１７世紀ヨーロッパに成立した国際体制は２０世紀初頭までに世界代へと拡大していきます。その過程をこの授業では取り上げます。その間、各体制はいかにして戦争を阻止するのかが大きな課題となりました。各体制の試みとその限界を検証します。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在の社会といかに関係するのか、あるいは、一地域の動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします。

LA129

哲学Ⅰ

谷口　力

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水・3**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学的な諸問題とは、日常生活の中にこそあり、生きる人間にとって、ある意味では最も身近で、かつ重要な主題になりうるものです。この授業では、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを通読しながら、主に「世界」とは何かという問題について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

到達目標 ・古代ギリシャ哲学における世界の起源についての考えを理解する。
・大陸合理論における世界の構造についての考えを理解する。
・イギリス経験論における世界の捉え方を理解する。
・近代ドイツ哲学、ドイツ観念論における世界の在り方を理解する。
・19 世紀ドイツ哲学における世界の捉え方を理解する。
・20 世紀実存主義における世界の捉え方を理解する。
・現代分析哲学における世界の捉え方を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点 50%、期末試験 50%で評価します。

LA129

哲学Ⅱ

谷口　力

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水・3**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学的な諸問題とは、日常生活の中にこそあり、生きる人間にとって、ある意味では最も身近で、かつ重要な主題になりうるものです。この授業では、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを通読しながら、主に「心（魂）」とは何かという問題について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

到達目標 ・古代ギリシャ哲学における心についての考えを理解する。
・大陸合理論における心についての考えを理解する。
・イギリス経験論における心の捉え方を理解する。
・近代ドイツ哲学、ドイツ観念論における心の在り方を理解する。
・19 世紀ドイツ哲学における心の捉え方を理解する。
・20 世紀実存主義における心の捉え方を理解する。
・現代分析哲学における心の捉え方を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点 50%、期末試験 50%で評価します。

LA129

論理学Ⅰ

鵜澤　和彦

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火・4**

履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学Ⅰの授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を扱い、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

到達目標 **知識** 正しい推理のための基礎的な知識を得る。
態度 論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につける。
技能 論理的に正しい推理能力のほか、論理的なコミュニケーション力という就業力を習得する。
①即座に図形をイメージして、論理的に正しく判断や推理ができる。
②物事を、自分で論理的に正しく整理できる。
③物事を、他人に理路整然と説得できる。
④他人の考えを、論理的に理解することができる。
⑤他人の考えを、論理的に正すことができる。
⑥論理的に冷静に考えて、会話をしたり、文章を書いたりすることができる。

成績評価の方法と基準 ①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 %の割合で総合評価する。課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下) とし、合格は A+、A、B、C とします。
A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。
A ：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する理解が認められる。
B ：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理学的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。
C ：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理学的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。
D ：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

LA129

論理学Ⅱ

鵜澤　和彦

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・4**

履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学IIの授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、論理学I（伝統的論理学）で学習した内容を踏まえて、現代の記号論理学（命題論理学と述語論理学）の習得を目的とします。

到達目標
知識　正しい推論のための基礎的な知識を習得することができる。また、概念の形成や因果関係の検証を的確に行うことができるようになる。
態度　論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。さらに、理路整然と自分の考えを論証したり、他の見解に反論したりすることができる。
技能　論理的にかつ冷静に他者と話しをすることができる。また、論旨が明快な文章を執筆することができる。技能の詳細に関しては、以下の諸点を挙げておきます。
①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
②真理表や帰謬法を用いて推論の妥当性を判定することができる。
③命題内部の論理構造を的確に把握することができる。
④仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

成績評価の方法と基準　①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②最後に行う秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ50％の割合で総合評価します。
課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)、D(59点以下)とし、合格はA+、A、B、Cとします。
A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。
A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する理解が認められる。
B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理学的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。
C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理学的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。
D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

LA132

言語学Ⅰ

輿石　哲哉

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・2**

履修対象：法・文・経営・国際文化学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　私たちは，コミュニケーションの手段として言語を用いてはいますが，話すときにどこの器官をどう使っているかとか，相手のことばをどのように解釈しているのかとか，そもそもどのようにして言語が話せるようになるのかとか，具体的な問題をほとんど意識したことはありません．この授業では，このように通常意識されない言語に関しての，さまざまな問題を考えていきます．

到達目標
1．言語について記述するときの方法を知ること．
2．言語について記述する際に，ある記述が他の記述と比べてどう優れているか知ること．
3．世界の様々な言語の共通の特徴や多様性について知ること．
4．言語学の様々な分野を知ること．

成績評価の方法と基準　出席を重視いたします．平常点と試験を50%ずつにします．欠席は基本的に認めませんので，注意してください．

LA132

言語学Ⅱ

江村　裕文

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・2**

履修対象：法・文・経営・国際文化学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　この科目は「言語学」といいます。言語学は、人間の言語とはいかなるものであるのか、について知見を積み重ねてきました。この授業では、言語学という方法についてと人間の言語についてという二つの柱を考えています。
言語学の方法は、現在の思想そのものである「構造主義」につながります。人間の言語について学ぶことは、「相対論」につながります。言語を通じて「人間」を見直してみましょう。

到達目標　「言語学」の枠組みと思考法を身につけること。

成績評価の方法と基準　試験の得点１００点満点で評価します。

LA132

言語学Ⅱ

江村　裕文

カテゴリ：**1群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・3**

履修対象：国際文化学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　言語を語るうえで「声」は避けられない。この授業では、言語音（「単音」）の記述方法および記述された記号の実現化（再現つまり実際に発音できるようになること）を授業内容とします。
「言語」は、音声の形式という表現面と意味の形式という内容面が結びついた言語記号が単位であるようなシステムであり、このシステムの解明を対象とする学問分野のことを「言語学」と称します。
「音声学」は、この言語の表現面である音声の実質を対象とする経験科学です。

到達目標　この授業では、「音声学」の記述方法であるＩＰＡの方法論的な考え方を身につけ、ＩＰＡを音声化したり、実際の音声をＩＰＡによって記述するための基礎的な技能を訓練することを目的とします。

成績評価の方法と基準　平常点４０点、試験の得点６０点、合計１００点で評価します。
ただし、必要に応じてレポートを課すことがあります。その場合はそのレポートも評価に反映します。

LA136

法学Ⅰ

前川　佳夫

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・1**
履修対象：国際文化学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 新国家の独立や政治革命があちらこちらに勃発した１８世紀末から１９世紀にかけての欧米諸国、この時期の欧米に形成される近代市民法の基本的特徴をおさえ、現行の日本国憲法の構造とその考え方を学ぶ。その上で、現代の市民生活を支える法システムの構造、権利保障のしくみ、裁判制度の果たすべき役割について検討する。

到達目標 1. 欧米諸国に誕生し、やがてアジア地域や世界の国々に波及する近代市民法の基本的特徴を理解する。
2. 戦後誕生する日本国憲法の基本構造とその考え方を理解する。
3. 現代の市民生活を支える法システム（民法、刑法その他の実定法の構造、権利保障のしくみ、裁判制度の意義）を理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）　２０％
期末試験　８０％
講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、それぞれの関心にそってもう一歩先をいく学習（図書館等での関係資料、データの収集や別の視点の獲得その他）を心がけてください。

LA136

法学Ⅱ

前川　佳夫

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・1**
履修対象：国際文化学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の多面的な法改革（民法債権法改正や憲法改正問題その他）の動きのなかで、現行の日本国憲法や民法をはじめとする数多くの実定法は、近代市民社会のなかでどのような役割を担っているか、その現代的機能を学ぶ。授業の後半では、これからの日本社会において、法はどのような役割を果たしていくべきか、喫緊の課題は中心に検討する。

到達目標 1. 日本国憲法の現代的意義、現代の日本社会においていかなる役割を果たしているかを理解する。
2. 憲法改正論議や民法改正問題など、近時の法改革の動向を理解する。
3. これからの日本社会や市民生活のなかで近代市民法はどのような役割をはたしていくか（いくべきか）を考え論じる力をつける。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）　２０％
期末試験　８０％
講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、それぞれの関心にそってもう一歩先をいく学習（図書館等での関係資料、データの収集や別の視点の獲得その他）を心がけてください。

LA136

法学（日本国憲法）

石川　澄雄

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・2**
履修対象：法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） おもに法と国家および社会との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を基軸としてその基本的理解を得ることに努める。憲法に対する誤解が（一般人のみならず学生にも）少なからず見受けられることから、その目的や理念等の〝正しい理解〟を得ることによって、憲法を中心とした法体系の理解に及ぶ。

到達目標 日本国憲法を中心に、法というものについての基本的・一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切かつ妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験による。なお、出席率が40％に満たない者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても「評価対象外」とするので注意されたい（従って出席は取るが、これは「受験資格」を確認するためのもの。なお、欠席理由については考慮するので申し出てほしい）。

LA136

法学（日本国憲法）

石川　澄雄

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・2**
履修対象：法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） おもに法と国家および社会との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を基軸としてその基本的理解を得ることに努める。憲法に対する誤解が（一般人のみならず学生にも）少なからず見受けられることから、その目的や理念等の〝正しい理解〟を得ることによって、憲法を中心とした法体系の理解に及ぶ。

到達目標 日本国憲法を中心に、法というものについての基本的・一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切かつ妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験による。なお、出席率が40％に満たない者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても「評価対象外」とするので注意されたい（従って出席は取るが、これは「受験資格」を確認するためのもの。なお、欠席理由については考慮するので申し出てほしい）。

LA136

法学（日本国憲法）

石川　澄雄

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・4**
履修対象：法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） おもに法と国家および社会との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を基軸としてその基本的理解を得ることに努める。憲法に対する誤解が（一般人のみならず学生にも）少なからず見受けられることから、その目的や理念等の〝正しい理解〟を得ることによって、憲法を中心とした法体系の理解に及ぶ。

到達目標 日本国憲法を中心に、法というものについての基本的・一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切かつ妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験による。なお、出席率が40％に満たない者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても「評価対象外」とするので注意されたい（従って出席は取るが、これは「受験資格」を確認するためのもの。なお、欠席理由については考慮するので申し出てほしい）。

LA136

法学（日本国憲法）

石川　澄雄

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・4**
履修対象：法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　おもに法と国家および社会との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を基軸としてその基本的理解を得ることに努める。憲法に対する誤解が（一般人のみならず学生にも）少なからず見受けられることから、その目的や理念等の〝正しい理解〟を得ることによって、憲法を中心とした法体系の理解に及ぶ。

到達目標　日本国憲法を中心に、法というものについての基本的・一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切かつ妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

成績評価の方法と基準　期末試験による。なお、出席率が40％に満たない者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても「評価対象外」とするので注意されたい（従って出席は取るが、これは「受験資格」を確認するためのもの。なお、欠席理由については考慮するので申し出てほしい）。

LA138

経済学Ⅰ

飯塚　務

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・4**
履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　人間は労働を行い、生活に必要なものを生産する。経済学とは「生産がどのように行われているか」「生産において、人間がどのような関係を結んでいるか」を解明する学問である。経済学Ⅰでは、マルクス『資本論』をもとに、資本主義社会における生産・交換・分配・消費の構造を、資本と賃金労働の関係を分析することによって明らかにする。

到達目標　・商品価値の実体が人間の労働であるという考え（労働価値説）を理解できる。
・商品交換においてなぜ貨幣が必要なのか理解できる。
・企業の利潤はどこからどうやって発生するのかを理解できる。
・商品や貨幣といった「モノとモノとの関係」の裏側に存在する「人と人との関係」から、経済を考察することができる。
・歴史を、生産において「人と人とが取り結ぶ関係」の変化という観点から、考察することができるようになる。

成績評価の方法と基準　期末試験で評価する（100％）。

LA138

経済学Ⅱ

飯塚　務

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・4**
履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　経済学Ⅱでは、戦後の日本経済を振り返りながら、経済社会の理解に必要な諸概念や主要な経済統計の見方を解説する。不況から脱却していく過程において、企業がいかなる戦略をとり、それが労働者にどのような影響を与えたのか考えていきたい。

到達目標　・GDPやマネーストック、消費者物価指数などの基本的な経済統計を理解できる。
・通貨とは何かを理解することができる。通貨供給における銀行の役割を理解することができる。
・資本主義経済における投資の役割を理解することができる。
・経済のグローバル化について理解し、格差や貧困、失業など直面する課題について議論できるようになる。

成績評価の方法と基準　期末試験で評価する（100％）。

LA141

心理学Ⅰ

海部　紀行

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・5**
履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　基礎系から応用系まで，幅広く奥深い心理学の世界を眺め渡し，学際的なワンダーランドに分け入っていきます。心理臨床の現場やインターネット上で起きていることにも触れながら，哲学や脳科学の知見を含むアカデミックな学識とのインターフェースも見ていきます。
認知心理学（心と脳の情報処理），パーソナリティ心理学（性格・人柄，個性），発達心理学（子ども，青年，成人，高齢期）の各々について学びます。
生活のなかの心理学の５Ｗ１Ｈ[いつ・どこで・誰が・どのような心理学を・なぜ・どのように使うとよいか/よくないか]を考えます。

到達目標　「心」とは何か，心理学とはどんなものなのか，その基礎を理解し，自ら学び，深めていくきっかけとすることが目標です。
日常体験の不思議，パーソナリティ，発達について，“何を覚えるか”ということよりも，さまざまな見方や考え方，行動ができるようになることをめざします。
知識を身につけるとともに，潜在的な可能性を生かす技能を鍛え，一面的な決めつけや思い込みにとらわれず，いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。
問題（目的・仮説）の意義を明確にしたうえで，具体的な方法（調査・実験，検討・検証）によって展開し，結果（考察）において的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準　平常点（50％）：各回のコメント（質問や意見）の提出など，取り組む姿勢
期末試験（50％）：小論文（50点満点・減点法，詳細は以下のとおり）
　理解＝テーマは適切か（10点）／テーマにふさわしい内容を具体的に説明できているか（10点）／飛躍や矛盾はないか（10点）
　意見＝自分の意見を的確に述べているか（20点）

LA141

心理学Ⅱ

海部　紀行

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・5**
履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　基礎系から応用系まで，幅広く奥深い心理学の世界を眺め渡し，学際的なワンダーランドに分け入っていきます。心理臨床の現場やインターネット上で起きていることにも触れながら，哲学や脳科学の知見を含むアカデミックな学識とのインターフェースも見ていきます。
社会心理学（どのように他者をとらえるか，どのように行動しやすいか），臨床心理学（メンタルヘルス，適応・不適応），その他社会現象の理解について学びます。
生活のなかの心理学の５Ｗ１Ｈ[いつ・どこで・誰が・どのような心理学を・なぜ・どのように使うとよいか/よくないか]を考えます。

到達目標　「心」とは何か，心理学とはどんなものなのか，その基礎を理解し，自ら学び，深めていくきっかけとすることが目標です。
対人関係，社会的態度，心の健康，社会現象について，“何を覚えるか”ということよりも，さまざまな見方や考え方，行動ができるようになることをめざします。
知識を身につけるとともに，潜在的な可能性を生かす技能を鍛え，一面的な決めつけや思い込みにとらわれず，いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。
問題（目的・仮説）の意義を明確にしたうえで，具体的な方法（調査・実

験，検討・検証）によって展開し，結果（考察）において的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準　平常点（50％）：各回のコメント（質問や意見）の提出など，取り組む姿勢
期末試験（50％）：小論文（50点満点・減点法，詳細は以下のとおり）
理解＝テーマは適切か（10点）／テーマにふさわしい内容を具体的に説明できているか（10点）／飛躍や矛盾はないか（10点）
意見＝自分の意見を的確に述べているか（20点）

LA134

地理学Ⅰ

前川　明彦

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・4**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　グローバリゼーションの中で、人文地理学的視点、社会経済地理学や都市地理学等から 世界や日本の地域の課題を社会や人などのキーワードを軸に一緒に考える。このため、学生が、それぞれの問題意識や問題発見の能力を向上させ、従来までの価値観から論理的な視点などを用いて自ら課題を考えるということを目的とする。また、秋学期のⅡの課題解決方向に向けての問題意識の基礎を養う側面も考慮している。

到達目標　本講義は、受講生が地理学の基本を学び、空間的視点や論理的な考え方をグローバリゼーションのなかでの日本や世界の現状などから自ら課題をみつけ、理解し、考えることを到達目標にしている。このため、従来の高校までの暗記型からの脱却も目指し、以下の授業計画などから、自ら考える問題解決型方向を目指すことを到達目標の1つにしたい。

成績評価の方法と基準　人数次第だが、期末試験あるいは平常点試験（持ち込み可：60％）　レポート（個人あるいはグループ等）（30％）、授業中のコメントシートあるいはリアクションペーパー（10％）で評価したい。

LA134

地理学Ⅱ

前川　明彦

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・4**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　地理学Ⅱでは、春学期に学んだグローバル化のなかでの日本の課題を中心に、都市や地方の再生を、人を中心とした街づくりという視点で問題解決する方向性で考えていく。受講生が課題の解決へ糸口を考え、身につくことを到達目標にしている。さらに、前向きに地域へ踏み出すことのできるような意識をもてることも目標としている。

到達目標　受講生が地理学の基本を学び、空間的視点や論理的な考え方を研究や概観の中から理解できる。地理学Ⅱでは、地理学Ⅰの問題意識や地域的課題をより解決方向へと踏み出したい。このため、最近の日本を中心とする街づくりを主なテーマをとし、学生が、これらに関連するコミュニティデザインやソーシャルビジネス、さらにはインバウンド観光などからの地域再生などを自らの考えをもてるようにすることが目標である。そのために各自が地理学的視点に基づいた論理を軸に、自ら問題を考え、解決する方向性をめざしていきたい。

成績評価の方法と基準　人数次第であるが、期末試験もしくは授業内試験（持ち込み可：60％）、レポート（個人あるいはグループで）（30％）授業中のコメントシートなど（10％）で評価する。

LA137

政治学Ⅰ

崔　先鎬

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・4**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

到達目標　「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

成績評価の方法と基準　期末試験 (70%) + レポート (30%)

LA137

政治学Ⅱ

崔　先鎬

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・4**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

到達目標　「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

成績評価の方法と基準　期末試験 (70%) + レポート (30%)

LA140

社会学Ⅰ

徐　玄九

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・4**

履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　社会学は「近代化」という社会変動を理解したいという願望とともに、それに対する知的対応として登場してきました。私たちを取り巻き、支配しているこの時代（近代あるいは現代）とはいかなる時代なのか、そしてどのような問題を抱えており、それの解決方向はいかに見出すかという関心が社会学の成立と発展に共有されていた問題意識です。
これを踏まえて、社会学をはじめて学ぶ学生たちに、社会学の基本的な「ものの見方・考え方」をその概念も含めて基礎の基礎から学びます。具体的には、私たちの日常生活世界を成り立たせているさまざまな関係を「私」「時間と空間」「家族」「国家」などのテーマに沿って、そこに潜んでいる暗黙的了解（＝自明性）を再検討します。「私とは何か」「遅刻という考え方はいつ生まれたのか」「恋愛と結婚、そして家族はどう変わってきたのか」「政府と私有財産はなぜ正当なものと見なされているのか」などについて、私たちがある意味ではよく承知していると「信じている」ことを違う角度から「見る」「考える」「感じる」訓練を社会学が作り上げた概念と方法をもって行います。場合によっては「知らなければよかったのに」「これまでは幸せだったのに」と常識の揺らぎと自己認識の不安を感じることもあるかもしれません。しかし、その反面社会学のきわだっ

た特徴である逆説的発想を学ぶことで、「私的」な個別具体的な事柄のなかにも、社会性（歴史的、文化的な諸状況）が入り込んでいて、一見無関係のようにみえるある社会的現象が実は互いに影響しあっていることに気づき、「私と社会」の関係が少し見えてくるかもしれません。

到達目標 「私」「時間と空間」「家族」「国家」などのテーマに沿って、社会学の基本的な「ものの見方・考え方」を学びます。具体的には（1）各テーマに対するさまざまな人の異なる見方、考え方を学ぶ、（2）行為、関係、意味など社会現象を記述するときに用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解する（3）自らの「常識」を疑うことで感じた「違和感」をもとに新鮮な想像力を羽ばたかせて「なぜ○○は□□なのか」という疑問文をいくつか作っておくことです。自らの「常識」を疑い、このことで感じた「違和感」はきっと「社会」に対する「問題意識」を高めることにつながります。これらをとおして社会学、つまり「刺激的でありかつ有意義であると思われる知的世界」（P.L. バーガー）の面白さを感じることができる。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価します。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかを確認するために、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、基本的には論述式ですが「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

LA140

社会学Ⅱ

徐　玄九

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**火・4**

履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会学Ⅰのシラバスでも述べましたが、社会学は「近代化」という社会変動を理解したいという願望とともに、それに対する知的対応として登場してきました。私たちを取り巻き、支配しているこの時代（近代あるいは現代）とはいかなる時代なのか、そしてどのような問題を抱えており、それの解決方向はいかに見出すかという関心が社会学の成立と発展に共有されていた問題意識です。
これを踏まえて、社会学Ⅱでは、「近代とは何か」という問いを軸に、「近代」という時代診断に関してこれまで社会学者が出してきた暫定的な「答え」を参照ながら、近代社会の特徴を現代まで射程に入れてその一面を学びます。この際、おもに取り上げるテーマは「世俗化論」・「合理化論」・「規律訓練」などの概念とともに現代社会を論じる際に用いられる「リスク社会論」です。これをとおして、歴史の変化のなかで、何が省略され、何が稀少化され、何が凝縮されているのかについても考えるとともに社会に対する問題意識の「再発見」のきっかけを作ります。

到達目標 この授業のねらいは「世俗化論」・「合理化論」・「規律訓練」などのテーマに沿って歴史的に鍛えられてきた社会学的思考を学び、さらに現代社会の一面を知るためのヒントを「リスク社会論」から得ることです。具体的には、（1）「近代」とよばれる歴史的な変化の一面を思想と制度の両面で把握する、（2）「世俗化論」・「合理化論」・「規律訓練」という三つの相互関連を把握する、（3）「リスク社会論」としての現代社会の特徴を理解することです。このことは社会学Ⅰ同様、自らの「常識」を疑い、このことで感じた「違和感」はきっと「社会」に対する「問題意識」を高めることにつながります。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価します。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかを確認するために、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、基本的には論述式ですが「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

LA135

文化人類学Ⅰ

中島　成久

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水・3**

履修対象：国際文化学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「人種・民族問題入門、米欧編」というテーマで授業を行う。文化人類学を学ぶ上で、「人種・民族問題」をどのように考えるかは重要なイシューである。春学期は主に米欧における人種・民族問題を考える。

到達目標 国際文化学部生にとって、人種・民族へのスタンスの取り方は最も基本的な課題である。日本にいては日常あまり意識のすることのないこの問題を世界の事例を通して学び、視野を広げることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業内試験（７０％）＋平常点（３０％）

LA135

文化人類学Ⅱ

中島　成久

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水・3**

履修対象：国際文化学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「人種・民族問題入門、アジア、アフリカ編」というテーマで授業を行う。文化人類学を学ぶ上で、「人種・民族問題」をどのように考えるかは重要なイシューである。春学期は主に米欧における人種・民族問題を考える。

到達目標 国際文化学部生にとって、人種・民族へのスタンスの取り方は最も基本的な課題である。日本にいては日常あまり意識のすることのないこの問題を世界の事例を通して学び、視野を広げることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業内試験（７０％）＋平常点（３０％）

LA140

社会思想Ⅰ

中村　勝己

カテゴリ：**2群・選択必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**金・3**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 18世紀後半ドイツの哲学者イマヌエル・カントから19世紀半ばのヘーゲル左派（カール・マルクス）までの主要な西ヨーロッパの社会思想・社会哲学がテーマとなる。啓蒙主義、社会契約論、社会主義をとりあげる。

到達目標 各授業で思想家の時代背景と生涯を説明し、その人の原典（と言っても翻訳だが）の一部（ほんの一部）を授業で読むので、授業が終了した時点で、学生各自が自分の読みたい思想家の著作を翻訳で読み始めることができるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 平常点30％、期末試験70％で評価する（％はあくまでも目安である）。登録学生数にもよるが、授業中すべての学生に一度は質問ないしは発言をしてもらいたい（学生数が多いようなら2回に一度にする）。それを平常点として評価する。

LA140

社会思想Ⅱ

中村　勝己

カテゴリ：**2 群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・3**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 19 世紀後半から 20 世紀後半までのヨーロッパ社会思想の歴史を概観する。マルクス主義、ドイツ社会学、精神分析、唯物論と精神分析の統合（フランクフルト学派）を取り上げる。

到達目標 20 世紀の社会思想の基本的な流れを把握することで、現代思想の理解の助けとなることを目指す。現代とはいかなる時代か、理解を深める。

成績評価の方法と基準 授業における姿勢（毎回、質問あるいは感想を出してもらう）、筆記による期末試験の出来により評価を行なう。

LA147

教養数学A

平田　康史

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・4**
法学部1年A-G組、文学部1年P-V組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部2年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学A

平田　康史

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・3**
法学部1年H-N組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部2年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学B

平田　康史

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・4**
法学部1年A-G組、文学部1年P-V組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部2年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学B

平田　康史

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・3**
法学部1年H-N組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部2年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学A

小木曽　岳義

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：春学期 ｜ 曜日・時限：木・1
法学部 1 年 S-Y 組、文学部 1 年 A-N 組、W-X 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の４月１日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

LA147

教養数学B

小木曽　岳義

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：秋学期 ｜ 曜日・時限：木・1
法学部 1 年 S-Y 組、文学部 1 年 A-N 組、W-X 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

LA147

教養数学A

村上　雅彦

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：春学期 ｜ 曜日・時限：水・3
履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部全学年/法・文・経営学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の４月１日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

LA147

教養数学B

村上　雅彦

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：秋学期 ｜ 曜日・時限：水・3
履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部全学年/法・文・経営学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

LA147

教養数学A

村上　雅彦

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：春学期 ｜ 曜日・時限：水・4
履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部全学年/法・文・経営学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情

報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の４月１日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学Ｂ

村上　雅彦

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・4**
履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部全学年/法・文・経営学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学Ａ

村上　雅彦

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・4**
履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部全学年/法・文・経営学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の４月１日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学Ｂ

村上　雅彦

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・4**
履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部全学年/法・文・経営学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学Ａ

倉田　俊彦

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・4**
履修対象：国際文化学部全学年/法・文・経営・人間環境・キャリアデザイン学部生 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の４月１日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同

式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　練習問題（40%）、試験（60%）

LA147

教養数学Ｂ

倉田　俊彦

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・4**
履修対象：国際文化学部全学年/法・文・経営・人間環境・キャリアデザイン学部生 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　練習問題（40%）、試験（60%）

LA147

教養数学Ａ

小木曽　岳義

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
履修対象：国際文化学部全学年/法・文・経営・人間環境・キャリアデザイン学部生 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）　数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の４月１日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学Ｂ

小木曽　岳義

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
履修対象：国際文化学部全学年/法・文・経営・人間環境・キャリアデザイン学部生 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）　数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学Ａ

池田　宏一郎

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・4**
履修対象：人間環境学部全学年/法・文・経営・国際文化・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の４月１日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学B

池田　宏一郎

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・4**
履修対象：人間環境学部全学年/法・文・経営・国際文化・キャリアデザイン学部2年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学B

倉田　俊彦

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
履修対象：人間環境学部全学年/法・文・経営・国際文化・キャリアデザイン学部2年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　練習問題（40%）、試験（60%）

LA147

教養数学A

倉田　俊彦

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
履修対象：人間環境学部全学年/法・文・経営・国際文化・キャリアデザイン学部2年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　練習問題（40%）、試験（60%）

LA147

教養数学A

池田　宏一郎

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
履修対象：キャリアデザイン学部全学年/法・文・経営・国際文化・人間環境学部2年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学Ｂ

池田　宏一郎

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
履修対象：キャリアデザイン学部全学年/法・文・経営・国際文化・人間環境学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

LA147

教養数学Ａ

印牧　尚次

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・5**
履修対象：人間環境・キャリアデザイン学部全学年/法・文・経営・国際文化学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）　古代ギリシア数学を主とする。原因と結果を結ぶ論証を重視する。

到達目標　古代ギリシアの数学者タレス、ピタゴラス、プラトンの偉業を知り西洋科学思想を鑑賞する。その補助として、五つの課題が課せられる。そのテーマの流れは、長方形、円周の等分問題、正多面体、モジュール算法、星形多面体にわたる。

成績評価の方法と基準　平常点。課題の提出内容で評価する。なお、自主学習の成果が認められれば加点する場合がある。

LA147

教養数学Ｂ

印牧　尚次

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・5**
履修対象：人間環境・キャリアデザイン学部全学年/法・文・経営・国際文化学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）　古代エジプト数学を扱う。古代ギリシア人が認めたように、数学の誕生はエジプトにあり。彼らの高度な数学を鑑賞する。

到達目標　クフ王のピラミッドの数理的事実を知る。現在、黄金比と呼ばれる比が介在している。設計者はどのような目的で建造したのかを数学を介して推理する。単に数学にとどまらず、歴史、地理が必要となる。現在でも古代エジプト文明の息吹が残っている事を知る。

成績評価の方法と基準　平常点。課題の提出内容を評価する。なお、自主学習の成果が認められればそれも加点する事がある。

LA147

教養数学Ａ

印牧　尚次

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・6**
履修対象：人間環境・キャリアデザイン学部全学年/法・文・経営・国際文化学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）　古代ギリシア数学を主とする。原因と結果を結ぶ論証を重視する。

到達目標　古代ギリシアの数学者タレス、ピタゴラス、プラトンの偉業を知り西洋科学思想を鑑賞する。その補助として、五つの課題が課せられる。そのテーマの流れは、長方形、円周の等分問題、正多面体、モジュール算法、星形多面体にわたる。

成績評価の方法と基準　平常点。課題の提出内容で評価する。なお、自主学習の成果が認められれば加点する場合がある。

LA147

教養数学Ｂ

印牧　尚次

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・6**
履修対象：人間環境・キャリアデザイン学部全学年/法・文・経営・国際文化学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）　古代エジプト数学を扱う。古代ギリシア人が認めたように、数学の誕生はエジプトにあり。彼らの高度な数学を鑑賞する。

到達目標　クフ王のピラミッドの数理的事実を知る。現在、黄金比と呼ばれる比が介在している。設計者はどのような目的で建造したのかを数学を介して推理する。単に数学にとどまらず、歴史、地理が必要となる。現在でも古代エジプト文明の息吹が残っている事を知る。

成績評価の方法と基準　平常点。課題の提出内容を評価する。なお、自主学習の成果が認められればそれも加点する事がある。

LA147

基礎数学Ⅰ

若井　健太郎

カテゴリ：**3 群・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・1**
履修対象：経営学部 1 年 A-C 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標　基本的な関数のグラフが描ける。さらに、関数の違いがどのようにグラフの違いに反映されるのかがわかる。例えば、$y=a^{x+b}$ のグラフが、a と b に応じて xy 平面上をどのように動いてゆくのか、頭の中で動画がありありと思い浮かべられるようになる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学 II」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

LA147

基礎数学Ⅱ

若井　健太郎

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：秋学期 ｜ 曜日・時限：火・1
履修対象：経営学部 1 年 A-C 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分できる。さらに、微分を用いて、与えられた関数の性質を調べることができる。例えば、30 の 3 乗根が（小数点以下数桁程度までで）およそどれくらいか、計算機を使わず簡単な四則演算だけで求めることができるようになる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」（来年度開講予定）を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

LA147

基礎数学Ⅰ

小木曽　岳義

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：春学期 ｜ 曜日・時限：木・2
履修対象：経営学部 1 年 D-F 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 基本的な関数のグラフが描ける。さらに、関数の違いがどのようにグラフの違いに反映されるのかがわかる。例えば、$y=a^{x+b}$ のグラフが、a と b に応じて xy 平面上をどのように動いてゆくのか、頭の中で動画がありありと思い浮かべられるようになる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学 II」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

LA147

基礎数学Ⅱ

小木曽　岳義

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：秋学期 ｜ 曜日・時限：木・2
履修対象：経営学部 1 年 D-F 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分できる。さらに、微分を用いて、与えられた関数の性質を調べることができる。例えば、30 の 3 乗根が（小数点以下数桁程度までで）およそどれくらいか、計算機を使わず簡単な四則演算だけで求めることができるようになる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」（来年度開講予定）を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

LA147

基礎数学Ⅰ

池田　宏一郎

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：春学期 ｜ 曜日・時限：木・2
履修対象：経営学部 1 年 G-J 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 基本的な関数のグラフが描ける。さらに、関数の違いがどのようにグラフの違いに反映されるのかがわかる。例えば、$y=a^{x+b}$ のグラフが、a と b に応じて xy 平面上をどのように動いてゆくのか、頭の中で動画がありありと思い浮かべられるようになる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学 II」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

LA147

基礎数学Ⅱ

池田　宏一郎

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：秋学期 ｜ 曜日・時限：木・2
履修対象：経営学部 1 年 G-J 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分できる。さらに、微分を用いて、与えられた関数の性質を調べることができる。例えば、30 の 3 乗根が（小数点以下数桁程度までで）およそどれくらいか、計算機を使わず簡単な四則演算だけで求めることができるようになる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」（来年度開講予定）を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

LA147

基礎数学Ⅰ

若井　健太郎

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：春学期 ｜ 曜日・時限：火・2
履修対象：経営学部 1 年 K-M 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 基本的な関数のグラフが描ける。さらに、関数の違いがどの

ようにグラフの違いに反映されるのかがわかる。例えば、$y=a^{x+b}$ のグラフが、a と b に応じて xy 平面上をどのように動いてゆくのか、頭の中で動画がありありと思い浮かべられるようになる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学 II」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

LA147

基礎数学 II

若井　健太郎

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**火・2**
履修対象：経営学部 1 年 K-M 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分できる。さらに、微分を用いて、与えられた関数の性質を調べることができる。例えば、30 の 3 乗根が（小数点以下数桁程度までで）およそどれくらいか、計算機を使わず簡単な四則演算だけで求めることができるようになる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学 I・II」（来年度開講予定）を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

LA147

基礎数学 I

安東　祐希

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**木・1**
履修対象：経営学部 1 年 N-Q 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 基本的な関数のグラフが描ける。さらに、関数の違いがどのようにグラフの違いに反映されるのかがわかる。例えば、$y=a^{x+b}$ のグラフが、a と b に応じて xy 平面上をどのように動いてゆくのか、頭の中で動画がありありと思い浮かべられるようになる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学 II」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

LA147

基礎数学 II

安東　祐希

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**木・1**
履修対象：経営学部 1 年 N-Q 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分できる。さらに、微分を用いて、与えられた関数の性質を調べることができる。例えば、30 の 3 乗根が（小数点以下数桁程度までで）およそどれくらいか、計算機を使わず簡単な四則演算だけで求めることができるようになる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学 I・II」（来年度開講予定）を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

LA147

基礎数学 I

倉田　俊彦

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火・2**
履修対象：経営学部 1 年 R-U 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 基本的な関数のグラフが描ける。さらに、関数の違いがどのようにグラフの違いに反映されるのかがわかる。例えば、$y=a^{x+b}$ のグラフが、a と b に応じて xy 平面上をどのように動いてゆくのか、頭の中で動画がありありと思い浮かべられるようになる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学 II」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

LA147

基礎数学 II

倉田　俊彦

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**火・2**
履修対象：経営学部 1 年 R-U 組/法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分できる。さらに、微分を用いて、与えられた関数の性質を調べることができる。例えば、30 の 3 乗根が（小数点以下数桁程度までで）およそどれくらいか、計算機を使わず簡単な四則演算だけで求めることができるようになる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学 I・II」（来年度開講予定）を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

LA149

原子から宇宙までI

福川　賢治

カテゴリ：3 群・選択必修
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**木・3**
履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） ・本講義では、"原子から宇宙まで"多

岐にわたっている現代物理学の研究対象の中から、我々の身の回りで起こっている力や運動に関係する現象を支配する法則（ニュートンの法則）とその応用について、基礎を解説する。
・身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。
・熱エネルギーを含めて、エネルギーの保存が果たしてきた役割を考える。

到達目標 ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則
（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

成績評価の方法と基準 期末試験の成績(８０％程度)を基本とするが、その他レポート課題(３回程度)や授業中の貢献度等を考慮する。

LA149

原子から宇宙までⅡ

福川　賢治

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**木・3**

履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） ・この授業では、光学と現代物理学に直結する
量子論、原子核・素粒子・宇宙物理学を中心に学び、
各分野が相互に関連しながら発展していることを学習する。

到達目標 ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・現代物理学への大きな流れを掴み、人間が現在到達している物質観を理解する。
また、物理学が発展し続けていることを理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験の成績(８０％程度)を基本とするが、その他レポート課題や授業中の貢献度等を考慮する。

LA168

生命科学Ⅰ

本川　達雄

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**木・3**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 生物とはなんだろうか・「私」とはなんだろうか？　そういう根本的なことを考えるよすがとなるのがこの授業である。われわれは生物の一員であり、多様な生物たちがつくり上げている生物圏の中で生きている。よって、良い社会人として生きていくためには、生物として見た私とは何かを知る必要があるし、また他の生物たちやそれらのつくっている生態系についても、ある程度のことを知っておく必要がある。とりわけ人間環境学部の学生にとっては生物環境についての知識は必須。また国際文化学部の学生にとっても、生物環境について知ることは大いに役立つにちがいない。それはなぜか。生物には多様な仲間がいる。そのおのおのが独自の体のつくりをもち、それに基づき独自の生活をしている。これは各生物が独自の世界をもち、独自の「価値観」・「文化」をもって生きているといってもいい事態だと私は思っている。今、生物多様性の減少が大きな環境問題になっているが、その背景には、多様な生物とわれわれがどう付き合うのかという、付き合い方に問題があると私は考えている。多様なものとどう付き合うのかは、国際文化学部の学生の学ぶべき大きなテーマであるが、付き合うのは人間相手だけではない。この講義を通し、生物相手の「異文化交流」に思いをいたして欲しい。

到達目標 多様な生物の世界を知るとともに、その多様性の中に見られる共通性について理解する。そしてその理解をもとに、現代人の生き方を批判的に見直して欲しい。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率６０％）＋　ときどき行う小テスト（比率４０％）。

LA168

生命科学Ⅱ

本川　達雄

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**木・3**

履修対象：国際文化・人間環境学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 動物の体はどんなふうに働いているのかを学ぶ。どうやって食物を摂り、酸素を取り入れ、体温を保ち、情報を集め、判断し、行動を起こすのか、それらの仕組みを学ぶ。専門分野で言えば「動物生理学」の全般を学ぶことになる（少しだけ植物にもふれる）。

到達目標 自分の体の理解を通して、自分自身を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率６０％）＋　ときどき行う小テスト（比率４０％）。

LA152

物質と環境Ⅰ

向井　知大

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水・4**

履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 原子や分子の構造や特徴、これら物質からエネルギーが得られるしくみについて、主に化学の観点から学んでいきます。

到達目標 自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価します。

LA152

物質と環境Ⅱ

向井　知大

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水・4**

履修対象：国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 暮らしの中の物質と環境問題の原因について、主に化学の観点から学んでいきます。

到達目標 環境問題や自然現象、身の回りの化学製品について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標としています。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価します。

LA100

サイエンス・ラボA

各担当者

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**各曜日・時限**

※定員制（事前登録が必要、詳細は基礎科目掲示板参照）

授業の概要と目的（何を学ぶか） サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を３人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科

が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

到達目標 自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

成績評価の方法と基準 試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

LA100

サイエンス・ラボB

各担当者

カテゴリ：**3群・選択必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**各曜日・時限**

※定員制（事前登録が必要、詳細は基礎科目掲示板参照）

授業の概要と目的（何を学ぶか） サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

到達目標 自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

成績評価の方法と基準 試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

英語１～８　各担当者

以下に掲げるのは、国際文化学部生のための英語に関する全般的な内容です。**個々のクラス授業の詳細についてはＷＥＢシラバスで確認してください。**

国際文化学部の英語について

英語の必修科目（クラス指定授業）として、１年次に英語１～６、２年次には英語７～８が置かれています。

１年次に全員が履修するのが、英語１～４です。高校までに学習したことを基礎として、SA 先にかかわらず必要な英語力を身につけます。英語１～４のクラスは、入学時に受験した TOEFL®-ITP　Level２　Pre-TOEFL のスコアにもとづいて習熟度別に編成され、それぞれの習熟度に応じた授業が行われます。

SA 英語圏の学生のみ履修するのが、英語５～８です。SA 英語圏留学を意識した内容・形式の授業です。

英語の力を読む・書く・話す・聴くの四技能に分けて考えるとするならば、「読む」力は主に英語１・３・７で、「書く」「話す」力は主に英語２・４・５・６・８で、養います。「聴く」力は、すべての科目で養います。

受講生に求められるもの

１．上記の便宜的に分けた四技能が密接に関連しあっていることを理解し、必修英語の受講を通じて、総合的に英語の力を養うよう心がけること。

たとえば、英語によるコミュニケーション能力を高めるためには、相手の主張を理解することが第一歩となります。なぜなら、相手の主張を理解できない限り、相手に正しく反応することはできないからです。その理解力をつけるには、聴き取りや会話の練習だけでなく、相手の話の内容を把握し反応できる語彙力のレベルアップが不可避ですが、そのためにはさまざまな英文を読むことが必要です。

また、表現力は、会話や作文の練習を通じてのみならず、英語の文章を注意深く読み、その語彙やフレーズを自分でも自在に使えるよう蓄積していくことによっても、高められます。

２．積極的・自主的に学習に取り組むこと。

週に数コマの英語の授業を受講するだけで必要な英語力が身につけられたり、留学準備ができたりするわけではありません。各授業の予習・復習をしっかり行うのは当然のこと、それ以外にも日常的に英語に触れる環境を自分で作りましょう。やる気さえあれば、TV・ラジオの学習講座、新聞・雑誌、インターネット、映画（DVD 含む）など、コストをかけず簡単に利用できる英語教材はいくらでもあります。

また、特に SA 英語圏留学を控えた学生については、英語を学習する、というレベルにとどまらず、日本・留学先の文化・社会について英語で書かれた文献を読むなど、英語で学習することも重要です。

英語１～８の学習目標

＊以下に示すのは科目ごとの学習目標です。個々のクラスの授業の詳細については、各クラスのシラバスを参照してください。

■英語１

長文の英語を正確に読み取る力を身につけます。高校時代に培った文法と発音のおさらいをするとともに、現代の時事的な諸問題を扱った論説文・エッセイを読むうえで必要とされる語彙力を増やします。各自、予習・復習の際には辞書を引く労力を惜しまず、辞書の情報を有効に活用する訓練を行う必要があります。具体的には、なるべく辞書に頼らないで新聞・雑誌を読む力を養うことが目標です。

■英語２

比較的短く簡単な内容の発話の意味を速やかにとらえる能力と、身近な事柄について自分の考えを口頭や文章で簡潔に伝達する力を養います。具体的には、海外旅行や英語圏への留学を想定して、日常生活のさまざまな場面に対応できるリスニング・表現能力の習得を目指します。聞き取り練習に加え、教材内容に関する英語による質疑応答、口頭や文章による簡単な意見交換などの訓練を行います。

■英語３

英語１からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけ、学期が進むにつれ読破できる英文の量とスピードをのばしていくことを目標とします。速く読み取るためには、豊富な語彙と英文の構成をすばやく把握する力が前提となります。また、インプットだけでなく、読んだ英文の要約や関連するトピックで、短い英文にまとめるパラグラフ・ライティングの練習も行います。

■英語４

英語２から発展させて、長めのまとまった発話を理解し、それに対する自分の意見をさらに高いレベルで表現できるようにします。例えば、特定のテーマについての口述や文書（スピーチ、インタビュー、ニュース解説など）を的確に把握し、その内容を自らの英語で要約したり、意見を発表したりする訓練を行います。

■英語５

English 5 is the first English class offered exclusively to FIC students wishing to do their Study Abroad in an English-speaking country and taught only in English. For many students, it will be their first experience in an all-English Communicative Language Teaching classroom where translation of English into Japanese is neither required nor encouraged. The course will focus on helping students to become more independent learners. The goal of the course is to develop students' ability to use English to express their opinions more easily, find and analyze information from various forms of media and acquire useful vocabulary without being slaves to their dictionaries. Course activities will include pair work, group work, classroom discussions, and writing short papers.

■英語６

English 6 is the follow up course to English 5. The course will focus on helping students acquire the critical reading and listening strategies necessary for students to become more independent learners that can deal with the educational expectations and learning environments commonly found in English-speaking countries. The goal of the course is to develop students' reading and listening skills as not only passive receptive tasks, but also as interactive processes, which lead to thinking, speaking and writing. Course activities and content will include extensive practice listening to and reading from contemporary issue-based materials, classroom discussion of those materials, writing opinion papers based on those materials, and making presentations on related topics.

■英語７

半年後のSA英語圏留学を意識して「読む力」をつけることを目標とします。具体的には、留学先で課されるテキスト・参考書や課題の量に対応できる読解スピードの強化をめざします。そのため、逐語的な訳読ではなく、論旨に沿ってなるべく英語のまま正確に把握できるような「読み方」を指導します。

テキストは、英語圏の社会・文化を知るためのノンフィクション・ジャンルのものから各教員によって適宜選択されます。

■英語８

半年後のSA英語圏留学を意識して、自分の意見や考えをわかりやすく正確な英文で表現し、伝達する力を養います。現代の生活や文化に密接に関連したテーマをとりあげて、文法や語彙の知識を再点検しながら、文単位での英文和訳ではなく、論理的な構成をそなえたパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなるエッセイないしペーパーを書けるようにします。またテーマについて、プレゼンテーションやスピーチを行う練習もします。

４群外国語選択科目での科目代替について

英語１～８は再履修時のみ４群選択科目によって科目の代替をすることができますが、英語５～８の代替科目には指定があります。個々の授業（内容や、受講者選抜の方法等）については、「市ヶ谷基礎科目・総合科目講義概要（シラバス）」やWeb掲載のシラバスを参照してください。

LA132

ドイツ語１（ＳＡ）

平松　英人

カテゴリ：**4 群・ドイツ語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**月・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ①発音のルールを知って、初見の単語でも発音できる
②基礎的な文法事項を習得する
③辞書などを用いて、初歩的なテクストを分析し理解する
④基本的な表現を学ぶ
⑤基本的な聞き取り力を身につける

到達目標 ドイツ語初級文法の習得を中心に、総合的な基礎語学力を習得する。平易なドイツ語を理解し、簡単な日常会話ができるようになる。

成績評価の方法と基準 出席、授業への積極的な参加、試験等によって総合的に評価する。

LA132

ドイツ語１

ハース豊川　モニカ

カテゴリ：**4 群・ドイツ語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

到達目標 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

成績評価の方法と基準 各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。５０％
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。５０％
遅刻はしないこと。

ドイツ語２（ＳＡ）

林　志津江

カテゴリ：**4 群・ドイツ語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火・1**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングです。SA ドイツ語圏での留学準備として、まずは滞在に必要な基礎的ドイツ語運用能力の習得を目指すとともに、ドイツ語のテクスト読解に少しずつ慣れていきましょう。ドイツ語学習を通して「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

到達目標 第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読むとともに、自らもドイツ語で少しずつアウトプット（作文）ができるようになることです。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」をつねに反省できる学習者になること、その意義を理解できる学習者になることです。１年次のうちに「自分の学び方」を意識するクセをつけましょう。そして第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

成績評価の方法と基準 授業への積極的な参加 30 %、小テスト（文法、部分作文、ディクテーション）40 %、試験 30 %を合わせ、総合的に評価します。

LA132

ドイツ語２

ウテ・シュミット

カテゴリ：**4 群・ドイツ語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火・4**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語で話してみましょう

到達目標 この授業では特に会話能力とリスニングの力をつけながらドイツ語のコミュニケーション能力の育成をはかります。ドイツ語を積極的に使えるように授業を進めたいと思います。
授業では初級文法を学び、聴解力・読解力・表現力における弱点を補強し、基礎を確実なもの、使えるものとすることを目標にしています。

成績評価の方法と基準 授業への参加態度（発言）（30 %）
提出した宿題（30 %）
2-3 回の小テスト（30 %）
出席（10 %）
総合的に評価する

LA132

ドイツ語３（ＳＡ）

平松　英人

カテゴリ：**4 群・ドイツ語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**月・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ①発音のルールを知って、初見の単語でも発音できる
②基礎的な文法事項を習得する
③辞書などを用いて、初歩的なテクストを分析し理解する
④基本的な表現を学ぶ
⑤基本的な聞き取り力を習得する

到達目標 ドイツ語初級文法の習得を中心に、総合的な基礎語学力を習得する。平易なドイツ語を理解し、簡単な日常会話ができるようになる。

成績評価の方法と基準 出席、授業への積極的な参加、試験等によって総合的に評価する。

LA132

ドイツ語３

ハース豊川　モニカ

カテゴリ：**4 群・ドイツ語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

到達目標 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。生徒自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自分で勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

成績評価の方法と基準 各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。５０％
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。５０％
遅刻はしないこと。

ドイツ語４（ＳＡ）

林　志津江

カテゴリ：**4 群・ドイツ語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**火・1**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語２に引き続き、テクスト読解を中心にドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングを行います。SA ドイツ語圏での留学準備に重点を置き、ドイツ語圏の多様性にも触れながら、ドイツ語圏の滞在に必要な基礎的ドイツ語運用能力の習得を目指します。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

到達目標 第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読み、また自らドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。ドイツ語（２）の学習項目を積み上げながら、自分がさらに多くの表現に触れていることを実感してもらいたいと思います。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省する意義を理解できる学習者になることです。ぜひ１年次のうちに、自身の学び方そのものを意識するクセをつけましょう。そして第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

成績評価の方法と基準 授業への積極的な参加 30 %、小テスト（文法、部分作文、ディクテーション）40 %、試験 30 %を合わせ、総合的に評価します。

LA132

ドイツ語４

ウテ・シュミット

カテゴリ：**4 群・ドイツ語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**火・4**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語を話してみましょう

到達目標 この授業では特に会話能力とリスニングの力をつけながらドイツ語のコミュニケーション能力の育成をはかります。ドイツ語を積極的に使えるように授業を進めたいと思います。
授業では初級文法学び、聴解力・読解力・表現力における弱点を補強し、基礎を確実なもの、使えるものとすることを目標にしています。

成績評価の方法と基準 授業への参加態度（発言）（30 %）
提出した宿題（30 %）
2-3 回の小テスト（30 %）
出席（10 %）
総合的に評価する。

LA132

ドイツ語５（ＳＡ）

ハース豊川　モニカ

カテゴリ：**4 群・ドイツ語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水・4**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

到達目標 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。Basic な言語運用を目指す。

成績評価の方法と基準 各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。５０％
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。５０％
遅刻はしないこと。

LA132

ドイツ語６（ＳＡ）

ハース豊川　モニカ

カテゴリ：**4 群・ドイツ語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水・4**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

到達目標 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

成績評価の方法と基準 各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。５０％
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。５０％
遅刻はしないこと。

ドイツ語７（ＳＡ）

林　志津江

カテゴリ：**4 群・ドイツ語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**金・1**

国際文化学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） SA ドイツ語圏での留学に対する事前準備として、ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏の滞在に必要なドイツ語運用能力の獲得とさらなる向上を目指します。

到達目標 ドイツ語圏の日常生活に必要な語彙表現を獲得し、自ら積極的にドイツ語でアウトプットができるようになること。ドイツ語圏の社会や文化事情に関するドイツ語の文章を読んで理解し、そうしたテーマに関し少しずつ議論ができるようになること。留学地での生活に適応するための能力と心構えの獲得が最大の目標です。

成績評価の方法と基準 授業への積極的な参加 30 %、小テスト（文法、部分作文、ディクテーション）40 %、試験 30 %を合わせた総合的評価。

LA232

ドイツ語８（ＳＡ）

熊田　泰章

カテゴリ：**4 群・ドイツ語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火・2**

国際文化学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） SA のためのドイツ語を習得する。
SA において、授業を十分に理解し、留学生活を支障なく過ごすことができるように、ドイツ語運用能力を高める。

到達目標 SA に参加し、十分な成果を修めることができるようにするために不可欠なドイツ語運用能力を獲得する。

成績評価の方法と基準 小テストと期末試験によって評価する。
留学生活に必要な文化背景を理解する知識力と理解力、実践的なドイツ語の会話力・文法力・語彙力を獲得することがポイントである。
小テスト 30 %・期末試験 70 %。

LA132

フランス語１（ＳＡ）

岡村　民夫

カテゴリ：**4 群・フランス語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火・1**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語学習初心者を対象とし、初歩のフランス語を、文法の体系的学習を中心に学びながら、あわせてフランス語圏の文化に親しんでいきます。

到達目標 SA アンジェに備え、春セメスター終了時、少なくとも秋セメスター終了時には、フランス語実用技能検定試験（仏検）５級合格に相当する語学力の習得をめざします。

成績評価の方法と基準 授業内評価 40 ％＋期末試験 60 ％（４回以上の欠席や、未受験は E 評価となります）

LA132

フランス語１

福島　清紀

カテゴリ：**4 群・フランス語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**月・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語の初級文法や簡単な表現を学ぶとともに、フランス語圏の文化や社会に関する知識を身につける。

到達目標 フランス語の初歩的な文法と表現を習得し、あわせてフランス語圏の文化や社会に関する理解を深めることをめざす。

成績評価の方法と基準 期末テストと出席状況・受講態度等により総合的に評価。

LA132

フランス語１

廣松　勲

カテゴリ：**4 群・フランス語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は「SA 先でフランス以外を選んだ国際文化学部の学生」を対象として、初級フランス語の知識および学習方法を習得することを目的とします。

そのために、本授業ではコミュニケーション中心の教科書『Spirale』を用いながら、日常的な会話や文章を理解するだけなく、できるだけ的確に反応する練習も行います。ただし、文法規則の解説も疎りと行います。

さらに、本授業では「フランス共和国のフランス語を超えて、フランス語圏のフランス語へ」という観点を身に付けるために、「フランス語圏（＝フランコフォニー）」についても、時に資料・映像・音声を用いて簡単に紹介します。

到達目標 本授業は秋学期の「フランス語 3」に繋がる授業です。

一年を通じて初級フランス語の知識を習得することで、簡単な日常会話ができるようになり、またその後の学習方法の基礎を身に付けることができます。特に、フランス語学習において課題となる「発音の基礎」「動詞活用」「冠詞・名詞・形容詞の性数一致」「肯定・否定・疑問の構文」等を集中的に扱うことで、自発的な発話と筆記ができるようになります。

加えて、フランス語がフランス共和国のみならず、フランスの旧植民地を含めた世界各地でも話される言語であることをイメージできるようになります。それと付随して、言語的・文化的に微妙な差異（訛りなど）が有する魅力を感じ取ることができるようになります。

成績評価の方法と基準 ・平常点： 30 ％（宿題および文法ノートの提出、小テスト、授業への参加度など）
・期末試験： 70 ％

LA132

フランス語２（ＳＡ）

鈴木　正道

カテゴリ：**4 群・フランス語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語 1（日本人教員）、フランス語 5（外国人教員）と連携し、SA アンジェへの参加を前提に、フランス語の初歩～中級を学びます。表現としては自己紹介、人やものの描写、道順の尋ね方など、文法としては、人称代名詞、文法上の性、現在時制の動詞の活用などを学びます。通じる発音を身に着ける訓練もします。

到達目標 SA に行って現地で生活し、学校で学ぶのに必要な知識と技能を身に着けることを目標とします。上記の事柄に関して、聞いてわかる、話す、読む、書くことができるようになることをめざします。

成績評価の方法と基準 出席点（1 割前後）、小テストや参加状況による平常点（2 割前後）、期末試験成績（7 割前後）を総合し評価します。
日ごろから教科書に出てきた例文はすべて声を出して読む、発音に注意して付録のＤＶＤを見る、出てきた単語は活用も含めて書いて覚えることを心がけてください。、

LA132

フランス語２

ヴァリエンヌ　コリーヌ

カテゴリ：**4 群・フランス語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**金・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

到達目標 会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

成績評価の方法と基準 出席、授業中のやる気、小テスト、期末テストの平常点。

LA132

フランス語２

コンルール　ジョルジュ

カテゴリ：**4 群・フランス語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**木・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初めてフランス語を学ぶ学生のための授業です。

到達目標 「話す」練習をしながら「文法」を身につけます。要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力も向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

成績評価の方法と基準 １：出席状況　２：積極性 ３：期末試験

LA232

フランス語３（ＳＡ）

岡村　民夫

カテゴリ：**4 群・フランス語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**火・1**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語３のつづきとして、初歩のフランス語を、文法の体系的学習を中心に学びながら、あわせてフランス語圏の文化に親しんでいきます。

到達目標 SA アンジェに備え、春セメスター終了時、遅くとも秋セメスター終了時には、フランス語実用技能検定試験（仏検）５級合格に相当する語学力の習得をめざします。

成績評価の方法と基準 授業内評価 40 %＋期末テスト 60 %

LA132

フランス語３

福島　清紀

カテゴリ：**4 群・フランス語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**月・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語１の続きとして、初級文法や簡単な表現を学ぶとともに、フランス語圏の文化や社会に関する知識を身につける。

到達目標 フランス語の基礎的な運用能力の向上と、フランス語圏の文化や社会に関する更なる理解をめざす。

成績評価の方法と基準 期末テストと出席状況・受講態度等により総合的に評価。

LA132

フランス語３

廣松　勲

カテゴリ：**4 群・フランス語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は「SA 先でフランス以外を選んだ国際文化学部の学生」を対象として、初級フランス語の知識および学習方法を習得することを目的とします。

そのために、本授業ではコミュニケーション中心の教科書『Spirale』を用いながら、日常的な会話や文章を理解するだけなく、できるだけ的確に反応する練習も行います。ただし、文法規則の解説も疎りと行います。

さらに、本授業では「フランス共和国のフランス語を超えて、フランス語圏のフランス語へ」という観点を身に付けるために、「フランス語圏（＝フランコフォニー）」についても、時に資料・映像・音声を用いて簡単に紹介します。

到達目標 本授業は春学期の「フランス語 1」を引き継いだ授業です。

一年を通じて初級フランス語の知識を習得することで、簡単な日常会話ができるようになり、またその後の学習方法の基礎を身に付けることができます。特に、フランス語学習において課題となる「発音の基礎」「動詞活用」「冠詞・名詞・形容詞の性数一致」「肯定・否定・疑問の構文」等を集中的に扱うことで、自発的な発話と筆記ができるようになります。

加えて、フランス語がフランス共和国のみならず、フランスの旧植民地を含めた世界各地でも話される言語であることをイメージできるようになります。それと付随して、言語的・文化的に微妙な差異（訛りなど）が有する魅力を感じ取ることができるようになります。

成績評価の方法と基準 ・平常点： 30 %（宿題および文法ノートの提出、小テスト、授業への参加度など）
・期末試験： 70 %

LA232

フランス語４（ＳＡ）

鈴木　正道

カテゴリ：**4 群・フランス語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語 3（日本人教員）、フランス語 6（外国人教員）と連携し、SA アンジェへの参加を前提に、引き続きフランス語の初歩～中級を学びます。表現としては、注文や依頼、要求など、文法としては不規則動詞、代名動詞、近接未来、過去時制などを学びます。

到達目標 SA での成果をあげるために必要な知識と技量をさらに増やすことを目標とします。駅やレストラン、大学など、日常での様々な場面に対応できるようにします。

成績評価の方法と基準 出席点（1 割前後）、小テストや参加状況による平常点（2 割前後）、期末試験成績（7 割前後）を総合し評価します。
日ごろから教科書に出てきた例文はすべて声を出して読む、発音に注意して付録のＤＶＤを見る、出てきた単語は活用も含めて書いて覚えることを心がけてください。、

LA132

フランス語４

ヴァリエンヌ　コリーヌ

カテゴリ：**4 群・フランス語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**金・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

到達目標 会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

成績評価の方法と基準 成績評価は、出席、宿題、授業への参加態度、期末試験を総合的に評価します。

LA232

フランス語４

コンルール　ジョルジュ

カテゴリ：**4 群・フランス語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**木・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「話す」練習をしながら「文法」を身につけます。

到達目標 要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力を向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

成績評価の方法と基準 １：出席状況　２：積極性　３：期末試験

LA132

フランス語５（ＳＡ）

ジョルディ・フィリップ

カテゴリ：4 群・フランス語・必修
開講時期：春学期 ｜ 曜日・時限：金・3

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語 1.2 で学んだフランス語を実践的に応用します。

到達目標 コミュニケーション・スキルズを中心に授業を進めます。

成績評価の方法と基準 授業への参加度を平常点とし、中間テストと期末テストが加味されます。欠席は 3 回以上で単位取得不可とします。

LA132

フランス語６（ＳＡ）

ジョルディ・フィリップ

カテゴリ：4 群・フランス語・必修
開講時期：秋学期 ｜ 曜日・時限：金・3

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語 5 の続きですが、口頭表現と発音を重視した授業です。

到達目標 来年の留学先（SA フランス）を考慮しながら、フランス語基礎能力をのばすことを目的としています。

成績評価の方法と基準 出席率と授業への参加度を平常点とし、中間テストと期末テストが加味されます。欠席は 3 回以上で単位取得不可とします。

LA232

フランス語７（ＳＡ）

コンルール　ジョルジュ

カテゴリ：4 群・フランス語・必修
開講時期：春学期 ｜ 曜日・時限：木・4

国際文化学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎文法と初歩的な会話の復習・予習

到達目標 SA 先フランス・アンジェへ行く前の直前準備講座です。基礎文法と初歩的な会話の復習・予習を徹底し、渡仏前にしっかり最低限の実力を養います。

成績評価の方法と基準 出席、平常評価重視。小テストおよび秋学期末テストを行います。

LA232

フランス語８（ＳＡ）

ジョルディ・フィリップ

カテゴリ：4 群・フランス語・必修
開講時期：春学期 ｜ 曜日・時限：水・5

国際文化学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎文法と初歩的な会話の復習・予習

到達目標 SA 先フランス・アンジェへ行く前の直前準備講座です。基礎文法と初歩的な会話の復習・予習を徹底し、渡仏前に留学先で困らないようしっかり最大限の準備をします。

成績評価の方法と基準 平常評価重視。小テストおよび秋学期末テストを行います。

LA132

ロシア語１（ＳＡ）

木部　敬

カテゴリ：**4 群・ロシア語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・2**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語入門。1）文字と発音、2）初級文法。

到達目標 ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点 20 %（出席 10 %＋小テスト 10 %）、期末試験 80 %。原則として、毎回の授業で前回の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

LA132

ロシア語１

木部　敬

カテゴリ：**4 群・ロシア語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・4**

文学部 1 年　※国際文化学部生は「ロシア語１」として履修

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語入門（前篇）。1）文字と発音の習得、2）初級文法の最初の段階。

到達目標 ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点 20 %（出席 10 %＋小テスト 10 %）、期末試験 80 %。原則として、毎回の授業で前回の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

LA132

ロシア語２（ＳＡ）

佐藤　千登勢

カテゴリ：**4 群・ロシア語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・5**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語 1、ロシア語 5 と連携する授業です。単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎作りをしていきましょう。また、コミュニケーション手段としてのロシア語を身近に感じてもらうために、映画を通して、習得した表現がどのように使われているのかを確認する時間ももちます。ロシアの文化や慣習とつねに結び付けながら、また英語や日本語との比較を絶えず視野に入れながらロシア語の特殊性、面白さを発見していきましょう。

到達目標 SA ロシアでの授業や生活で困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

成績評価の方法と基準 平常点（50 %）、小テスト（25 %）、期末試験（25 %）の基準により判断します。

LA132

ロシア語２

佐藤　裕子

カテゴリ：**4 群・ロシア語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・5**

文学部 1 年　※国際文化学部生は「ロシア語２」として履修

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語のアルファベットを覚え、単語を正確に発音することができる。教科書で初級文法をしっかりと習得する。簡単な文章を読み、辞書を用いてその意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。

到達目標 ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を教科書できちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、単語や文法を着実に身につける。

成績評価の方法と基準 春学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 50 %となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 50 %とし、総合的に評価します。

LA132

ロシア語３（ＳＡ）

佐藤　千登勢

カテゴリ：**4 群・ロシア語・必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・5**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語 4、ロシア語 6 と連携する授業です。春学期に引き続き、単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに新たな文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎を盤石にしていきましょう。この授業が終わる頃には、ロシア語で平易な読み物が読めるようになり、簡単な会話表現が身に付いていることでしょう。具体的には、ロシア語能力検定試験４級もしくは３級程度の力がついているはずです。また、ロシアの文化に触れてもらうため、映像を楽しむ時間ももちます。

到達目標 SA ロシアでの授業や生活で困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

成績評価の方法と基準 平常点（50 %）、小テスト（25 %）、期末試験（25 %）の基準により判断します。

LA132

ロシア語３

木部　敬

カテゴリ：**4 群・ロシア語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・4**

文学部 1 年　※国際文化学部生は「ロシア語１」として履修

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語入門（後編）。1）初級文法。2）会話、読解、作文。

到達目標 簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で伝えたりすることができる。

成績評価の方法と基準 平常点 20 %（出席 10 %＋小テスト 10 %）、期末試験 80 %。原則として、毎回の授業で前回の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

LA132

ロシア語４（ＳＡ）

土岐　康子

カテゴリ：**4 群・ロシア語・必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語 3、ロシア語 6 と連携する授業である。練習問題やテキストの読解などを通して、ロシア語 3 で学習した文法事項の定着を目指す。授業では文法の説明などを除きできるだけロシア語を使用し、現地での学習に備えたいと考えている。

到達目標 既習の文法事項が含まれる平易なロシア語の文章を理解することができ、正確に日本語にすることができる、ロシア語での質問を理解し、的確に答えることができる、やさしい文章や自分の考えを自分なりにロシア語で表現できる。

成績評価の方法と基準 平常点（授業参加態度、予習、課題提出を含む）30 %、学期末試験 70 %の総合評価。

LA132

ロシア語４

佐藤　裕子

カテゴリ：**4 群・ロシア語・必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・5**

文学部 1 年　※国際文化学部生は「ロシア語４」として履修

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に続き、ロシア語文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳作文ができるようになる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、準備を進める。

到達目標 ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。また、毎年 5 月と 10 月に開催されるロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、過去問題や練習問題を解く。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

成績評価の方法と基準 秋学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 50 %となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 50 %とし、総合的に評価します。

LA132

ロシア語５（ＳＡ）

コベルニック　ナディヤ

カテゴリ：**4 群・ロシア語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初めてロシア語に接する学生を対象とした授業です。ロシア語 1、2 で学んだ事項を復習しつつ、発音・リズム・イントネーション、そして平易な会話表現を確実に身につけることを目的とします。

到達目標 正確にロシア文字を読み、書けること。アクセントの位置、イントネーションを正しく発音できること。また、ロシア語の基礎的な会話表現の習得を目指します。

成績評価の方法と基準 平常点 (70%)、期末試験 (30%)。

LA132

ロシア語６（ＳＡ）

木部　敬

カテゴリ：**4 群・ロシア語・必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・2**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語実戦練習。1）初級文法の補習、2）加えて、補助的に運用（会話）の練習。

到達目標 1）複数生格や、これと密接に関係する数詞を使った表現など、初級文法のなかで習得が困難で、かつ日常的なコミュニケーションに必須な事項をマスターする。2）会話のなかの決まり文句を自由に発話できる。

成績評価の方法と基準 平常点 20 %（出席 10 %＋小テスト 10 %）、期末試験 80 %。ロシア語は初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

LA232

ロシア語７（ＳＡ）

佐藤　千登勢

カテゴリ：**4 群・ロシア語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・2**

国際文化学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） SA ロシアを目前に控えての授業となりますが、焦らずに、しかし確実にロシア語の文法力を積み重ねると同時に、口語的表現を身につけていきましょう。1 年次に学んだロシア語文法を復習しながら、新たな文法事項（関係代名詞／形動詞・副動詞など）を学んでいき、ロシア語文法の基礎をひととおり完成させることになります。そうすれば、ロシア語の文章を辞書があれば読めるようになりますので、長文を読む機会を多くもうけて、文法の基礎力の充実と語彙力の増大に努めます。コミュニケーションの上でも、文法力と語彙力は不可欠です。

到達目標 ロシアで生活しても困らないレヴェルのロシア語力の獲得が目標となります。ロシアに行けば、なんとかなるという考えは捨ててください。SA ロシアを充実したものにできるか否か、この時期の頑張りによって違いが出てきます。

成績評価の方法と基準 平常点（50 %）、小テスト（25 %）、期末試験（25 %）の基準により判断します。

LA232

ロシア語８（ＳＡ）

木部　敬

カテゴリ：**4 群・ロシア語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・3**

国際文化学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語講読。1）初級～中級レベルの文法事項の定着。2）様々なジャンルの文章を読むことで、読解力を養うことはもとより、ロシア語とロシアに対する理解を深め、現地での学習に備える。

到達目標 高度な内容のロシア語の文章を理解し、それについて説明したり議論したりすることができる。

成績評価の方法と基準 平常点（出席、予習の有無）20 %、期末試験 80 %。

LA132

中国語１（ＳＡ）

鈴木　靖

カテゴリ：**4 群・中国語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火・2**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の初習者を対象に発音・文法・会話・作文などの総合的なコミュニケーション力を身につけていく。

到達目標 新 HSK（漢語水平考試）1 級の取得に必要な語学力を身につけることを目標とする。

成績評価の方法と基準 成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。
出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。
問題は、単語の聞き取り（4 問 ×5 点＝ 20 点）、短文の聞き取り（2 問 ×10 点＝ 20 点）、日文中訳（2 問 ×10 点＝ 20 点）、e ラーニングによる自宅学習の達成度（4 種 ×10 点＝ 40 点）の計 100 点。

LA132

中国語１

曽　士才

カテゴリ：**4 群・中国語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**木・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の発音・基本的文法事項・基本表現を習得し、中国語の基礎力を確立する。また、中国語の学習を通じて、多様な言語で自己表現を行う楽しさを覚えてもらう。

到達目標 年度末に実施する統一模擬試験（HSK1 級）に合格するレベルの基礎力をつける。

成績評価の方法と基準 宿題の実施状況を 20 点満点、期末試験を 80 点満点として、その合計点によって成績評価を行う。詳しくは初回の授業で説明する。

LA132

中国語２（ＳＡ）

蒋　彧婷

カテゴリ：**4 群・中国語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**月・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の発音の基礎および文法の基本を学び、その中でも日本人が苦手とする「四声」をしっかりと発音できるよう習得させる。この授業を土台にしながら２年次につながる必要な知識を身につけていく。

到達目標 中国語の発音ができる。
文法の基礎を理解する。
自己紹介や日常会話などを表現できる。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に (50 %)、学習態度や学習意欲 (20 %)、小テスト (20 %)、平常点なども (10 %) 勘案して、総合的に評価する。

LA132

中国語２

金　玉英

カテゴリ：**4 群・中国語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**金・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ビギナーのための初級中国語の授業です。

到達目標 中国語の発音の基礎と基本文型、初級レベルの文法習得を目指す授業です。

成績評価の方法と基準 テストの結果の他、出席状況、提出物の完成度などの平常点を勘案して、総合的に評価します。また E ラーニングの実施状況も評価の対象になります。
（目安　　期末テスト 50 %　小テスト・提出物・E ラーニングの実施状況 20 %　授業参加 30 %）

LA132

中国語３（ＳＡ）

鈴木　靖

カテゴリ：**4 群・中国語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**火・2**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の初習者を対象に発音・文法・会話・作文などの総合的なコミュニケーション力を身につけていく。

到達目標 新ＨＳＫ（漢語水平考試）２級を取得するのに必要な中国語力を身につけることを目標とする。

成績評価の方法と基準 成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。
出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。
問題は、単語の聞き取り（4 問 ×5 点＝ 20 点）、短文の聞き取り（2 問 ×10 点＝ 20 点）、日文中訳（2 問 ×10 点＝ 20 点）、e ラーニングによる自宅学習の達成度（4 種 ×10 点＝ 40 点）の計 100 点。

LA132

中国語３

曽　士才

カテゴリ：**4 群・中国語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**木・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の発音や声調をマスターするとともに、初級中国語の基本的文法事項・基本表現を習得する。また、最終的に中国語で簡単なコミュニケーションをはかれるようになってもらう。

到達目標 年度末に実施する統一模擬試験（ＨＳＫ 2 級）に合格することを目標にする。

成績評価の方法と基準 宿題の実施状況を 20 点満点、期末試験を 80 点満点として、その合計点によって成績評価を行う。

LA132

中国語４（ＳＡ）

蒋　彧婷

カテゴリ：**4 群・中国語・必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　中国語の発音の基礎および文法の基本を学び、その中でも日本人が苦手とする「四声」をしっかりと発音できるよう習得させる。この授業を土台にしながら２年次につながる必要な知識を身につけていく。

到達目標　発音の基礎を固める。
文法・構文を理解し、応用することができる。
一般的な会話の聞き取りと表現ができる。

成績評価の方法と基準　期末テストを主に（50 %）、学習態度や学習意欲（20 %）、小テスト（20 %）、平常点なども（10 %）勘案して、総合的に評価する。

LA132

中国語４

金　玉英

カテゴリ：**4 群・中国語・必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　ビギナーのための初級中国語の授業です。

到達目標　中国語の発音の基礎と基本文型、初級レベルの文法習得を目指す授業です。

成績評価の方法と基準　テストの結果の他、出席状況、提出物の完成度などの平常点を勘案して、総合的に評価します。また E ラーニングの実施状況も評価の対象になります。
（目安　　期末テスト 50 %　小テスト・提出物・E ラーニングの実施状況 20 %　授業参加 30 %）

LA132

中国語５（ＳＡ）

鈴木　靖

カテゴリ：**4 群・中国語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　中国語の初習者を対象に発音・文法・会話・作文などの総合的なコミュニケーションを身につけていく。

到達目標　新 HSK（漢語水平考試）1 級の取得に必要な語学力を身につけることを目標とする。

成績評価の方法と基準　成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。
　出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。
　問題は、単語の聞き取り（4 問 ×5 点＝ 20 点）、短文の聞き取り（2 問 ×10 点＝ 20 点）、日文中訳（2 問 ×10 点＝ 20 点）、e ラーニングによる自宅学習の達成度（4 種 ×10 点＝ 40 点）の計 100 点。

LA132

中国語６（ＳＡ）

鈴木　靖

カテゴリ：**4 群・中国語・必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　中国語の初習者を対象に発音・文法・会話・作文などの総合的なコミュニケーション力を身につけていく。

到達目標　新ＨＳＫ（漢語水平考試）２級の取得に必要な中国語力を身につけることができる。

成績評価の方法と基準　成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。
　出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。
　問題は、単語の聞き取り（4 問 ×5 点＝ 20 点）、短文の聞き取り（2 問 ×10 点＝ 20 点）、日文中訳（2 問 ×10 点＝ 20 点）、e ラーニングによる自宅学習の達成度（4 種 ×10 点＝ 40 点）の計 100 点。

LA232

中国語７（ＳＡ）

曽　士才

カテゴリ：**4 群・中国語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・2**

国際文化学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　中国語１～６で学んだことを基礎にして、中国語の読解能力と聞き取り能力を並行してトレーニングする。

到達目標　半年後の上海外国語大学での授業にスムーズに入れることを目標としている。

成績評価の方法と基準　準備学習（20 %）と期末に行うテスト（80 %）によって評価する。出席は成績評価の大前提である。

LA232

中国語８（ＳＡ）

鈴木　靖

カテゴリ：**4 群・中国語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・3**

国際文化学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　ＨＳＫのリスニング問題のディクテーションを通じて、中級レベルのリスニング力を身につけていく。

到達目標　ＨＳＫの３級および４級の合格に必要なリスニング力を身につける。

成績評価の方法と基準　成績評価の方法と基準は次のとおり。
① e-Learning での予習の実施状況（40 %）
②授業のはじめに行う小テストの成績（60 %）

LA132

スペイン語１（ＳＡ）

田澤　耕

カテゴリ：**4群・スペイン語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・２**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文法中心の授業。毎回、初出の事項ばかりなので、欠席は致命的となる。病気などやむをえない事情を除き、欠席は許されない。また遅刻もだめ。

到達目標 初級文法前半の習得を目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %。期中、期末テスト 60 %。

LA132

スペイン語１

佐藤　惣平

カテゴリ：**4群・スペイン語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**土・１**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語のように、動詞が複雑に変化する外国語では、文法が重要な役割を果たします。基礎的な文法事項をいかに効率的に身につけられるかが大切になってきます。

到達目標 このクラスは英語を第一外国語とする学生を対象としています。英語を専攻する学生にとっても、合衆国では、スペイン語人口が多いのでスペイン語の学習はとても有益です。スペイン語文法の基礎をひととおり体系的に学習することを目標とします。

成績評価の方法と基準 授業態度、期中、期末の試験の結果で総合的に判定。

LA132

スペイン語１

佐藤　惣平

カテゴリ：**4群・スペイン語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**土・２**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語のように、動詞が複雑に変化する外国語では、文法が重要な役割を果たします。基礎的な文法事項をいかに効率的に身につけられるかが大切になってきます。

到達目標 このクラスは英語を第一外国語とする学生を対象としています。英語を専攻する学生にとっても、合衆国では、スペイン語人口が多いのでスペイン語の学習はとても有益です。スペイン語文法の基礎をひととおり体系的に学習することを目標とします。

成績評価の方法と基準 授業態度、期中、期末の試験の結果で総合的に判定。

LA132

スペイン語２（ＳＡ）

保﨑　典子

カテゴリ：**4群・スペイン語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**土・１**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文法中心の授業。毎回、初出の事項ばかりなので、欠席は致命的となる。病気などやむをえない事情を除き、欠席は許されない。また遅刻もだめ。

到達目標 初級文法前半の習得を目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %。期中、期末テスト 60 %。

LA132

スペイン語２

ピエダッド・ガルシア・ルイス

カテゴリ：**4群・スペイン語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・1**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、英語を第１外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、とくにアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語である。スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことだと思う。

到達目標 基礎文法の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 授業態度、期中、期末の試験の結果で総合的に判定。

LA132

スペイン語２

ピエダッド・ガルシア・ルイス

カテゴリ：**4群・スペイン語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・３**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、英語を第１外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、とくにアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語である。スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことだと思う。

到達目標 基礎文法の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 授業態度、期中、期末の試験の結果で総合的に判定。

LA132

スペイン語３（ＳＡ）

田澤　耕

カテゴリ：**4群・スペイン語・必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・２**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ひきつづき初級スペイン語文法を学習する。初出の事項ばかりなので欠席は致命的となる。病気などやむをえない事情を除き、欠席は許されない。遅刻もだめ。

到達目標 初級文法の習得を目指す。初級文法前半の全事項を一通り身につける。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %。期中、期末テスト 60 %。

LA132

スペイン語３

佐藤　惣平

カテゴリ：**4 群・スペイン語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**土・１**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語のように、動詞が複雑に変化する外国語では、文法が重要な役割を果たします。基礎的な文法事項をいかに効率的に身につけられるかが大切になってきます。

到達目標 このクラスは英語を第一外国語とする学生を対象としています。英語を専攻する学生にとっても、合衆国では、スペイン語人口が多いのでスペイン語の学習はとても有益です。スペイン語文法の基礎をひととおり体系的に学習することを目標とします。

成績評価の方法と基準 授業態度、期中、期末の試験の結果で総合的に判定。

LA132

スペイン語３

佐藤　惣平

カテゴリ：**4 群・スペイン語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**土・２**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語のように、動詞が複雑に変化する外国語では、文法が重要な役割を果たします。基礎的な文法事項をいかに効率的に身につけられるかが大切になってきます。

到達目標 このクラスは英語を第一外国語とする学生を対象としています。英語を専攻する学生にとっても、合衆国では、スペイン語人口が多いのでスペイン語の学習はとても有益です。スペイン語文法の基礎をひととおり体系的に学習することを目標とします。

成績評価の方法と基準 授業態度、期中、期末の試験の結果で総合的に判定。

LA132

スペイン語４（ＳＡ）

保﨑　典子

カテゴリ：**4 群・スペイン語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**土・１**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ひきつづき初級スペイン語文法を学習する。初出の事項ばかりなので欠席は致命的となる。病気などやむをえない事情を除き、欠席は許されない。遅刻もだめ。

到達目標 初級文法の習得を目指す。初級文法後半の全事項をしっかり身につける。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %。期中、期末テスト 60 %。

LA132

スペイン語４

ピエダッド・ガルシア・ルイス

カテゴリ：**4 群・スペイン語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水・１**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、英語を第 1 外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、とくにアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語である。スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことだと思う。

到達目標 基礎文法の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 授業態度、期中、期末の試験の結果で総合的に判定。

LA132

スペイン語４

ピエダッド・ガルシア・ルイス

カテゴリ：**4 群・スペイン語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水・３**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、英語を第 1 外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、とくにアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語である。スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことだと思う。

到達目標 基礎文法の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 授業態度、期中、期末の試験の結果で総合的に判定。

LA132

スペイン語５（ＳＡ）

佐々木　直美

カテゴリ：**4 群・スペイン語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**木・３**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） SA に備えてスペイン語の初級文法を学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会について理解を深める。

到達目標 スペイン語初級文法の直説法までを学び、スペイン語での日常会話ができるようになる。また、現在形規則動詞を使った文章を作文したり、簡単なテキストを読むことができるようになる。

成績評価の方法と基準 平常点３０%、期末試験７０%の結果で総合的に判定する。

LA132

スペイン語６（ＳＡ）

佐々木　直美

カテゴリ：**4 群・スペイン語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**木・３**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） SA に向けてスペイン語初級文法を学習する。また、スペイン語圏の文化や社会について理解を深める。

到達目標 スペイン語初級文法の直説法過去形までを学び、スペイン語での日常会話ができるようになる。また、現在および過去形を使った文章を作文したり、簡単なテキストを読むことができるようになる。

成績評価の方法と基準 平常点３０%、期末試験７０%の結果で総合的に判定する。

LA232

スペイン語７（ＳＡ）

田澤　耕

カテゴリ：**4 群・スペイン語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・３**

国際文化学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　スペイン語基礎文法の学習を終え、SA出発へ向けて準備を進める。
随時講読テキストを用いて、スペイン語読解力の向上を目指す。

到達目標　スペイン語文法の「総仕上げ」を行う。スペイン語初級文法の全項目について一通りの知識を身につける。

成績評価の方法と基準　平常点 40 %。期中、期末試験 60 %。

LA232

スペイン語８（ＳＡ）

佐々木　直美

カテゴリ：**4 群・スペイン語・必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・２**

国際文化学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　スペイン語の基礎文法を一通り学習し、SA 出発へ向けての準備をする。
特に講読テキストを用いて、基礎文法の応用を加えながらスペイン語力の向上を目指す。

到達目標　学習したスペイン語基礎文法をもとに、中級レベルの長文読解ができるようになる。
スペイン語学習者用に作られた童話集をテキストとして使用する。スペイン語で物語を読むことに慣れ、辞書を使えば童話程度のスペイン語の物語が読めるようになる。

成績評価の方法と基準　平常点 30 %　期末試験 70 %　程度で総合的に評価する

LA132

朝鮮語１（ＳＡ）

梁　禮先

カテゴリ：**4 群・朝鮮語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**月・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

成績評価の方法と基準　小テスト点、出席点、レポート点、期末テスト点などを総合して評価します。

LA132

朝鮮語１

富所　明秀

カテゴリ：**4 群・朝鮮語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火・2**

法学部 1 年 Ｙ 組　※国際文化学部生は「朝鮮語１」として履修

授業の概要と目的（何を学ぶか）　朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

到達目標　文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

成績評価の方法と基準　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，まとめて期末テストを実施します．その成績が 80 %，そして「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の担当教員の平常点が 10 %ずつ，合計 100 %として計算し，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」には同一の評価が与えられます．
なお「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の出席がどちらかでも 50 %に満たない場合は，期末テストの点数にかかわらず不合格とします．ただし再履修者の場合に限り，出席を条件とはせず，期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し，高い方の評価を適用します．

LA132

朝鮮語２（ＳＡ）

内山　政春

カテゴリ：**4 群・朝鮮語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水・1**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

成績評価の方法と基準　主に期末テストの成績によります．

LA132

朝鮮語２

安岡　明子

カテゴリ：**4 群・朝鮮語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**木・3**

法学部 1 年 Ｙ 組　※国際文化学部生は「朝鮮語２」として履修

授業の概要と目的（何を学ぶか）　朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

到達目標　文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

成績評価の方法と基準　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，まとめて期末テストを実施します．その成績が 80 %，そして「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の担当教員の平常点が 10 %ずつ，合計 100 %として計算し，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」には同一の評価が与えられます．
なお「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の出席がどちらかでも 50 %に満たない場合は，期末テストの点数にかかわらず不合格とします．ただし再履修者の場合に限り，出席を条件とはせず，期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し，高い方の評価を適用します．

LA132

朝鮮語３（ＳＡ）

梁　禮先

カテゴリ：**4 群・朝鮮語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**月・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　春学期の学習内容の定着を図りつつ、発音を丁寧に指摘したり、話せる力をつけたり、文章の力をつけていきます。

到達目標　自然な読み方と簡単な日常の会話ができることを目標にします。

成績評価の方法と基準　課題、出席点、小テスト点、期末テスト、授業参加意欲など、総合評価します。

LA132

朝鮮語３

富所　明秀

カテゴリ：**4 群・朝鮮語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**火・2**

法学部 1 年 Ｙ 組　※国際文化学部生は「朝鮮語３」として履修

授業の概要と目的（何を学ぶか）　文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

成績評価の方法と基準　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，まとめて期末テストを実施します．その成績が 80 %，そして「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の担当教員の平常点が 10 %ずつ，合計 100 %として計算し，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」には同一の評価が与えられます．
なお「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の出席がどちらかでも 50 %に満たない場合は，期末テストの点数にかかわらず不合格とします．ただし再履修者の場合に限り，出席を条件とはせず，期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し，高い方の評価を適用します．

LA132

朝鮮語４（ＳＡ）

内山　政春

カテゴリ：**4 群・朝鮮語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水・1**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　春学期の学習内容を理解しているという前提で，文法と語彙をさらに学び，複雑な表現ができるようにつとめます．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です．

成績評価の方法と基準　主に期末テストの成績によります．

LA132

朝鮮語４

安岡　明子

カテゴリ：**4 群・朝鮮語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**木・3**

法学部 1 年 Ｙ 組　※国際文化学部生は「朝鮮語４」として履修

授業の概要と目的（何を学ぶか）　文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

成績評価の方法と基準　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，まとめて期末テストを実施します．その成績が 80 %，そして「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の担当教員の平常点が 10 %ずつ，合計 100 %として計算し，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」には同一の評価が与えられます．
なお「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の出席がどちらかでも 50 %に満たない場合は，期末テストの点数にかかわらず不合格とします．ただし再履修者の場合に限り，出席を条件とはせず，期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し，高い方の評価を適用します．

LA132

朝鮮語５（ＳＡ）

髙柳　俊男

カテゴリ：**4 群・朝鮮語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**金・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

成績評価の方法と基準　主に期末テストの成績によります．

LA132

朝鮮語６（ＳＡ）

髙柳　俊男

カテゴリ：**4 群・朝鮮語・必修**
開講時期：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**金・3**

国際文化学部 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　春学期の学習内容を理解しているという前提で，文法と語彙をさらに学び，複雑な表現ができるようにつとめます．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です．

成績評価の方法と基準　主に期末テストの成績によります．

LA232

朝鮮語７（ＳＡ）

内山　政春

カテゴリ：**4 群・朝鮮語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火・2**

国際文化学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　１年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に，「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします．

到達目標　ＳＡに通用する語学力の習得，具体的には韓国外国語大「韓国語文化教育センター」の「３級」に編入できることを目標とします．

成績評価の方法と基準　主に期末テストの成績によります．

LA232

朝鮮語８（ＳＡ）

髙柳　俊男

カテゴリ：**4 群・朝鮮語・必修**
開講時期：**春学期** ｜ 曜日・時限：**金・2**

国際文化学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　１年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に，「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします．

到達目標　ＳＡに通用する語学力の習得，具体的には韓国外国語大「韓国語文化教育センター」の「３級」に編入できることを目標とします．

成績評価の方法と基準　主に期末テストの成績によります．

LA124

スポーツ総合演習

各担当者

カテゴリ：**5群・必修**
開講時期：　｜　曜日・時限：**各曜日・時限**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成成する。

到達目標　①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

成績評価の方法と基準　1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度60％、2) 課題・レポート40％の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

国際文化学部
教員紹介



●氏名
栃木（とちぎ）　玲子（れいこ）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2010

●学生から教員への連絡方法
rtochigi@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
火曜日12:50～14:00

ひとこと	Give it your best.
担当授業科目	English CEA Ⅰ・Ⅱ、言語文化演習
研究分野	アメリカ文学、アメリカ文化、映画学
著書論文等	トマス・ピンチョン著『ＬＡヴァイス』（新潮社、2013） ジョイス･キャロル・オーツ著『とうもろこしの乙女』（河出書房新社、2013） アリス･マンロー著『愛の深まり』（彩流社、2014） ジョナサン・コット著『忘れがたき日々―ジョン・レノン、オノ・ヨーコと過ごして』（岩波書店、2015）他



●氏名
粟飯原（あいはら）　文子（あやこ）

●職位
専任講師

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2115

●学生から教員への連絡方法
a.aihara@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
木曜日　15時30分～17時

ひとこと	大学という場でしか出会えない知と教養。ときに悩みまどい、立ち止まりながらでも、一緒に培っていきましょう。
担当授業科目	英語圏の文化、言語文化演習、英語
研究分野	アフリカ文学・文化
著書論文等	『崩れゆく絆』チヌア・アチェベ（光文社古典新訳文庫、2013年） 『ゲリラと森を行く』アルンダティ・ロイ　（以文社、2013年） 『褐色の世界史』ヴィジャイ・プラシャド　（水声社、2013年）ほか



●氏名
浅川（あさかわ）　希洋志（きよし）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2014
Tel. 03-3264-4823

●学生から教員への連絡方法
asak@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
国内研修のため、本年度はオフィスアワーを設定しません。

ひとこと	自分のまわりで起こっていることにちょっとだけ心理的エネルギー（注意）を向けてみてください。いろんなことが見え始め、いろんなことが動き出します。
担当授業科目	心理学Ⅰ・Ⅱ、異文化適応論、人間発達学（総合科目）
研究分野	ポジティブ心理学（フロー経験と心理的ウェルビーイング）、文化心理学
著書論文等	『フロー理論にもとづく「学びひたる」授業の創造』学文社（2011年）、「楽しさと最適発達の現象学―フロー理論」鹿毛雅治編『モティベーションを学ぶ12の理論』金剛出版（2012年）、「ポジティブ心理学― “精神疾患の治療”から“充実した人生”の研究へ―」『児童心理』金子書房（10月号臨時増刊、2013年）、「『日常生活を充実させる』テクノロジー」『自動車技術会』公益社団法人自動車技術会（2014年）、「フロー経験―ポジティブな発達と心理的ウェルビーイングへの可能性」『行動科学』日本行動科学学会（2014年）、”Universal and cultural dimensions of optimal experiences”, Japanese Psychological Research, Special Issue (2016)



●氏名
和泉（いずみ）　順子（みちこ）

●職位
准教授

●研究室の場所
BT0708

●学生から教員への連絡方法
mizumi@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
金曜日　昼休み

ひとこと	コンピュータ、情報科学関連の科目を担当します。 質問や意見などがありましたら遠慮せず発言してください。
担当授業科目	情報システム概論、情報システム応用、情報セキュリティとプライバシー、 プログラミング言語基礎、ネットワーク基礎、社会とデータサイエンス
研究分野	情報システム、コンピュータネットワーク、情報技術の普及
著書論文等	"A Study of Service Architecture for Probe Vehicle Information Systems Including Smart-phone Networks", Proceedings of 18th ITS World Congress, Oct. 2011. 他



●氏名
稲垣（いながき）　立男（たつお）

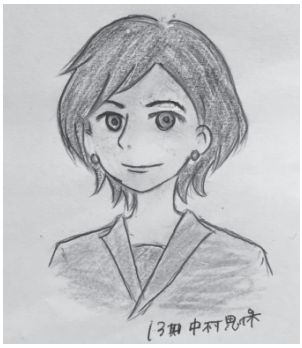
●職位
教授

●研究室の場所
2003研究室（ボアソナード・タワー20階）

●学生から教員への連絡方法
tatsuoinagaki@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
月、火、水　12:40 - 13:30（お昼休み）

ひとこと	国際文化学部では、背景の異なるさまざまな生活や文化を理解すること、行動することが大切です。一緒にチャレンジしましょう！
担当授業科目	表象文化演習（コミュニケーションとアート）、現代美術論、美術論Ⅰ・Ⅱ、社会と美術、メディアと社会、メディア表現ワークショップ1、情報デザイン、情報コミュニケーションⅢ
研究分野	コミュニケーションとアート
著書論文等	アートプロジェクト：高郷プロジェクト（福島）喜多方博物館プロジェクト（福島）Doi Saket Project（タイ）こどもアート会議（千代田区）干溝博物館プロジェクト（越後妻有）奥仙俣プロジェクト仙俣分校（静岡アートギャラリー）中之島ゲーム（水都大阪）Childhood Museum（タイ 東京 英国 メキシコ）、稲垣立男サテライト研究室（横浜）My Place（守谷、トルコ フランス ドイツ ）Grizedale Museum（英国）代官山博物館（東京） 論文：美術館における未就学児の鑑賞教育について、子供時代の博物館、コミュニケーションと表現 情報メディアにおける表現教育の実践、一対一のコミュニケーションのアート 稲垣立男の「博物館」プロジェクトにおける事例研究



●氏名
今泉（いまいずみ）　裕美子（ゆみこ）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2002

●学生から教員への連絡方法
直接私に問い合わせるか、研究室外のホワイトボードに用件を書いてください。こちらからご連絡します。

●オフィスアワー
水曜日　お昼休み　15：30ー16：30

ひとこと	４年間を通じて何かひとつのことに関する専門家になりましょう。ただし、なぜ自分はそれに関心を持つのかの問いと、対象との対話を繰り返すこと。この作業が現代世界の様ざまな関係のなかに生きる自分のありようを見極め、さらに他者にはたらきかける存在としての自分のオリジナリティ、可能性を見出すことになるでしょう。
担当授業科目	国際関係学概論、国際社会演習、移民研究Ⅲ（アジア・太平洋）、オセアニアの政治と社会（法学部）、アジア・太平洋国際関係史ー沖縄から問い直すー（総合科目）
研究分野	専攻：国際関係学 テーマ：太平洋島嶼国際関係史。日本とミクロネシアの戦前・戦時・戦後の関係。ミクロネシアの脱植民地化。 沖縄研究。日本の国際関係研究の歴史と現状。「南洋移民（戦時動員）/南洋引揚げ者」の研究。
著書論文等	・「『沖縄問題』から問うー日本の国際社会認識」羽場久浘子他編『21世紀国際社会への招待』有斐閣、2003年。 ・印東道子編（共著）『ミクロネシアを知るための58章』明石書店、2005年。 ・「南洋群島研究」鴨下重彦他編『矢内原忠雄』東京大学出版会、2011年。 ・「南洋」沖縄県教育委員会『沖縄県史』（各論編第五巻近代）、2011年。 ・「太平洋の『地域』形成と日本」李成市他編『岩波講座日本歴史』第20巻（地域論）、岩波書店、2014年。



●氏名
うじたに　よしひで
宇治谷　義英

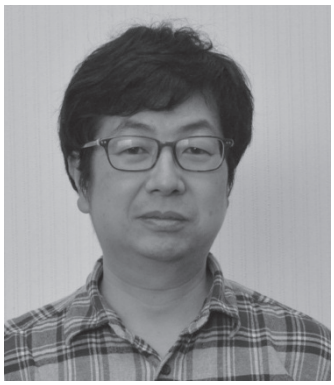
●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー1905

●学生から教員への連絡方法
ujitani@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
木曜３限

ひとこと	急がば回れ。ものごとはじっくり調べてじっくり考えましょう。
担当授業科目	英語圏の文化Ⅰ、英語、マスメディアの英語、Cultures of the English-speaking World
研究分野	イギリス文学。とくにシェイクスピアの戯曲
著書論文等	Lorenzo の独り言ー*The Spanish Tragedy* から考える役者、観客、そして作家（『言語と文化』第11号，2014）



●氏名
うちやま　まさはる
内山　政春

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー1409

●学生から教員への連絡方法
TEL：03-3264-9795（研究室）
E-mail:utiyama@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
月曜日３時限

ひとこと	週3〜4コマの外国語の授業は、みなさんの外国語学習のほんの一部でしかないことをきちんと理解してください。たった1年半で留学できるレベルまでマスターしようとするのですから。授業以外にもとにかく必死で勉強することです。外国語学習はそれほど甘いものではありません。
担当授業科目	朝鮮語２・４・７，言語学Ⅰ，世界の言語Ⅱ， 朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）
研究分野	朝鮮語学（文法論，語彙論），朝鮮語教育，台湾の言語事情
著書論文等	「言語名称「朝鮮語」および「韓国語」の言語学的考察」（『異文化』5，2004年） 「朝鮮語文法書等にあらわれた発音説明の問題点（原文朝鮮語）」（『朝鮮語教育』2，2007年） 『しくみで学ぶ初級朝鮮語』（白水社，2008年） 「「語基説」における「語幹」と「語基」」（『朝鮮半島のことばと社会』，2009年） 「「朝鮮」と「台湾」―その地域と名称をめぐって―」（『異文化』13，2012年） 「ラザロ・ルドビコ・ザメンホフ」（『国境を越えるヒューマニズム』，2013年） 『韓国語Ⅱ（'16)』放送大学教育振興会，2016年）



●氏名
江村（えむら）　裕文（ひろふみ）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2006
TEL　03-3264-9772

●学生から教員への連絡方法
hemura@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
水曜日４時限（15:10～16:40）

ひとこと	実は、言語・文化・宗教（・ついでに養老さんの「脳」）等のヒト的な問題は、同じことの別の側面であること、知ってました？
担当授業科目	異文化間コミュニケーション、イスラーム思想、アフロアジアの文化、言語文化演習（以上、国際文化学部）、言語学、アラブの文化と言語、アフロアジア入門（スワヒリ語）、日本語コミュニケーション（以上、市ヶ谷基礎科目）、交換留学生の日本語（ＥＳＯＰ）
研究分野	言語学（意味論・意味分析、語用論・談話分析、音声学）・日本語教育、異文化交流論、アフロアジア論
著書論文等	「言語の期限に関する一考察」・「アラビア語学習者のために」『異文化』（法政大学国際文化学部、2015）、『世界の文字大事典』（共訳、朝倉書店、2013）、「サピア=ウォーフの仮説について」『異文化』(法政大学国際文化学部、2007)、『留学生の異文化適応』(法政大学教養部紀要、1993、1995)、『異文化間適応をめざした日本語教育』（文化庁、1991）、『アフロアジアの民族と文化』（山川出版社、1985）他



●氏名
大嶋（おおしま）　良明（よしあき）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー0709
TEL　03-3264-9961

●学生から教員への連絡方法
aki@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
水曜６限

ひとこと	まず、問い直すことから始めよう。 あなたが知っている（と思い込んでいる）ことは、本当に正しいですか？
担当授業科目	メディア情報基礎、ネットワーク基礎、メディア情報応用、ネットワーク応用、メディア表現法、マルチメディア表現法、コンピュータ音楽と音声情報処理（共同）、情報文化演習、情報コミュニケーションⅡ、【ESOP】Japan as a Net Community(「ネット社会と日本」)
研究分野	学部と大学院を通して「文化と文化が重層的にぶつかりあう場」として現代社会をとらえ、ネット社会での文化のありかたに取り組んでいます。ディジタルメディア処理（とくにコンピュータ音声、オーディオ、音声）や e ポートフォリオが研究分野です。また、われわれ自身の文化情報学を構築するために、総合情報学の枠組みをこつこつ勉強しています。
著書論文等	Y. Ohshima, “Environmental Robustness in Speech Recognition Using Physiologically-Motivated Signal Processing,” Ph. D Thesis, Carnegie-Mellon University, 1993. Y. Ohshima and R. M. Stern, “Environmental Robustness in Automatic Speech Recognition Using Physiologically-Motivated Signal Processing,” Proc. of the International Conference on Spoken Language Processing, Yokohama, Japan, September, 1994. R. M. Stern, A. Acero, F.-H. Liu, and Y. Ohshima, “Signal Processing for Robust Speech Recognition,” Chapter in Speech Recognition, pp. 351-378, C.-H. Lee and F. Soong, Eds., Boston: Kluwer Academic Publishers, 1996.



●氏名
おおなか　かずや
大中　一彌

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2211

●学生から教員への連絡方法
メールで連絡してください。

●オフィスアワー
水　6限

ひとこと	知性のペシミズム、意志のオプティミズム
担当授業科目	国際社会演習、国際文化情報学入門（国際）、地域協力・統合、フランス語コミュニケーションⅠ
研究分野	政治学、政治思想（近現代のフランスを中心に）
著書論文等	【論文】「自発的隷従とは何か　ラ・ボエシー『反一者論（コントラン）』をめぐって」(2013年)「越境するシティズンシップとポスト植民地主義」(2010年)「パスカルにおける情念と政治　ーアルチュセール研究の視点からー」(2010年) 【翻訳】ノワリエル『フランスという坩堝（坩堝）』(移民史の本です)



●氏名
おおにし　まこと
大西　亮

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー1416

●学生から教員への連絡方法
onishi@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
2016年度は国内研究のため不在。

ひとこと	「異文化」は足もとに転がっています。
担当授業科目	ＳＡスペイン語、スペイン語講読、ほか
研究分野	スペイン語圏の文化と社会、ラテンアメリカ現代文学
著書論文等	「オクタビオ・パス―異文化との対話者」(『＜境界＞を生きる思想家たち』、2016年、法政大学出版局)、『人工呼吸』リカルド・ピグリア著・大西亮訳、2015年（水声社)、『抵抗と亡命のスペイン語作家たち』（共著）2013年（洛北出版)、「リゴベルタ・メンチュウ―政治的暴力に抗して」(『国境を越えるヒューマニズム』、2013年、法政大学出版局)、ほか



●氏名
岡村（おかむら）　民夫（たみお）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー1405

●学生から教員への連絡方法
TEL：03-3264-9788（研究室）
E-mail：okamura@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
火曜日昼休み

ひとこと	半分ぐらいの高さからこの世を見れば、いちばん美しい。
担当授業科目	表象文化演習、フランス語１・３、国際文化情報学入門（表象文化）、 表象文化概論、芸術と人間（総合科目）、 French B I-II (GIS)
研究分野	映画批評、フランス現代思想、近代日本文学、温泉文化研究
著書 論文等	『柳田国男のスイス』（森話社）、『イーハトーブ温泉学』（みすず書房）、「ソシュールのアナグラム」（『思想』2007年11月号）、『旅するニーチェ　リゾートの哲学』（単著、白水社）、『デュラス、映画を語る』（翻訳、みすず書房）、『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』（共著、フィルムアート社）、『シネマ２＊時間イメージ』（共訳、法政大学出版局）、『『注文の多い料理店』考』（共著、五柳書院）



●氏名
川村（かわむら）　湊（みなと）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2016
TEL　03-3264-4831

●学生から教員への連絡方法
minato@kawamura.jp

●オフィスアワー
水曜１２時～１時

ひとこと	人は苦しみによって苦しみから救われる
担当授業科目	「世界の中の日本文学」など
研究分野	日本文学（主に近・現代）、東アジアの比較文化論、比較民俗学
著書 論文等	『福島原発人災記』、『原発と原爆』、『震災・原発文学論』など、多数



●氏名
北（きた）　文美子（ふみこ）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー1406
TEL　03-3264-4334

●学生から教員への連絡方法
研究室への TEL

●オフィスアワー
月・水(いずれも)　12：30～13：20

ひとこと	丹念に、誠実に、できるだけ多くの古典を読んでください。
担当授業科目	英語7、英語圏の文化Ⅴ（文学と社会 B）（以上　国際文化学部） English Ⅰ（以上　市ヶ谷基礎科目）
研究分野	アイルランド文学
著書 論文等	「サミュエル・ベケット「不毛」を追求した禁欲の文学」(『アイルランド文学　その伝統と遺産』開文社出版、2014年)、「ダクラス・ハイドー「アイルランドの脱英国化の必要性」」(『ケルティック・テクストを巡る』中央大学出版部、2013年)



●氏名
衣笠（きぬがさ）　正晃（まさあき）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー1410

●学生から教員への連絡方法
kinugasa@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
水曜昼休み（12:40～13:20）

ひとこと	ゆっくり急げ。
担当授業科目	英語1・3・7、言語文化概論、言語文化演習
研究分野	比較文学・比較文化、日本文学研究史
著書 論文等	（論文）「国文学者・久松潜一の出発点」(『言語と文化』第5号) 「中世和歌研究と文学史記述――風巻景次郎を中心として――」(『中世文学』52号) （翻訳）ハルオ・シラネ著『芭蕉の風景　文化の記憶』(角川書店、2001年) トーマス・カスーリス著『神道』(ちくま学芸文庫、2014年)　ほか



●氏名
甲（きのえ）　洋介（ようすけ）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2001

●学生から教員への連絡方法
できれば数日前までに希望日時をお知らせください。

●オフィスアワー
火曜日昼休み、木曜日昼休み（春学期）

ひとこと
異と交わり同と研（みが）く（考えの異なる者と交り、思いを同じくする者と研く）。

担当授業科目
ヒューマンインターフェイス論、仮想世界研究、道具による感覚・体験のデザイン、
メディア情報基礎、こころの科学、情報文化演習、情報コミュニケーションⅠ

研究分野
情報学、ヒューマン・インタフェース（Human-Computer Interaction）、人間工学。
日常生活を拡張し、リラックスさせる情報空間・情報家具・情報文具の建築・デザイン。

著書論文等
・Situational Transformation of Personal Space. Springer.(2015)
・Touching a Breath: Peripheral Communication for a Hospitalized Child. Springer.(2013)
・Relaxed Computing. ACM CHI2007
・活気ある日常の実現に向けたヒューマン・コンピューター・インタラクション、人間工学論文誌.
・Mutual Harmony and Temporal Continuity: Perspective from the Japanese Garden, ACM CHI



●氏名
熊田（くまた）　泰章（よしのり）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2110

●学生から教員への連絡方法
kumata@hosei.ac.jp

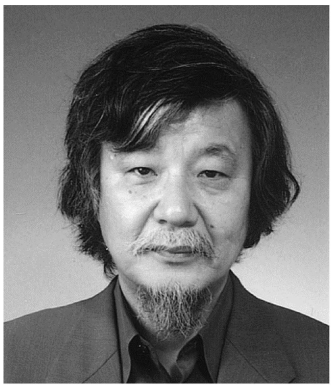
●オフィスアワー
水曜日12:45～13:25

ひとこと
日本全国の約50大学にある国際文化学部教授・学生で組織している日本国際文化学会では、毎年、学会誌『インターカルチュラル』で、国際文化学関連の最新の研究を紹介しています。
私は、この学会で2007～2010年度の会長をしていました。

担当授業科目
ドイツ語１・３・８、ドイツ語アプリケーション、ドイツ語圏の文化Ⅱ、翻訳と情報、
国際社会演習、ドイツの文学Ⅰ・Ⅱ（総合科目）

研究分野
テクスト論、小説構造理論、読者論、翻訳論、文化記号論、グリム昔話と口承文芸

著書論文等
（論文）
「翻訳の〈前提/結果〉としての「多文化性」に関する考察―〈個々の/総体としての〉〈テクスト/文化〉が〈依拠する/作り出す〉〈独自性/普遍性〉―」『異文化13号』法政大学国際文化学部紀要、2012年
「文化の複数性原理における自己と他者―多文化主義を問い返す反復する問い―」『異文化12号』法政大学国際文化学部紀要、2011年
「それ自体であることの円環―テクストとしての自己と他者―」『異文化9号』法政大学国際文化学部紀要、2008年
（編著）
熊田泰章編『国際文化研究への道―共生と連帯を求めて』彩流社、2013年



●氏名
小池（こいけ）　康郎（やすろう）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー0809

●学生から教員への連絡方法
研究室 TEL： 3264-9442

●オフィスアワー
月曜　3:30～4:30

koike@hosei.ac.jp

ひとこと	研究上、アメリカ、ドイツ、オーストリア、スウェーデン、ポルトガル等に長期（数ヶ月以上）滞在した経験は何か参考になるかも知れません。
担当授業科目	物理学概論、原子から宇宙までⅠ・Ⅱ、相対性理論と宇宙
研究分野	少数粒子系物理学 サイエンスコミュニケーション エネルギー学
著書論文等	論文：Physical Review, Progress of Theoretical Physics, Nuclear Physics などの雑誌に出ています。 著書：重力の物理学（法政大学出版局）、文系人のためのエネルギー入門（勁草書房）



●氏名
輿石（こしいし）　哲哉（てつや）

●職位
教授

●研究室の場所
BT2105

●学生から教員への連絡方法
tkoshiis@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
水曜昼休み

ひとこと	AD ASTRA PER ASPERA
担当授業科目	英語圏の文化Ⅶ、Ⅷ、言語文化演習、History of English
研究分野	英語学、音声学、言語学
著書論文等	*Collateral Adjectives and Related Issues*(2011, Bern: Peter Lang)、『英語辞書の比較と分析』第5集、第6集（2002、東京：研究社）、など



●氏名
佐々木（ささき）　直美（なおみ）

●職位
准教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2107

●学生から教員への連絡方法
sana3@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
火曜、金曜の昼休み

ひとこと	スペイン語圏の社会と文化について一緒に学びましょう
担当授業科目	スペイン語、言語文化演習、スペイン語圏の社会と文化Ⅰ・Ⅱ
研究分野	文化人類学：ペルーの文化　最近はペルーの祭りに登場する様々な舞踏について調査・研究中
著書論文等	『旅の指さし会話帳ペルー』情報センター出版局2005年 「チョロ：都市のインディオ」『講座　世界の先住民族　ファースト・ピープルズの現在08中米・カリブ海、南米』綾部恒雄監修　黒田悦子・木村秀雄編　明石書店　2007年　など



●氏名
佐々木（ささき）　一恵（もとえ）

●職位
准教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2111

●学生から教員への連絡方法
E-mail

●オフィスアワー
月曜日　３限

ひとこと	強く、明るく、たくましく。
担当授業科目	国際社会演習、宗教と社会、宗教社会論Ⅱ、ジェンダー論
研究分野	歴史学（アメリカ文化・思想史）、異文化接触論、ジェンダー研究、帝国主義研究
著書論文等	“American New Women Encountering China: the Politics of Temporality and Paradoxes of Imperialism, 1898-1927,” *Journal of Colonialism and Colonial History* (Spring, 2009), “Excludable Aliens vs. One National People: The U.S. Chinese Exclusion Policy and the Racialization of Chinese in the United States and China,” *The Japanese Journal of American Studies* (No.23, 2013)



●氏名
佐藤（さとう）　千登勢（ちとせ）

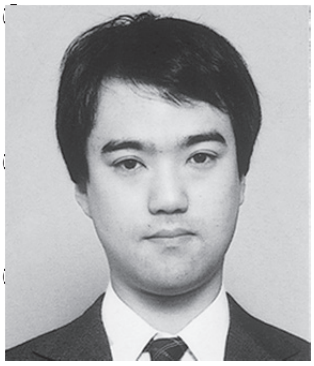
●職位
准教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2011

●学生から教員への連絡方法
chitose21@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
水曜日3限

ひとこと	この世には、人生観を根底から変えてしまうような素晴らしい芸術の営みがたくさんありますね。学生時代に、できる限り多くの、さまざまな国々の芸術作品や文化（文学、音楽、映画、美術、アニメーション、舞踊などなんでも）に触れてみてはいかがでしょうか。ソ連生まれの亡命詩人ヨシフ・ブロツキーは、芸術に触れる行為を「審美的体験」と呼び、こう言っております。「個人の審美的体験が豊かであればあるほど、趣味はしっかりしたものになり、道徳的な選択も明確になり、そして個人はより自由になる」と。
担当授業科目	ロシア語２・３・７、言語文化演習、ロシア語アプリケーション、ロシア・東欧の文化、ロシアの文化と社会１・２
研究分野	20 世紀ロシア文学、ロシア（ソ連）映画、芸術理論
著書 論文等	著書：『シクロフスキイ　規範の破壊者』（南雲堂フェニックス、2006 年）、『DVD で愉しむロシアの映画』（東洋書店、2005 年）、『映画に学ぶロシア語』（東洋書店、2008 年）、『チェブラーシカ』（東洋書店、2010 年） 共著：『ロシア文学への扉：作品からロシア世界へ』（慶應義塾大学出版会、2007 年）、『再考ロシア・フォルマリズム』（せりか書房、2012）、共訳：タチヤナ・コトヴィチ『ロシア・アヴァンギャルド小百科』（水声社、2008 年）



●氏名
重定（しげさだ）　如彦（ゆきひこ）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2213

●学生から教員への連絡方法
メールで次のアドレスにお願いします。 sigesada@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
春学期：木曜日４限
秋学期：木曜日３限

ひとこと	コンピュータは怖くない！わからないことがあれば気軽に相談しに来てください。 http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada　にゼミや授業で作成したソフトやゲームがありますので興味のある方はどうぞ。
担当授業科目	情報リテラシーⅠ・Ⅱ、ディジタル情報学概論、情報アプリケーションⅠ、 ゲーム構築論、情報文化演習
研究分野	ユビキタスコンピューティング、分散ＯＳ、ユーザインタフェース
著書 論文等	“A Distributed Hypermedia Operating System: Net-BTRON, In Proceedings of the 2000 International Conference on Communication Technology, IFIP ICCT2000/WCC2000, vol.2, (Aug. 2000) “ucR Based Interoperable Spatial Information Model for Realizing Ubiquitous Spatial Infrastructure,” 34th Annual IEEE Computer Software and Application Conference (COMPSAC2010), pp. 303-310, July19-23, 2010.



●氏名
島田（しまだ）　雅彦（まさひこ）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2208

●学生から教員への連絡方法
shimada@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
火曜日、水曜日の昼休み

ひとこと	脳は疲れを知らない。
担当授業科目	文学Ⅰ・Ⅱ、サブカルチャー論、メディア表現ワークショップ2、表象文化演習
研究分野	創作、小説論、文学史、戦後史、日欧交流史
著書論文等	「退廃姉妹」文春文庫、「漱石を書く」岩波新書、「自由死刑」「カオスの娘」集英社、「フランシスコ・X」「悪貨」講談社、「彗星の住人」「僕は模造人間」「小説作法 ABC」「ニッチを探して」新潮社、「暗黒寓話集」文芸春秋



●氏名
島野（しまの）　智之（さとし）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー0909

●学生から教員への連絡方法
E-mail：sim@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
月曜日・木曜日の昼休み

ひとこと	誰にも気づかれずにひっそりといる生き物のことを知りたい．生物多様性とは，人間が多様な価値観を受け入れるという事．　生き物はそんな言葉とは関係なしに生きている．
担当授業科目	持続可能な社会，情報文化演習，自然総合科目Ａ，自然史
研究分野	系統分類学，生物地理学，多様性生物学，土壌動物学，分解者生物学
著書論文等	『進化学事典』（分担執筆，共立出版），『生物学辞典』（編集協力，分担執筆，東京化学同人），『ダニ・マニア』（単著，八坂書房），『土壌動物学への招待―採集からデータ解析まで』（分担執筆，東海大学出版会），『ダニの生物学』（分担執筆，東京大学出版会），『草地科学実験・調査法』（分担執筆，全国農村教育協会），Maruyama, I. & Shimano, S.＊ (2014) A new species of the genus Symbioribates (Acari: Oribatida: Symbioribatidae) from Niigata Prefecture, Central Japan. Edaphologia, 94: 1-8. ＊corresponding author/Jassey, E. J. V.＊, Shimano, S.＊, Dupuy, C., Toussaint, M. & Gilbert, D. (2012) Characterization of the feeding habit of the testate amoebae Hyalosphenia papilio and Nebela tincta along a narrow fen-bog gradient using digestive vacuole content and ^{13}C and ^{15}N isotopic analyses. Protist, 163: 451-464. ＊These authors were equally contributed.



●氏名
ジョルディ　フィリップ
JORDY　Philippe

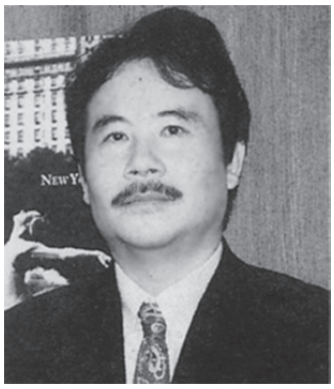
●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー1415

●学生から教員への連絡方法
TEL：03-3264-9700（研究室）
E-mail：jordy@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
金曜日の昼休み

ひとこと	旺盛な好奇心を持ち、自己の目標を定めてください。
担当授業科目	フランス語5・6・8（SA クラス）、フランス語アプリケーション、 フランス語アプリケーション(上級)、フランス語コミュニケーション III-IV、 フランス語圏の文化(文学)
研究分野	―大衆文学比較研究 ―フランスにおける禅仏教
著書 論文等	Edogawa Ranpo et les vicissitudes du roman criminel（明治学院論叢、561号)、仏和辞典 Le Dico（白水社刊)、La revue *Shinseinen* et l'essor du roman policier au Japon (La modernité à l'horizon, Ed. Picquier, 2004)，他



●氏名
すずき　しょう
鈴木　晶

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2116
TEL　03-3264-9702

●学生から教員への連絡方
shosuz@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
月曜日の昼休み

ひとこと	よく学び、よく遊べ
担当授業科目	身体表象論、異文化と身体表現、映像文化論、表象文化演習、身体表現論（バレエの世界）（総合科目)、マスメディアの英語、英語７
研究分野	身体表現論（とくに舞踊史。なかでもバレエ)、表象文化論、現代思想（とくに精神分析思想）
著書 論文等	『オペラ座の迷宮』『バレリーナの肖像』『バレエ誕生』『ニジンスキー　神の道化』(新書館)、『バレエへの招待』(筑摩書房)、『フロイト　精神の考古学』(河出書房新社)、『「精神分析入門」を読む』(NHK 出版)、『大人は愉しい』(共著、冬弓舎）他多数。



●氏名
鈴木（すずき）　正道（まさみち）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー1311

●学生から教員への連絡方法
TEL：03-3264-4289（研究室）

●オフィスアワー
水曜日４限

ひとこと	疑ってみることから、学問は始まります。日常的に繰り返し言われることを疑ってみることが大切です。「論理的に考える」、「自分の言葉で語る」、「主体性を持つ」など。私がここに書いていることも疑うこと。疑うことの意義も疑うこと。
担当授業科目	現代思想２、French Ⅰ、フランス語１・３、フランスの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ
研究分野	欧米、特にフランスの文学、思想 言説と権力の分析、メディア
著書 論文等	*La Violence dans les œuvres romanesques de J.-P. Sartre. Théories et fantasmes*, Septentrion, 2000年、《 Sartre ou le héraut de la société sans père? 》, 『サルトルの遺産』, 2001年, 「存在の倫理と存在の彼方の倫理：サルトルとレヴィナス」, 『FLAMBEAU』no29, 2003年, 「スキゾフレニとしての『嘔吐』：サルトルとドゥルーズ／ガタリ」, 『言語と文化』no1, 2004年, 「戦略としてのテクスト；ディスクール―日本の４全国紙の社説―」, 『言語と文化』no4, 2007年, 「誰が語っているのか―メディア言説における主体の問題」, 『言語と文化』no6, 2009年, 「科学を伝える―日本の日刊紙の科学関連記事」, 『言語と文化』no8, 2011年. "How to Welcome an Intellectual Superstar: Sartre and the Japanese Press in 1966" in *Jean-Paul Sartre, Mind and Body, Word and Deed*, Cambridge Scholars Publishing, 2011, 「エコロジストという実存主義者―アンドレ・ゴルツ」, 『サルトル読本』法政大学出版局, 2015年.



●氏名
鈴木（すずき）　靖（やすし）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2210

●学生から教員への連絡方
E-mail:yasuzuki@i.hosei.ac.jp
TEL:03-3264-4905(研究室)

●オフィスアワー
春学期：木曜日3時限（BT2210研究室）
秋学期：木曜日4時限（BT2210研究室）

ひとこと	学びて思わざれば罔く、思いて学ばざれば殆うし（勉強するだけじゃダメ、自分で考えなきゃ。考えるだけでもダメ、勉強もしないと）
担当授業科目	表象文化演習、中国語１、３、５、６、法政学への招待 アジアの伝統文化、中国の文化IX（中国俗文学）
研究分野	①　伝統芸能を通じた中国庶民文芸の研究、②　ICT の活用による中国語教育の効率化
著書 論文等	台湾百科（民間芸能、大修館書店）、暮らしがわかるアジア読本・中国（テレビ時代の評書芸人、河出書房新社）



●氏名
須藤（すとう）　祐二（ゆうじ）

●職位
准教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2112

●学生から教員への連絡方法
E-mail:
ysuto@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
春学期：金曜日第3時限
秋学期：金曜日第4時限

ひとこと	言葉は人間意識や文化の基礎。様々な角度から言葉の不思議さを探求してほしい。
担当授業科目	英語圏の文化Ⅳ、英語１、英語３、英語７
研究分野	アメリカ文学
著書論文等	憂鬱な旅人の物質性―英国版『スケッチ・ブック』の構造分析（『言語と文化』第9号、2012年）、The Gender Politics in the Management of Property and the Authorial Control over Writing in Charles Brockden Brown's *Ormond; or, The Secret Witness*.（『英米文化』第43号、2013年）、「バイロン」の構築と過去の継承―アーヴィングの *Newstead Abbey* における象徴秩序（『言語と文化』第11号、2015年



●氏名
曽（そう）　士才（しさい）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2209

●学生から教員への連絡方法
TEL.　03-3264-9701（研究室）
E-mail　soshisai@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
水曜日3限目

ひとこと	主体的に物事を考え、広い視野を持てる国際人になってください。
担当授業科目	中国の文化Ⅰ（現代中国社会）、中国の文化Ⅱ（他民族社会中国）、国際社会演習、中国語アプリケーション、中国語
研究分野	文化人類学、中国民族学（華南少数民族の動態、日本華僑のエスニシティ）
著書論文等	『落地生根―神戸華僑と神阪中華会館の百年<増補版>』2013年（共著） 『世界の先住民族－ファースト・ピープルズの現在　01東アジア』2005年（共編著） 『中華民族の多元一体構造』2008年（共訳）



●氏名
髙柳　俊男（たかやなぎ　としお）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2015
TEL　03-3264-9963

●学生から教員への連絡方法
ttakaya@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
木曜日13:30～15:00
重複を避けるために、事前にアポを取ることをお勧めします（義務ではありません）。これ以外の時間帯も、事前連絡いただければ可能です。

ひとこと	最初は別々の「引出し」に入れていた知識や思考が、学びを続けることで徐々につながっていきます。そのつながり具合に、学ぶことの楽しさや喜びが生まれます。
担当授業科目	朝鮮語５・６・８、チュートリアル、法政学への招待、世界とつながる地域の歴史と文化、移民研究Ⅱ、国際社会演習、朝鮮語アプリケーション
研究分野	朝鮮近現代史、とくに在日朝鮮人の歴史・文化や、日本と朝鮮半島の文化交流史など。 法政大学の歩んだ歴史や、ＳＪ国内研修実施地の南信州についても研究しています。
著書 論文等	『東京のコリアン・タウン―枝川物語』『東京のなかの朝鮮―歩いて知る朝鮮と日本の歴史』（共著）、「映画『海を渡る友情』と北朝鮮帰国事業」「渡日初期の尹学準」「日本映画のなかの在日コリアン像」「戦後日本の韓国・朝鮮へのまなざしと自己変革」「在日文学と短歌」（論文）、ほか。 詳しくは、本学 HP 上の「学術研究データベース」をご覧ください。



●氏名
竹内　晶子（たけうち　あきこ）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2007

⑨

●学生から教員への連絡
aktake@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
木・金　昼休み

ひとこと	学生のうちに、ジャンルにとらわれず（国内外の古典も現代も）多くの舞台を見てください。
担当授業科目	比較表象文化論、英語、表象文化演習
研究分野	比較演劇、比較文学、能、文学理論、演劇理論
著書 論文等	"*Sanemori*: Departure from Oral Narrative"（in *Like Clouds or Mists: Studies and Translations of No Plays of the Genpei War*, edited by Elizabeth Oyler and Michael G. Watson, East Asia Program Cornell University, 2013）、「世阿弥の月――〈融〉〈姨捨〉〈江口〉〈井筒〉にみる反復と混淆――」（鈴木健一編『天空の文学史　太陽・月・星』所収、三弥井書店、2014）、ほか。



●氏名
田澤　耕（たざわ　こう）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2013

●学生から教員への連絡方法
TEL：03-3264-4818(研究室)
E-mail：tazawa@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
水曜3限

ひとこと	まずはことばを、そして文化へ。
担当授業科目	スペイン語２、５、６、８、スペイン語上級、言語文化演習
研究分野	スペイン語、文化 カタルーニャ語、文化
著書 論文等	カタルーニャ50のＱ＆Ａ（新潮社)、ガウディー建築入門（新潮社）カタルーニャ語文法入門（大学書林)、バルセロナ（訳、新潮社)、物語カタルーニヤの歴史（中公新書)、カタルーニャ語辞典、日本語カタルーニャ語辞典（大学書林)、ニューエキスプレスカタルーニャ語（白水社)、冷たい肌（訳、中央公論新社)、完訳ティラン･ロ･ブラン（岩波書店)、ガウディ伝―時代の意志を読む（中公新書)、素顔のバルサ（経済界)、「カタルーニャを知る辞典」(平凡社新書)、「辞書屋列伝」(中公新書)他



●氏名
中澤　史（なかざわ　ただし）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2113

●学生から教員への連絡方法
nakazawa.t@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
火曜日、昼休み

ひとこと	多くの人，物，事に接して自分を磨いてください。
担当授業科目	スポーツ総合演習、スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ、スポーツメンタルトレーニング論、スポーツ学入門
研究分野	スポーツ心理学
著書 論文等	『改訂スポーツ・体育学概論』（共著)、『ジュニアスポーツの心理学』（共訳)、 『新版 TEG Ⅱ 活用事例集』（共著）等



●氏名
中島（なかしま）　成久（なりひさ）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2005
TEL 03-3264-4793

●学生から教員への連絡方法
E-mail：nnaka@hosei.ac.jp
研究室 TEL も OK

●オフィスアワー
水曜日12：30〜13：30

ひとこと	ゼミでは授業で行っている「文化人類学 I, II――人種・民族問題入門」、「国家と民族――宗教と国民統合／非統合」、「地域紛争とエスニシティ――インドネシアのポストコロニアリズム」で展開した議論を、さらに詳しく検討する。現代世界で深刻な問題となっている人種、民族、宗教に絡む紛争を、グローバル化と国民国家、新自由主義、文明の衝突、ポストコロニアリズムといった理論的な枠組みの中で検討する。
担当授業科目	国家と民族、地域紛争とエスニシティ、他者イメージ論、国際社会演習、文化人類学 I・II、文化人類学方法論（総合科目）
研究分野	①文化の理論、ナショナリズム・エスニシティに関する理論、コロニアル・スタディ ②開発と文化 ③インドネシア研究
著書論文等	『インドネシアの土地紛争―言挙げする農民たち』(創成社新書)、『森の開発と神々の闘争―改訂増補版 屋久島の環境民俗学』(明石書店)、『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』(明石書店)、『ロロ・キドゥルの箱ージャワの性・神話・政治』(風響社)

●氏名
中和（なかわ）　彩子（あやこ）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー1316

●学生から教員への連絡方法
nakawa@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
木曜の昼休み。木曜３限（秋学期のみ）。

ひとこと	きめ細かい指導を心がけます。
担当授業科目	英語圏の文化VI（文学と社会 C)、市ヶ谷英語基礎科目（英語リーディングワークショップ、Cultures of the English-Speaking World)
研究分野	19世紀以降のイギリスの小説と文化・社会
著書論文等	「ピクウィック氏のげんこつ」, 松岡光治編『ディケンズ文学における暴力とその変奏ー生誕二百年記念ー』大阪教育図書, 2012, 21-26.



●氏名
林（はやし）　志津江（しづえ）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナードタワー

●学生から教員への連絡方法

●オフィスアワー
火曜12:40~14:00

ひとこと	私の大学時代は、音楽と映画と本とドイツ語＋友だちが全てでした（笑）。あなたもここで、自分が一生大事にできるものを見つけて下さい。皆さんとともに学び成長できることを楽しみにしています。
担当授業科目	ドイツ語、ドイツ語アプリケーション、ドイツ語圏の文化Ⅰ、映像と文学、表象文化演習（ポピュラー音楽の系譜）
研究分野	ドイツ語圏文学（近現代文学、現代抒情詩）とその解釈理論、文化論・文化理論（メディア論、文化的記憶論）、日独文化交流史
著書論文等	【著書】宮田眞治ほか編著（共著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）、澤田直編著（共著）『移動者の眼が露出させる都市の相貌－ 越境文学論』（弘学社、2014年） 【論文】「抵抗あるいは不均質なドイツ語－ツェランのマドリード、ウィーン、そしてパリ」（『日独文化論考－高橋輝暁先生定年退職記念文集』2015年）、「声と文字のアリーナ･トーマス・クリングの連作詩『魔女たち』」（『日本独文学会叢書094号』2013年） 【翻訳・解題】「北里柴三郎『日本におけるコレラ（1887年）』」（『北里大学一般教育部紀要（第20号）』、2015年）



●氏名
廣松（ひろまつ）　勲（いさお）

●職位
専任講師

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2008
TEL　03-3264-4799

●学生から教員への連絡方法
研究室への TEL
ihiromatsu@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
火曜日13：30～15：00

ひとこと	第二外国語としてフランス語を学ぶことで、フランコフォニーという複言語・複文化社会における諸文化の共存方法や文化間の軋轢の解決方法を知ることができます。是非フランス語の世界にも触れてみてください。
担当授業科目	フランス語2/4、フランス語初級Ⅰ/Ⅱ、フランス語表現法Ⅰ/Ⅱ、フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）（隔年開講）、言語文化演習（フランコフォニーの言語文化）等
研究分野	フランコフォニー文学（特にカリブ海域文学、ハイチ系ケベック移民文学）、ポストコロニアリズム理論、メランコリー
著書論文等	「Mélancolie postcoloniale : relecture de la mémoire collective et du lieu d'appartenance identitaire chez Patrick Chamoiseau et Émile Ollivier」（モントリオール大学提出博士論文）、「フランス語圏カリブ海域におけるクレオール文学運動の問題機制」『ポストコロニアル批評の諸相』、「現代ケベック文学の諸潮流 : 移民文学と新郷土文学を中心に」『Nord-Est』第7-8号など。



●氏名
マーク　フィールド
Mark E. FIELD

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー1902

●学生から教員への連絡方法
TEL：03-3264-9780（研究室）
E-mail:field@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
Spring（春）, Friday（金曜日）13：45〜14：45.
Autumn（秋）, Friday（金曜日）13：45〜14：45

ひとこと	For the true student of Culture and Intercultural Communication, the world is a classroom. Anything that happens in that classroom is worthy of interest and thoughtful consideration.真の文化とインターカルチュラルコミュニケーションの学生にとって教室は世界である。教室内でおこる全てが興味深く考慮にあたいする出来事となるはずだ。
担当授業科目	English 8 [英語 8], English Application [英語アプリーケーション] English Communication Ⅰ[英語コミュニケーションⅠ] English Communication Ⅱ[英語コミュニケーションⅡ] English Communication Ⅲ[英語コミュニケーションⅢ] History of Western Thought [英語圏の文化Ⅱ（思想史)]
研究分野	言語学（応用現代英語）・経済学（今日の社会と経済の話題)、Human Capital Development（人材資質の開発)、Japanese Economic and Educational Reform（日本経済と教育改革）
著書論文等	『Communication, Culture, Diffusion and Education: The Complexity of Intercultural Communication, Learning from the Past and Looking to the Future』（法政大学　教養部紀要111号、2000年2月）,『Discovering a Cultural Hero in Post-Pinochet Chile』（法政大学国際文化学部　異文化9号、2008年4月）,『Is There a 'Slow Travel' Alternative to Intercontinental Flight?』（法政大学国際文化学部　異文化13号、2012年4月）



●氏名
ほさか　かえみ
保坂　嘉恵美

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2204

●学生から教員への連絡方法
研究室：03-3264-4897
E-mail：kaemi@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
金曜日昼休み

ひとこと	初心を忘れず
担当授業科目	English 1（市ヶ谷基礎科目)、マスメディアの英語（市ヶ谷基礎科目） 英語リーディング・ワークショップ（市ヶ谷基礎科目）
研究分野	アメリカ文学（植民地時代〜19世紀） アメリカ文化
著書論文等	『文学アメリカ資本主義』（共著）（南雲堂)、『性のペルソナ』（共訳）（河出書房新社） 『ヴァージニア植民地再考（Ⅰ）―その植民言説をめぐって―』（『言語と文化』第7号 2010）



●氏名
前川（まえかわ）　裕（ゆたか）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2009

●学生から教員への連絡方法
TEL：03-3264-9761（研究室）
E-mail：y-maekawa@nifty.com

●オフィスアワー
水曜日4時限

ひとこと	新しい道を発見するためには、それなりの努力が必要です。
担当授業科目	比較文化、言語文化演習
研究分野	比較文学、アメリカ文学（日本文学作品の英訳研究、三島由紀夫の比較文学的研究、口承文化研究、アメリカ犯罪小説研究等）、創作
著書論文等	『歴史と批評』（訳書、平凡社、1989）「弱法師」における意味の再発見―『天人五衰』との関連において―（共著、中央公論、1994）『理工系学生のための英語ハンドブック』（共著、三省堂、2000）『英語変換力検定』（池田書店、2010）The Sense of an Ending in Mishima（英文論文、『言語と文化』、2006）「大衆文化研究試論（1）－「感情の構造」としての昭和歌謡－」（『言語と文化』、2010）『三島由紀夫とアメリカ―ノーマン・メイラーの「死刑執行官の歌」との対比において―』（『言語と文化』2011）「事実という虚構－*In Cold Blood* の周辺をめぐって－」（『言語と文化2011』）『クリーピー』（小説、光文社、2012）『アトロシティー』（小説、光文社、2013）『酷 ハーシュ』（小説、新潮社、2014）『アバリション』（小説、光文社、2014）『死屍累々の夜』（小説、光文社、2015）『イン・ザ・ダーク』（小説、新潮社、2015）他



●氏名
松本（まつもと）　悟（さとる）

●職位
教授

●研究室の場所
BT2012

●学生から教員への連絡方法
smatsumoto@hosei.ac.jp

●オフィスアワー
水曜日3時限

ひとこと	NHK 報道記者、ラオスでの草の根開発協力、NGO による援助政策提言活動などの実務経験と大学での研究活動を有機的につなげた教育を実践します。
担当授業科目	国際文化協力、平和学、国際関係研究１・２、実践社会調査法、国際文化協力、国際社会演習
研究分野	開発による社会影響評価、国際協力、メコン河流域の開発、国際機構、ＮＧＯ
著書論文等	人々の資源論（明石書店）、徹底検証ニッポンの ODA（コモンズ）、シリーズ国際開発第3巻生活と開発（日本評論社）、被害住民が問う開発援助の責任（築地書館）、21世紀の開発援助メコン河開発（築地書館）、ＮＧＯから見た世界銀行（ミネルヴァ書房）、映画で学ぶ国際関係Ⅱ（法律文化社）、調査と権力（東京大学出版会）



●氏名
森村（もりむら）　修（おさむ）

●職位
教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2004

●学生から教員への連絡方法
TEL：03-3264-4791（研究室）
E-mail：morimura@hosei.ac.jp

⑬ ●オフィスアワー
火曜日 PM12:30-1:30 （予定）

ひとこと	「為せば成る　為さねばならぬ何事も　成らぬは人の為さぬなりけり」（上杉鷹山）
担当授業科目	現代思想、文化情報の哲学、パフォーマンス・スタディーズ、こころの科学（甲先生とのコラボレーション）、情報倫理学、倫理学Ⅰ・Ⅱ、人間存在論（総合科目）、情報文化演習
研究分野	フッサール現象学、現代フランス哲学、芸術哲学（美学も含む） 近代日本哲学 応用倫理学（ケアの倫理）・ケア文化論
著書論文等	「理性の運命―柄谷行人の「超越論的批判」と超越論的現象学」 （「現代思想」７月臨時増刊―総特集柄谷行人、青土社、1995） 『ケアの倫理』（大修館書店、2000）、『生と死の現在』（共著、ナカニシヤ出版、2002）



リービ　英雄（ひでお）

教授

●研究室の場所
ボアソナード・タワー2114

●学生から教員への連絡方法
研究室03-3264-4886
または教授室のボックス

●オフィスアワー
水曜（5限）

ひとこと	言葉のよろこび
担当授業科目	日英翻訳論、実践翻訳技法、世界の中の日本語、英語アプリケーション、 言語文化演習
研究分野	日本文学
著書論文等	英訳万葉集、日本語による小説等

2016年度　国際文化学部専門教育科目（自由科目以外）　兼任教員一覧

兼任教員氏名	担当科目
ヴィラ・ヴィニャス　ラケル	カタルーニャの文化Ⅰ～Ⅳ
瓜谷 アウロラ	スペイン語アプリケーション（上級）
ジョナサン Ｐ **エーブル**	英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ
大嶌　徹	ポピュラー音楽論
鏡　明彦	情報産業論
葛西　誠	システム論
ウォルター　**カズマー**	英語アプリケーション
ピエダット **ガルシア ルイス**	スペイン語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、スペイン語アプリケーション
カレンス フィリップ	フランス語コミュニケーションⅢ
川村 たつる	ハイパーテクスト論、情報編集論
神戸　雅一	ネット文化論
菊池 司	メディア情報基礎
君塚 洋一	メディアと情報
金　玉英	中国語アプリケーション、中国語アプリケーション（上級）
小中原　麻友	世界の英語
コベルニック　ナディヤ	ロシア語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、ロシア語アプリケーション（上級）
ジョルジュ　**コンルール**	フランス語アプリケーション
阪本 正治	コンピュータ音楽と音声情報処理
櫻井 茂明	情報システム概論
佐藤　好彦	メディア表現ワークショップ3
周 重雷	中国語アプリケーション（上級）
ウテ　**シュミット**	ドイツ語コミュニケーションⅡ、ドイツ語アプリケーション
蒋　彧婷	中国語コミュニケーションⅠ・Ⅲ
アンドリュー　**ジョーンズ**	英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、英語アプリケーション
髙田 裕子	中国語アプリケーション
田口　陽子	Religion and Society
竹内　広宜	統計処理法
富所 明秀	朝鮮語アプリケーション（上級）
ハース豊川　モニカ	ドイツ語コミュニケーションⅠ・Ⅲ
中村 文隆	情報システム概論
野田　謙介	コミックス論
野村 英登	中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）
ラスカイル L. **ハウザー**	英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、英語アプリケーション
廣野 行雄	中国の文化Ⅶ（近代文学）、中国の文化Ⅷ（現代文学）
マーティン　**ブラッドショー**	英語アプリケーション
松浦　知史	ネットワーク環境構築論
松田 裕幸	ネットワーク基礎
宮木　いっぺい	社会貢献・課題解決教育
薬 会	中国語コミュニケーションⅡ
安岡 明子	朝鮮語コミュニケーションⅠ・Ⅲ
山田　朋美	国際関係学概論Ⅰ・Ⅱ
梁 禮先	朝鮮語コミュニケーションⅡ、朝鮮語アプリケーション
米倉　明男	メディア情報基礎
イヴ　**ロワゾー**	フランス語コミュニケーションⅠ、フランス語アプリケーション
若林　啓	データベース基礎
渡辺　昭太	中国の文化Ⅳ（中国語の構造）、中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）
渡邊　日出雄	情報文化演習

2016年度　国際文化学部　専門教育科目（自由科目以外）　兼担教員一覧

兼担教員氏名	所属学部	担当科目（【】内は他学部の科目名称）
石川　潔	文学部	言語の理論Ⅰ【言語学概論A】
川﨑　貴子	文学部	言語の理論Ⅱ【言語学概論B】、応用言語学
アンドレイ **クラフツェビチ**	法学部	ロシア・中央アジアの文化
椎名　美智	文学部	社会言語学
関口　和男	人間環境学部	宗教社会論Ⅰ（仏教思想）【仏教思想】
月井　雄二	法学部	バイオインフォマティクス
村野　節子	キャリアデザイン学部	多文化社会と人間【多文化社会論Ⅲ】

法政大学
HOSEI University
国際文化学部

学生証番号	
氏　　名	

R70
再生紙を使用しています